秋田県文化財調査報告書第88集

東北縦貫自動車道発掘調査報告書II

歌内遺跡

秋田県埋蔵文化財センター

1982・3

秋田県教育委員会

序

十和田湖の南玄関口である鹿角市に、東北縦貫自動車道の建設計画が立てられ、現在工事進行中であります。

この道路通過地（八幡平・十和田錦木間）に埋蔵文化財包蔵地が33カ所あることが判明し、秋田県教育委員会は日本道路公団の委託を受け、昭和54年度から発掘調査を実施しております。昭和55年度は19遺跡の発掘調査を無事終了し、今回歌内遺跡の発掘調査成果を報告書として刊行することになりました。

本報告書は、今まで不明分野の多かった鹿角地方の歴史解明に役立つものと考えられ、広く永く活用されることを望むものであります。

最後に発掘調査から報告書刊行までに顧問、専門指導員、日本道路公団、鹿角市、同教育委員会はじめ関係各位から多大の協力を得ましたことについて、心から感謝の意を表するものであります。

昭和57年３月

秋田県教育委員会

教育長　畠山芳郎

例　　言

1．本書は東北縦貫自動車道路線内に位置する昭和55年度発掘調査19遺跡のうち、歌内遺跡（遺跡番号№６）の発掘調査報告書である。

2．遺跡については機会を見て発表してきたが、本報告書を正式のものとする。

3．発掘調査遺跡の記載は、岩手県境から付した遺跡番号による。

4．報告遺跡の発掘調査においては、次の各氏からご助言、ご教示をいただいた。

秋田大学教授	新　野　直　吉
秋田県鹿角市立十和田中学校長	安　村　二　郎
秋田県立秋田高等学校教論	塩　谷　順　耳
秋田県立十和田高等学校教諭	大　里　勝　蔵
秋田県鹿角市大日堂禰宜	安　倍　良　行

5．本書Ⅱの１「地形と地質」は、秋田県立能代北高等学校教諭藤本幸雄氏の執筆である。

6．古陶磁器類の鑑定は、金沢大学法文学部助教授佐々木達夫氏にお願いした。

7．土器の産地同定は、奈良教育大学教授三辻利一氏にお願いした。

8．石器の石質鑑定は、秋田県立博物館学芸主事嵯峨二郎氏にお願いした。

9．C^{14} 年代測定は、日本アイソトープ協会にお願いした。

10．花粉分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社にお願いした。

11．遺構内外の土壌の燐分析は、秋田県農業試験場環境部にお願いした。

12．報告書に使用した地図は、建設省国土地理院発行５万分の１、２万５千分の１、日本道路公団作成の１千分の１の地形図である。

13．遺跡の土層、遺物の色調記載は、農林省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所　色票監修『新版、標準土色帖』を使用した。

14．遺物の実測には、画像工学研究所のスケッチグラフ卓上型を活用した。

15．遺物の細部観察には、ニコン実体顕微鏡ＳＭ２―10を使用した。

16．本書は下記の調査員、補佐員、補助員が協議して作成した。

Ⅰ、Ⅱの２	岩見　誠夫
歌内遺跡	小玉　　準、藤井　安正、阿部　明人、畠山　　圭

遺物の実測、採拓、トレース、整理には、上記調査員、補佐員、補助員のほかに次の者があたった。

福本　雅治、阿部　玲子、阿部　美子、斎藤　一美、柳沢　光子

なお、歌内遺跡は昭和54年度と55年度の二カ年にわたる継続調査遺跡であり、上記以外に下記の調査員、補佐員、補助員も発掘調査に参加した。

調査員　　桜田　　隆、柴田陽一郎、高橋　忠彦、小林　　克

補佐員　　栗沢　光男、関　　直、山崎　文幸

補助員　　畠山　義孝、樽沢　昌孝、児玉　佳孝、小田島幸二、豊田　憲夫

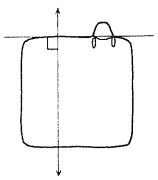
松岡　忠仁、佐藤　幸夫、畠山　正人、石木田正幸、児玉　悦朗

田中　和徳、福島　昭彦、北川　恵一、児玉　　均

17．遺構法量は次の計測方法による。

＜主軸方向＞

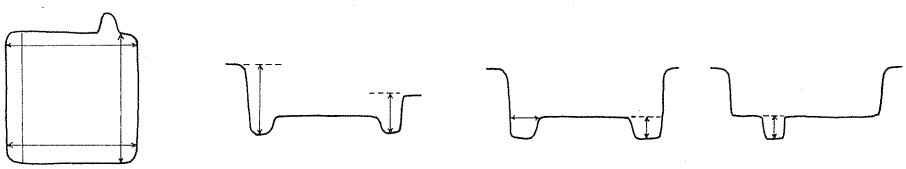
カマドの構築された壁に直角に交わる線の方向



＜面　　積＞

住居跡・土壙は遺構上端の占地面積である。ただし、土壙のうち底部が上端より広いフラスコ状となるものは底部の面積である。計測にはプラニメーターを用い、３回計測して平均値を算出した。

＜壁　長＞　　＜壁　高＞　　＜壁溝幅・深さ＞　　＜ピット深さ＞



目　　次

序
例　言

Ⅰ　はじめに……1
1　発掘調査に至るまで……1
2　発掘調査経過……2
3　調査の組織と構成……4
4　調査の方法……5
Ⅱ　遺跡の立地と環境……7
1　地形と地質……7
2　環境と周辺の遺跡……12

歌　内　遺　跡

1　遺跡の概観……21
2　調査の方法……21
3　調査経過……21
4　遺跡の層位……22
5　遺構と遺物……24
6　まとめ……356

挿　図　目　次

第１図　段丘地形図……8
第２図　露頭柱状図……10
第３図　周辺遺跡分布図……13
第４図　秋田県鹿角市における東北縦貫自動車道路線上の遺跡分布図……17・18
第５図　グリッド配置図……23
第６図　ＳＩ001竪穴住居跡実測図……25・26
第７図　ＳＩ001竪穴住居跡炭化材出土状態実測図……27・28
第８図　ＳＩ001竪穴住居跡カマド実測図……29
第９図　ＳＩ001竪穴住居跡出土遺物実測図（１）……30
第10図　ＳＩ001竪穴住居跡出土遺物実測図（２）……31
第11図　ＳＩ001竪穴住居跡出土遺物実測図（３）……32
第12図　ＳＩ002竪穴住居跡実測図……36
第13図　ＳＩ002竪穴住居跡出土遺物実測図（１）……37
第14図　ＳＩ002竪穴住居跡出土遺物実測図（２）……38
第15図　ＳＩ003・４・５竪穴住居跡実測図……43・44
第16図　ＳＩ005竪穴住居跡カマド実測図……45
第17図　ＳＩ003竪穴住居跡出土遺物実測図……46
第18図　ＳＩ006竪穴住居跡実測図……49
第19図　ＳＩ006竪穴住居跡カマド実測図……50
第20図　ＳＩ006竪穴住居跡出土遺物実測図……51
第21図　ＳＩ007竪穴住居跡実測図……53
第22図　ＳＩ007竪穴住居跡カマド実測図……54
第23図　ＳＩ007竪穴住居跡出土遺物実測図……55
第24図　ＳＩ008竪穴住居跡実測図……58
第25図　ＳＩ008竪穴住居跡カマド実測図……59
第26図　ＳＩ009Ａ竪穴住居跡カマド実測図……62
第27図　ＳＩ009Ａ・Ｂ竪穴住居跡実測図……63・64
第28図　ＳＩ009Ａ・Ｂ竪穴住居跡出土遺物実測図……65
第29図　ＳＩ010Ａ・Ｂ竪穴住居跡カマド実測図……70

第30図　ＳＩ010Ａ竪穴住居跡実測図…… 71・72
第31図　ＳＩ010Ｂ・Ｃ竪穴住居跡実測図…… 73・74
第32図　ＳＩ010Ｃ竪穴住居跡カマド実測図…… 75
第33図　ＳＩ010竪穴住居跡出土遺物実測図…… 76
第34図　ＳＩ011竪穴住居跡実測図…… 80
第35図　ＳＩ011竪穴住居跡カマド実測図…… 81
第36図　ＳＩ012竪穴住居跡実測図…… 83
第37図　ＳＩ012竪穴住居跡カマド実測図…… 84
第38図　ＳＩ012竪穴住居跡出土遺物実測図…… 85
第39図　ＳＩ013竪穴住居跡実測図…… 88
第40図　ＳＩ013竪穴住居跡カマド実測図…… 89
第41図　ＳＩ014竪穴住居跡実測図…… 91・92
第42図　ＳＩ014竪穴住居跡出土遺物実測図…… 93
第43図　ＳＩ015竪穴住居跡実測図…… 95・96
第44図　ＳＩ015竪穴住居跡カマド実測図…… 97
第45図　ＳＩ015竪穴住居跡出土遺物実測図…… 98
第46図　ＳＩ016竪穴住居跡実測図……100
第47図　ＳＩ016竪穴住居跡カマド実測図……101
第48図　ＳＩ017竪穴住居跡実測図……103
第49図　ＳＩ017竪穴住居跡カマド実測図……104
第50図　ＳＩ017竪穴住居跡出土遺物実測図……105
第51図　ＳＩ018竪穴住居跡実測図……108
第52図　ＳＩ018竪穴住居跡カマド実測図……109
第53図　ＳＩ018竪穴住居跡出土遺物実測図（１）……110
第54図　ＳＩ018竪穴住居跡出土遺物実測図（２）……111
第55図　ＳＩ019竪穴住居跡実測図……114
第56図　ＳＩ019竪穴住居跡カマド実測図……115
第57図　ＳＩ020竪穴住居跡実測図……117
第58図　ＳＩ020竪穴住居跡カマド実測図……118
第59図　ＳＩ020竪穴住居跡出土遺物実測図……119
第60図　ＳＩ021竪穴住居跡実測図…… 121・122
第61図　ＳＩ022竪穴住居跡実測図……124

第62図　ＳＩ022竪穴住居跡カマド実測図……125
第63図　ＳＩ022竪穴住居跡出土遺物実測図……126
第64図　ＳＩ023Ａ・Ｂ竪穴住居跡実測図……129・130
第65図　ＳＩ023Ａ・Ｂ竪穴住居跡実測図（床面精査後）……131
第66図　ＳＩ023Ａ竪穴住居跡カマド実測図……132
第67図　ＳＩ023Ｂ竪穴住居跡カマド実測図……133
第68図　ＳＩ023竪穴住居跡出土遺物実測図（１）……134
第69図　ＳＩ023竪穴住居跡出土遺物実測図（２）……135
第70図　ＳＩ024竪穴住居跡実測図……139・140
第71図　ＳＩ024竪穴住居跡カマド実測図……141
第72図　ＳＩ024竪穴住居跡出土遺物実測図……142
第73図　ＳＩ025・26竪穴住居跡実測図……145・146
第74図　ＳＩ025竪穴住居跡カマド実測図……148
第75図　ＳＩ025竪穴住居跡出土遺物実測図……149
第76図　ＳＩ026竪穴住居跡カマド実測図……150
第77図　ＳＩ026竪穴住居跡出土遺物実測図……151
第78図　ＳＩ027竪穴住居跡カマド実測図……154
第79図　ＳＩ027竪穴住居跡実測図……155・156
第80図　ＳＩ027竪穴住居跡出土遺物実測図……157
第81図　ＳＩ028竪穴住居跡実測図……160
第82図　ＳＩ028竪穴住居跡カマド実測図……161
第83図　ＳＩ029竪穴住居跡実測図……163
第84図　ＳＩ029竪穴住居跡カマド実測図……164
第85図　ＳＩ030Ａ・Ｂ竪穴住居跡実測図……167・168
第86図　ＳＩ030Ａ・Ｂ竪穴住居跡炭化物・焼土分布状況図……169
第87図　ＳＩ030Ａ竪穴住居跡カマド実測図……170
第88図　ＳＩ030Ｂ竪穴住居跡カマド実測図……171
第89図　ＳＩ030竪穴住居跡出土遺物実測図……172
第90図　ＳＩ031Ａ・Ｂ竪穴住居跡実測図……176
第91図　ＳＩ031竪穴住居跡カマド実測図……177・178
第92図　ＳＩ031竪穴住居跡出土遺物実測図（１）……179
第93図　ＳＩ031竪穴住居跡出土遺物実測図（２）……180

第94図　ＳＩ031竪穴住居跡出土遺物実測図（３）……181
第95図　ＳＩ031竪穴住居跡出土遺物実測図（４）……182
第96図　ＳＩ032竪穴住居跡実測図……186
第97図　ＳＩ032竪穴住居跡カマド実測図……187・188
第98図　ＳＩ033竪穴住居跡実測図……190
第99図　ＳＩ033竪穴住居跡カマド実測図……191
第100図　ＳＩ033竪穴住居跡出土遺物実測図……192
第101図　ＳＩ034竪穴住居跡カマド実測図……194
第102図　ＳＩ034竪穴住居跡実測図……195・196
第103図　ＳＩ034竪穴住居跡出土遺物実測図……197
第104図　ＳＩ035竪穴住居跡実測図……200
第105図　ＳＩ035竪穴住居跡カマド実測図……201
第106図　ＳＩ035竪穴住居跡出土遺物実測図……202
第107図　ＳＩ036竪穴住居跡実測図……204
第108図　ＳＩ036竪穴住居跡カマド実測図……205
第109図　ＳＩ036竪穴住居跡出土遺物実測図……206
第110図　ＳＩ037竪穴住居跡実測図……208
第111図　ＳＩ037竪穴住居跡カマド実測図……209
第112図　ＳＩ038竪穴住居跡実測図……211
第113図　ＳＩ038竪穴住居跡カマド実測図……212
第114図　ＳＩ038竪穴住居跡出土遺物実測図……213
第115図　ＳＩ039竪穴住居跡実測図……215
第116図　ＳＩ039竪穴住居跡カマド実測図……216
第117図　ＳＩ039竪穴住居跡出土遺物実測図……217
第118図　ＳＩ040竪穴住居跡実測図……219
第119図　ＳＩ040竪穴住居跡カマド実測図……220
第120図　ＳＩ040竪穴住居跡出土遺物実測図……221
第121図　ＳＩ041竪穴住居跡実測図……223・224
第122図　ＳＩ041竪穴住居跡炭化物分布状況図……225
第123図　ＳＩ041竪穴住居跡カマドＡ実測図……226
第124図　ＳＩ041竪穴住居跡カマドＢ実測図……227
第125図　ＳＩ041竪穴住居跡出土遺物実測図……228

第126図　ＳＩ042竪穴住居跡実測図……231
第127図　ＳＩ043竪穴住居跡実測図……233
第128図　ＳＩ043竪穴住居跡出土遺物実測図……234
第129図　ＳＩ044竪穴住居跡実測図……237・238
第130図　ＳＩ045竪穴住居跡実測図……240
第131図　ＳＩ046竪穴住居跡実測図……242
第132図　ＳＩ046竪穴住居跡カマド実測図……243
第133図　ＳＩ046竪穴住居跡出土遺物実測図……244
第134図　ＳＩ047竪穴住居跡実測図……246
第135図　ＳＩ047竪穴住居跡カマド実測図……247
第136図　ＳＩ048竪穴住居跡実測図……249
第137図　ＳＩ048竪穴住居跡カマド実測図……250
第138図　ＳＩ049竪穴住居跡・カマド実測図……252
第139図　ＳＩ050竪穴住居跡実測図……253・254
第140図　ＳＩ050竪穴住居跡出土遺物実測図……256
第141図　ＳＩ051竪穴住居跡実測図……259・260
第142図　ＳＩ051竪穴住居跡出土遺物実測図……261
第143図　ＳＩ052・053竪穴住居跡実測図……263・264
第144図　ＳＫ001・002・005・006土壙実測図……271
第145図　ＳＫ009・010・012・013土壙実測図……272
第146図　ＳＫ（ｆ）014・016・ＳＫ017土壙実測図……273
第147図　ＳＫ018・019・020・022土壙実測図……274
第148図　ＳＫ（ｆ）023・024・025土壙実測図……275
第149図　ＳＫ027・028・029・ＳＫ（ｆ）030土壙実測図……276
第150図　ＳＫ031・ＳＫ（ｆ）032土壙実測図……277
第151図　ＳＫ（ｆ）033・ＳＫ034・036土壙実測図……278
第152図　ＳＫ（Ｉ）037土壙実測図……279
第153図　ＳＫ（ｆ）038・ＳＫ040・ＳＫ（Ｉ）042・ＳＫ（ｆ）043土壙実測図……280
第154図　ＳＫ（ｆ）044・045・ＳＫ046土壙実測図……281
第155図　ＳＫ（ｆ）050・ＳＫ051・052・053土壙実測図……282
第156図　ＳＫ（ｆ）049・055・056・ＳＫ057・ＳＫ（ｆ）058・059・ＳＫ061・
062土壙実測図……283・284

第157図　ＳＫ047・048・063・066土壙実測図……285・286
第158図　ＳＫ060・064・065土壙実測図……287
第159図　ＳＫ010・017・021・030・033・038・054土壙出土遺物実測図……289
第160図　ＳＫ043・064土壙出土遺物実測図……290
第161図　ＳＡ001～005柱列模式図……291
第162図　ＳＡ001・003柱列実測図……292
第163図　ＳＢ001掘立柱建物跡模式図……293
第164図　ＳＢ002掘立柱建物跡模式図……294
第165図　ＳＢ001掘立柱建物跡実測図……295・296
第166図　ＳＢ002掘立柱建物跡実測図……297・298
第167図　ＳＢ003掘立柱建物跡模式図……299
第168図　ＳＢ003掘立柱建物跡実測図……300
第169図　ＳＢ004掘立柱建物跡模式図……301
第170図　ＳＢ005掘立柱建物跡模式図……302
第171図　ＳＢ004掘立柱建物跡実測図……303・304
第172図　ＳＢ005掘立柱建物跡実測図……305・306
第173図　ＳＢ006掘立柱建物跡模式図……307
第174図　ＳＢ007掘立柱建物跡模式図……308
第175図　ＳＢ006掘立柱建物跡実測図……309・310
第176図　ＳＢ007掘立柱建物跡実測図……311・312
第177図　ＳＢ008掘立柱建物跡模式図……313
第178図　ＳＢ008掘立柱建物跡実測図……314
第179図　ＳＢ009掘立柱建物跡模式図……315
第180図　ＳＢ010掘立柱建物跡模式図……316
第181図　ＳＢ011掘立柱建物跡模式図……317
第182図　ＳＢ012掘立柱建物跡模式図……318
第183図　ＳＡ002・004・005柱列・ＳＢ009～012掘立柱建物跡・ＳＤ031～034溝実測図……319・320
第184図　ＳＡ002・004・005柱列・ＳＢ009～012掘立柱建物跡断面図……321・322
第185図　ＳＤ009溝実測図……326
第186図　ＳＤ017～028・030溝実測図……327・328
第187図　ＳＤ017～023・024土層断面図……329・330

第188図　SX 003・007実測図……332
第189図　SX 005実測図……333・334
第190図　SX 008実測図……335・336
第191図　SX 002・003・006出土遺物実測図……340
第192図　遺構外出土遺物拓影図（1）……342
第193図　遺構外出土遺物拓影図（2）……344
第194図　遺構外出土遺物実測図、拓影図（3）……346
第195図　遺構外出土遺物実測図（4）……348
第196図　遺構外出土遺物実測図（5）……349
第197図　遺構外出土遺物実測図（6）……350
第198図　遺構外出土遺物実測図（7）……352
第199図　遺構外出土遺物実測図（8）……353
第200図　遺構外出土遺物実測図（9）……355

表　目　次

第1表　重鉱物組成……10
第2表　周辺遺跡一覧……14
第3表　SI 001竪穴住居跡観察表……24
第4表　SI 001出土遺物観察表（1）……33
第5表　SI 001出土遺物観察表（2）……34
第6表　SI 002竪穴住居跡観察表……35
第7表　SI 002出土遺物観察表……39
第8表　SI 003竪穴住居跡観察表……40
第9表　SI 004竪穴住居跡観察表……41
第10表　SI 005竪穴住居跡観察表……42
第11表　SI 003出土遺物観察表……47
第12表　SI 006竪穴住居跡観察表……48
第13表　SI 006出土遺物観察表……51
第14表　SI 007竪穴住居跡観察表……52
第15表　SI 007出土遺物観察表……56

第16表　ＳＩ008竪穴住居跡観察表…… 57
第17表　ＳＩ008出土遺物観察表…… 59
第18表　ＳＩ009Ａ竪穴住居跡観察表…… 60
第19表　ＳＩ009Ｂ竪穴住居跡観察表…… 61
第20表　ＳＩ009Ａ・Ｂ出土遺物観察表…… 66
第21表　ＳＩ010Ａ竪穴住居跡観察表…… 67
第22表　ＳＩ010Ｂ竪穴住居跡観察表…… 68
第23表　ＳＩ010Ｃ竪穴住居跡観察表…… 69
第24表　ＳＩ010出土遺物跡観察表（１）…… 77
第25表　ＳＩ010出土遺物跡観察表（２）…… 78
第26表　ＳＩ011竪穴住居跡観察表…… 79
第27表　ＳＩ012竪穴住居跡観察表…… 82
第28表　ＳＩ012出土遺物観察表（１）…… 85
第29表　ＳＩ012出土遺物観察表（２）…… 86
第30表　ＳＩ013竪穴住居跡観察表…… 87
第31表　ＳＩ014竪穴住居跡観察表…… 90
第32表　ＳＩ014出土遺物観察表…… 93
第33表　ＳＩ015竪穴住居跡観察表…… 94
第34表　ＳＩ015出土遺物観察表…… 98
第35表　ＳＩ016竪穴住居跡観察表…… 99
第36表　ＳＩ017竪穴住居跡観察表……102
第37表　ＳＩ017出土遺物観察表……106
第38表　ＳＩ018竪穴住居跡観察表……107
第39表　ＳＩ018出土遺物観察表（１）……111
第40表　ＳＩ018出土遺物観察表（２）……112
第41表　ＳＩ019竪穴住居跡観察表……113
第42表　ＳＩ019出土遺物観察表……115
第43表　ＳＩ020竪穴住居跡観察表……116
第44表　ＳＩ020出土遺物観察表……119
第45表　ＳＩ021竪穴住居跡観察表……120
第46表　ＳＩ021出土遺物観察表…… 121・122
第47表　ＳＩ022竪穴住居跡観察表……123

第48表　ＳＩ 022 出土遺物観察表 …… 126
第49表　ＳＩ 023 Ａ竪穴住居跡観察表 …… 127
第50表　ＳＩ 023 Ｂ竪穴住居跡観察表 …… 128
第51表　ＳＩ 023 出土遺物観察表（１）…… 136
第52表　ＳＩ 023 出土遺物観察表（２）…… 137
第53表　ＳＩ 024 竪穴住居跡観察表 …… 138
第54表　ＳＩ 024 出土遺物観察表（１）…… 142
第55表　ＳＩ 024 出土遺物観察表（２）…… 143
第56表　ＳＩ 025 竪穴住居跡観察表 …… 144
第57表　ＳＩ 026 竪穴住居跡観察表 …… 147
第58表　ＳＩ 025 出土遺物観察表 …… 149
第59表　ＳＩ 026 出土遺物観察表 …… 152
第60表　ＳＩ 027 竪穴住居跡観察表 …… 153
第61表　ＳＩ 027 出土遺物観察表（１）…… 157
第62表　ＳＩ 027 出土遺物観察表（２）…… 158
第63表　ＳＩ 028 竪穴住居跡観察表 …… 159
第64表　ＳＩ 028 出土遺物観察表 …… 160
第65表　ＳＩ 029 竪穴住居跡観察表 …… 162
第66表　ＳＩ 030 Ａ竪穴住居跡観察表 …… 165
第67表　ＳＩ 030 Ｂ竪穴住居跡観察表 …… 166
第68表　ＳＩ 030 出土遺物観察表（１）…… 172
第69表　ＳＩ 030 出土遺物観察表（２）…… 173
第70表　ＳＩ 031 Ａ竪穴住居跡観察表 …… 174
第71表　ＳＩ 031 Ｂ竪穴住居跡観察表 …… 175
第72表　ＳＩ 031 出土遺物観察表（１）…… 183
第73表　ＳＩ 031 出土遺物観察表（２）…… 184
第74表　ＳＩ 032 竪穴住居跡観察表 …… 185
第75表　ＳＩ 033 竪穴住居跡観察表 …… 189
第76表　ＳＩ 033 出土遺物観察表 …… 192
第77表　ＳＩ 034 竪穴住居跡観察表 …… 193
第78表　ＳＩ 034 出土遺物観察表 …… 198
第79表　ＳＩ 035 竪穴住居跡観察表 …… 199

第80表　ＳＩ035 出土遺物観察表 …… 202
第81表　ＳＩ036 竪穴住居跡観察表 …… 203
第82表　ＳＩ036 出土遺物観察表 …… 206
第83表　ＳＩ037 竪穴住居跡観察表 …… 207
第84表　ＳＩ038 竪穴住居跡観察表 …… 210
第85表　ＳＩ038 出土遺物観察表 …… 213
第86表　ＳＩ039 竪穴住居跡観察表 …… 214
第87表　ＳＩ039 出土遺物観察表 …… 217
第88表　ＳＩ040 竪穴住居跡観察表 …… 218
第89表　ＳＩ040 出土遺物観察表 …… 221
第90表　ＳＩ041 竪穴住居跡観察表 …… 222
第91表　ＳＩ041 出土遺物観察表 …… 229
第92表　ＳＩ042 竪穴住居跡観察表 …… 230
第93表　ＳＩ043 竪穴住居跡観察表 …… 232
第94表　ＳＩ043 出土遺物観察表 …… 235
第95表　ＳＩ044 竪穴住居跡観察表 …… 236
第96表　ＳＩ045 竪穴住居跡観察表 …… 239
第97表　ＳＩ046 竪穴住居跡観察表 …… 241
第98表　ＳＩ046 出土遺物観察表 …… 244
第99表　ＳＩ047 竪穴住居跡観察表 …… 245
第100表　ＳＩ048 竪穴住居跡観察表 …… 248
第101表　ＳＩ049 竪穴住居跡観察表 …… 251
第102表　ＳＩ050 竪穴住居跡観察表 …… 255
第103表　ＳＩ050 出土遺物観察表 …… 257
第104表　ＳＩ051 竪穴住居跡観察表 …… 258
第105表　ＳＩ051 出土遺物観察表 …… 261
第106表　ＳＩ052 竪穴住居跡観察表 …… 262
第107表　ＳＩ053 竪穴住居跡観察表 …… 265
第108表　ＳＫ土壙観察表（１）…… 266
第109表　ＳＫ土壙観察表（２）…… 267
第110表　ＳＫ土壙観察表（３）…… 268
第111表　ＳＫ土壙観察表（４）…… 269

第112表　ＳＫ土壙観察表（５）…… 270
第113表　ＳＫ010～064 出土遺物観察表 …… 288
第114表　ＳＡ001～005 柱列観察表 …… 291
第115表　ＳＢ001 掘立柱建物跡観察表 …… 293
第116表　ＳＢ002 掘立柱建物跡観察表 …… 294
第117表　ＳＢ003 掘立柱建物跡観察表 …… 299
第118表　ＳＢ004 掘立柱建物跡観察表 …… 301
第119表　ＳＢ005 掘立柱建物跡観察表 …… 302
第120表　ＳＢ006 掘立柱建物跡観察表 …… 307
第121表　ＳＢ007 掘立柱建物跡観察表 …… 308
第122表　ＳＢ008 掘立柱建物跡観察表 …… 313
第123表　ＳＢ009 掘立柱建物跡観察表 …… 315
第124表　ＳＢ010 掘立柱建物跡観察表 …… 316
第125表　ＳＢ011 掘立柱建物跡観察表 …… 317
第126表　ＳＢ012 掘立柱建物跡観察表 …… 318
第127表　ＳＤ002～015 溝観察表 …… 323
第128表　ＳＤ016～027 溝観察表 …… 324
第129表　ＳＤ028～034 溝観察表 …… 325
第130表　ＳＸ003～008 観察表 …… 331
第131表　ＳＸ002・003 出土遺物観察表 …… 337
第132表　ＳＸ003・006 出土遺物観察表 …… 338
第133表　ＳＸ006 出土遺物観察表 …… 339
第134表　遺構外出土遺物観察表（１）…… 341
第135表　遺構外出土遺物観察表（２）…… 343
第136表　遺構外出土遺物観察表（３）…… 345
第137表　遺構外出土遺物観察表（４）…… 347
第138表　遺構外出土遺物観察表（５）…… 351
第139表　遺構外出土遺物観察表（６）…… 354

図　版　目　次

図版１　遺跡遠景……361

1　遺跡遠景　西→東

2　遺跡遠景　東→西

図版２　竪穴住居跡……362

1　ＳＩ 001 竪穴住居跡遺物出土状況　北→南

2　ＳＩ 001 竪穴住居跡　北→南

図版３　竪穴住居跡……363

1　ＳＩ 001 竪穴住居跡東壁炭化材出土状況　西→東

2　ＳＩ 001 竪穴住居跡東壁炭化材出土状況　北→南

図版４　竪穴住居跡……364

1　ＳＩ 001 土器出土状況

2　ＳＩ 001 トチ出土状況

図版５　竪穴住居跡……365

1　ＳＩ 002 竪穴住居跡　東→西

2　ＳＩ 002 竪穴住居跡　西→東

図版６　竪穴住居跡……366

1　ＳＩ 003～005 竪穴住居跡　西→東

2　ＳＩ 003 竪穴住居跡　西→東

図版７　竪穴住居跡……367

1　ＳＩ 006 竪穴住居跡　北→南

2　ＳＩ 006 竪穴住居跡掘形　西→東

図版８　竪穴住居跡……368

1　ＳＩ 006 竪穴住居跡カマド　西→東

2　ＳＩ 006 竪穴住居跡カマド　西→東

図版９　竪穴住居跡……369

1　ＳＩ 007 竪穴住居跡　北→南

2　ＳＩ 007 竪穴住居跡カマド　北→南

図版10　竪穴住居跡……370

1　ＳＩ 008 竪穴住居跡　北→南

2　ＳＩ008竪穴住居跡カマド　北→南
図版11　竪穴住居跡……371
1　ＳＩ009Ａ・Ｂ竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ009Ａ・Ｂ竪穴住居跡カマド　北→南
図版12　竪穴住居跡……372
1　ＳＩ009Ａ竪穴住居跡カマド　北→南
2　ＳＩ009Ｂ竪穴住居跡カマド　北→南
図版13　竪穴住居跡……373
1　ＳＩ010竪穴住居跡確認状況　西→東
2　ＳＩ010Ｃ竪穴住居跡　西→東
図版14　竪穴住居跡……374
1　ＳＩ010Ａ・Ｂ・Ｃ竪穴住居跡　西→東
2　ＳＩ010Ａ・Ｂ竪穴住居跡カマド　北→南
図版15　竪穴住居跡……375
1　ＳＩ011竪穴住居跡確認状況　西→東
2　ＳＩ011竪穴住居跡　南→北
図版16　竪穴住居跡……376
1　ＳＩ011竪穴住居跡カマド　南→北
2　ＳＩ011竪穴住居跡カマド北側ピット　東→西
図版17　竪穴住居跡……377
1　ＳＩ012竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ012竪穴住居跡カマド　北→南
図版18　竪穴住居跡……378
1　ＳＩ013竪穴住居跡　西→東
2　ＳＩ013竪穴住居跡カマド　西→東
図版19　竪穴住居跡……379
1　ＳＩ014竪穴住居跡　西→東
2　ＳＩ014竪穴住居跡掘形　南→北
図版20　竪穴住居跡……380
1　ＳＩ015竪穴住居跡　西→東
2　ＳＩ015竪穴住居跡　北→南
図版21　竪穴住居跡……381

1　ＳＩ015 竪穴住居跡カマド　北→南
2　ＳＩ015 竪穴住居跡土器出土状況
図版22　竪穴住居跡……382
1　ＳＩ016 竪穴住居跡カマド　北→南
2　ＳＩ016 竪穴住居跡カマド　北→南
図版23　竪穴住居跡……383
1　ＳＩ017 竪穴住居跡　西→東
2　ＳＩ017 竪穴住居跡カマド　西→東
図版24　竪穴住居跡……384
1　ＳＩ016～018 竪穴住居跡　西→東
2　ＳＩ018 竪穴住居跡　北西→南東
図版25　竪穴住居跡……385
1　ＳＩ018 竪穴住居跡カマド　北→南
2　ＳＩ018 竪穴住居跡カマド　北→南
図版26　竪穴住居跡……386
1　ＳＩ019 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ019 竪穴住居跡カマド　北→南
図版27　竪穴住居跡……387
1　ＳＩ020 竪穴住居跡　西→東
2　ＳＩ020 竪穴住居跡カマド　北→南
図版28　竪穴住居跡……388
1　ＳＩ021 竪穴住居跡　東→西
2　ＳＩ022 竪穴住居跡　北→南
図版29　竪穴住居跡……389
1　ＳＩ023 Ａ・Ｂ竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ023 Ａ・Ｂ竪穴住居跡　北→南
図版30　竪穴住居跡……390
1　ＳＩ023 Ａ竪穴住居跡カマド　北→南
2　ＳＩ023 Ｂ竪穴住居跡カマド　北→南
図版31　竪穴住居跡……391
1　ＳＩ023 土器出土状況
2　ＳＩ023 鉄器出土状況

図版32　竪穴住居跡……392
1　ＳＩ023 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ025～027 竪穴住居跡　北→南
図版33　竪穴住居跡……393
1　ＳＩ024 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ024 竪穴住居跡カマド　北→南
図版34　竪穴住居跡……394
1　ＳＩ024 竪穴住居跡土層断面　北→南
2　ＳＩ024 Ｐ4 柱痕跡
図版35　竪穴住居跡……395
1　ＳＩ025 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ025 竪穴住居跡カマド　北→南
図版36　竪穴住居跡……396
1　ＳＩ026 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ025・026 竪穴住居跡　東→西
図版37　竪穴住居跡……397
1　ＳＩ027 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ028 竪穴住居跡　北→南
図版38　竪穴住居跡……398
1　ＳＩ029 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ030 竪穴住居跡　北→南
図版39　竪穴住居跡……399
1　ＳＩ030 Ｂ竪穴住居跡カマド　北→南
2　ＳＩ030 Ｂ竪穴住居跡カマド　北→南
図版40　竪穴住居跡……400
1　ＳＩ030 竪穴住居跡柱穴内炭化材出土状況　南→北
2　ＳＩ030 Ｂ竪穴住居跡遺物出土状況　北→南
図版41　竪穴住居跡……401
1　ＳＩ031 Ａ・Ｂ竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ031 Ａ・Ｂ竪穴住居跡カマド　北→南
図版42　竪穴住居跡……402
1　ＳＩ031 竪穴住居跡土器出土状況

2　ＳＩ031 竪穴住居跡土器出土状況
図版43　竪穴住居跡……403
1　ＳＩ032 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ032 竪穴住居跡カマド　北→南
図版44　竪穴住居跡……404
1　ＳＩ033 竪穴住居跡　東→西
2　ＳＩ033 竪穴住居跡カマド　北→南
図版45　竪穴住居跡……405
1　ＳＩ033 竪穴住居跡刀子出土状況
2　ＳＩ034 竪穴住居跡　北→南
図版46　竪穴住居跡……406
1　ＳＩ034 竪穴住居跡カマド　北→南
2　ＳＩ034 竪穴住居跡南東隅灰検出状況　西→東
図版47　竪穴住居跡……407
1　ＳＩ035 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ035 竪穴住居跡遺物出土状況
図版48　竪穴住居跡……408
1　ＳＩ036 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ036 竪穴住居跡カマド　北→南
図版49　竪穴住居跡……409
1　ＳＩ037 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ038 竪穴住居跡　北→南
図版50　竪穴住居跡……410
1　ＳＩ039 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ039 竪穴住居跡カマド掘形　北→南
図版51　竪穴住居跡……411
1　ＳＩ040 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ041 竪穴住居跡　北→南
図版52　竪穴住居跡……412
1　ＳＩ041 竪穴住居跡紡錘車出土状況
2　ＳＩ042 竪穴住居跡　南→北
図版53　竪穴住居跡……413

1　ＳＩ043 竪穴住居跡　北西→南東
2　ＳＩ044 竪穴住居跡　北西→南東
図版54　竪穴住居跡……414
1　ＳＩ044 竪穴住居跡、浮石層掘り込み状況
2　ＳＩ046～048 竪穴住居跡　北→南
図版55　竪穴住居跡……415
1　ＳＩ046 竪穴住居跡　北→南
2　ＳＩ047 竪穴住居跡　北→南
図版56　竪穴住居跡……416
1　ＳＩ048 竪穴住居跡　西→東
2　ＳＩ048 竪穴住居跡カマド　北→南
図版57　竪穴住居跡……417
1　ＳＩ049 竪穴住居跡　西→東
2　ＳＩ050 竪穴住居跡　東→西
図版58　竪穴住居跡……418
1　ＳＩ051・052 竪穴住居跡・ＳＸ008　北→南
2　ＳＩ051・052 竪穴住居跡・ＳＸ008　南→北
図版59　土壙……419
1　ＳＫ001 土壙　南→北
2　ＳＫ002 土壙　北→南
図版60　土壙……420
1　ＳＫ006土壙　南→北
2　ＳＫ014土壙　東→西
図版61　土壙……421
1　ＳＫ016土壙　北→南
2　ＳＫ017土壙　西→東
図版62　土壙……422
1　ＳＫ022 土壙　東→西
2　ＳＫ023 土壙　北→南
図版63　土壙……423
1　ＳＫ028 土壙　東→西
2　ＳＫ031 土壙　北→南

図版64　土壙……424
1　ＳＫ（ｆ）030 土壙　南→北
2　ＳＫ（ｆ）030 土壙　南→北
図版65　土壙……425
1　ＳＫ（ｆ）032 土壙　西→東
2　ＳＫ（ｆ）032 土壙　西→東
図版66　土壙……426
1　ＳＫ（ｆ）033 土壙　北→南
2　ＳＫ 036 土壙　北→南
図版67　土壙……427
1　ＳＫ（Ｉ）037 土壙　北→南
2　ＳＫ（Ｉ）037 土壙　西→東
図版68　土壙……428
1　ＳＫ 038 土壙　東→西
2　ＳＫ 042 土壙　北→南
図版69　土壙……429
1　ＳＫ（ｆ）043 土壙　西→東
2　ＳＫ（ｆ）043 土器出土状況
図版70　土壙……430
1　ＳＫ 046 土壙　北→南
2　ＳＫ 044 ～ 046 土壙　西→東
図版71　土壙……431
1　ＳＫ 047 土壙　北東→南西
2　ＳＫ 049 土壙　西→東
図版72　土壙……432
1　ＳＫ（ｆ）050 土壙　北→南
2　ＳＫ 051 土壙　北→南
図版73　土壙……433
1　ＳＫ 052 土壙　西→東
2　ＳＫ 054 土壙　北西→南東
図版74　土壙……434
1　ＳＫ 050 ～ 053 土壙　北西→南西

2　ＳＫ（ｆ）056 土壙　北→南
図版75　土壙……435
1　ＳＫ 057 土壙　北→南
2　ＳＫ（ｆ）059 土壙　北→南
図版76　土壙……436
1　ＳＫ 061 土壙　北→南
2　ＳＫ 055～059・061 土壙　南→北
図版77　その他の遺構……437
1　ＳＸ 005　北→南
2　ＳＸ 005　北→南
図版78　掘立柱建物跡……438
1　ＳＢ 001 掘立柱建物跡　北→南
2　ＳＢ 002 掘立柱建物跡　南西→北東
図版79　掘立柱建物跡……439
1　ＳＢ 003 掘立柱建物跡　南西→北東
2　ＳＢ 004 掘立柱建物跡　南→北
図版80　掘立柱建物跡……440
1　ＳＢ 005 掘立柱建物跡　北→南
2　ＳＢ 006 掘立柱建物跡・ＳＡ 003 柱列　南西→北東
図版81　掘立柱建物跡・溝・柱列……441
1　ＳＢ 009～012 掘立柱建物跡・ＳＤ 031～034 溝・ＳＡ 002・004・005 柱列　北東→南西
2　ＳＢ 009～012 掘立柱建物跡・ＳＤ 031～034 溝・ＳＡ 002・004・005 柱列　南→北
図版82　溝……442
1　ＳＤ 003・012～015 溝　南→北
2　ＳＤ 030 溝　南→北
図版83　溝……443
1　ＳＤ 016～027 溝　西→東
2　ＳＤ 017～023・028 溝　東→西
図版84　溝……444
1　ＳＤ 017～027 溝　北西→南東

2　ＳＤ025～026溝　北西→南東
図版85　作業風景……445
1　調査終了状況　北→南
2　作業風景
図版86　作業風景……446
1　作業風景
2　作業風景
図版87　遺構内出土遺物……447～454
～94
図版95　遺構外出土遺物……455～457
～97
付　図
1　遺構配置図
2　ＳＤ002・016溝実測図

Ⅰ　はじめに

1.　発掘調査に至るまで

秋田県の北東部、鹿角市と鹿角郡小坂町を通過する東北縦貫自動車道の建設計画の魁は、昭和40年11月公表の鹿角市・青森市間、同42年11月公表の盛岡市・鹿角市間の基本計画である。次いで昭和43年４月の鹿角市・青森市間約81㎞の第２次施行命令と同46年６月の岩手県二戸郡安代町・鹿角市間約37㎞の第５次施行命令によって、その通過予定区域が知られ、これを受けて同47年11月27日に、鹿角市十和田錦木・小坂町間の路線発表があって、ようやくその具体的な姿を県民に現わしたのである。

このため、秋田県教育委員会では、文化庁と日本道路公団が交わした覚書に基づき、昭和44年８月、鹿角市十和田地区から鹿角郡小坂町の青森県境まで、幅４㎞、延長25㎞にわたって遺跡の分布調査を行い、67遺跡を確認し、その成果を公表した。(註１)昭和48年８月には、鹿角市八幡平、尾去沢、花輪地区で、幅４㎞、延長20㎞の遺跡分布調査と試掘を実施して、46ケ所の遺跡を確認した。(註２)

昭和51年２月12日になると、昭和48年８月実施の鹿角市内遺跡分布調査結果をふまえて、日本道路公団から鹿角市八幡平から同市十和田錦木に至る延長約21.1㎞の路線の発表があり、測量が実施されるに及んだ。

秋田県教育委員会では、日本道路公団仙台建設局鹿角工事事務所の依頼により、昭和52年10月にこの路線上の遺跡分布調査を行い31遺跡の存在を確認した。(註３)昭和55年に新たに２遺跡が発見追加され、現在総計33遺跡となっている。

その後、遺跡の処遇や調査方針について日本道路公団仙台建設局と秋田県教育委員会の間に協議が持たれ、最終的に遺跡は記録保存が決定した。昭和54年２月に遺跡の発掘調査依頼があり、秋田県教育委員会では昭和54年度八幡平地区７遺跡の発掘調査を行った。昭和55年度は追加委託契約をも含めて八幡平、花輪地区19遺跡の発掘調査が４月から実施されたのである。

註１　秋田県教育委員会『東北縦貫自動車道遺跡分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第20集　1970年

註２　秋田県教育委員会『東北縦貫自動車道遺跡分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第24集　1972年

註３　秋田県教育委員会『東北縦貫自動車道遺跡分布調査報告書(八幡平～十和田錦木)』秋田県文化財調査報告書第56集　1978年

2. 発掘調査経過

発掘調査は昭和55年４月15日から12月13日まで行われた。

４月14日鹿角市花輪中央公民館に発掘調査に参加する作業員に集まってもらい、調査の目的、発掘の仕方と諸注意、勤務内容、賃金等について説明と連絡を行う。４月15日歌内遺跡（小玉班）と、駒林遺跡（小林班）、小豆沢館遺跡取付道路部分（桜田班）の発掘調査に入る。駒林遺跡は工事用車道に予定されている西側部分から発掘を行う。４月16日北の林Ⅰ遺跡（岩見班）、４月22日飛鳥平遺跡（橋本班）の発掘調査に入る。

５月１日駒林遺跡工事用道路部分の発掘調査完了。直ちに隣接部分の調査に移行す。遺構は検出されず、遺物は縄文土器片のみ、小豆沢館遺跡農道上部の拡幅予定地から縄文時代のフラスコ状ピット、竪穴住居跡、平安時代の竪穴住居跡、中世の掘立柱建物跡などを検出、重複多く調査は難行す。５月29日工事用重機待機の中で小豆沢館遺跡取付道路部分の発掘調査を終了す。一方飛鳥平遺跡、北の林Ⅰ遺跡では表土除去も順調に進み、数棟の縄文、平安時代竪穴住居跡の検出報告がされた。

６月１日北の林Ⅱ遺跡、２日上葛岡Ⅱ遺跡の発掘調査に入る。これは桜田班が並行して担当。６月９日鳥居平遺跡の粗掘りを橋本班が飛鳥平遺跡と並行して進める。６月10日小林班は駒林遺跡に実測班を残し、上葛岡Ⅳ遺跡の発掘調査にとりかかる。６月16日駒林遺跡の発掘調査終了、検出遺構は平安時代の竪穴住居跡２棟である。歌内遺跡の発掘調査では、縄文時代のフラスコ状ピット、平安時代の竪穴住居跡の検出が相次ぐ。

７月22日道路公団鹿角工事事務所にて、用地未解決であった発掘調査予定地について協議す。７月30日橋本班中の崎遺跡の刈払いとグリッド設定に入る。

８月２日小林班案内Ⅱ遺跡の試掘と刈払いに入り、同６日猿ケ平Ⅰ遺跡の試掘と刈払いに移行す。８月８日上葛岡Ⅱ遺跡の発掘調査終了。検出遺構は縄文前期竪穴住居跡２棟。８月18日道路公団鹿角工事事務所と今後の発掘調査行程について協議。８月21日鳥居平遺跡発掘調査終了。北の林Ⅱ遺跡桜田班調査開始。本年度追加発掘調査契約６遺跡について文化課から指示あり。22日文化課門間光夫参事、富樫泰時学芸主事来所し、追加契約遺跡の現地踏査を行い、調査員と発掘調査方法について協議す。同日中の崎遺跡発掘調査開始。８月23日追加契約遺跡発掘調査につき道路公団鹿角工事事務所と用地等の件について協議す。８月28日県立博物館主事庄内昭男氏、補佐員鈴木秋良、補助員花田孝夫氏発掘調査応援に来所。８月29日金沢大学法文学部助教授佐々木達夫先生発掘調査視察。

９月６日庄内昭男主事、鈴木秋良補佐員、花田孝夫補助員帰秋。９月９日財団法人岩手県埋蔵文化財センター高橋文夫、四ッ井謙吉氏発掘調査視察。９月10日調査専門指導員国学院大学

助教援小林達雄先生各発掘調査現場を視察し指導くださる。９月11日県広報課県政ニュース作成のため北の林Ⅰ遺跡他を取材す。９月12日文化課船木義勝学芸主事、熊谷太郎、柴田陽一郎文化財主事、佐々木金正補助員、発掘調査応援に来所、熊谷調査員すぐ下乳牛遺跡の試掘に入る。９月16日飛鳥平遺跡調査終了。縄文中期と後期の竪穴住居跡、土壙、平安時代の竪穴住居跡の遺構が確認された。同日乳牛、東山地区所在の追加契約遺跡である妻の神Ⅱ遺跡（船木班）と案内Ⅰ遺跡（柴田班）、それに上葛岡Ⅳ遺跡の調査を終了した小林班の案内Ⅱ遺跡の発掘調査が開始された。粗掘の段階では遺物の発見は僅少である。調査顧問奈良国立文化財研究所所長坪井清足先生各遺跡の発掘調査状況を視察し指導くださる。９月24日２ヶ年継続調査の歌内遺跡の発掘終了。ここからは縄文時代の竪穴住居跡やフラスコ状ピット、平安時代の49棟に及ぶ竪穴住居跡、12棟の中世の掘立柱建物跡の遺構の検出があった。９月26日青森県立埋蔵文化財調査センター所長北山峰一郎氏と調査第三課長工藤泰博氏来所し北の林Ⅱ遺跡他を視察する。歌内遺跡の発掘調査を終了した小玉班、９月26日西町地区の西町Ⅱ遺跡の発掘調査に入る。中の崎遺跡では排水溝のある平安時代の竪穴住居跡、土師器合口甕棺が発見される。

10月４日東山地区の猿ケ平Ⅰ遺跡の発掘調査に岩見班が入る。同日岩手県北上市教育委員会沼山源喜治氏歌内遺跡他を視察する。西町Ⅱ遺跡は時期不明の竪穴住居跡２棟が検出されたのみで遺物の出土は殆んどなし。10月17日小玉班は西町Ⅱ遺跡の調査と並行し、丘陵上の西町Ⅰ遺跡の調査を開始する。10月後半は降雨多く発掘調査難行。北の林Ⅰ遺跡、同Ⅱ遺跡とも遺構の実測に終始する。10月25日北の林Ⅰ遺跡で縄文時代竪穴住居跡３棟、平安時代竪穴住居跡22棟、土壙等の検出実測を終え調査終了する。10月28日明堂長根遺跡の南方で新たに土師器を出土する遺跡を発見、一本杉遺跡（遺跡番号No.33）と命名する。

11月８日船木調査員払田柵跡調査事務所へ帰る。案内Ⅰ遺跡、同Ⅱ遺跡、猿ケ平Ⅰ遺跡では縄文後期の竪穴住居跡、フラスコ状ピットの検出がある。各遺跡の発掘調査とも午前中は降霜の処理に時間をついやす。11月11日西町Ⅰ遺跡発掘調査終了。出土遺物は縄文土器、弥生土器、遺構は検出されなかった。11月12日西町Ⅱ遺跡及び縄文中期の竪穴住居跡１棟を検出した上葛岡Ⅰ遺跡で調査終了する。11月25日館跡でもあり、縄文中期、平安時代、中世の竪穴住居跡の検出された妻の神Ⅱ遺跡の発掘調査終了する。11月27日道路公団鹿角工事事務所と来年度調査予定の小坂町地内路線上の遺跡分布調査について協議す。案内Ⅱ遺跡下方の平場で縄文土器と竪穴住居跡の一部が検出され、新発見遺跡と認定される。遺跡名は案内Ⅲ遺跡（遺跡番号No.34）とする。

12月２日縄文後期の竪穴住居跡、フラスコ状ピットの検出のあった案内Ⅱ遺跡の発掘調査終了する。12月３日秋田大学教授新野直吉先生北の林Ⅱ遺跡他を視察する。熊谷太郎、柴田陽一郎調査員能代、秋田に帰る。12月６日猿ケ平Ⅰ遺跡降雪の中で発掘調査終了する。12月８日孫

右ェ門館遺跡より平安時代の竪穴住居跡1棟検出。焼失家屋のもよう。12月12日小坂町地内の縦貫道路線踏査を実施するも残雪と枯草多く、遺跡の確認は来春の試掘に待つ。孫右ェ門館の発掘調査終了する。12月13日北の林Ⅱ遺跡、中の崎遺跡、下乳牛遺跡の発掘調査がすみ、発掘作業はすべて終了する。

3. 調査の組織と構成

調査主体	秋田県教育委員会	
調査顧問	坪井　清足	奈良国立文化財研究所所長
	芹沢　長介	東北大学教授
専門指導員	小林　達雄	国学院大学助教授
	林　　謙作	北海道大学助教授
	桑原　滋郎	多賀城跡調査研究所研究第一科長
	藤沼　邦彦	東北歴史資料館考古研究科長
	須藤　　隆	東北大学助教授
調査担当者	岩見　誠夫	秋田県教育庁文化課　北の林Ⅰ・猿ケ平Ⅰ遺跡
	船木　義勝	秋田県教育庁文化課　妻の神Ⅱ遺跡
	熊谷　太郎	秋田県教育庁文化課　下乳牛遺跡
	桜田　　隆	秋田県教育庁文化課　小豆沢館、北の林Ⅱ、上葛岡Ⅰ・Ⅱ遺跡
	柴田陽一郎	秋田県教育庁文化課　案内Ⅰ、孫右衛門館遺跡
	小玉　　準	秋田県教育庁文化課　歌内、西町Ⅰ・Ⅱ遺跡
	橋本　高史	秋田県教育庁文化課　飛鳥平、鳥居平、中の崎遺跡
	小林　　克	秋田県教育庁文化課　駒林、上葛岡Ⅳ、案内Ⅱ遺跡
調査補佐員	栗沢　光男	藤井　安正　　関　　直　　山崎　文幸
	三ケ田俊明	
補助員	松岡　忠仁	阿部　明人　　石木田正幸　　神田　公男
	北川　恵一	児玉　悦郎　　田中　和徳　　畠山　　圭
	福島　昭彦	小田島幸二　　佐藤　幸夫　　児玉　　均
	米村　博美	佐々木金正
事務補助員	佐藤　順子	金沢万理子
調査協力	庄内　昭男	秋田県立博物館主事　　補佐員　鈴木秋良　　補助員

花田　隆夫

調査協力機関　鹿角市教育委員会　東北縦貫自動車道対策事務所、鹿角市建設部建設課高速道路対策室

4.　調査の方法

(1)　発掘区の設定

東北縦貫自動車道の調査では、路線内の遺跡地に5ｍ×5ｍのグリッドを設定して発掘を行う。グリッド設定基準線は、歴史時代の遺跡は方位に合わせ、他は日本道路公団の設置した任意二本の中心杭を結ぶ線を設定基準線とし、路線の進行方向に沿わせる。

(2)　測量と実測

地形や遺構状況に応じて、遣り方測量、平板測量、航空写真測量の方法をとる。遺構の実測の縮尺は1/20、遺構配置図は1/200、竪穴住居跡のカマド、石囲炉などの平面図、断面図、土層断面図は1/10を原則とするが、必要に応じて任意の縮尺も活用する。

(3)　遺構発掘と遺物のとりあげ

遺構の発掘は4分割法を原則とし、平面、断面、層序、レベル、遺物の実測は県統一のセクショントレスターに記入し、水糸高は標高を記入する。

遺物の取りあげは、1点1袋、1括1袋とし、遺跡名、グリッド名、遺物の種類、層位、出土年月日の記入された遺物カードを同封する。

遺構・遺物記号は、平城京発掘調査で実施しているものを参考に定めたものを使用する。

記号	遺構	記号	遺構	記号	遺構・遺物	記号	遺物
SA	柵列・柱列	SK	土壙	SX(F)	焼土遺構	RQ	石製品
SB	建物跡	SK(F)	フラスコ状ピット	SX(R)	捨場	RT	貝製品
SC	廊	SK(I)	竪穴状遺構	SX(S)	配石(集石・立石・組立 ストンサークル)	RU	人骨
SD	溝・堀・濠	SK(P)	ピット	SX(U)	土器埋設遺構	RV	紙・布製品
SE	井戸跡	SK(S)	墓	RC	炭化物	RW	木・竹製品
SF	築地・土塁	SK(T)	トラップピット	RM	金属製品	RY	その他
SG	苑池	SL	河川	RN	自然遺物		
SH	広場	SM	道路・橋・階段	RO	骨角製品		
SI	住居跡	SX	その他	RP	土製品		

(4) 写真撮影

実測と同様記録保存の要である写真撮影には、35㎜判小型カメラ2台（ニコンFE）と6×9判の大型カメラ（ホースマンプレス）ゼンザブロニカETRS 6×4.5判とポラロイドカメラを使用する。

35㎜判カメラは、モノクロとカラーリバーサル用に使い分け、大判カメラは特に重要な遺構遺物の検出記録に、フィルムパックを交換し、モノクロ、カラーの撮影をする。撮影は遺構、出土遺物とも1方向三枚撮影を原則とする。また、ポラロイドカメラを日誌や遺構の検討、打合会に活用する。

(5) 遺物整理と実測

① 出土遺物は遺物台帳に記入し、写真や実測図とのスムーズな活用をはかる。

② 土器の内面実測が必要と思われるものは、4分割方法をとり、左$\frac{1}{2}$に外面、右$\frac{1}{2}$に内面および断面を記載する。実測図には輪積痕、巻上げ痕、文様、調整痕を主として記載する。

③ 大破片の実測は、土器の中心線を算出し180度回転して作図する。

④ 破片の拓本は、土器の外面を左に置き、中央に断面、右に内面図を表す方法をとる。

⑤ 石器の実測は、原則として第三投影図法をとる。

II　遺跡の立地と環境

1.　地形と地質

(1)　地形・地質の概要

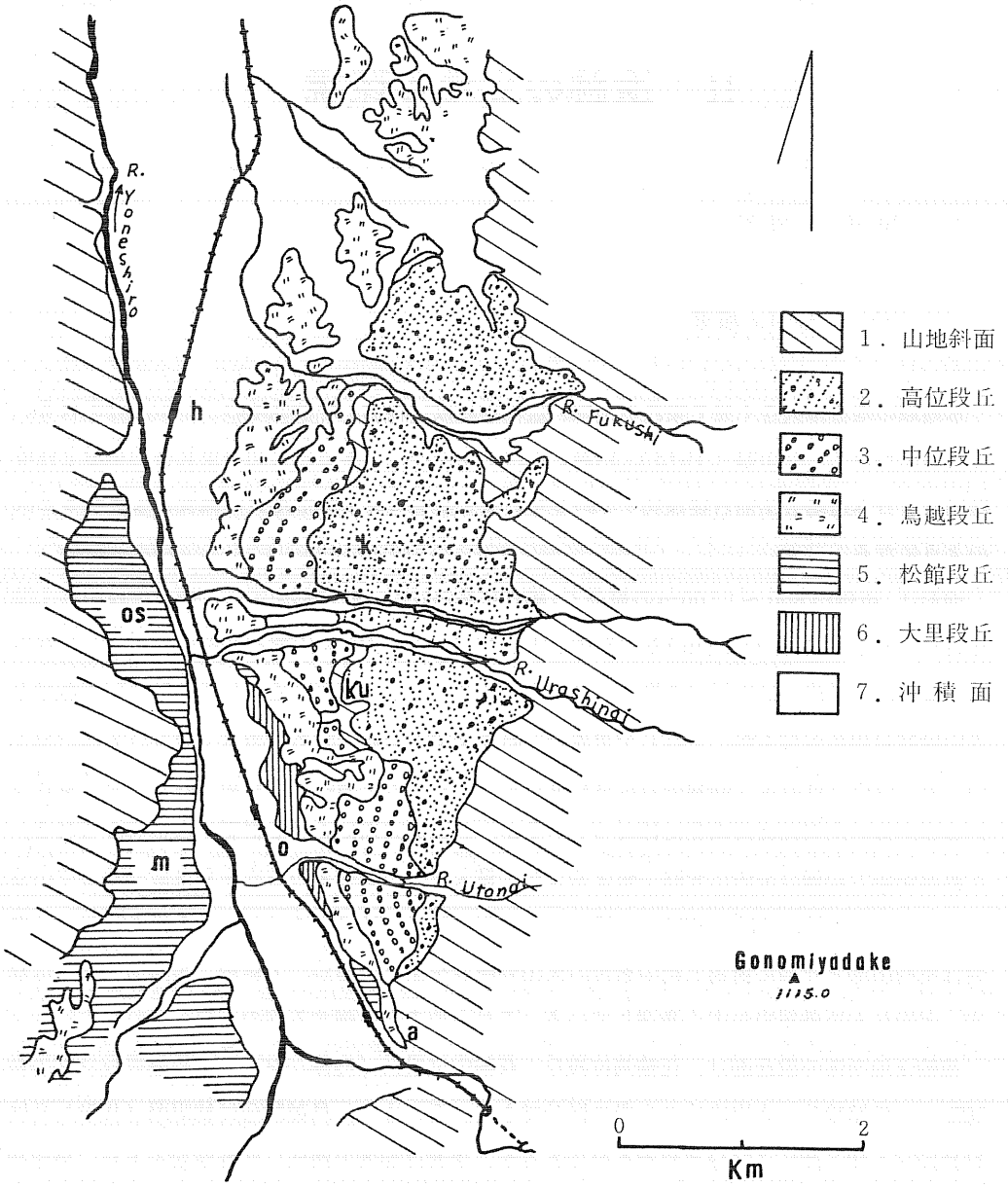
本地域の地形は大きく見て東西の山地、盆地内の段丘地形、沖積低地の三つに区分される。これらについて、秋田県（1973）、内藤（1970）および、日本道路公団の東北自動車道土性縦断図表（日本道路公団仙台建設局：1978年）等を参考にして地形地質の概要をまとめると次のようになる。

地形は、東側が800～1,100mの標高で、満壮年期のけわしい地形を示し、特に皮投岳(1,122.4m)、五の宮嶽（1,115.0m）などを中心とした起伏量の大きい山塊が南部に連なり、米代川は八幡平より上流では先行谷を形成して東西に流れている。地質は主として新第三紀中新世の火山砕屑岩類からなるが、それらを貫ぬいて石英安山岩や安山岩も分布している。また、福士川上流、谷内付近および湯瀬南方には粘板岩を主とする古生層の露出も知られている。これらの東側山地の山列はほぼ南北に連なっているが、北北東方向にのびる斜面や水系もみられる。これは新第三紀層の走向に大略一致するほか、貫入岩類や断層系の方向ともほぼ一致している。

一方、西側山地は400～600mの標高で、山容も東側山地ほどのけわしさも見られない。地質は東側山地と同様に新第三紀中新世の火山砕屑岩を主とするが、大葛層、大滝層などでは砂岩、泥岩などの砕屑岩が広く発達している。これらの走向は南北方向のものが多い。

花輪盆地南部の段丘面は、花輪高位段丘、花輪中位段丘（内藤、1970）※、鳥越段丘（秋田県、1973）、松館段丘、大里段丘の5段に区分できる。このうち、鳥越段丘は秋田県（1973）では鳥越段丘と関上段丘に区分されたものであるが、後者は前者の河成二次堆積面であり、構成層の時代的な差異も区分を必要とするほど大きいとはみられないことから一括して使用する。また、松館、大里の各段丘は、内藤（1970）の花輪低位段丘群とされたものである。なお、本報告書Ⅰ（秋田県教育委員会、1981）において、中位段丘と関上面、鳥越面を一括して180～250m面としたが、試錐資料および露頭の観察結果などから中位段丘構成層が花輪以南でやや広く分布することが明らかになったのでこれを区別することにする。次にそれぞれについて簡単に記載する。

※　以下、高位段丘、中位段丘と略称する。



第1図　段丘地形図

高位段丘：福士川、浦志内川、歌内川等が盆地に注ぐ山地の末端部からなだらかな斜面で扇状地状に広く分布する。かなり開析されているものの明らかに平坦面を残している。標高は1/2.5万地形図から、浦志内川左岸の扇頂部で350m、葛岡北東の末端部で240mであり、平均こう配は7.2％（4.1°）となる。また、歌内川流域でも320mから250mまでの高度差をもつ。一方、福士川左岸では350mから250mまでであるが、右岸では花輪スキー場北東の300mから

女森西方の200ｍまでと明らかに低い。また、平均こう配も福士川以北では4.4 ％(2.5°)と小さくなる。

構成層は径数cmから50cm前後までの亜角礫が雑然と混入した不淘汰礫層であり、地表面に近い部分は数ｍにわたって風化が進み、礫はくさってマトリックスと大して変わらないかたさになることが多い。段丘面の分布範囲のほかに、葛岡西方では鳥越軽石質火山灰層（内藤：1970）の下に見られたりする。全体的に扇状地堆積物としての層相をよく残している。また、上部は数ｍが赤褐色の粘土質土になっており、中に未風化の亜角礫もしばしばみられる。最上部には粘土質になった火山灰層もみられる。

ところで内藤（1970 ）は、上田（1965 ）の産土神断層をさかいにしてそれ以北の高位面が240ｍ前後、以南が290 ｍ前後と異なること、さらに中位段丘の分布範囲が以南に限られること等から断層以南は以北に対して50ｍ程度隆起したことを指摘した。かりに断層以北の河床が安定しているとすれば、前述した福士川をさかいにした（産土神断層およびその延長にほぼ一致する）高位面の平均こう配のちがいは、断層以南のブロックの西に傾動した隆起運動を示唆するものかも知れない。

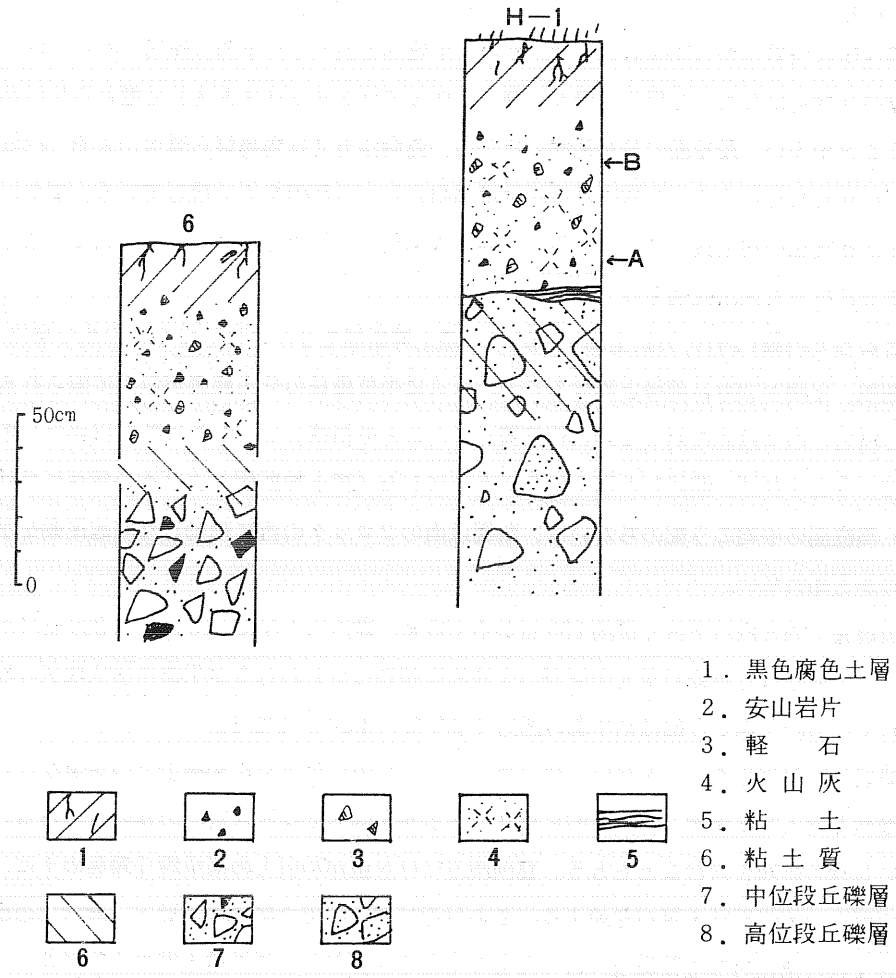
中位段丘：浦志内川下流で標高230 ｍから180 ｍ、歌内川下流で270 ｍから220 ｍにかけて分布し、末端部は鳥越軽石質火山灰層の火砕流堆積物におおわれるが明瞭に扇状地状の地形面を残している。平均こう配は柏木森の西方で6.0 ％（ 3.5°）である。

構成層は黄褐色のシルトないし砂のマトリックス中に数cmから30cm以上の角礫ないし亜角礫が雑然と混入する礫層で、全体的に塊状であるが末端部では厚さ数cmの連続性のわるいシルトないし砂の薄層を含むこともある。葛岡南方ではＮ値が70以上の高位段丘礫層の土に、最大６ｍの厚さの泥炭質粘土層が発達する。この付近は浦志内川の扇状地地形と、歌内川の扇状地にはさまれた湖沼的な堆積環境にあったものであろう。なお、この粘土層の上位に５～６ ｍの厚さで重なる中位段丘構成層は、すでにのべたように不良淘汰の亜角礫からなる礫層であるが、全体的にマトリックスは灰緑色を呈する。同様の色調の構成層は花輪東方の鳥越軽石質火山灰層の下位にもみられる。

鳥越段丘：鳥越軽石質火山灰層の堆積面であり、標高は福士川の右岸で170 ｍ、左岸から浦志内川にかけて180 ～190 ｍ、歌内川下流で190 ～200ｍとなる。火砕流台地としての形態を示しており段丘面は平坦で、段丘崖は急崖となることが多い。

松館段丘：米代川左岸に沿い、尾去から松館、荒町にかけて広く分布し、標高は160～170 ｍで夜明島川、黒沢川等による扇状地の開析された段丘とみられる。構成層は未確認である。

大里段丘：米代川右岸沿いに大里付近まで分布する面で、標高は150～155 ｍと低平であり、構成層も上部はくずれやすい河床性の礫層を主とし、田泥質の砂礫層が重なっている。葛岡西方の段丘崖の下部から中部にかけて、固結度のよい成層した円磨礫を含む砂礫、粘土層が見ら



第2図　露頭柱状図

第1表　重　鉱　物　組　成

サンプルNo. ＼ 重鉱物	鉄鉱物 Fe.	角閃石 Ho	単斜輝石 Cpx	斜方輝石 Opx	Opx／Cpx	Cpx／Ho	測定個数
H—1 A	38.8	9.4	13.9	37.9	2.7	1.5	317
H—1 B	52.6	6.2	17.5	23.7	1.4	2.8	325
7 — A	53	5	12	30	2.5	2.4	322
7 — B	70	4	9	17	1.9	2.3	288
7 — 1	51	5	19	25	1.3	3.8	443

申ケ野軽石質火山灰層は角閃石が少なく、Cpx／Ho は2.6（8個平均）に対し、鳥越軽石質火山灰層は 1.4（20個平均）

れるが、これは上部の堆積物と一括するには問題があり、段丘基盤の更新統の一部である可能性がつよい。

ところで、この地域の第四紀地質と地形を特徴づけるものに花輪断層と十和田火山起源の火山砕屑物層があげられる。

花輪断層はほぼ直線的に米代川沿いに北上しており、東西における山地の起伏量、山容のちがい、段丘の非対称的分布等は、東側山地を含む断層の東部地塊が第四紀を通じて上昇傾向がより強かったことを物語っており、注目に値する。一方火山砕屑物層については内藤（1966、1970）、中川・他（1972）等によりくわしく知られており、古い方から高市軽石質火山灰層（25,850 ± 1360），鳥越軽石質火山灰層（12,000 ± 250），申ケ野軽石質火山灰層（8,600 ± 250），大湯軽石質火山礫層（3,680 ± 130），毛馬内軽石質火山灰層（1,280 ±90）に区分されている。このうち大湯軽石質火山礫層と毛馬内軽石質火山灰層については同一火山活動にともなう降下堆積物、火砕流堆積物であることが知られている。※（大池、1974：藤本、1980）。

※ すなわち、中川、ほかにより大湯浮石のC^{14}年代とされたものは同層の下位の炭質物についての値であり、同層の降下時期よりも古い年代値を与えているものであろう。

(2) 発掘地点の地質

歌内川右岸の中位段丘面上に位置する。上部に40cmの厚さでオレンジ色の軽石を多く含む火山灰層が見られる（第2図）。これは0.5～2.0 cmの安山岩の角礫を含んでおり、同質の火山灰は本遺跡東方300 mの高位段丘でも風化した礫層の上に55cmの厚さで見られる（第2図H－1）ことから降下火山灰である。また、この高位段丘上の火山灰と北方の鳥居平遺跡付近の同質の火山灰とはともに類似した重鉱物組成を示し、申ケ野軽石質火山灰層の特徴に一致している（第1表）。

一方中位段丘構成層は歌内川の河床より火山灰の直下まで約20cmの厚さにわたりほぼ一様な層相を示し、安山岩の亜角礫を小礫から巨礫にいたるまで雑多に含んでいる。

参考文献

内藤博夫「秋田県米代川流域の第四紀火山砕屑岩と段丘地形」　『地理学評輪』　第39巻第7号　1966年

内藤博夫「秋田県花輪盆地および大館盆地の地形発達史」　『地理学評論』　第43巻第10号　1970年

中川久夫・他「十和田火山発達史概要」　『東北大地質古生物研邦報』　第73号　1972年

大池昭二「十和田火山は生きている」　『国土と教育』　第26号　1972年

秋田県　『秋田県総合地質図幅、花輪』　1973年

藤本幸雄「十和田火山起源の火山灰層の重鉱物組成（その1）大館、花輪盆地における火山灰層」　『大館工業高校研究紀要』　1980年

上田良一「秋田県北部の第三系の層位と造構造運動について」　『秋田大地下資源開発研究所報告』　第32号　1965年

2. 環境と周辺の遺跡

東北縦貫自動車道の通過する鹿角は、秋田県の北東隅に位置する。ここは米代川の最上流部にあたり、奥羽山脈中に形成された壮年期の山々と断層盆地からなる。年間の平均気温は花輪の観測によると9.8℃、冬期の最低気温は−22℃にも達したことがあり、年間を通じて風向は西にかたむき、風速は小さく、積雪もあまり多くない昼夜の温度較差の大きい内陸的気候(註1)を示す土地である。

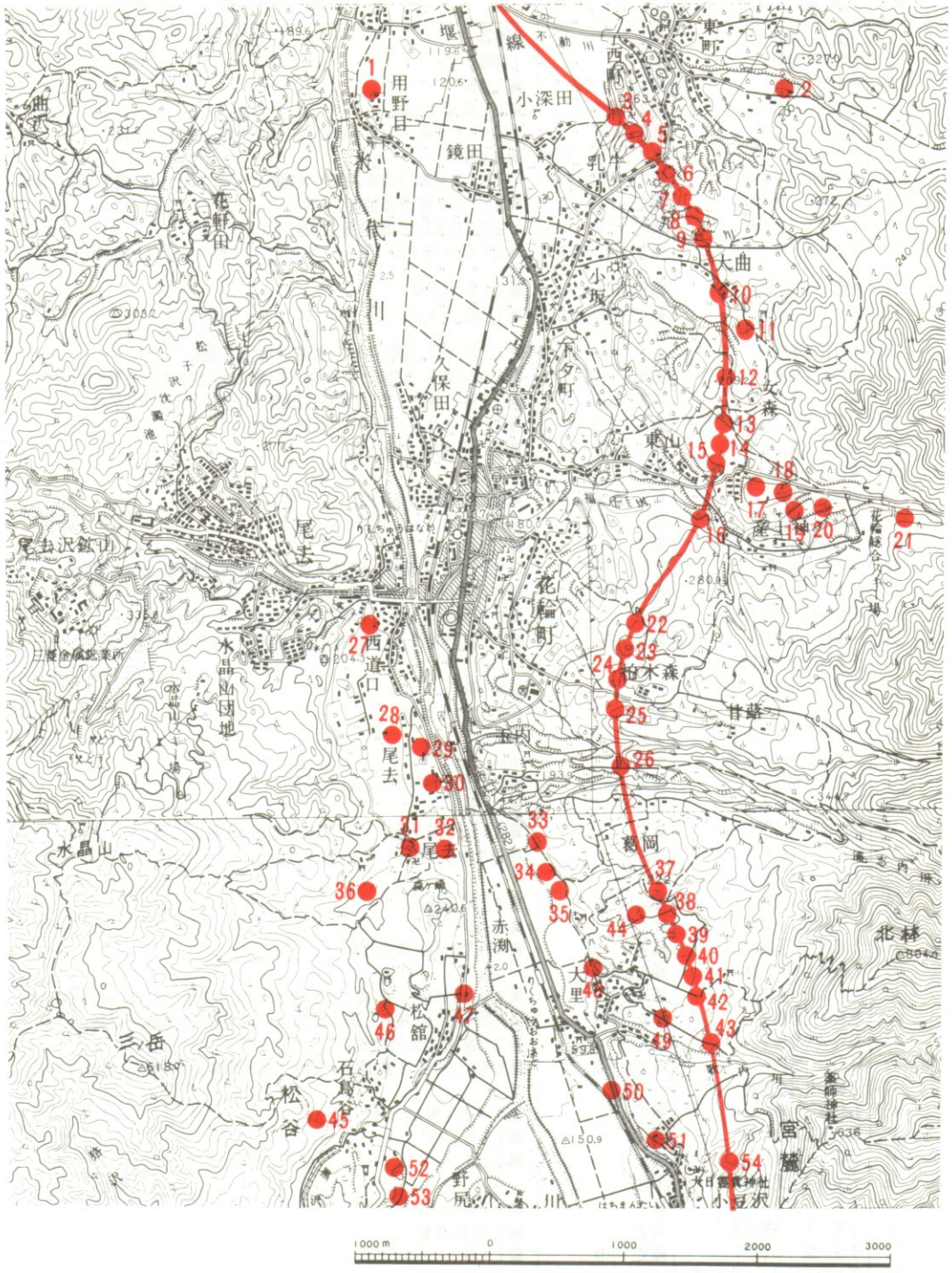
盆地の東には五の宮嶽(1,115 m)、皮投岳(1,122 m)、中岳(1,024 m)などの急峻な地形の壮年期の山が連なり、花輪盆地東の出口、湯瀬渓谷から流れくる米代川の本流は、八幡平地区で熊沢川、夜明島川、歌内川、浦志内川を合流させて盆地の西部を北流し、花輪柴平地区では福士川、乳牛川、間瀬川、草木川、北西の十和田地区にて西流する大湯川、小坂川を入れて大館盆地へ流れ去る。

この水系や盆地周辺には花輪高位段丘、鳥越段丘などと呼ばれる数段の段丘(註2)の発達が見られ、段丘上には大湯環状列石をはじめとし、450ケ所以上に及ぶ縄文時代から中世にかけての遺跡(註3)が確認されている。

東北縦貫自動車道の通過が予定され、今年度19遺跡の発掘調査の行われた八幡平地区の小豆沢、大里、玉内(宮麓地区)、花輪地区東の新興住宅地東山と乳牛、東町の柴平の地域には花輪高位段丘、中位段丘、鳥越段丘、大里段丘と呼ばれる標高150～270 mにかけて4段の段丘面が確認されており、ここに存在する遺跡は「秋田県遺跡地名表」と「鹿角市遺跡地図」に記載のあるように、54ケ所以上の多きにわたる。旧石器時代の遺跡の発見はなく、縄文時代から中世にかけての複合遺跡が殆んどである。米代川対岸の松館、尾去地区にも松館面と呼ばれる標高160～170 mの段丘面が開析されており、ここも遺跡が多い。

縄文時代の遺跡は、今年度発掘調査の行われた上葛岡Ⅳ遺跡の早期末のものからはじまり、前期は円筒土器を出土する遺跡が多い。それらの中の1つ、清水向遺跡は昭和29年に発掘調査が行われ、秋田県で最初に2棟の竪穴住居跡が報告されている(註4)。中期になると、円筒土器とともに大木式土器を出土する遺跡が多くなる。飛鳥平遺跡、北の林Ⅰ遺跡などでは、円形で石組炉を持つ中期末大木10式の竪穴住居跡が報告されている(註5)。後期は十腰内式土器を出土する飛鳥平遺跡、案内Ⅰ遺跡があり、晩期の遺跡は、前半期の配石を伴う玉内遺跡(註6)と東在家遺跡が著名である。

弥生時代の遺跡は少量の撚糸文土器を出土する上葛岡Ⅲ遺跡、天王山式土器を出土する猿ケ平Ⅰ遺跡がある。立地は高位の段丘上で遺構は確認されておらず、稲作農耕の可能性は低い。



第 3 図　周辺遺跡分布図

第2表　周　辺　遺　跡　一　覧

番号	遺　跡　名　(所在地)	時代・時期	遺　　跡　・　遺　　物
1	用野目 (用野目)	平安	須恵器
2	餅野IV (餅野)	平安	土師器
3	西町II (西町)	縄文	縄文土器
4	西町I (西町)	縄文、弥生	縄文土器、弥生土器
5	下乳牛 (下乳牛)	縄文、平安	平安竪穴住居跡、フラスコ状ピット、縄文土器、土師器、須恵器
6	乳牛平 (乳牛平)	縄文、平安、中世	縄文土器
7	妻の神III (妻の神)	縄文、平安、中世	平安竪穴住居跡、土壙墓、堀立柱建物跡、フラスコ状ピット、縄文土器、土師器
8	妻の神II (妻の神)	縄文、平安	縄文竪穴住居跡、平安竪穴住居跡
9	妻の神I (妻の神)	縄文、平安	平安竪穴住居跡、土師器、縄文土器、フラスコ状ピット
10	猿ケ平II (猿ケ平)	縄文(早期～晩期)	縄文土器(早期、円筒下層b、大木9、10式、十腰内、大洞B)、縄文竪穴住居跡
11	大曲　(大曲)	縄文、平安	縄文土器、土師器
12	猿ケ平I (猿ケ平)	縄文(中期～晩期) 弥生	縄文土器(大木8a式、十腰内I式、大洞B、BC、C_1式)
13	案内II (案内)	縄文	縄文土器(前期、後期)、竪穴住居跡、土壙、配石遺構
14	案内III (案内)	縄文、平安	縄文土器(前期、後期)、土師器、須恵器、縄文竪穴住居跡、平安竪穴住居跡
15	案内I (案内)	縄文、平安	縄文土器(十腰内I式)、土師器、縄文竪穴住居跡、平安竪穴住居跡
16	孫右ケ門館 (孫右ケ門館)	縄文、平安	縄文土器、土師器、平安竪穴住居跡、屋外炉
17	東山A (東山)	縄文、弥生	縄文土器(晩期)、弥生土器
18	東山B (東山)	弥生	弥生土器
19	赤坂B (赤坂)	縄文、続縄文	縄文土器、続縄文土器
20	赤坂A (赤坂)	縄文	縄文土器
21	日向屋敷II (日向屋敷)	縄文	縄文土器
22	中の崎 (中の崎)	縄文、平安	縄文土器(後期、晩期)、平安竪穴住居跡、土師器、須恵器、掘立柱建物跡
23	柏木森 (柏木森)	縄文、平安	縄文土器(早期、後期、晩期)、土師器、土壙、フラスコ状ピット
24	明堂長根 (明堂長根)	縄文	縄文土器(後期、晩期)、土壙、フラスコ状ピット、溝状遺構
25	一本杉 (一本杉)	縄文、平安	縄文土器、土師器、須恵器、縄文竪穴住居跡、平安竪穴住居跡、掘立柱建物跡
26	上葛岡IV (上葛岡)		
27	下平　(下平)	弥生	弥生土器
28	六角平　(六角平)	縄文	縄文土器(大湯式)
29	三光塚2号 (東在家)	平安	硝子玉
30	三光塚1号 (東在家)	平安	玉類、勾玉
31	東在家 (東在家)	縄文(晩期)	縄文土器(大洞BC、C_1式)、土偶
32	尾去　(尾去)	縄文	縄文土器
33	清水向　(清水向)	縄文	縄文土器(円筒下層c、d式、大木b式、円筒上層a、d式)、竪穴住居跡
34	駒林　(駒林)	縄文	縄文土器、住居跡
35	下館　(下館)	中世	
36	尾去A～D (尾去)	縄文、平安	縄文土器、土師器
37	上葛岡III (上葛岡)	縄文	縄文土器
38	上葛岡I (上葛岡)	縄文	縄文竪穴住居跡、縄文土器
39	北の林I (北の林)	縄文、平安	
40	北の林II (北の林)	縄文、平安	縄文竪穴住居跡、土壙、縄文土器(大木10式)、平安竪穴住居跡、掘立柱建物跡
41	飛鳥平 (飛鳥平)	縄文、平安	縄文竪穴住居跡、縄文土器(十腰内I式)、平安竪穴住居跡、土師器
42	鳥居平 (鳥居平)	縄文	縄文土器、縄文竪穴住居跡
43	歌内　(歌内)	縄文、平安	縄文竪穴住居跡、土壙、縄文土器(大木8式、後期)、平安竪穴住居跡、土師器
44	上葛岡II (上葛岡)		
45	石鳥谷 (竹鼻)	縄文	縄文(円筒上層a、b層)
46	後口田II (後口田)	縄文	縄文土器
47	岩淵　(岩淵)	縄文	縄文土器
48	大里館 (大里、掘合)	中世	
49	大里　(大里)	縄文	縄文土器(大木9式)
50	下鷲の巣 (下鷲の巣)	縄文	縄文(中期、後期)
51	小豆沢館 (小豆沢)	縄文、中世	縄文土器
52	下モ和志賀 (下モ和志賀)		土器
53	田中館	中世	土器
54	堂の上 (堂の上)	縄文	縄文土器

奈良平安期の遺跡としては、県内で墳丘の残っている唯一の古墳、尾去地区の三光塚古墳(註7)と東北縦貫道路線上の遺跡、歌内、北の林Ⅰ、同Ⅱ、上葛岡Ⅳ、案内Ⅱ遺跡など、数十棟の竪穴住居跡の検出されている平安期後半の集落跡がある。

環状列石と終末期古墳群のほかに、鹿角の特色ある遺跡を求めるとすれば、中世の館跡があげられよう。42館、もしくは48館と称される城館(註8)がせまい盆地周辺に群在する。

鎌倉時代後期に関東から移住した成田、安保、秋元、奈良の4氏に始まるとされるこの中世の城館は、大里館、玉内館、尾去館、古館、乳牛館などの地名で村落に残る。就中、大里館は鎌倉時代以来安保一族の惣領の本拠で、史料の初見は南北朝にさかのぼる。すなわち、建武3年(1336年)と4年(1337年)に陸奥国北朝党のため攻撃された記録(南部文書)がそれである。大里館以外の館は、戦国期における南部氏と安東氏の確執の記録に散見するが、創建期など不明部分が多い。これらの館は平地に臨む舌状台地を空堀で分断し、主郭を中心に数個の郭を配しており、館上面の平場は、縄文、弥生、奈良、平安時代の人々の居住地でもあって、各時代各種の遺構遺物が出土する。

註1　秋田県教育研究所『秋田県地誌』　研究№104　1969年
註2　藤本幸雄氏の1「地形と地質」による。
註3　秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図』　1977年
　　鹿角市教育委員会『埋蔵文化財の保護と開発に関する説明会資料』　1979年
註4　大和久震平・奈良修平『秋田県史考古編』　1960年
　　奈良修平・豊島　昴『秋田県の考古学』　1967年
　　岩見誠夫『半田先生と秋田県の考古学』　1981年
註5　秋田県教育委員会『埋蔵文化財発掘調査報告会発表要旨』　1981年
註6　阿部義平「配石墓の成立」『考古学雑誌54－1』　1965年
註7　註4に同じ
註8　沼館愛三著・盛田　稔編『津軽諸城の研究』(草稿)青森県文化財保護協会　1977年
　　塩谷順耳「鹿角の館」『秋田県立博物館研究報告』第3号　1978年

第4図　秋田県鹿角市における東北縦貫自動車道路線上の遺跡分布図

歌　内　遺　跡

遺跡番号	No. 6
所在地	鹿角市八幡平字歌内48番地他
調査期間	昭和54年９月５日～12月18日
	昭和55年４月15日～９月25日
発掘調査予定面積	12,423 ㎡
発掘調査面積	10,100 ㎡

1. 遺跡の概観

歌内遺跡は、秋田県鹿角市八幡平字歌内48番地他に所在し、国鉄花輪線陸中大里駅より東南1㎞、北緯40°09′05″、東経140°48′40″、標高215ｍ～225ｍを測る地点に存在する。

遺跡地は、奥羽山脈の一角をなす標高804ｍの北林の山麓より、米代川の流れる花輪盆地に向って西へ緩やかに傾斜しながら扇状に張り出す、標高180ｍ～280ｍの台地である。この台地を横断する形の南北250ｍ、東西50ｍの範囲が調査対象範囲である。台地南側は切り立った急斜面となり、その20ｍ下を北林と標高1,115ｍの五ノ宮嶽との間に源を発する歌内川が、米代川へ向って蛇行しながら西流する。遺跡地北側にも小川が流れており、大里集落内で歌内川と合流している。

遺跡付近は葉タバコ、リンゴ等が栽培された畑地であった。

2. 調査の方法

東北縦貫自動車道建設予定地内の道路中心杭ＳＴＡ91＋60とＳＴＡ92＋00を結ぶ直線及びその延長線を基準とし、これに直交するラインを設け、５ｍ×５ｍのグリッドを設定した。グリッドの呼称は、南北軸には南よりアラビア数字で１～47まで、東西軸には東よりアルファベットでＡ～Ｋまでとし、両者を組み合わせて、グリッド南東隅の交点をそのグリッドの名称とし例えば５－Ｃグリッドと呼ぶことにした。

遺構には確認順に通し番号を付け、掘り上げ次第順次、簡易遣り方を用いて通常1/20、必要に応じて1/10の縮尺で実測を行った。一部平板実測も採用した。

3. 調査の経過

歌内遺跡は昭和54・55年の２カ年にわたり調査が行われた。54年９月５日、葉タバコの茎、根の抜き取り作業から調査を開始し、同時に、遺跡中央部を通る林道の南側にグリッドの設定を行った。翌日からグリッド設定作業と並行して、表土除去を開始し、すぐに住居跡を確認した。９月18日には、55年度調査予定地である林道北側に遺構の有無と、土層堆積状態の確認のため、幅１ｍ、長さ30～60ｍのトレンチ４本を設定した。林道南側で漸次確認された遺構を精査しつつ、遺跡地南側へ表土除去作業を進行させたが、南西部の堆積土が厚く、作業が思うように進捗しないため、10月29日、バックホー、キャタトラ、ベルトコンベアーを導入し、排土を林道付近に堆積させる。11月中旬になると遺跡内に霜柱が立つようになり、遺構精査は困

難となる。表土除去作業終了時点において、林道南側の西半 1,500 ㎡に住居跡11、溝７を確認したが、これらを55年度調査分に含め、遺構保護のため、10cmほどの厚さで埋め戻しを行った。11月下旬になると、雪が降り始め作業は困難を極め、12月18日までに竪穴住居跡21、土壙23、溝９、その他の遺構４の精査を行い、54年度の調査を終了した。

55年度は、４月15日に機材運搬と共に調査を開始した。翌日林道北側にグリッドを設定し、前年度の埋め戻し区域と並行して表土を除去する。５月28日には重機を導入して、54年度に堆積しておいた排土の、林道北側への移動を開始した。調査の進向に伴なって林道北側にも竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝、土壙等の遺構が相次いで検出され、これらの遺構を調査しつつ、54年度埋め戻し区域の調査を並行させた。さらに、林道北側から南側へ排土を移動させた上で、竪穴住居跡等の遺構を検出し、すべての遺構の調査を終了したのは９月25日であった。

4. 遺跡の層位

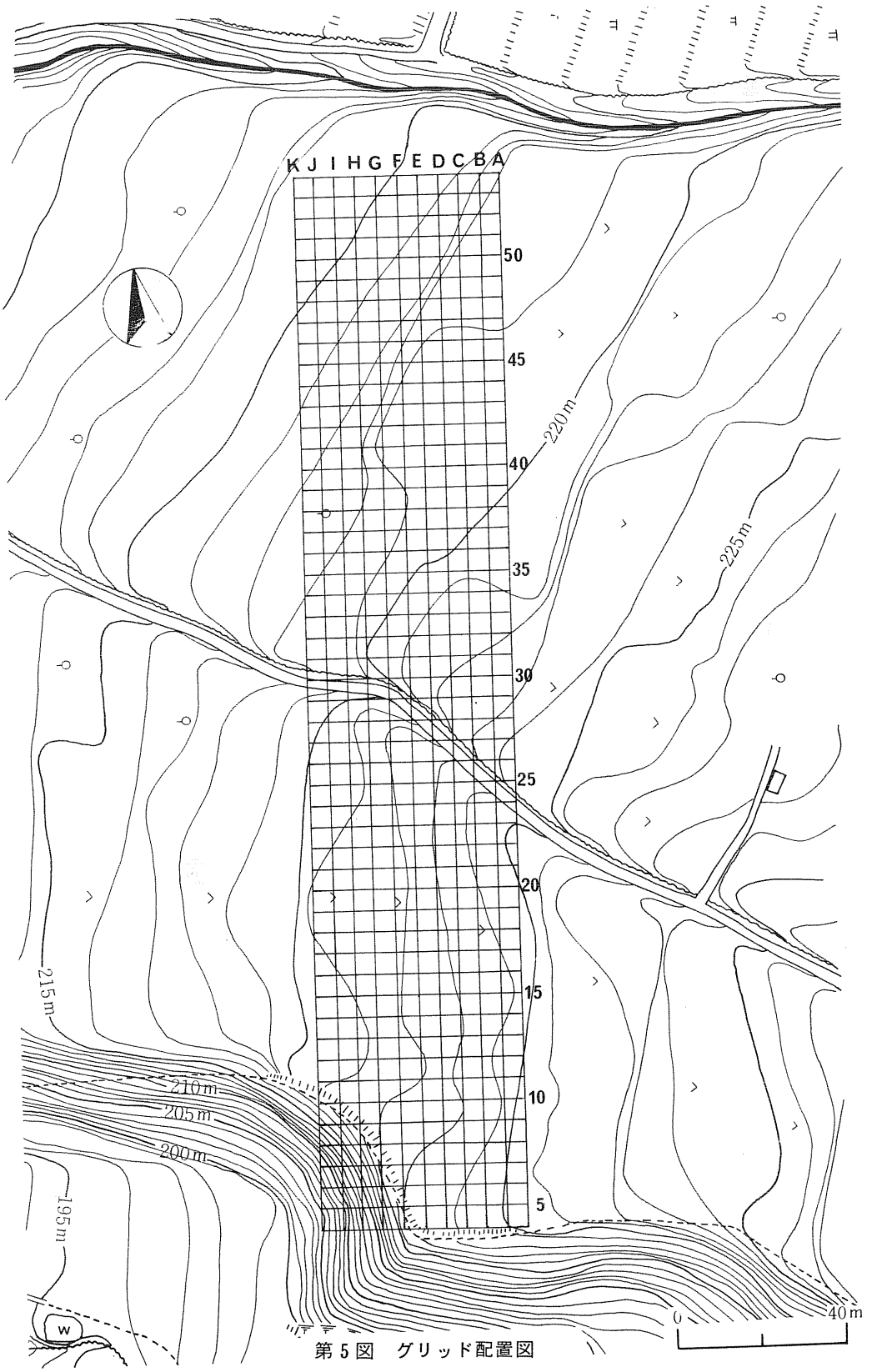
遺跡周辺は、東から西へ向って低くなる斜面を利用した畑地であり、黒土が厚く堆積して段段畑となる箇所がある。調査区域内にもこうした段差が存在し、地山から地表までの堆積土が１ｍを越える場合がある。基本的層位は次の通りである。

Ⅰ層：黒褐色土（10ＹＲ2/2）。耕作土で植物根を含む。概して調査区東側に薄く、西側に厚く堆積している。

Ⅱ層：黒色土（10ＹＲ2/1）。白色浮石粒を含む。主として調査区西半部に堆積し、東側には存在しない。

Ⅲ層：黄褐色（10ＹＲ5/6）。地山を構成する火山砕屑物である。地山面は一様に起伏の少ない緩斜面であるが、発掘区西部には若干の段差が生じている。

この他、極めて限られた地点に大湯浮石層が堆積する。遺構確認面は、縄文、平安、中世を通じて、Ⅲ層上面あるいはⅡ層下部である。


K J I H G F E D C B A
50
45
40
35
30
25
20
15
10
5
220m
225m
215m
210m
205m
200m
195m
W
0
40m

第5図　グリッド配置図

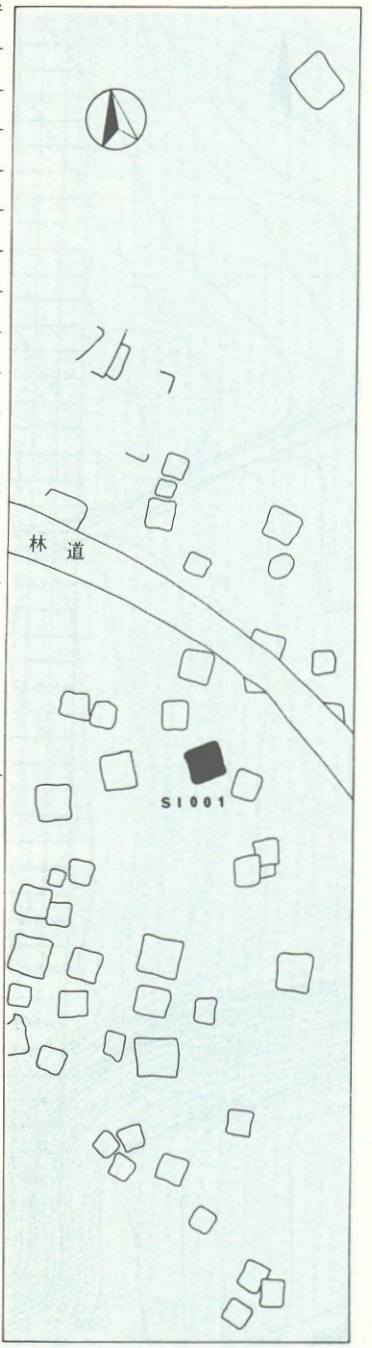
5. 遺構と遺物

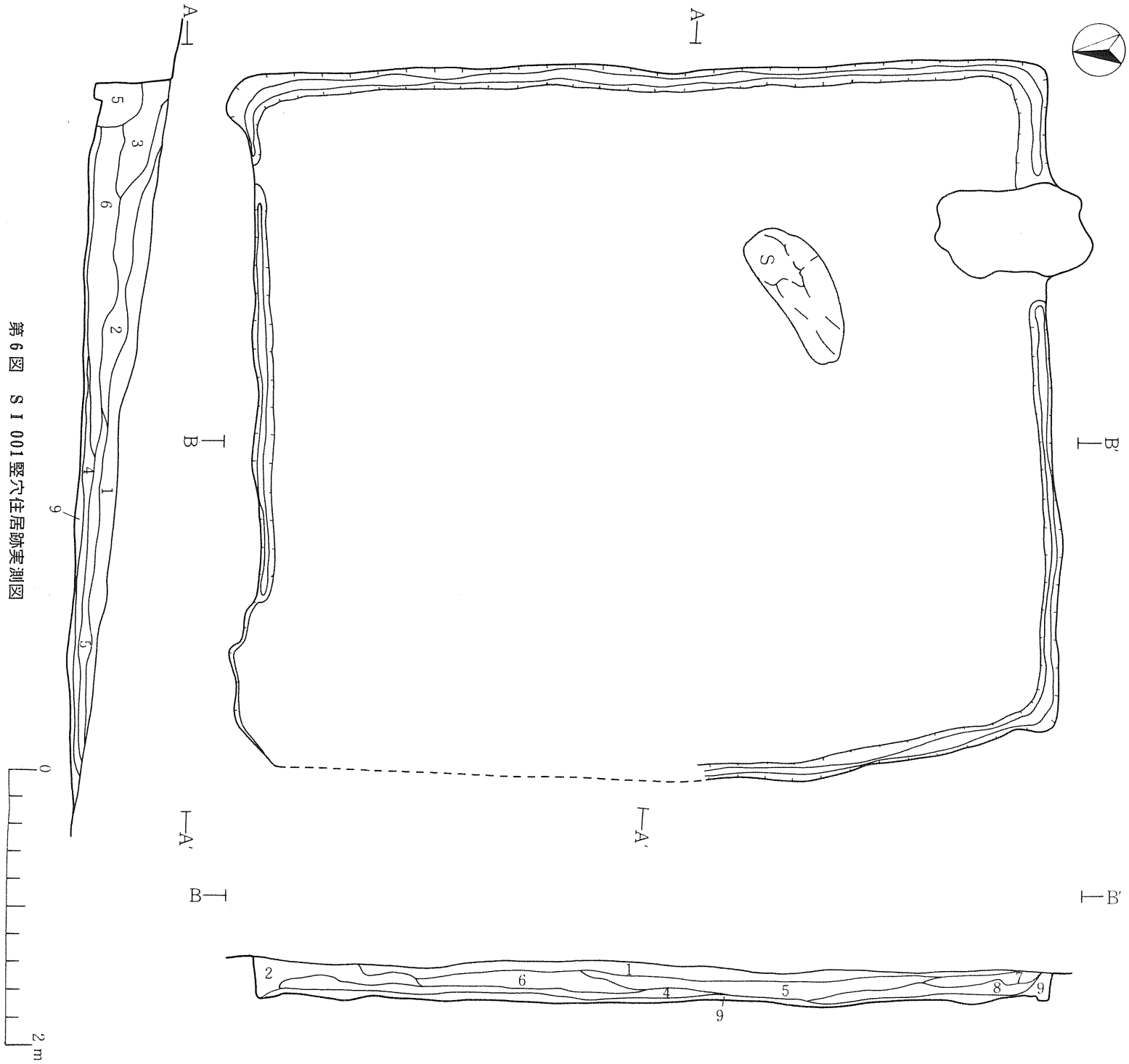
〔1〕 検出遺構と遺構内出土遺物

(1) 住居跡

第3表　SI 001竪穴住居跡観察表

挿図		6			
図版		2、3、4			
形態		方形			
主軸方向		N－0°－W			
法量	面積	30.0 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	595 cm	270 cm	490 cm	500 cm
	壁高	41～56cm	—— cm	0～32cm	0～50cm
	壁溝幅	13～17cm	—— cm	8～22cm	8～15cm
	壁溝深	6～10cm	—— cm	5 cm	5 cm
確認		地山面で確認された。			
壁		床面より垂直に立ち上がる。			
壁溝		深さに多少の差はあるが幅は均一的であり、西側の一部を除き、ほぼ一巡する。			
ピット		確認できなかった。			
床面		西側に傾斜しており、さほど堅くはない。カマド北床面に110×45cmの長大な石があるが、これは地山から突き出た自然石で住居使用中にも同じ状態にあったものであろう。			
カマド		南壁の中央よりやや東寄りに構築されている。残存状態は悪く袖部は崩壊していた。			
遺物		土師器、須恵器、砥石3、鉄鏃1、トチの実			
備考		焼失家屋であり、多くの炭化材が検出された。東壁では幅24～26cm前後の板が壁溝から直立し、壁に貼り付いて並列する。床面では主に北側に板材が多く見られ、部分的にせよ、板敷の可能性がある。			

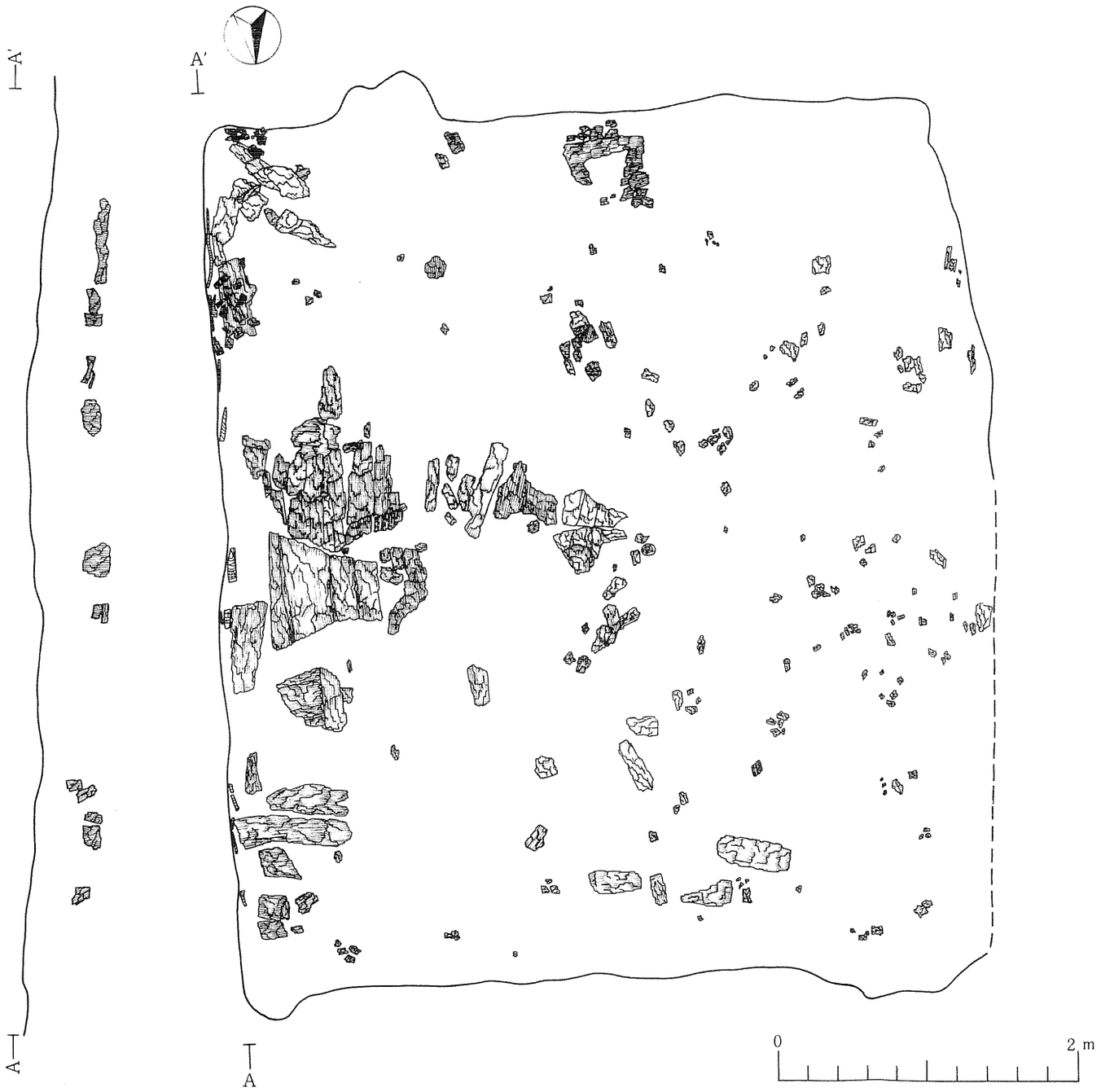




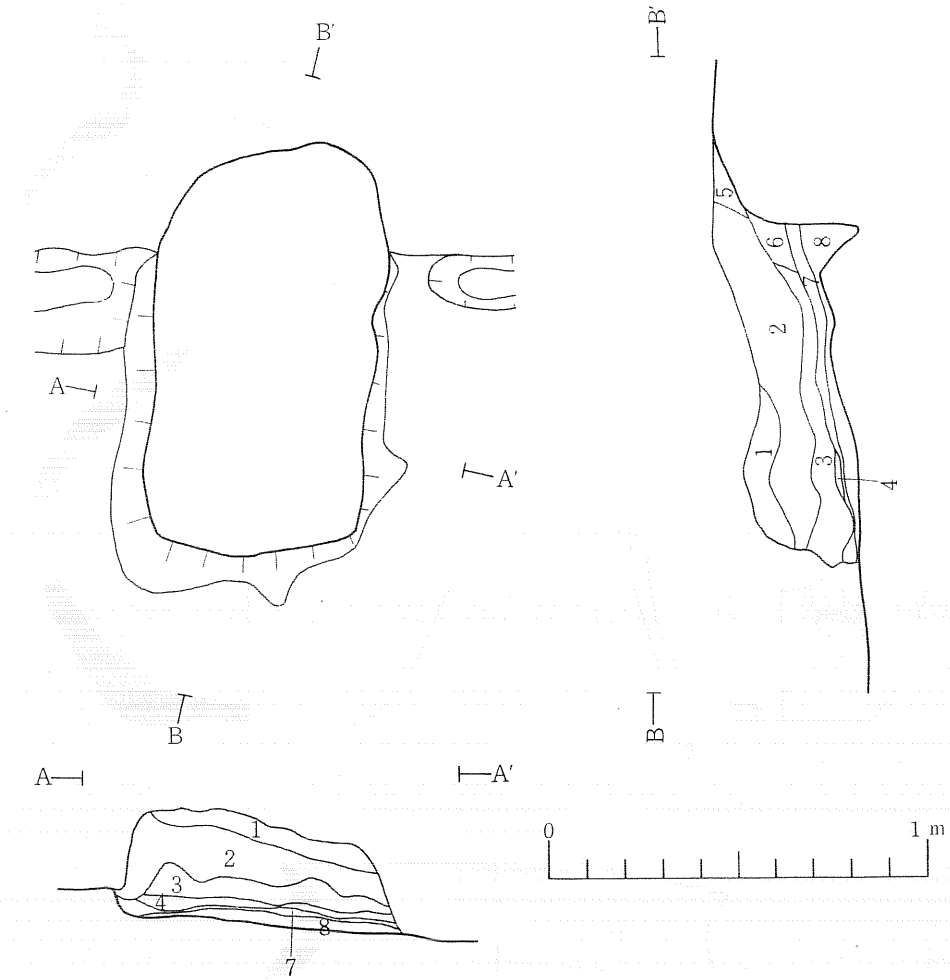
第6図　S I 001竪穴住居跡実測図

層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 2/3）	黄褐色地山土、炭化物混入
2	にぶい黄褐色（10 YR 4/3）	黒褐色土混入
3	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性弱、炭火物少量混入
4	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱、木炭主体
5	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強、黄褐色地山土、炭化物混入

層	土　　色	備　　考
6	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強
7	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、黄褐色地山土多量、炭化物混入
8	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、黄褐色地山土混入
9	黒　色（10 YR 2/1）	粘性弱、木炭混入

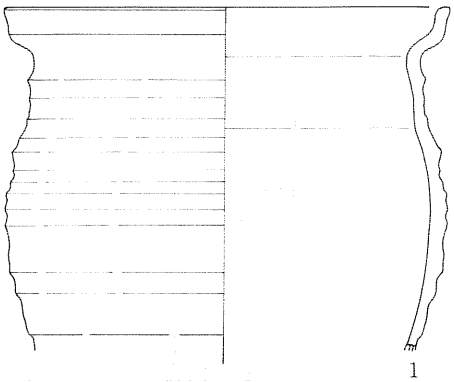


第７図　ＳＩ００１竪穴住居跡炭化材出土状態実測図

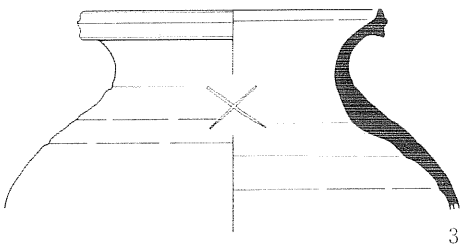


層	土　　色	備　　考
1	黒 褐 色（10YR 2/3）	粘性強
2	極暗褐色（7.5 YR 3/3）	粘性強、黄褐色土混入
3	黒 褐 色（10YR 3/2）	粘性強、焼土混入
4	暗 褐 色（7.5 YR 3/4）	粘性強、焼土混入
5	暗 褐 色（5 YR 3/6）	粘性強
6	暗 褐 色（7.5 YR 3/4）	粘性強
7	黒　　色（7.5 YR 1.7/1）	粘性強、炭化物、灰混入
8	褐　　色（7.5 YR 4/6）	粘性強、焼土混入

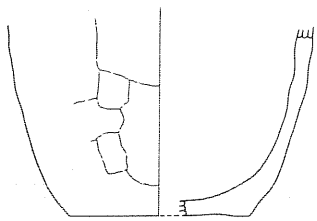
第8図　S I 001竪穴住居跡カマド実測図



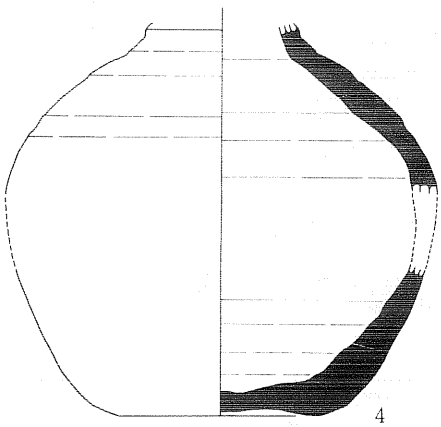
1



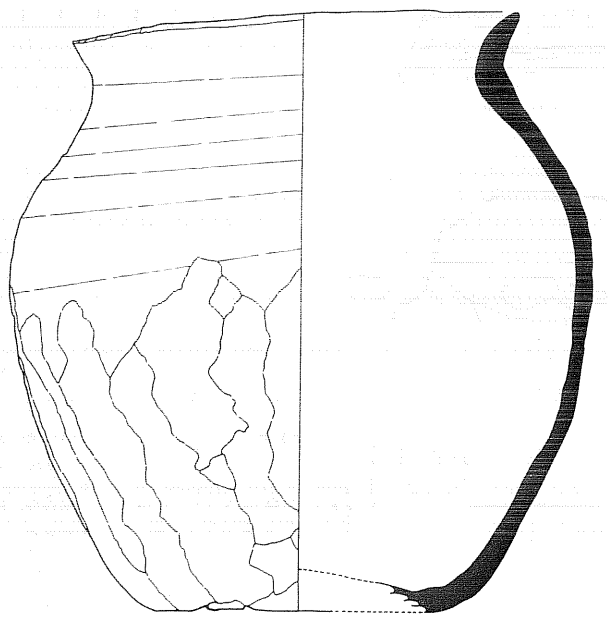
3



2

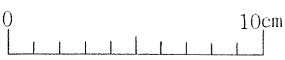


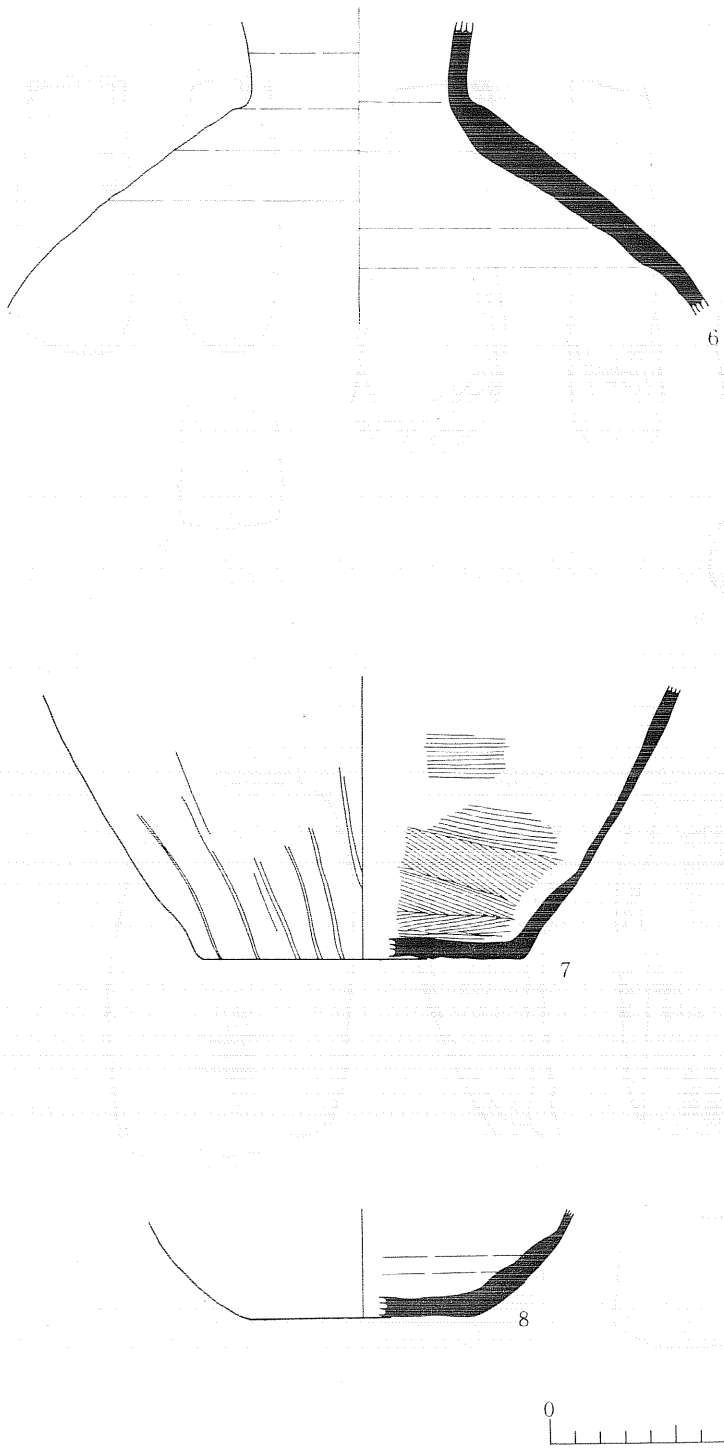
4



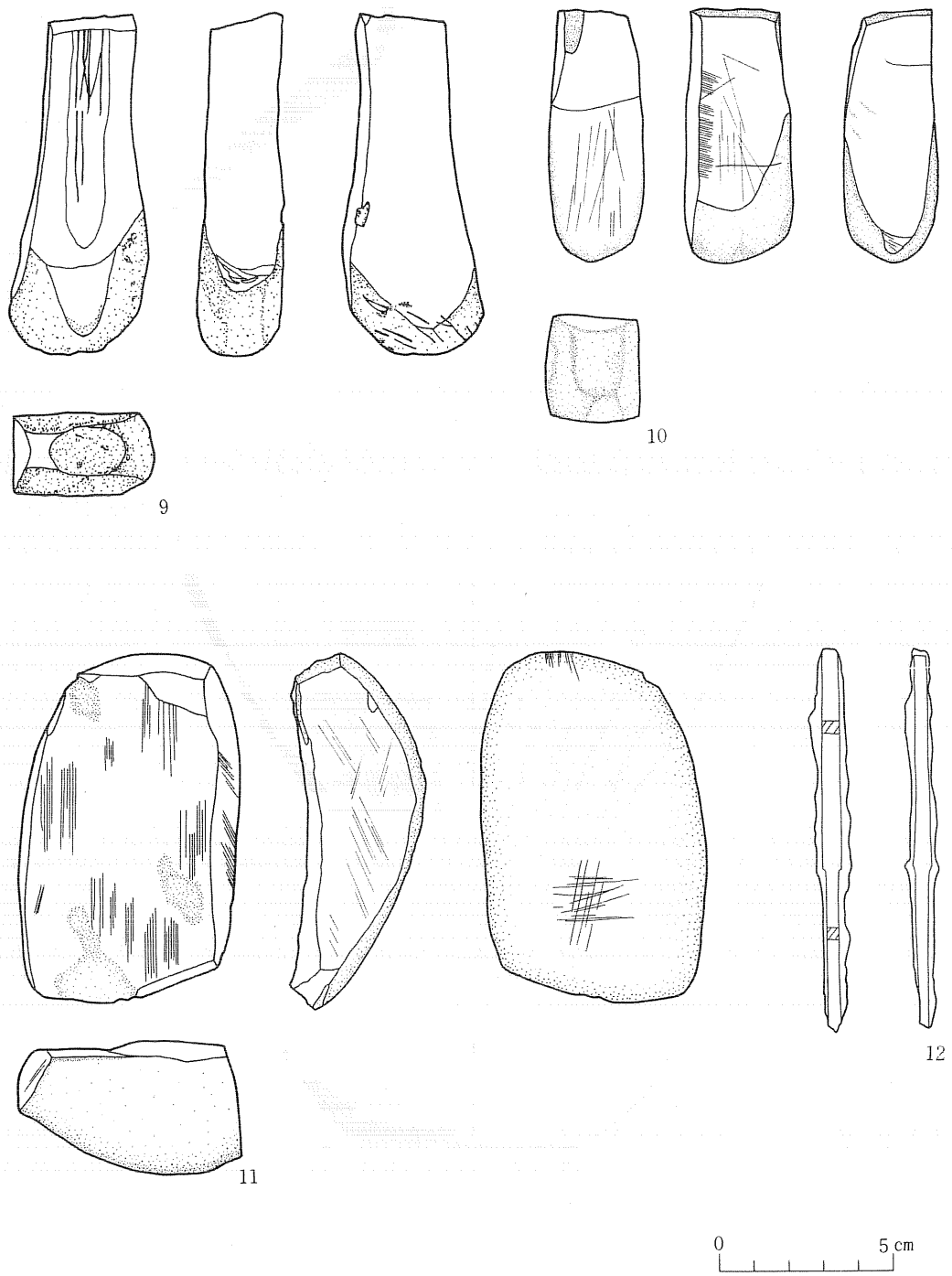
5

第９図　ＳＩ００１竪穴住居跡出土遺物実測図（１）





第10図　ＳＩ001竪穴住居跡出土遺物実測図（２）



第11図　ＳＩ001竪穴住居跡出土遺物実測図（３）

第4表　ＳＩ001出土遺物観察表(1)

挿図番号		第9図1		第9図2		第9図3	
器種		土師器甕		土師器甕		須恵器壷	
法量	口径	(17.4)cm		cm		11.9 cm	
	底径	cm		7 cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		1～3㎜の砂粒混入		2～3㎜の砂粒が多い		微細である	
焼成		良好		良好		良好	
色調		内外とも橙色		橙色		内・外とも灰色 器壁は赤褐色	
成形		ロクロ					
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁						
	胴			ヘラケズリ			
	底						
備考						頸部にX状の刻文がある。	

挿図番号		第9図4		第9図5		第10図6	
器種		須恵器壷		須恵器甕		須恵器壷	
法量	口径	cm		15.8、17.3 cm		cm	
	底径	(8)cm		12 cm		cm	
	器高	cm		22.2、23.9 cm		cm	
胎土		細かい		1㎝大の小石含む		細かい	
焼成		良好		良好		良好	
色調		外面黒褐色、内面褐灰色		灰色ないし黒褐色		灰色	
成形		ロクロ				ロクロ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁			一部を平らにケズリとっている			
	胴			下半をヘラケズリ			
	底						
備考							

第5表　SI 001出土遺物観察表(2)

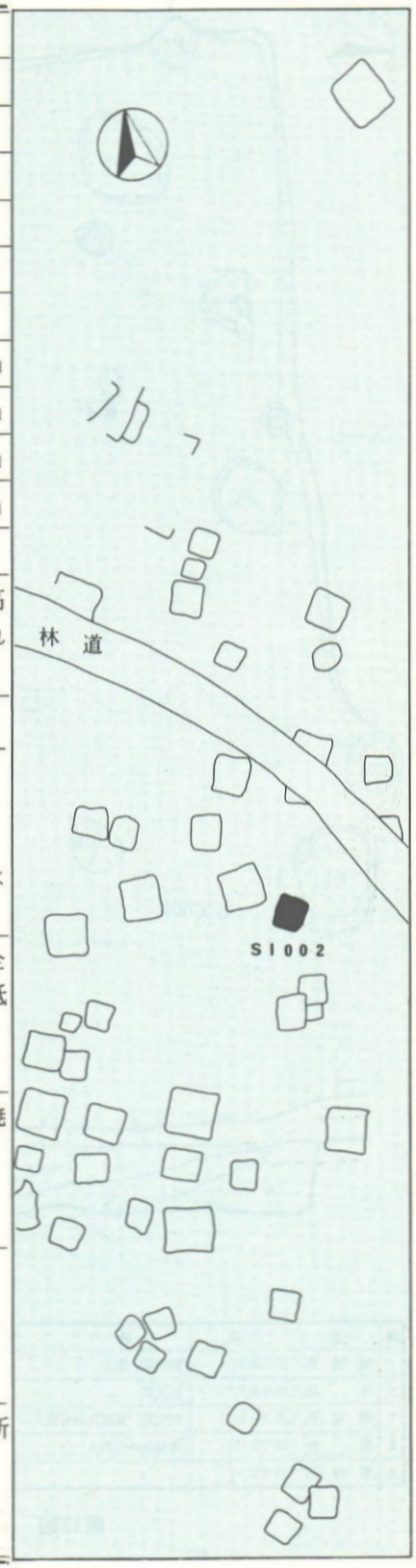
挿図番号		第10図7		第10図8	
器種		須恵器甕		須恵器壺	
法量	口径	cm		cm	
	底径	(12.6)cm		(9)cm	
	器高	cm		cm	
胎土		細かいが1mm程の砂粒を含む		微細	
焼成		良好		良好	
色調		灰～暗灰色		内外とも暗青灰色	
成形				ロクロ	
		外面	内面	外面	内面
調整	口縁				
	胴				
	底	ヘラナデ	ヘラナデ		
備考					

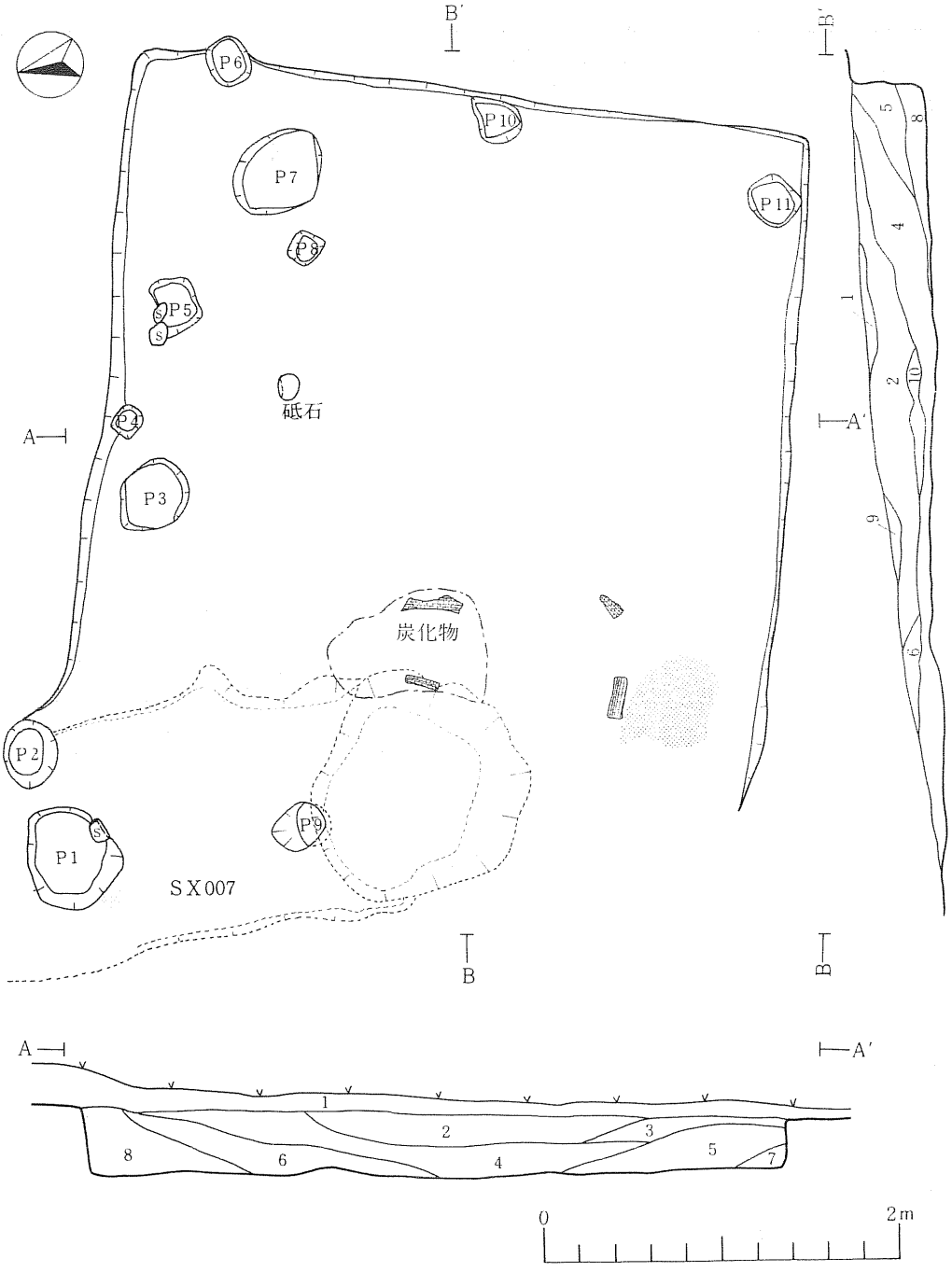
挿図番号		第11図9	第11図10	第11図11
器種		砥石	砥石	砥石
法量	長さ	9.6cm	7.3cm	10.0cm
	幅	3.8cm	3.0cm	6.4cm
	厚さ	2.4cm	2.6cm	3.2cm
重量		130g	96g	235g
石質		玄武岩	流紋岩	凝灰岩
備考		砥面4	砥面4	砥面3

挿図番号		第11図12
器種		鉄鏃
法量	長さ	11.0cm
	幅	0.8cm
	厚さ	0.6cm
備考		

第6表　SI 002竪穴住居跡観察表

挿図		12			
図版		5			
形態		方形			
主軸方向		N－16.5°－E			
法量	面積	17.9 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	382 cm	410 cm	386 cm	508 cm
	壁高	47～50cm	2～5 cm	10～44cm	38～46cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		ほぼ、垂直に立ち上がる。東壁が最も高く、西ほど漸次低くなり、西壁は見られない。			
壁溝		——			
ピット		P 1 (31) P 2 (11) P 3 (33) P 4 (7) P 5 (22) P 6 (15) P 7 (22) P 8 (36) P 9 (21) P10(9) P11(25)(単位cm) P 3・P 7・P11はこの住居の柱穴ではなかろうか。			
床面		ほぼ地山をそのまま床面としている。全体に平坦ながらも西に向ってわずかに低くなる。			
カマド		検出されないが、南西コーナー付近に焼土の分布が見られる。			
遺物		土師器、砥石2			
備考		SX 007と重複するが、本住居の方が新しい。			

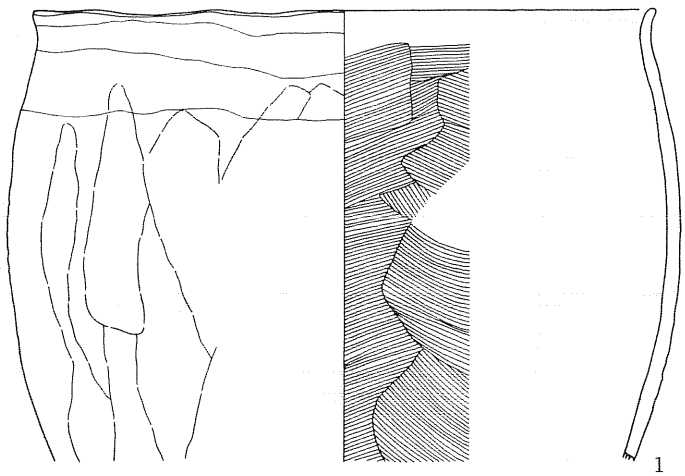


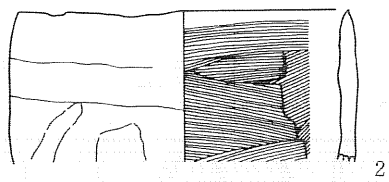


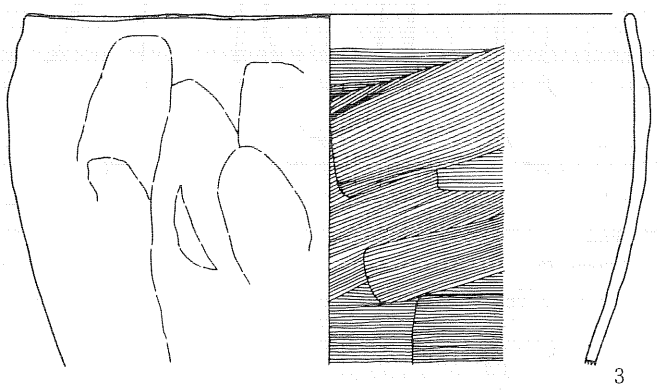
層	土色	備考
1	黒褐色（10YR 3/2）	粘性弱、表土
2	黒色（10YR 3/1）	粘性弱
3	黒褐色（10YR 3/2）	粘性弱、黄褐色浮石混入
4	黒色（10YR 1.7/1）	黄褐色浮石混入
5	黒褐色（10YR 3/2）	

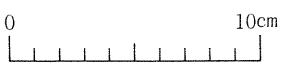
層	土色	備考
6	黄褐色（10YR 5/6）	浮石
7	黒褐色（10YR 3/2）	
8	黒色（10YR 2/1）	粘性弱
9	暗褐色（10YR 3/3）	
10	褐色（10YR 4/6）	炭化物混入

第12図　ＳＩ002竪穴住居跡実測図

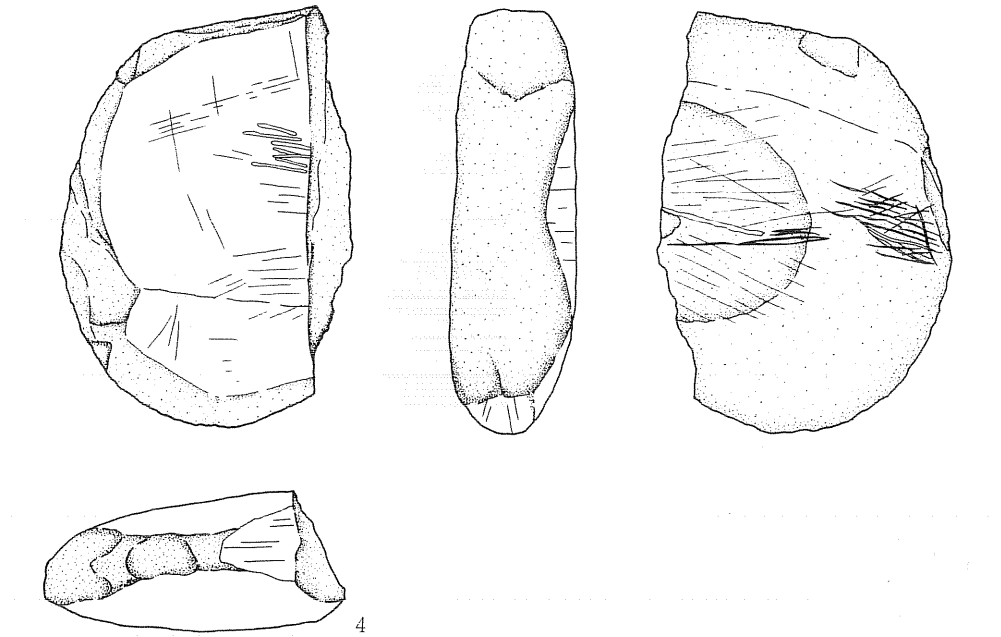


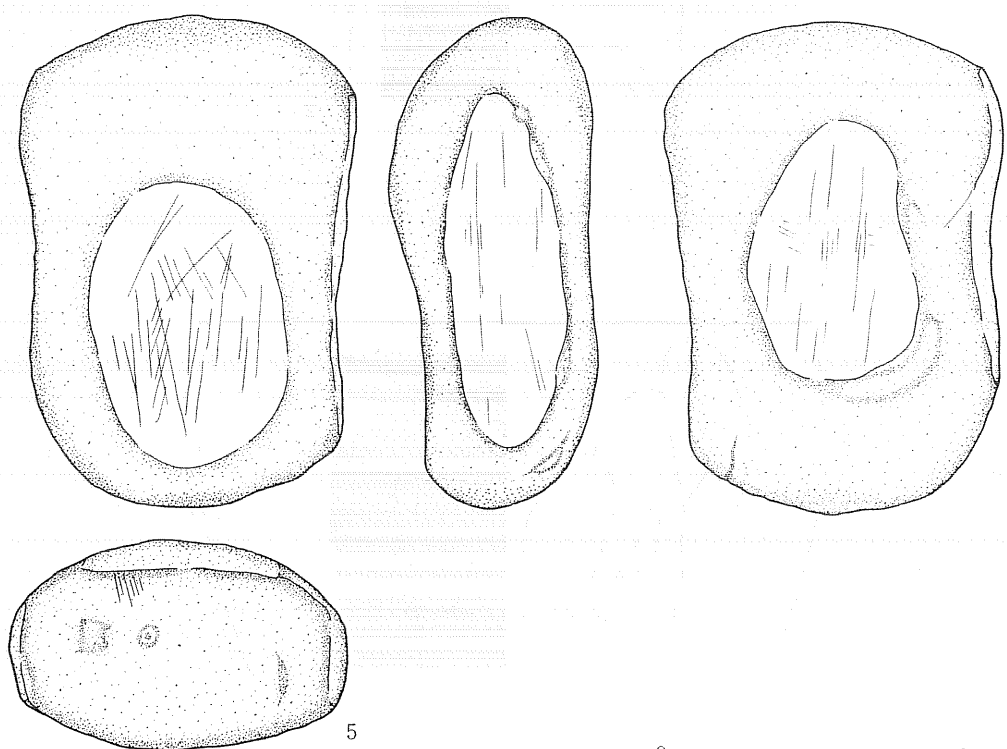






第13図　ＳＩ002竪穴住居跡出土遺物実測図（１）





第14図　ＳＩ002竪穴住居跡出土遺物実測図（２）

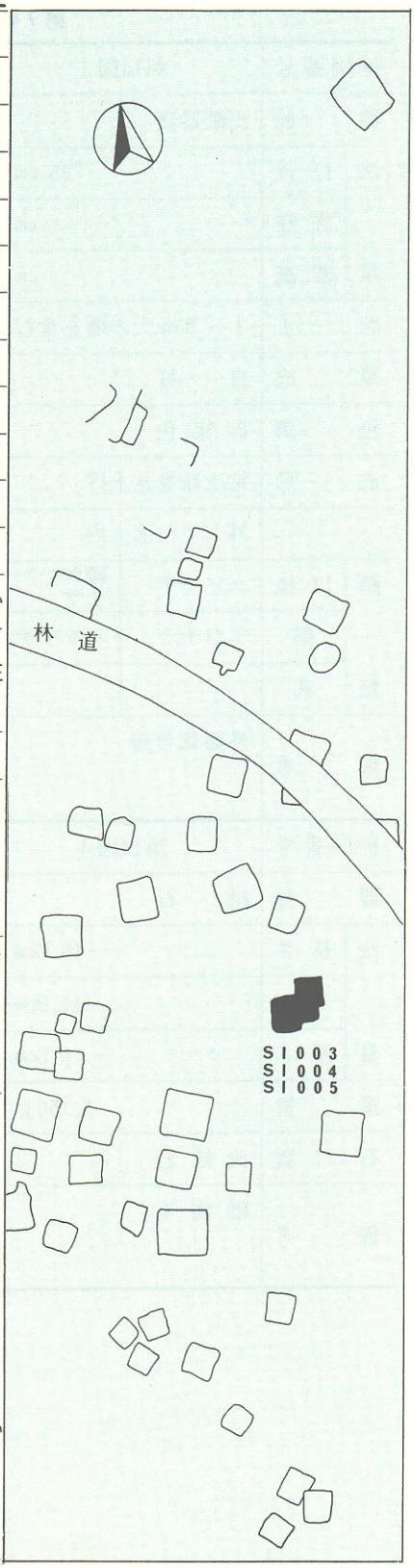
第7表　SI 002出土遺物観察表

挿図番号		第14図1		第14図2		第14図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	(25)cm		(13)cm		(24)cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		1～5㎜大の礫を含む		1～5㎜大の礫を含む		1～3㎜大の小礫を含む	
焼成		良好		良好		良好	
色調		赤褐色		明赤褐色		明赤褐色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ			
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	細かいハケナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ハケナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底						
備考		外面煤付着				外面煤付着	

挿図番号		第14図4	第14図5
器種		砥石	砥石
法量	長さ	15.6cm	13.4cm
	幅	11.9cm	9.1cm
	厚さ	6.5cm	4.1cm
重量		1,150g	736g
石質		流紋岩	流紋岩
備考		砥面4	砥面4、煤付着

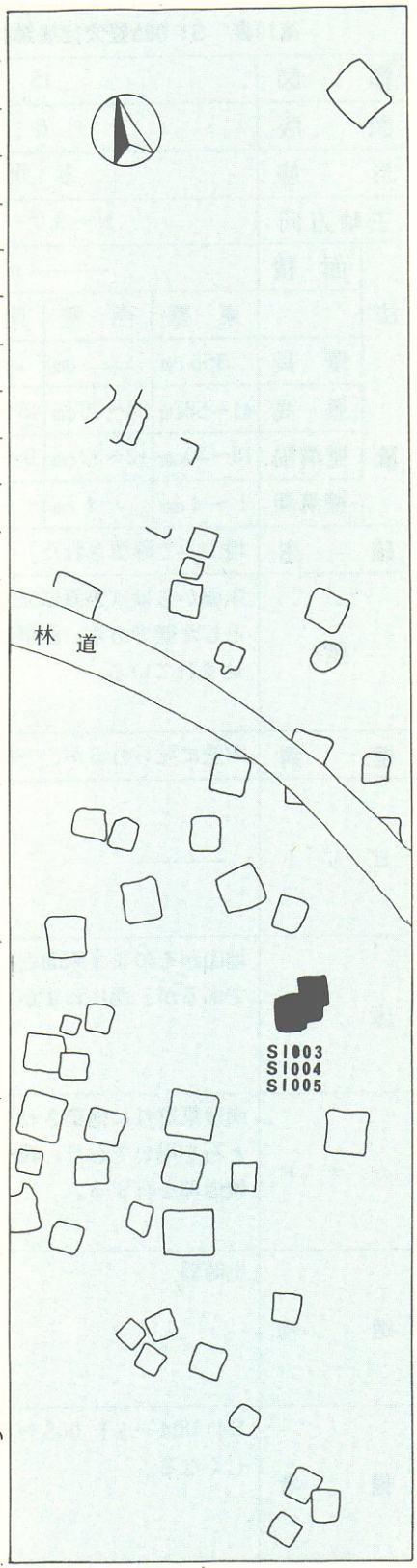
第8表　SI 003竪穴住居跡観察表

挿図		15			
図版		6			
形態		方形			
主軸方向		N－6.0°－W			
法量	面積	16.5 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	394 cm	392 cm	366 cm	390 cm
	壁高	24～36cm	—— cm	5～23cm	5～29cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		東・北・南壁は立ち上がりの急なしっかりとした壁である。地山が西に傾斜しているので西側ほど低くなり、西壁は存在しない。			
壁溝		——			
ピット		検出されなかった。			
床面		全体に平坦であるが、西に傾斜し、東西端では約10～20cmの高低差がある。			
カマド		存在しないが南西コーナー付近に焼土と若干の土器片の分布が見られる。			
遺物		土師器			
備考		SI 004・005を掘り込んで構築している。			



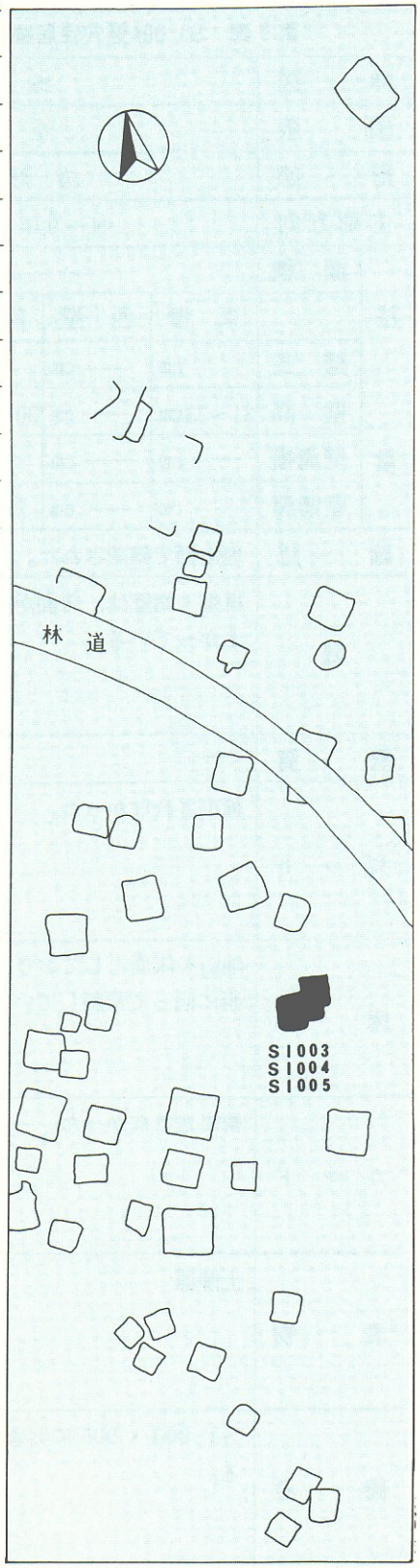
第9表　SI 004竪穴住居跡観察表

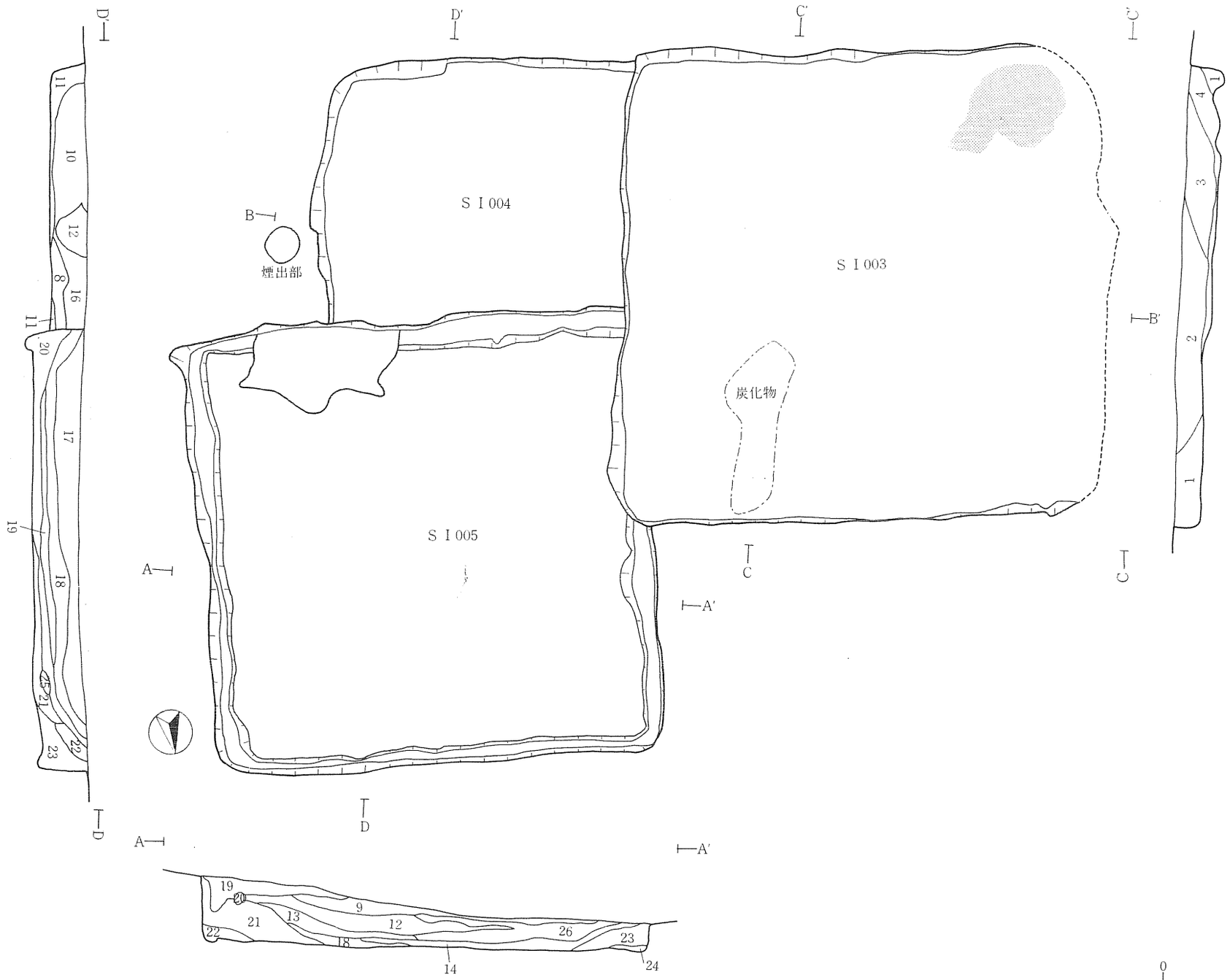
挿図		15			
図版		6			
形態		方形			
主軸方向		N－9.0°－W			
法量	面積	——— ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁高	31～33cm	—— cm	20～28cm	—— cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		東壁・南壁は、床面から急な角度で立ち上がっている。			
壁溝		———			
ピット		検出されなかった。			
床面		地山を床面としており、平坦であるが、西に向って傾斜している。			
カマド		検出されなかった。			
遺物		土師器			
備考		SI 003・005に大きく掘り込まれている。			



第10表　SI 005竪穴住居跡観察表

挿図		15			
図版		6			
形態		方形			
主軸方向		N－3.0°－W			
法量	面積	——— ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	355 cm	—— cm	—— cm	375 cm
	壁高	41～58cm	24～26 cm	48～57 cm	29～51 cm
	壁溝幅	13～30cm	12～32 cm	9 ～17 cm	12～20 cm
	壁溝深	1 ～4 cm	4 cm	1 ～4 cm	9 cm
確認		地山面で確認された。			
壁		床面からほぼ垂直に立ち上がるしっかりとした壁である。西壁はＳＩ 003に掘り込まれている。			
壁溝		四壁に見られるが、一様に浅い。			
ピット		———			
床面		地山がそのまま床面となっている。平坦であるが、西にわずかに傾斜する。			
カマド		南壁東寄りに構築されている。袖は粘土と石を用いており、緩やかに立ち上がる煙道部を有する。			
遺物		土師器			
備考		ＳＩ 004→ＳＩ 005→ＳＩ 003の順に新しくなる。			



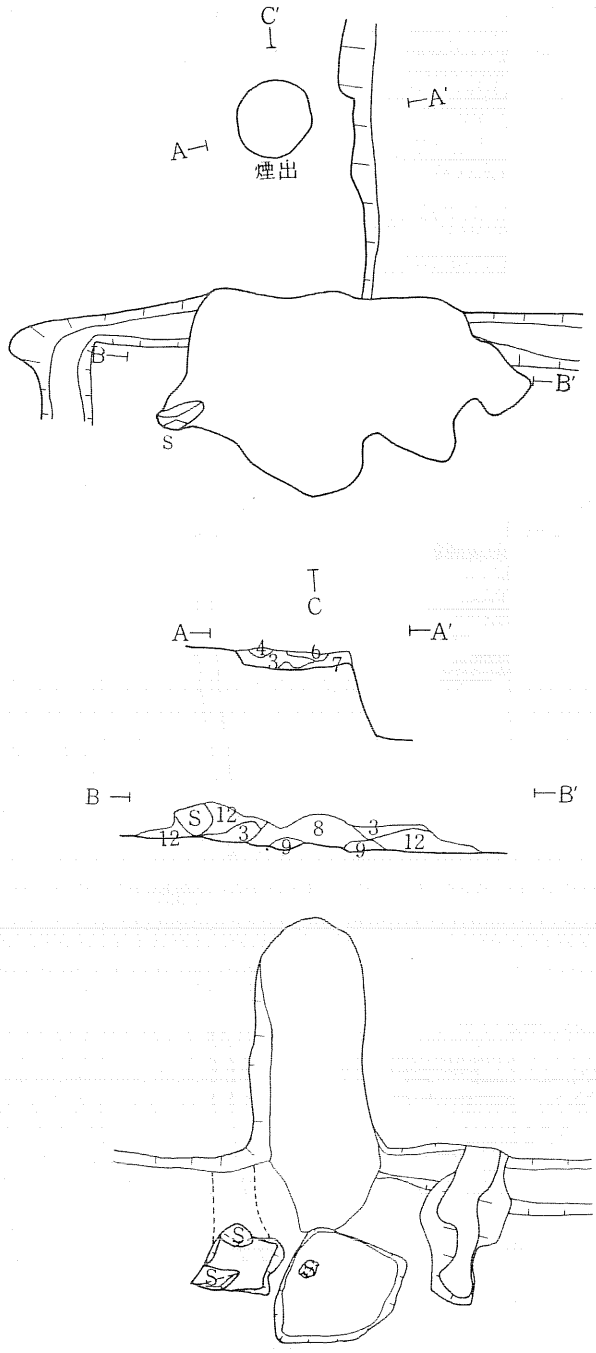


15図

層	土色	備考
1	黒色（7.5 YR 2/1）	黄褐色地山土混入　S I 003 覆土
2	黒色（7.5 YR 1.7/1）	明褐色土混入　〃
3	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱、炭化物、褐色土混入　〃
4	黒色（10 YR 1.7/1）	〃
5	黒褐色（10 YR 3/2）	明褐色土混入　〃
6	黒色（7.5 YR 2/1）	表土　〃
7	黒褐色（7.5 YR 3/2）	〃
8	黒色（7.5 YR 2/1）	褐色土混入　〃
9	黄褐色（10 YR 5/8）	黒褐色土、炭化物混入　〃
10	黒褐色（10 YR 3/3）	S I 004 覆土
11	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱、炭化物混入　〃
12	黒褐色（10 YR 3/3）	炭化物混入　〃
13	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性弱、炭化物混入　〃
14	黒色（10 YR 2/1）	黄褐色地山土混入　〃
15	褐色（10 YR 4/6）	〃
16	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱、炭化物混入　〃
17	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱　S I 005 覆土
18	黒色（7.5 YR 2/1）	炭化物混入　〃
19	黒褐色（7.5 YR 2/2）	〃
20	黒色（7.5 YR 2/1）	〃
21	黒色（10 YR 2/1）	〃
22	黒褐色（10 YR 2/2）	炭化物混入　〃
23	極暗褐色（7.5 YR 3/3）	炭化物混入　〃
24	黒色（7.5 YR 2/1）	〃
25	黒褐色（7.5 YR 3/2）	黄褐色地山土混入　〃
26	黒色（7.5 YR 2/1）	黄褐色地山土混入　〃

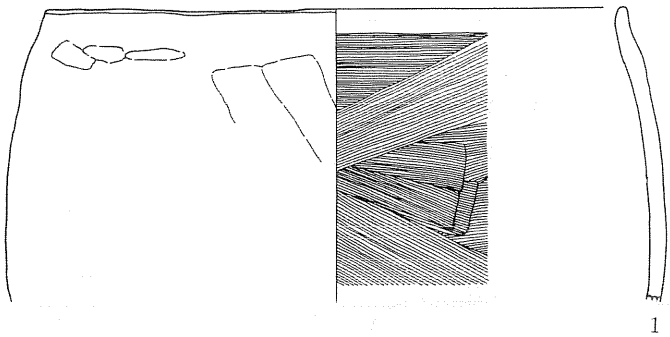
0　2 m

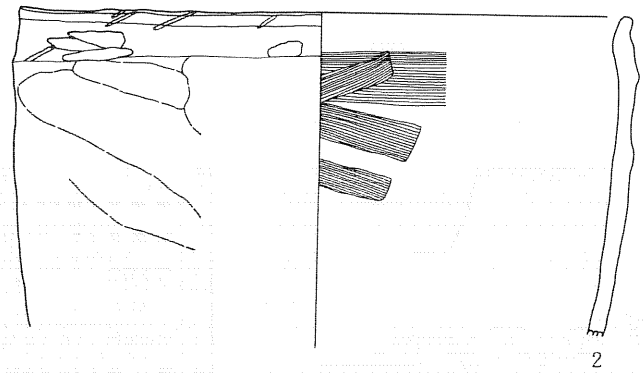
第15図　S I 003・4・5竪穴住居跡実測図

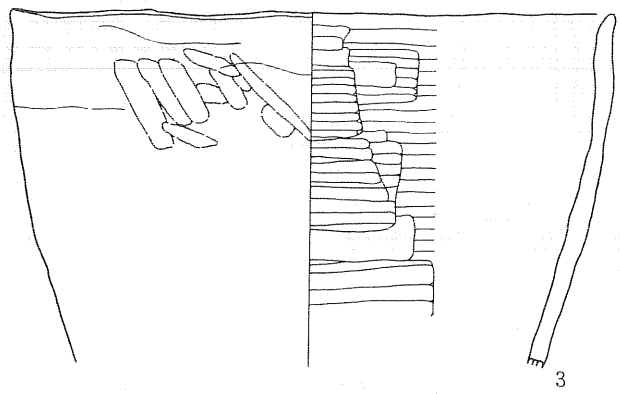


層	土　　色	備　　考
1	黒 褐 色（10 YR 2/2）	粘性弱、浮石混入
2	明 褐 色（7.5 YR 5/6）	焼　土
3	暗赤褐色（5 YR 3/6）	焼　土
4	赤 褐 色（5 YR 4/8）	粘性弱、焼土
5	明赤褐色（2.5 YR 5/8）	粘性弱、焼土
6	黒　　色（7.5 YR 2/1）	
7	黒 褐 色（7.5 YR 2/2）	
8	暗 褐 色（7.5 YR 3/4）	粘性弱
9	暗 褐 色（10 YR 3/4）	
10	明赤褐色（5 YR 5/6）	黄褐色地山土混入
11	褐　　色（7.5 YR 4/6）	砂質
12	明 褐 色（7.5 YR 5/6）	焼土混入

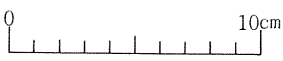
第16図　ＳＩ００５竪穴住居跡カマド実測図







第17図　ＳＩ003竪穴住居跡出土遺物実測図



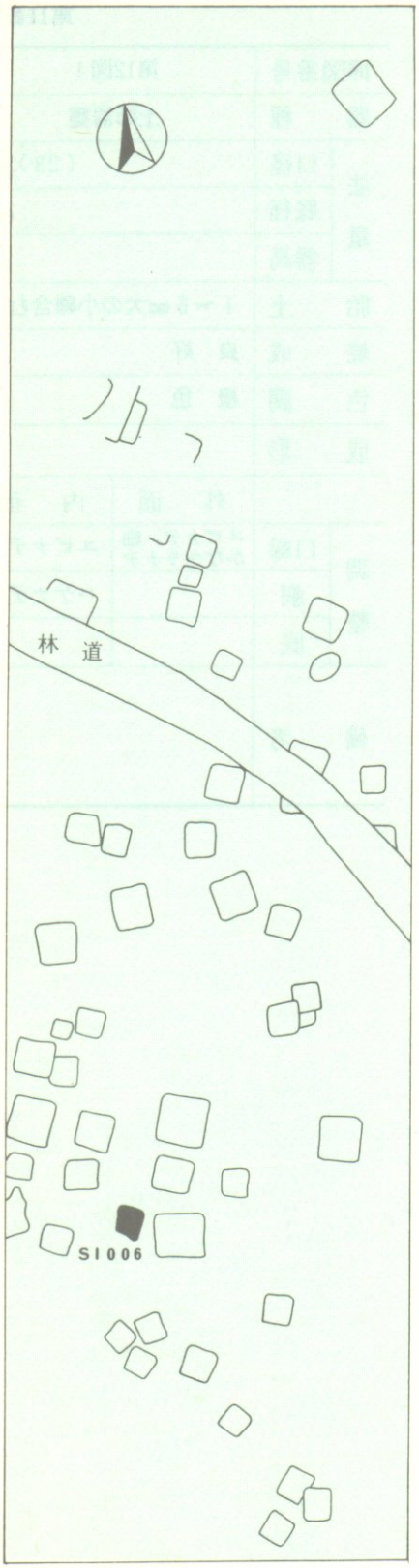
第11表　ＳＩ003出土遺物観察表

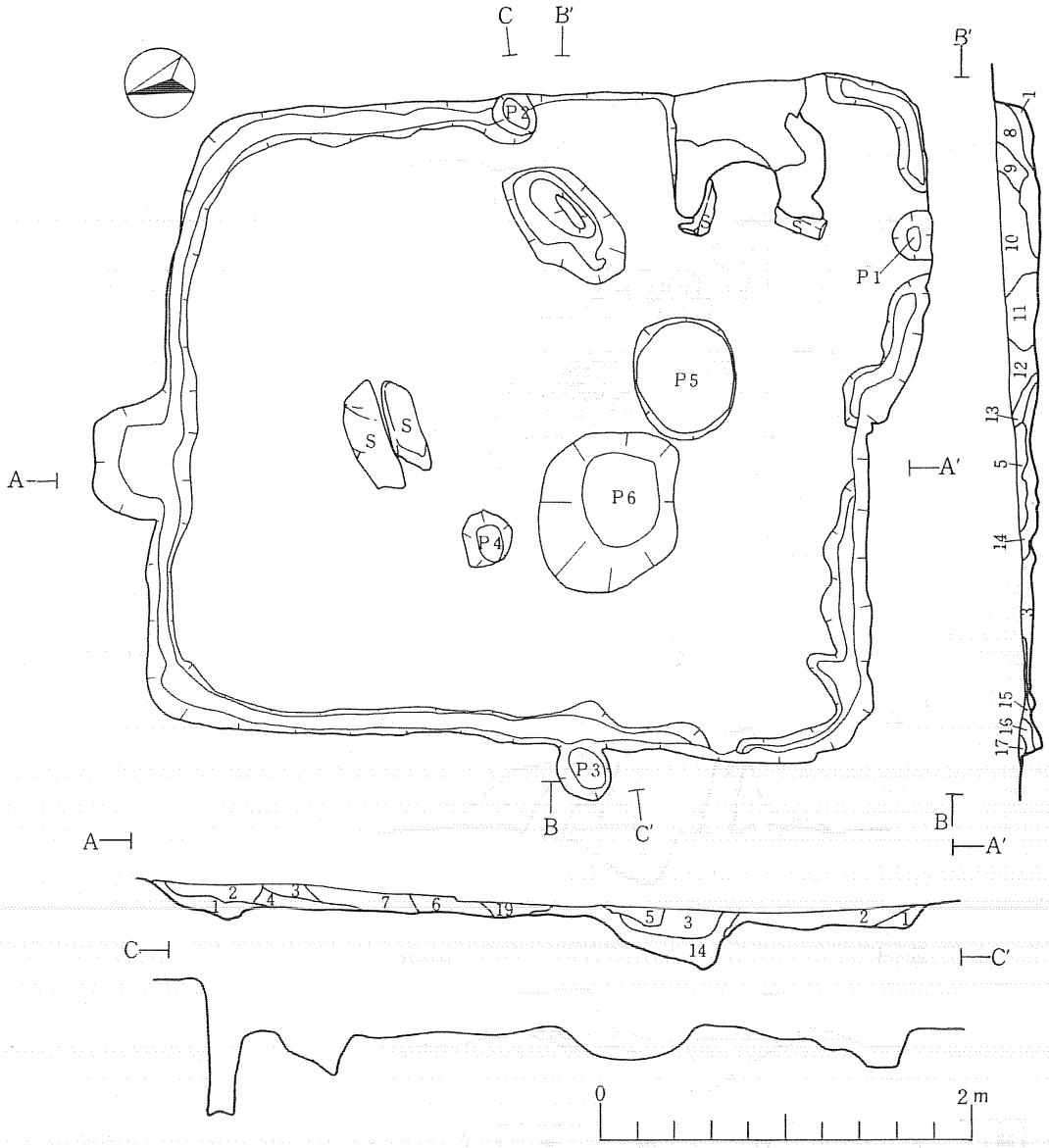
挿図番号		第12図1		第12図2		第12図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	(23)cm		(24)cm		(24)cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		1～5㎜大の小礫含む		1～5㎜大の礫含む		1～5㎜大の礫含む	
焼成		良好		良好		良好	
色調		橙色		橙色		明赤褐色	
成形						粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ、細かなヘラナデ	ユビナデ	ユビナデ、細かなヘラナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴		ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底						
備考							

第12表　SI 006竪穴住居跡観察表

挿図		18			
図版		7、8			
形態		方形			
主軸方向		N－14°－E			
法量	面積	14.1 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	390 cm	385 cm	360 cm	325 cm
	壁高	12～18cm	4～9 cm	6～20cm	12～18cm
	壁溝幅	13～20cm	11～17cm	7～27cm	12～18cm
	壁溝深	2～8 cm	2～9 cm	4～9 cm	2～9 cm

確認	地山面で確認された。
壁	床面よりほぼ垂直に立ち上がる、しっかりとしたつくりである。 地山が西側に傾斜するため西壁は低い。
壁溝	ほぼ同一幅・深さで、カマド部を除き断続的に一巡する。
ピット	P 1 (20) P 2 (27) P 3 (21) P 4 (44) P 5 (25) P 6 (16)(単位cm) 柱穴は確認できなかった。
床面	西側に傾斜しており、緩やかな凹凸を示し、堅くしまっている。
カマド	東壁南寄りに位置し、残存状態は良好である。袖は芯材として石を使用し、粘土を貼り付けている。天井は崩壊している。煙道は壁とともに立ち上がり、燃焼部ほぼ中央に支脚と思われる石が存在する。
遺物	土師器
備考	南壁中央から東側は90×30cmの幅で張り出しており、カマド使用による拡張であろう。 北壁の中央より西側に65×35cmほどの張り出しがみられる。

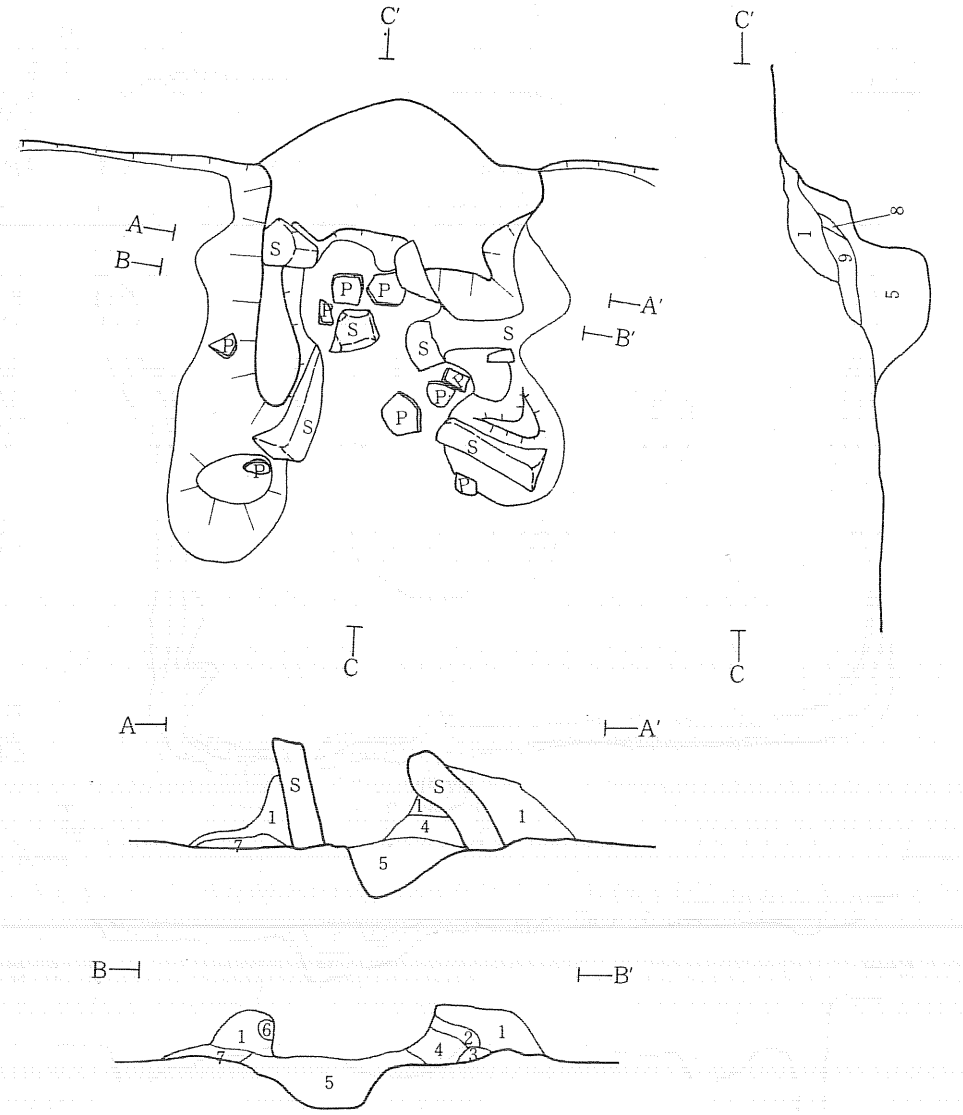




層	土色	備考
1	黒褐色（7.5 YR 3/2）	
2	黒褐色（10 YR 3/2）	明黄褐色土混入
3	黒　色（7.5 YR 2/1）	黄橙色土混入
4	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性弱、黄橙色土混入
5	黒褐色（10 YR 3/2）	褐色土混入
6	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱
7	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱
8	黒褐色（10 YR 3/3）	明黄褐色土混入
9	黒褐色（7.5 YR 3/2）	

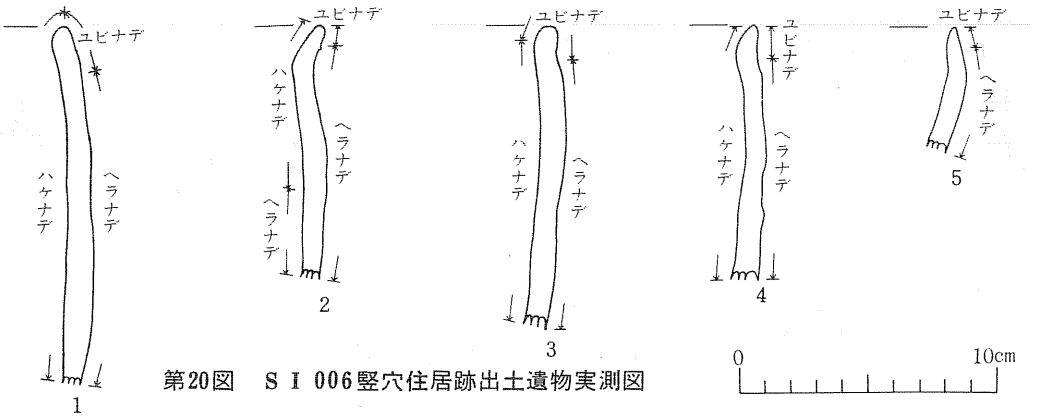
層	土色	備考
10	黒　色（10 YR 2/1）	粘性弱、炭化物混入
11	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性弱、炭化物混入
12	黒　色（7.5 YR 2/1）	
13	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性弱
14	黒褐色（10 YR 3/3）	炭化物、明黄褐色土混入
15	黒褐色（10 YR 3/2）	黄橙色土混入
16	暗褐色（7.5 YR 3/3）	
17	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性弱

第18図　ＳＩ006竪穴住居跡実測図



層	土　　色	備　　考
1	明褐色（7.5 YR 5/6）	焼土、黒色土混入
2	黒　色（7.5 YR 2/1）	
3	明黄褐色（10 YR 6/6）	黒褐色土混入
4	褐　色（7.5 YR 4/6）	黒褐色土混入
5	黒褐色（7.5 YR 3/2）	
6	赤褐色（5 YR 4/8）	焼土
7	明褐色（7.5 YR 5/6）	黒褐色土混入
8	暗褐色（7.5 YR 3/4）	
9	黄褐色（10 YR 5/6）	黒色土混入

第19図　ＳＩ006竪穴住居跡カマド実測図



第20図　ＳＩ００６竪穴住居跡出土遺物実測図

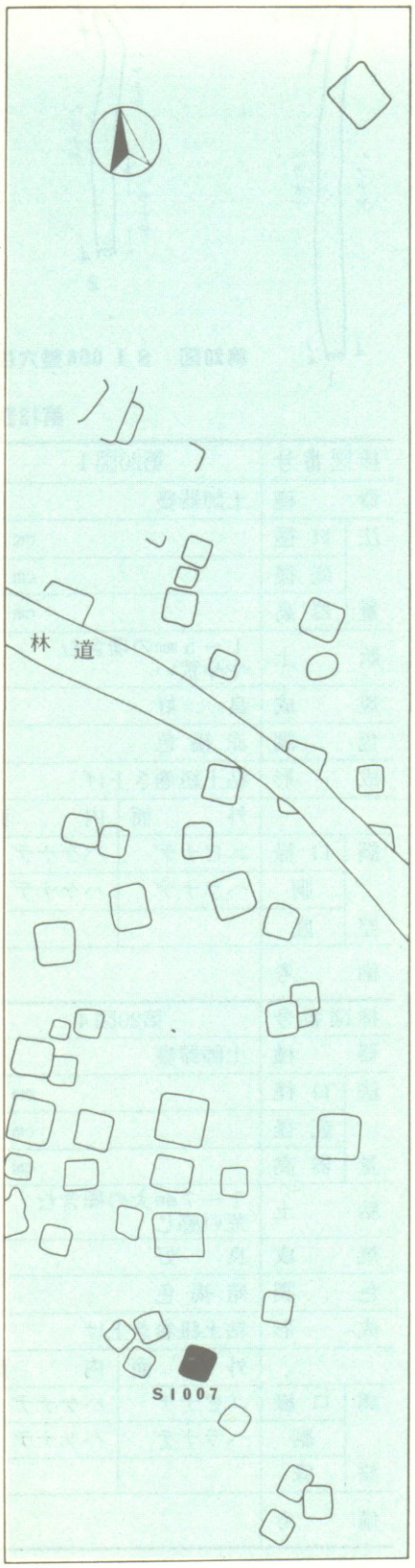
第13表　SI 006出土遺物観察表

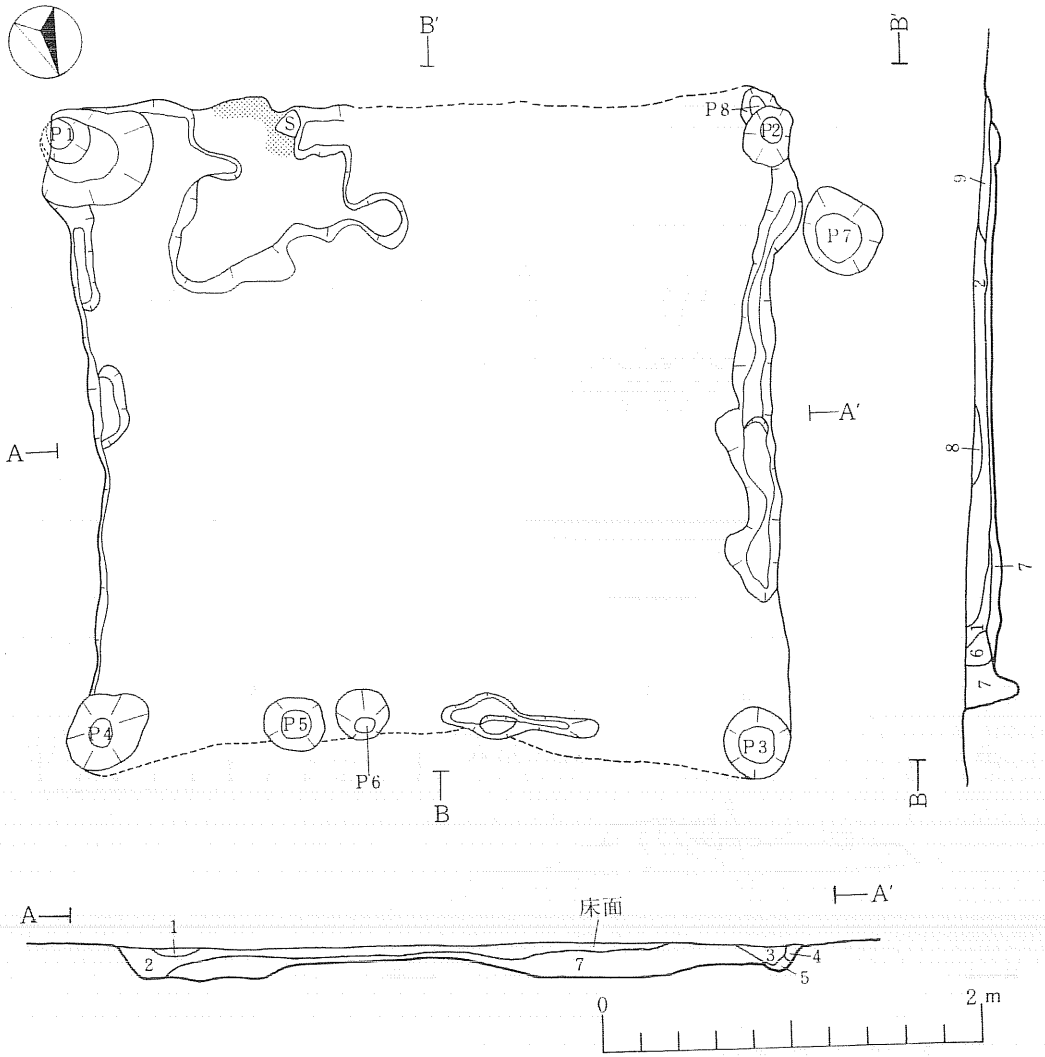
挿図番号		第20図1		第20図2		第20図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		1～5㎜の礫含む やや荒い		1～6㎜大の礫を含む 全体的に細かい		1～5㎜大の礫含む 荒い感じ	
焼成		良好		良好		良好	
色調		赤褐色		暗褐色		褐色	
成形		粘土紐巻き上げ				粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ハケナデ	ユビナデ	ハケナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底						
備考							

挿図番号		第20図4		第20図5	
器種		土師器甕		土師器甕？	
法量	口径	cm		cm	
	底径	cm		cm	
	器高	cm		cm	
胎土		1～7㎜大の礫含む 荒い感じ		1～5㎜大の礫含む	
焼成		良好		良好	
色調		暗褐色		明赤褐色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ハケナデ	ユビナデ ヘラナデ	
	胴	ヘラナデ	ハケナデ		
	底				
備考				内面に炭化物付着	

第14表　SI 007竪穴住居跡観察表

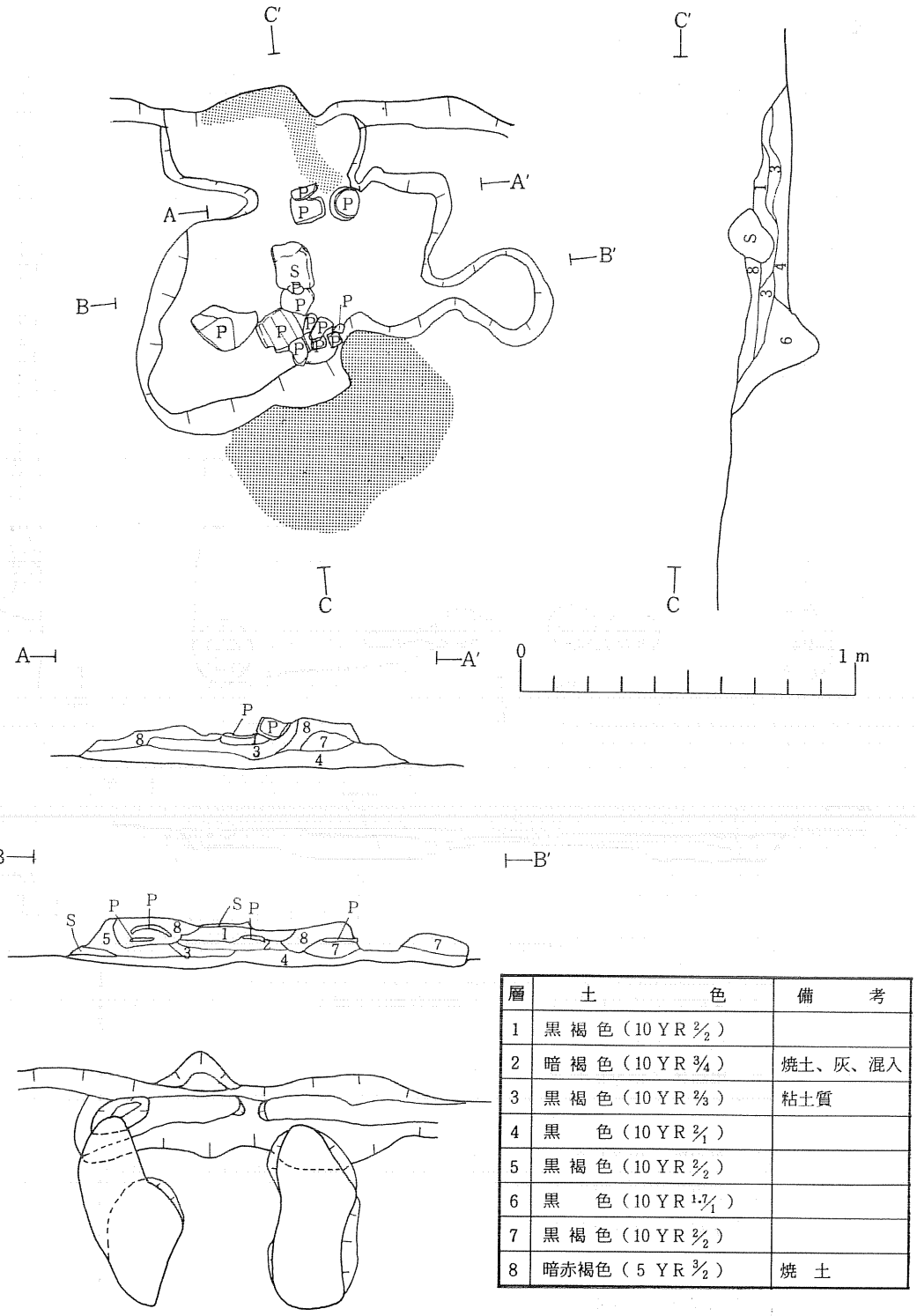
挿図		21			
図版		9			
形態		方形			
主軸方向		N－29.5°－E			
法量	面積	19.0 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	370 cm	350 cm	390 cm	380 cm
	壁高	16～20cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝幅	10～20cm	11～30cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	4～6 cm	4～15cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		東壁のみが残存する。全体が住居内部に幾分内湾している。			
壁溝		西壁に最も良好に検出されたが東壁・北壁はその一部らしいものが痕跡的に残っているだけである。			
ピット		P 1 (58) P 2 (25) P 3 (22) P 4 (38) P 5 (12) P 6 (23) P 7 (14) P 8 (15) （単位cm） 8個検出されているが、各コーナーのピットが柱穴であろう。			
床面		貼り床で全体にほぼ平坦であるが、西にわずかに傾斜している。			
カマド		南壁中央部に粘土を用いて構築されている。両袖は残存状態が良く、土師器甕下半部が両袖間より出土した。			
遺物		土師器			
備考		——			





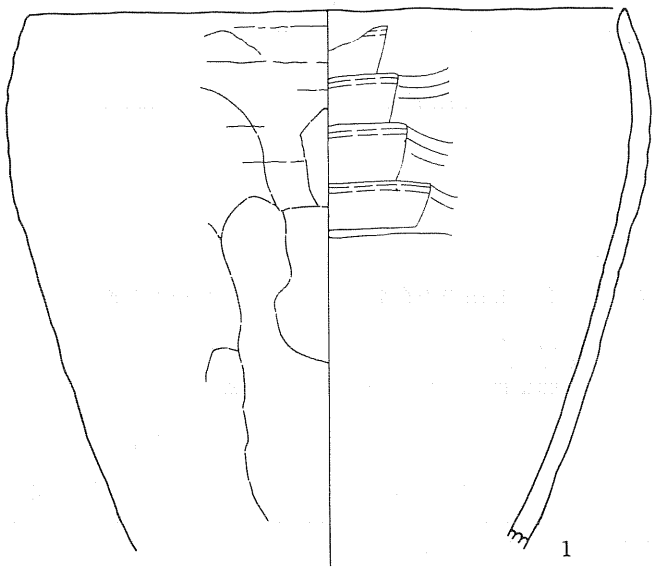
層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 2/2）	黄褐色地山土混入
2	黒褐色（10 YR 2/3）	
3	黒褐色（10 YR 3/1）	
4	暗褐色（10 YR 3/4）	
5	黄褐色（10 YR 5/8）	
6	黒褐色（10 YR 2/2）	
7	暗褐色（10 YR 3/4）	貼床
8	暗褐色（10 YR 3/4）	
9	黒褐色（10 YR 2/2）	

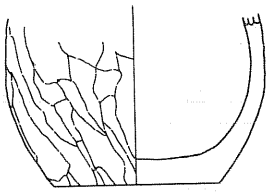
第21図　ＳＩ007竪穴住居跡実測図

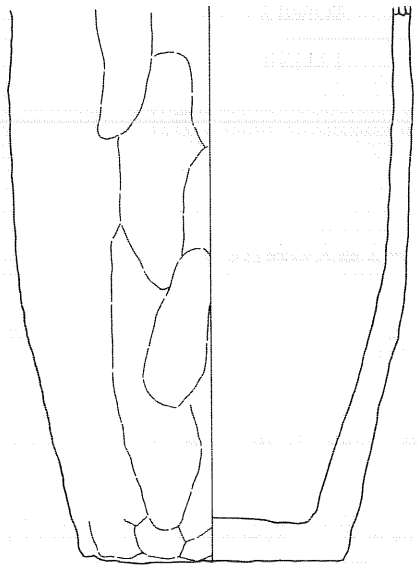


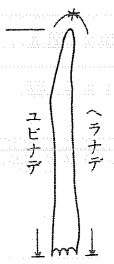
層	土　　色	備　　考
1	黒 褐 色（10 Y R 2/2）	
2	暗 褐 色（10 Y R 3/4）	焼土、灰、混入
3	黒 褐 色（10 Y R 2/3）	粘土質
4	黒　　色（10 Y R 2/1）	
5	黒 褐 色（10 Y R 2/2）	
6	黒　　色（10 Y R 1.7/1）	
7	黒 褐 色（10 Y R 2/2）	
8	暗赤褐色（5 Y R 3/2）	焼　土

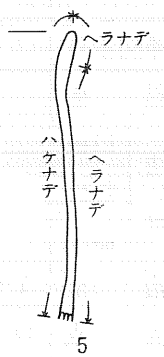
第22図　S I 007竪穴住居跡カマド実測図

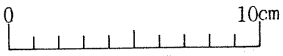












第23図　ＳＩ007竪穴住居跡出土遺物実測図

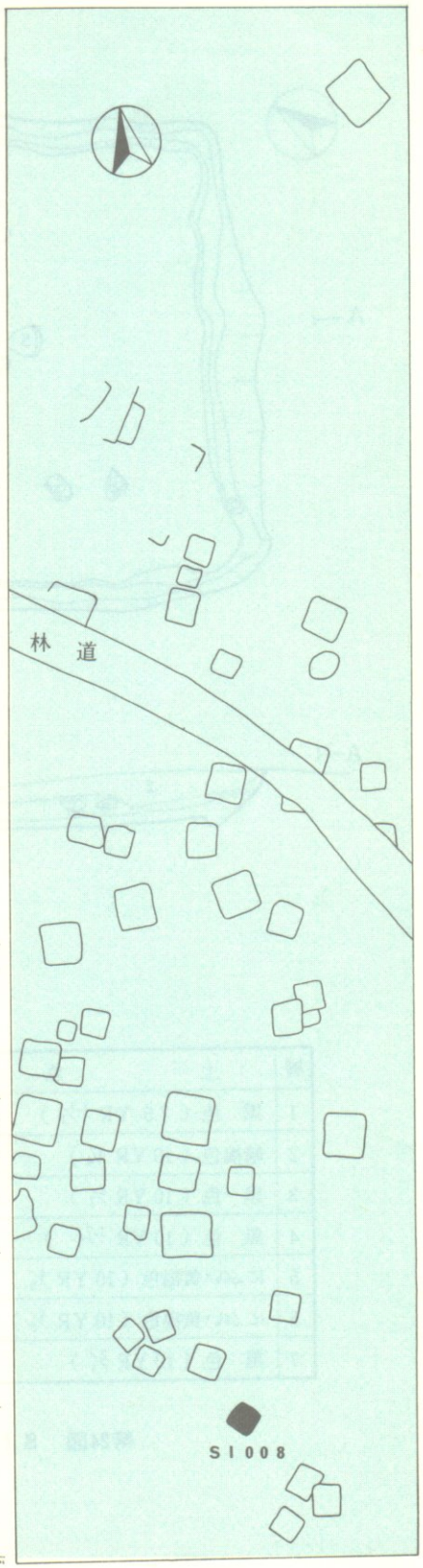
第15表　ＳＩ007出土遺物観察表

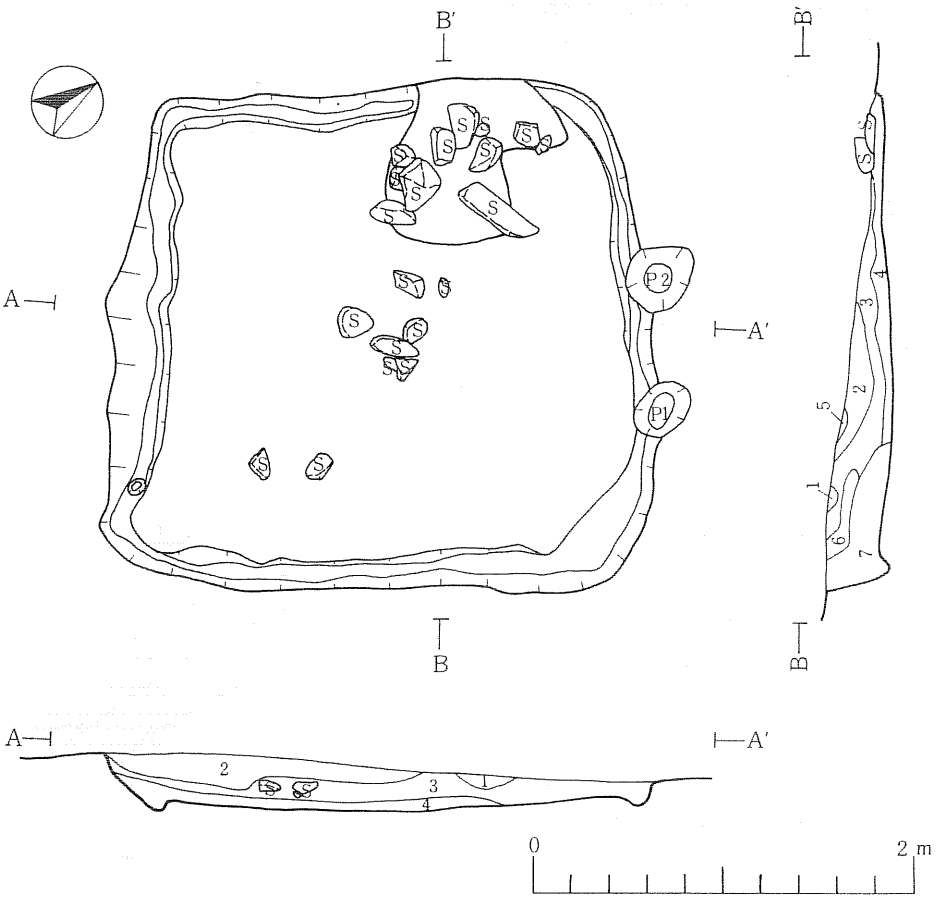
挿図番号		第23図1		第23図2		第23図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	(24)cm		cm		cm	
	底径	cm		6.4、6.6 cm		(10.5)cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		3～5㎜の小石を含む		3～5㎜の小石混入		1～5㎜大の礫含む	
焼成		良好		良好		良好	
色調		内外とも褐色		明褐色ないしにぶい褐色		赤褐色	
成形						粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ				
	胴	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ	
	底			ヘラナデ	ユビナデ	ヘラケズリ	
備考				底面木葉痕、ヘラナデ		底面小礫付着	

挿図番号		第23図4		第25図5	
器種		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm	
	底径	cm		cm	
	器高	cm		cm	
胎土		1～5㎜大の礫含む		1～2㎜大の礫含む	
焼成		良好		良好	
色調		明赤褐色		灰褐色	
成形		粘土紐巻き上げ			
		外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	胴	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底				
備考					

第16表　SI 008竪穴住居跡観察表

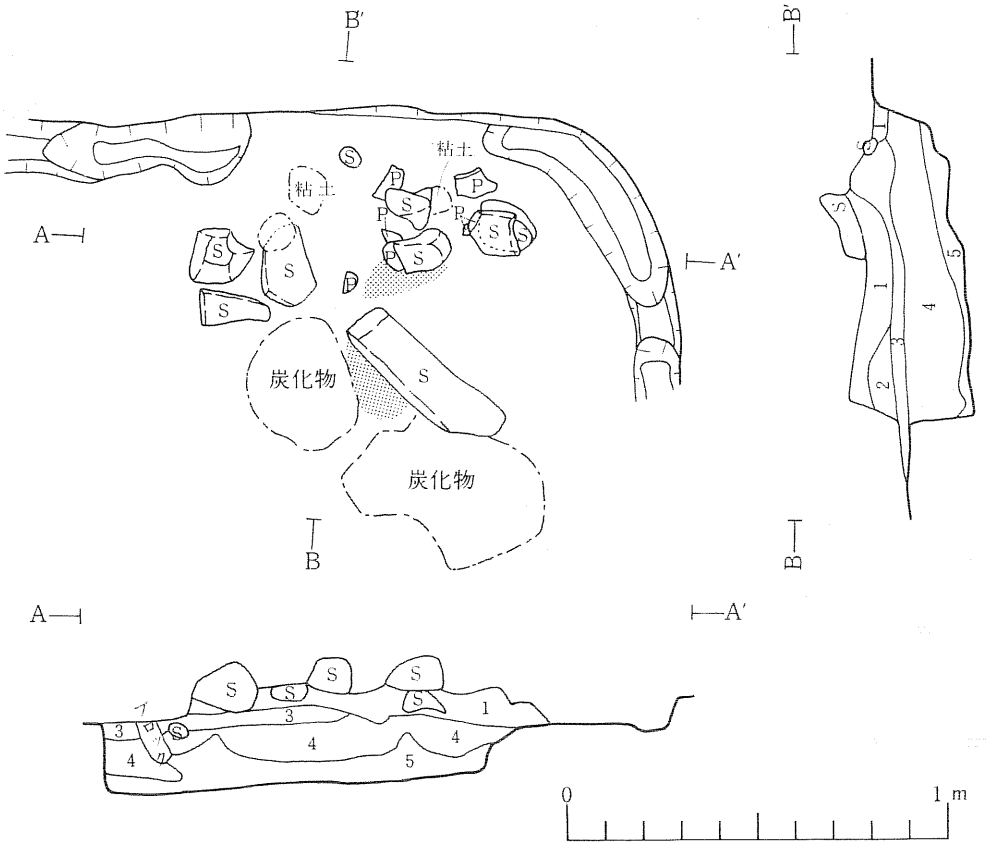
挿図		24			
図版		10			
形態		方形			
主軸方向		N－38.5°－E			
法量	面積	7.2 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	281 cm	235 cm	—— cm	—— cm
	壁高	23～33cm	10～14cm	—— cm	—— cm
	壁溝幅	10～26cm	10～18cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	4 ～ 6 cm	7 ～10cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		西壁、北壁は掘り込みが浅く、壁は低いが、床面よりほぼ垂直に立ち上がる。南壁はやや緩やかである。			
壁溝		カマド部分を除き一巡する。			
ピット		P 1 (21) P 2 (26) (単位cm) 柱穴は確認できなかった。			
床面		地山を使用している。中央部が若干凹んでいる。			
カマド		西壁北寄りに位置しているが、残存状態は悪く、焼土のみ確認された。カマド付近に袖、天井として使用されたと思われる石が10数個存在した。			
遺物		土師器			
備考		————			





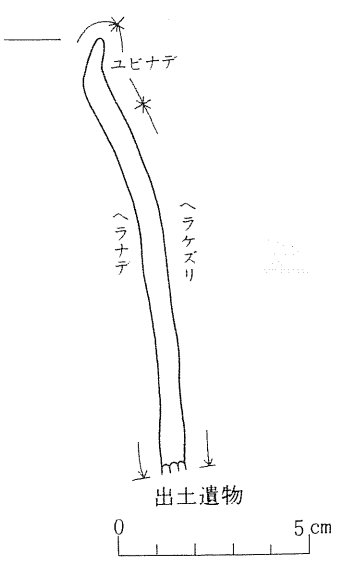
層	土　　色	備　　考
1	黒　色（7.5 YR 1.7/1）	黄褐色地山土混入
2	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性弱
3	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強、黄褐色地山土多量に混入
4	黒　色（10 YR 1.7/1　）	
5	にぶい黄褐色（10 YR 4/3）	黒褐色土混入
6	にぶい黄褐色（10 YR 4/3）	小礫混入
7	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強

第24図　ＳＩ００８竪穴住居跡実測図



層	土色	備考
1	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性弱、炭化物混入
2	黒色（7.5 YR 1.7/1）	粘性弱、炭化物混入
3	にぶい褐色（7.5 YR 3/4）	粘性弱、炭化物混入
4	褐色（7.5 YR 4/4）	粘性弱
5	明褐色（7.5 YR 5/6）	粘性弱

第25図
SI 008竪穴住居跡カマド実測図



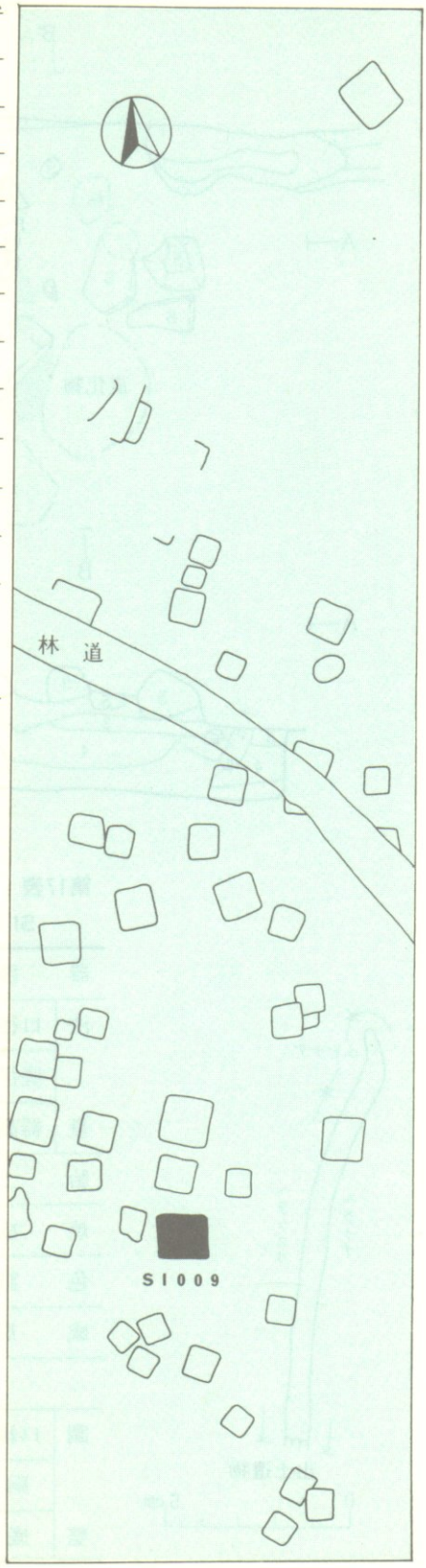
第17表
SI 008出土遺物観察表

器種		土師器甕	
法量	口径	cm	
	底径	cm	
	器高	cm	
胎土		幾分砂粒が多い	
焼成		良好	
色調		にぶい赤褐色	
成形			
		外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラケズリ	ヘラナデ
	底		

第18表　SI 009 A竪穴住居跡観察表

挿図		26			
図版		11、12			
形態		方形			
主軸方向		N－10.0°－W			
法量	面積	33.1 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	595 cm	584 cm	570 cm	570 cm
	壁高	—— cm	19～38cm	17～47cm	28～51cm
	壁溝幅	4～20cm	10～50cm	14～22cm	4～20cm
	壁溝深	6～23cm	—— cm	5～22cm	6～27cm

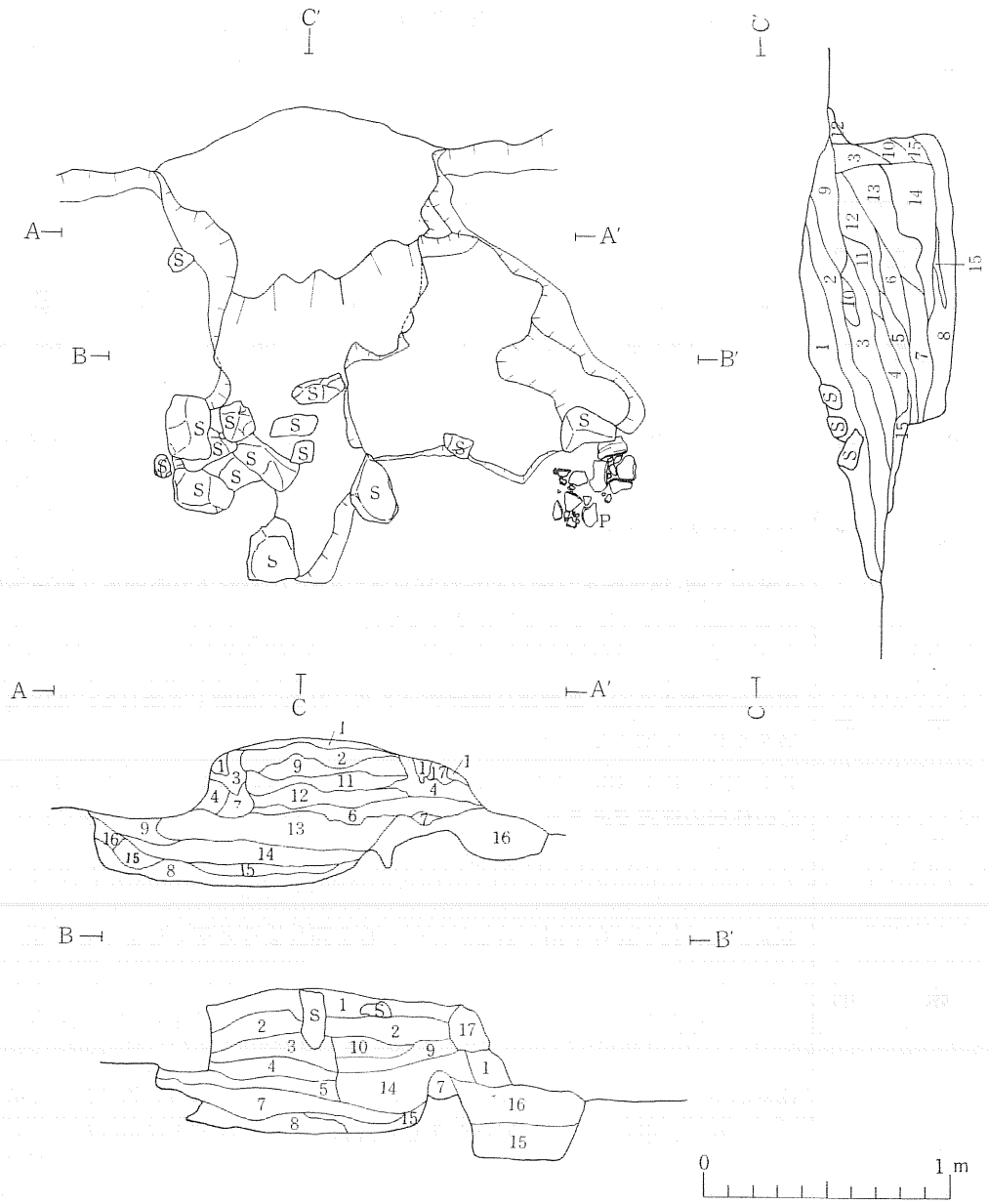
確認	地山面で確認された。
壁	東壁は拡張の際に破壊されて存在しないが、他の壁ともほぼ垂直に立ち上がる。
壁溝	四壁に存在するが、東壁溝は拡張の際に若干破壊されており、他より浅い。
ピット	P 2（　）P 3（　）P 5 (23) P 6 (30) P 7（　）P 8 (51) P 9（？）(単位cm) が柱穴であろう。
床面	貼床が施され、ほぼ平坦である。
カマド	南壁東寄りに位置するもので、残存状態は非常に悪い。わずかに、燃焼部の焼土が確認できたにすぎない。
遺物	土師器、砥石 1
備考	SI 009 A及びSK 020と重複する。新旧関係はSI 009 A→SI 009 B→SK 020である。



第19表　SI 009B　竪穴住居跡観察表

挿図		26			
図版		11、12			
形態		方形			
主軸方向		N—10.0°—W			
法量	面積	39.7 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	580 cm	584 cm	664 cm	682 cm
	壁高	48～62cm	19～38cm	17～47cm	38～51cm
	壁溝幅	4～10cm	10～50cm	14～22cm	4～20cm
	壁溝深	6～23cm	cm	5～22cm	6～27cm

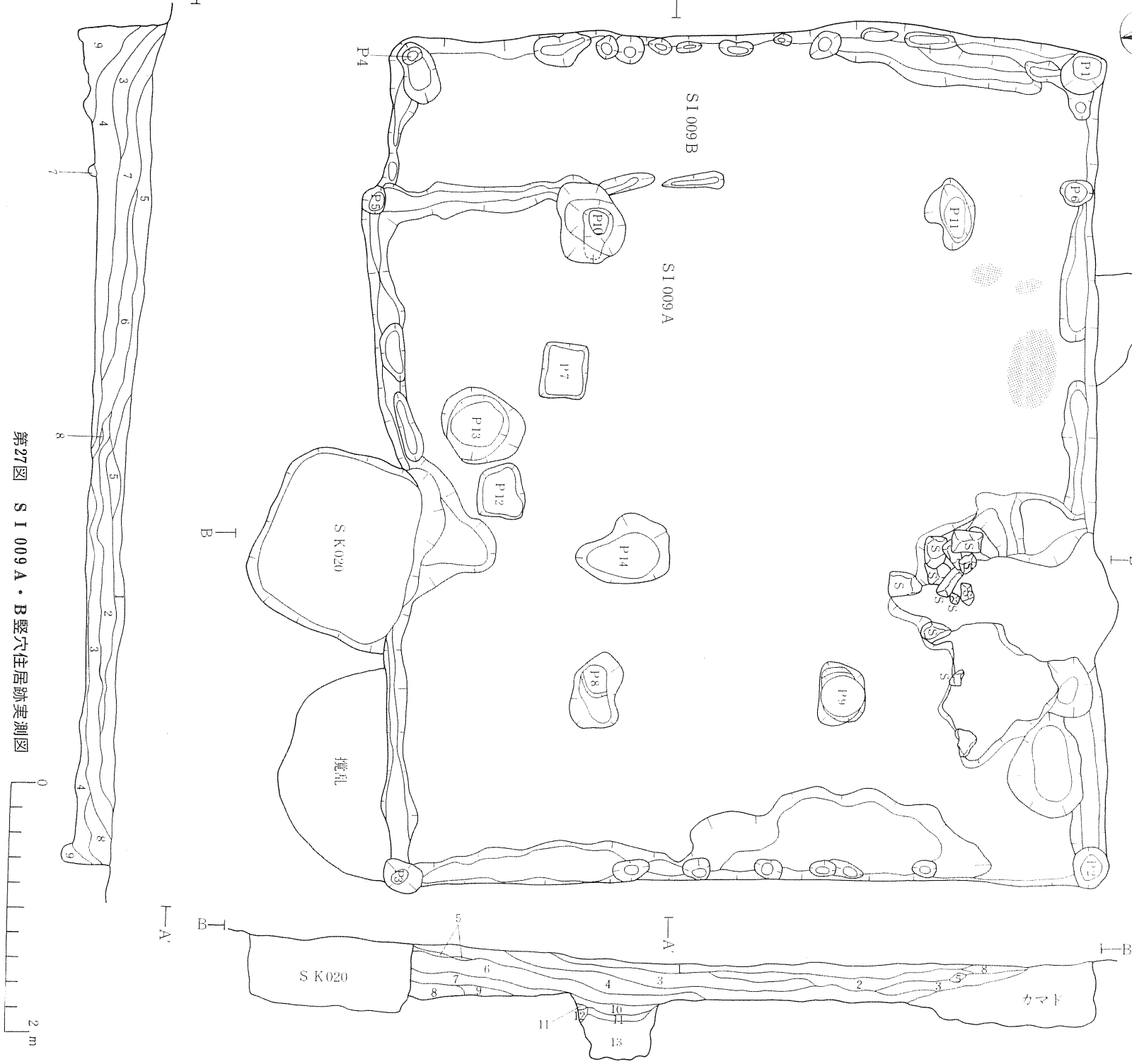
確認	地山面で確認された。
壁	北壁は土壙、撹乱により部分的に存在しないが、いずれの壁も床面よりほぼ垂直に立ち上がりしっかりとした作りである。
壁溝	四壁に存在するが、東壁溝は継続的である。なお、南壁・北壁はSI 009 Aの溝を延長して使用している。
ピット	P1（23）P4（37）P10（37）P11（？）（単位cm）及びP2・3・8・9がこの住居の柱穴であろう。
床面	貼床が施されており平坦である。カマドBを囲むように堅くしまっている。
カマド	南壁西寄りに位置する。残存状態は悪い。袖、天井などは石を芯材として構築されたものと思われるが、崩壊が著しく確認することはできなかった。
遺物	————
備考	SI 009 Aを拡張したものである。 北壁中央部にSK 020が重複する。 SK 020西側の土壙は後世の撹乱である。



層	土色	備考
1	にぶい黄橙色（10YR 7/4）	粘性強
2	暗赤褐色（5YR 3/3）	粘性強、焼土混入
3	にぶい橙色（7.5YR 7/4）	粘性強、炭化物混入
4	明赤褐色（2.5YR 5/6）	焼土
5	黒褐色（10YR 2/2）	粘性強
6	暗褐色（10YR 3/4）	黄褐色地山土混入
7	黒色（10YR 2/1）	
8	暗褐色（10YR 3/4）	
9	黒褐色（10YR 2/2）	

層	土色	備考
10	暗褐色（10YR 3/4）	粘性強
11	にぶい黄褐色（10YR 5/3）	粘性強
12	にぶい黄褐色（10YR 5/3）	
13	黒色（10YR 2/1）	
14	にぶい黄褐色（10YR 5/3）	
15	暗褐色（10YR 3/4）	粘性強
16	黒色（10YR 2/1）	粘性強
17	灰黄褐色（10YR 6/2）	粘性強、粘土

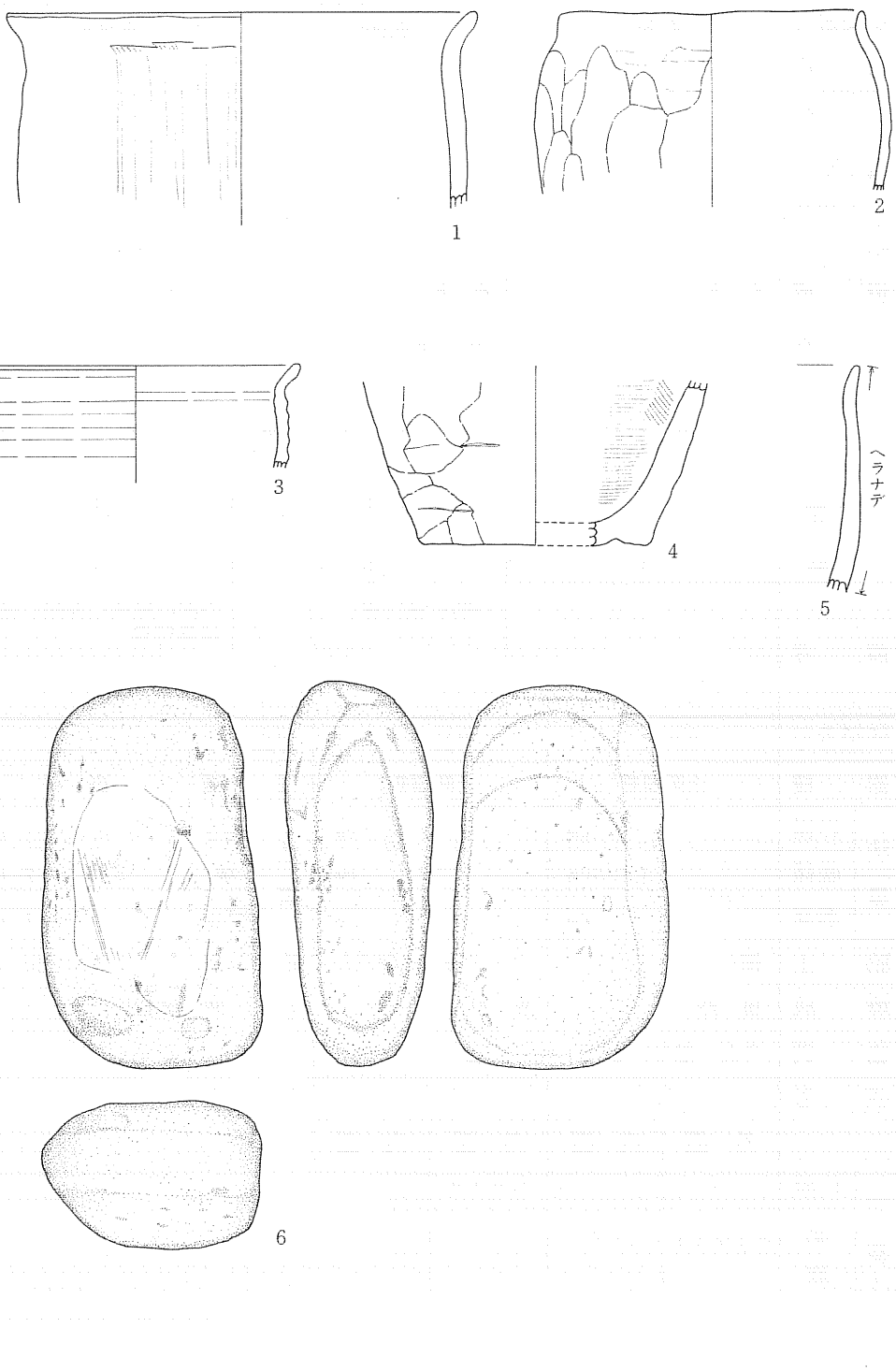
第26図　SI 009 A竪穴住居跡カマド実測図



第27図　S I 009A・B竪穴住居跡実測図

層	土　　色	備　　考
1	暗褐色（7.5 YR 3/4）	粘性強
2	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強、黄褐色地山土混入
3	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強
4	暗褐色（7.5 YR 3/3）	粘性強
5	黒褐色（10 YR 2/2）	浮石、炭化物混入
6	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱、砂、礫混入
7	暗褐色（7.5 YR 3/4）	浮石、黄褐色地山土混入

層	土　　色	備　　考
8	暗褐色（7.5 YR 3/3）	浮石混入
9	暗褐色（10 YR 3/3）	浮石混入
10	黒褐色（10 YR 2/2）	
11	明黄褐色（10 YR 7/6）	黄褐色地山土混入
12	黒褐色（7.5 YR 3/1）	
13	暗褐色（10 YR 3/4）	



第28図　ＳＩ００９Ａ・Ｂ竪穴住居跡出土遺物実測図

0　10cm

第20表　ＳＩ009Ａ・Ｂ出土遺物観察表

挿図番号		第28図1		第28図2		第28図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	(20)cm		(13)cm		(14)cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		全体にやや荒い		細かいが5㎜大の小石が含まれている。		全体に細かい	
焼成		良　好		良　好		良　好	
色調		褐　色		外面　橙ないし明褐色 内面　褐灰色		にぶい橙色	
成形						ロクロ	
		外　面	内　面	外　面	内　面	外　面	内　面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ		
	胴	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ユビナデ		
	底						
備考				外面に煤付着		外面口縁部と裏面口縁部に煤付着	

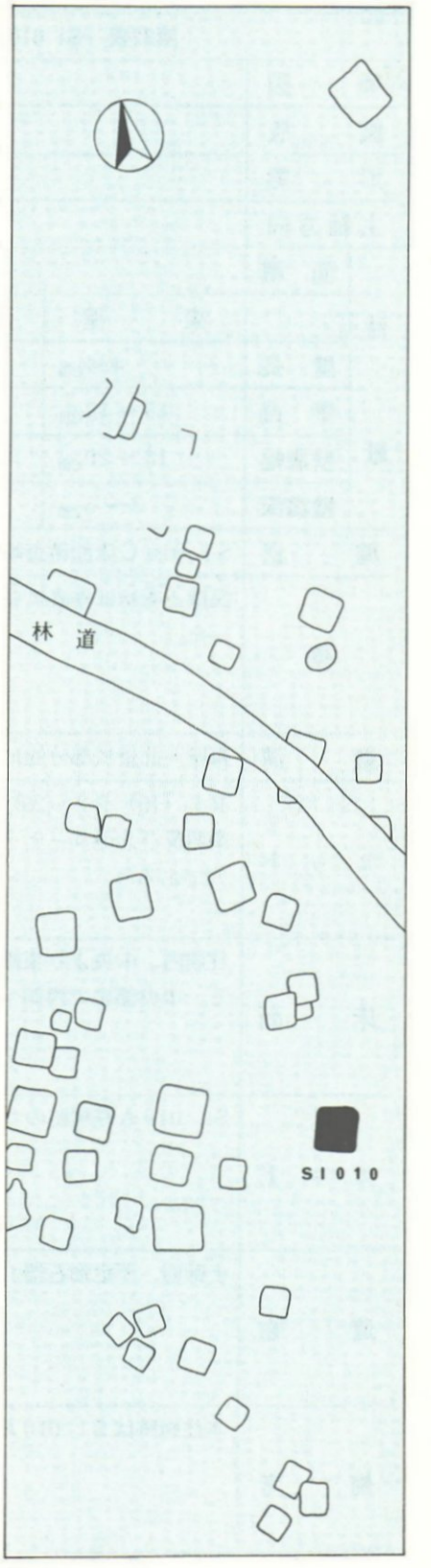
挿図番号		第28図4		第28図5	
器種		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm	
	底径	(10)cm		cm	
	器高	cm		cm	
胎土		細かい		1～3㎜大の礫含む	
焼成		良　好		良　好	
色調		外面　橙ないし灰色		赤褐色	
成形					
		外　面	内　面	外　面	内　面
調整	口縁			ヘラナデ	
	胴	ヘラナデ ヘラケズリ	ハケナデ		
	底				
備考					

挿図番号		第28図6
器種		砥石
法量	長さ	16.1 cm
	幅	9.2 cm
	厚さ	6.1 cm
重量		1,130 g
石質		流紋岩
備考		砥面1

第21表　SI 010A竪穴住居跡観察表

挿図		30			
図版		13、14			
形態		方形			
主軸方向		N－13.0°－E			
法量	面積	14.5 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	332 cm	346 cm	422 cm	424 cm
	壁高	10～14cm	4～12cm	1～17cm	12～19cm
	壁溝幅	10～19cm	—— cm	—— cm	12～20cm
	壁溝深	2～10cm	—— cm	—— cm	6～8 cm

確認	SI 010 B床面精査中に確認された。
壁	いずれも壁高は低いが、床面よりほぼ垂直に立ち上がる。
壁溝	東壁と北壁の一部に確認できた。
ピット	P 1 (21) P 2 (25) P 3 (6) P 4 (14) P 5 (50) P 6 (9) P 7 (22) （単位cm）本住居跡の柱穴らしいピットは確認されなかった。ピット5覆土上面に炭化物（植物）が3cm程の厚さで堆積していた。
床面	カマド付近とその前面は軟弱であるが、他の部分は堅くしまっている。
カマド	南壁西寄りに位置し、SI 010 B・C貼床と覆土により残存状態は良好である。袖は芯材として石を使用し、粘土を貼り付けたものと考えられるが、袖石はなく、その抜き取り痕が西側の袖に確認できた。また燃焼部中央にこぶし大の石が2個あり、その上に土師器底部が置かれていた。支脚として使用されたものであろう。
遺物	覆土内よりの出土は極めて少なく、カマド又は、その付近から土師器が出土している。
備考	本住居跡のカマドはSI 010 Bにも使用されたものと考えられる。C^{14}年代測定値 1180±85 yB.P.

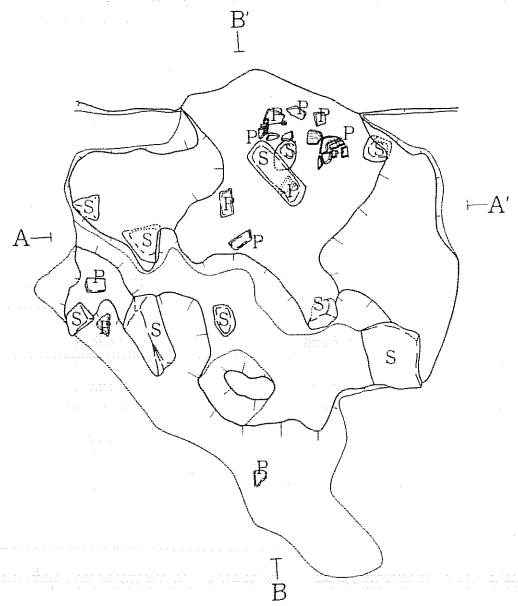


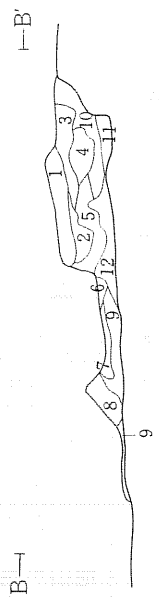
第22表　SI 010B　竪穴住居跡観察表

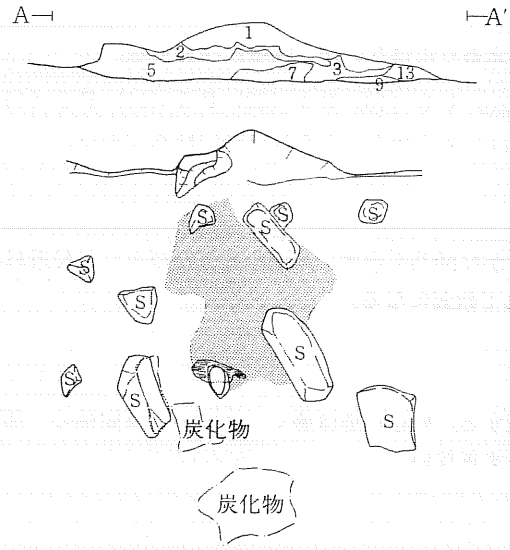
挿図		31			
図版		13、14			
形態		方形			
主軸方向		N－17.5°－E			
法量	面積	21.4 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	434 cm	425 cm	482 cm	532 cm
	壁高	15～18 cm	5～19 cm	5～15 cm	12～27 cm
	壁溝幅	13～20 cm	――― cm	――― cm	12～24 cm
	壁溝深	3～5 cm	――― cm	――― cm	2～4 cm
確認		SI 010C床面精査時に確認された。			
壁		四壁ともほぼ垂直に立ち上がる。南東壁と、北西コーナー部には確認できなかった。			
壁溝		東壁・北壁に部分的に存在する。			
ピット		P1（19）P2（25）P3（4）P4（29）P5（7）P6（10）（単位cm）南西及び北西コーナー部には検出できなかったが、P4・6が本住居跡の柱穴であろう。			
床面		住居内、中央より東側に貼床を施し、西側はSI 010Aの床面を使用している。中央部まで西側へ傾斜し、平坦になる。堅くしまっている。			
カマド		SI 010A住居跡のカマドをそのまま使用したものであろう。			
遺物		土師器、不定形石器1			
備考		本住居跡はSI 010A住居跡を増築したものである。			

第23表　SI 010C　竪穴住居跡観察表

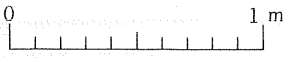
挿図		31			
図版		13、14			
形態		方形			
主軸方向		N－12.5°－E			
法量	面積	34.3㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	575cm	574cm	575cm	600cm
	壁高	29～31cm	8～13cm	13～27cm	20～21cm
	壁溝幅	6～45cm	17～25cm	27～30cm	7～38cm
	壁溝深	8～10cm	12～13cm	23～26cm	14～15cm
確認		地山面で確認された。			
壁		地山が西側へ傾斜するため西壁は低くなるが、その他の壁は床面よりほぼ垂直に立ち上がる。			
壁溝		カマド付近と東壁北寄りにはないが、四壁に存在する。			
ピット		P1（30）P2（25）P3（19）P4（33）P5（11）P6（16）P7（4）P8（22）（単位cm）P1～P4が本住居跡の柱穴である。			
床面		西側に傾斜し緩やかな凹凸を示す。床面中央部及びカマド付近は非常に堅いが壁に近づくにつれて軟弱になる。			
カマド		南壁東寄りに位置する。残存状態は悪く、わずかに東側袖の一部と燃焼部の焼土を確認できたにすぎない。			
遺物		土師器、穂摘み具1、鉄釘3			
備考		SI 010Bを増築したものである。			



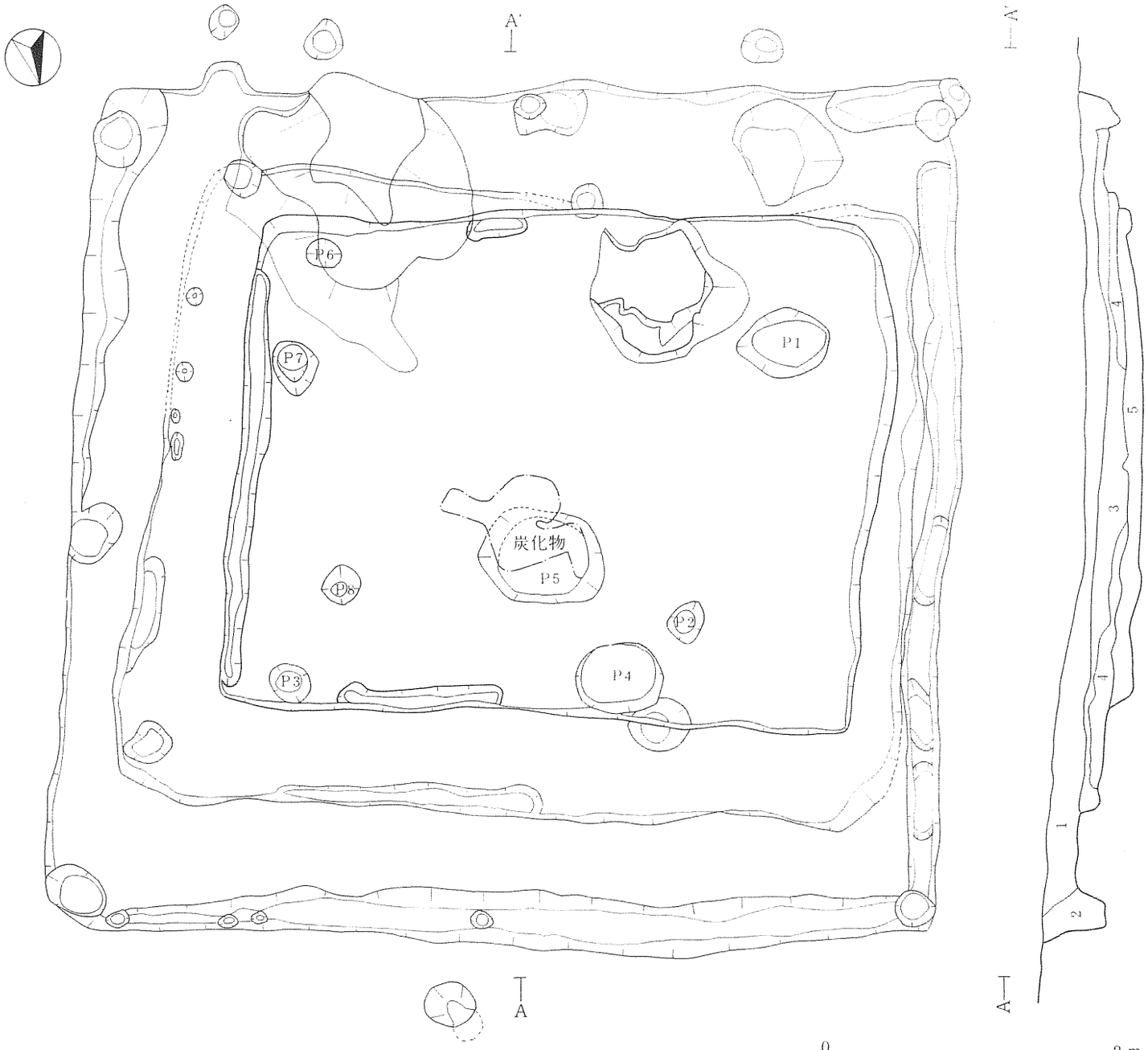




層	土　　色	備　考
1	褐　色（10 YR 4/6）	粘土
2	黒　色（10 YR 2/1）	
3	暗褐色（10 YR 3/4）	
4	黒褐色（10 YR 3/2）	
5	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性弱
6	黒褐色（10 YR 2/2）	
7	黒　色（10 YR 2/1）	
8	褐　色（10 YR 4/6）	
9	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱
10	暗褐色（10 YR 3/3）	
11	黒褐色（10 YR 2/2）	褐色土混入
12	赤褐色（2.5 YR 4/8）	焼　土
13	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性弱

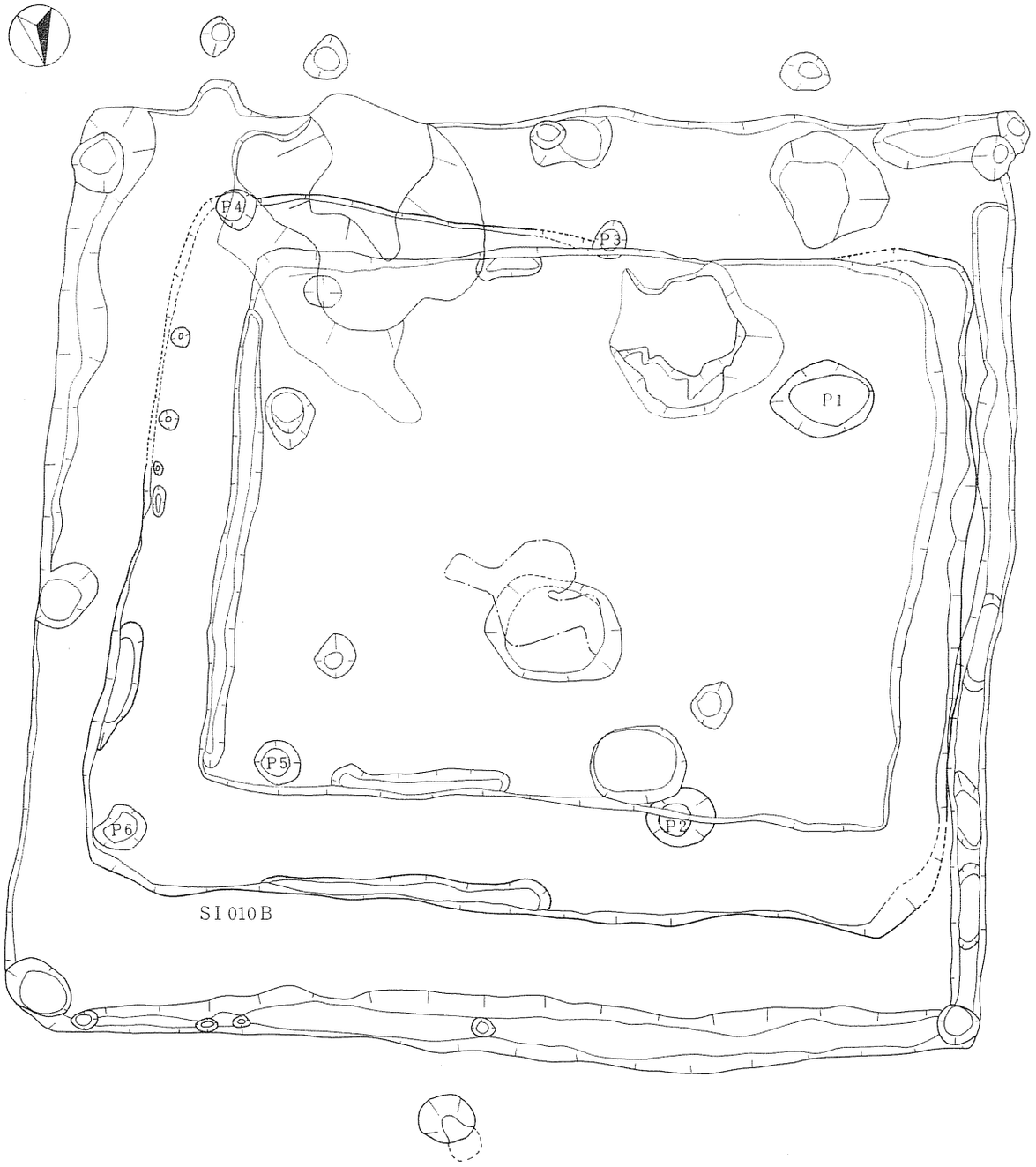


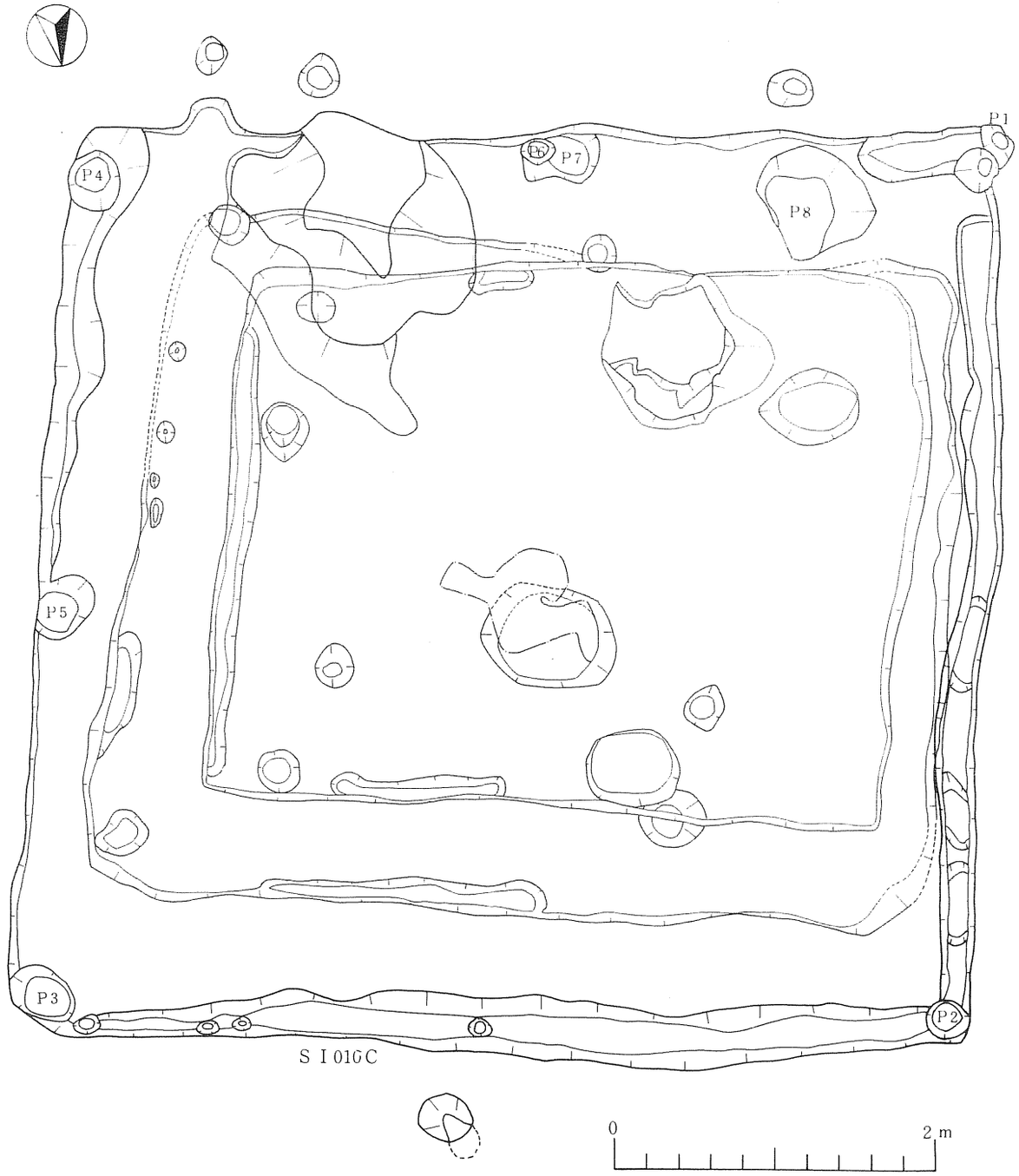
第29図　ＳＩ010Ａ・Ｂ竪穴住居跡カマド実測図



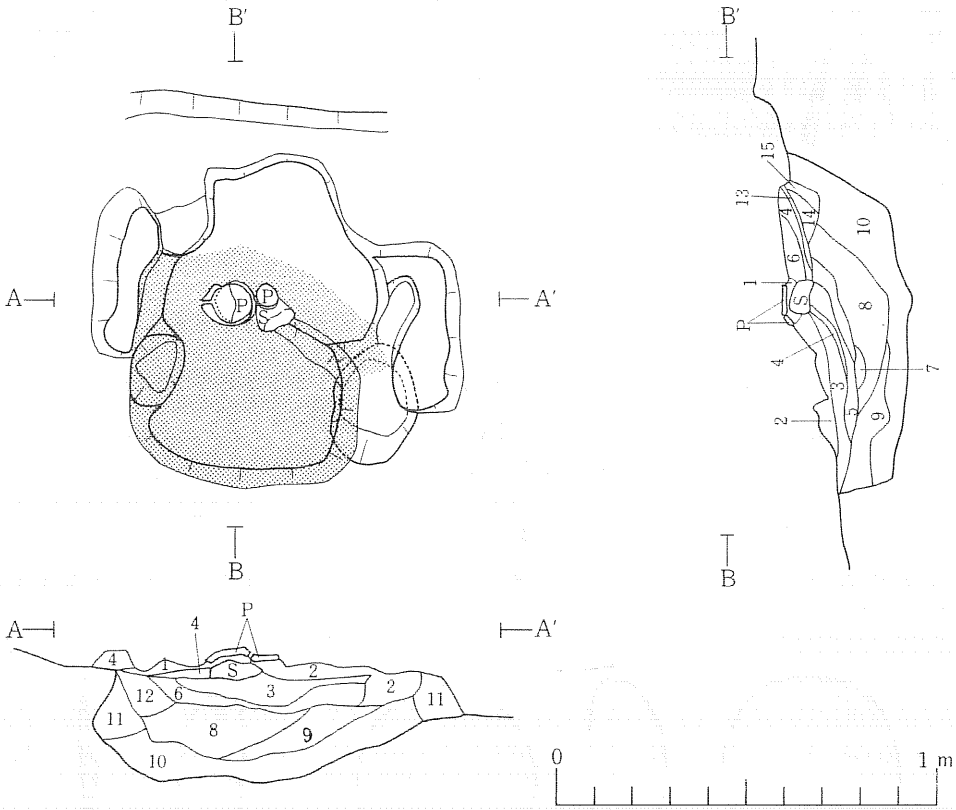
層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10YR 2/3）	黄褐色地山土混入
2	黒　色（10YR 2/1）	粘性弱
3	暗褐色（10YR 3/3） ＋明黄褐色（10YR 6/8）	SI 010 Cの貼床
4	黒褐色（10YR 2/2）	
5	暗褐色（10YR 3/3） ＋明黄褐色（10YR 6/8）	SI 010 Bの貼床

第30図　SI 010 A竪穴住居跡実測図





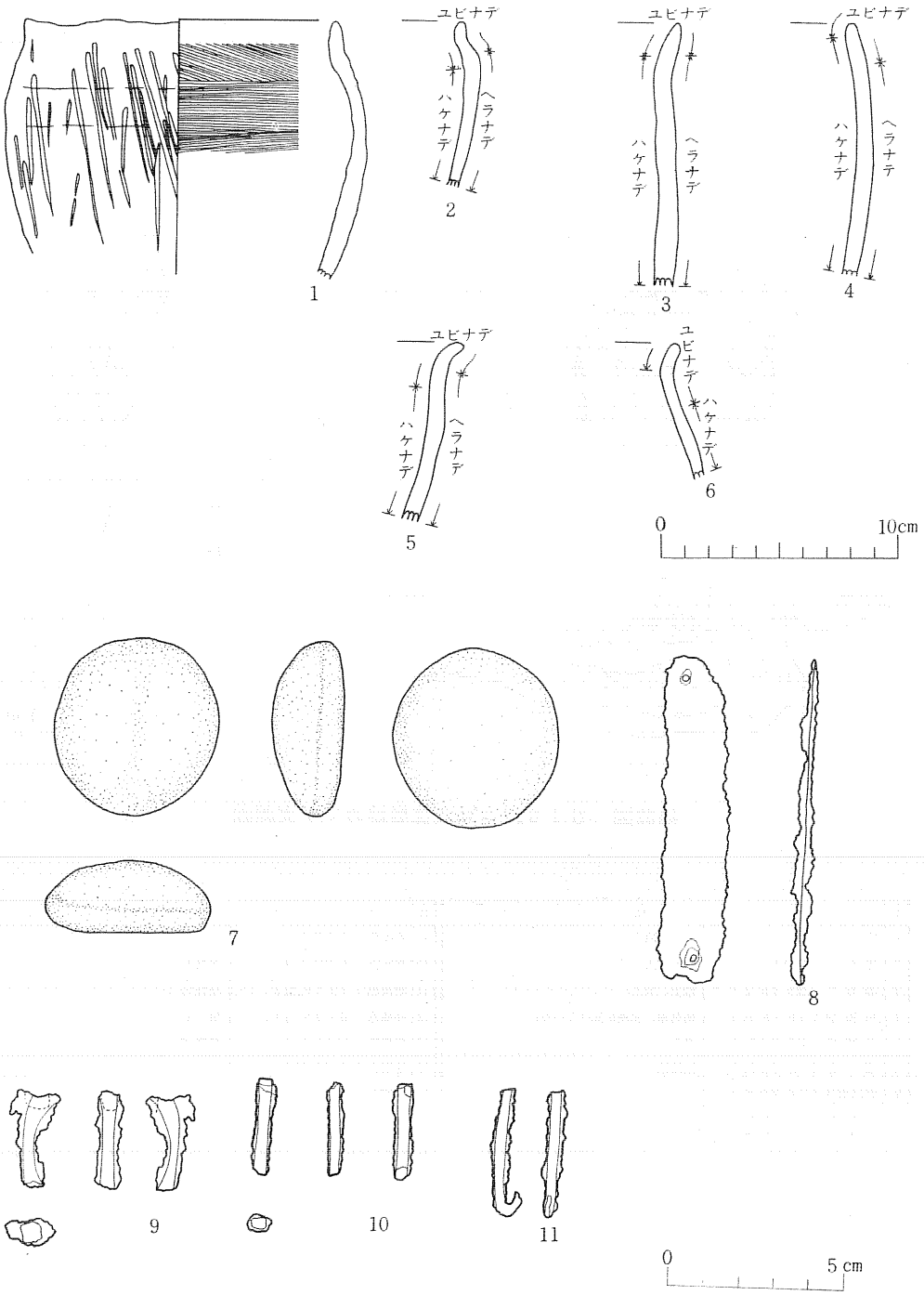
第31図　ＳＩ010Ｂ・Ｃ竪穴住居跡実測図



第32図　ＳＩ010Ｃ竪穴住居跡カマド実測図

層	土　　色	備　　考
1	暗赤褐色（2.5 YR 3/6）	粘土、焼土
2	黒 褐 色（10 YR 3/2）	焼土混入
3	赤 褐 色（2.5 YR 3/8）	粘土、焼土
4	明 褐 色（7.5 YR 5/6）	粘性強、加熱を受けている。
5	赤 褐 色（2.5 YR 4/8）	焼土
6	褐　　色（7.5 YR 4/6）	粘性強
7	暗赤褐色（2.5 YR 3/6）	
8	赤 褐 色（2.5 YR 4/8）	粘性弱、砂質、加熱を受けている。

層	土　　色	備　　考
9	赤褐色（5 YR 4/6）	
10	褐灰色（5 YR 4/1）	灰混入
11	暗褐色（7.5 YR 3/4）	粘性弱
12	赤褐色（2.5 YR 4/8）	焼　土
13	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
14	赤褐色（5 YR 4/6）	
15	黒褐色（10 YR 3/2）	



第33図　ＳＩ010竪穴住居跡出土遺物実測図

第24表　ＳＩ010出土遺物観察表(1)

挿図番号		第33図1		第33図2		第33図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	13 cm		cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		1～3㎜大の礫含む		細かい		2～4㎜大の礫含む	
焼成		良好		良好		良好	
色調		赤褐色		明赤褐色		暗褐色	
成形		粘土紐巻き上げ					
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴			ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ユビナデ
	底						
備考							

挿図番号		第33図4		第33図5		第33図6	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		荒い感じである 2～3㎜大の礫含む		細かい		2～4㎜大の礫含む	
焼成		良好		良好		良好	
色調		赤褐色		にぶい橙色		褐色	
成形						粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	
	底						
備考							

第25表　SI 010出土遺物観察表(2)

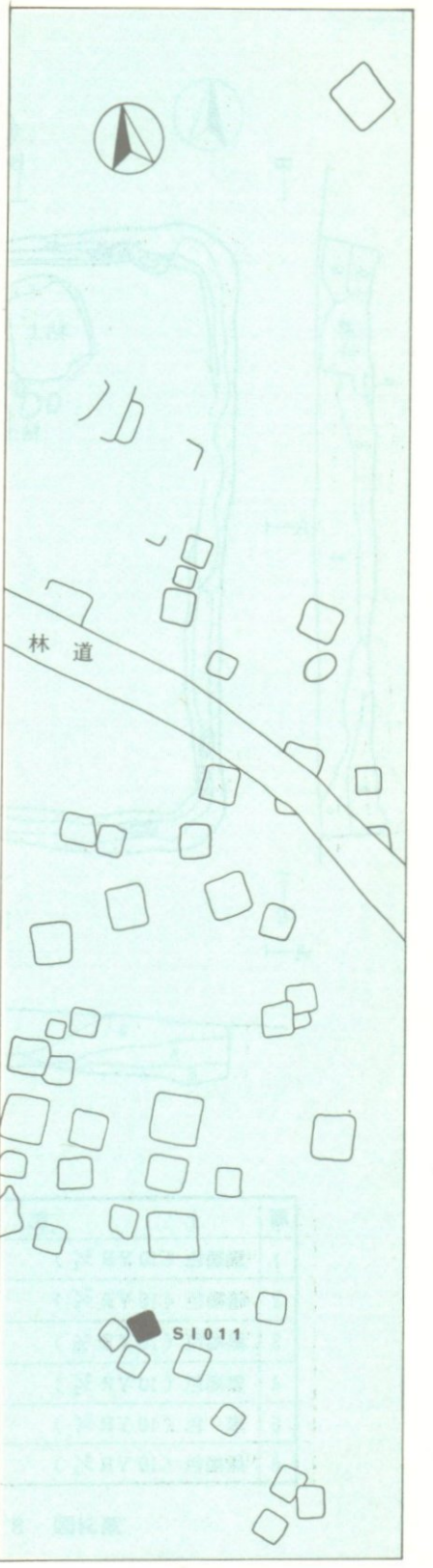
挿図番号		第33図 7
器種		不定形石器
法量	長さ	5.1cm
	幅	4.7cm
	厚さ	2.0cm
重量		40 g
石質		凝灰岩
備考		

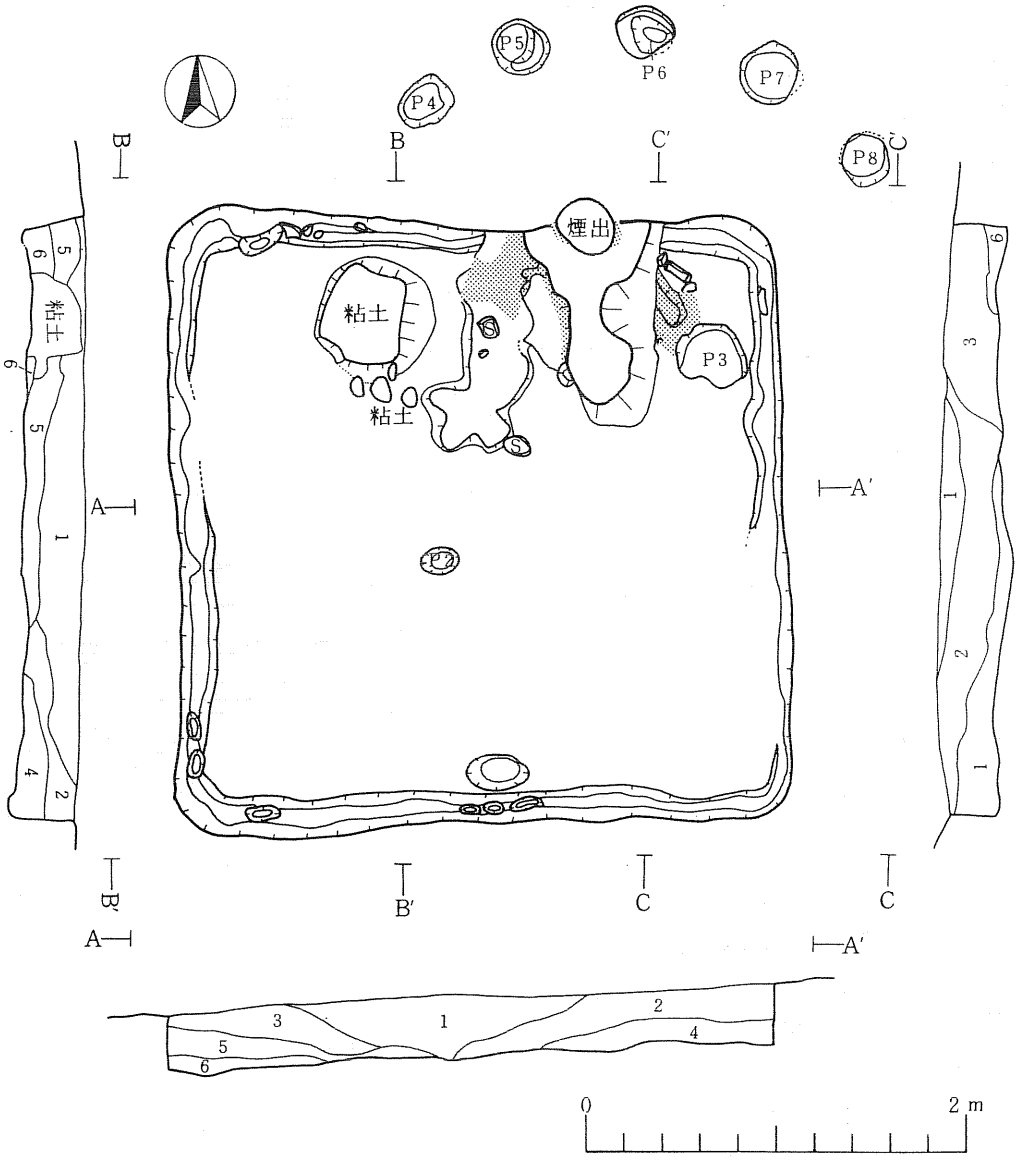
挿図番号		第33図 8	第33図 9	第33図10
器種		穂摘み具	鉄釘	鉄釘
法量	長さ	10.0cm	2.8cm	2.7cm
	幅	1.9cm	0.2cm	0.3cm
	厚さ	0.2cm	0.3cm	0.3cm
備考		目釘跡を有する		

挿図番号		第33図11
器種		鉄釘
法量	長さ	3.7cm
	幅	0.3cm
	厚さ	0.3cm
備考		先端部がU字に曲がる

第26表　SI 011竪穴住居跡観察表

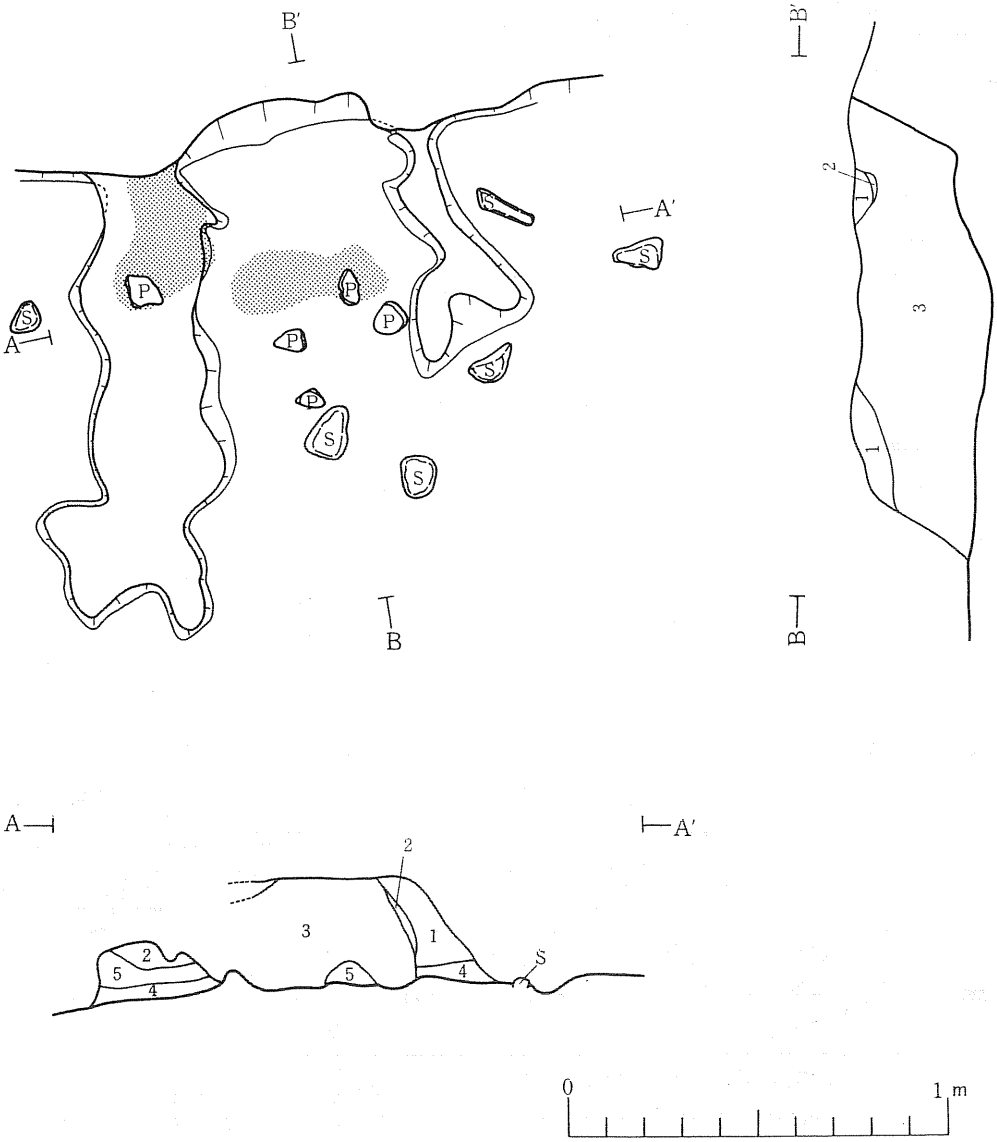
挿図		34			
図版		15、16			
形態		方形			
主軸方向		N－0.5°－W			
法量	面積	10.2 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	330 cm	315 cm	320 cm	320 cm
	壁高	5～33cm	7～44cm	28～93cm	29～34cm
	壁溝幅	14～21cm	10～16cm	12～20cm	15～19cm
	壁溝深	1～3 cm	1～3 cm	1～3 cm	3～4 cm
確認		地山面で確認された。			
壁		床面より垂直に立ち上がり、しっかりとした作りである。			
壁溝		カマド部分を除き、ほぼ同一幅、深さで一巡するものと思われる。			
ピット		P 1 (15) P 2 (18) P 3 (5) P 4 (23) P 5 (23) P 6 (28) P 7 (22) P 8 (25) (単位cm) 柱穴は確認できなかった。			
床面		西側に緩やかに傾斜しており、若干の凹凸を示す。カマド西側に粘土のマウンドが検出された。			
カマド		北壁東寄りに位置し、残存状態は良好である。袖は粘土により作られているもので煙道は壁とともに垂直に立ち上がる。			
遺物		土師器			
備考		カマド北側に半円状に並ぶP 4～P 8があるが、カマドの風防施設かと考えられる。			





層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 2/2）	浮石混入
2	暗褐色（10 YR 3/3）	黄褐色地山土混入
3	黒褐色（10 YR 2/3）	
4	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱
5	黒　色（10 YR 2/1）	浮石多量に混入
6	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱

第34図　S I 011竪穴住居跡実測図

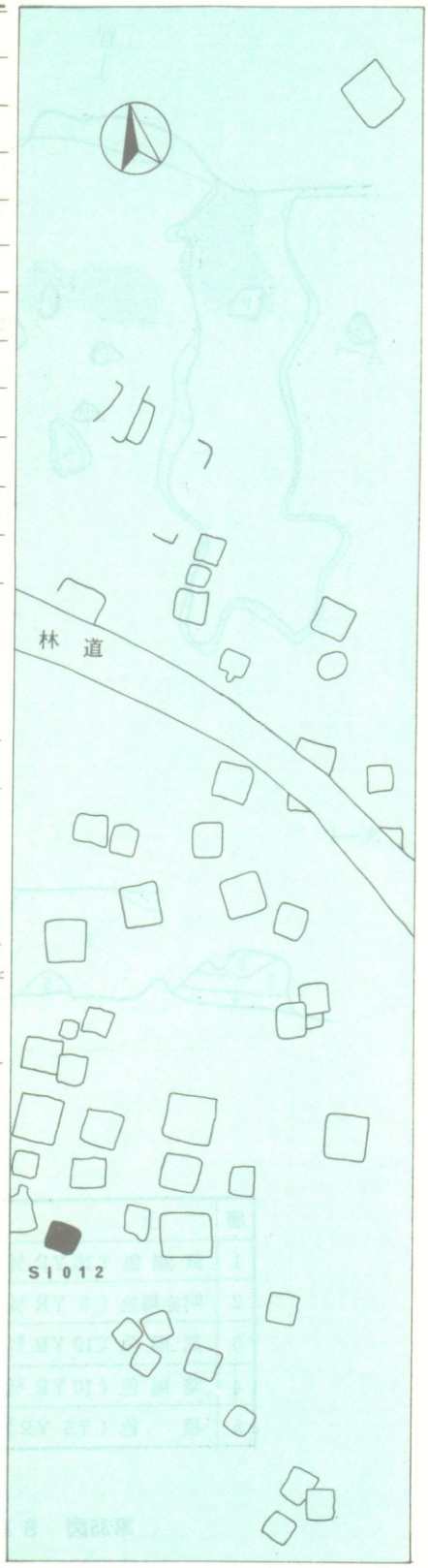


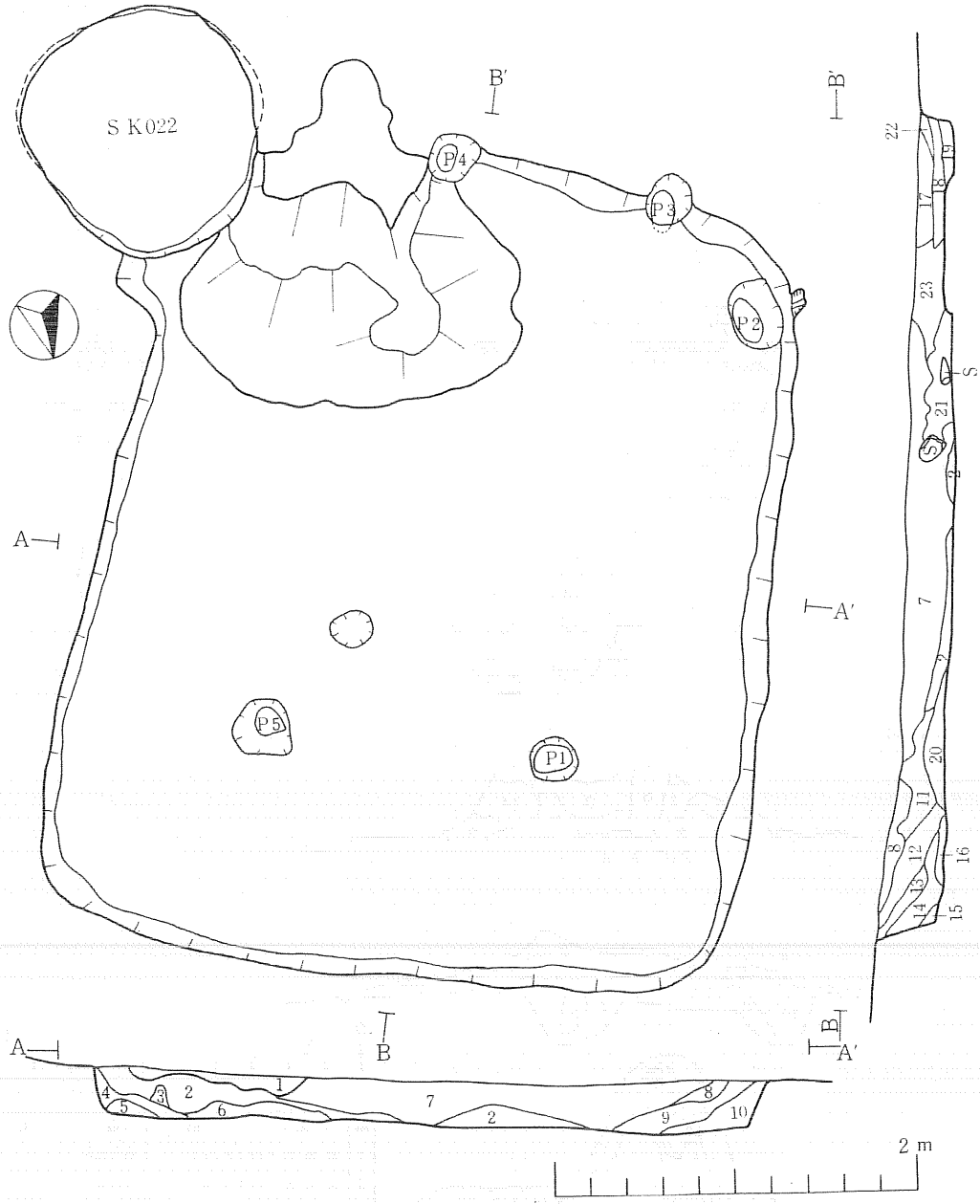
層	土　　色	備　　考
1	黄 褐 色（10 YR 5/6）	粘性強、袖及び天井部粘土
2	明赤褐色（5 YR 5/8）	粘性強、加熱を受けている。
3	黒 褐 色（10 YR 3/2）	炭化物混入
4	暗 褐 色（10 YR 3/4）	炭化物混入
5	橙　　色（7.5 YR 6/6）	粘性強

第35図　ＳＩ011竪穴住居跡カマド実測図

第27表　SI 012竪穴住居跡観察表

挿図		36			
図版		17			
形態		方形			
主軸方向		N－23.0°－E			
法量	面積	16.6 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	—— cm	425 cm	—— cm	380 cm
	壁高	26～39cm	23～29cm	15～27cm	28～35cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		床面より垂直に立ち上がるしっかりとした壁である。			
壁溝		————			
ピット		P 1 (61) P 2 (20) P 3 (34) P 4 (43) P 5 (70) (単位cm) P 1・5が本住居の柱穴である。			
床面		緩やかな凹凸面を示し、西側へ傾斜する。西壁に沿って35～65cmの幅で床面が軟弱である。			
カマド		南壁東側コーナー付近に位置している。残存状態は良くない。袖を確認することはできなかったが、袖は芯材として石を使用し、粘土を貼り付けたものである。また、カマド付近に40cm大の板石が存在するから、天井はこの石を使用したのであろう。燃焼部内に15cmほどの柱状の石が存在しており、支脚としての使用が考えられる。			
遺物		土師器			
備考		東南コーナーを切ってSK 022が構築されている。			

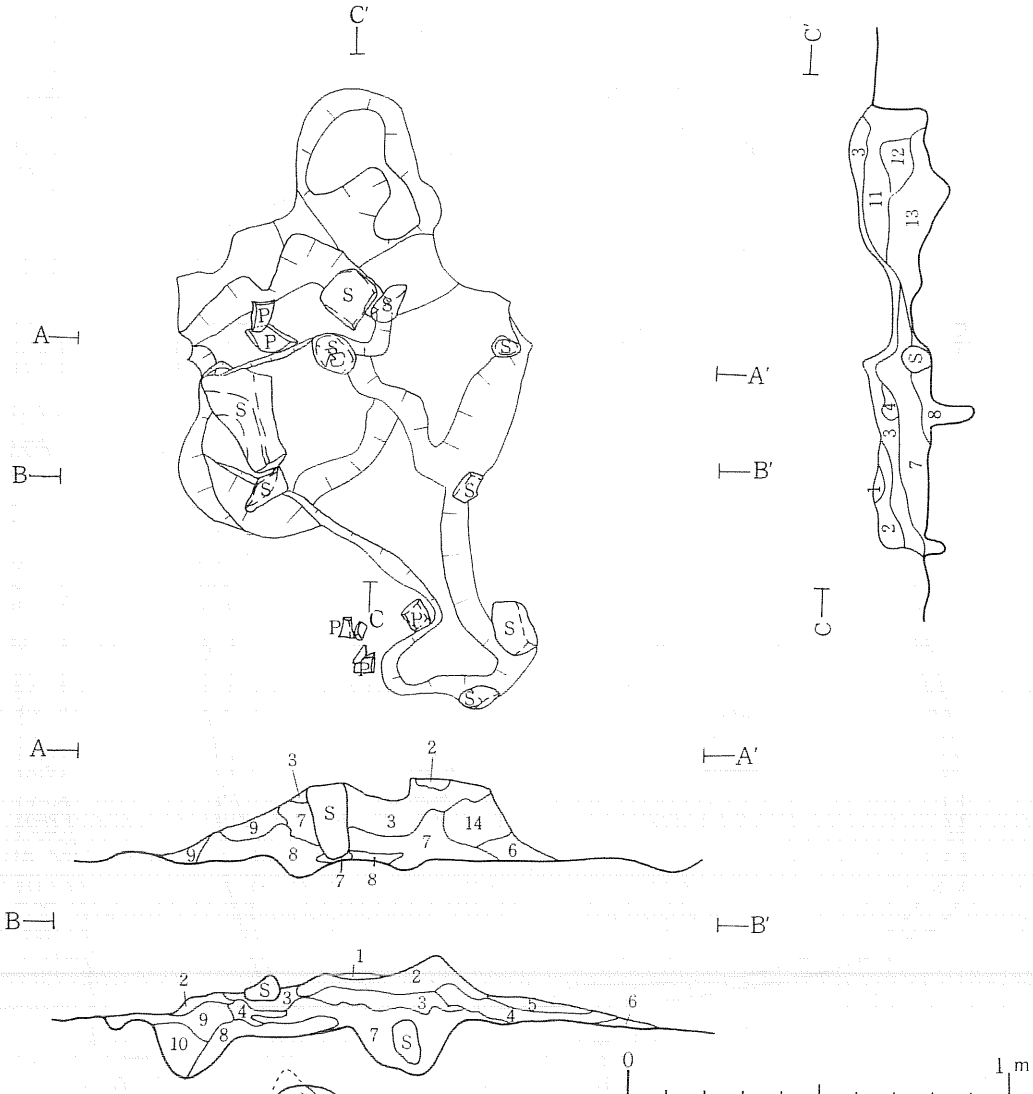




層	土色	備考
1	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性弱
2	黒　色（7.5 YR 2/1）	
3	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱
4	黒褐色（10 YR 3/3）	
5	黒　色（7.5 YR 2/1）	
6	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性弱
7	黒褐色（10 YR 3/2）	黄褐色地山土混入
8	黒　色（7.5 YR 2/1）	粘性弱
9	黒褐色（10 YR 3/2）	
10	黒　色（10 YR 2/1）	暗褐色土混入
11	黒褐色（10 YR 3/2）	
12	黒褐色（10 YR 3/1）	

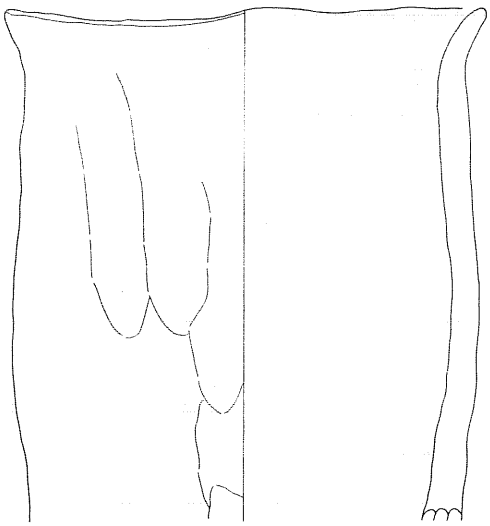
層	土色	備考
13	黒　色（10 YR 1.7/1）	
14	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性弱、黒色土混入
15	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱
16	黒　色（7.5 YR 2/1）	粘性弱
17	黒褐色（10 YR 3/3）	
18	黒　色（7.5 YR 2/1）	粘性弱
19	黒褐色（10 YR 3/2）	
20	黒褐色（10 YR 3/2）	
21	黒褐色（10 YR 3/2）	7層より明度、彩度が落ちる。
22	黒褐色（10 YR 3/2）	暗褐色土、黄褐色土混入
23	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱

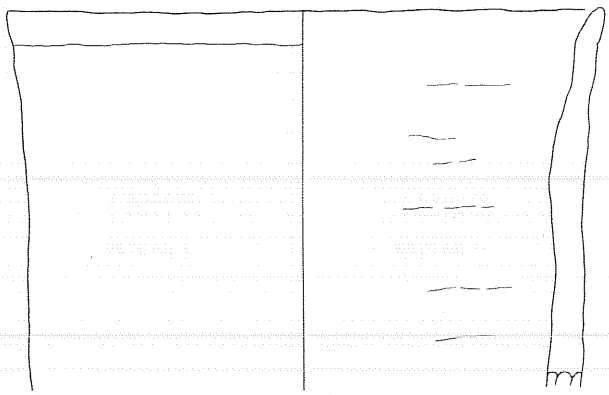
第36図　S I 012竪穴住居跡実測図

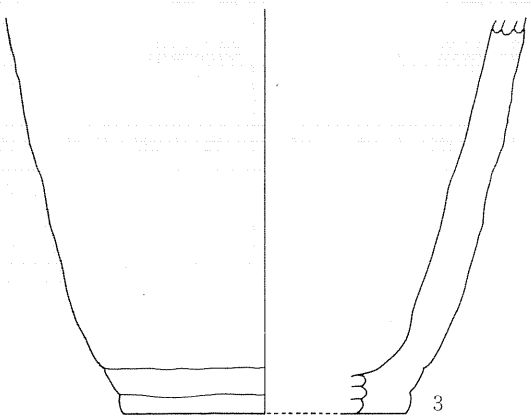


層	土色	備考
1	黒褐色（10YR 3/2）	粘土混入
2	黄褐色（10YR 5/6）	粘性強
3	黒色（10YR 2/1）	粘性弱
4	暗褐色（7.5YR 3/4）	焼土混入
5	明褐色（7.5YR 5/8）	粘性強、炭化物混入
6	黒色（10YR 2/1）	
7	明赤褐色（5YR 5/8）	
8	明赤褐色（2.5YR 5/8）	焼土
9	黒褐色（10YR 3/2）	
10	褐色（7.5YR 4/4）	焼土混入
11	黒褐色（10YR 3/2）	粘性弱
12	暗褐色（10YR 3/3）	粘性弱
13	褐色（10YR 4/4）	粘性弱
14	暗褐色（7.5YR 3/3）	

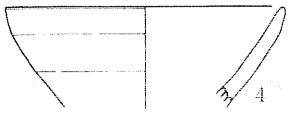
第37図　ＳＩ012竪穴住居跡カマド実測図

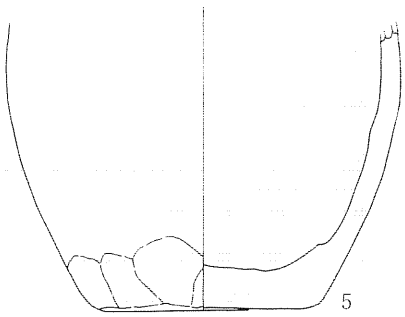


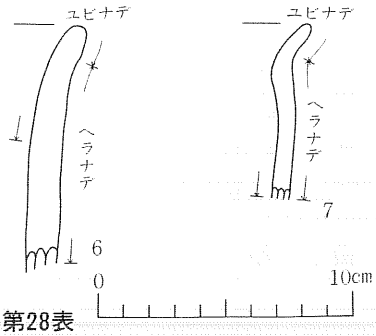




第38図　ＳＩ012竪穴住居跡出土遺物実測図







第28表
SI 012出土遺物観察表(1)

挿図番号		第38図1	
器種		土師器甕	
法量	口径	(19)cm	
	底径	cm	
	器高	cm	
胎土		やや荒い。1～3mm大の礫及び石英粒含む	
焼成		良好	
色調		明赤褐色	
成形			
		外面	内面
調整	口縁	ユビオサエ	ユビオサエ
	胴	ヘラナデ	
	底		
備考			

第29表　ＳＩ012出土遺物観察表(2)

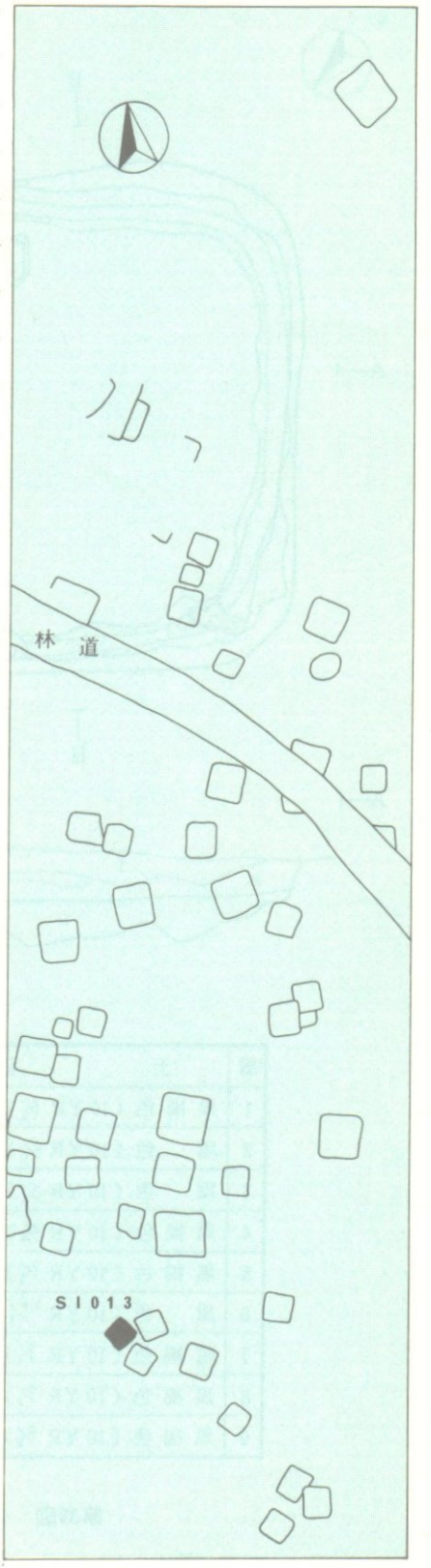
挿図番号		第38図2		第38図3		第38図4	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器坏	
法量	口径	(23)cm		cm		(10.5)cm	
	底径	cm		(11.5)cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		やや荒い 2～5㎜大の小石粒が多い		やや荒い		石英粒が多く含まれている	
焼成		良好		良好		良好	
色調		橙ないし灰褐色		橙色		赤褐色ないしにぶい橙色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		ロクロ？	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ヘラナデ	ユビナデ				
	胴	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ			
	底			ヘラナデ			
備考							

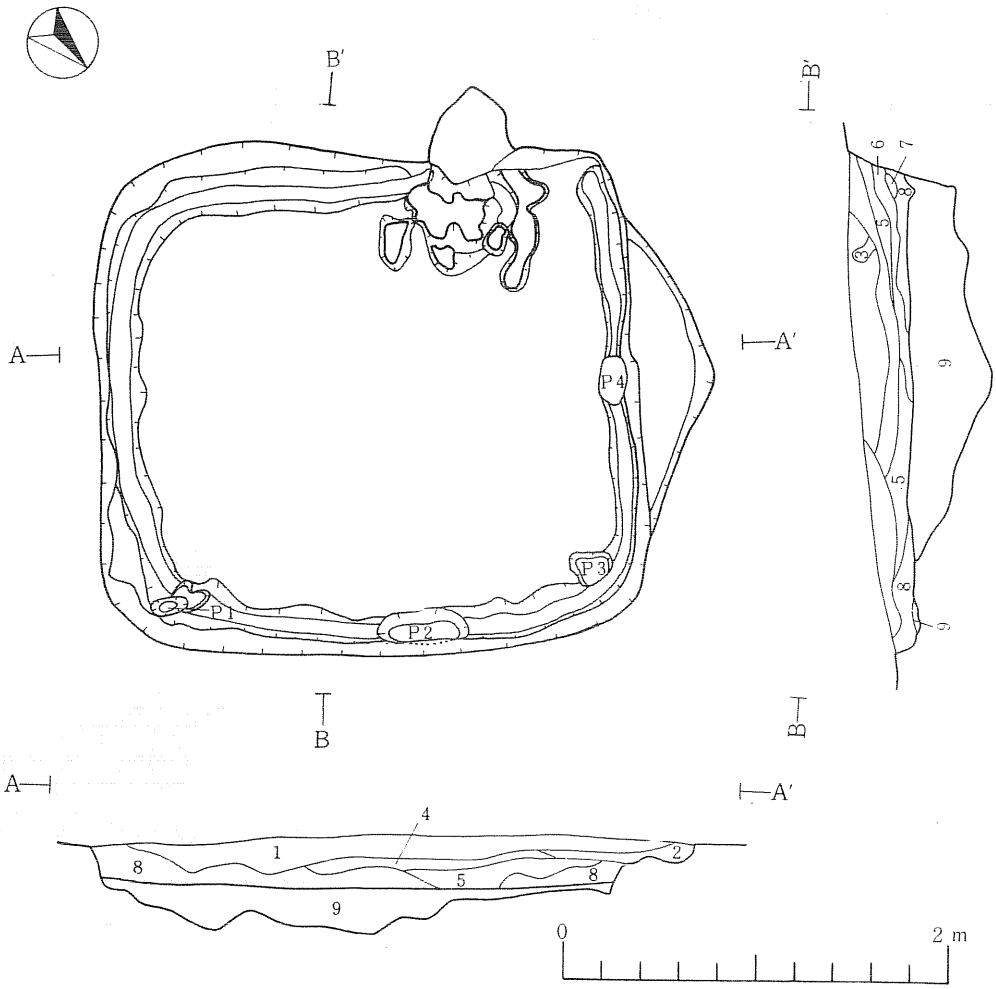
挿図番号		第38図5		第38図6		第38図7	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	9 cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		細かい石英粒が多い		3㎜大のやや荒い小石を多く含む		細かい	
焼成		良好		良好		良好	
色調		明褐色		明赤褐色		明赤褐色	
成形							
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁			ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ		ヘラナデ	ユビナデ
	底	ヘラナデ	ヘラナデ				
備考							

第30表　SI 013竪穴住居跡観察表

挿図		39			
図版		18			
形態		方形			
主軸方向		N－47.0°－W			
法量	面積	7.7 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	268 cm	252 cm	264 cm	286 cm
	壁高	15～28cm	10～24cm	25～34cm	10～18cm
	壁溝幅	14～22cm	8～16cm	18～22cm	12～27cm
	壁溝深	3～16cm	2～7 cm	3～5 cm	3～13cm

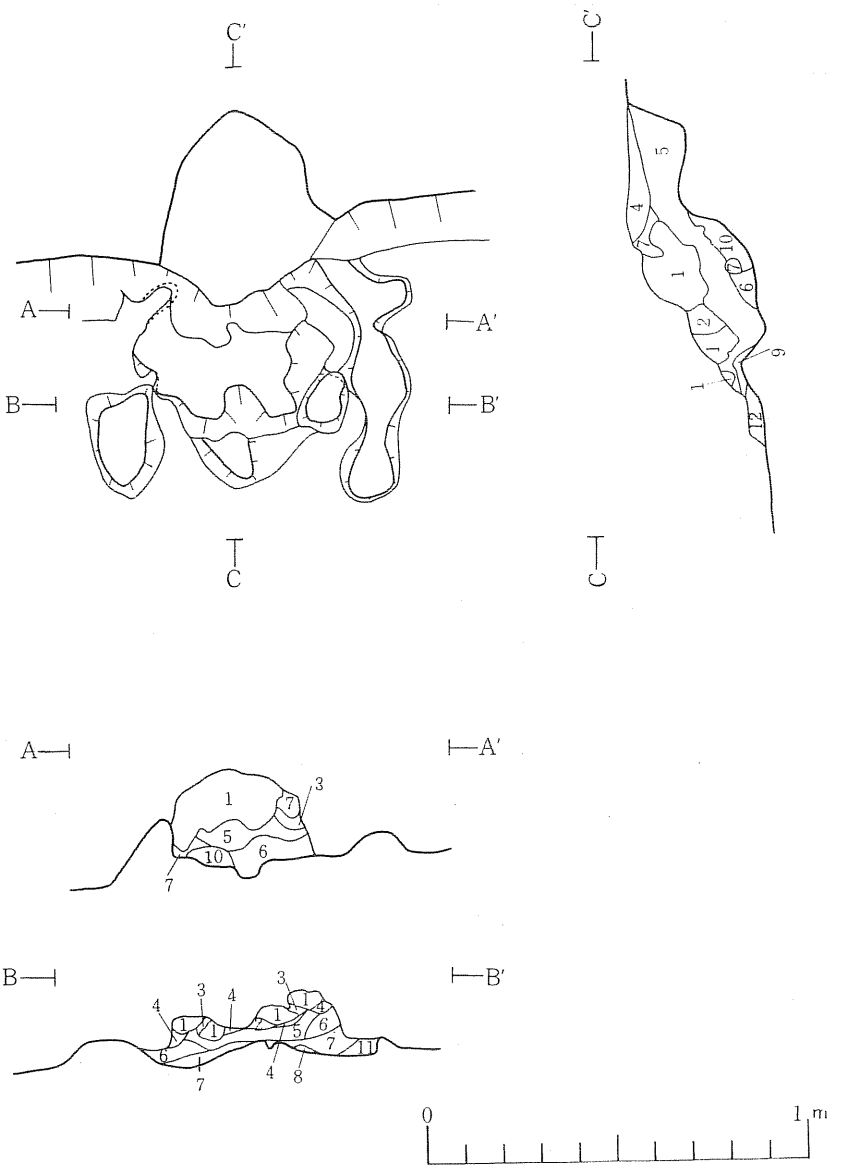
確認	地山面で確認された。
壁	床面よりほぼ垂直に立ち上がるが西壁は低い。
壁溝	カマド部分を除き四壁に存在する。
ピット	P 1 (12) P 2 (12) P 3 (12) P 4 (32) P 5 (32)(単位　cm) P 1・3が本住居跡の柱穴であろう。
床面	貼床が施されており平坦であるが西壁付近を除き、軟弱である。
カマド	東壁南寄りに位置し、若干崩壊している。袖は地山を凸状に残し、粘土を貼り付けたものである。煙道は途中に段を有し、そこから立ち上がる。
遺物	土師器
備考	南壁に三角状に張り出し施設をもつ。 C^{14} 測定値　930 ± 75 yB.P.





層	土　　色	備　　考
1	黒 褐 色（10 YR 2/2）	撹乱
2	黒　　色（10 YR 2/1）	撹乱
3	褐　　色（10 YR 4/6）	粘性強
4	黒 褐 色（10 YR 2/3）	
5	黒 褐 色（10 YR 3/2）	
6	黒　　色（10 YR 1.7/1）	炭化物混入
7	暗 褐 色（10 YR 3/3）	粘性弱
8	黒 褐 色（10 YR 3/2）	
9	黒 褐 色（10 YR 2/2）	粘性弱、貼床埋土

第39図　S I 013竪穴住居跡実測図



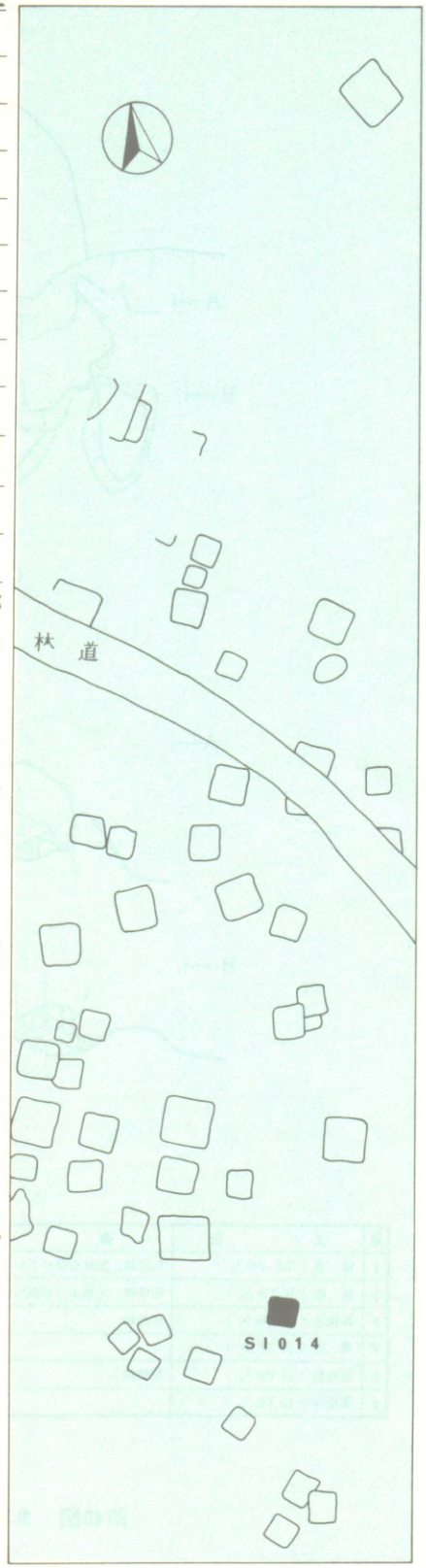
層	土　　色	備　　考
1	褐　色（7.5 YR 4/6）	粘性強、加熱を受けている。
2	褐　色（10 YR 4/6）	粘性強、1層より加熱は弱い。
3	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性弱
4	黒　色（10 YR 2/1）	
5	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強
6	黒褐色（10 YR 2/3）	

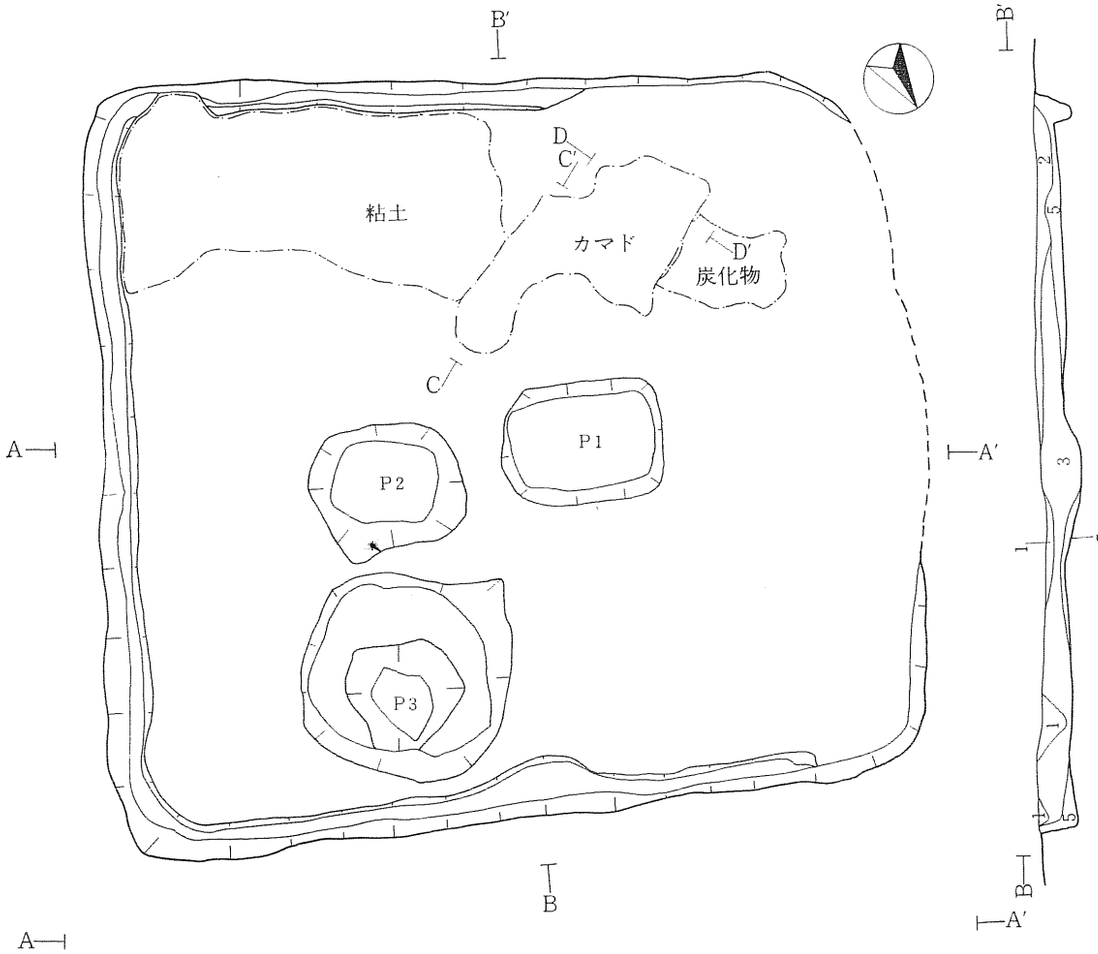
層	土　　色	備　　考
7	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱
8	黒　色（10 YR 2/1）	
9	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強、灰褐色土混入
10	暗褐色（10 YR 3/3）	黄褐色土混入
11	黒褐色（10 YR 3/2）	
12	にぶい黄褐色（10 YR 4/3）	粘性強

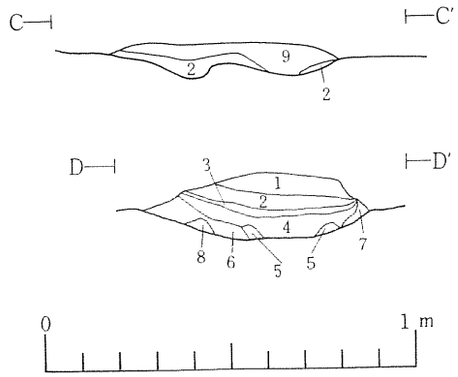
第40図　ＳＩ013竪穴住居跡カマド実測図

第31表　SI 014竪穴住居跡観察表

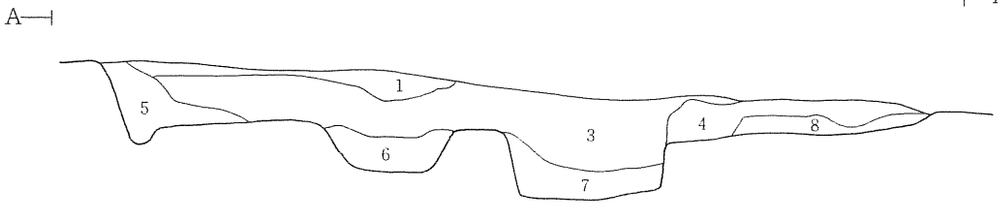
挿図		41			
図版		19			
形態		方形			
主軸方向		N－21.0°－E			
法量	面積	17.5 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	470 cm	371 cm	413 cm	438 cm
	壁高	38～43cm	0～6 cm	5～28cm	6～37cm
	壁溝幅	16～28cm	—— cm	12～18cm	14～30cm
	壁溝深	2～8 cm	—— cm	2～10cm	8～24cm
確認		地山面に確認された。			
壁		床面からほぼ垂直に立ち上がる。東壁が最も高く、西側ほど低くなり、西壁においてはほとんど見られない。			
壁溝		総じて浅いが、西壁を除く各壁に構築されている。			
ピット		P 1 (59) P 2 (28) P 3 (63) (単位cm) 床面に土壙状のピットが3基存在する。柱穴は検出できなかった。			
床面		貼床である。西ほど低く、東西端では10～15cmの高低差がある。			
カマド		残存状態が非常に悪いが、南側床面に粘質土、炭化物等の分布が見られ、南壁西寄りの位置に焼土が堆積している。この付近にカマドが存在したものと思われる。			
遺物		土器、鉄釘1、			
備考		——			





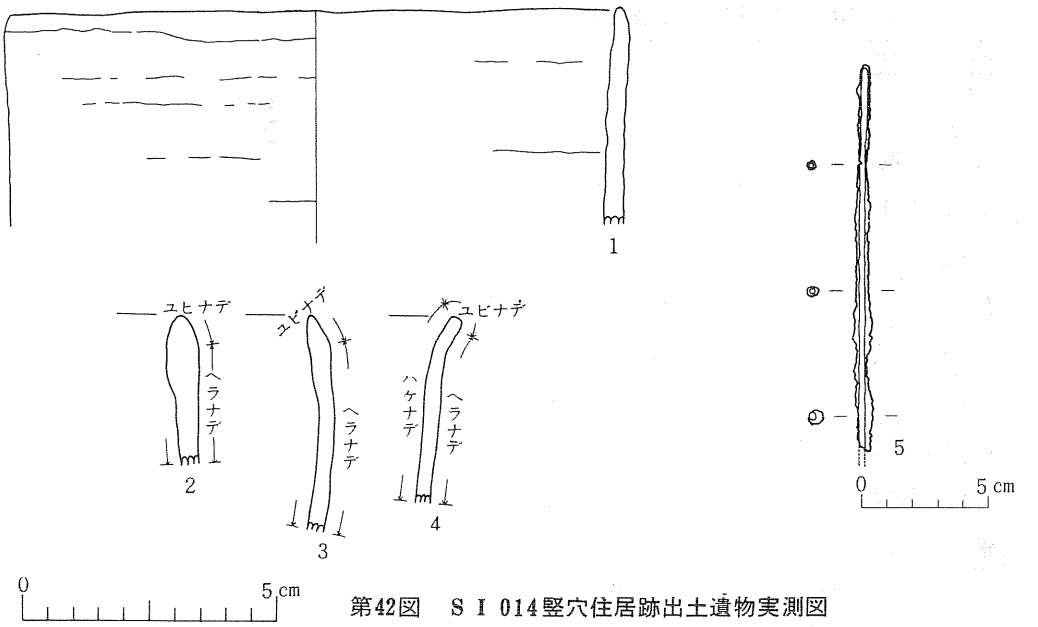


層	土　　色	備　　考
1	黒 褐 色（7.5 YR 2/2）	暗褐色土混入
2	明赤褐色（5 YR 5/8）	焼　土
3	にぶい黄褐色（10 YR 4/3）	焼土混入
4	橙　　色（5 YR 6/8）	焼土、明黄褐色地山土混入
5	黄 褐 色（10 YR 5/6）	砂
6	黒 褐 色（10 YR 2/3）	粘性弱
7	暗 褐 色（7.5 YR 3/4）	粘性弱
8	黄 褐 色（10 YR 5/6）	砂
9	黒 褐 色（10 YR 2/3）	



層	土　　色	備　　考
1	黒　色（10 YR 2/1）	粘性弱
2	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱、浮石混入
3	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性弱、にぶい黄橙色浮石混入
4	明褐色（7.5 YR 5/8）	貼　床
5	にぶい黄褐色（10 YR 4/3）	粘性弱
6	褐　色（10 YR 4/6）	粘性弱
7	明褐色（7.5 YR 5/8）	粘性弱
8	にぶい黄褐色（10 YR 4/3）	貼　床

第41図　ＳＩ014竪穴住居跡実測図



第42図　ＳＩ014竪穴住居跡出土遺物実測図

第32表　SI 014出土遺物観察表

挿図番号		第42図1		第42図2		第42図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	(24)cm		cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		細かいが2～5㎜の小石含む		石英粒が多く含まれる		石英粒が多い	
焼成		良好		良好		良好	
色調		内外面ともに橙色		明赤褐～暗赤褐色		橙～赤褐色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ			
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ	ユビナデ
	底						
備考		外面に炭化物付着				外面に炭化物付着	

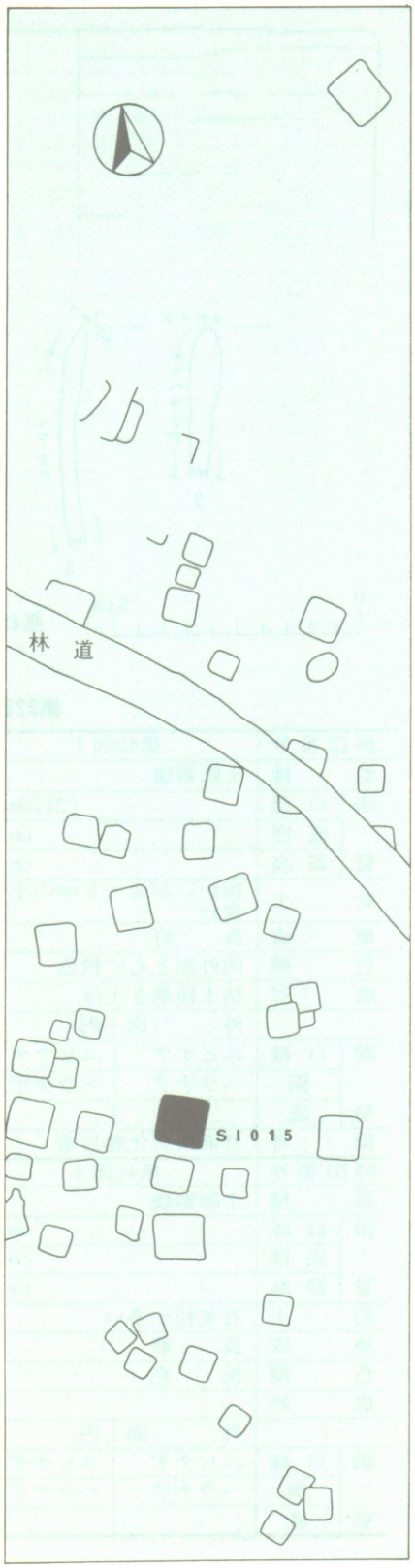
挿図番号		第42図4	
器種		土師器甕	
法量	口径	cm	
	底径	cm	
	器高	cm	
胎土		石英粒が多い	
焼成		良好	
色調		褐色	
成形			
		外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ
	底		

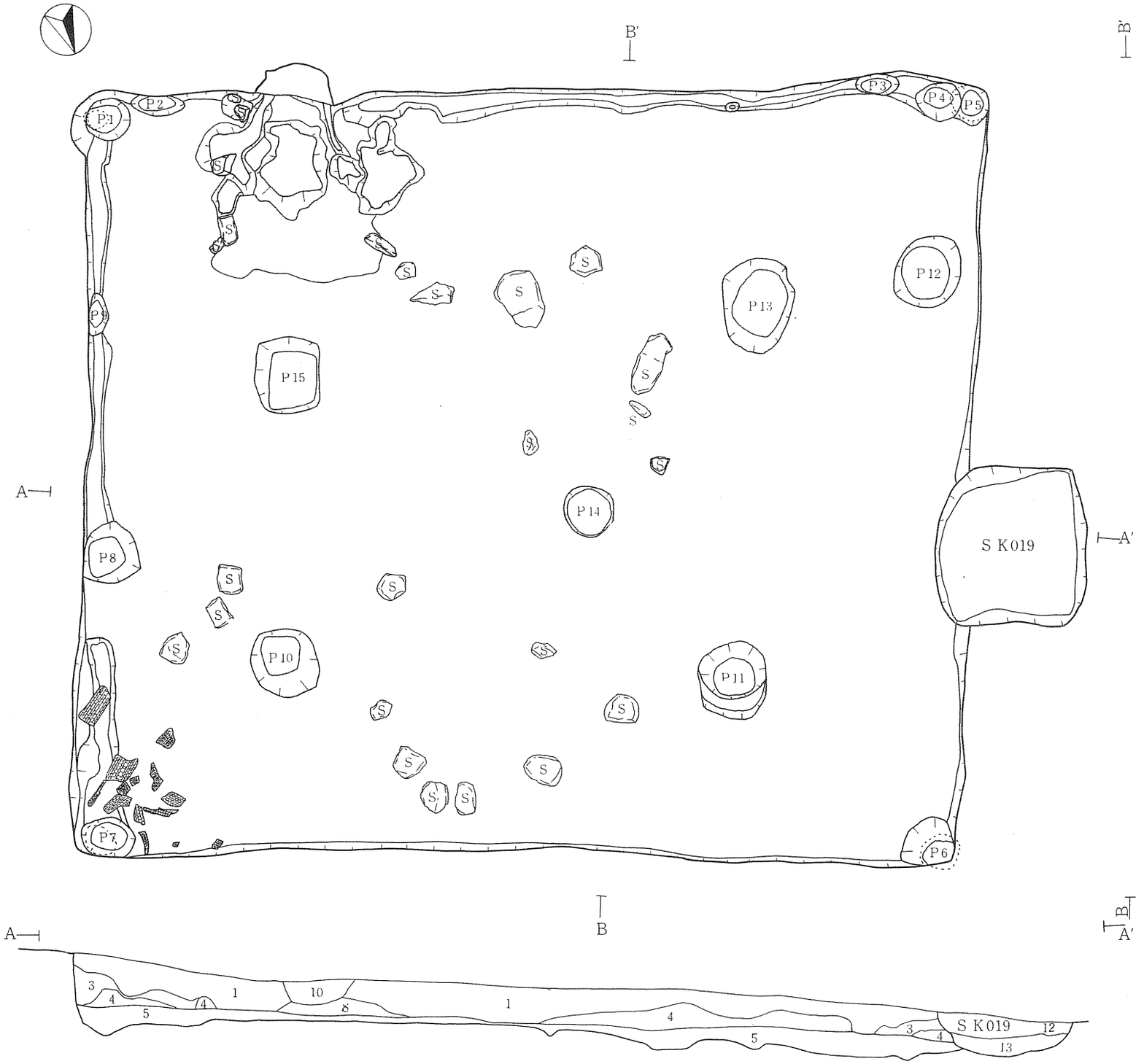
挿図番号		第42図5
器種		
法量	長さ	12.3cm
	幅	0.4cm
	厚さ	0.4cm
備考		

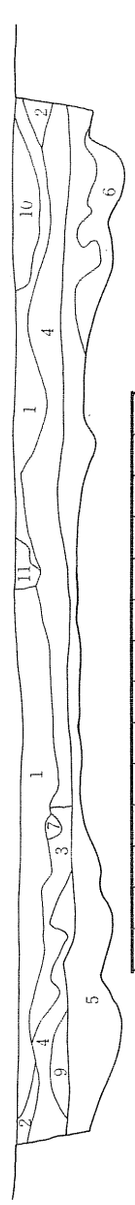
第33表　SI 015竪穴住居跡観察表

挿図		43			
図版		20、21			
形態		方形			
主軸方向		N－20.0°－E			
法量	面積	38.8 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	570 cm	580 cm	675 cm	650 cm
	壁高	47～55cm	7～16cm	18～37cm	29～44cm
	壁溝幅	7～10cm	—— cm	3～15cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm

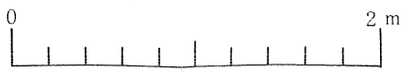
確認	暗褐色土中で確認された。
壁	西壁は、他の壁より低いが、四壁ともしっかりとした作りで、床面よりほぼ垂直に立ち上がる。
壁溝	東壁と南壁のカマドを除く部分に存在する。
ピット	P 1 (39)　P 2 (6)　P 3 (15)　P 4 (52) P 5 (43)　P 6 (30)　P 7 (31)　P 8 (28) P 9 (22)　P10(28)　P11(20)　P12(17) P13(54)　P14(38)　P15(50)（単位cm） 本住居跡の柱穴はP 1 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・10 ・11・ 13・ 16である。
床面	貼床である。全体に平坦で、堅くしまっている。
カマド	南壁東寄りに位置しており、残存状態は良く、袖は粘土により作られている。煙道は壁とともに急激に立ち上がる。
遺物	土師器、須恵器、穂摘み具 2
備考	SK 019が重複する。新旧関係は、SI 015→SK 019である。 焼失家屋である。C^{14}測定値 1110±75yB.P.



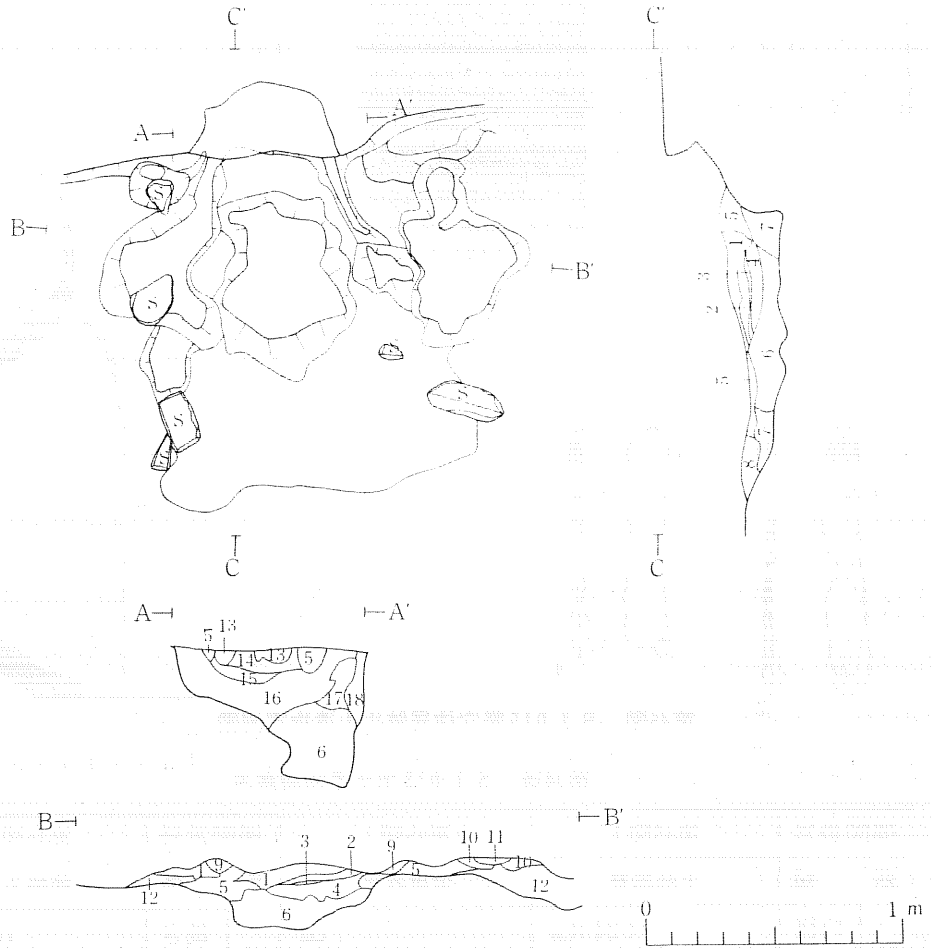




層	土　　色	備　　考
1	黒　色（10 YR 2/1）	黄褐色浮石混入
2	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、黄褐色浮石多量に混入
3	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性弱、黄褐色浮石少量混入
4	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱、黄褐色浮石混入
5	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱、貼床埋土
6	褐　色（10 YR 4/6）	粘性弱、暗褐色土混入、貼床埋土
7	褐　色（10 YR 4/6）	粘性弱、黒褐色土混入
8	褐　色（10 YR 4/4）	粘性弱、浮石混入
9	黄橙色（10 YR 8/6）	砂
10	黒褐色（10 YR 3/2）	撹乱
11	砂　層	SD 015 覆土、砂鉄混入
12	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性弱、SK 019 覆土
13	黒褐色（10 YR 3/1）	粘性強、SK 019 覆土



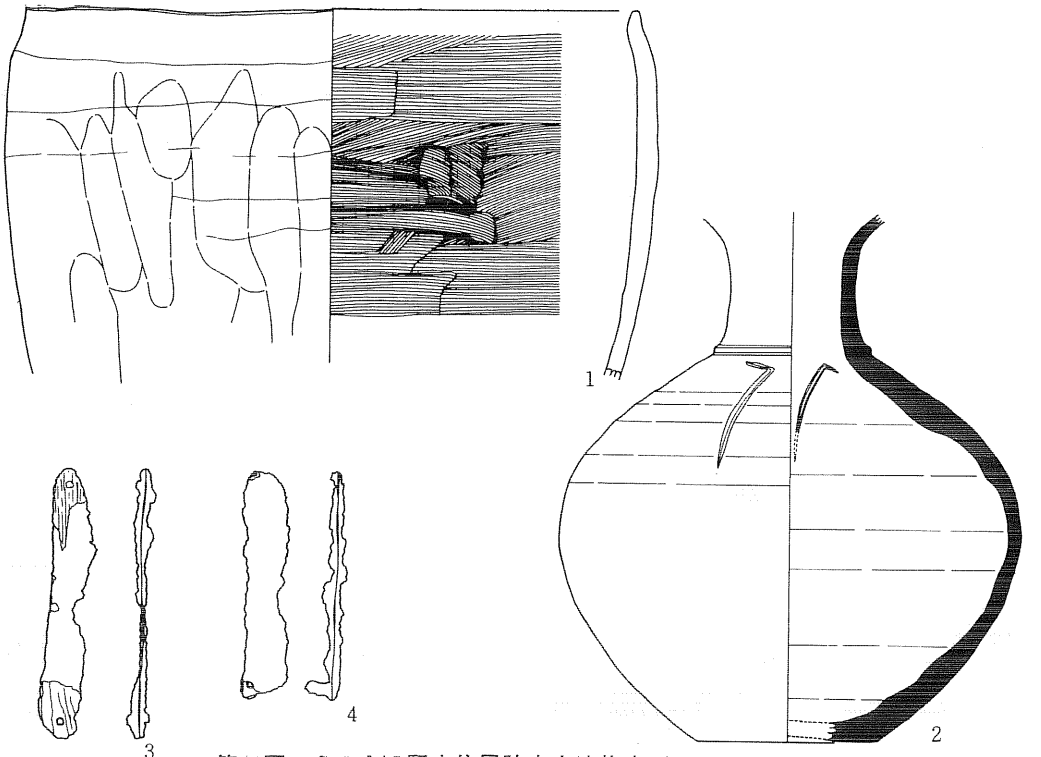
第43図　ＳＩ 015竪穴住居跡実測図



層	土　　色	備　　考
1	暗 褐 色（10 YR ¾）	焼土混入
2	赤 褐 色（5 YR ¾）	焼　土
3	にぶい褐色（7.5 YR ⅝）	灰
4	明赤褐色（5 YR ⅝）	焼　土
5	黒 褐 色（10 YR ⅔）	粘性強
6	黒　　色（10 YR 1.7/1）	
7	黒 褐 色（10 YR ⅔）	
8	灰黄褐色（10 YR ½）	粘性強、黒色土混入
9	にぶい黄褐色（10 YR ¾）	小礫混入

層	土　　色	備　　考
10	にぶい黄褐色（10 YR ⅝）	粘性強、炭化物混入
11	赤褐色（5 YR ¼）	10層が焼土化、炭化物混入
12	黒　色（10 YR ⅔）	貼　床
13	黄褐色（10 YR ⅝）	粘性強
14	にぶい黄褐色（10 YR ¾）	
15	暗褐色（10 YR ¾）	焼土混入
16	黒褐色（10 YR ⅔）	粘性強、黄褐色土混入
17	黒　色（10 YR ⅔）	粘性弱
18	黄褐色（10 YR ⅝）	粘性弱

第44図　ＳＩ015竪穴住居跡カマド実測図



第45図　ＳＩ015竪穴住居跡出土遺物実測図

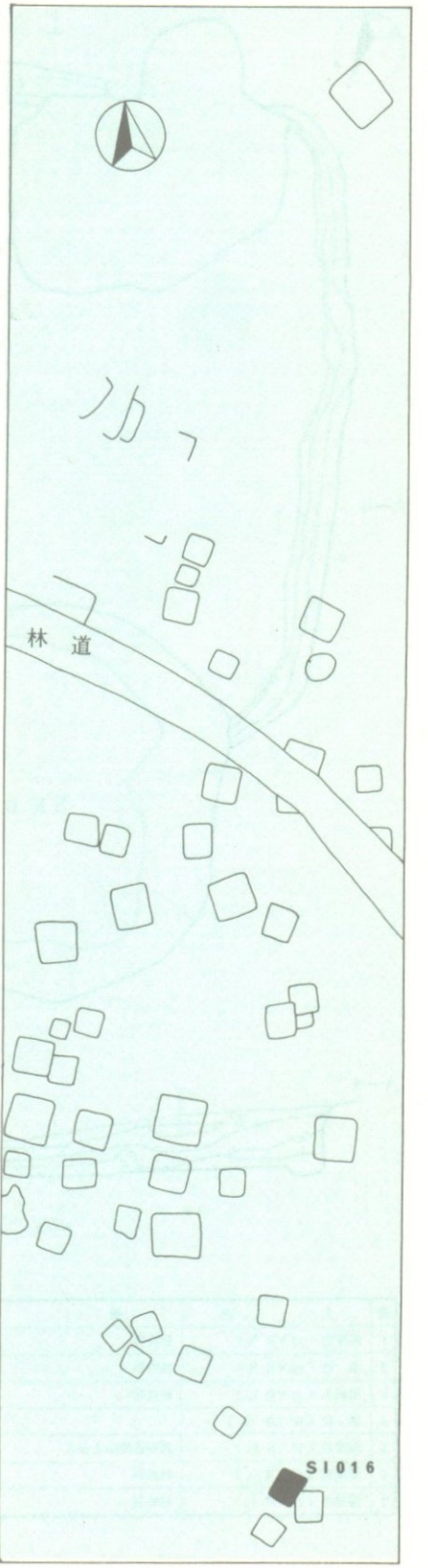
第34表　ＳＩ015出土遺物観察表

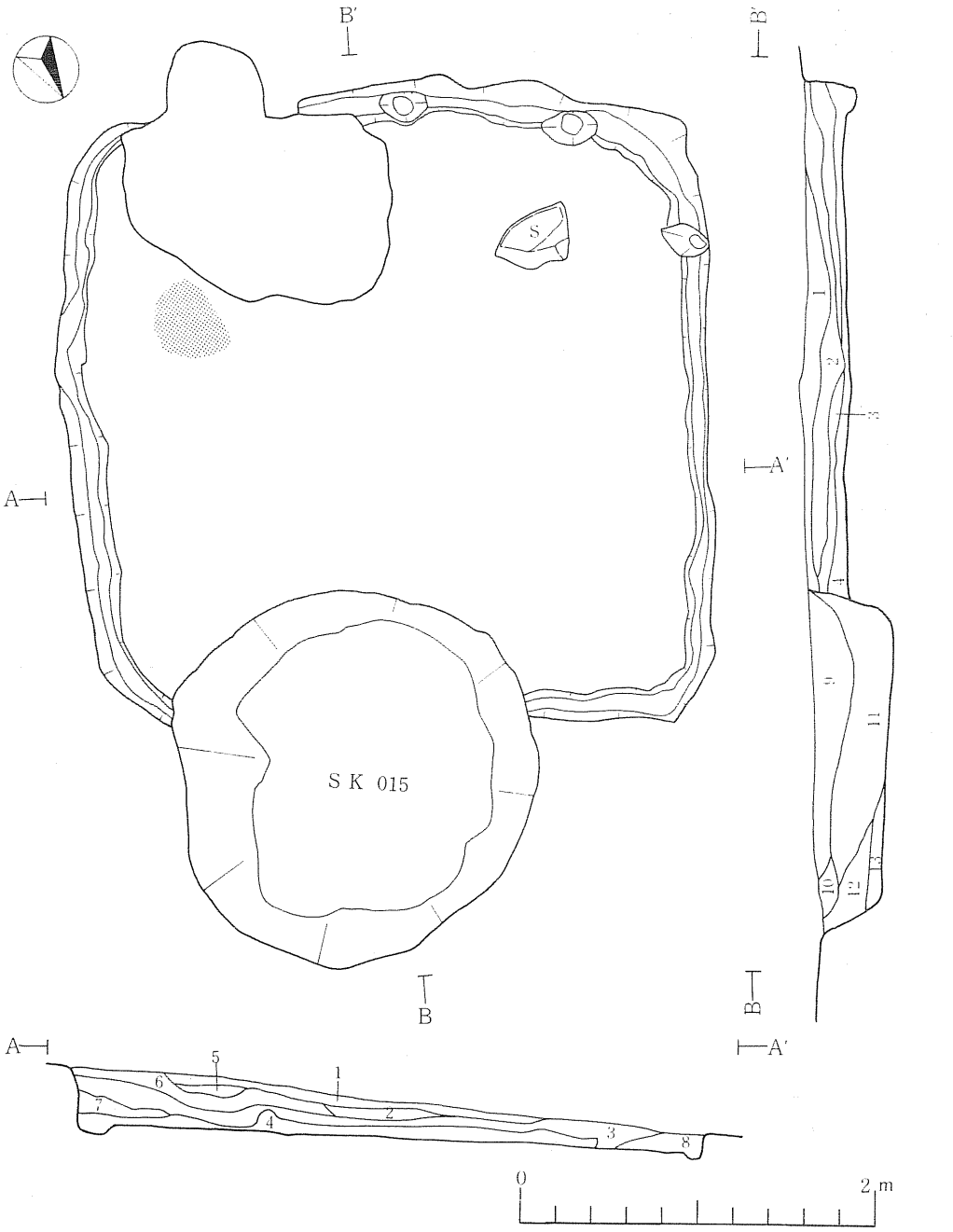
挿図番号		第45図1		第45図2		挿図番号	第45図3
器種		土師器甕		須恵器壷		器種	穂摘み具
法量	口径	(24)cm		cm		法量 長さ	10.5 cm
	底径	cm		(7)cm		幅	1.5 cm
	器高	cm		cm		厚さ	0.2 cm
胎土		全体に細かい 1～3㎜大の礫含む		細かい		備考	木質部付着
焼成		良好		良好			
色調		明赤褐色		灰色			
成形		粘土紐巻き上げ		ロクロ		挿図番号	第45図4
		外面	内面	外面	内面	器種	穂摘み具
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ			法量 長さ	8.9 cm
	胴	ヘラナデ	ハケナデ			幅	1.5 cm
	底					厚さ	0.2 cm
備考				胴上部にヘラ描きの刻文あり		備考	

第35表　SI 016竪穴住居跡観察表

挿図		46			
図版		22、24			
形態		方形			
主軸方向		N－28.0°－E			
法量	面積	19.1 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	324 cm	346 cm	350 cm	328 cm
	壁高	15～47cm	8～11 cm	21～23cm	8～43cm
	壁溝幅	10～22cm	8～22 cm	16～28cm	12～16cm
	壁溝深	15～47cm	9～14cm	1～3 cm	13～19cm

確認	地山面で確認された。
壁	北壁はSK 015により切られているが他の壁は床面よりほぼ垂直に立ち上がる。
壁溝	ほぼ同一幅・深さで一巡するものと考えられる。
ピット	床面には検出されなかった。北側壁にSK 015が重複する。
床面	地山を床面として使用している。緩やかな凹凸を示し、西側に傾斜する。
カマド	南壁の東寄りコーナー部に構築され、残存状態は良好である。袖、天井は芯材として石を使用しており、粘土を貼り付けているが、崩壊している。煙道は壁外に緩やかな角度で立ち上がる。
遺物	土師器、須恵器
備考	SI 018、SK 015が重複する。新旧関係は、SI 016→SI 018である。 └→SK 015

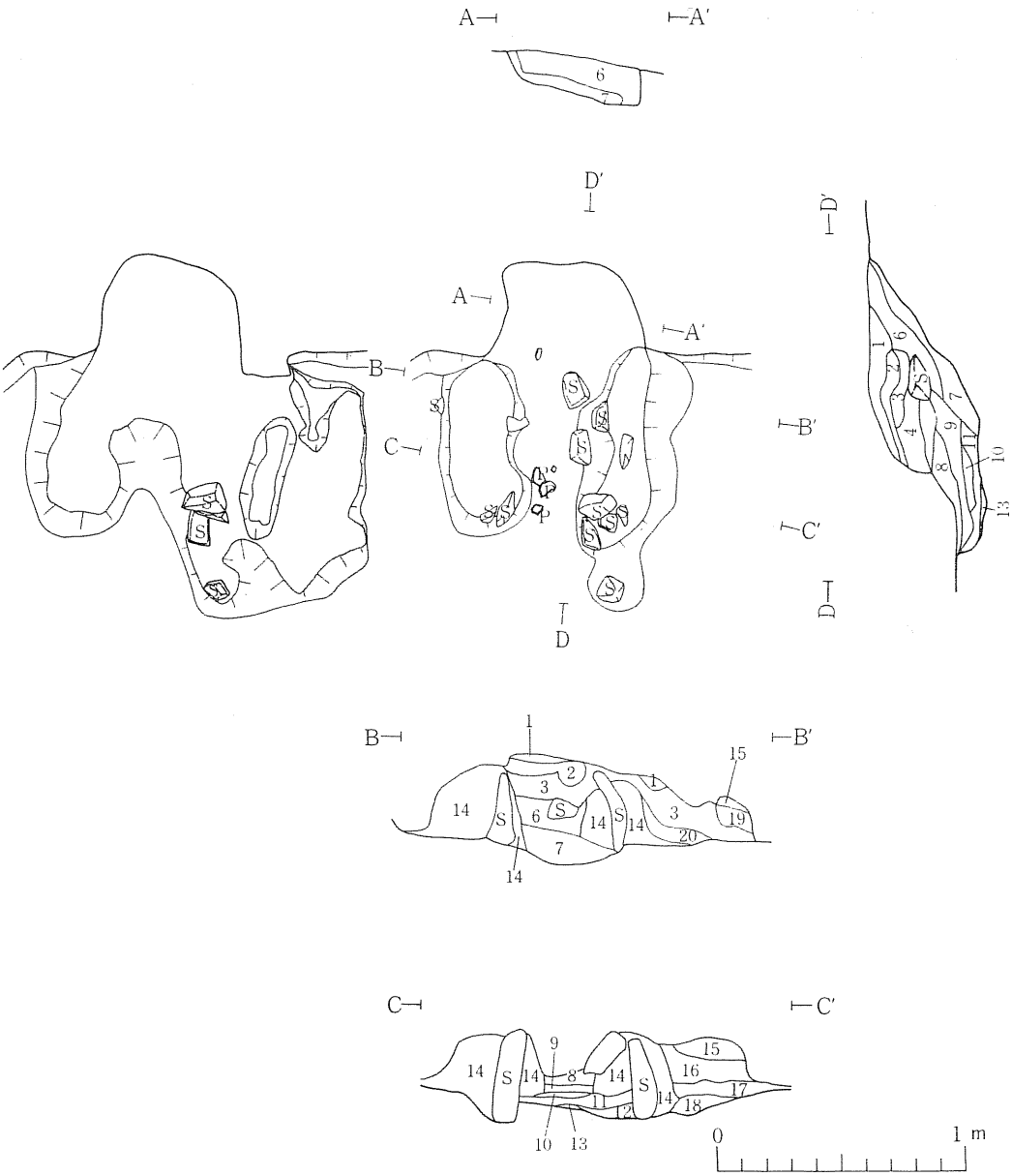




層	土色	備考
1	黒褐色（10YR 3/3）	粘性弱
2	黒　色（10YR 2/1）	粘性弱
3	暗褐色（10YR 3/4）	粘性弱
4	黒　色（10YR 1.7/1）	
5	暗褐色（10YR 3/4）	黄褐色地山土混入
6	黒褐色（10YR 3/2）	粘性弱
7	黒褐色（10YR 3/2）	粘性弱

層	土色	備考
8	暗褐色（10YR 3/4）	
9	黒褐色（10YR 3/2）	粘性弱
10	黒褐色（10YR 3/2）	粘性弱
11	黒褐色（10YR 3/2）	粘性弱
12	にぶい黄褐色（10YR 5/3）	砂質
13	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	砂質

第46図　ＳＩ016竪穴住居跡実測図



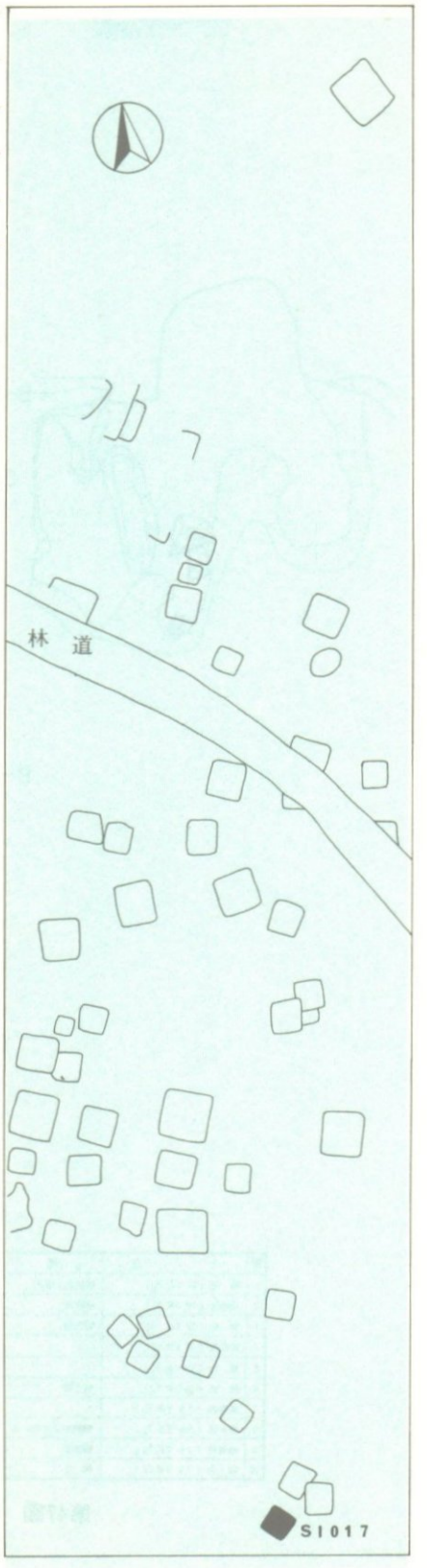
層	土色	備考
1	褐 色（10YR 4/4）	黒褐色土混入
2	黒褐色（10YR 3/2）	粘性弱
3	黒 色（10YR 2/1）	粘性弱
4	黒褐色（10YR 3/2）	
5	褐 色（10YR 4/4）	
6	褐 色（10YR 4/6）	粘土質
7	黒褐色（7.5YR 3/2）	
8	褐 色（7.5YR 4/6）	加熱を受けている
9	暗褐色（7.5YR 3/4）	粘性弱
10	褐 色（7.5YR 4/6）	焼 土

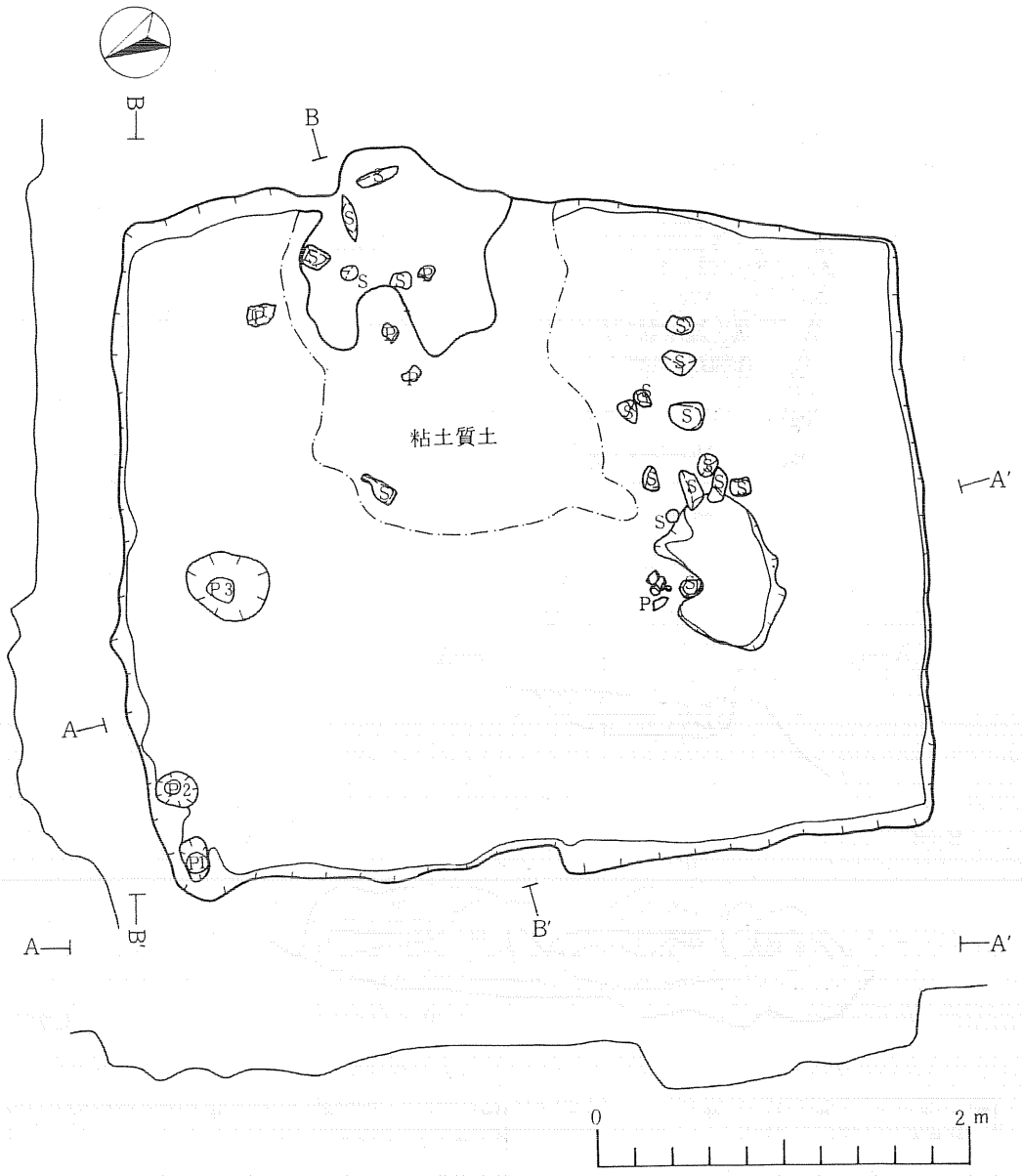
層	土色	備考
11	褐 色（7.5YR 3/4）	粘性弱、焼土
12	黒褐色（7.5YR 3/2）	
13	赤褐色（5YR 4/6）	粘性弱、焼土
14	褐 色（7.5YR 4/6）	地盤
15	褐 色（10YR 4/6）	粘性強、にぶい黄褐色土混入
16	黒褐色（10YR 3/2）	粘性弱
17	褐 色（10YR 4/6）	粘性強
18	暗褐色（7.5YR 3/4）	黄褐色浮石混入
19	暗褐色（10YR 4/6）	粘性弱、黒褐色土混入
20	黒褐色（10YR 3/2）	

第47図　ＳＩ016竪穴住居跡カマド実測図

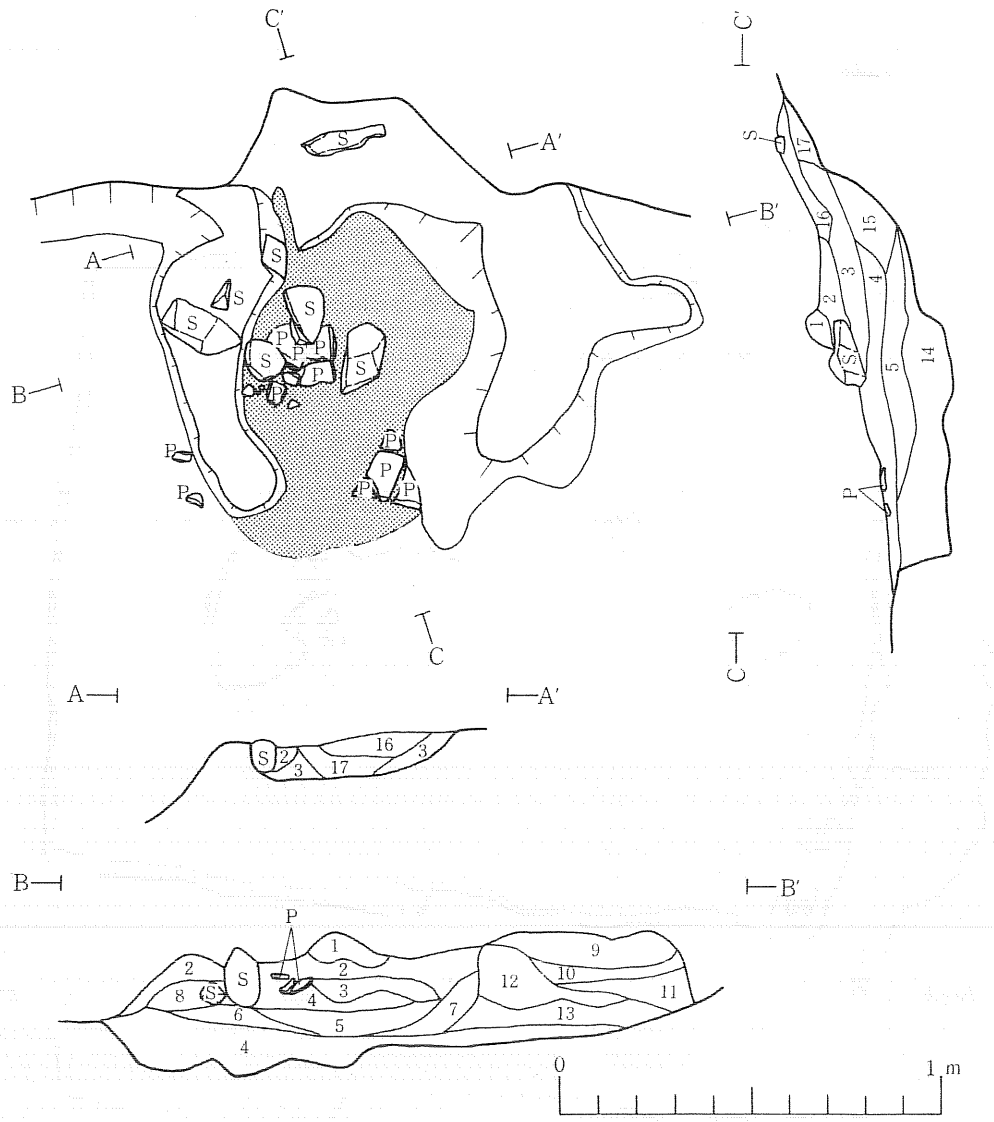
第36表　SI 017竪穴住居跡観察表

挿図		48			
図版		23、24			
形態		方形			
主軸方向		N－61.5°－W			
法量	面積	15.4 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	420 cm	415 cm	320 cm	360 cm
	壁高	16～24cm	2～5 cm	2～17cm	9～20 cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		壁は低く作られているが、部分によって立ち上がり角度が異なる。			
壁溝		————			
ピット		P 1 (14) P 2 (9) P 3 (11) （単位cm） 柱穴は確認されなかった。			
床面		貼床であるが地山の礫が露出して凹凸を示す。			
カマド		東壁北寄りに位置するもので、残存状態は良好である。袖は芯材として20cmほどの石を使用し粘土を貼り付けている。煙道は緩やかに立ち上がる。燃焼部内に15cmほどの柱状の石を支脚として使用したらしい。カマド内より多くの土師器片を出土した。			
遺物		須恵器、土師器、砥石 1			
備考		————			





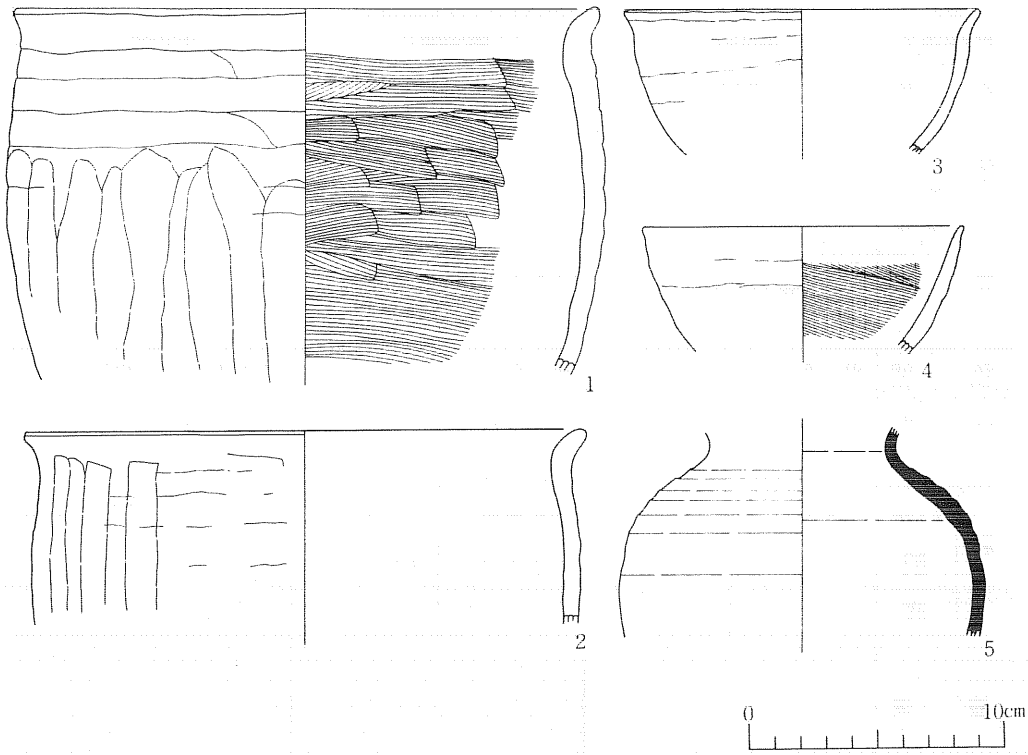
第48図　ＳＩ017竪穴住居跡実測図

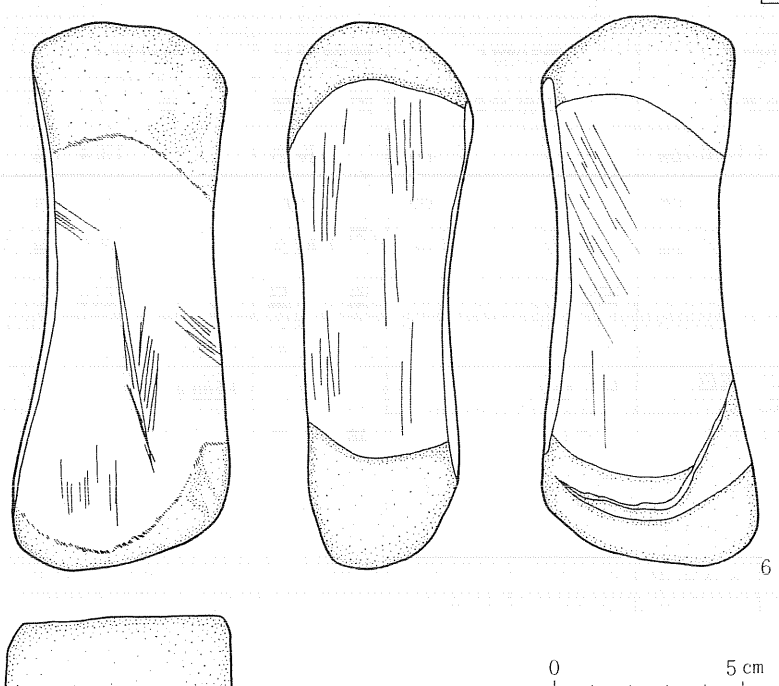


層	土色	備考
1	明褐色（7.5 YR 5/6）	粘土質、焼成を受けている
2	黒色（7.5 YR 1.7/1）	粘性弱
3	暗褐色（7.5 YR 3/4）	粘性弱、焼土混入
4	明赤褐色（5 YR 5/8）	粘性弱、焼土
5	暗赤褐色（5 YR 3/4）	粘性弱、焼土
6	褐色（7.5 YR 4/4）	粘性弱
7	暗赤褐色（5 YR 3/4）	粘性弱、焼土
8	褐色（7.5 YR 4/4）	
9	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱

層	土色	備考
10	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性弱
11	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性弱
12	黄褐色（10 YR 5/6）	粘土質、袖部
13	黒色（7.5 YR 2/1）	粘性弱
14	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性弱、明黄褐色土混入
15	黒褐色（7.5 YR 2/2）	
16	極暗褐色（7.5 YR 2/3）	
17	暗褐色（7.5 YR 3/3）	

第49図　ＳＩ017竪穴住居跡カマド実測図





第50図　ＳＩ017竪穴住居跡出土遺物実測図

第37表　ＳＩ017出土遺物観察表

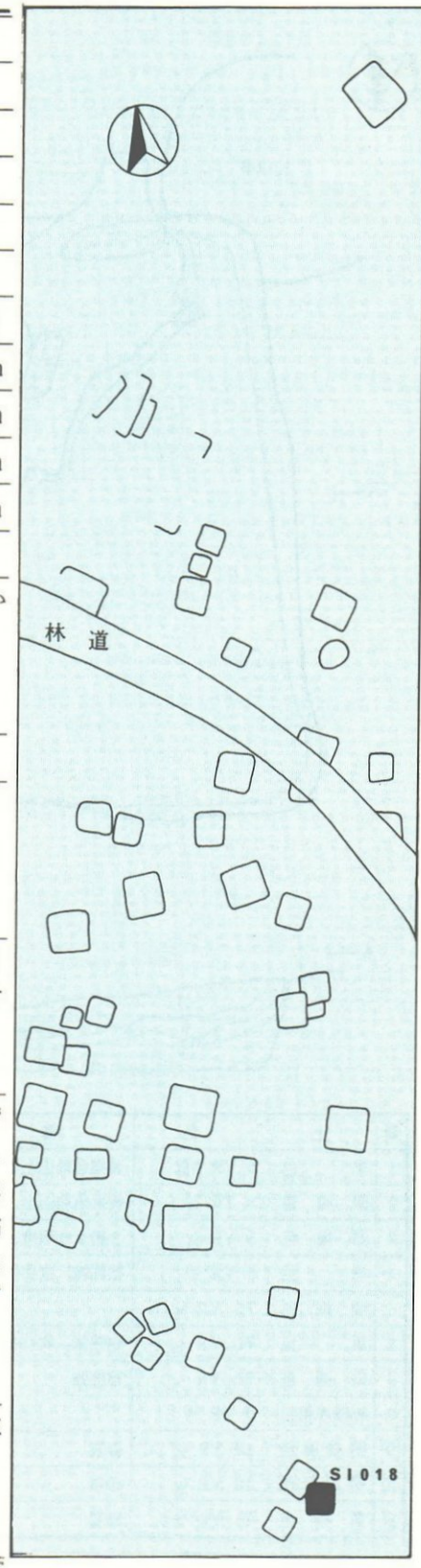
挿図番号		第50図1		第50図2		第50図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器坏	
法量	口径	（23）cm		（22）cm		（14）cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		やや荒い 3～5㎜大の小石を含む		3～5㎜の小石を含む		細かい	
焼成		良好		良好		良好	
色調		橙色		橙色		内外面ともに橙色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ	ユビナデ
	底						
備考							

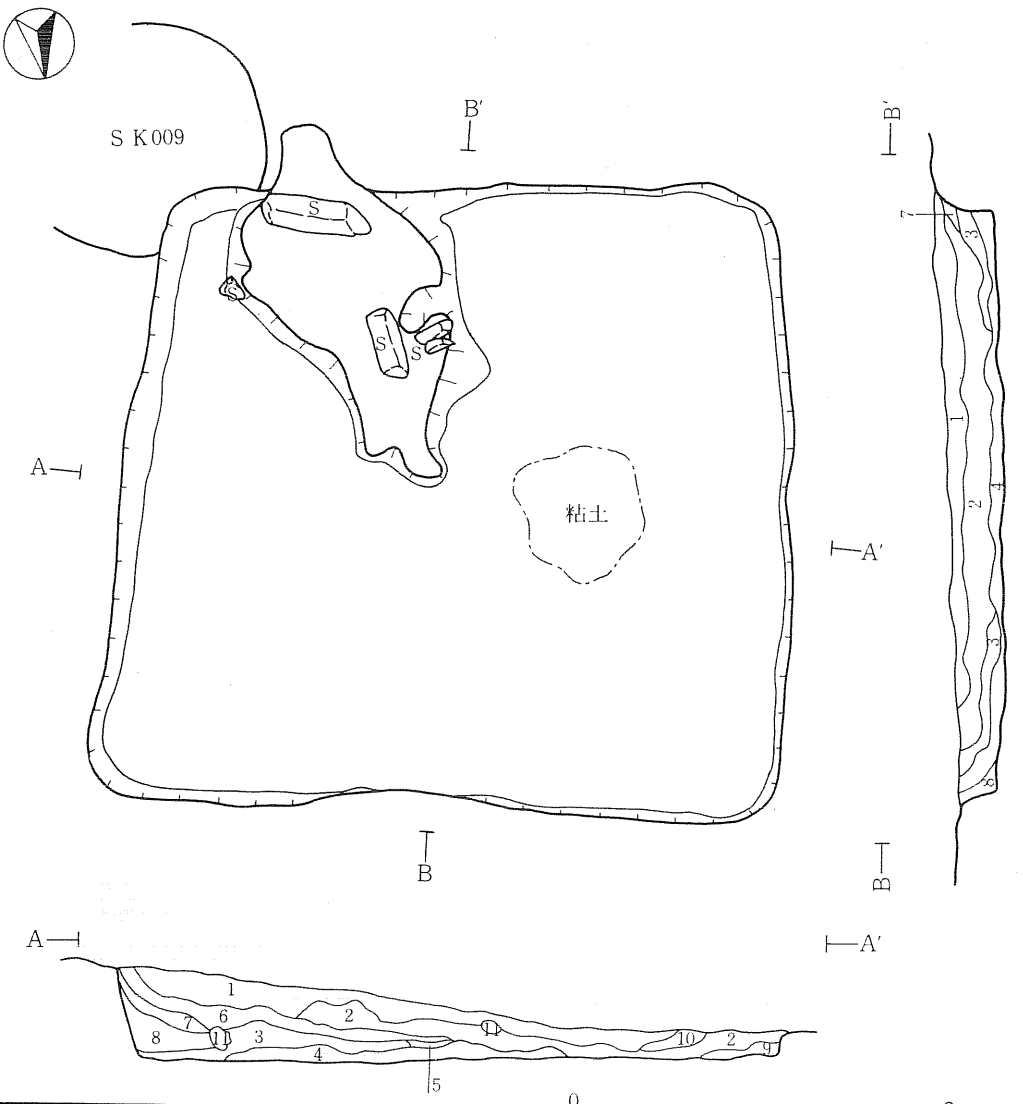
挿図番号		第50図4		第50図5		挿図番号	第50図6
器種		土師器坏		須恵器壷		器種	砥石
法量	口径	（12.6）cm		cm		法量 長さ	13.4 cm
	底径	cm		cm		幅	4.5 cm
	器高	cm		cm		厚さ	3.6 cm
胎土		細かい		細かい		重量	519 g
焼成		良好		良好		石質	流紋岩
色調		外面　にぶい褐色 内面　橙色		灰色		備考	砥面4
成形		粘土紐巻き上げ		ロクロ			
		外面	内面	外面	内面		
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ				
	胴		ヘラナデ				
	底						
備考							

第38表　SI 018竪穴住居跡観察表

挿図		51			
図版		24、25			
形態		方形			
主軸方向		N－9.5°－W			
法量	面積	34.0 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	315 cm	342 cm	303 cm	377 cm
	壁高	38～45cm	6～19cm	19～44cm	7～42cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm

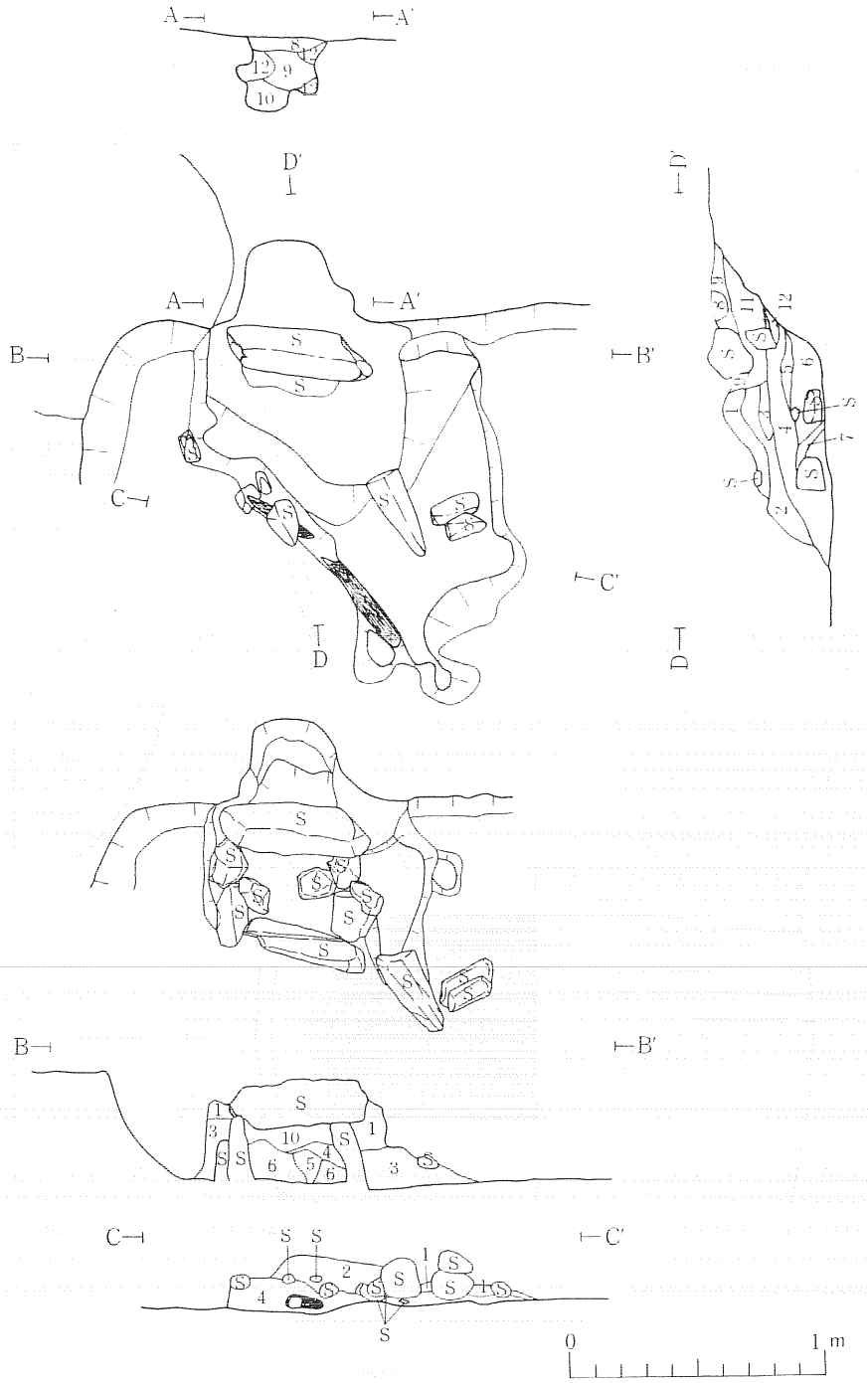
確認	地山面で確認された。
壁	床面よりほぼ垂直に立ち上がり、しっかりとしている。
壁溝	——
ピット	確認できなかった。
床面	細かな凹凸を示し、住居内南半部は堅くしまっている。床中央部に粘土が堆積する。
カマド	南壁東寄りに位置し、保存状態は良好である。袖、天井ともに芯材に石を使用しており、東側袖に倒れかかっている石は支脚として用いられたものであろう。粘土が貼り付けられているのが確認できた
遺物	土師器、紡錘車2
備考	SI 016、SK 009と重複するが、本住居跡が新しい。 C^{14} 年代測定値 1300±80y B．P．





層	土　　色	備　　考
1	黒　　色（5 YR 1.7/1）	黄褐色地山土混入
2	黒 褐 色（5 YR 2/1）	黄褐色地山土、炭化物混入
3	黒 褐 色（5 YR 3/1）	2層より明度、彩度が高い
4	黒　　色（5 YR 1.7/1）	粘性強、炭化物混入
5	明 褐 色（7.5 YR 5/6）	
6	黒　　色（7.5 YR 2/1）	粘性強、炭化物多量に混入
7	暗 褐 色（7.5 YR 3/3）	粘性強
8	極暗赤褐色（5 YR 2/3）	
9	明黄褐色（10 YR 6/6）	砂質
10	明黄褐色（10 YR 6/8）	砂質
11	黄 橙 色（7.5 YR 7/8）	砂質

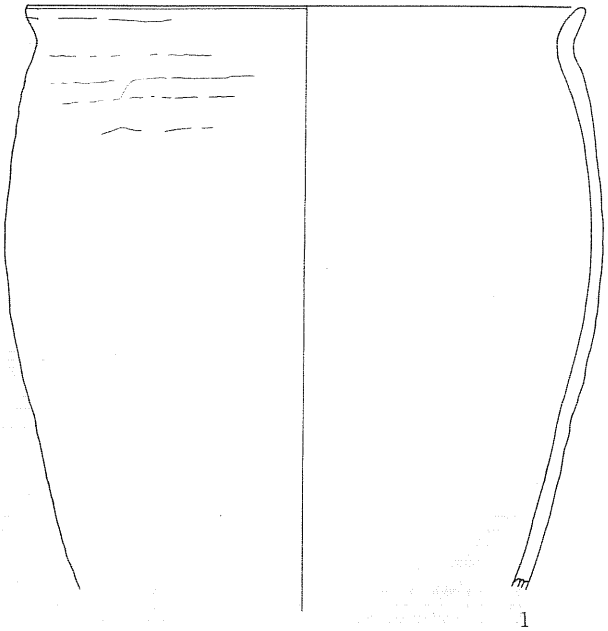
第51図　S I 018竪穴住居跡実測図

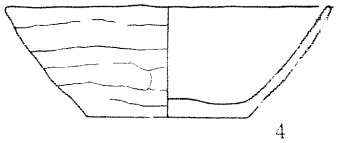


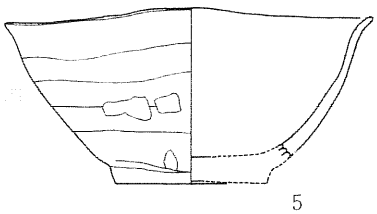
層	土色	備考
1	黄褐色（10 YR 5/6）	小石混入
2	明黄褐色（10 YR 6/6）	黒色土（10 YR 1.7/1）多量に混入
3	明赤褐色（5 YR 5/8）	焼土
4	黒色（10 YR 1.7/1）	
5	明赤褐色（5 YR 5/8）	焼土
6	黒色（10 YR 1.7/1）	

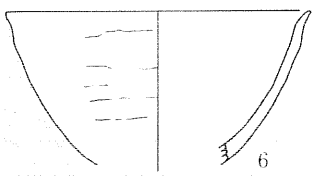
層	土色	備考
7	明赤褐色（5 YR 5/6）	焼土
8	黒褐色（7.5 YR 2/2）	
9	黒褐色（10 YR 2/2）	
10	黒褐色（10 YR 2/2）	焼土（明赤褐色 5 YR 5/6）混入
11	黄褐色（10 YR 5/6）	粘性強、熱を受けて固くしまっている
12	黒褐色（10 YR 2/2）	焼土（明赤褐色 5 YR 5/6）混入

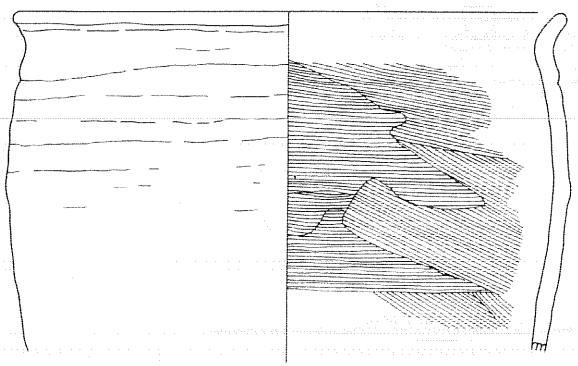
第52図　ＳＩ018竪穴住居跡カマド実測図

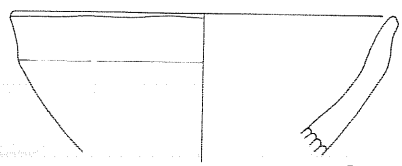


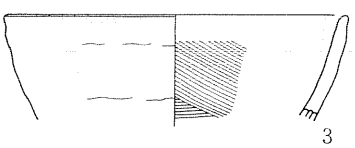




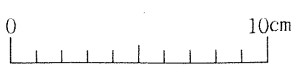


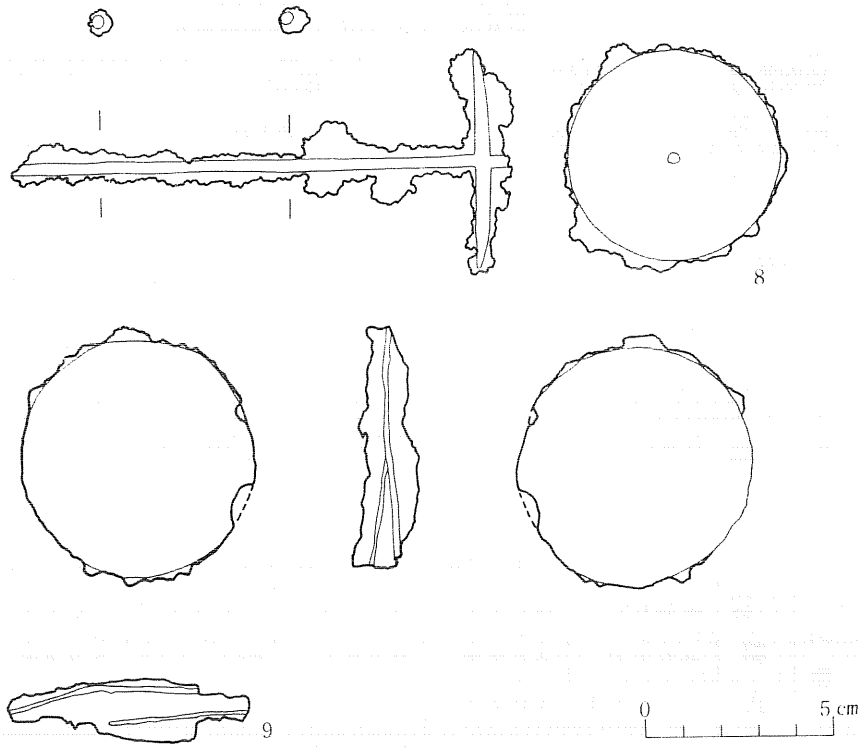






第53図　ＳＩ018竪穴住居跡出土遺物実測図（１）





第54図　ＳＩ018竪穴住居跡出土遺物実測図（２）

第39表　ＳＩ018出土遺物観察表(1)

挿図番号		第53図1		第53図2		第53図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器坏？	
法量	口径	(22.2)cm		(21.6)cm		13.6 cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		全体に細かい		細かい２～３㎜の小石混入		全体に細かいが５㎜大の小石を含む	
焼成		良好		良好		良好	
色調		外面橙色・内面にぶい赤褐色		にぶい橙色ないし黒褐色		黒褐色ないし褐灰色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ		ハケナデ
	底						
備考		外面煤状炭化物付着					

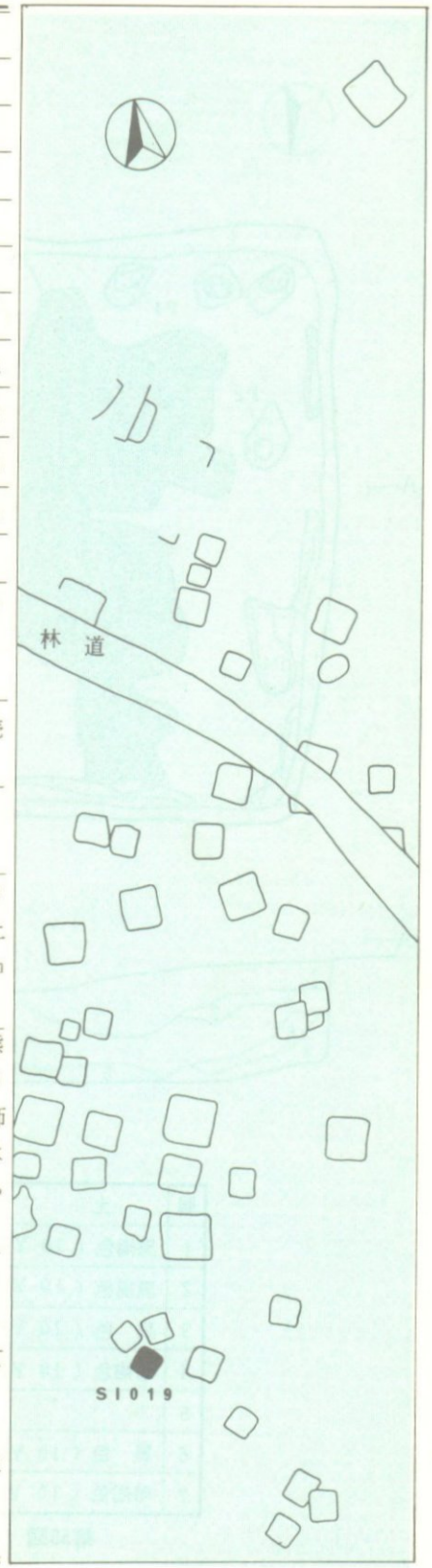
第40表　ＳＩ018出土遺物観察表(2)

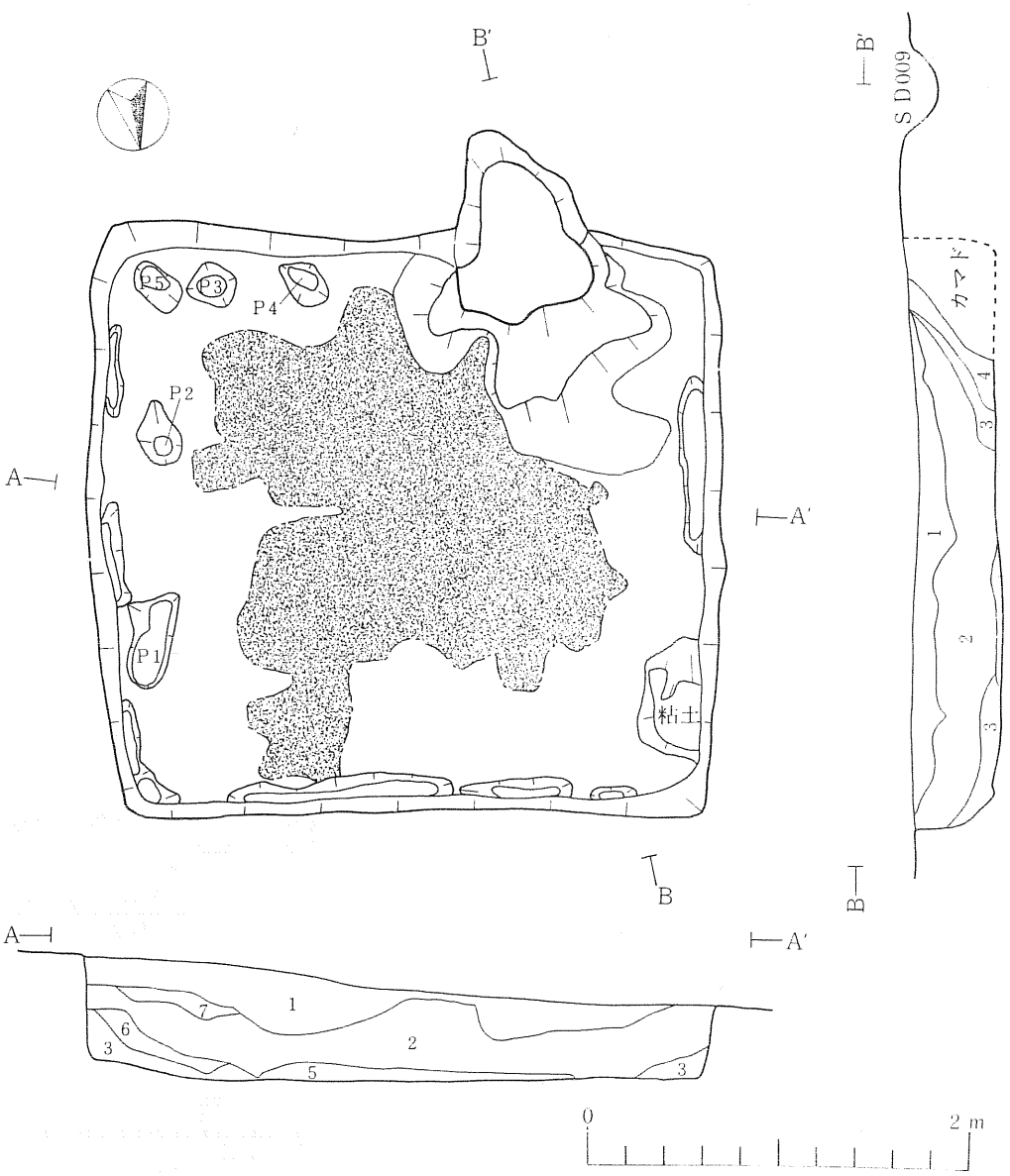
挿図番号		第53図4		第53図5		第53図6	
器種		土師器坏		土師器坏		土師器坏	
法量	口径	(12.8)cm		14.4 cm		(12)cm	
	底径	6.5 cm		(6)cm		cm	
	器高	4.4 cm		6.9 cm		cm	
胎土		細かい		細かい		細かいが7㎜大の小石を含む。	
焼成		良好		良好		良好	
色調		淡橙色		橙色、部分的に黒色・暗褐色化している。		内外ともに橙色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	コビナデ
	胴	ユビナデ	ユビナデ	ヘラナデ	細かいハケナデ	ヘラナデ	ヘラナデ
	底	ヘラケズリ	ユビナデ				
備考				口縁・胴部・底部にかけて全体の¼が欠損。底部はあげ底ぎみ、スダレ状の圧痕あり。			

挿図番号		第53図7		挿図番号		第54図8	
器種		土師器坏・埦		器種		紡錘車	
法量	口径	(15)cm		法量	紡輪径	5.6 cm	
	底径	cm			紡輪厚さ	0.4 cm	
	器高	cm			紡茎径	0.3 cm	
胎土		細かい			紡茎長さ	(13.2)cm	
焼成		良好		備考		紡茎一部欠損	
色調		外面褐灰色・内面橙色		挿図番号		第54図9	
成形				器種		紡錘車	
		外面	内面	法量	紡輪径	6.2 cm	
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ		紡輪厚さ	cm	
	胴		ヘラナデ		紡茎径	cm	
	底				紡茎長さ	cm	
備考				備考		紡茎欠失	

第41表　SI 019竪穴住居跡観察表

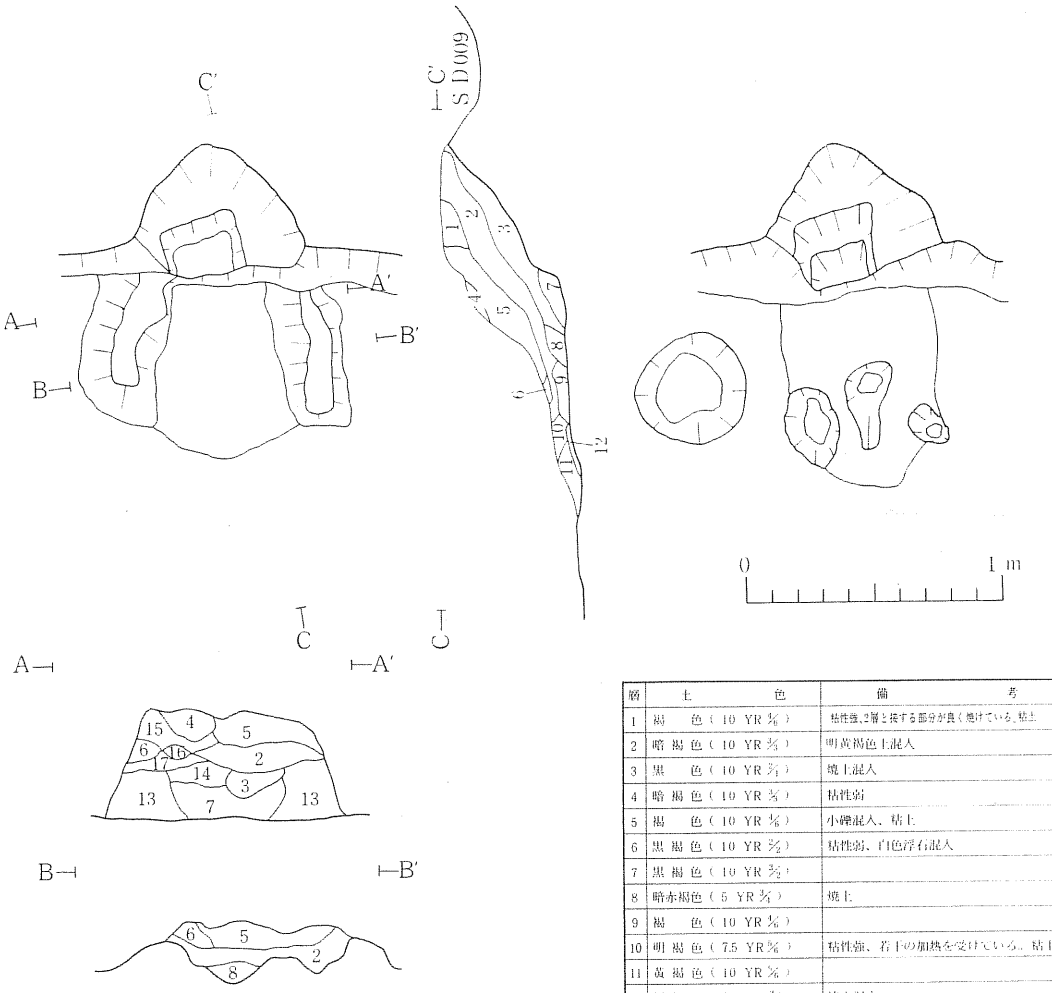
挿図		55			
図版		26			
形態		方形			
主軸方向		N－27.5°－E			
法量	面積	10.3 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	315 cm	300 cm	320 cm	305 cm
	壁高	41～57cm	36～43cm	31～48cm	35～48cm
	壁溝幅	3～10cm	10～15cm	——cm	5～13cm
	壁溝深	1～4 cm	1～4 cm	——cm	1～5 cm
確認		地山面で確認された。			
壁		床面よりほぼ垂直に立ち上がりしっかりと作られている。			
壁溝		カマド西側を除き24～94cmの長さで断続的に一巡する。			
ピット		————			
床面		地山をそのまま床面として使用しており細かな凹凸を示す。床面より1～2㎝上で炭化物(アシ又はカヤ)が厚さ1～5㎝で中央部に密集していた。			
カマド		南壁・西寄りに位置しており、保存状態は良好である。袖、天井部は粘土により作られており、東側の袖の先端には土師器甕破片が貼り付けられていた。煙道は床より一段上がり、緩やかに立ち上がっている。			
遺物		土師器			
備考		SD 010が本住居跡の煙道を若干切っており、SD 010が新しい。 焼失家屋である。 北西隅付近で粘土が15cmほど床面より浮いて検出された。 C^{14}年代測定値1060±85yB.P.			





層	土　　色	備
1	黒褐色（10 YR 2/2）	撹乱
2	黒褐色（10 YR 3/2）	黄褐色地山土混入
3	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強、浮石混入
4	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性弱、浮石混入
5		炭化物
6	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
7	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性弱

第55図　ＳＩ019竪穴住居跡実測図

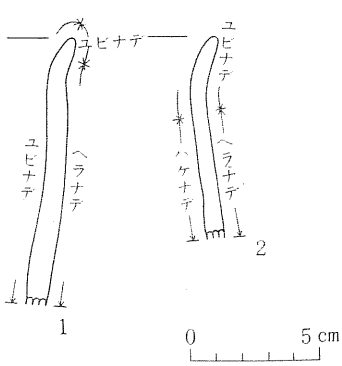


第42表　SI 019出土遺物観察表

挿図番号		1		2	
器種		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm	
	底径	cm		cm	
	器高	cm		cm	
胎土		1～3㎜大の礫含む		1～6㎜大の小石を含む	
焼成		良好		良好	
色調		赤褐色		灰褐色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底				

層	土色	備考
1	褐色（10 YR ¾）	粘性強、2層と接する部分が良く焼けている、粘土
2	暗褐色（10 YR ¾）	明黄褐色土混入
3	黒色（10 YR ¾）	焼土混入
4	暗褐色（10 YR ¾）	粘性弱
5	褐色（10 YR ¾）	小礫混入、粘土
6	黒褐色（10 YR ¾）	粘性弱、白色浮石混入
7	黒褐色（10 YR ¾）	
8	暗赤褐色（5 YR ¾）	焼土
9	褐色（10 YR ¾）	
10	明褐色（7.5 YR ¾）	粘性強、若干の加熱を受けている、粘土
11	黄褐色（10 YR ¾）	
12	黒褐色（7.5 YR ¾）	焼土混入
13	黄褐色（10 YR ¾）	3、7層と接する部分が良く焼けている、地盤
14	暗褐色（10 YR ¾）	粘性強
15	黄褐色（10 YR ¾）	黄褐色浮石
16	にぶい黄褐色（10 YR ¾）	
17	黒褐色（10 YR ¾）	焼土混入

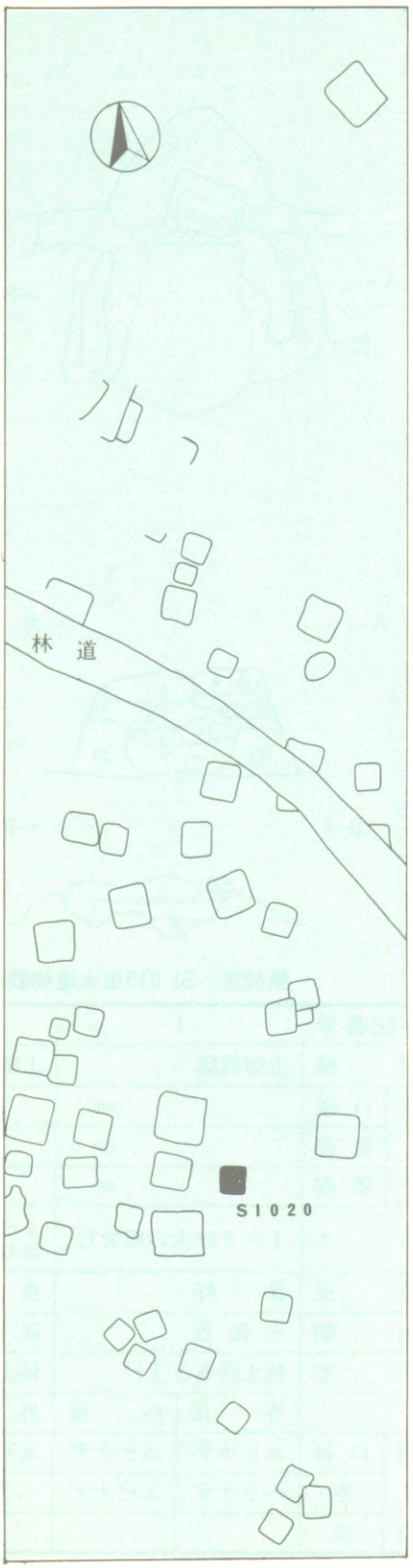
第56図　S I 019竪穴住居跡カマド実測図

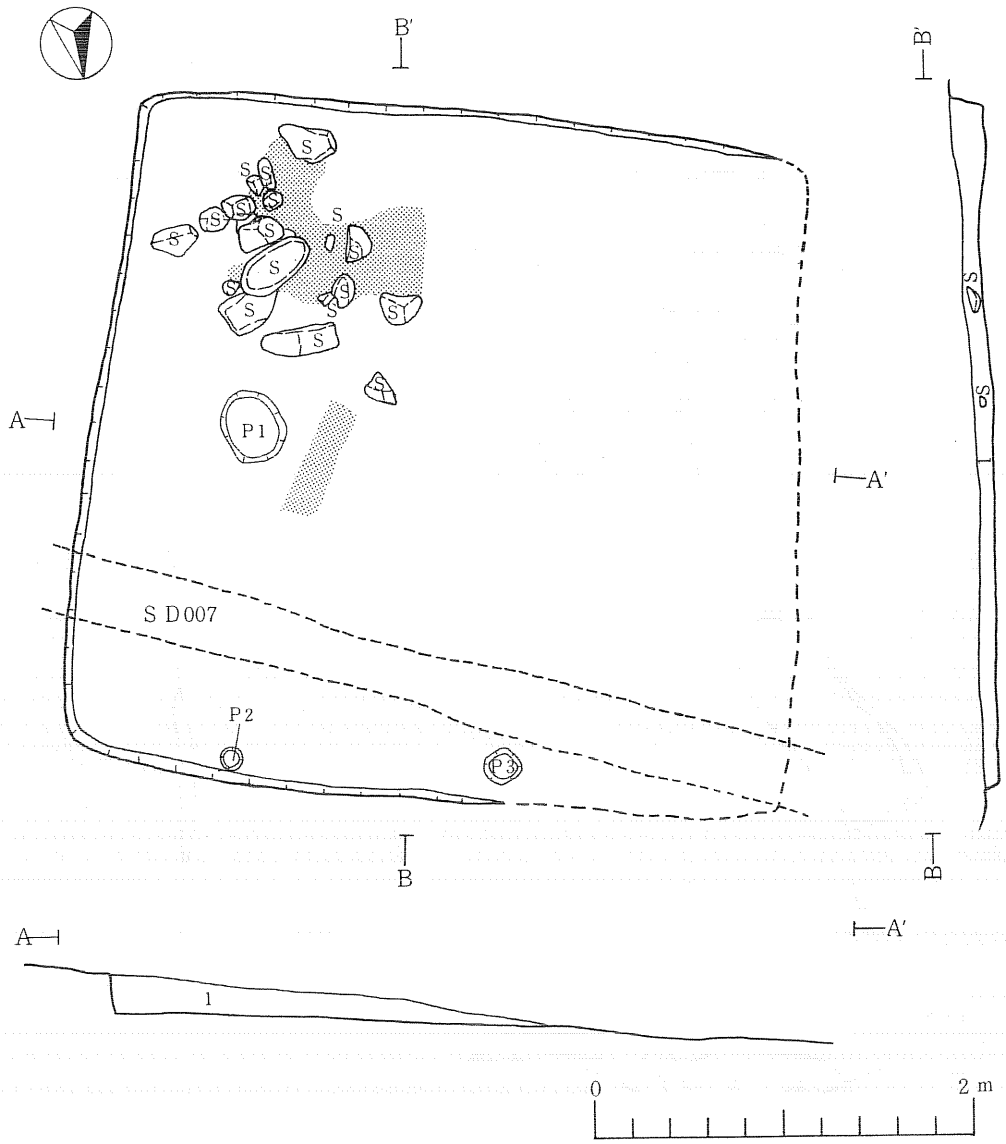


S I 019出土遺物

第43表　SI 020竪穴住居跡観察表

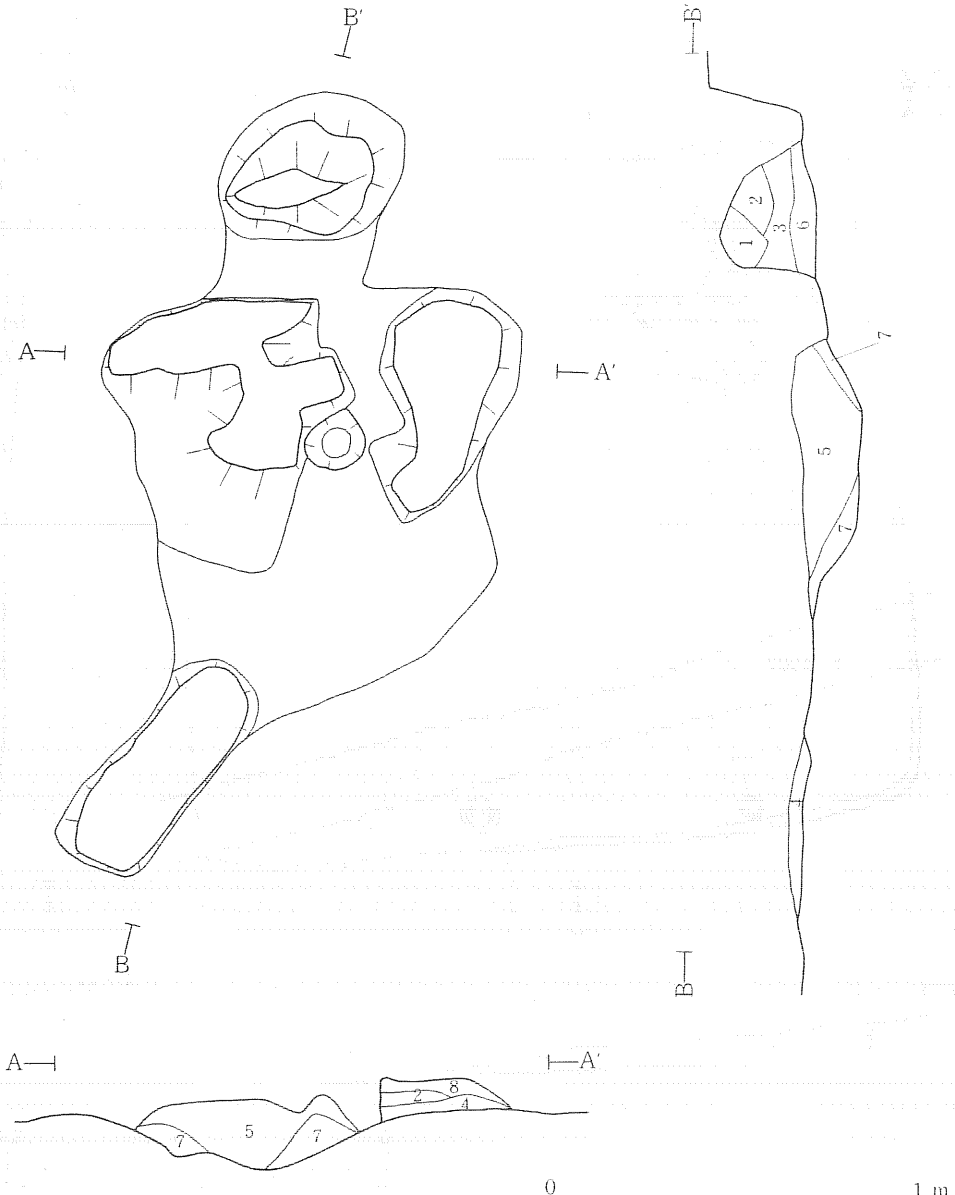
挿図		57			
図版		27			
形態		方形			
主軸方向		N－15.0°－E			
法量	面積	13.5 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	350 cm	340 cm	357 cm	380 cm
	壁高	16～22cm	—— cm	8～23cm	0～20cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		暗褐色土中で確認された。			
壁		西壁と北壁半分は存在しないが、東壁・南壁及び北壁東側は、床面よりほぼ垂直に立ち上がっている。			
壁溝		————			
ピット		P1(7)P2(6)P3(12)(単位cm) 柱穴は確認できなかった。			
床面		床面は地山まで達しておらず、全体が暗褐色土である。			
カマド		残存状態は非常に悪く、カマドに使用されたと考えられる石と焼土が南壁東寄りに分布するだけである。			
遺物		土師器			
備考		SD 007が、住居廃絶後に住居北側覆土上に走る。			





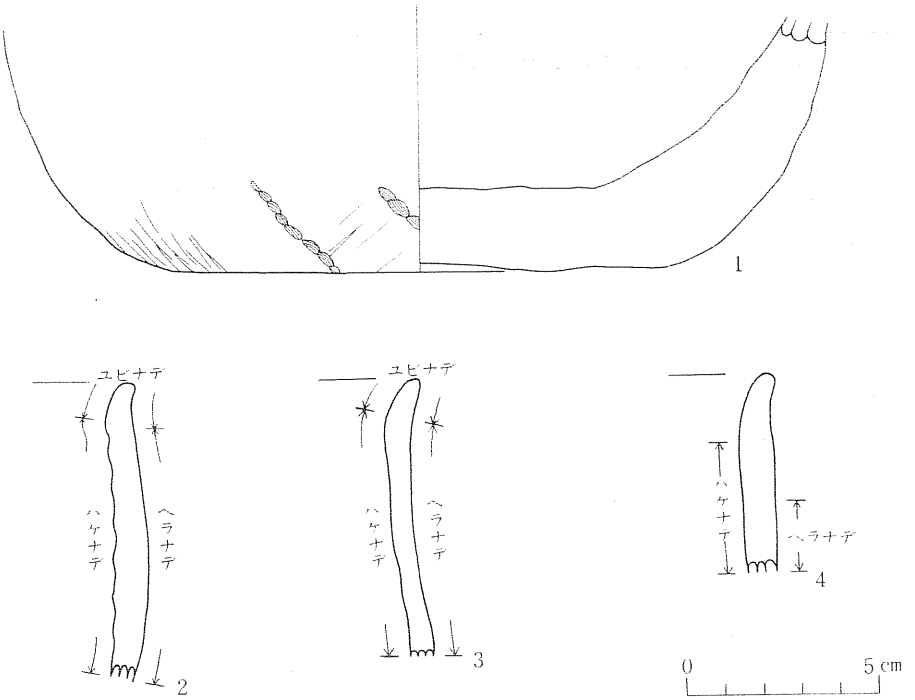
層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、白色浮石混入

第57図　ＳＩ020竪穴住居跡実測図



層	土　　色	備　　考
1	暗赤褐色（5 YR 3/2）	
2	黒　　色（5 YR 1.7/1）	粘性弱
3	黒 褐 色（7.5 YR 3/2）	
4	暗 褐 色（7.5 YR 3/4）	
5	明赤褐色（5 YR 5/6）	粘性弱、焼土
6	明 褐 色（7.5 YR 5/6）	粘性弱、焼土
7	暗 褐 色（7.5 YR 3/4）	粘性弱
8	褐　　色（7.5 YR 4/4）	粘性弱

第58図　ＳＩ020竪穴住居跡カマド実測図



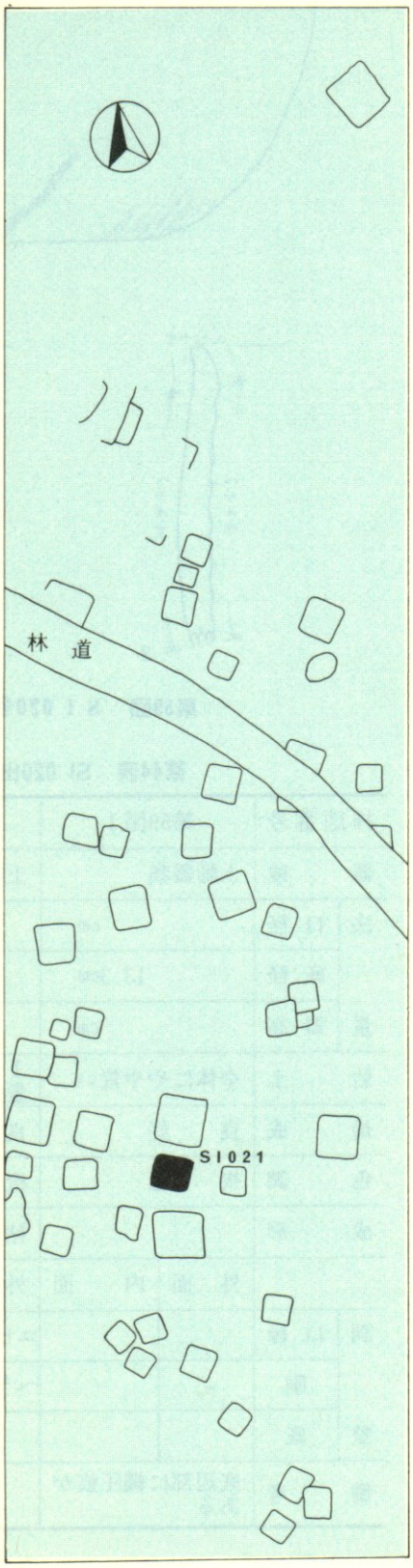
第59図　ＳＩ020竪穴住居跡出土遺物実測図

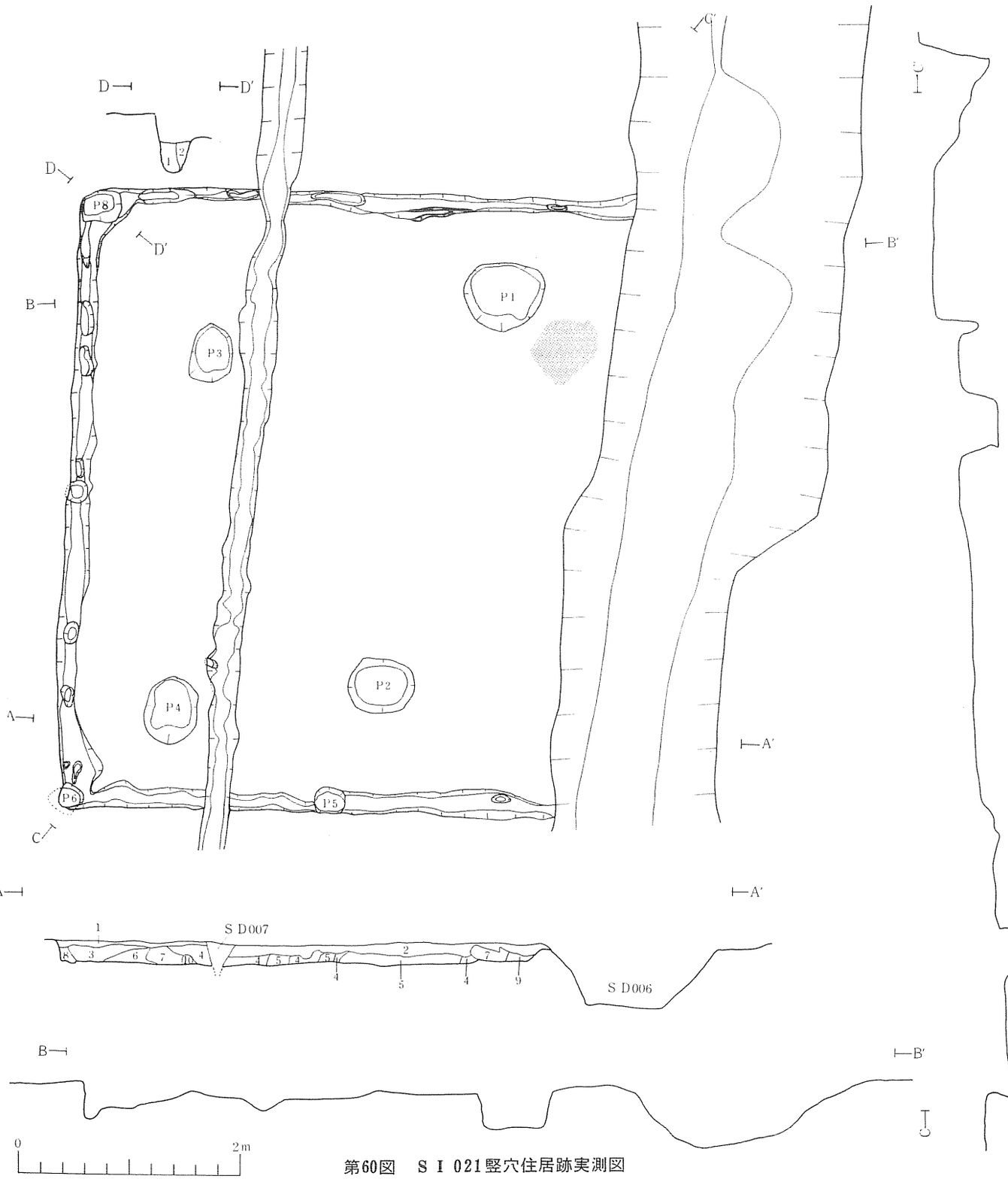
第44表　SI 020出土遺物観察表

挿図番号		第59図1		第59図2		第59図3		第59図4	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm		cm		cm	
	底径	13.3cm		cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm		cm	
胎土		全体にやや荒い		1～3㎜大の礫多量に含む		1～3㎜大の礫を含む		細かい	
焼成		良好		良好		良好		良好	
色調		褐色		橙色		にぶい橙色		赤褐色	
成形				粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁			ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ		
	胴			ヘラナデ	細かいハケナデ	ヘラナデ	細かいハケナデ	ヘラナデ	細かいハケナデ
	底								
備考		底辺部に縄圧痕がある							

第45表　SI 021竪穴住居跡観察表

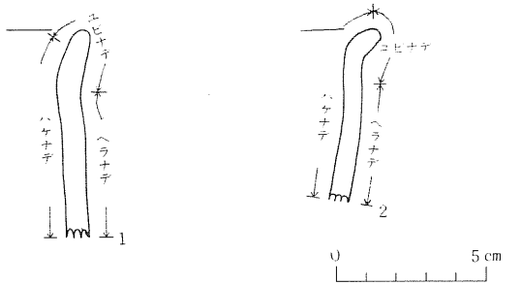
挿図		60			
図版		28			
形態		方形			
主軸方向		N－17.0°－E			
法量	面積	―― ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	―― cm	―― cm	―― cm	555 cm
	壁高	20～33cm	15～20cm	―― cm	18～24cm
	壁溝幅	10～23cm	8～28cm	―― cm	14～22cm
	壁溝深	1～22cm	3～30cm	―― cm	0～20cm
確認		地山の上の褐色土層中に確認された。			
壁		床からほぼ垂直に近く立ち上がる。			
壁溝		東・北・西壁に存在する。			
ピット		P 1 (33) P 2 (17) P 3 (7) P 4 (13) P 5 (30) P 6 (40) P 7 (17) P 8 (30) (単位cm) 床面と壁溝内に8個検出された。P 6はコーナー外方に向って入り込んでいる。			
床面		地山を床としており、細かな凹凸がある西に向って傾斜しており、東西端では約30cmの高低差がある。			
カマド		SD 006に切断されて残存しないが、住居南東隅付近に焼土が若干分布しておりこの付近にカマドが存在したものであろう。			
遺物		土師器			
備考		SD 006とSD 007に切られている。			





第60図　ＳＩ021竪穴住居跡実測図

層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 2/2）	
2	暗褐色（10 YR 3/3）	
3	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強
4	黒褐色（10 YR 3/3）	
5	黒褐色（10 YR 2/2）	
6	褐　色（10 YR 4/4）	
7	黒　色（10 YR 2/1）	
8	黒褐色（10 YR 2/3）	
9	黄褐色（10 YR 5/8）	砂質
10	暗褐色（10 YR 3/3）	

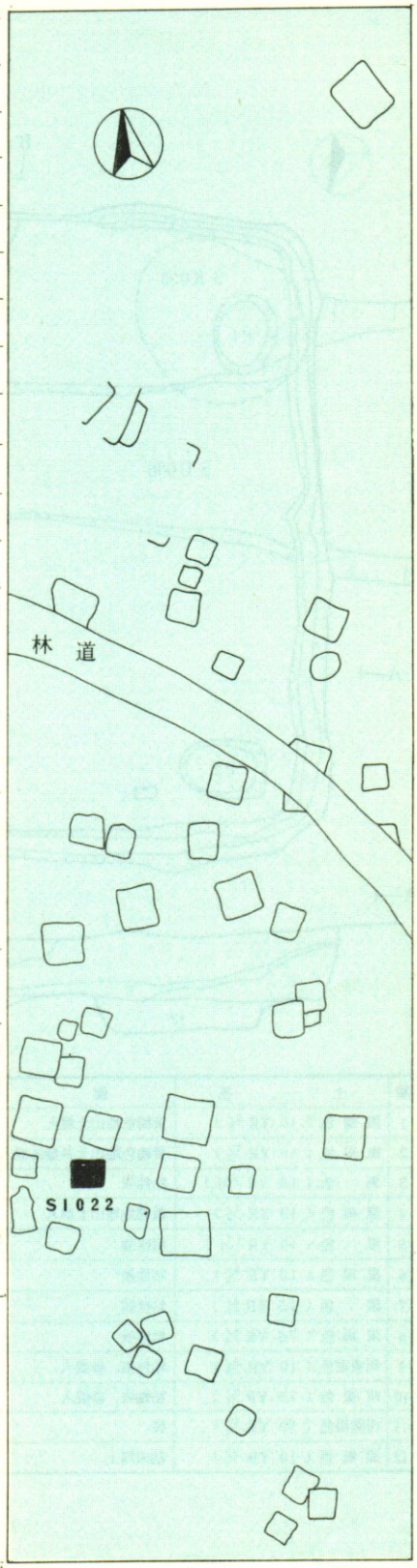


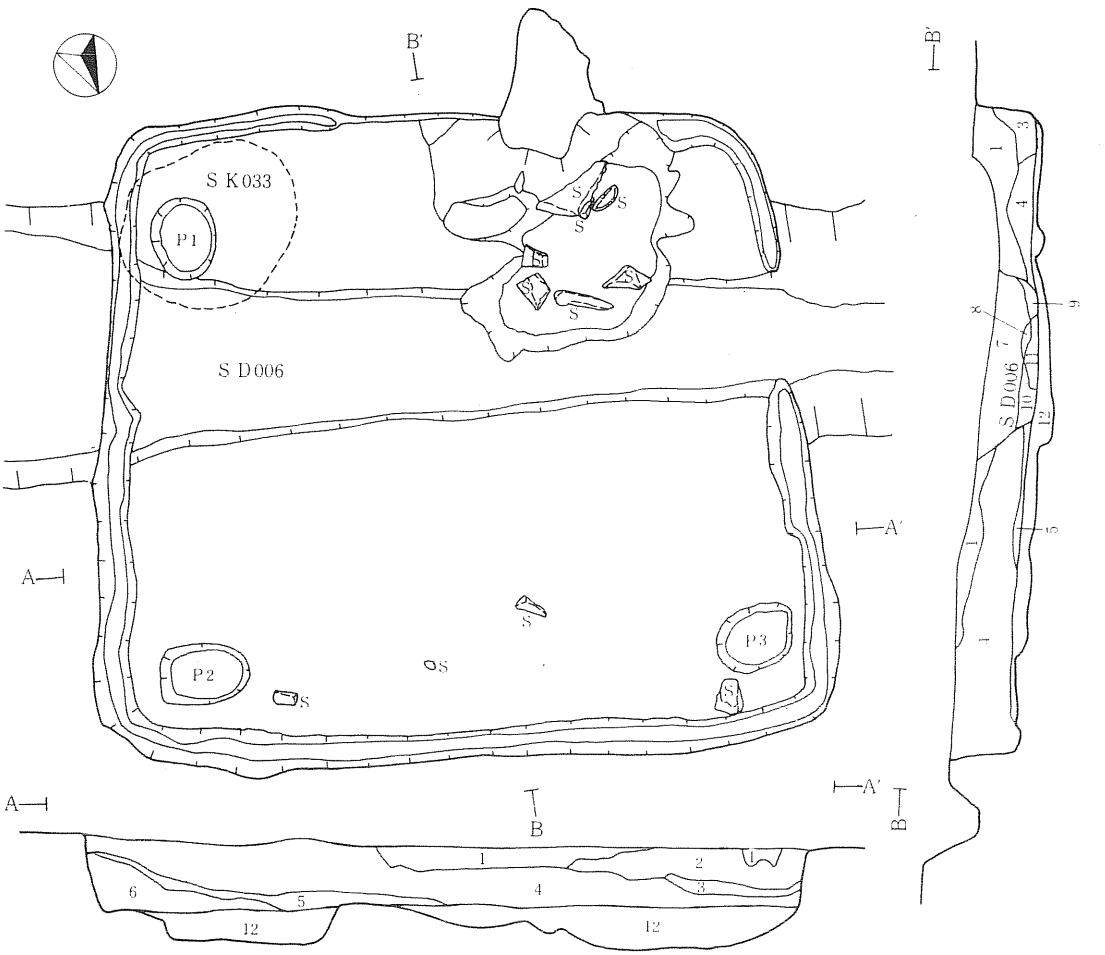
第46表　ＳＩ021出土遺物観察表

挿図番号		1		2	
器種		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm	
	底径	cm		cm	
	器高	cm		cm	
胎土		5㎜大の小石含む		細かい	
焼成		良好		良好	
色調		明赤褐色		明赤褐色	
成形		粘土紐巻き上げ			
		外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底				
備考		両面に煤状炭化物付着			

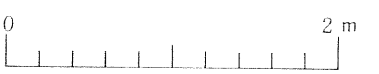
第47表　SI 022竪穴住居跡観察表

挿図		61			
図版		28			
形態		方形			
主軸方向		N－19.0°－E			
法量	面積	16.6 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	362 cm	364 cm	372 cm	436 cm
	壁高	42～47cm	25～33cm	29～32cm	30～46cm
	壁溝幅	16～30cm	12～26cm	10～22cm	16～30cm
	壁溝深	2～4 cm	1～9 cm	5 cm	1～5 cm
確認		地山面で確認された。			
壁		床面よりほぼ垂直に立ち上がり、しっかりとした作りである。 東・西壁はSD 006により切られる。			
壁溝		カマド東側の一部を除いて、ほぼ一巡する。			
ピット		P 1 (20) P 2 (22) P 3 (33) (単位cm) 柱穴はP 1～3であるが南西コーナーにおいては確認できなかった。 P 3はSK (f)033と重複する。			
床面		平坦で堅くしまっている。			
カマド		南壁西寄りに位置し、保存状態は良好である。袖は芯材として石を使用したものであるが、西側の袖は崩壊している。これに伴い天井石も崩れている。又、燃焼部前面は、小判形に（123×65×5 cm）掘りくぼめられており、内部には5個の石が半円状に配されている。			
遺物		土師器			
備考		SD 006とSK (f)033が重複するが新旧関係はSK (f) 033→SI 022→SD 006である。			

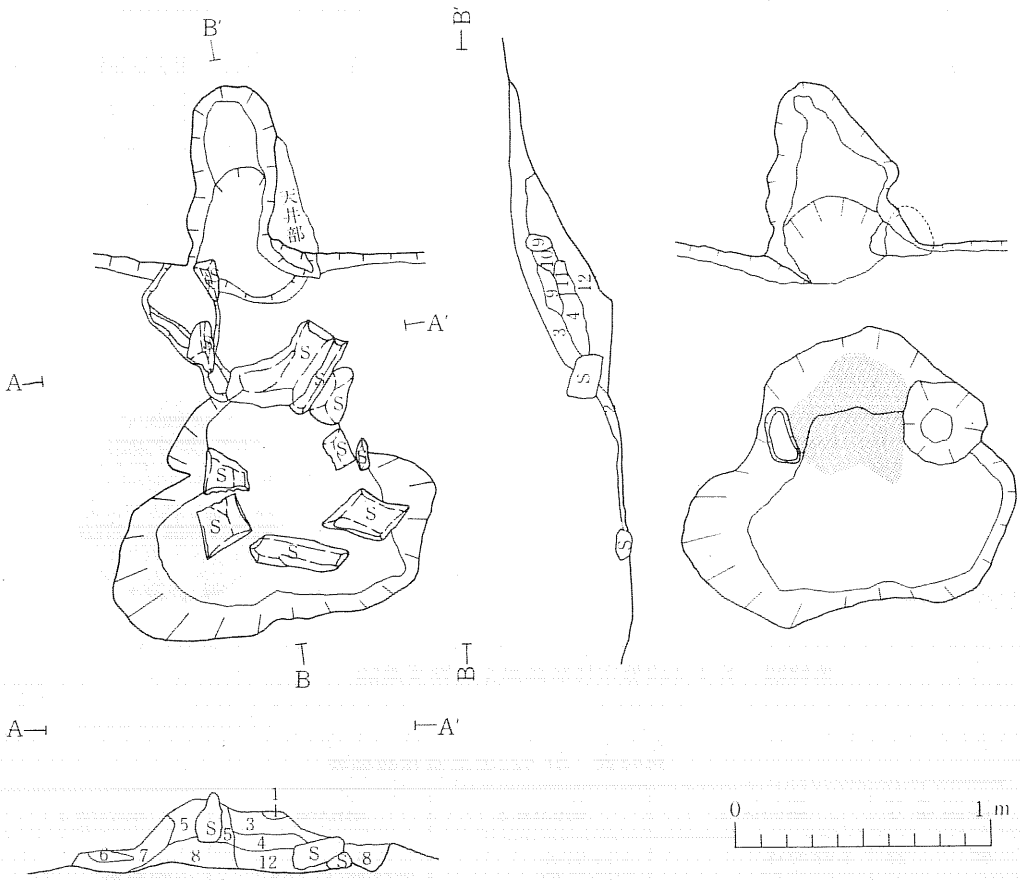




層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 2/3）	黄褐色地山土混入
2	黒褐色（10 YR 3/2）	黄褐色地山土多量に混入
3	黒色（10 YR 1.7/1）	粘性強
4	黒褐色（10 YR 2/3）	黄褐色地山土混入
5	黒色（10 YR 1.7/1）	粘性強
6	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強
7	黒色（7.5 YR 2/1）	粘性弱
8	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性強
9	明黄褐色（10 YR 6/8）	粘性強、砂混入
10	暗褐色（7.5 YR 3/4）	粘性強、砂混入
11	灰黄褐色（10 YR 5/2）	砂
12	黒褐色（10 YR 3/2）	貼床埋土

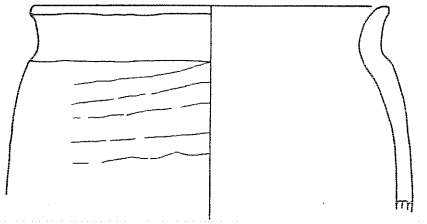


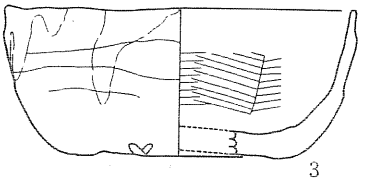
第61図　ＳＩ022竪穴住居跡実測図

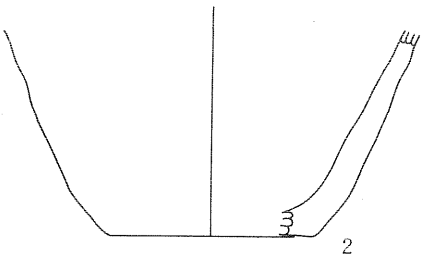


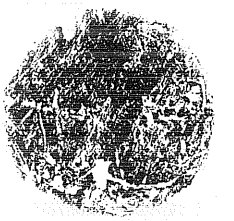
層	土　　色	備　　考
1	褐　色（10 YR 4/6）	粘土
2	黒　色（10 YR 2/1）	焼土混入
3	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
4	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強、黄褐色浮石混入
5	暗褐色（10 YR 3/4）	黒褐色土混入
6	褐　色（7.5 YR 4/4）	粘土
7	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
8	黒褐色（10 YR 2/2）	
9	暗褐色（10 YR 3/4）	粘土
10	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性弱
11	暗赤褐色（5 YR 3/3）	加熱を受けている。
12	黒褐色（10 YR 3/1）	

第62図　ＳＩ022竪穴住居跡カマド実測図

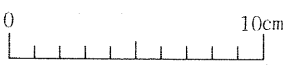








第63図　ＳＩ022竪穴住居跡出土遺物実測図

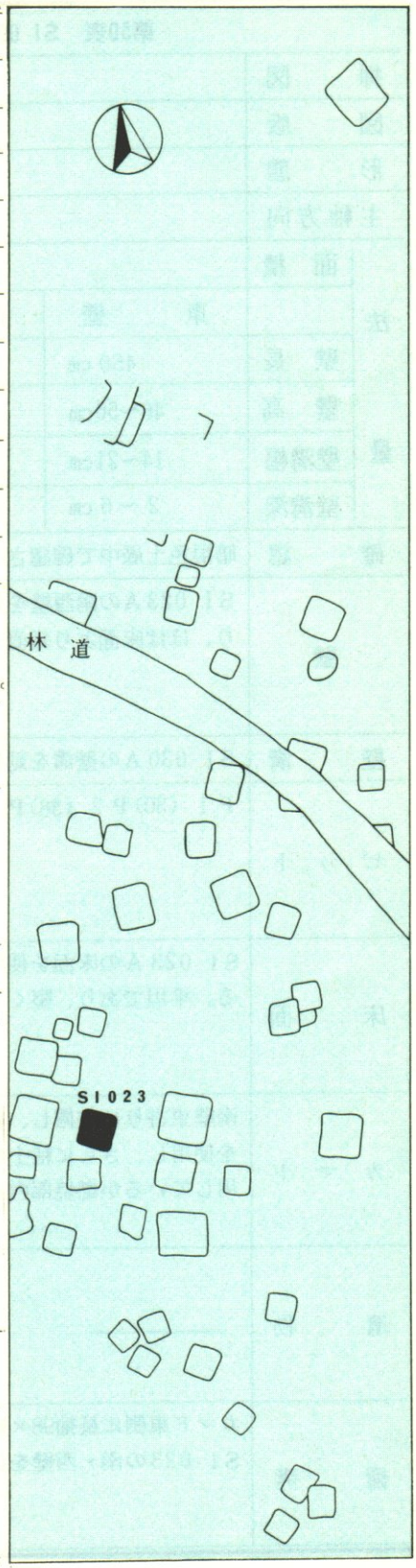


第48表　SI 022出土遺物観察表

挿図番号		第63図1		第63図2		第63図3		第63図4	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器坏・椀？		土師器甕	
法量	口径	(14)cm		cm		(14)cm		cm	
	底径	cm		(8)cm		(9)cm		8.4cm	
	器高	cm		cm		5.8cm		cm	
胎土		細かい		細かい２～３mmの小石含む		細かい		細かい	
焼成		良好		良好		良好		良好	
色調		橙色ないし灰褐色		橙色		にぶい橙色		赤褐色	
成形		粘土紐巻き上げ				粘土紐巻き上げ			
		外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ			ユビナデ	ユビナデ		
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ		ユビオサエ	ハケナデ		
	底					ヘラオコシ後にナデ	ハケナデ	ヘラナデ	
備考				底面砂多量に付着外面に煤状炭化物付着		両面に、煤状炭化物付着			

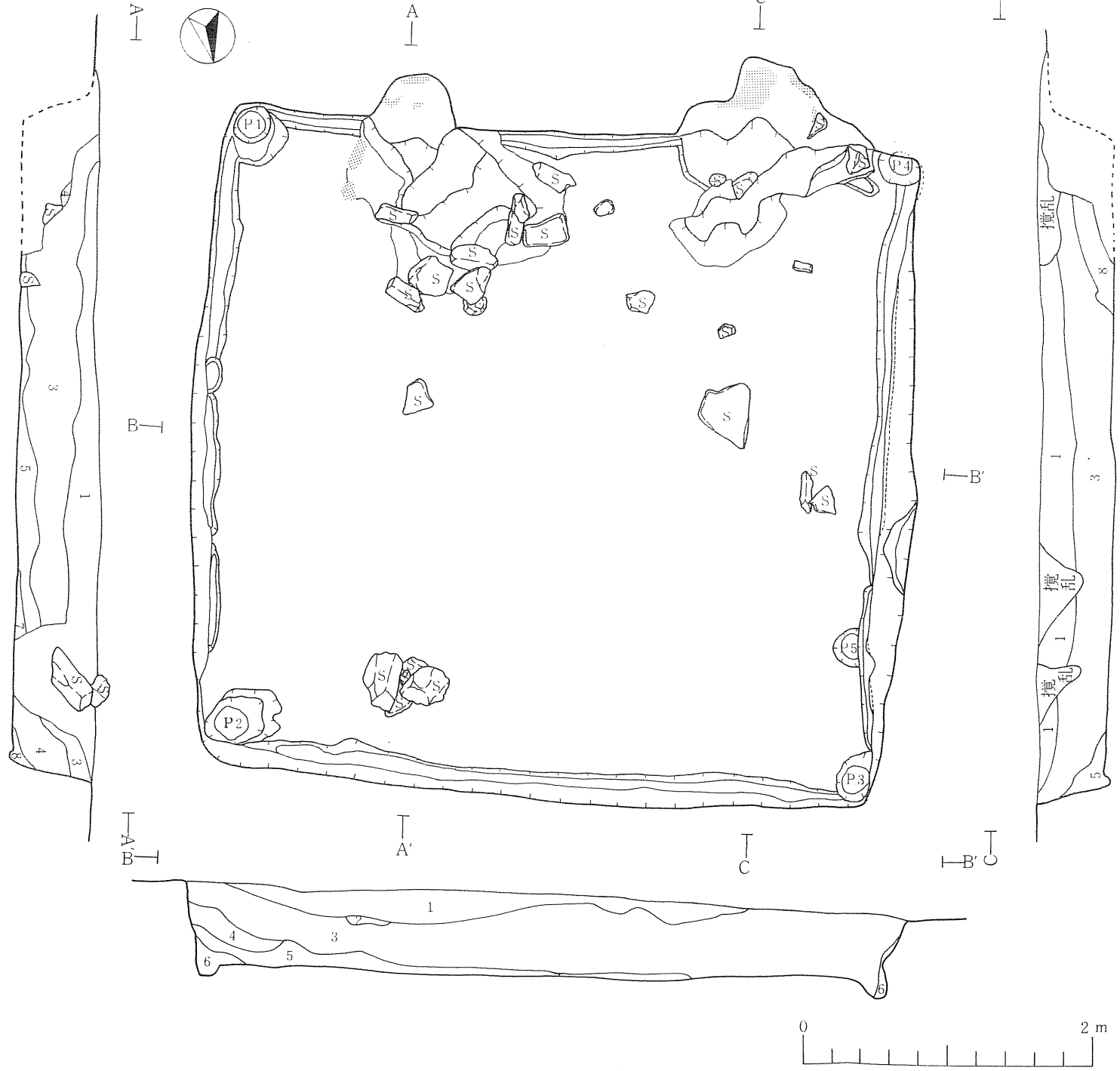
第49表　SI 023 A 竪穴住居跡観察表

挿図		64			
図版		29、30、31、32			
形態		方形			
主軸方向		N－18.0°－E			
法量	面積	13.2 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	337 cm	354 cm	372 cm	368 cm
	壁高	——cm	44～54cm	40～57cm	—— cm
	壁溝幅	10～18cm	8～36cm	8～19cm	—— cm
	壁溝深	1～10cm	2～13cm	4～9 cm	—— cm
確認		SI 023 B床面精査中に確認された。			
壁		東・北壁はSI 030 B拡張時に切除されて存在しないが、南・西壁はしっかりとしたつくりで、ほぼ垂直に立ち上がる。			
壁溝		西壁溝は確認できなかったが、その他はほぼ同一幅、深さで確認された。			
ピット		P 4 (32) P 5 (19) P 6 (41) P 7 (27) (単位cm) が柱穴である。			
床面		平坦で堅くしまっている。			
カマド		南壁西寄りに位置し、保存状態は良好である。袖は芯材として板石を使用し、さらに粘土を貼り付けているが、石は袖より剝離している。燃焼部は若干掘りくぼめられており二段になっている。 煙道も石を芯材として使用されたと考えられるが、西側しか残存しない。煙道は床面より垂直に立ち上がり、緩やかに壁外に出る。			
遺物		土師器、砥石1、小刀1			
備考		SI 023 Bは本住居跡を増築して作られたものである。			



第50表　SI 023B　竪穴住居跡観察表

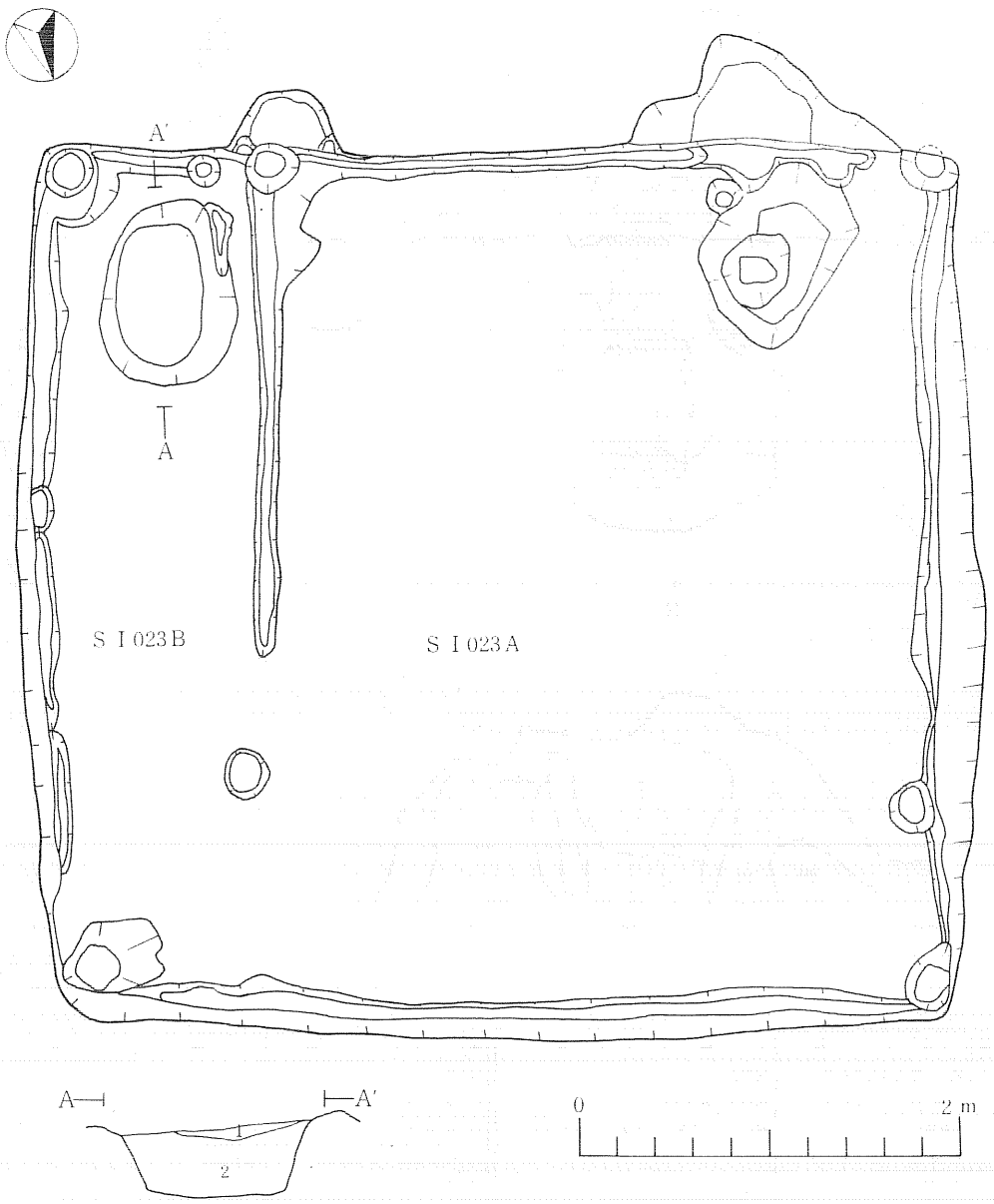
挿図		64			
図版		29、30、31、32			
形態		方形			
主軸方向		N－19.0°－E			
法量	面積	22.8 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	450 cm	448 cm	484 cm	456 cm
	壁高	46～56cm	45～52cm	40～57cm	50～56cm
	壁溝幅	14～21cm	8～36cm	8～19cm	10～28cm
	壁溝深	2～6 cm	2～13cm	4～9 cm	2～10cm
確認		暗褐色土層中で確認された。			
壁		SI 023Aの南西壁を延長して構築している。いずれの壁もしっかりとしており、ほぼ床面より垂直に立ち上がる。			
壁溝		SI 030Aの壁溝を延長使用しておりほぼ同一幅、深さで一巡する。			
ピット		P1（30）P2（36）P3（33）P4（32）（単位cm）			
床面		SI 023Aの床面を使用しつつ、拡張部分には、褐色土により貼床を施している。平坦であり、堅くしまっている。			
カマド		南壁東寄りに位置し、保存状態は良好である。袖は芯材として、人頭大の板石を使用し、さらに粘土を貼り付けている。天井も40cmほどの石を芯材として使用しているが燃焼部内に崩れている。煙道は壁とともに立ち上がっている。			
遺物		――――			
備考		カマド東側に長袖98×短軸72×深さ39cmの小判形のピットがある。本住居跡はSI 023の南・西壁を拡張、増築したものである。			



層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱
2	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、にぶい黄橙色粘土混入
3	黒褐色（10 YR 2/2）	黄褐色地山土混入
4	黒褐色（10 YR 2/3）	白色、明黄褐色浮石混入

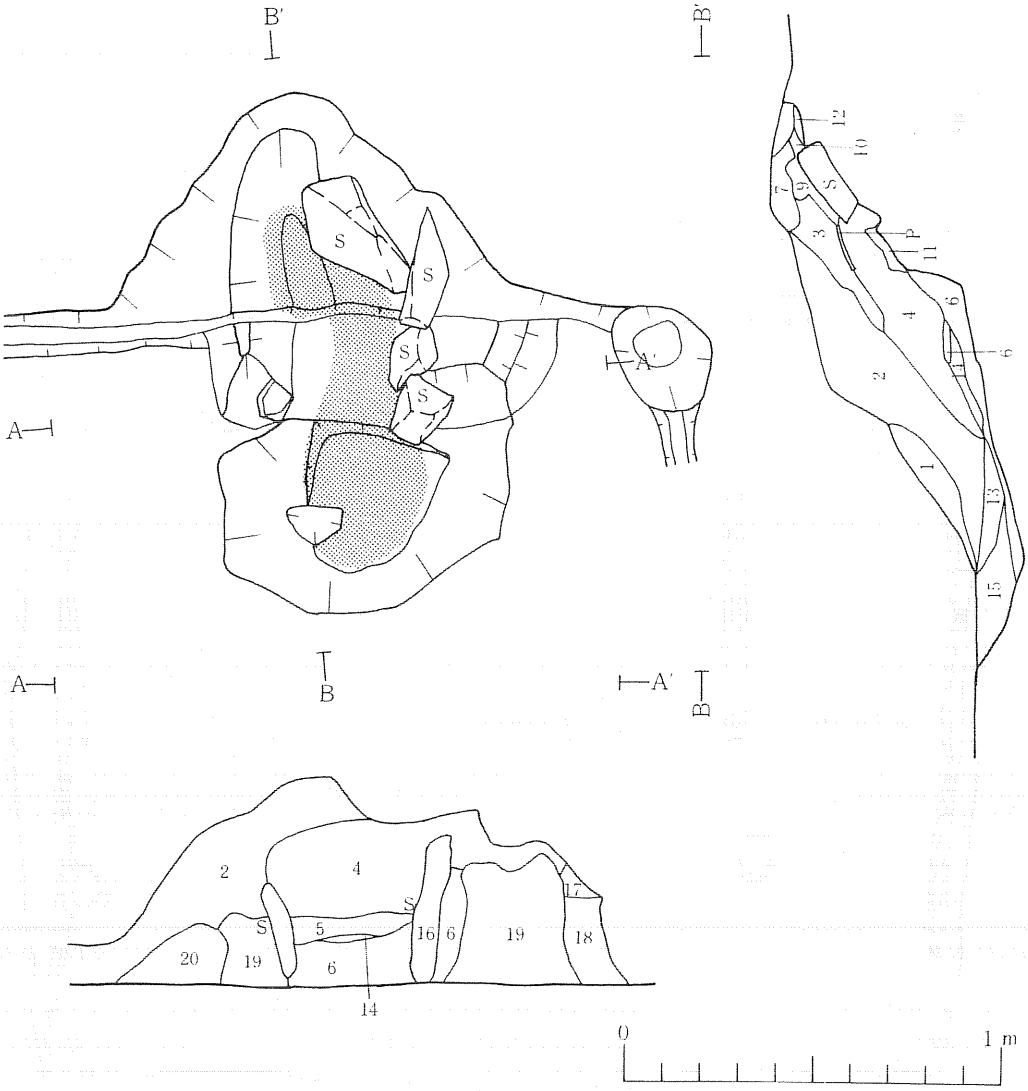
層	土色	備考
5	黒色（10 YR 2/1）	粘性強、黄褐色地山土混入
6	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱、〃
7	黒褐色（10 YR 2/3）	
8	黒褐色（10 YR 2/2）	

第64図　ＳＩ023Ａ・Ｂ竪穴住居跡実測図



層	土　　色	備　　考
1	黒褐色土（10 YR 2/2）	粘性強、明黄褐色地山土混入
2	褐 色 土（10 YR 4/6）	粘性弱、砂、浮石混入

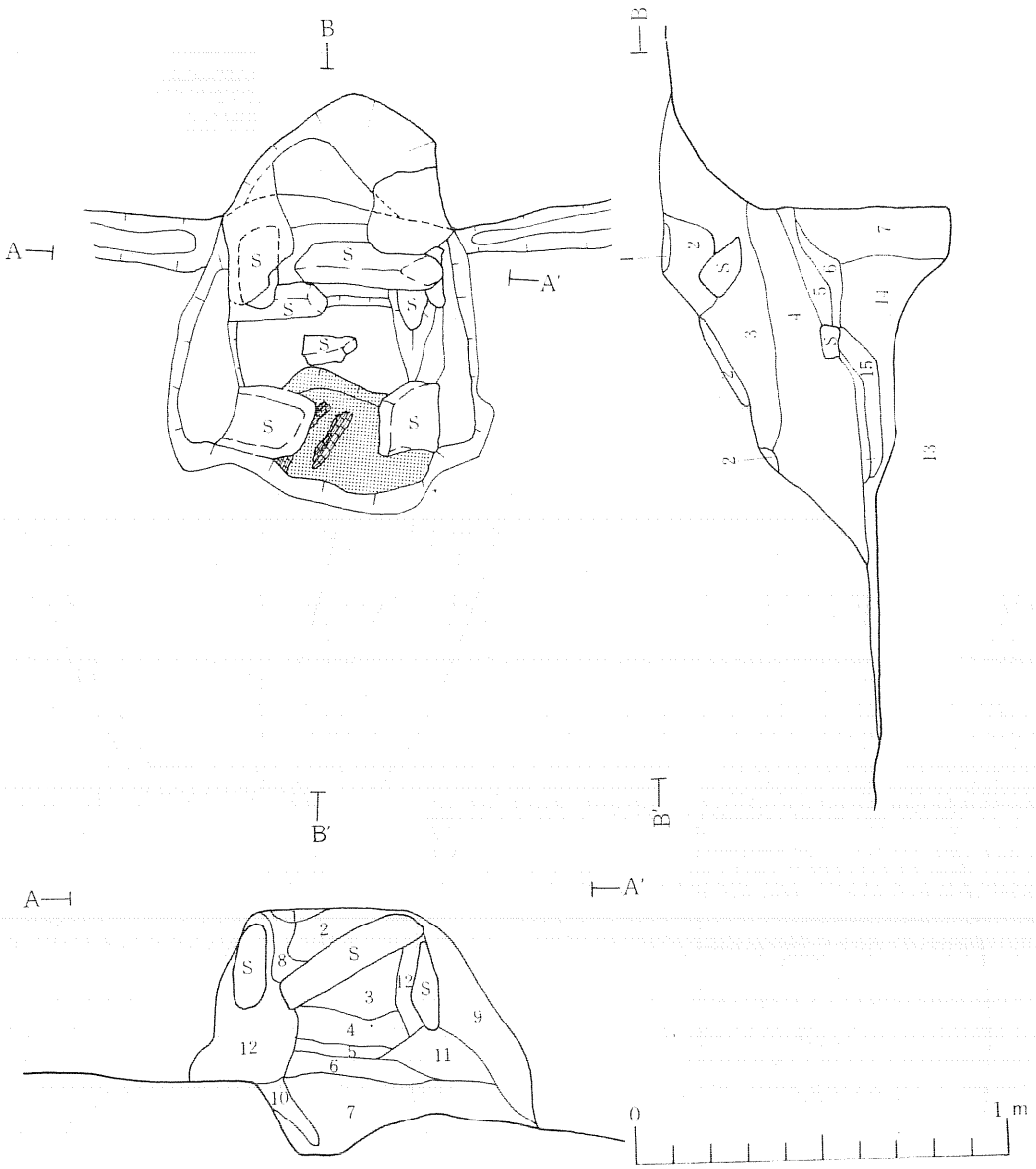
第65図　S I 023 A・B竪穴住居跡実測図（床面精査後）



層	土色	備考
1	黒色（10 YR 2/1）	粘性弱
2	黒褐色（7.5 YR 2/2）	粘性弱、黄褐色粘土混入
3	明黄褐色（10 YR 6/8）	煙道、天井部粘土、加熱を受けている。
4	黒褐色（7.5 YR 2/2）	
5	暗赤褐色（5 YR 3/3）	焼土
6	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強、焼土混入
7	褐色（10 YR 4/4）	粘土
8	暗褐色（10 YR 3/4）	加熱、炭化物混入
9	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性弱
10	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱、焼土混入

層	土色	備考
11	暗赤褐色（5 YR 3/2）	焼土
12	褐色（10 YR 4/6）	加熱を受けている。
13	黒褐色（10 YR 3/3）	焼土混入
14	暗赤褐色（5 YR 3/3）	焼土混入
15	黒褐色（10 YR 2/2）	
16	褐色（7.5 YR 4/4）	
17	黒色（7.5 YR 2/1）	粘性弱、白色浮石混入
18	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強
19	黄褐色（10 YR 5/6）	粘性強、袖部粘土
20	黒褐色（10 YR 3/1）	粘性弱

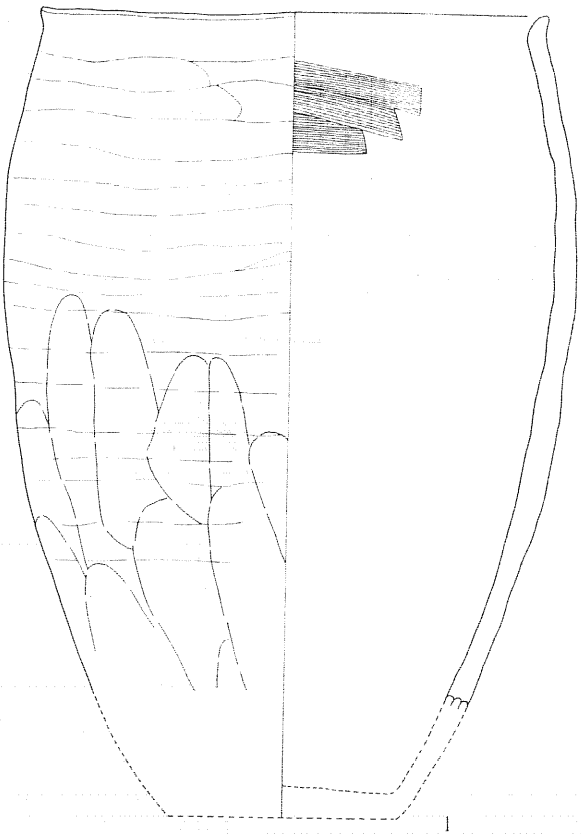
第66図　ＳＩ023Ａ竪穴住居跡カマド実測図

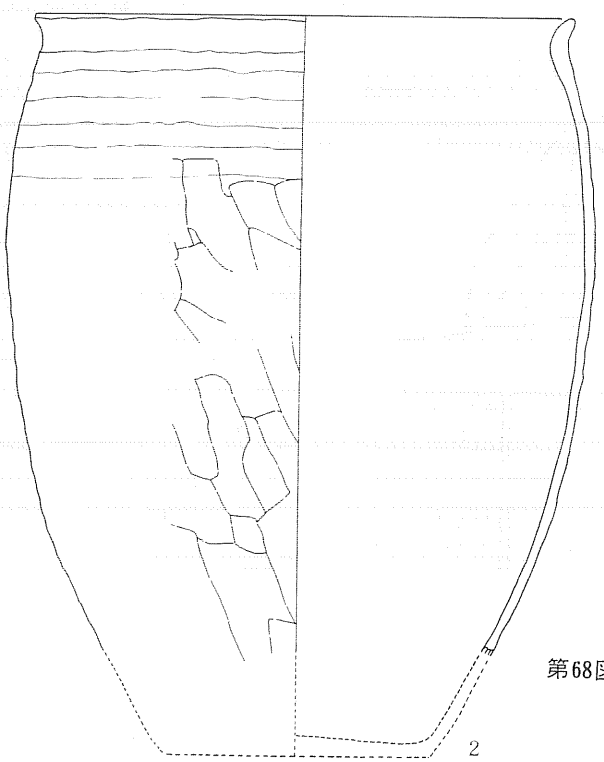


層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 3/3）	
2	暗褐色（10 YR 3/4）	粘土質
3	黒褐色（10 YR 3/3）	粘土混入
4	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強、白色浮石混入
5	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、焼土混入
6	暗褐色（10 YR 3/4）	明黄褐色土混入
7	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強、明黄褐色土混入
8	黒　色（10 YR 2/1）	白色浮石混入

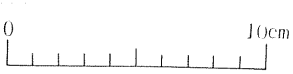
層	土　　色	備　　考
9	黒褐色（10 YR 3/2）	白色浮石混入
10	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強
11	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強、加熱を受けている。
12	褐　色（10 YR 4/6）	粘性強、粘土、袖部
13	赤褐色（2.5 YR 4/6）	焼土
14	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強
15	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強

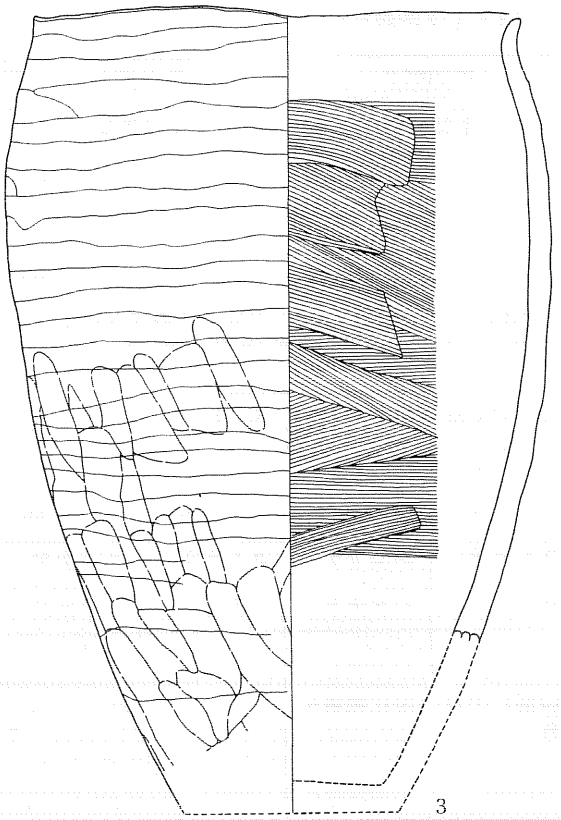
第67図　ＳＩ023Ｂ竪穴住居跡カマド実測図

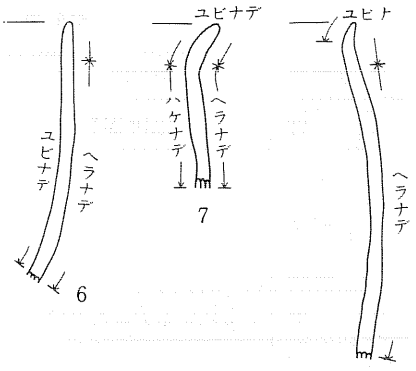


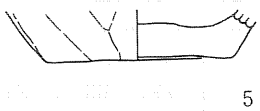


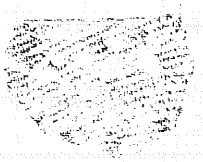
第68図　ＳＩ023竪穴住居跡出土遺物実測図（１）

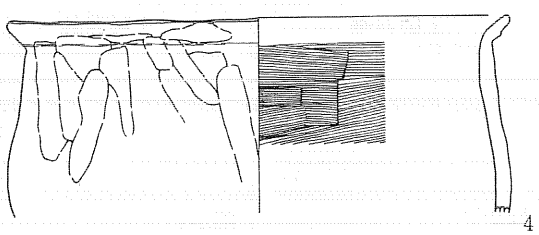


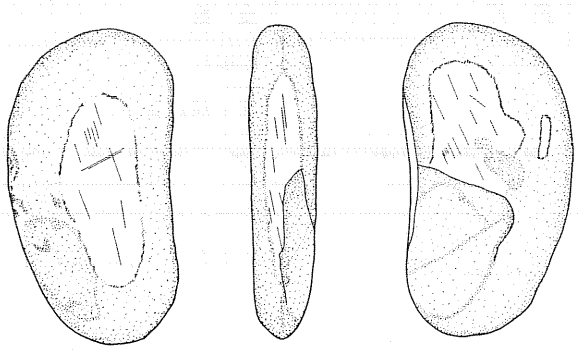


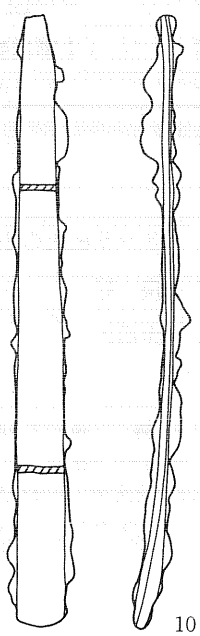




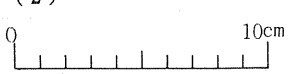








第69図　ＳＩ023竪穴住居跡出土遺物実測図（２）



第51表　ＳＩ023出土遺物観察表(1)

挿図番号		第68図1		第68図2		第68図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	長径19.2cm・短径17.5cm		(21)cm		長径20.7cm・短径19.2cm	
	底径	(9)cm		(10.5)cm		(8.4)cm	
	器高	(31.7)cm		(29)cm		(31.8)cm	
胎土		0.5㎜～1㎜の小石及び2～5㎜の小礫を含む		細かい		3㎜大の礫を含む	
焼成		良好		良好		良好	
色調		明赤褐色		橙ないし赤褐色		橙色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底						
備考				胴部に少量の炭化物質付着			

挿図番号		第68図4		第68図5		第68図6	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器鉢	
法量	口径	(19.6)cm		7.4 cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		3～5㎜大の小石が多い		細かい		細かい	
焼成		良好		良好		良好	
色調		赤褐色		暗赤褐色		赤褐色	
成形						粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ後にヘラナデ	ユビナデ後にハケナデ			ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ			ヘラナデ	ユビナデ
	底			ヘラナデ	ヘラナデ		
備考				底面織物痕		両面に煤状炭化物付着	

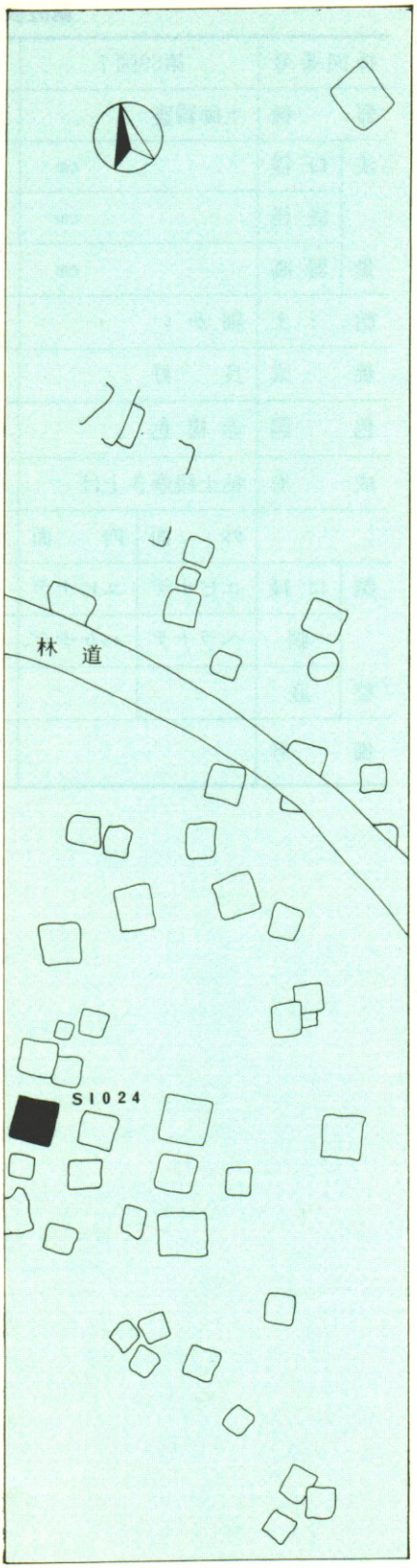
第52表　SI 023出土遺物観察表(2)

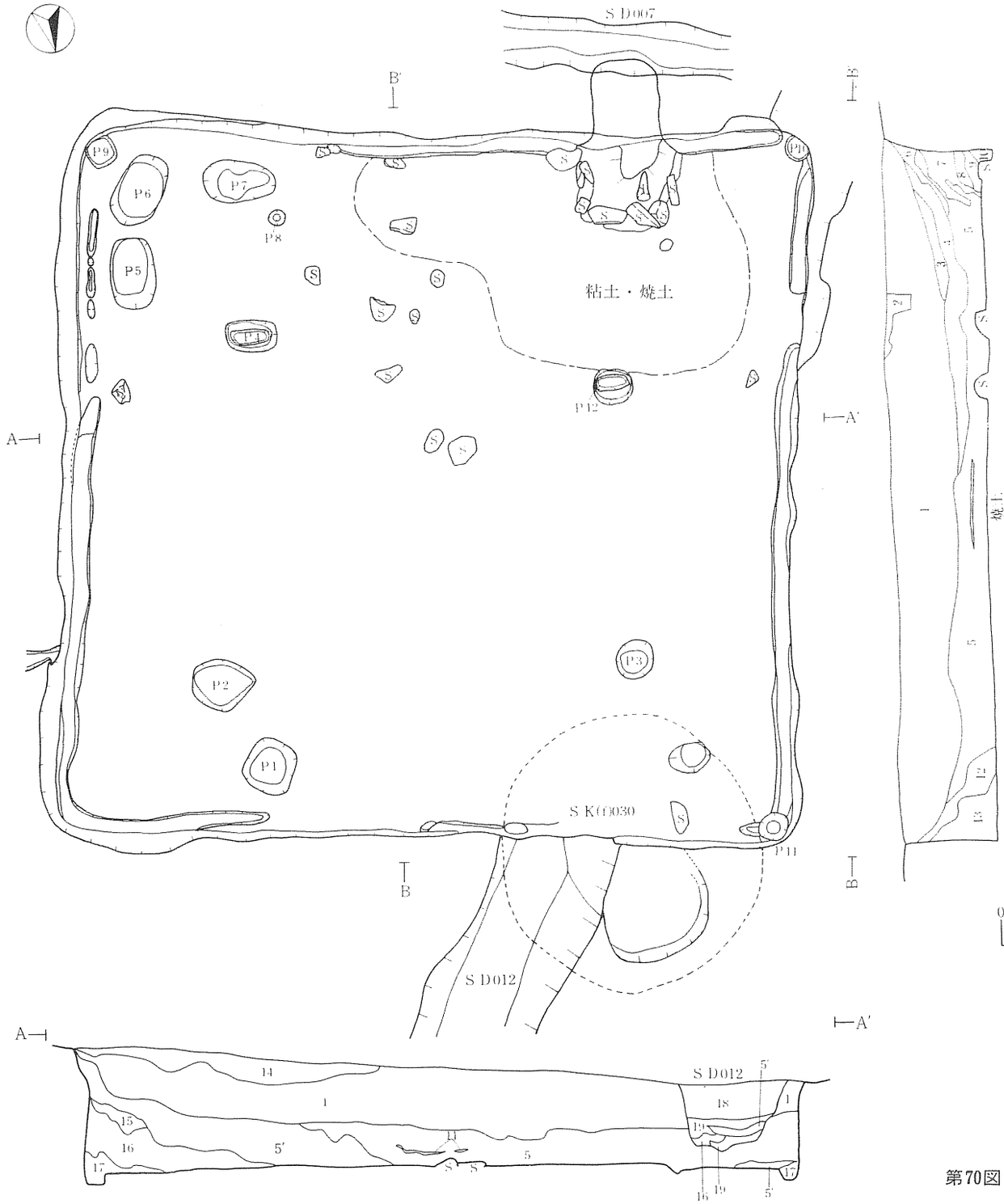
挿図番号		第69図7		第69図8		挿図番号		第69図9
器種		土師器甕		土師器甕		器種		砥石
法量	口径	cm		cm		法量	長さ	12.3cm
	底径	cm		cm			幅	6.5cm
	器高	cm		cm			厚さ	2.6cm
胎土		細かい		やや荒い。細かい石英粒が多い		重量		270g
焼成		良好		良好		石質		凝灰岩
色調		赤褐色		暗褐色		備考		砥面3一部破損
成形		粘土紐巻き上げ				挿図番号		第69図10
		外面	内面	外面	内面	器種		小刀
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	法量	長さ	25.0cm
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ			幅	1.8cm
	底						厚さ	0.2cm
備考						備考		茎部欠損

第53表　SI 024竪穴住居跡観察表

挿図		70			
図版		33、34			
形態		方形			
主軸方向		N－16.0°－E			
法量	面積	33.2 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	580 cm	570 cm	585 cm	583 cm
	壁高	95～98 cm	56～74 cm	60～91 cm	72～89 cm
	壁溝幅	10～25 cm	7～25 cm	14～20 cm	7～30 cm
	壁溝深	6～11 cm	4～10 cm	6～15 cm	3～4 cm

確認	暗褐色土層中に確認された。
壁	壁高は本遺跡内で一番高くしっかりとした作りである。 床面より垂直に立ち上がり、その上部がわずかに外傾する。
壁溝	いずれの壁にも存在するが、浅く断続的である。
ピット	P 1 (18) P 2 (26) P 3 (49) P 4 (48) P 5 (22) P 6 (21) P 7 (15) P 8 (15) P 9 (13) P10(16) P11(8) P 12(38) (単位cm) 柱穴は、P 2・3・4・9・11・12である。P 4 ・ P12内には（幅 25.5 、中央の厚さ 9 、両端の厚さ 5 cm）ほどの柱痕跡が残っていた。
床面	全体に平坦である。 地山をそのまま床面としているが、フラスコ状ピットを切る部分にはピット覆土上に貼床を施している。 P4・P12を結ぶ線の南側の床面が非常に堅い。
カマド	南壁西寄りに位置し覆土が厚く堆積したため、残存状態は良好である。 袖は芯材に石を使用しており、石の外側に粘土を貼り付けて構築している。 天井石（55cm程）は原形のままあるいはくだけて熱焼部内に落ち込んでいた。 煙道は急角度で立ち上がる。
遺物	土師器
備考	ＳＫ(f) 033 を切って構築しており、その断面が住居北壁に見られた。住居廃絶、埋没後にＳＤ 012 が構築される。ＳＤ 007 はカマド煙出部を切っている。新旧関係は、ＳＫ(f) 033 →Ｓ Ｉ024 →Ｓ Ｄ 007・012 である。

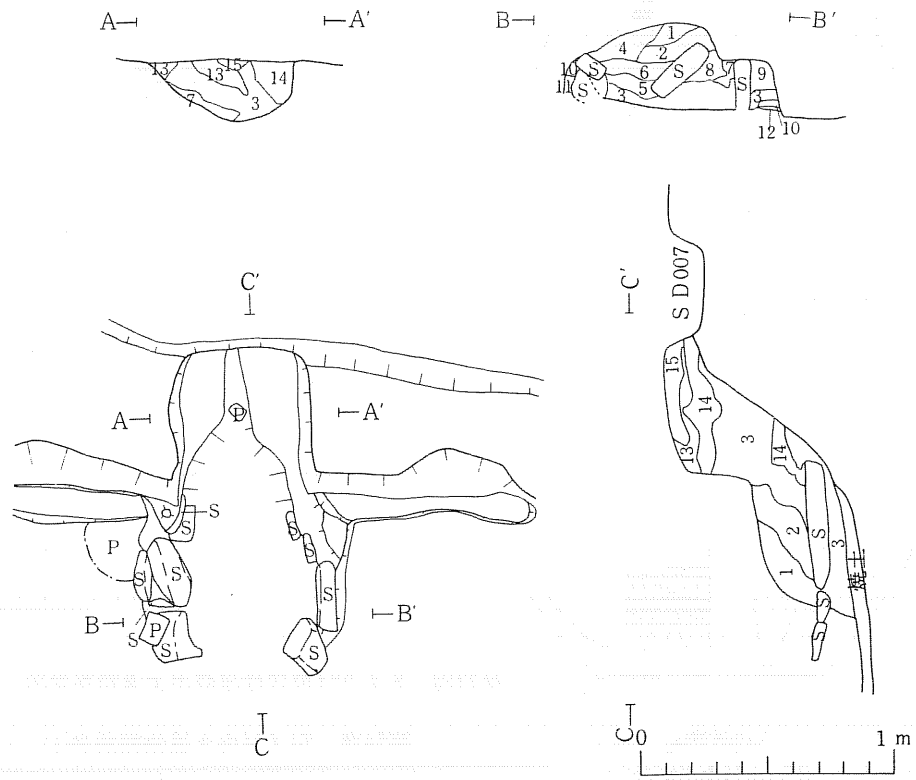


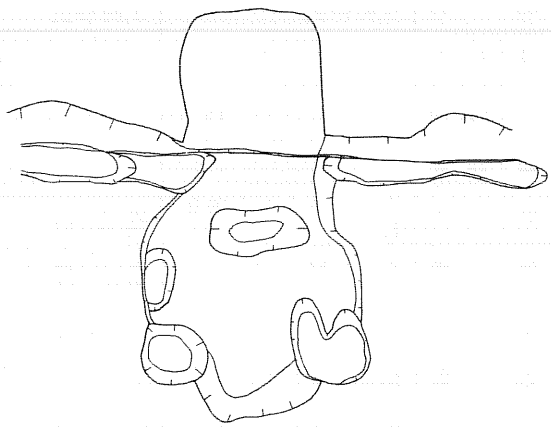


層	土色	備考
1	黒 色（5 YR 1.7/1）	粘性弱
2	黄褐色（10 YR 5/8）＋暗褐色（7.5 YR 3/4）	
3	黄褐色（10 YR 5/8）＋暗褐色（7.5 YR 3/4）	2層より明度・彩度が落ちる。
4	黒 色（7.5 YR 2/1）	黄褐色地山土混入
5	黒 色（7.5 YR 1.7/1）	黄褐色地山土混入
5'	黒 色（7.5 YR 1.7/1）	粘性弱・5層より黄褐色土が多量に混入
6	黄褐色（10 YR 5/8）	粘性弱
7	黒褐色（7.5 YR 2/2）	〃
8	黄褐色（10 YR 5/8）	〃
9	黒褐色（10 YR 2/2）	〃
10	にぶい黄褐色（10 YR 4/3）	〃
11	明赤褐色（5 YR 5/6）	焼土、炭化物がサンドイッチ状にはさまれる。
12	黄褐色（10 YR 5/8）	黒褐色土混入
13	黒色（7.5YR 1/2）＋黒褐色(7.5YR 2/2)＋黄褐色(10YR 5/8)	〃
14	黒褐色（10 YR 2/2）	黄褐色地山土混入
15	黒 色（10 YR 2/1）	砂質
16	黒 色（10 YR 1.7/1）	粘性弱
17	黒褐色（10 YR 2/3）	黄褐色地山土混入
18	黒 色（7.5 YR 2/1）	
19	黒 色（7.5 YR 2/1）	砂質

0 2 m

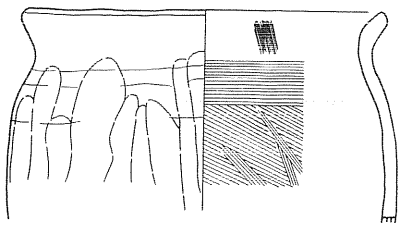
第70図　ＳＩ024竪穴住居跡実測図



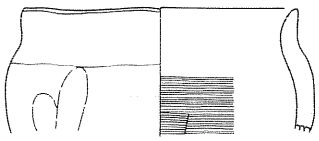


層	土色	備考
1	褐色（7.5 YR 4/3）	
2	褐色（7.5 YR 3/3）	黒色土混入
3	黒褐色（7.5 YR 3/2）	暗赤褐色土混入
4	にぶい黄褐色（10 YR 4/3）	
5	暗赤褐色（5 YR 3/4）	褐色土混入
6	黒褐色（10 YR 3/2）	褐色土混入
7	暗赤褐色（5 YR 3/4）	
8	褐色（7.5 YR 4/3）	黒褐色土混入
9	褐色（7.5 YR 4/3）	
10	褐色（7.5 YR 5/6）	粘土質
11	黒褐色（7.5 YR 3/2）	
12	黒褐色（7.5 YR 3/2）	
13	黒褐色（10 YR 3/2）	
14	明褐色（7.5 YR 5/6）	
15	褐色（10 YR 5/6）	

第71図　ＳＩ024竪穴住居跡カマド実測図

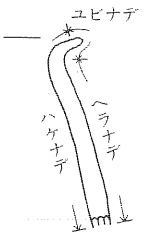


1

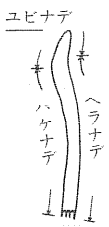


2

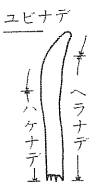
3



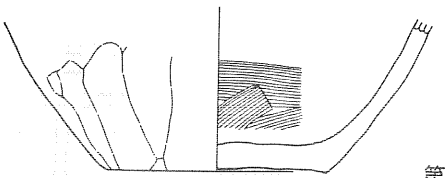
6



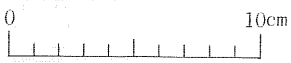
7



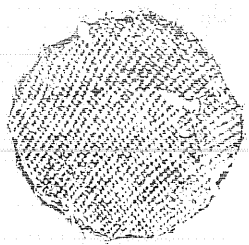
8

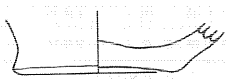


4



第72図　ＳＩ024竪穴住居跡出土遺物実測図





5

第54表　SI 024出土遺物観察表(1)

挿図番号		第72図1		第72図2	
器種		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	(14)cm		(11)cm	
	底径	cm		cm	
	器高	cm		cm	
胎土		1～3㎜大の小礫含む		細かい	
焼成		良好		良好	
色調		明赤褐色		暗赤褐色	
色形		粘土紐巻き上げ			
		外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底				
備考				口縁部内面に煤状物質付着	

第55表　ＳＩ０24出土遺物観察表(2)

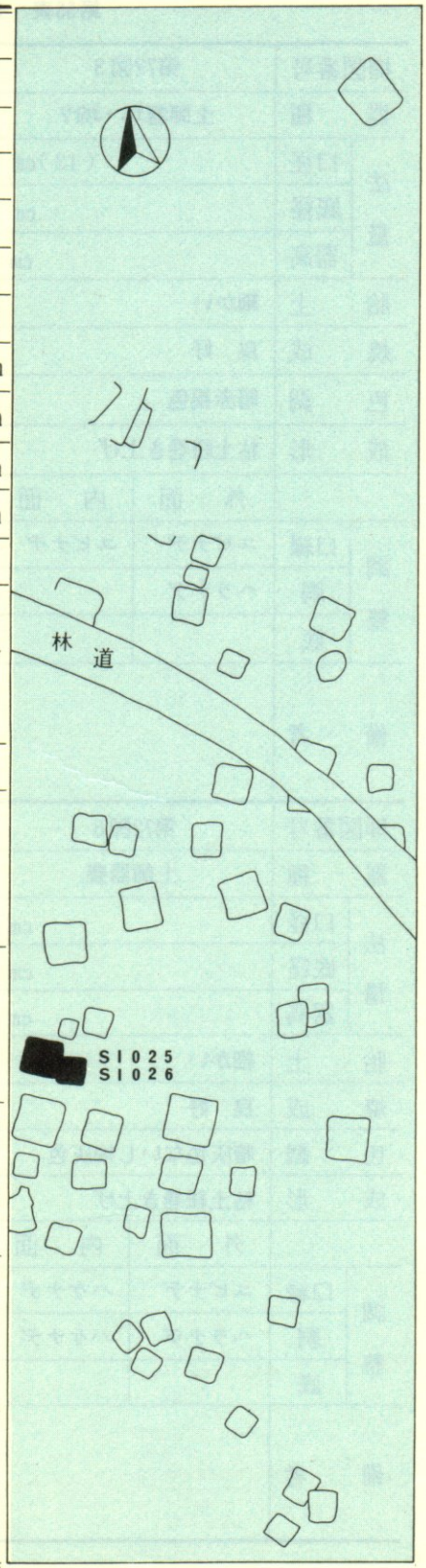
挿図番号		第72図３		第72図４		第72図５	
器種		土師器坏・埦？		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	（13）cm		cm		cm	
	底径	cm		9.2 cm		6.6 cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		細かい		細かい		細かい	
焼成		良　好		良　好		良　好	
色調		暗赤褐色		外面　褐色 内面　にぶい橙色		外面　褐色ないし褐灰色 内面　褐色	
成形		粘土紐巻き上げ				粘土紐巻き上げ	
		外　面	内　面	外　面	内　面	外　面	内　面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ				
	胴	ヘラナデ					
	底			ヘラケズリ	ヘラナデ		
備考				底面織物痕		底面莚状圧痕	

挿図番号		第72図６		第72図７		第72図８	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		細かい		細かい		1～3㎜大の小礫含む	
焼成		良　好		良　好		良　好	
色調		暗灰色ないし褐灰色		暗褐色		赤褐色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ			
		外　面	内　面	外　面	内　面	外　面	内　面
調整	口縁	ユビナデ	ハケナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底						
備考							

第56表　SI 025竪穴住居跡観察表

挿図		73			
図版		32、35、36			
形態		方形			
主軸方向		N－7.5°－W			
法量	面積	10.2 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	288 cm	(310) cm	314 cm	315 cm
	壁高	40～58 cm	38～43 cm	51～62 cm	34～50 cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm

確認	暗褐色土層中に確認された。
壁	西壁はSI 020により切られているが、その他の壁はほぼ垂直に立ち上がり、しっかりと作られている。
壁溝	————
ピット	————
床面	地山をそのまま床として使用している。平坦である。
カマド	南壁の中央よりやや東寄りに作られている。袖は芯材として石を使用している。煙道部は半地下式で床面より緩やかに延びて150 cmほど壁外に出ている。
遺物	土師器、鉄釘1
備考	————



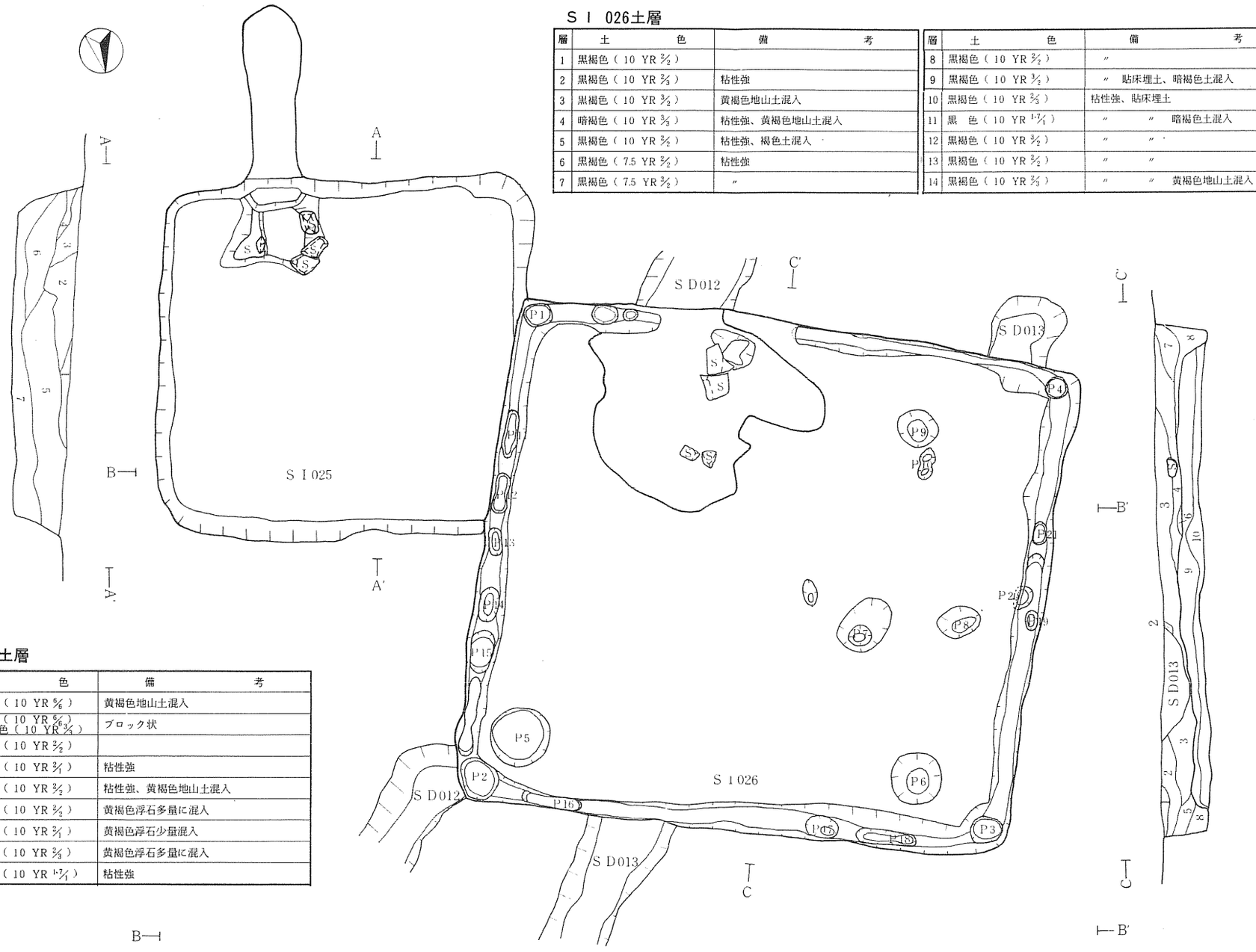
ＳＩ 026土層

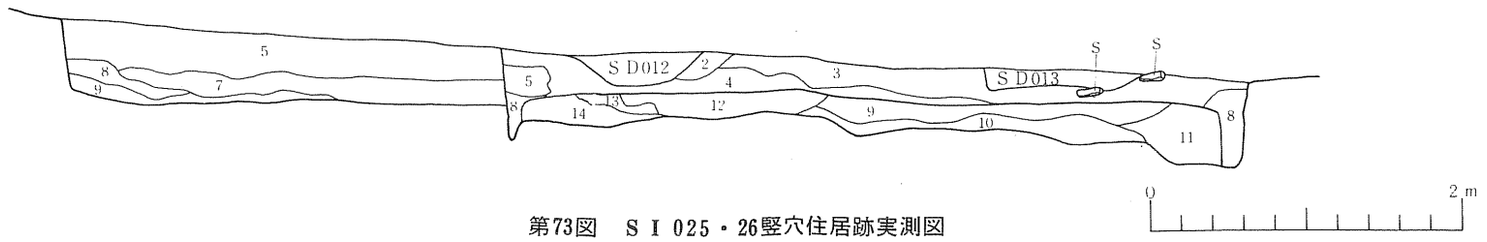
層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	
2	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強
3	黒褐色（10 YR 3/2）	黄褐色地山土混入
4	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強、黄褐色地山土混入
5	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、褐色土混入
6	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性強
7	黒褐色（7.5 YR 3/2）	〃

層	土色	備考
8	黒褐色（10 YR 3/2）	〃
9	黒褐色（10 YR 3/2）	〃 貼床埋土、暗褐色土混入
10	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強、貼床埋土
11	黒 色（10 YR 1.7/1）	〃 〃 暗褐色土混入
12	黒褐色（10 YR 3/2）	〃 〃
13	黒褐色（10 YR 3/2）	〃 〃
14	黒褐色（10 YR 3/3）	〃 〃 黄褐色地山土混入

ＳＩ 025土層

層	土色	備考
1	明黄褐色（10 YR 6/6）	黄褐色地山土混入
2	明黄褐色（10 YR 6/6）＋暗褐色（10 YR 3/3）	ブロック状
3	黒褐色（10 YR 3/2）	
4	黒 色（10 YR 3/1）	粘性強
5	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、黄褐色地山土混入
6	黒褐色（10 YR 3/2）	黄褐色浮石多量に混入
7	黒 色（10 YR 3/1）	黄褐色浮石少量混入
8	黒褐色（10 YR 3/3）	黄褐色浮石多量に混入
9	黒 色（10 YR 1.7/1）	粘性強

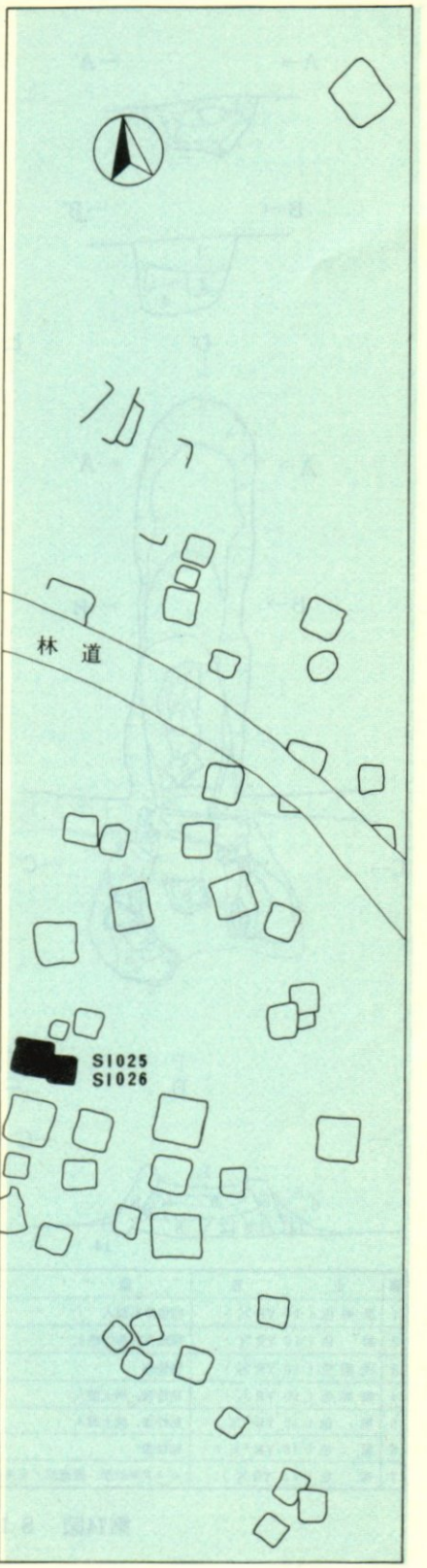


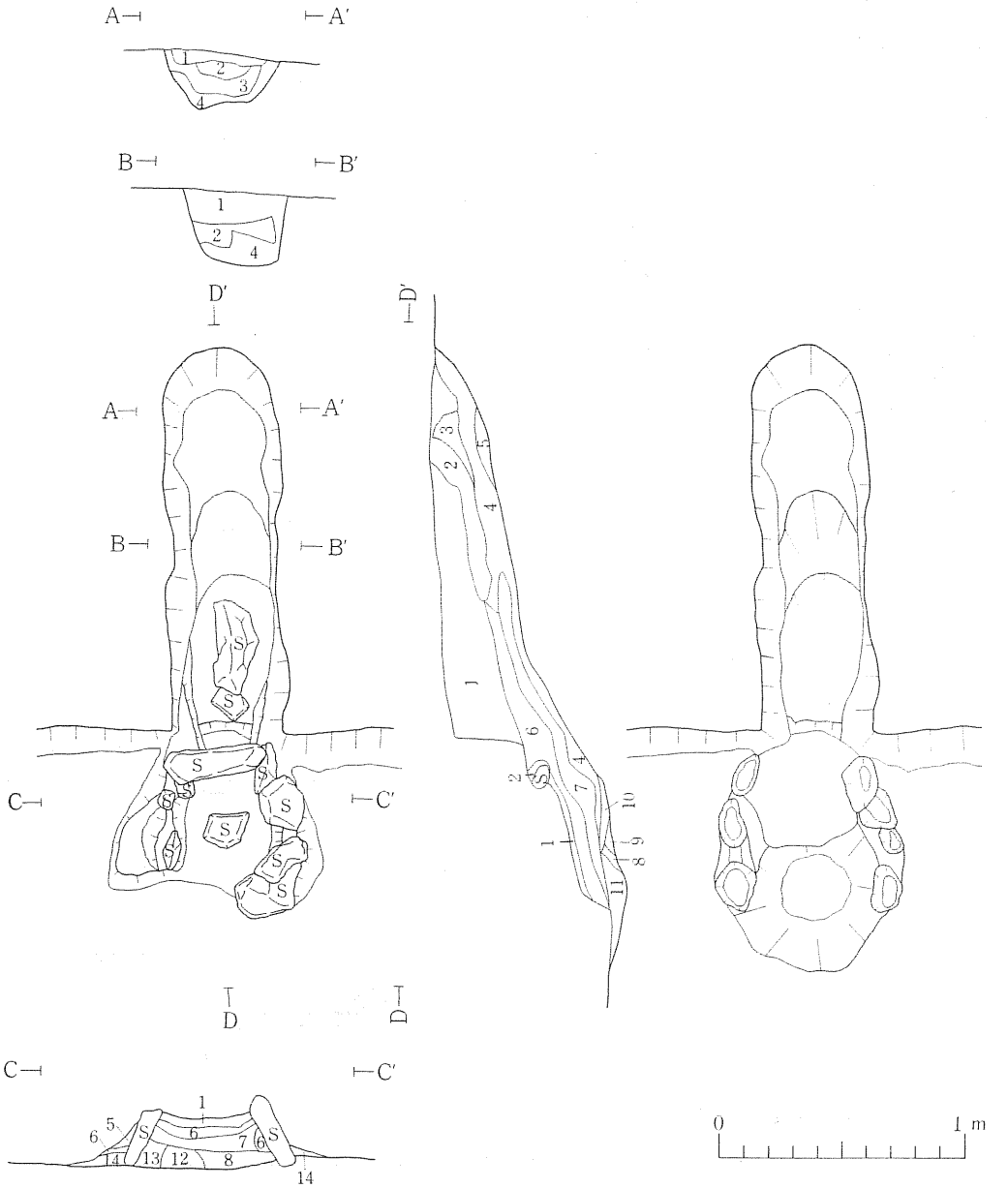


第73図　ＳＩ 025・26竪穴住居跡実測図

第57表　SI 026竪穴住居跡観察表

挿図		73			
図版		32、36			
形態		方形			
主軸方向		N－19.0°－E			
法量	面積	20.7 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	432 cm	410 cm	476 cm	456 cm
	壁高	16～35cm	12～19cm	18～34cm	18～26cm
	壁溝幅	18～28cm	18～30cm	10～28cm	10～34cm
	壁溝深	18～26cm	19～50cm	20～31cm	14～27cm
確認		暗褐色土層中で確認された。			
壁		ほぼ垂直に立ち上がるが、暗褐色土部分は軟らかい。			
壁溝		カマド部分を除き、ほぼ同一幅で巡る。全体的に深く、中にピット状の凹みが幾つか見られる。			
ピット		P 1 (23) P 2 (27) P 3 (53) P 4 (23) P 5 (40) P 6 (39) P 7 (19) P 8 (19) P 9 (28) P 10(26) P 11(29) P 12(30) P 13(41) P 14(37) P 15(34) P 16(27) P 17(42) P 18(42) P 19(58) P 20(66) P 21(46)（単位cm）			
床面		黒褐色土で貼床がなされたもので平坦であるが軟弱である。貼床埋土は全体に厚く20～35cmの厚さを測る。			
カマド		南壁東寄りに作られているが、SD 012により東側の袖、煙道が切除される。袖は石を芯材としたものである。			
遺物		土師器、垂飾品1、不定形石器1			
備考		SI 025・SD 012・013と重複する。新旧関係はSI 025→SI 026→SD 012・013である。			

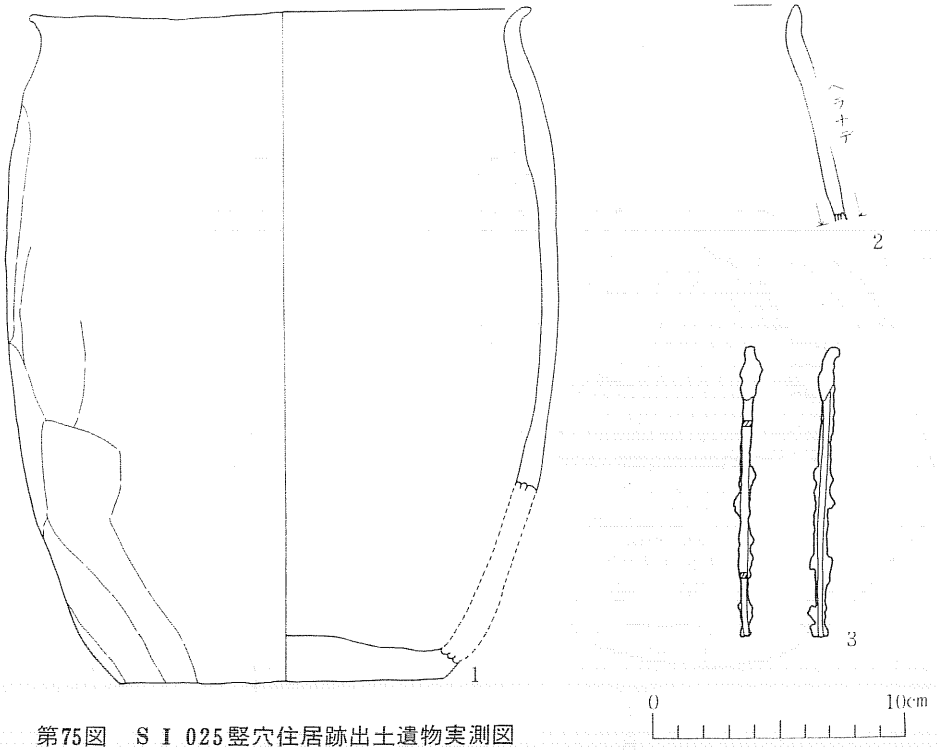




層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	白色浮石混入
2	褐色（10 YR 3/6）	煙道天井部の粘土
3	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
4	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強、焼土混入
5	黒色（10 YR 1.7/1）	粘性強、焼土混入
6	黒色（10 YR 1.7/1）	粘性強
7	褐色（7.5 YR 4/6）	カマド熱焼部、煙道部、天井の粘土

層	土色	備考
8	黒色（10 YR 2/1）	焼土混入
9	暗赤褐色（5 YR 3/4）	粘性強
10	褐色（7.5 YR 4/4）	粘性強、加熱を受けている。
11	褐色（7.5 YR 4/3）	粘性強、10層より強い加熱を受けている。
12	褐色（7.5 YR 4/6）	粘性強、焼土
13	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強
14	黒色（7.5 YR 2/1）	粘性強

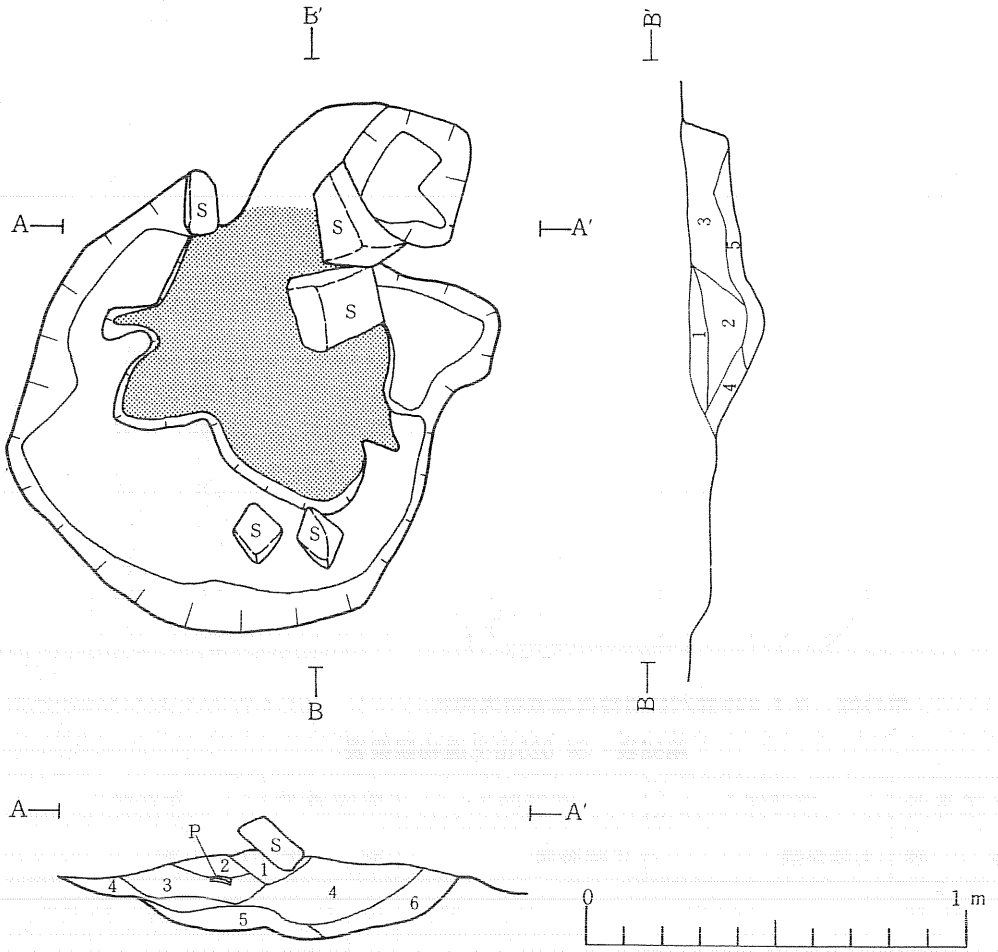
第74図　ＳＩ025竪穴住居跡カマド実測図



第75図　ＳＩ025竪穴住居跡出土遺物実測図

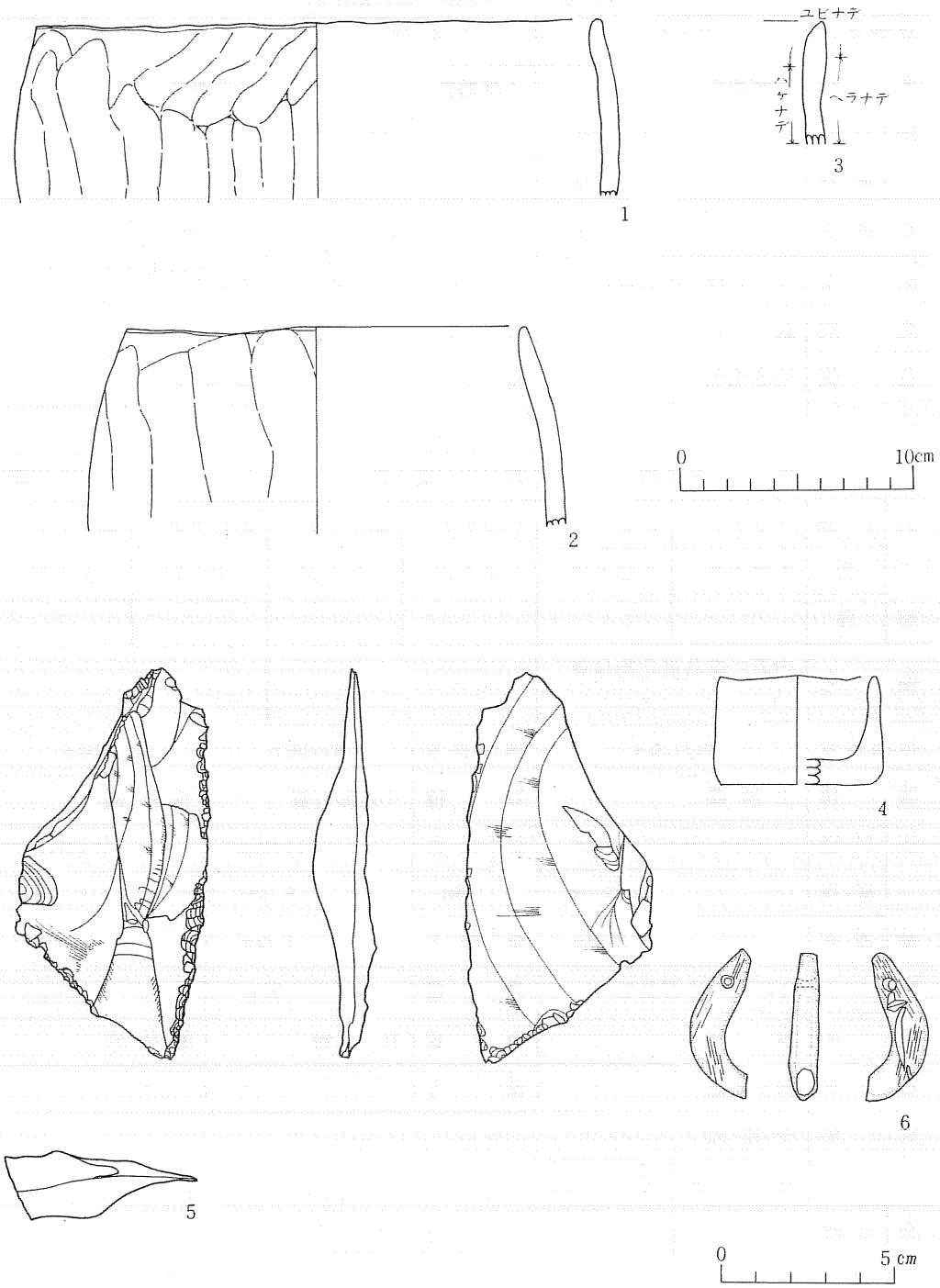
第58表　SI 025出土遺物観察表

挿図番号		第75図1		第75図2		挿図番号		第75図3
器種		土師器甕		土師器甕		器種		鉄釘
法量	口径	(20)cm		cm		法量	長さ	11.6cm
	底径	(12.7)cm		cm			幅	0.4cm
	器高	26.6cm		cm			厚さ	0.4cm
胎土		小礫少量含む		1～2㎜の礫含む		重量		g
焼成		良好		良好		石質		
色調		明赤褐色		明赤褐色		備考		
成形		粘土紐巻き上げ						
		外面	内面	外面	内面			
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ヘラナデ	ヘラナデ			
	胴	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ	ヘラナデ			
	底	ヘラナデ	ヘラナデ					
備考		底面、木葉文		内面に炭化物付着				



層	土　　色	備　　考
1	褐　色（7.5 YR 4/4）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
3	明褐色（7.5 YR　5/8）	粘性弱、焼土
4	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強
5	黄褐色（10 YR 5/6）	粘性強
6	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強

第76図　ＳＩ026竪穴住居跡カマド実測図



第77図　ＳＩ026竪穴住居跡出土遺物実測図

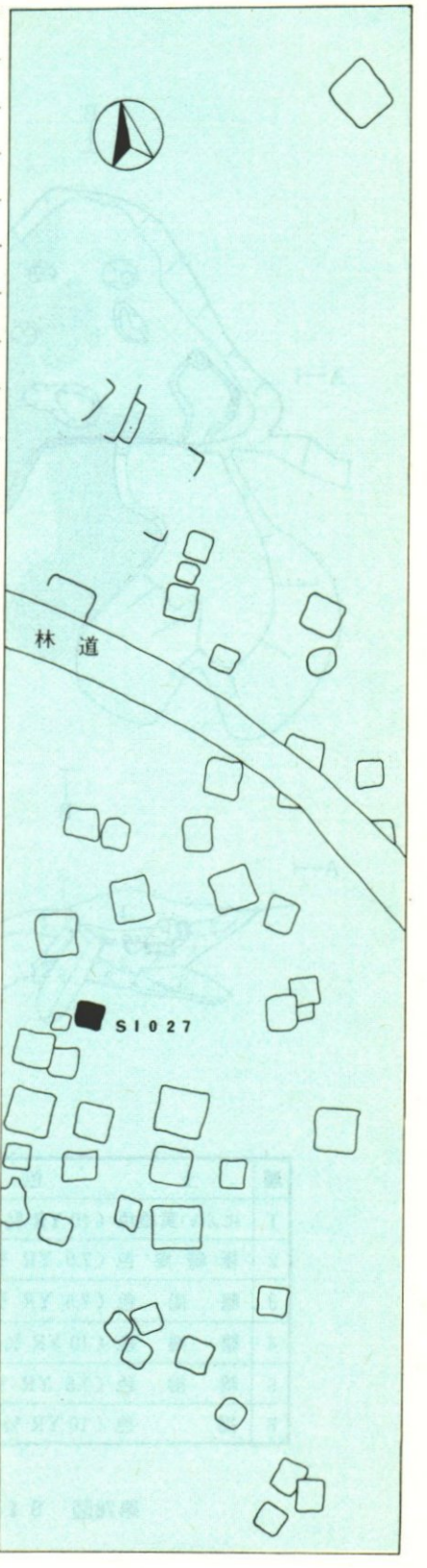
第59表　SI 026出土遺物観察表

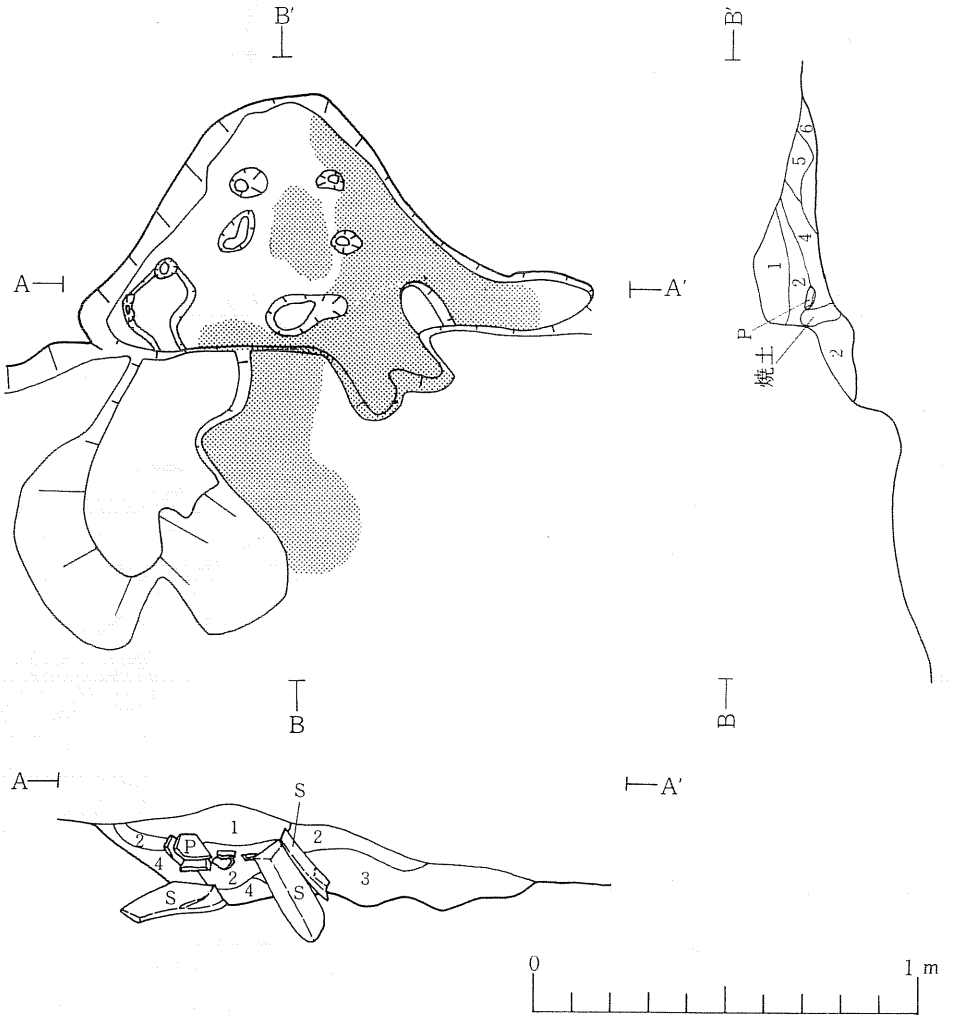
挿図番号		第77図1		第77図2		第77図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	(24.2)cm		(16.2)cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		1～3㎜の小石含む		3～5㎜大の小石含む		1～2㎜大の礫及び雲母を含む	
焼成		良好		良好		良好	
色調		明赤褐色		橙色		赤褐色	
成形						粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底						
備考		内面に煤状炭化物付着					

挿図番号		第77図4		挿図番号	第77図5	第77図6
器種		土師器		器種	不定形石器	垂飾品
法量	口径	(4.5)cm		法量 長さ	11.1cm	4.2cm
	底径	(4.5)cm		幅	5.4cm	1.0cm
	器高	3.0cm		厚さ	1.6cm	0.7cm
胎土		1㎜大の小石含む		重量	66g	3.1g
焼成		良好		石質	頁岩	凝灰岩
色調		明赤褐色		備考		
成形		手捏ね				
		外面	内面			
調整	口縁					
	胴		ユビナデ			
	底	ヘラケズリ	ヘラナデ			
備考						

第60表　SI 027竪穴住居跡観察表

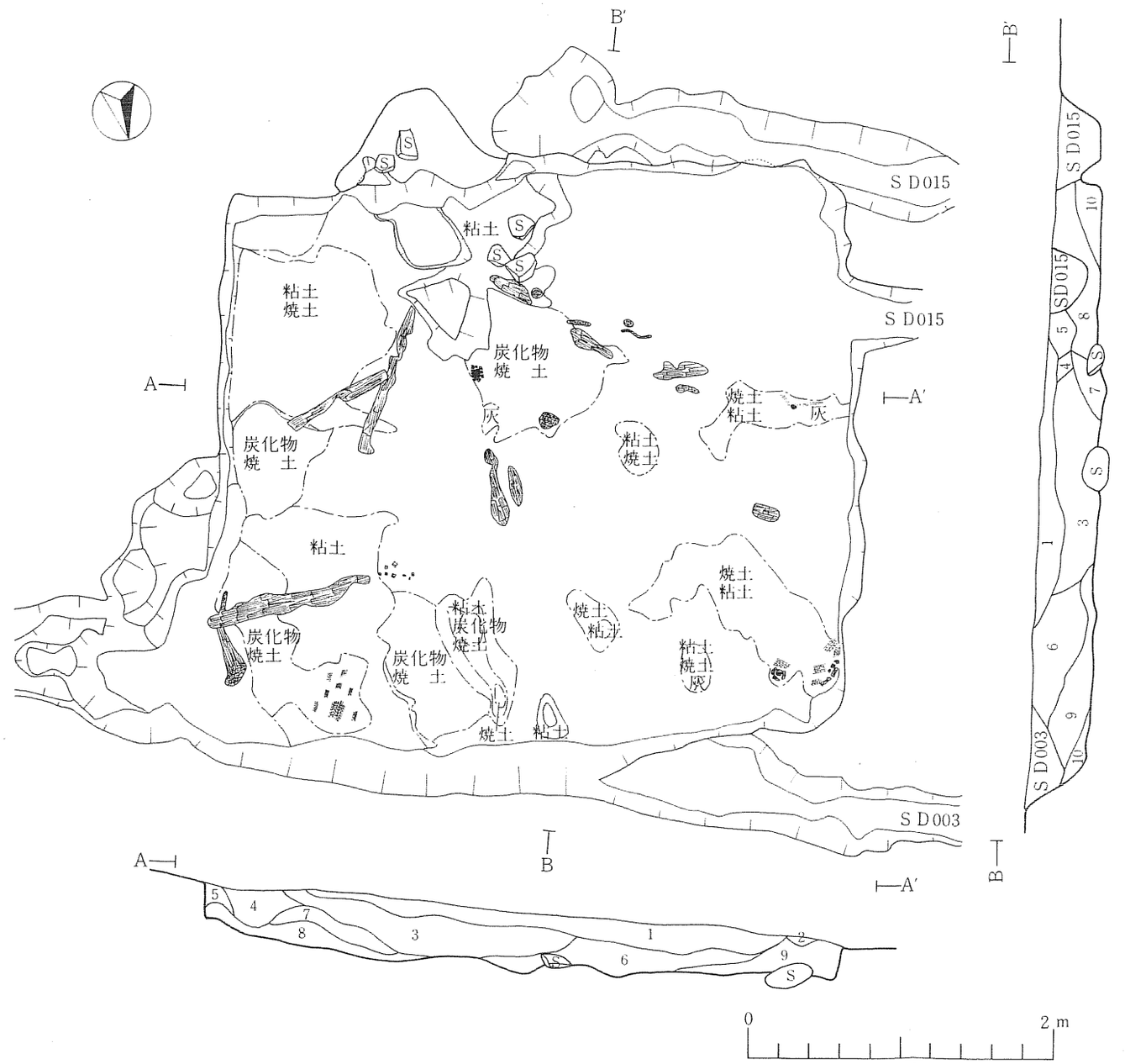
挿図		78			
図版		32、37			
形態		方形			
主軸方向		N－8.5°－W			
法量	面積	16.5 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	375 cm	355 cm	400 cm	400 cm
	壁高	30～52cm	8～35cm	22～33cm	20～53cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		暗褐色土層中で確認された。			
壁		四壁とも溝により切られているが、床面よりほぼ垂直に立ち上がる。			
壁溝		——			
ピット		——			
床面		西側に緩やかに傾斜し、堅くしまっている。炭化物が床面東側に床面より8cmほど浮いている。			
カマド		南壁東寄りに位置する。西側の袖は残存状態が良くない。袖は芯材として27cmほどの板石を使用し、粘土を貼り付けたものと考えられる。煙道は床より垂直に立ち上がり、緩やかに壁外に出る。			
遺物		土師器、穂摘み具2			
備考		本住居跡はSD 003・004・015により切られている。 焼失家屋である。			





層	土　　色	備　　考
1	にぶい黄橙色（10 YR 6/4）	粘性弱
2	極暗褐色（7.5 YR 2/3）	粘性弱、焼土混入
3	暗　褐　色（7.5 YR 3/3）	粘性強、褐色土、焼土混入
4	暗　褐　色（10 YR 3/4）	粘性強
5	暗　褐　色（7.5 YR 3/3）	粘性強
6	褐　　色（10 YR 4/4）	粘性強

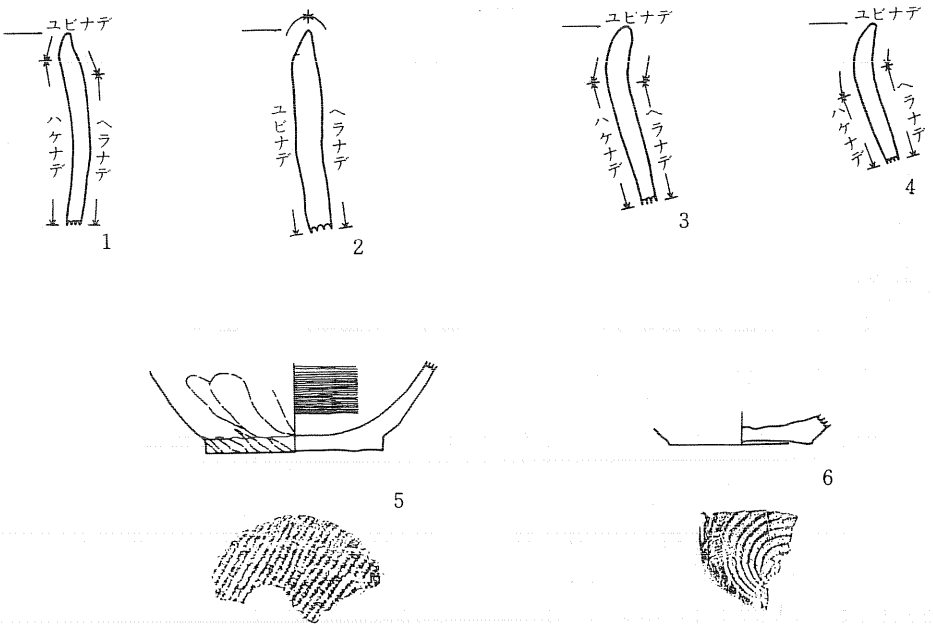
第78図　S I 027竪穴住居跡カマド実測図



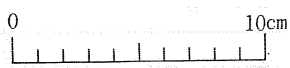
層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 3/2）	〃　焼土少量混入
3	黒褐色（10 YR 3/2）	〃　焼土、黄褐色地山土混入
4	黒褐色（10 YR 3/2）	〃　軟　質
5	黒褐色（10 YR 3/3）	〃　黄褐色地山土混入

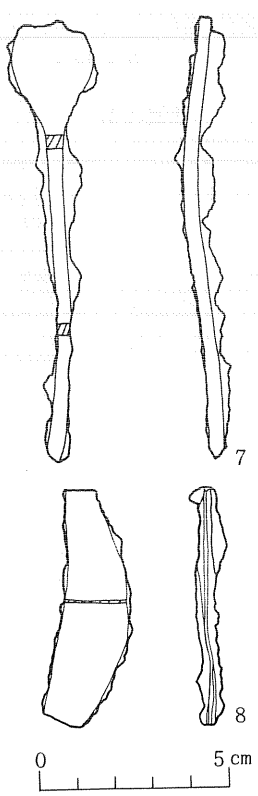
層	土　　色	備　　考
6	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、焼土、黄褐色地山土混入
7	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱　〃　　〃
8	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強、炭化物混入
9	黒褐色（10 YR 3/2）	〃　焼土混入
10	黒褐色（10 YR 3/2）	〃　焼土、炭化物混入

第79図　ＳＩ027竪穴住居跡実測図



第80図　ＳＩ027竪穴住居跡出土遺物実測図





第61表　SII 027出土遺物観察表(1)

挿図番号		第80図1		第80図2	
器種		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm	
	底径	cm		cm	
	器高	cm		cm	
胎土		1～2 mm大の礫含む		小石含む	
焼成		良　好		良　好	
色調		暗赤褐色		にぶい褐色	
成形				粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ヘラナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ユビナデ
	底				
備考					

第62表　SI 027出土遺物観察表(2)

挿図番号		第80図3		第80図4		第80図5	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕？	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	cm		cm		(6.9)cm	
	器高						
胎土		1～3㎜大の礫を含む		1～2㎜大の小礫含む		細かい	
焼成		良好		良好		良好	
色調		明赤褐色		赤褐色		明赤褐色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ		
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ		ハケナデ
	底						
備考							

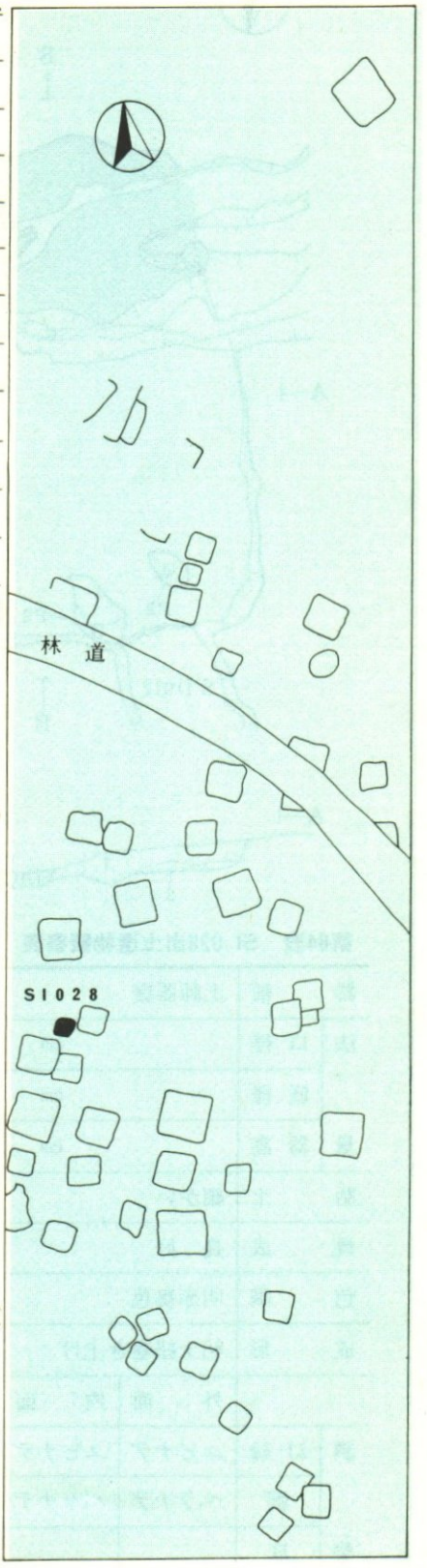
挿図番号		第80図6
器種		土師器坏？
法量	口径	cm
	底径	(5.6)cm
	器高	cm
胎土		細かい
焼成		良好
色調		にぶい橙色
成形		
		外面 / 内面
調整	口縁	
	胴	
	底	
備考		底部回転糸切り

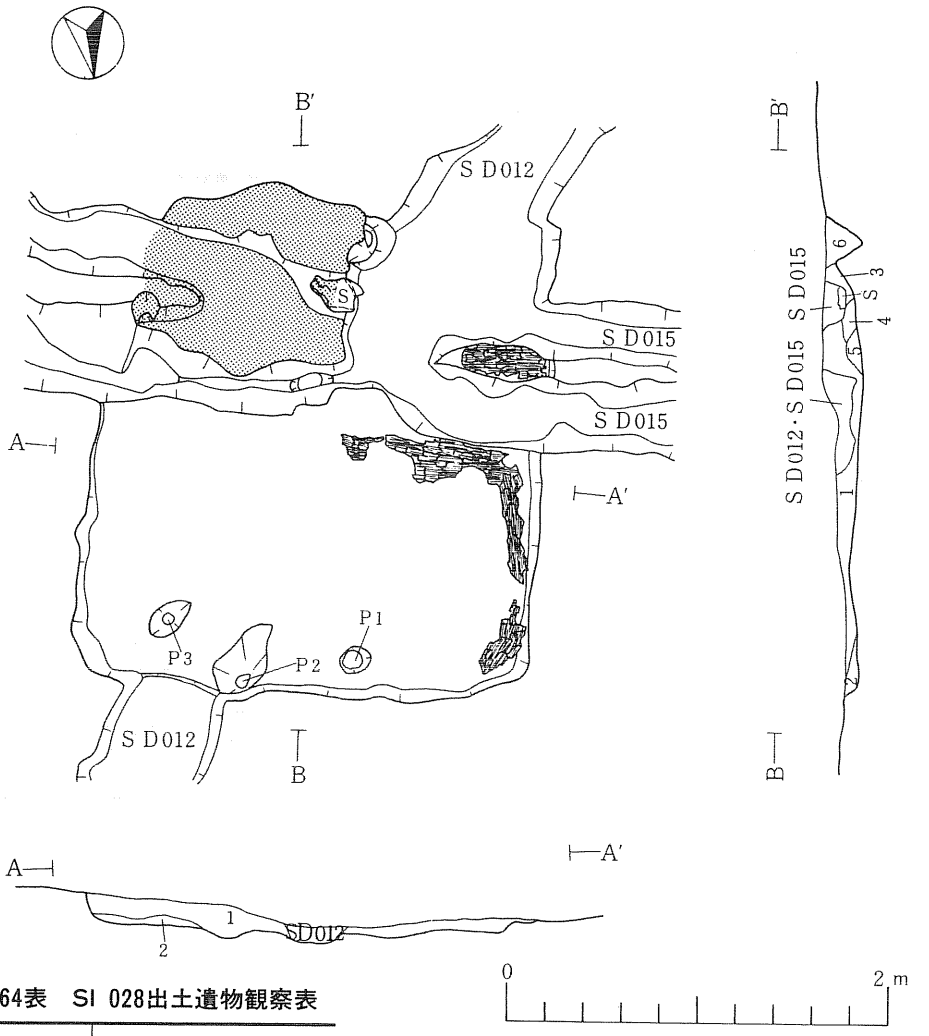
挿図番号		第80図7	第80図8
器種		穂摘み具	穂摘み具
法量	長さ	11.5cm	6.2cm
	幅	2.2cm	1.8cm
	厚さ	0.3cm	0.2cm
備考		一部欠損	一部欠損

第63表　SI 028竪穴住居跡観察表

挿図		81			
図版		37			
形態		方形			
主軸方向		N－15.0°－E			
法量	面積	5.9 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	260 cm	250 cm	205 cm	235 cm
	壁高	13～20cm	3～8 cm	cm	3～10 cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm

確認	暗褐色土中で確認された。
壁	残存する壁はいずれも低いが、ほぼ垂直に立ち上がるものである。
壁溝	————
ピット	P1（7）P2（26）P3（11）P4（6）（単位cm）柱穴は確認できなかった。
床面	地山を使用しており、西側に緩やかに傾斜する。軟弱である。
カマド	南壁の東寄りに位置する。SD 015により切られており、残存状態は悪い。袖は地山を凸状に残した上に石を置き、周囲を粘土で貼り付けたものと考えられる。燃焼部中央に拳大の礫が支脚として使用されている。煙道は緩やかに立ち上がる。
遺物	土師器
備考	SD 015・012・013によって切られている。



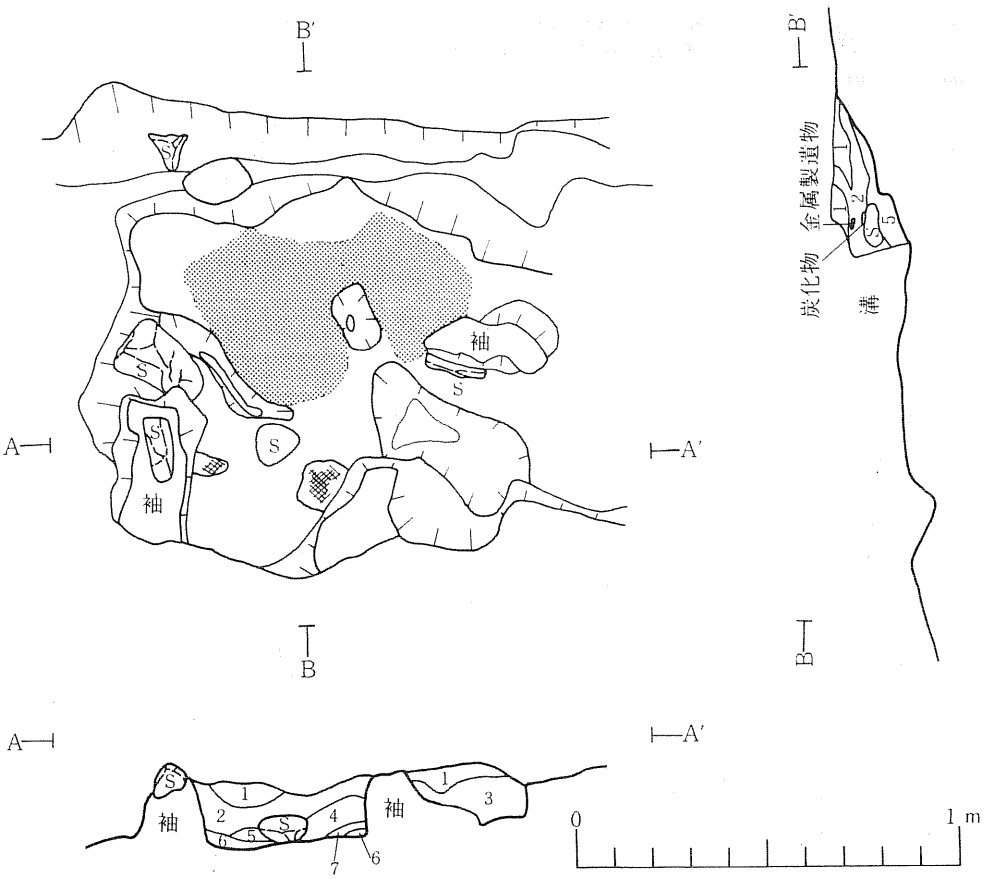


第64表　SI 028出土遺物観察表

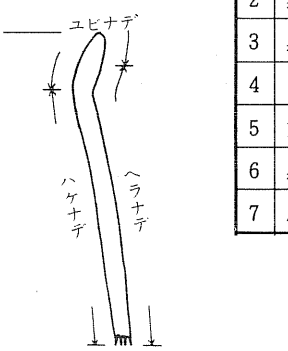
器種		土師器甕	
法量	口径	cm	
	底径	cm	
	器高	cm	
胎土		細かい	
焼成		良　好	
色調		明赤褐色	
成形		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ
	底		

層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性弱
2	暗褐色（10 YR 3/4）	
3	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性弱
4	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強
5	黒褐色（10 YR 2/2）	
6	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性弱、暗褐色土混入

第81図　S I 028竪穴住居跡実測図



層	土　　色	備　　考
1	黄 褐 色（10 YR 5/6）	
2	黒 褐 色（7.5 YR 3/2）	粘性弱、焼土混入
3	黒 褐 色（7.5 YR 2/2）	粘性強
4	暗 褐 色（7.5 YR 3/3）	粘性強、焼土多量に混入
5	黄 褐 色（10 YR 5/6）	粘性弱
6	黒 褐 色（7.5 YR 2/2）	粘性弱
7	灰黄褐色（10 YR 5/2）	



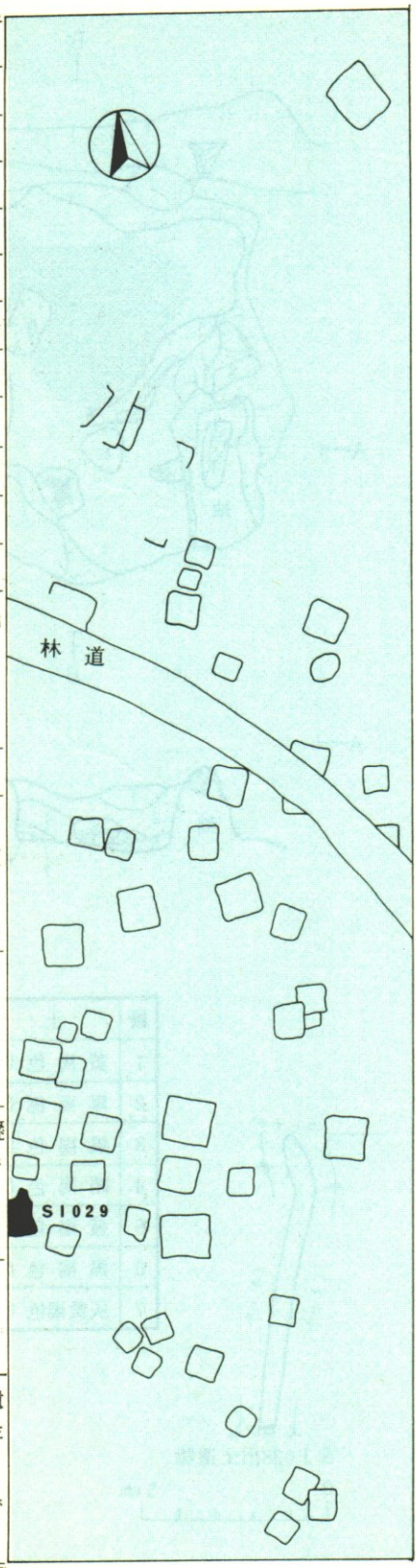
S I 028出土遺物

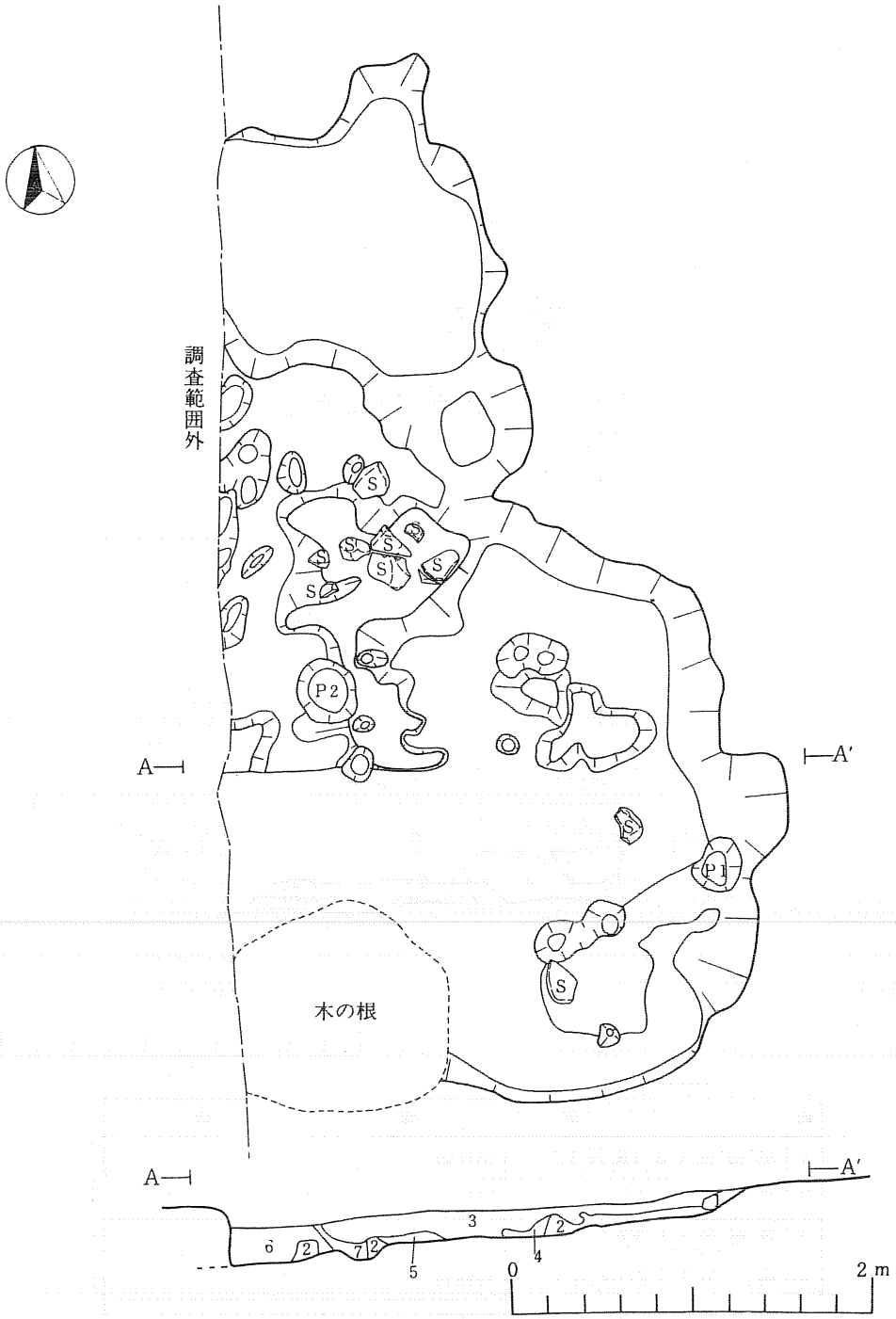
0　　5 cm

第82図　S I 028竪穴住居跡カマド実測図

第65表　SI 029竪穴住居跡観察表

挿図		83			
図版		38			
形態		不整形			
主軸方向					
法量	面積	——㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁高	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		ほとんど直線的箇所はなく、不整形で浅く、床よりやや緩やかに立ち上がる。			
壁溝		————			
ピット		P1(6) P2(10)（単位cm） 小ピットは多いが、柱穴らしいものは確認できなかった。			
床面		木の根などにより撹乱されており、激しい凹凸を示す。			
カマド		中央付近に焼土(50×35cm)と集石を確認した。大きく崩壊しているが、カマドであろうと思われる。			
遺物		土師器			
備考		木の根、その他により、崩壊の激しい遺構であるが、遺物出土状態、カマドの存在から住居跡であろうと考えられる。 住居跡西側は、調査範囲外のため調査できなかった。			

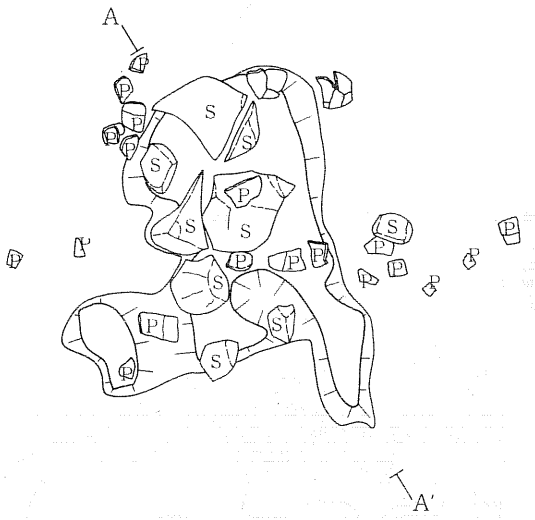


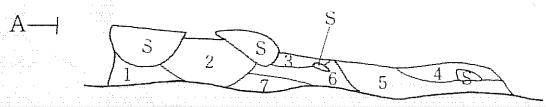


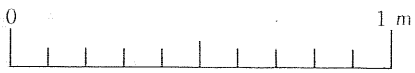
層	土色	備考
1	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性中
2	褐　色（10 YR 4/4）	粘性中、黒色土混入
3	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
4	暗褐色（7.5 YR 3/3）	粘性強、褐色土混入

層	土色	備考
5	黒　色（5 YR 1.7/1）	粘性強、褐色土混入
6	黒　色（10 YR 3/1）	粘性強、褐色土混入
7	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性中

第83図　ＳＩ029竪穴住居跡実測図





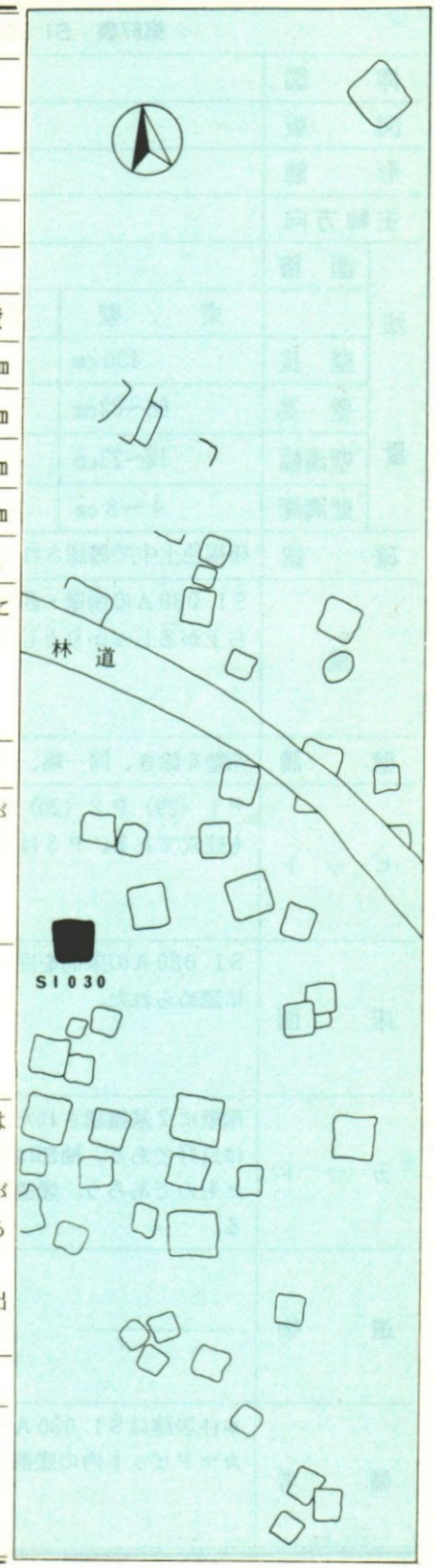


層	土　　色	備　　考
1	黒 褐 色（5 YR 2/1）	粘性弱
2	暗赤褐色（5 YR 3/3）	粘性弱
3	黒 褐 色（5 YR 2/2）	粘性弱
4	褐　　色（7.5 YR 4/4）	粘性弱
5	黒 褐 色（5 YR 3/1）	粘性弱
6	にぶい赤褐色（5 YR 4/4）	
7	赤 褐 色（5 YR 4/6）	粘性強

第84図　ＳＩ 029竪穴住居跡カマド実測図

第66表　SI 030 A 竪穴住居跡観察表

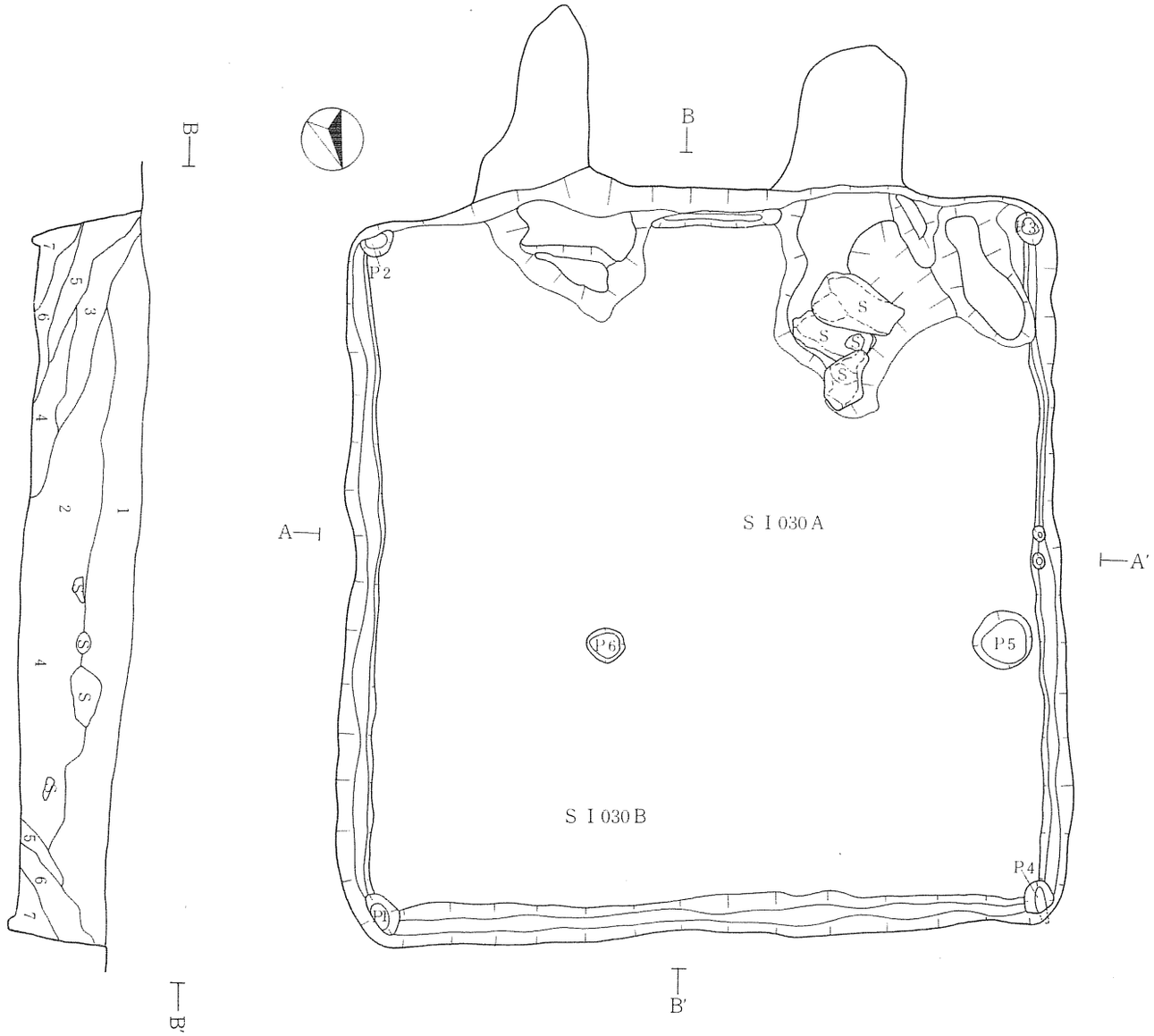
挿図		85			
図版		38、40			
形態		方形			
主軸方向		N－7.5°－W			
法量	面積	8.6 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	——cm	275 cm	——cm	270 cm
	壁高	——cm	36～48cm	51～67cm	——cm
	壁溝幅	——cm	8～19cm	20～25cm	——cm
	壁溝深	——cm	4～10cm	6 cm	——cm
確認		SI 030 B床面を精査中に確認された。			
壁		南北壁のみ確認できた。床面より垂直に立ち上がる。			
壁溝		———			
ピット		P 3 (29) P 5 (24) P 6 (18) (単位cm) が柱穴である。			
床面		平坦で堅くしまる。			
カマド		南壁西側に位置するもので、保存状態は良好といえる。 袖部は西側のみが残存するが、石抜痕が確認され、芯材に石を使用したものであろう。 煙道部は、97cmほどで緩やかに壁外に出ている。			
遺物		土師器、木製品 1			
備考		———			



第67表　SI 030B　竪穴住居跡観察表

挿図		85			
図版		38、39、40			
形態		方形			
主軸方向		N－3.5°－W			
法量	面積	20.2 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	430 cm	435 cm	430 cm	430 cm
	壁高	68～82cm	36～48cm	51～67cm	51～61cm
	壁溝幅	12～23cm	8～19cm	20～25cm	14～26cm
	壁溝深	4～8 cm	4～10cm	0～6 cm	4～8 cm

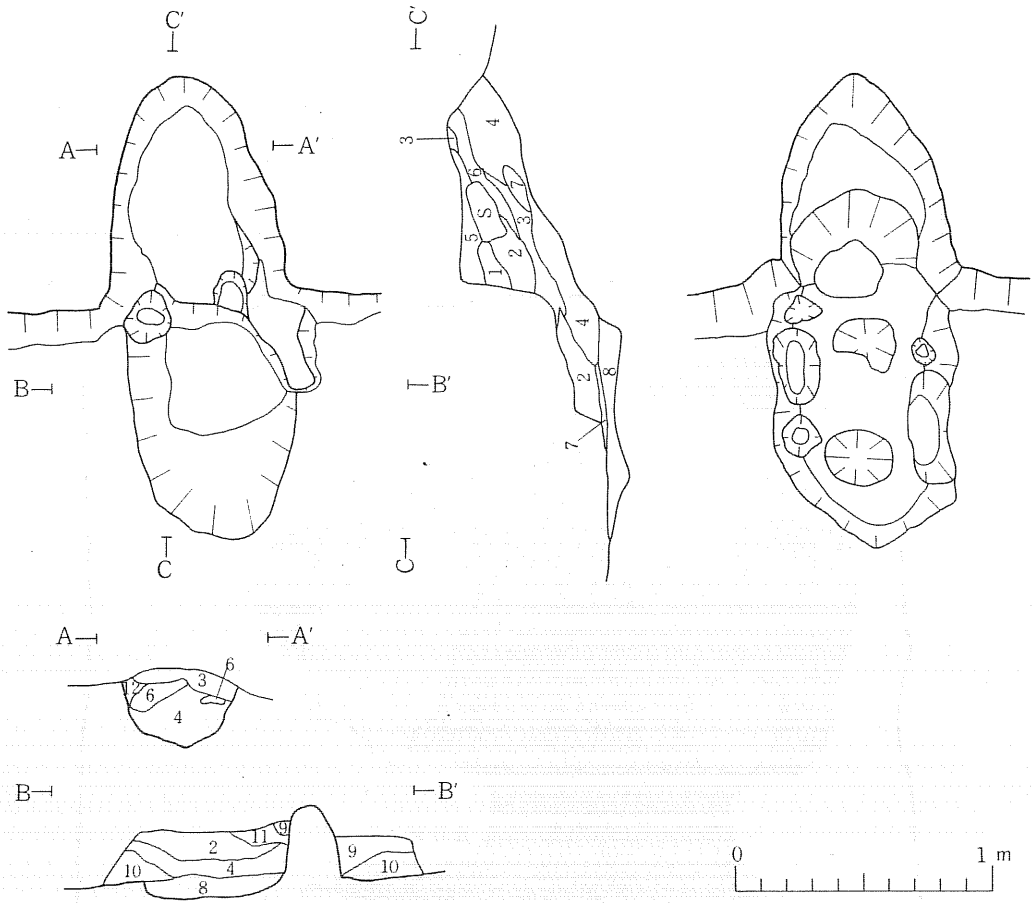
確認	暗褐色土中で確認された。
壁	SI 030Aの南壁・西壁を延長して構築している。四壁とも床面より垂直に立ち上がるしっかりとした作りである。
壁溝	南壁を除き、同一幅、深さで構築されている。
ピット	P1（29）P2（20）P3（29）P4（33）（単位cm）が確認された。いずれも柱穴である。P3はSI 030Aからの再利用である。
床面	SI 030Aの床面を同一レベルで拡張している。焼土、炭化物がほぼ床面全域に認められた。
カマド	南壁に2基確認された。当住居跡に伴うものは東寄りのものである。保存状態は良好である。袖部は壁と接する部分に若干残るが、芯材として石が使用されたものであろう。煙道部は床面のレベルから緩やかに115cmほど壁外に出ている。
遺物	――――
備考	本住居跡はSI 030Aを拡張したものである。 カマドピット内の底部より木製品が1点出土した。焼失家屋である。



層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（ 7.5 YR 2/2 ）	黄褐色地山土混入
2	黒褐色（ 7.5 YR 2/2 ）	白色浮石、黄褐色地山土混入
3	黒褐色（ 7.5 YR 2/2 ）	１層と同様、褐色粘土混入
4	黒褐色（ 7.5 YR 2/2 ）	粘性強、黄褐色地山土混入
5	黒褐色（ 7.5 YR 2/2 ）	粘性強
6	黒　色（ 7.5 YR 1.7/1 ）	粘性強
7	黒褐色（ 7.5 YR 2/2 ）	粘性強、白色浮石混入
8	黒褐色（ 7.5 YR 3/1 ）	白色浮石多量に混入
9	黒褐色（ 7.5 YR 3/1 ）	黄褐色地山土混入
10	黒褐色（ 7.5 YR 3/2 ）	黄褐色地山土混入
11	黒褐色（ 7.5 YR 2/2 ）	黄褐色地山土多量に混入

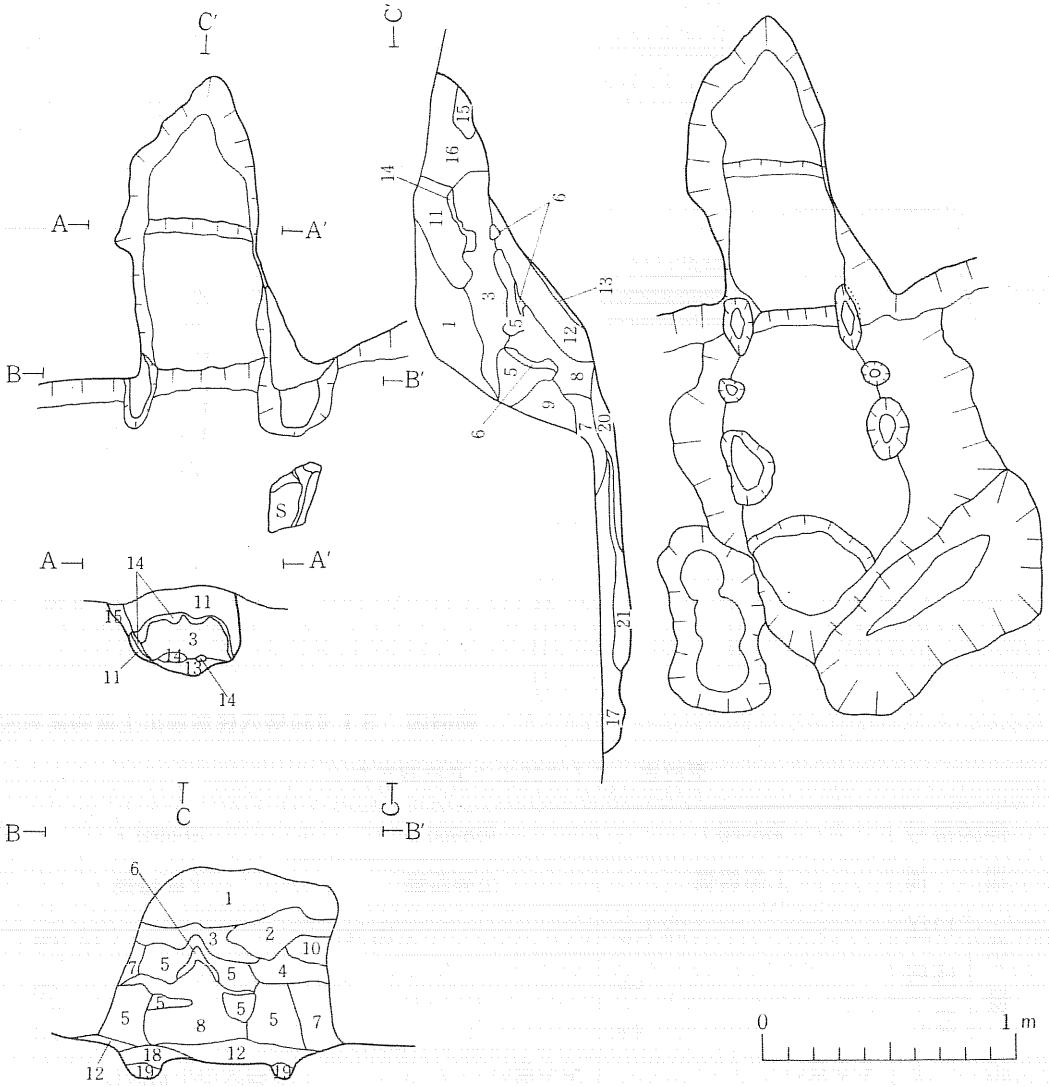
第85図　ＳＩ030Ａ・Ｂ竪穴住居跡実測図

第86図　ＳＩ０３０Ａ・Ｂ竪穴住居跡炭化物・焼土分布状況図



層	土　　色	備　　考
1	黒 褐 色（10 YR 2/3）	明黄褐色土混入
2	黒 褐 色（10 YR 2/2）	粘性強
3	褐　　色（10 YR 4/4）	粘土、天井部
4	黒　　色（10 YR 2/1）	褐色粘土混入
5	黒 褐 色（10 YR 2/2）	
6	暗 褐 色（10 YR 3/3）	粘性強、褐色粘土混入
7	暗赤褐色（5 YR 3/4）	焼土
8	黒 褐 色（10 YR 2/2）	粘性強、焼土混入
9	黒　　色（10 YR 2/1）	粘性強
10	黒 褐 色（10 YR 2/2）	黄褐色粘土混入
11	褐　　色（10 YR 4/4）	粘土
12	黒　　色（10 YR 2/1）	粘性強、焼土混入

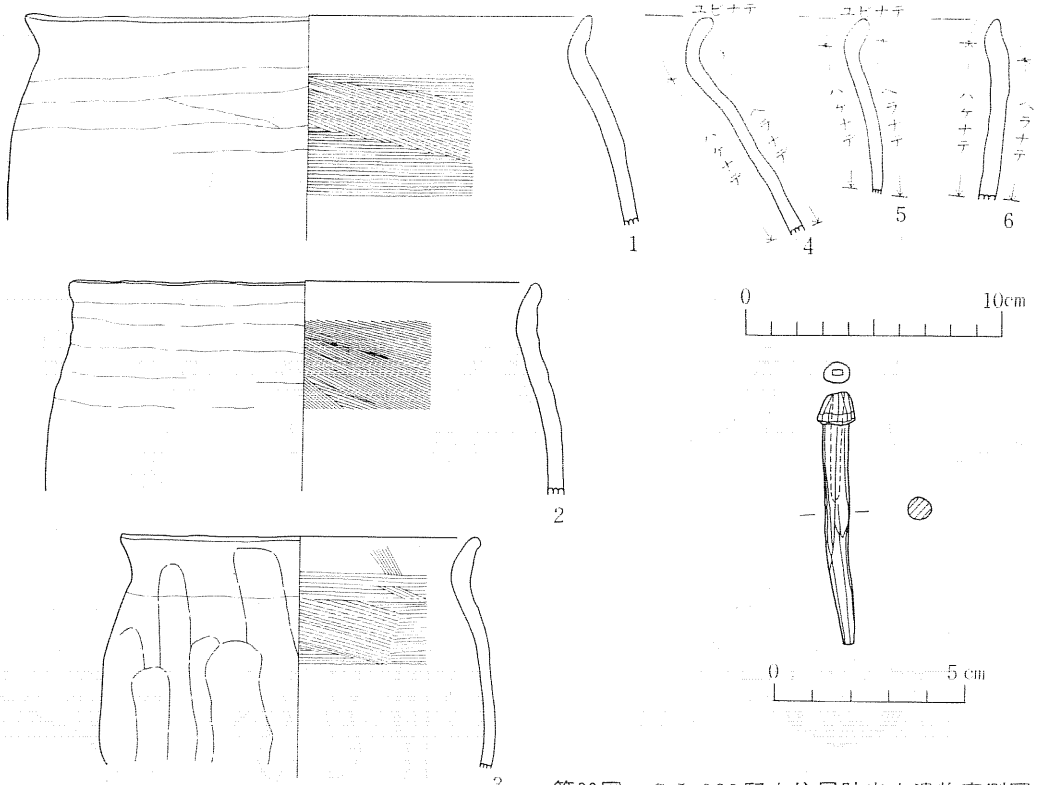
第87図　ＳＩ030Ａ竪穴住居跡カマド実測図



層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/1）	
2	黒色（10 YR 2/1）	
3	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、褐色粘土混入
4	黄褐色（10 YR 5/6）	粘性強
5	褐色（10 YR 4/4）	粘土、熱焼部天井及び袖
6	暗赤褐色（5 YR 3/6）	粘土、熱焼部天井内側が焼けている。
7	黒色（10 YR 2/1）	白色浮石混入
8	黒褐色（10 YR 3/2）	焼土混入
9	黒褐色（10 YR 3/3）	
10	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性弱
11	褐色（10 YR 4/4）	粘土、煙道部天井

層	土色	備考
12	黒褐色（7.5 YR 2/2）	焼土混入
13	暗褐色（7.5 YR 3/3）	
14	暗赤褐色（5 YR 3/6）	粘土、煙道部天井内面
15	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性弱
16	黒褐色（7.5 YR 2/2）	
17	黒色（10 YR 2/1）	
18	にぶい黄橙色（10 YR 7/4）	粘性強
19	黒褐色（10 YR 3/1）	灰混入
20	黒褐色（10 YR 2/2）	焼土混入
21	黒褐色（10 YR 3/3）	焼土混入

第88図　ＳＩ０３０Ｂ竪穴住居跡カマド実測図



第89図　ＳＩ030竪穴住居跡出土遺物実測図

第68表　ＳＩ030出土遺物観察表(1)

挿図番号		第89図1		第89図2		第89図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	(22)cm		(16)cm		(12)cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		やや荒い		やや荒い		3㎜大の小石含む	
焼成		良好		良好		良好	
色調		赤褐色		赤褐色		にぶい橙色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底						
備考							

第69表　SI 030出土遺物観察表(2)

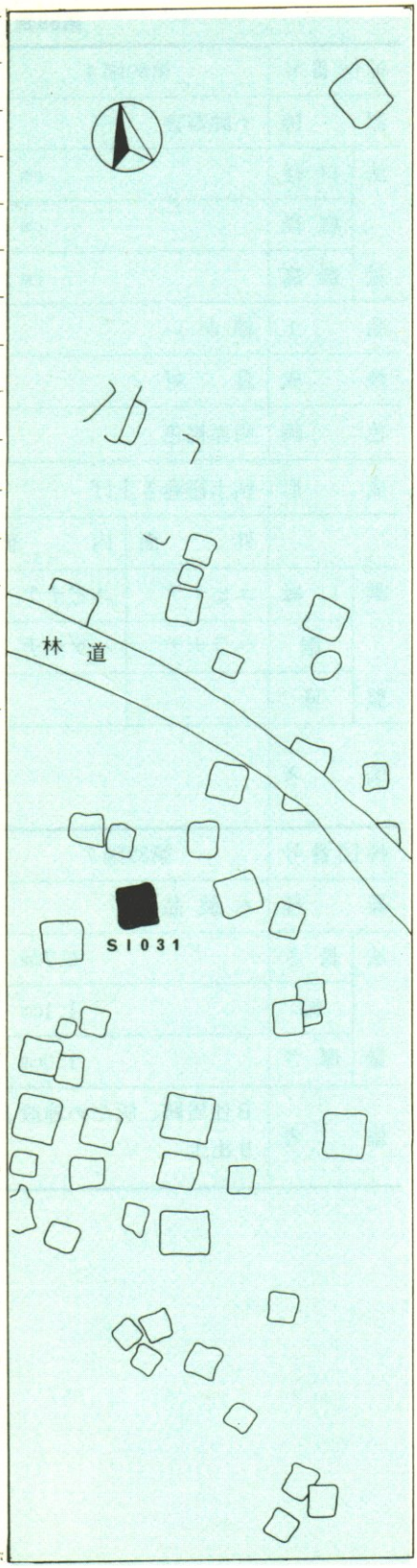
挿図番号		第89図4		第89図5		第89図6	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		細かい		細かい		細かい	
焼成		良好		良好		良好	
色調		明赤褐色		明赤褐色		赤褐色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底						
備考							

挿図番号		第89図7
器種		木製品
法量	長さ	6.7cm
	幅	1.1cm
	厚さ	1.0cm
備考		B住居跡、灰だめ施設より出土

第70表　SI 031 A竪穴住居跡観察表

挿図		90			
図版		41、42			
形態		方形			
主軸方向		N－1.0°－W			
法量	面積	―― ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	460 cm	450 cm	―― cm	448 cm
	壁高	―― cm	13～20cm	23～34cm	―― cm
	壁溝幅	7～20cm	―― cm	―― cm	16～42cm
	壁溝深	8～11cm	―― cm	―― cm	2～7 cm

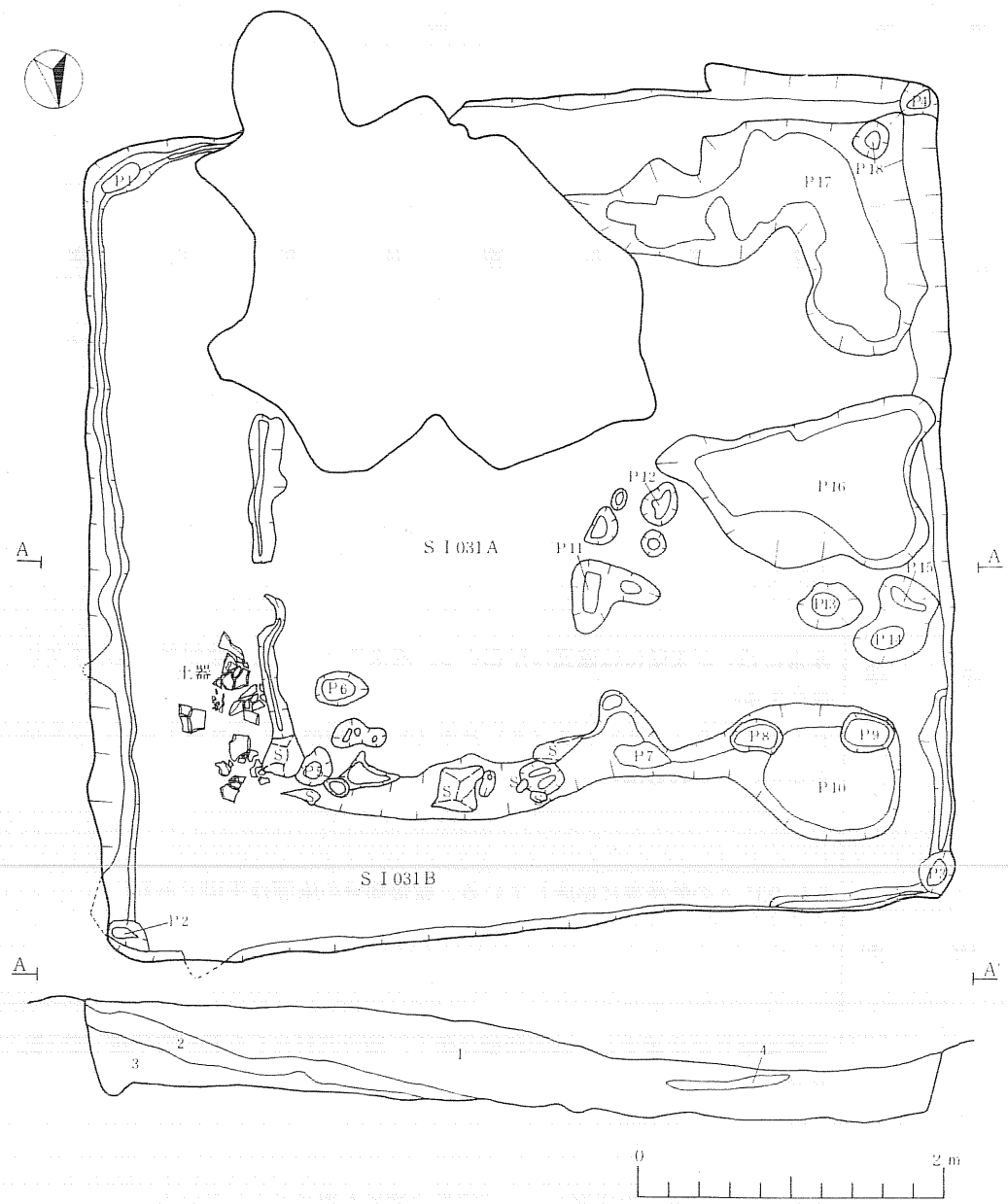
確認	SI 031 B床面に確認された。
壁	北壁・東壁は存在しない。 西壁・南壁は傾斜の急なしっかりとした壁である。
壁溝	東壁・南壁が存在する。非常に浅く、かつゆがんでいる。
ピット	P 5(22) P 6(10) P 7(8) P 8(10) P 9(30) P10(30) P11(10) P12(7) P13(9) P14(11) P15(14) P16(13) P17(34) P18(20) （単位cm） 床面や壁溝内に不規則なピットが多い。このうちP 5・9・18等はこの住居の柱穴であろう。
床面	地山を床面としており、細かな凹凸が多い。
カマド	南壁東寄りに構築されている。袖ははっきりしないが、燃焼部の天井として、35×15cmほどの石が残っている。その他の石も袖の芯材として使用されたものであろう。
遺物	土師器、砥石5、金属器1
備考	住居跡東側・北側をそのまま拡張してS 031 B住居跡としている。



第71表　SI 031B　竪穴住居跡観察表

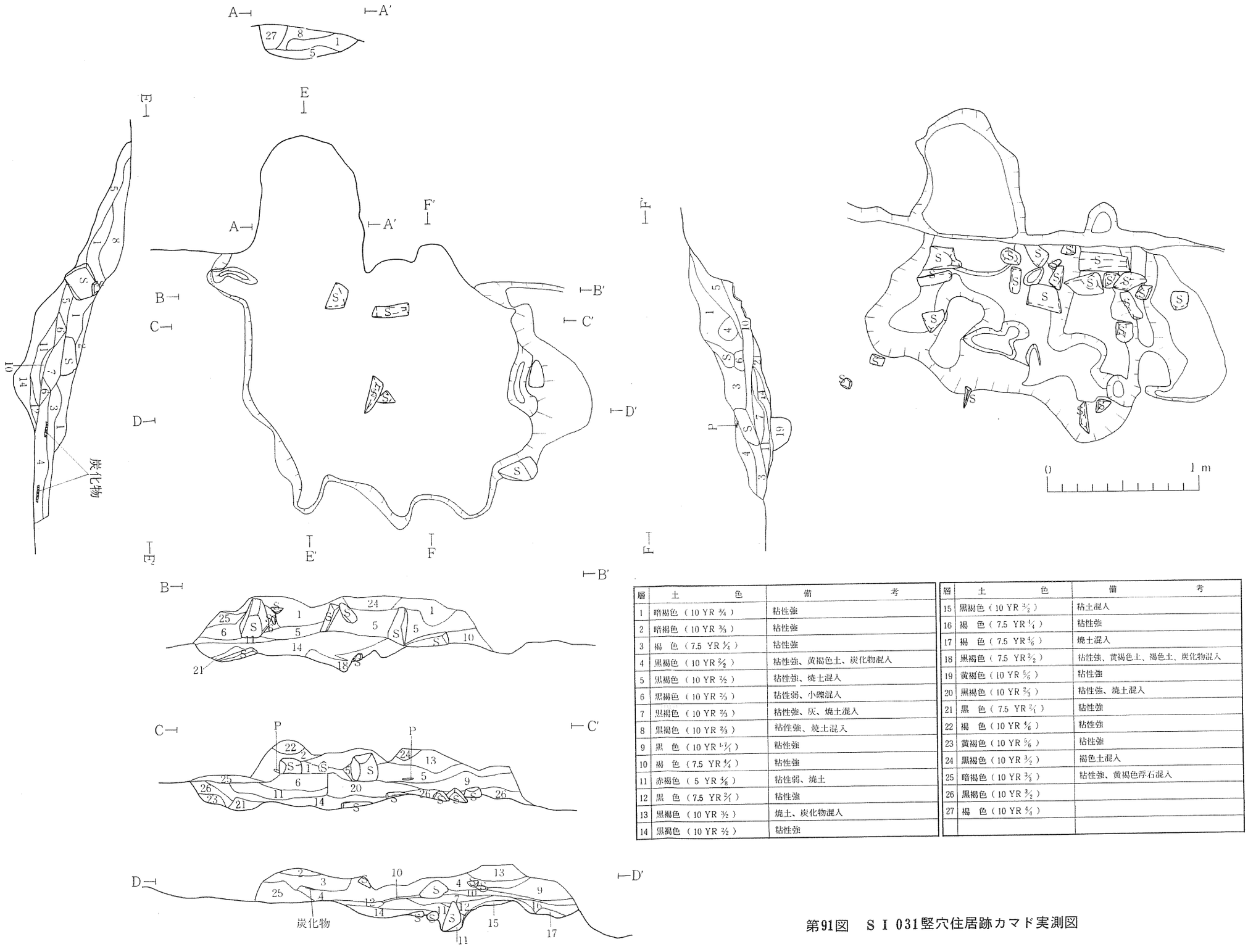
挿図		90			
図版		41、42			
形態		方形			
主軸方向		――――			
法量	面積	30.9 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	518 cm	532 cm	554 cm	550 cm
	壁高	57～66cm	1 ～16cm	12～52cm	5 ～59cm
	壁溝幅	10～34cm	4 ～12cm	6 ～16cm	2 ～9 cm
	壁溝深	2 ～6 cm	2 ～3 cm	1 ～4 cm	0 ～2 cm

確認	地山面で確認された。
壁	東壁が最も高く60cm以上を測るが、西ほど低くなる。床面よりほぼ垂直に立ち上がる。
壁溝	非常に浅いが東壁には確実に存在する。南東コーナー部、北西部にもわずかに存在する。
ピット	P1（7）P2（8）P3（6）P4（6）（単位cm）4コーナーにピットがあるが、いずれも浅い。
床面	SI 031 Aの壁溝等に貼床している。拡張部分の床面は平坦である。
カマド	南壁東寄りに位置する。残存状態は悪く、袖の芯材にした石が若干残っている。煙道は緩やかに立ち上がる。
遺物	北東コーナー付近の床面からほぼ完形の甕形土器が出土している。
備考	SI 031 Aを拡張したものである。住居跡廃絶後にSD 012が、北西コーナー付近を通って構築される。



層	土　　色	備　　考
1	黒 褐 色 (7.5 YR　2/2)	黄褐色地山土混入
2	黒　　色 (7.5 YR　2/1)	小礫混入
3	極暗褐色 (7.5 YR　2/3)	黄褐色地山土混入
4	暗 褐 色 (7.5 YR　3/3)	灰白色、黄褐色浮石混入

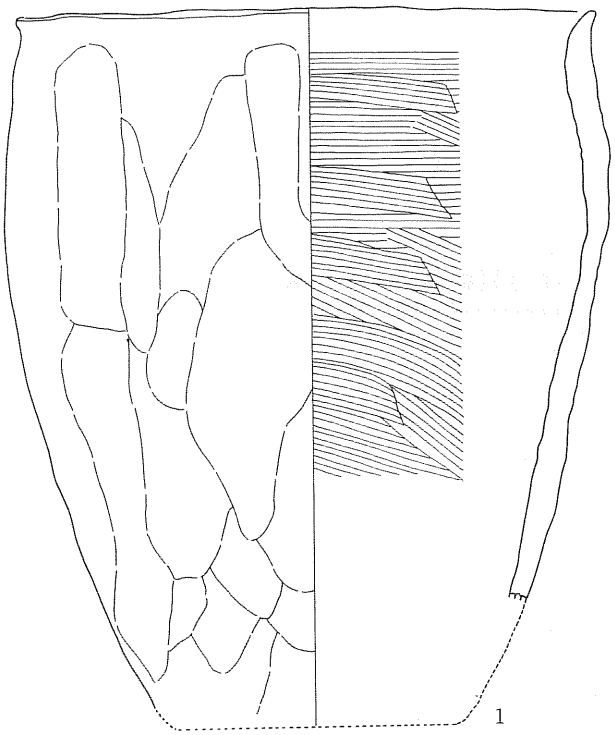
第90図　S I 031A・B竪穴住居跡実測図

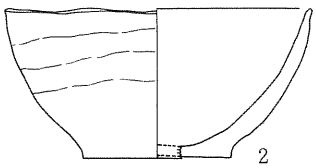


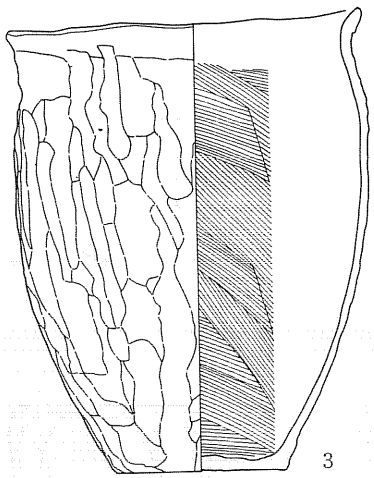
層	土色	備考
1	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強
2	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強
3	褐　色（7.5 YR 4/4）	粘性強
4	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強、黄褐色土、炭化物混入
5	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、焼土混入
6	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性弱、小礫混入
7	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強、灰、焼土混入
8	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強、焼土混入
9	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
10	褐　色（7.5 YR 4/4）	粘性強
11	赤褐色（5 YR 4/8）	粘性弱、焼土
12	黒　色（7.5 YR 2/1）	粘性強
13	黒褐色（10 YR 3/2）	焼土、炭化物混入
14	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強

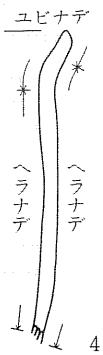
層	土色	備考
15	黒褐色（10 YR 3/2）	粘土混入
16	褐　色（7.5 YR 4/4）	粘性強
17	褐　色（7.5 YR 4/6）	焼土混入
18	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性強、黄褐色土、褐色土、炭化物混入
19	黄褐色（10 YR 5/6）	粘性強
20	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強、焼土混入
21	黒　色（7.5 YR 2/1）	粘性強
22	褐　色（10 YR 4/6）	粘性強
23	黄褐色（10 YR 5/6）	粘性強
24	黒褐色（10 YR 3/2）	褐色土混入
25	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強、黄褐色浮石混入
26	黒褐色（10 YR 3/2）	
27	褐　色（10 YR 4/4）	

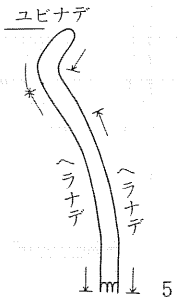
第91図　ＳＩ031竪穴住居跡カマド実測図

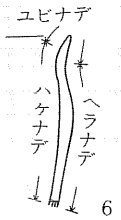


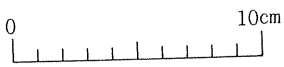




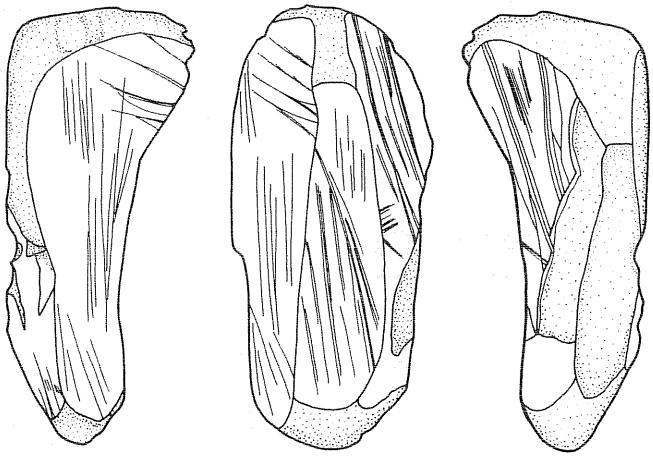




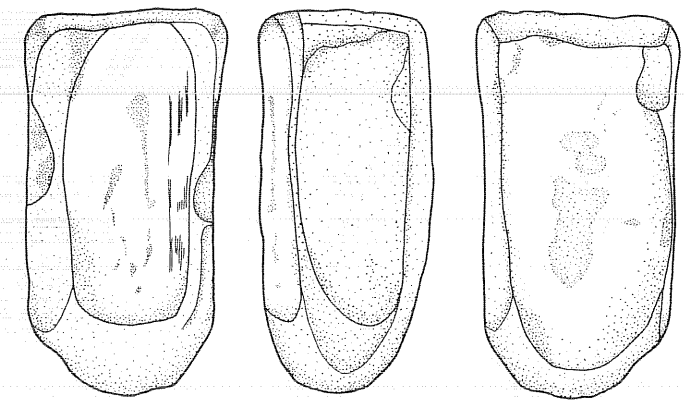




第92図　ＳＩ031竪穴住居跡出土遺物実測図（1）



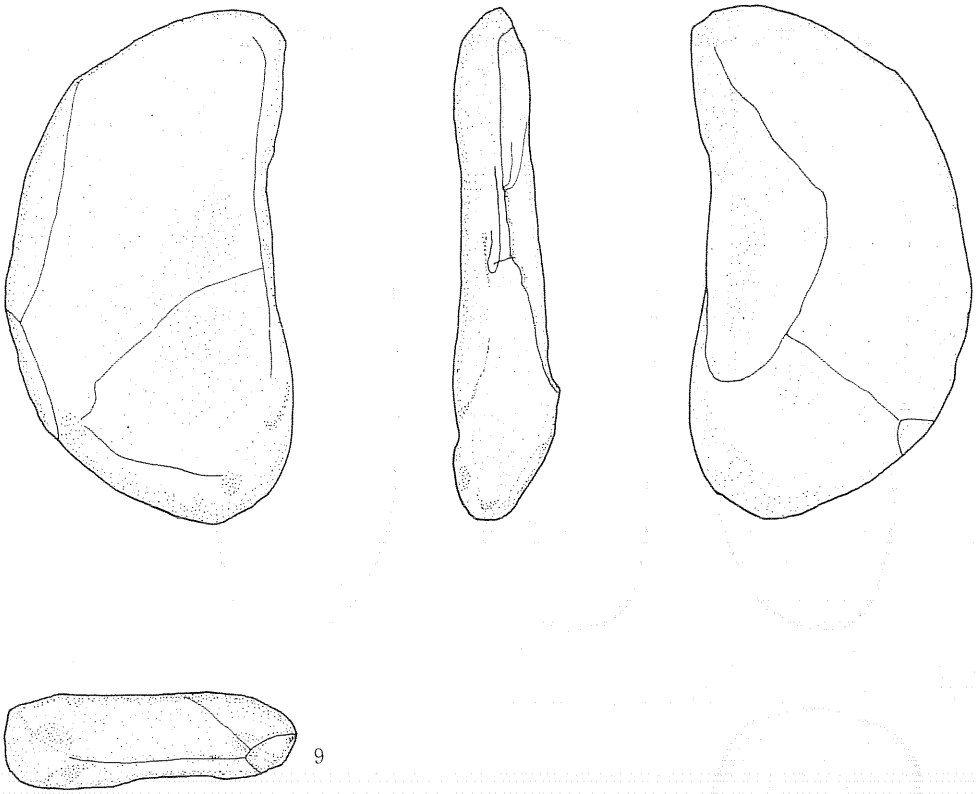
7



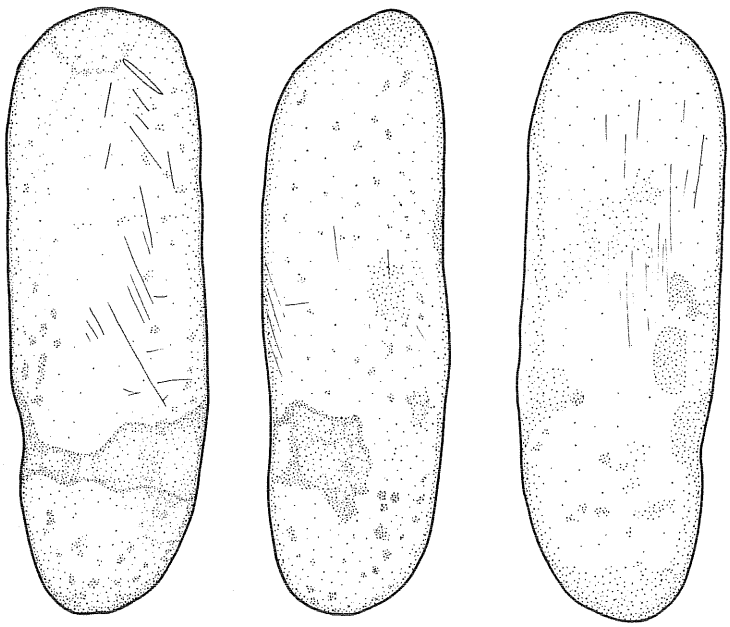
8

第93図　ＳＩ031竪穴住居跡出土遺物実測図（２）

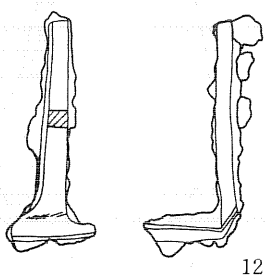
0　5 cm



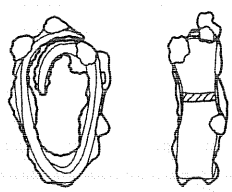
第94図　ＳＩ031竪穴住居跡出土遺物実測図（３）



11



12



13

0　5 cm

第95図　ＳＩ031竪穴住居跡出土遺物実測図（４）

第72表　ＳＩ031出土遺物観察表(1)

挿図番号		第92図1		第92図2		第92図3	
器種		土師器甕		土師器坏・塊？		土師器甕	
法量	口径	長径24.1㎝・短径23.3㎝		(12)㎝		長径14.1㎝・短径13.5㎝	
	底径	(10)㎝		(6)㎝		7㎝	
	器高	長径(29.8)短径(29.6)㎝		6㎝		長径18.5㎝・短径17.7㎝	
胎土		2～5㎜大の小礫が多量に混入		2～4㎜大の礫含む		細かい砂粒をわずかに含む	
焼成		良好		良好		良好	
色調		赤褐色		褐色		明褐色ないし黒褐色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ユビオサエ	ハケナデ	ヘラナデ	ヘラナデ
	底	ヘラナデ	ハケナデ	ユビオサエ	ハケナデ		
備考				底面に圧痕		底面に圧痕	

挿図番号		第92図4		第92図5		第92図6	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	㎝		㎝		㎝	
	底径	㎝		㎝		㎝	
	器高	㎝		㎝		㎝	
胎土		細かいが石英粒が多く含まれている。		細かい		細かい	
焼成		良好		良好		良好	
色調		橙色ないしにぶい褐色		橙色		橙色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底						
備考							

第73表　SI 031出土遺物観察表(2)

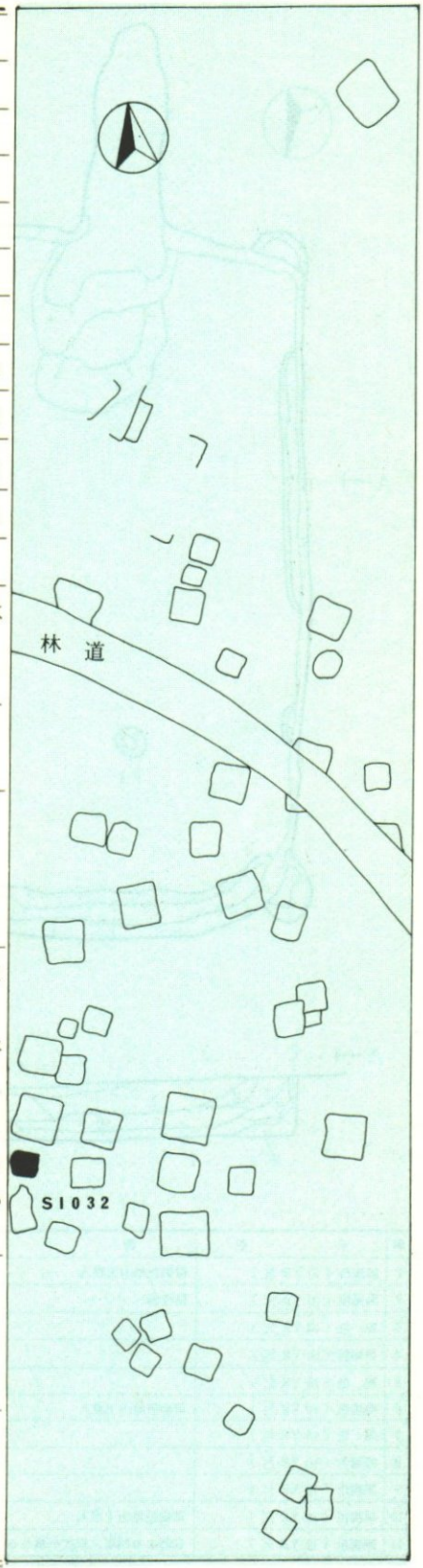
挿図番号		第93図7	第93図8	第93図9
器種		砥石	砥石	砥石
法量	長さ	11.2cm	10.1cm	27.0cm
	幅	5.3cm	4.8cm	14.0cm
	厚さ	4.7cm	4.3cm	5.1cm
重量		226g	315g	g
石質		流紋岩	砂岩	安山岩
備考		砥面4、煤付着	砥面4	砥面1

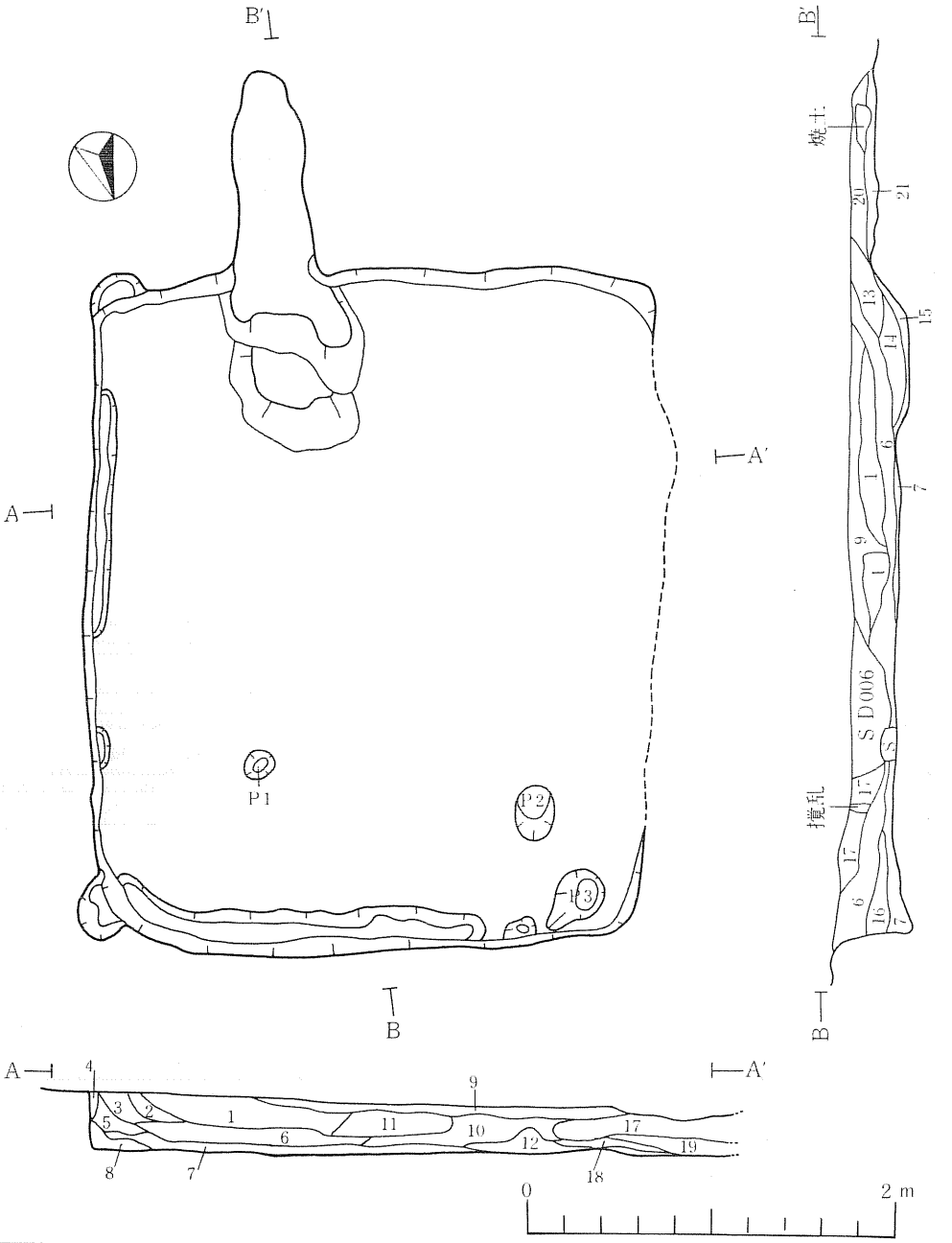
挿図番号		第93図10	第93図11
器種		砥石	砥石
法量	長さ	17.5cm	16.0cm
	幅	11.2cm	5.3cm
	厚さ	4.3cm	4.9cm
重量		1,100g	620g
石質		流紋岩	流紋岩
備考		砥面1	砥面4

挿図番号		第93図12	第93図13
器種		?	?
法量	長さ	6.3cm	4.2cm
	幅	2.4cm	2.1cm
	厚さ	1.1cm	0.3cm
備考			

第74表　SI 032竪穴住居跡観察表

挿図		96			
図版		43			
形態		方形			
主軸方向		N－19.0°－E			
法量	面積	11.8 ㎡　㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	370 cm	360 cm	305 cm	310 cm
	壁高	32～37cm	—— cm	12～30cm	28～40cm
	壁溝幅	9 ～12cm	—— cm	—— cm	20～30cm
	壁溝深	0.3～3cm	—— cm	—— cm	27～10cm
確認		地山面で確認された。			
壁		西壁はほとんど存在しないが、他の壁は床面より垂直に立ち上がる。			
壁溝		東壁、北壁に断続的に存在するが、幅、深さの差が大きい。			
ピット		P 1 (14) P 2 (21) （単位cm） 柱穴は確認できなかった。			
床面		地山を床面としており、平坦で堅くしまっている。 南壁東寄りに位置する。残存状態は良好である。			
カマド		袖は粘土により作られている。 煙道は、内壁にうすく粘土が貼り付けられ、120 cmほどで緩やかに壁外に延びる 煙道中央に23cm大の礫がある。			
遺物		土師器			
備考		SD 006に切られている。			

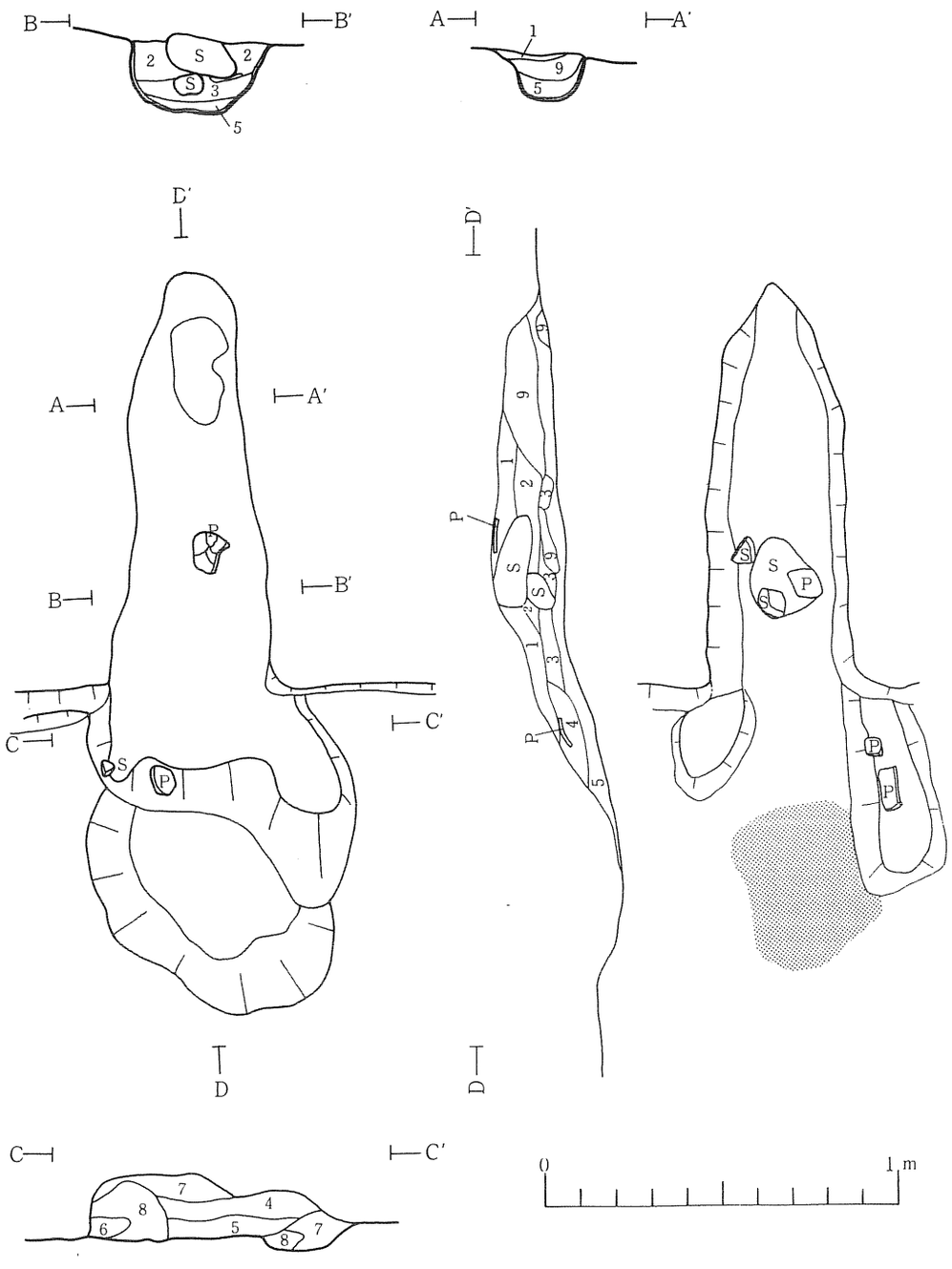


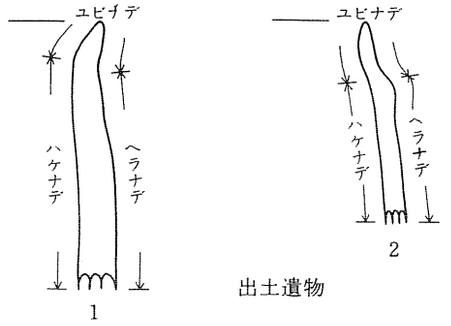


層	土色	備考
1	暗褐色（10 YR 3/4）	黄褐色地山土混入
2	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性弱
3	褐　色（10 YR 4/4）	
4	黒褐色（10 YR 2/3）	
5	褐　色（10 YR 4/4）	
6	暗褐色（10 YR 3/3）	黄褐色地山土混入
7	黒　色（10 YR 2/1）	
8	暗褐色（10 YR 3/3）	
9	黒褐色（10 YR 2/2）	
10	黒褐色（10 YR 3/3）	黄褐色地山土混入
11	黒褐色（10 YR 3/3）	10層より明度、彩度が落ちる。

層	土色	備考
12	黒褐色（10 YR 3/3）	黄褐色地山土混入
13	黒褐色（10 YR 2/3）	
14	黒　色（10 YR 2/1）	
15	黒褐色（10 YR 3/4）	黄褐色地山土混入
16	黒褐色（10 YR 2/3）	
17	黒　色（10 YR 1.7/1）	黄褐色地山土混入
18	黒褐色（10 YR 2/2）	黄褐色地山土混入
19	黒褐色（10 YR 2/2）	
20	黒褐色（10 YR 2/2）	かまど天井部
21	黒褐色（10 YR 3/4）	天井部粒子混入

第96図　ＳＩ032竪穴住居跡実測図





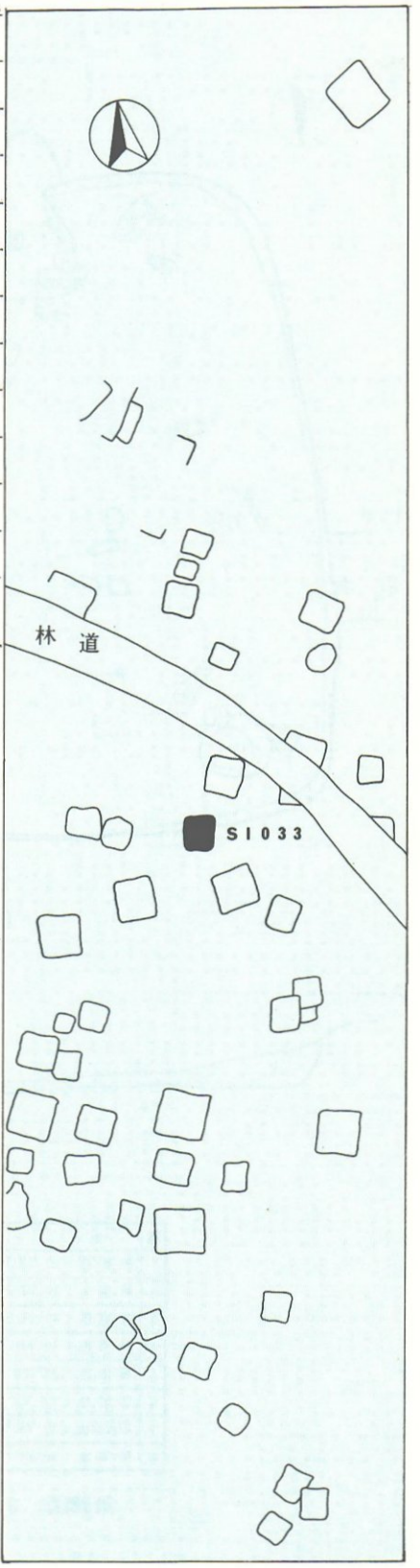
器種		甕	甕
法量	口径	cm	cm
	底径	cm	cm
	器高	cm	cm
胎土		3㎜大の小石含む	細かい
焼成		良好	良好
色調		赤褐色	赤褐色
成形		粘土紐巻き上げ	粘土紐巻き上げ
		外面 / 内面	外面 / 内面
調整	口縁	ユビナデ / ユビナデ	ユビナデ / ユビナデ
	胴	ヘラナデ / ハケナデ	ヘラナデ / ハケナデ
	底		
備考			

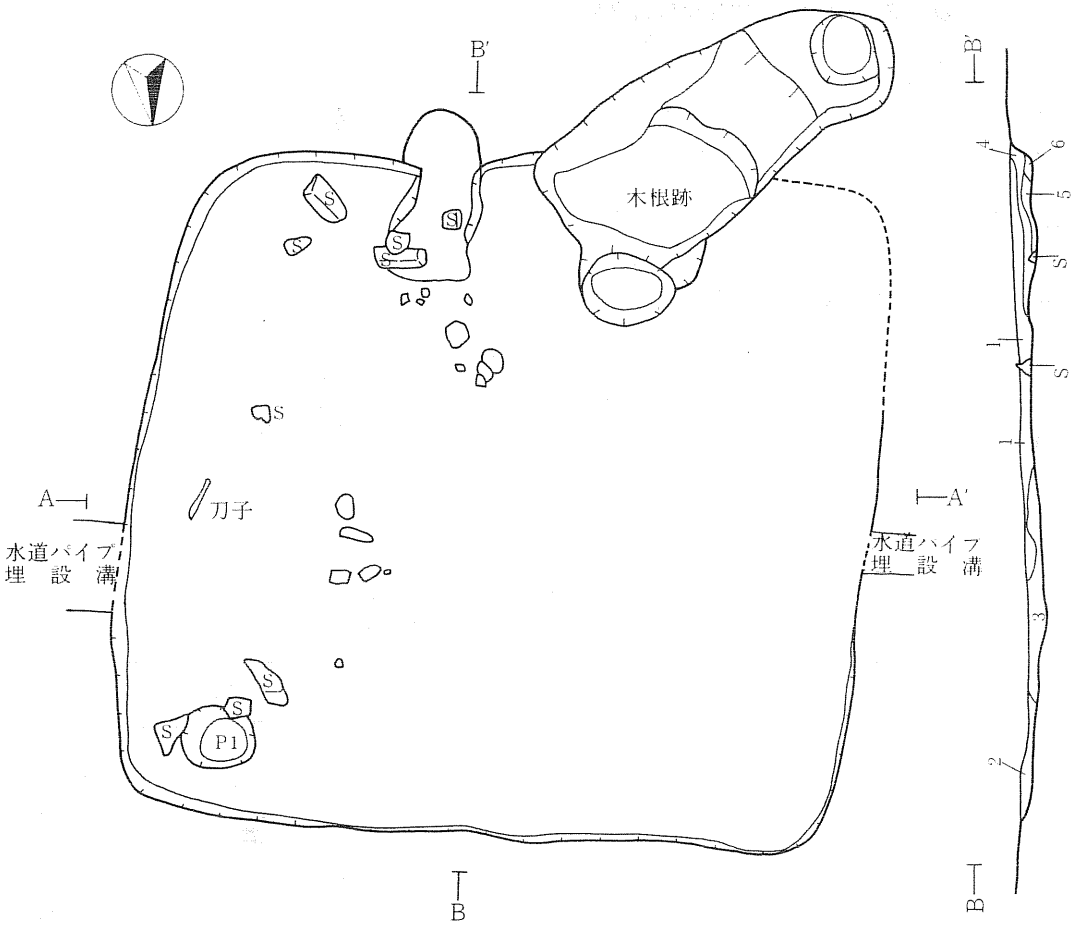
層	土色	備考
1	黒褐色（10YR 2/3）	
2	暗褐色（10YR 3/4）	粘性弱
3	黒褐色（10YR 3/2）	粘土混入
4	黒褐色（10YR 2/2）	焼土混入
5	暗褐色（10YR 3/4）	
6	黒褐色（10YR 3/2）	
7	暗褐色（10YR 3/4）	黄褐色浮石混入
8	明黄褐色（10YR 6/6）	粘土、袖部
9	褐色（10YR 4/4）	粘土、天井部

第97図　ＳＩ032竪穴住居跡カマド実測図

第75表　SI 033竪穴住居跡観察表

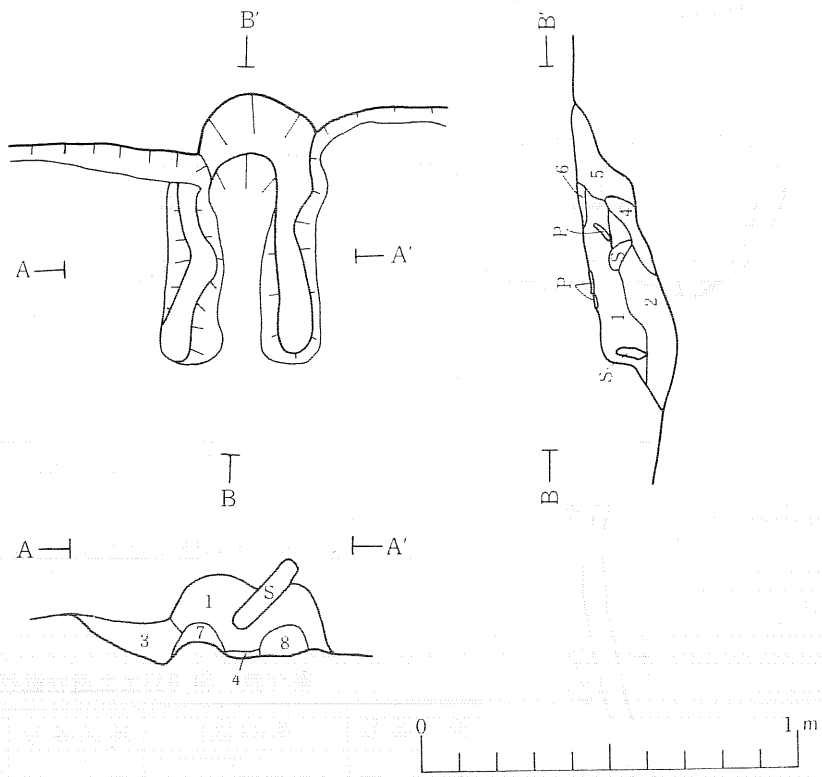
挿図		98			
図版		44、45			
形態		方形			
主軸方向		N－13.5°－E			
法量	面積	13.3 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	350 cm	335 cm	355 cm	370 cm
	壁高	29～34cm	1～5 cm	11 cm	5～14cm
	壁溝幅	——cm	—— cm	—— cm	——cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		東壁はほぼ垂直に立ち上がり、最もしっかりとしているが北壁は西ほど低くなり、西壁はほとんど見られない。			
壁溝		————			
ピット		P 1（16）（単位cm） 北東コーナーに1個検出されただけである。			
床面		地山を床面としている。南西コーナーへ向って傾斜する。			
カマド		南壁中央からやや東寄りに位置し、保存状態は良好である。袖は粘土により構築されている。			
遺物		土師器、鉄器			
備考		西壁の一部は倒木痕により破壊されている。			





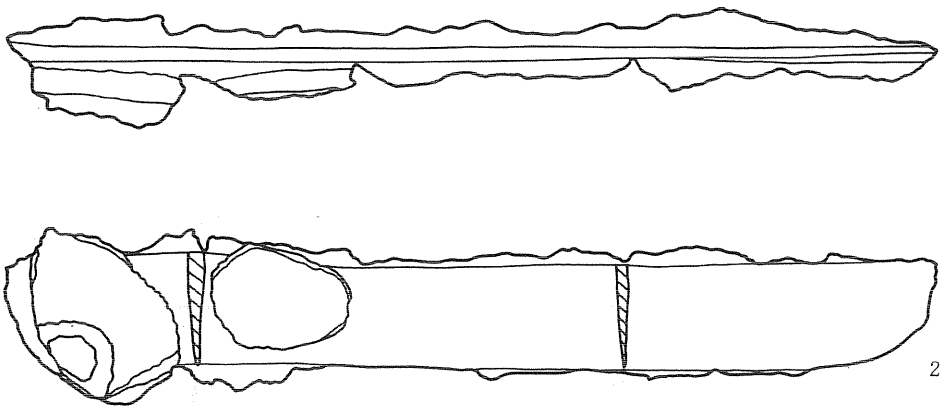
層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱
2	黒褐色（10 YR 2/3）	黄褐色地山土混入
3	黄褐色（10 YR 5/6）	
4	黒褐色（10 YR 3/1）	黄褐色地山土混入
5	黒褐色（7.5 YR 3/2）	焼土混入
6	明褐色（7.5 YR 5/6）	
7	明黄褐色（10 YR 6/6）	砂
8	暗褐色（10 YR 3/4）	

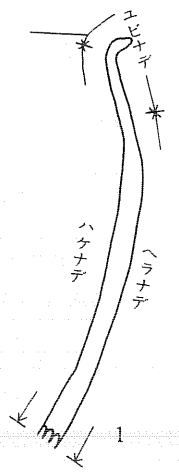
第98図　ＳＩ033竪穴住居跡実測図

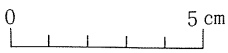


層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（7.5 YR 3/2）	
2	明褐色（7.5 YR 5/6）	
3	黒　色（10 YR 2/1）	黄褐色浮石混入
4	黒　色（10 YR 2/1）	
5	黒褐色（10 YR 3/2）	
6	褐　色（10 YR 4/4）	
7	黒褐色（5 YR 2/2）	暗褐色土混入、袖部
8	暗褐色（10 YR 3/4）	黄褐色浮石混入、袖部

第99図　ＳＩ033竪穴住居跡カマド実測図







第100図　ＳＩ033竪穴住居跡出土遺物実測図

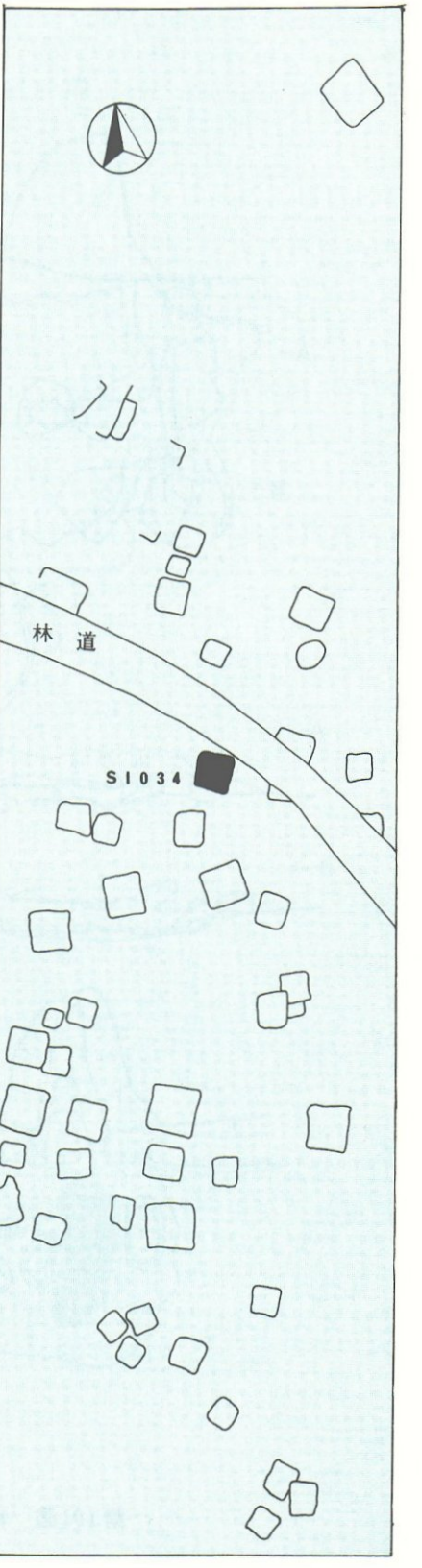
第76表　SI 033出土遺物観察表

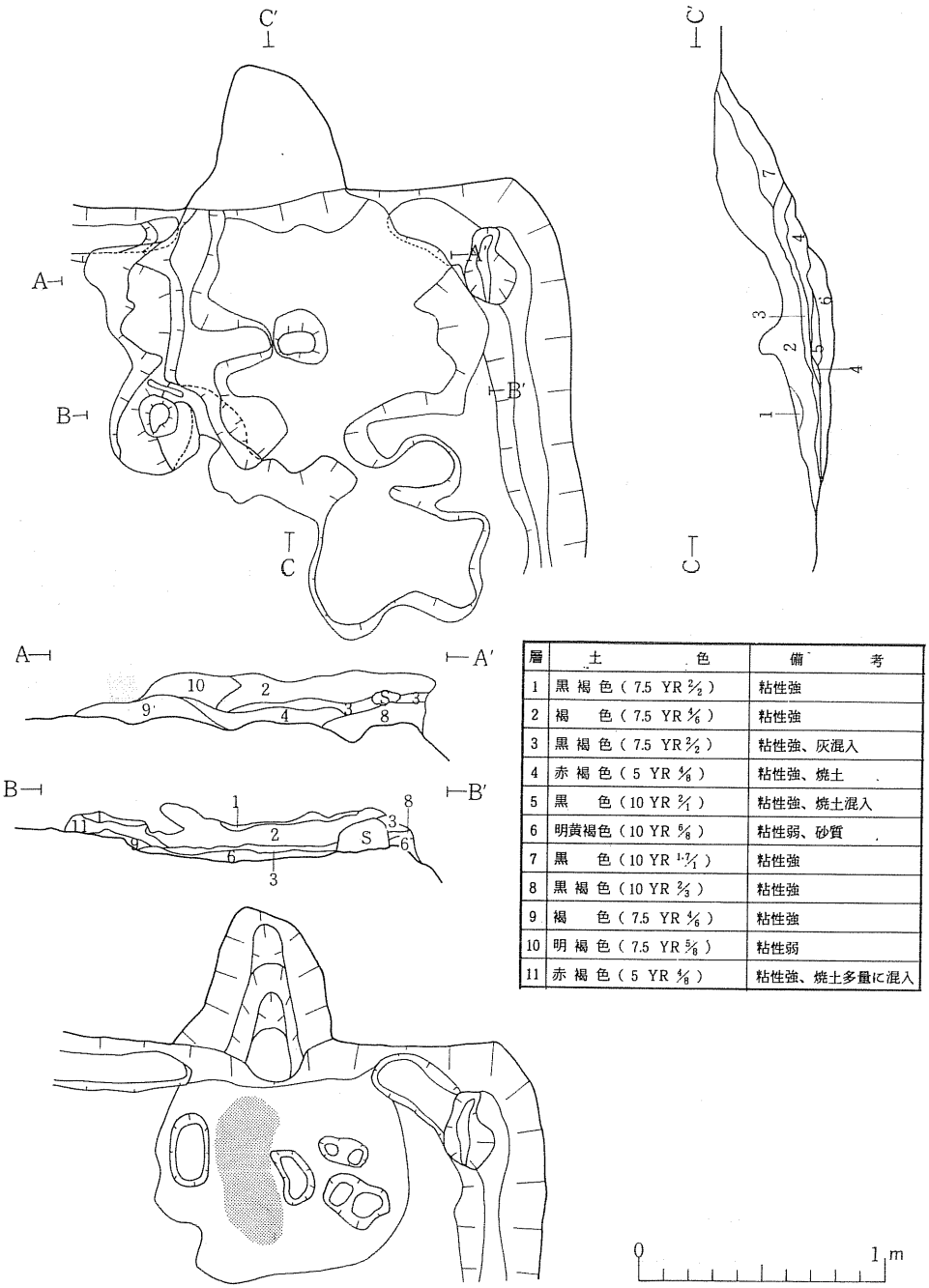
挿図番号		第100図1		挿図番号	第100図2
器種		土師器甕		器種	刀子
法量	口径	cm	法量	長さ	24.4cm
	底径	cm		幅	2.7cm
	器高	cm		厚さ	0.6cm
胎土		1～3㎜大の小礫を含む	備考		茎部欠損
焼成		良好			
色調		明赤褐色			
成形		粘土紐巻き上げ			
		外面	内面		
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ		
	胴	ヘラナデ	ハケナデ		
	底				
備考					

第77表　SI 034竪穴住居跡観察表

挿図		102			
図版		45、46			
形態		方形			
主軸方向		N－22.0°－E			
法量	面積	21.8 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	400 cm	445 cm	460 cm	480 cm
	壁高	58～65cm	20～33cm	38～56cm	38～54cm
	壁溝幅	16～33cm	6～12cm	22～32cm	4～24cm
	壁溝深	7～10cm	7～10cm	9～12cm	6～8 cm

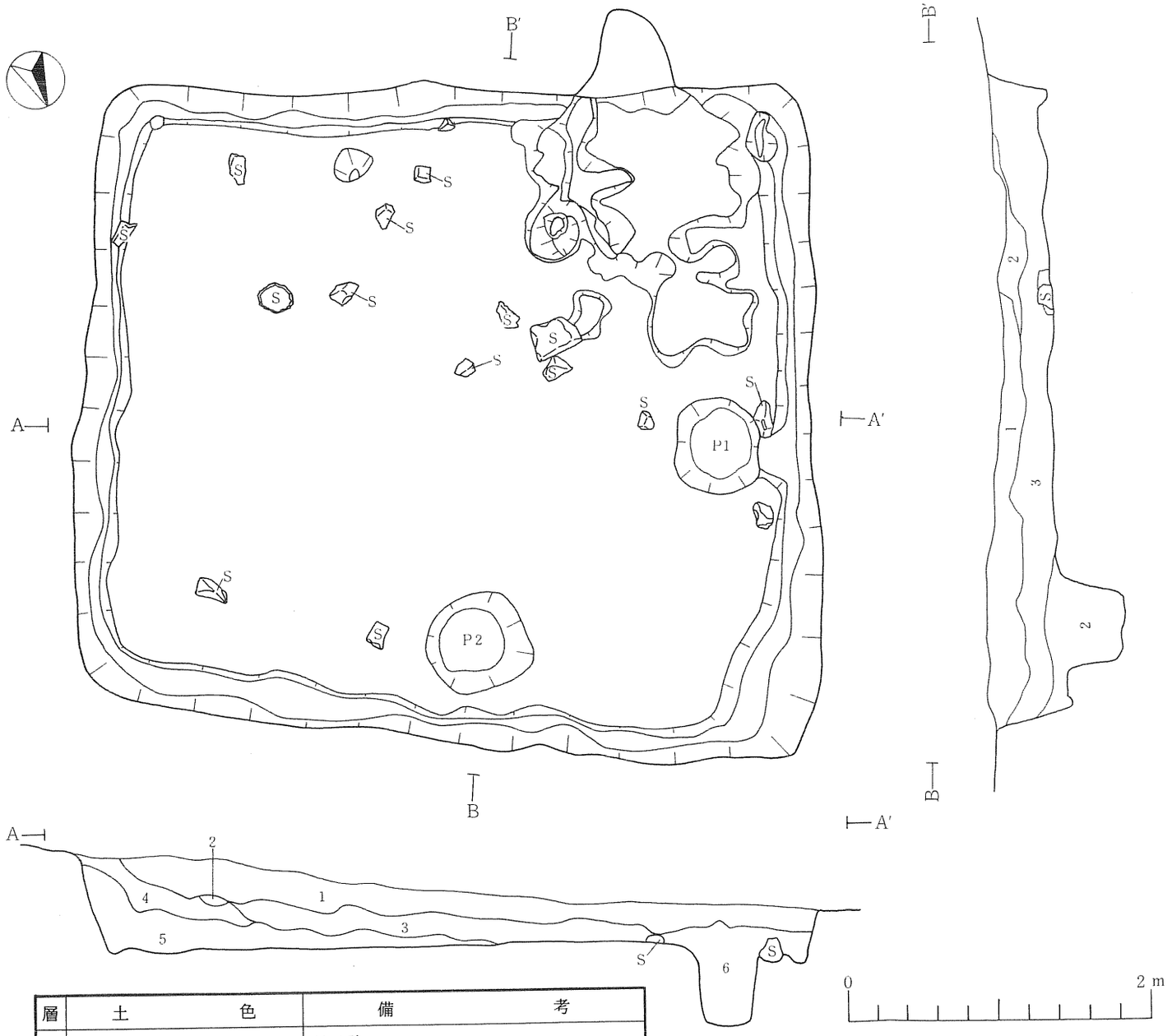
確認	地山面で確認された。
壁	いずれも床面より垂直に立ち上がり、しっかりとした作りである。
壁溝	溝幅は多少の差が見られるが、カマド部分を除き、一巡する。
ピット	P 1（64×53×55） P 2（72×70×42）（単位cm） 柱穴は確認できなかった。北、西壁中央の床面にP 1、2がある。
床面	西側に緩やかに傾斜し、堅くしまっている。
カマド	南壁、南西コーナー付近に位置する。 残存状態は悪く、袖は確認できなかった。 煙道は緩やかに壁外へ延びる。
遺物	P 1・2覆土中より土師器が各10数点ほど出土した。 土師器、鉄器
備考	SK（f）030を切って構築されている。





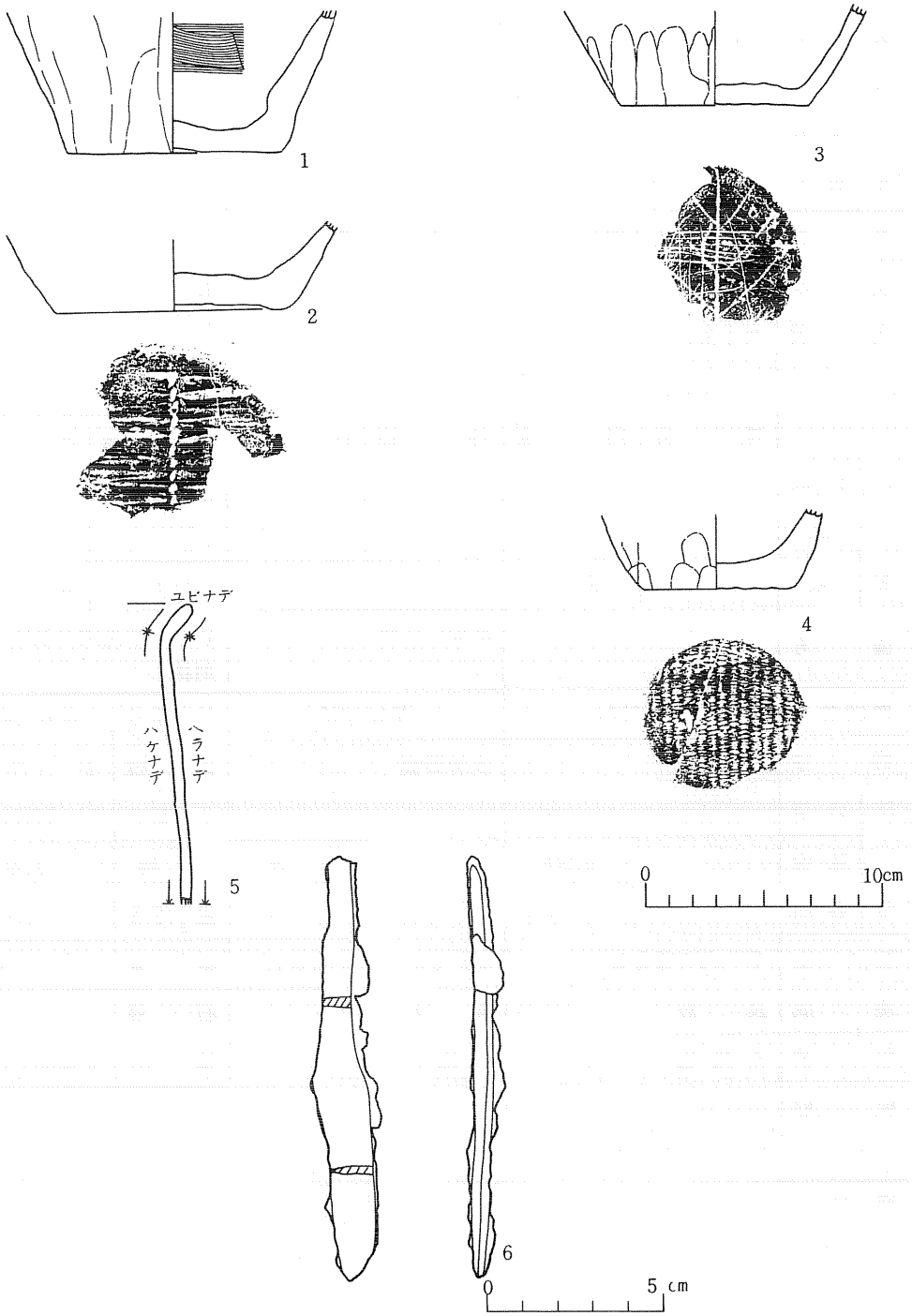
層	土色	備考
1	黒褐色（7.5 YR 2/2）	粘性強
2	褐色（7.5 YR 4/6）	粘性強
3	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性強、灰混入
4	赤褐色（5 YR 4/6）	粘性強、焼土
5	黒色（10 YR 2/1）	粘性強、焼土混入
6	明黄褐色（10 YR 6/8）	粘性弱、砂質
7	黒色（10 YR 1.7/1）	粘性強
8	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強
9	褐色（7.5 YR 4/6）	粘性強
10	明褐色（7.5 YR 5/6）	粘性弱
11	赤褐色（5 YR 4/8）	粘性強、焼土多量に混入

第101図　ＳＩ034竪穴住居跡カマド実測図



層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 2/3）	黄褐色地山土混入
3	黒褐色（10 YR 2/3）	2層より明度、彩度が高い。
4	暗褐色（10 YR 3/3）	黒褐色土混入
5	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、黄褐色地山土多量に混入
6	黒褐色（10 YR 2/2）	

第102図　ＳＩ034竪穴住居跡実測図



第103図　ＳＩ034竪穴住居跡出土遺物実測図

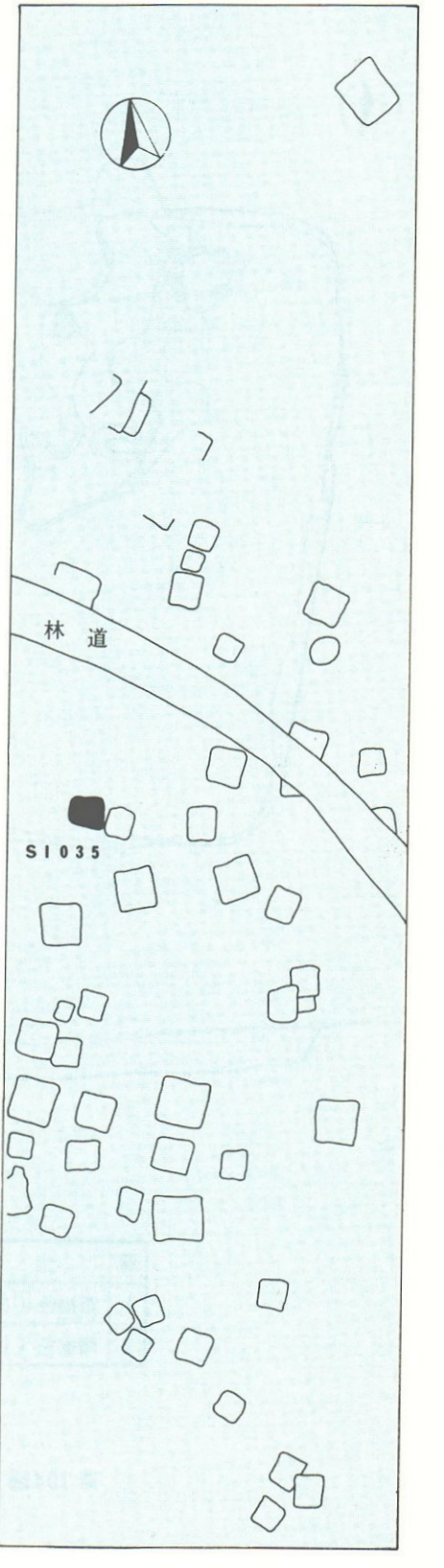
第78表　SI 034出土遺物観察表

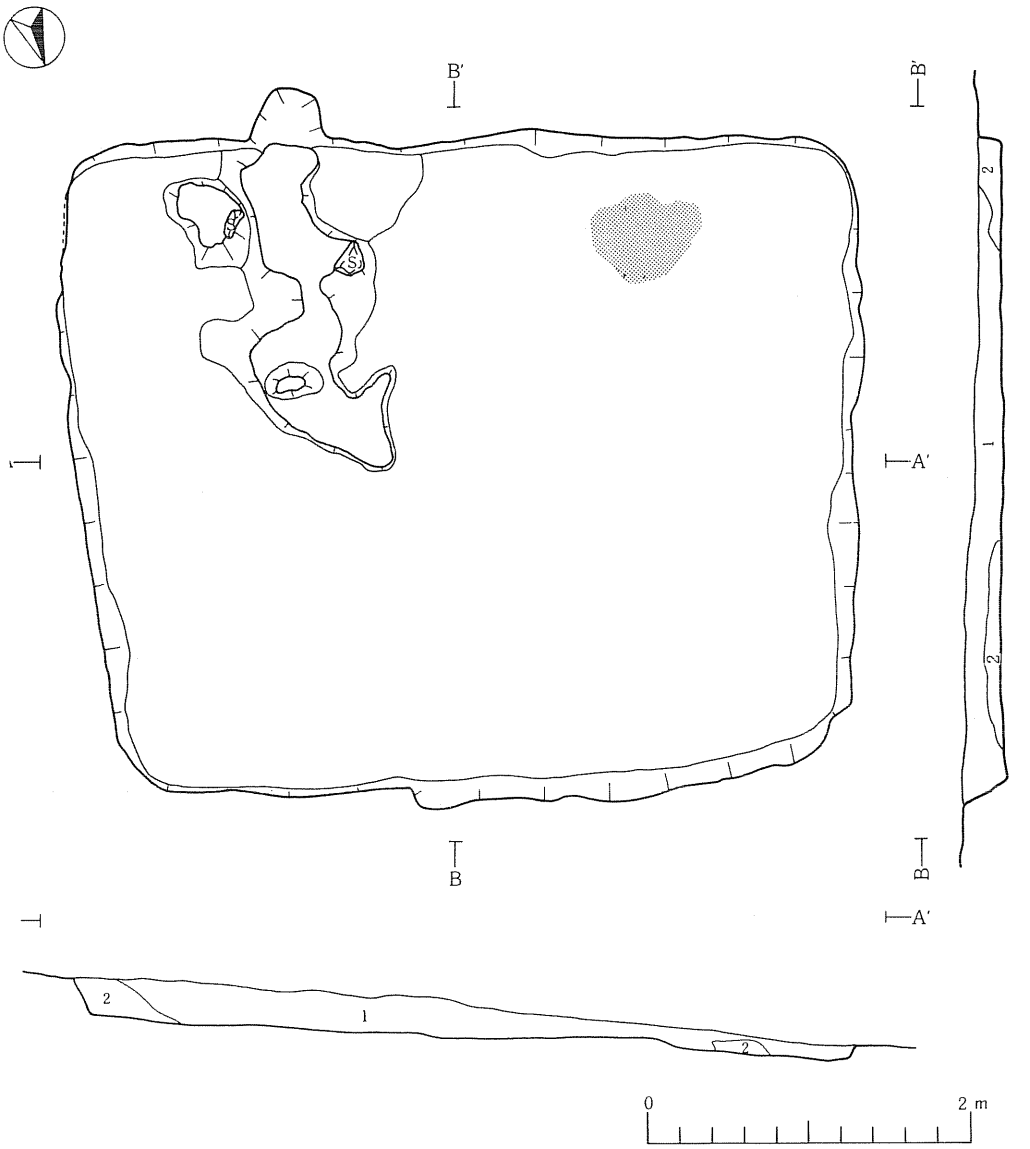
挿図番号		第103図1		第103図2		第103図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	9cm		(9.8)cm		8.7cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		1～3㎜大の礫含む		1～5㎜大の礫含む		3～5㎜大の礫含む	
焼成		良　好		良　好		良　好	
色調		明赤褐色		明赤褐色		橙　色	
成形		粘土紐巻き上げ					
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁						
	胴						
	底	ヘラナデ	ヘラナデ		ヘラナデ	ヘラナデ	ユビナデ
備考				底面に圧痕		底面は木葉文の後にヘラ刻線	

挿図番号		第103図4		第103図5		挿図番号	第103図6
器種		土師器甕		土師器甕		器種	小　刀
法量	口径	cm		cm		法量 長さ	11.9cm
	底径	6.5cm		cm		幅	1.4cm
	器高	cm		cm		厚さ	0.3cm
胎土		2㎜大の礫含む		3～5㎜大の小石含む		重量	g
焼成		良　好		良　好		石質	
色調		赤褐色		赤褐色		備考	先端部欠損
成形							
		外面	内面	外面	内面		
調整	口縁			ユビナデ	ユビナデ		
	胴			ヘラナデ	ハケナデ		
	底	ヘラナデ	ユビナデ				
備考		底面に圧痕					

第79表　SI 035竪穴住居跡観察表

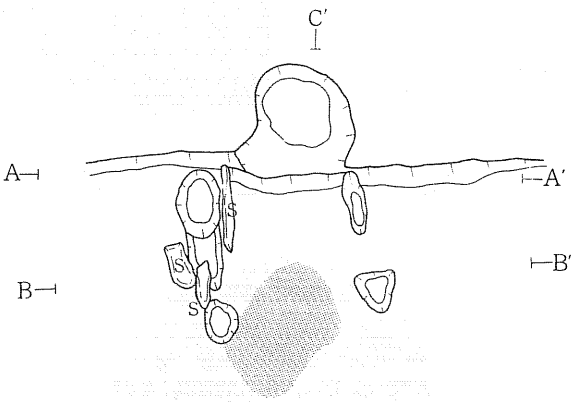
挿図		104			
図版		47			
形態		方形			
主軸方向		N－19.5°－E			
法量	面積	19.5 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	400 cm	385 cm	480 cm	430 cm
	壁高	26～30cm	5～15cm	7～22cm	7～28cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		緩やかな傾斜をもって立ち上がる。			
壁溝		————			
ピット		確認できなかった。			
床面		地山をそのまま床としているもので、床面全体は細かい凹凸を示す。			
カマド		南壁東寄りにカマド1基、さらに西側床面に焼土を確認した。 カマドの保存状態はほぼ良好であるが西側袖部は崩れている。 袖部は芯材として石を使用している。 焼土範囲は70×55cmで、カマドの可能性も考えられる。			
遺物		土師器、石製紡錘車1			
備考		————			

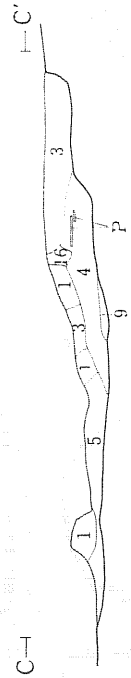


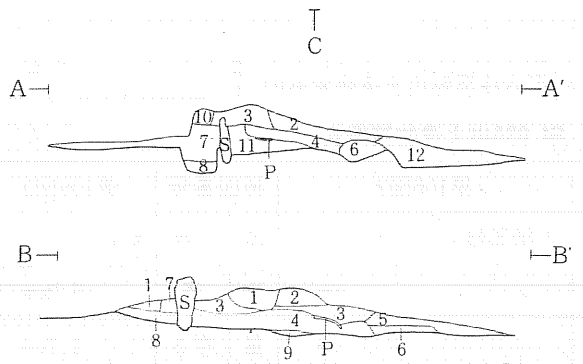


層	土　　色	備　　考
1	暗褐色（10 YR ⅜）	黄褐色地山土混入
2	暗褐色（10 YR ¾）	黄褐色地山土混入

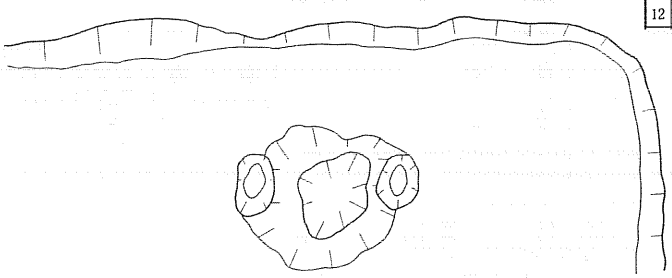
第104図　S I 035竪穴住居跡実測図



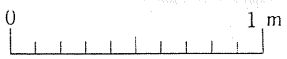




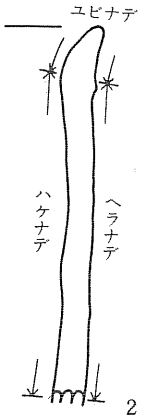
層	土色	備考
1	褐色（7.5 YR 4/4）	粘性強、粘土質
2	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性強
3	黒褐色（7.5 YR 3/1）	焼土混入
4	暗赤褐色（5 YR 3/2）	焼土混入
5	極暗褐色（7.5 YR 2/3）	粘性強、焼土混入
6	灰褐色（7.5 YR 4/2）	粘性強、焼土混入
7	暗褐色（7.5 YR 3/3）	粘性強、焼土混入
8	黒色（7.5 YR 2/1）	
9	橙色（5 YR 7/8）	粘性弱、焼土
10	暗褐色（7.5 YR 3/4）	粘性強
11	黒褐色（7.5 YR 2/2）	粘性強、焼土混入
12	黒色（7.5 YR 2/1）	粘性強



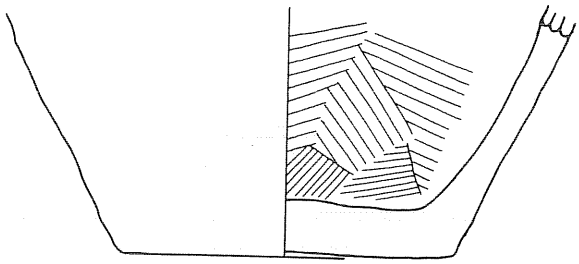
焼土範囲掘形



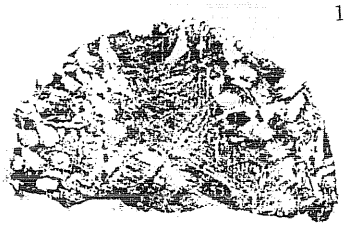
第105図　ＳＩ035竪穴住居跡カマド実測図

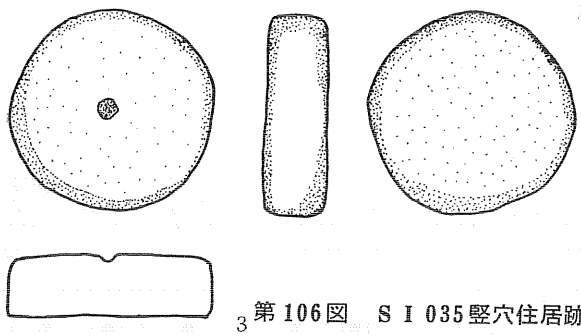


2



1





3 第106図　SI035竪穴住居跡出土遺物実測図　0　5cm

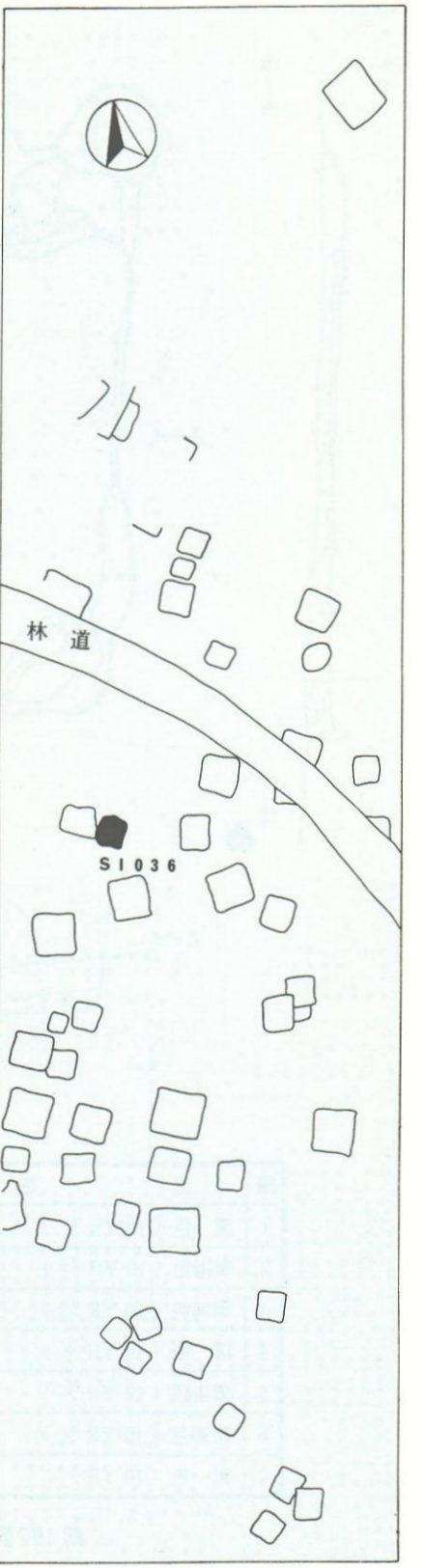
第80表　SI 035出土遺物観察表

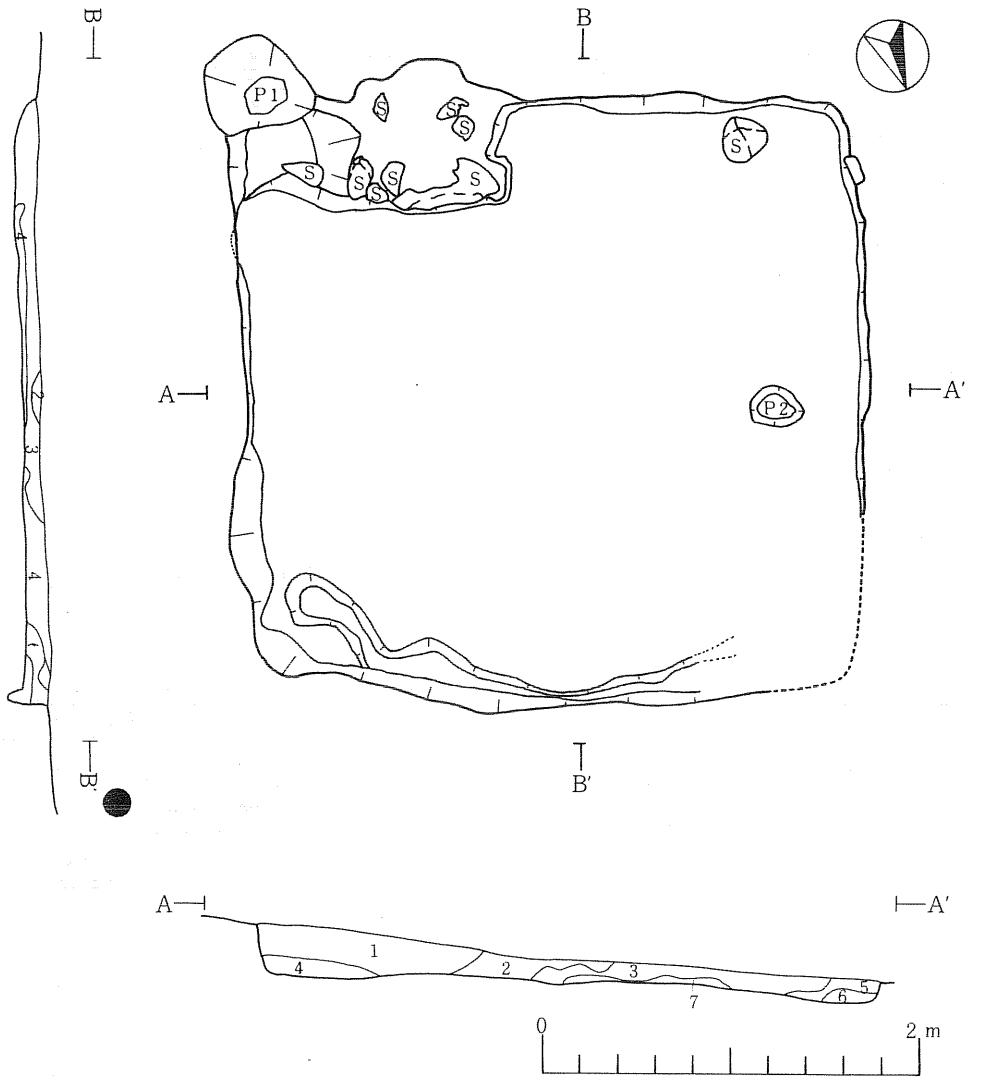
挿図番号		第106図1		第106図2		挿図番号	第106図3
器種		土師器甕		土師器甕		器種	紡錘車
法量	口径	cm		cm		法量 径	5.3cm
	底径	8.6cm		cm		厚さ	1.7cm
	器高	cm		cm		重量	39g
胎土		細かい		細かいが、3㎜大の小石含む		石質	凝灰岩
焼成		良好		良好		備考	中央に凹みを有する
色調		橙色ないし赤褐色		橙色			
成形							
		外面	内面	外面	内面		
調整	口縁			ユビナデ	ユビナデ		
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ		
	底						
備考							

第81表　SI 036竪穴住居跡観察表

挿図		107			
図版		48			
形態		方形			
主軸方向		N－22.0°－E			
法量	面積	10.7 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	280 cm	308 cm	320 cm	314 cm
	壁高	28～37cm	2～10cm	5～10cm	13～31cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	7～28cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	0～20cm	—— cm

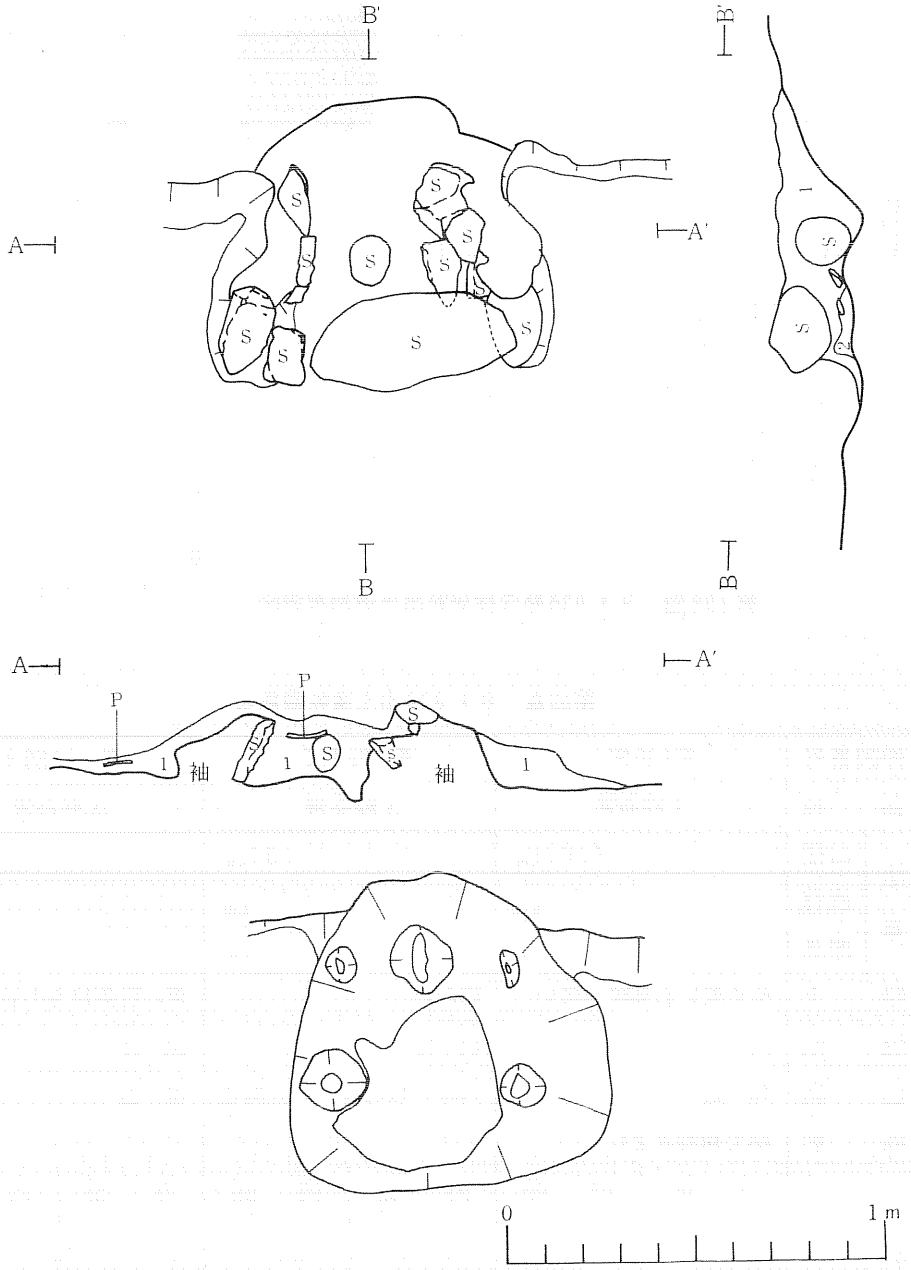
確認	地山面で確認された。
壁	北西コーナー部は撹乱により存在しないが、他はいずれも床面よりほぼ垂直に立ち上がる。
壁溝	北壁に確認できたが、撹乱により一部崩壊している。
ピット	P 1 (25)　P 2 (11)　(単位cm) 柱穴と考えられるものは確認されなかった。
床面	礫を含んだ地山をそのまま使用しているために凹凸を示す。
カマド	南壁東寄りに位置し、残存状態は良好である。 袖、天井は芯材として20～30cm大の板石を使用し、粘土を貼り付けて構築したものであるが、天井石は燃焼部に落ち込んでいる。煙道は緩やかに立ち上がる。
遺物	土師器
備考	——





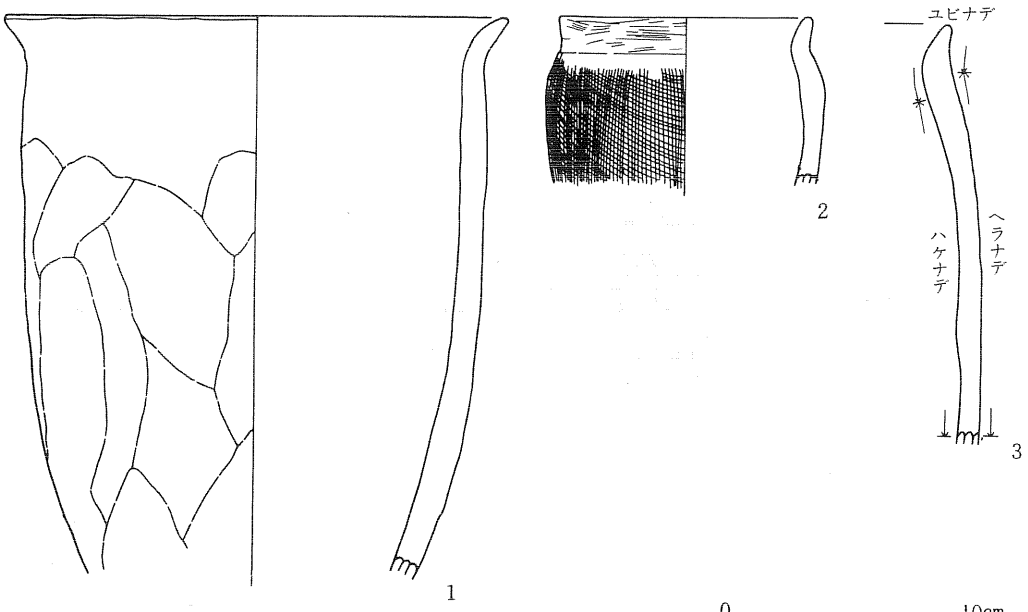
層	土　　色	備　　考
1	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強、黄褐色地山土混入
2	黒褐色（10 YR 2/3）	〃
3	黒褐色（10 YR 3/2）	〃　　褐色粘土混入
4	黒　色（10 YR 2/1）	〃
5	黒褐色（10 YR 2/2）	〃
6	暗褐色（10 YR 3/4）	〃
7	黒　色（10 YR 1.7/1）	〃

第107図　ＳＩ036竪穴住居跡実測図



層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10YR 2/3）	焼土混入
2	暗褐色（7.5 YR 3/3）	粘性強、焼土混入

第108図　ＳＩ036竪穴住居跡カマド実測図



第109図　ＳＩ036竪穴住居跡出土遺物実測図

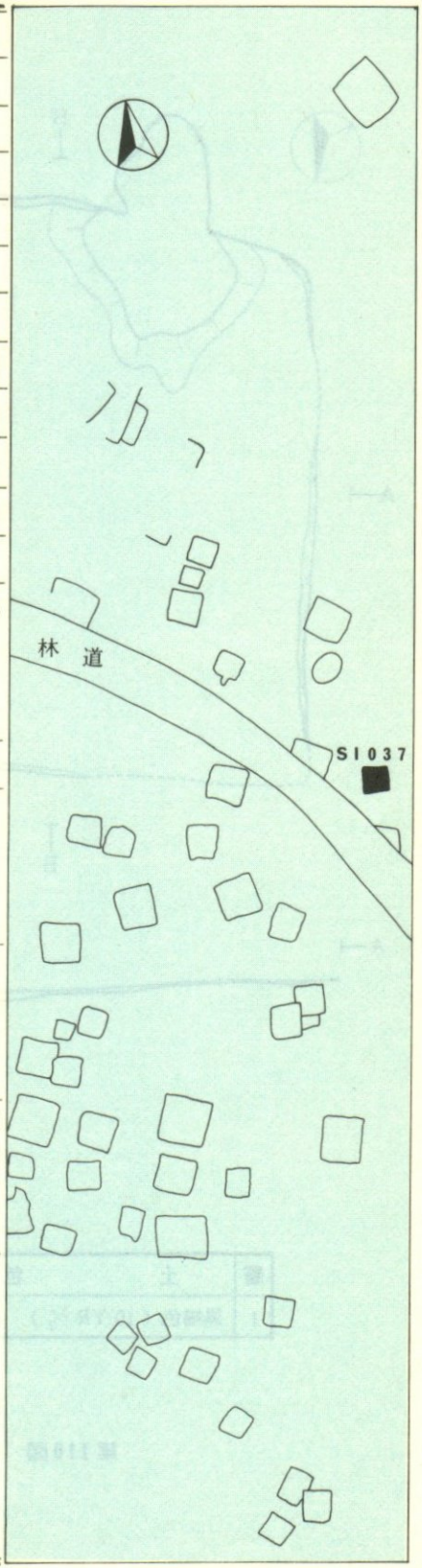
第82表　ＳＩ036出土遺物観察表

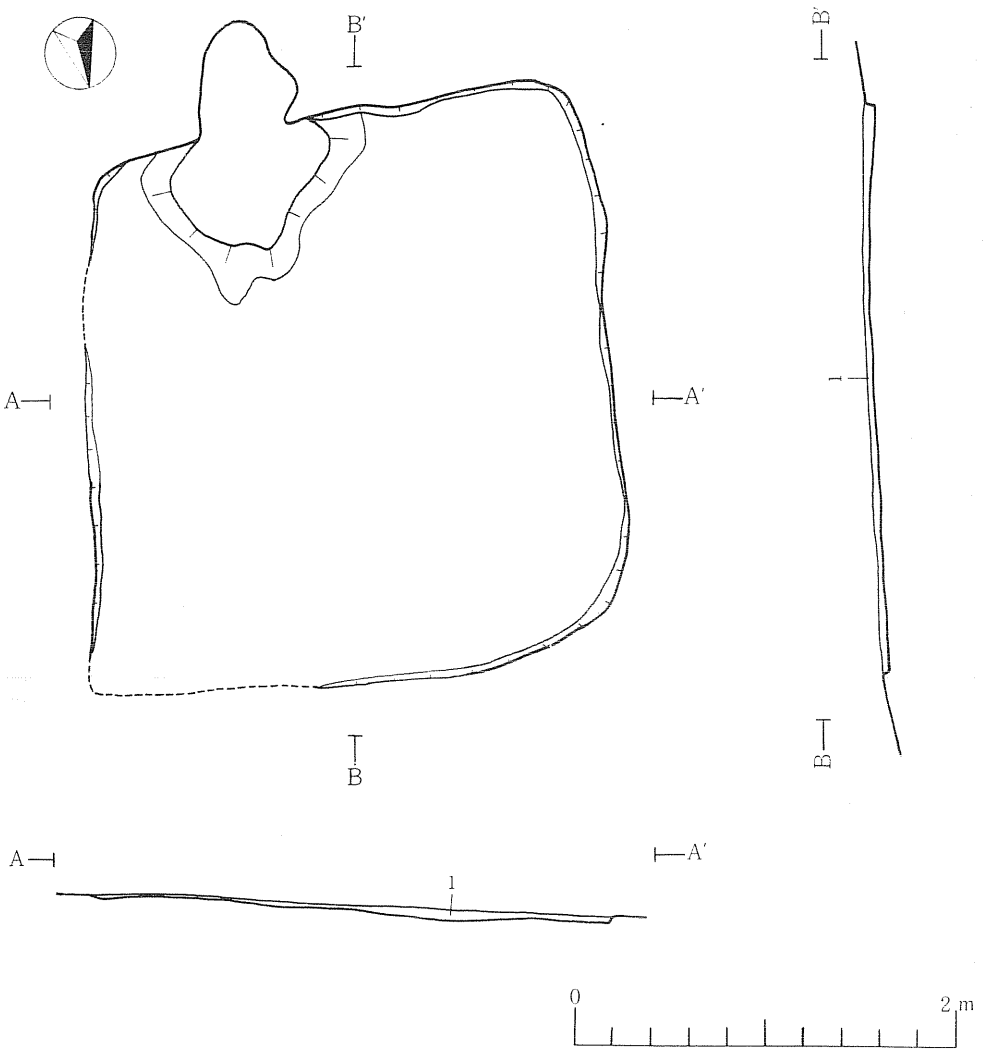
挿図番号		第109図1		第109図2		第109図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	(19)cm		(9)cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		やや荒い石英粒が多い		細かい		荒い石英粒や小石が多い	
焼成		良好		良好		良好	
色調		橙色		にぶい橙色ないし灰褐色		橙色	
成形		粘土紐巻き上げ					
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ		ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ		荒いハケナデ	細かいハケナデ	ヘラナデ	細かいハケナデ
	底						
備考							

第83表　SI 037竪穴住居跡観察表

挿図		110			
図版		49			
形態		方形			
主軸方向		N－10.0°－W			
法量	面積	8.3 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	280 cm	276 cm	242 cm	278 cm
	壁高	1～5 cm	0～4 cm	3～5 cm	0～2 cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm

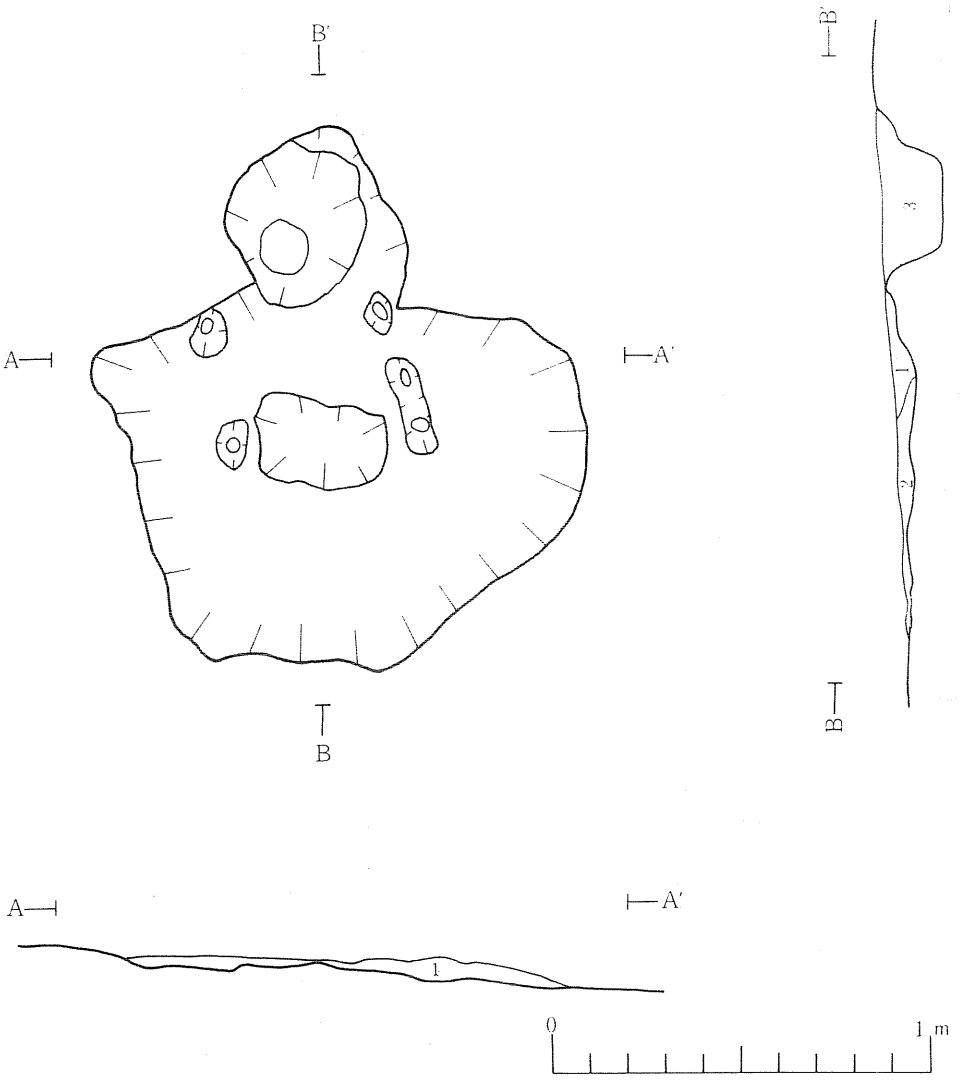
確認	地山面で確認された。
壁	床面よりほぼ垂直に立ち上がるものであろう。
壁溝	————
ピット	検出されなかった。
床面	西側に傾斜して、細かい凹凸を示す。
カマド	南壁東寄りに位置するが、残存状態は非常に悪く、ほとんど掘り形のみが確認できただけである。
遺物	土師器
備考	





層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR $\frac{2}{2}$）	粘性強、黄褐色地山土混入

第110図　ＳＩ037竪穴住居跡実測図

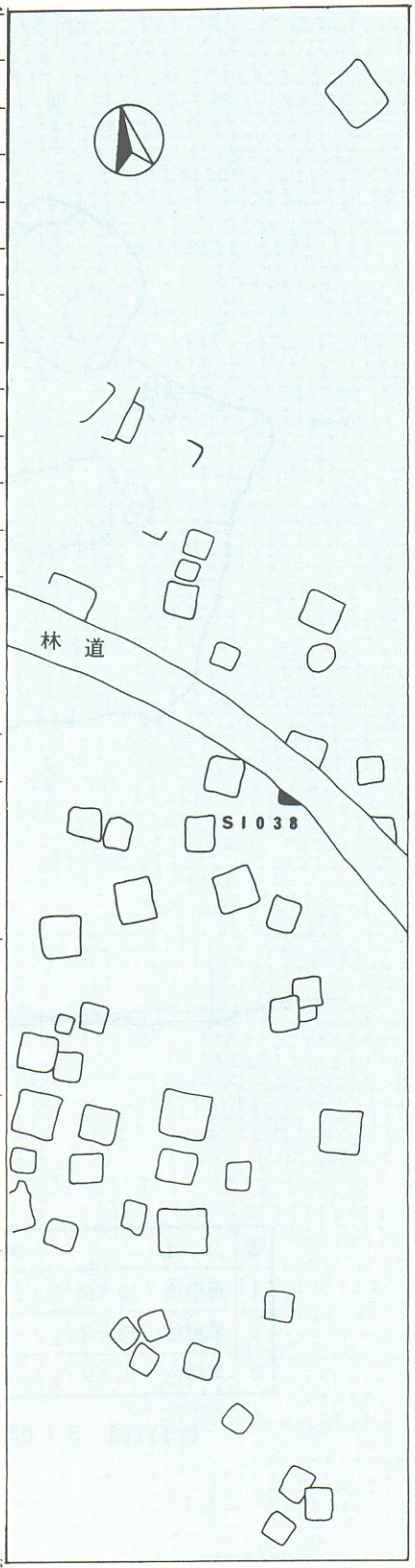


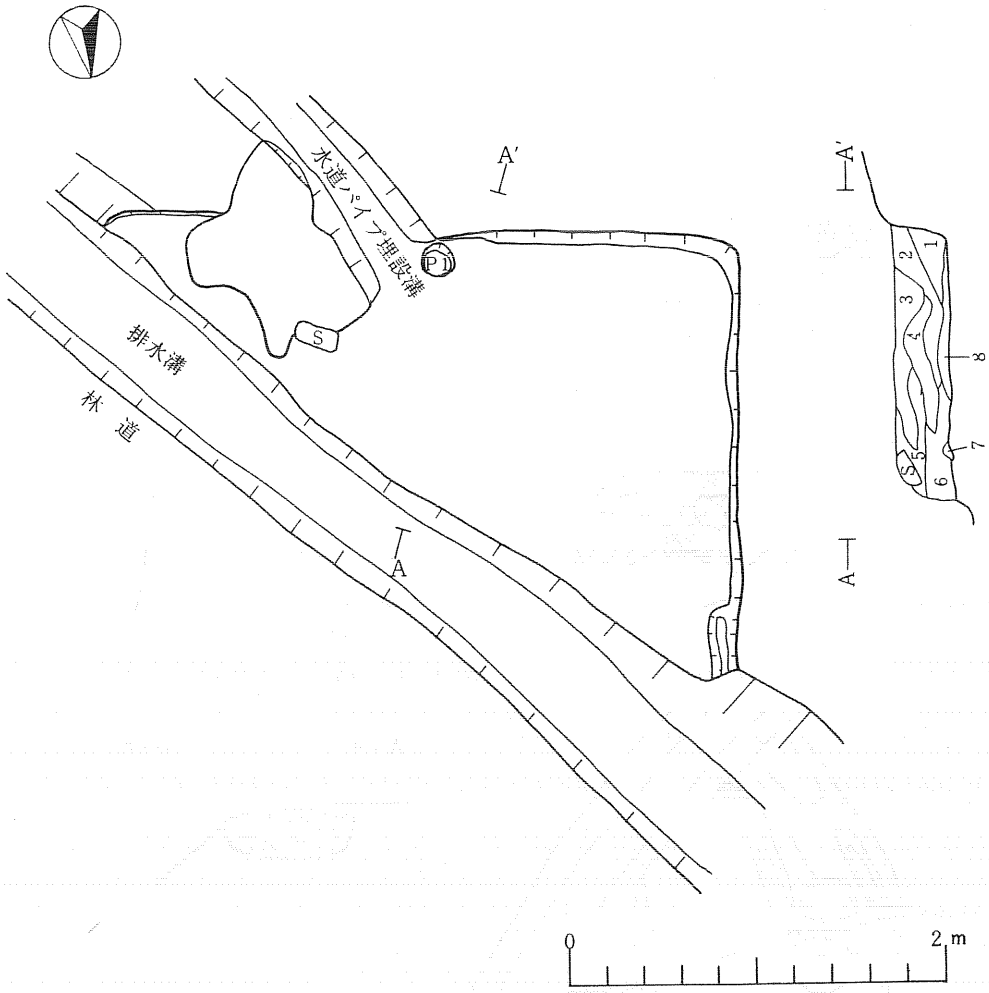
層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 2/2）	
2	黒褐色（10 YR 3/2）	
3	黒褐色（10 YR 2/3）	

第111図　ＳＩ037竪穴住居跡カマド実測図

第84表　SI 038竪穴住居跡観察表

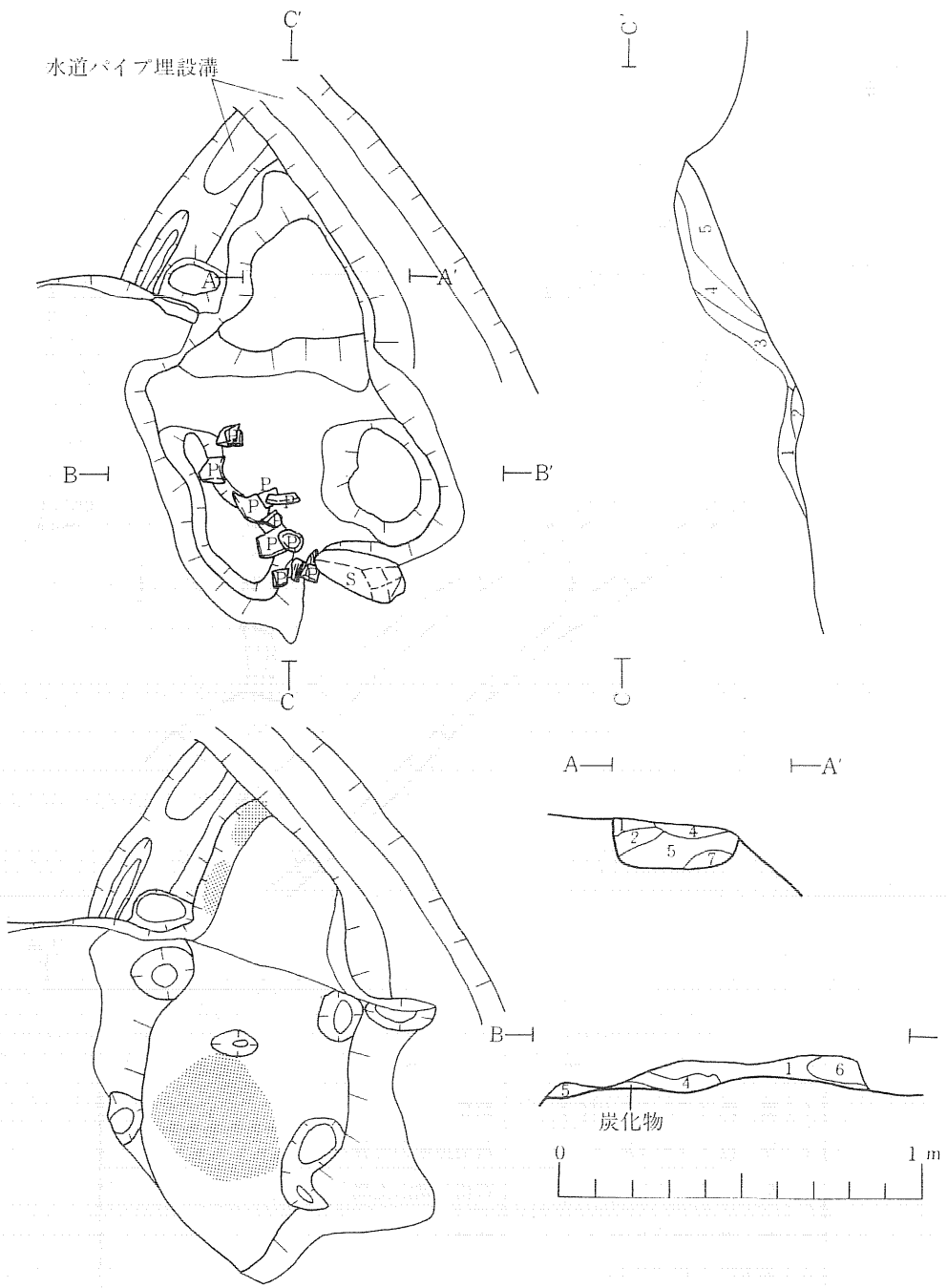
挿図		112			
図版		49			
形態		方形			
主軸方向		N－14.0°－E			
法量	面積	㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	—— cm	—— cm	340 cm	—— cm
	壁高	—— cm	19～26cm	36～42cm	—— cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		南壁・西壁が残存する。立ち上がりはいずれも急である。			
壁溝		——			
ピット		P 1 （80）（単位cm） カマド西側に1個検出されたが撹乱によるものである。			
床面		平坦で堅くしまっている。			
カマド		南壁の東寄りに構築されている。 両袖の間から、土器片が出土している。 煙出部は撹乱を受け、残存しない。			
遺物		土師器			
備考		林道により、住居の約½を消失している。さらに、排水溝や、水道パイプ埋設工事等により大きく撹乱を受けている。			





層	土　　色	備　　考
1	黒　色（7.5 YR 1.7/1）	軟質
2	黒　色（7.5 YR 2/1）	黄褐色地山土混入
3	黒　色（10 YR 2/1）	黄褐色地山土混入
4	黒　色（10 YR 2/1）	軟質
5	黒褐色（10 YR 3/2）	〃
6	黒　色（10 YR 1.7/1）	〃
7	暗褐色（7.5 YR 3/4）	粘土
8	黒　色（10 YR 2/1）	軟質

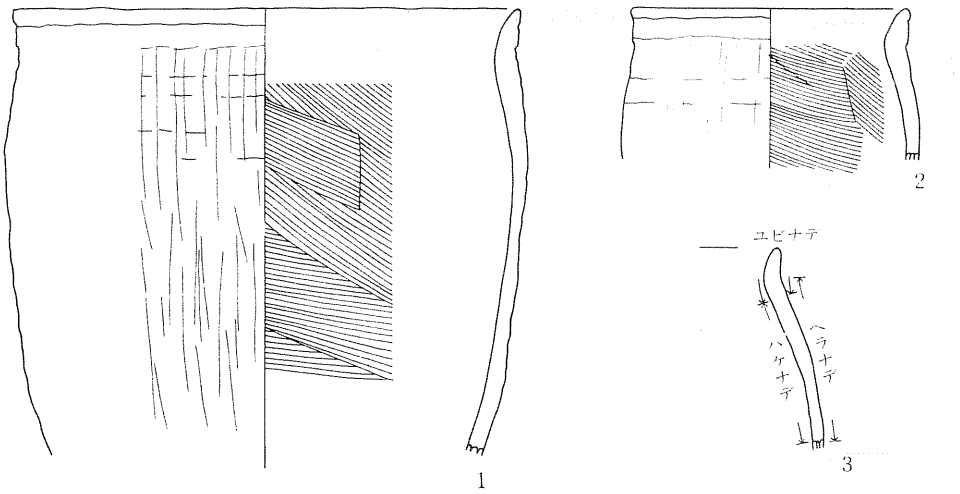
第112図　ＳＩ038竪穴住居跡実測図



層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、焼土混入
2	褐　色（7.5 YR 4/4）	粘性強、焼土混入
3	黒　色（7.5YR 2/1）	粘性強
4	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強、褐色土混入

層	土色	備考
5	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、褐色土混入
6	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強
7	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性強、焼土混入

第113図　ＳＩ038竪穴住居跡カマド実測図



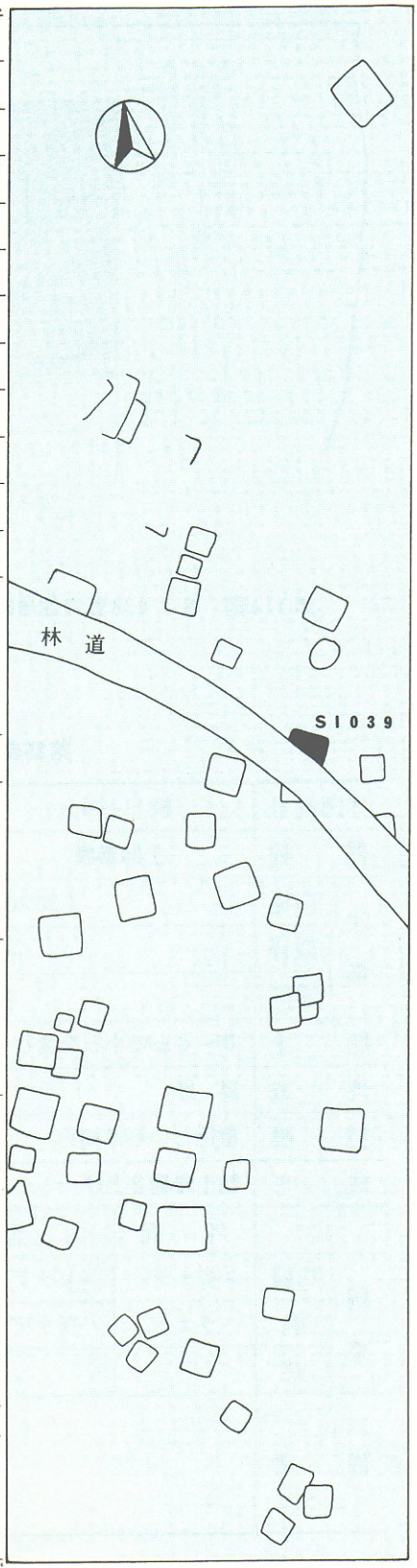
第114図　ＳＩ038竪穴住居跡出土遺物実測図

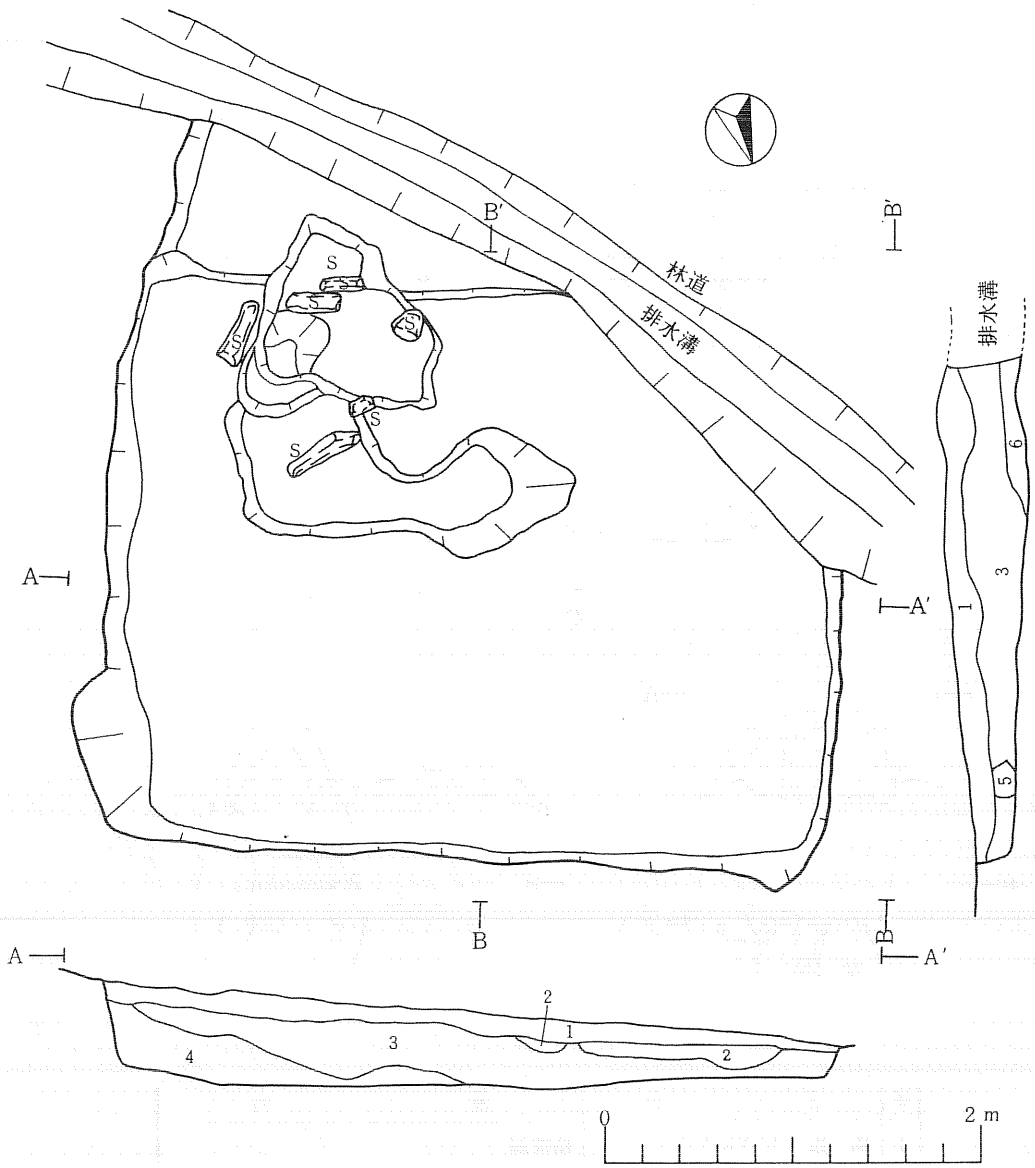
第85表　ＳＩ038出土遺物観察表

挿図番号		第114図1		第114図2		第114図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	(20)cm		(11)cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		3～5㎜の小石を含む		細かい砂がやや多い		細かい	
焼成		良好		良好		良好	
色調		橙色ないし赤褐色		橙色		橙色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ		ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底						
備考							

第86表　SI 039竪穴住居跡観察表

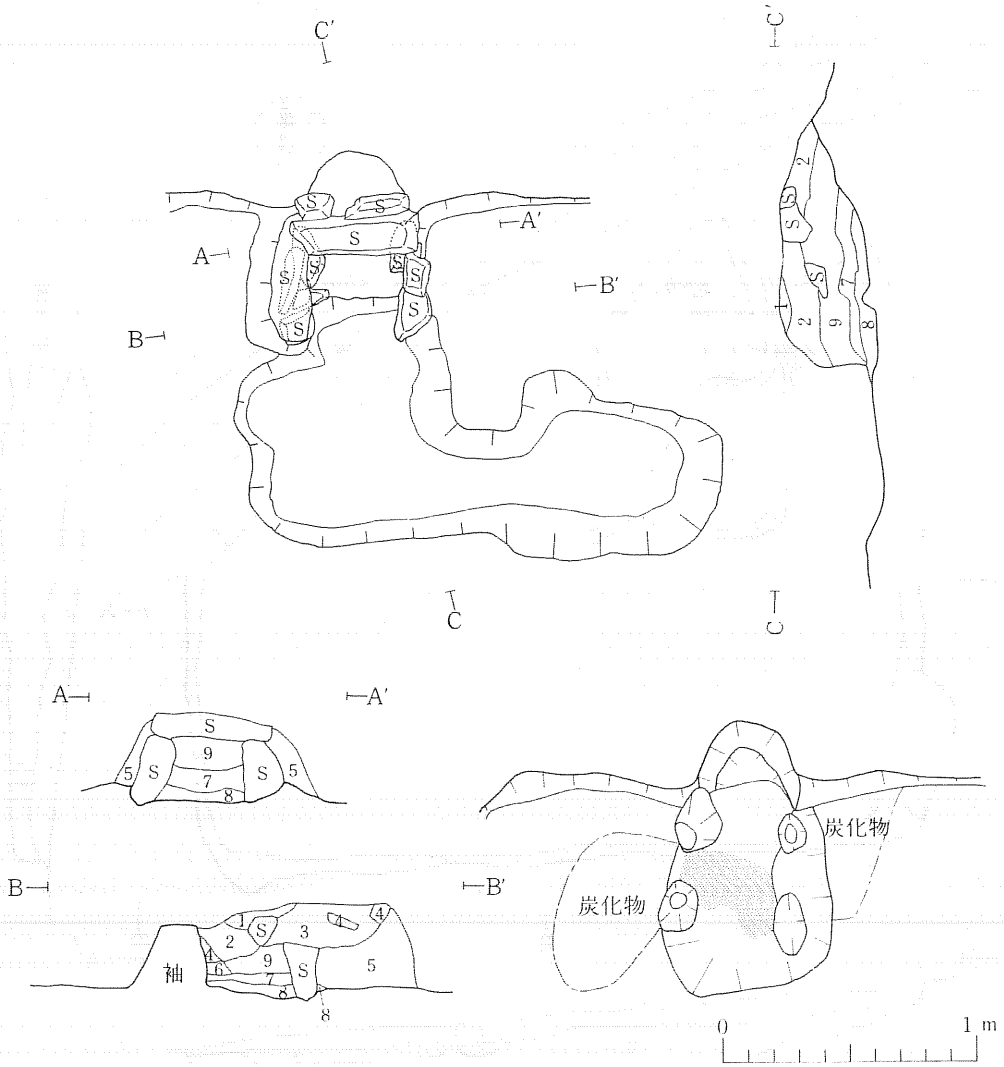
挿図		115			
図版		50			
形態		方形			
主軸方向		N－26.0°－E			
法量	面積	10.8 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	320 cm	165 cm	225 cm	325 cm
	壁高	33～57cm	10～18cm	13～52cm	5～30cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		ほぼ床面より垂直に立ち上がり、堅くしっかりと作られている。			
壁溝		——			
ピット		検出されなかった。			
床面		地山を床面としており、平坦で堅くしまっている。			
カマド		南壁東寄りに位置し保存状態は良好である。 袖は芯材として人頭大の石を使用し、両袖に40～50cmの石を渡し、天井部を作り出している。カマドの前面がL字形に幅広く5cmほどの深さに掘りくぼめられている。			
遺物		土師器			
備考		南壁の一部は林道と排水溝により切られている。			





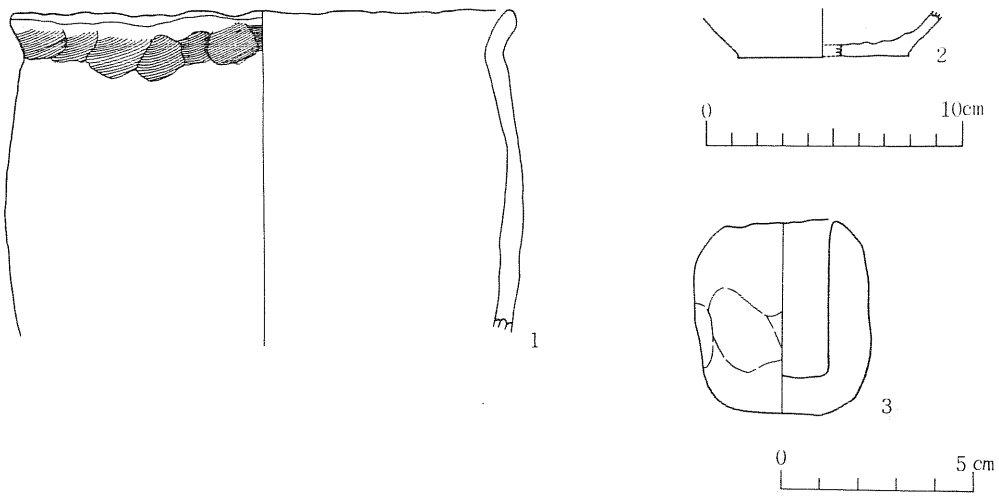
層	土　　色	備　　考
1	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強
2	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強、白色浮石混入 1層より、明度・彩度が高い。
3	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強、黄褐色地山土混入
4	黒　色（10 YR 2/1）	〃　　〃
5	にぶい黄褐色（10 YR 4/3）	灰・炭化物の混合層
6	黒　色（10 YR 2/1）	

第115図　ＳＩ039竪穴住居跡実測図



層	土　　色	備　　考
1	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱、褐色土混入
3	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱、焼土混入
4	褐　色（10 YR 4/4）	粘性弱、ブロック状
5	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強、褐色土混入、袖部
6	褐　色（7.5 YR 4/6）	ブロック状
7	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強、灰混入
8	褐　色（7.5 YR 4/4）	粘性強、焼土混入
9	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱、焼土混入

第116図　ＳＩ039竪穴住居跡カマド実測図



第117図　ＳＩ039竪穴住居跡出土遺物実測図

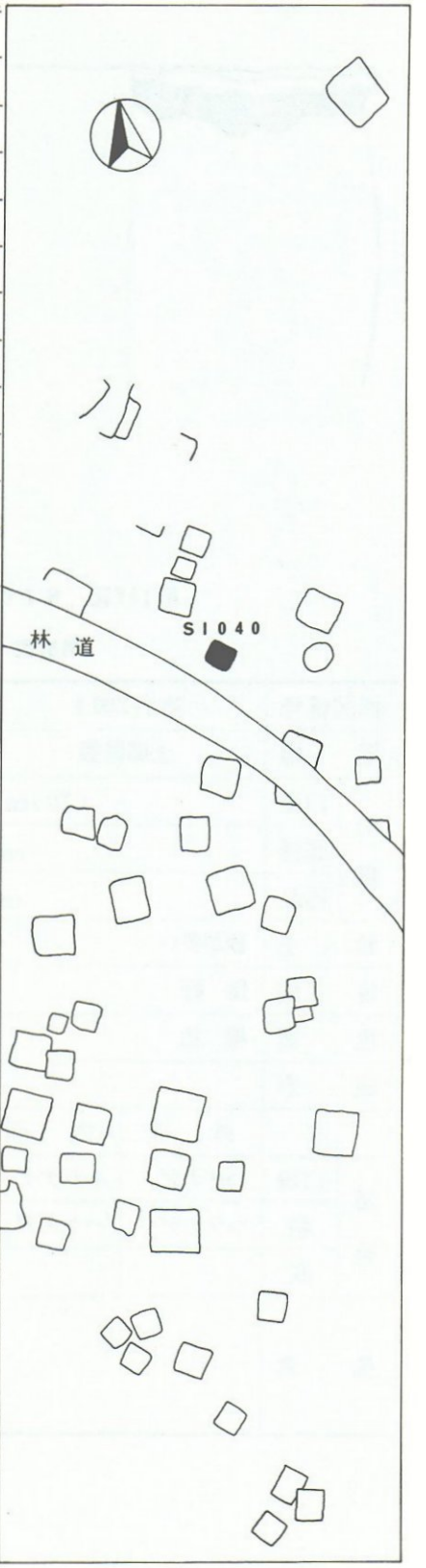
第87表　ＳＩ039出土遺物観察表

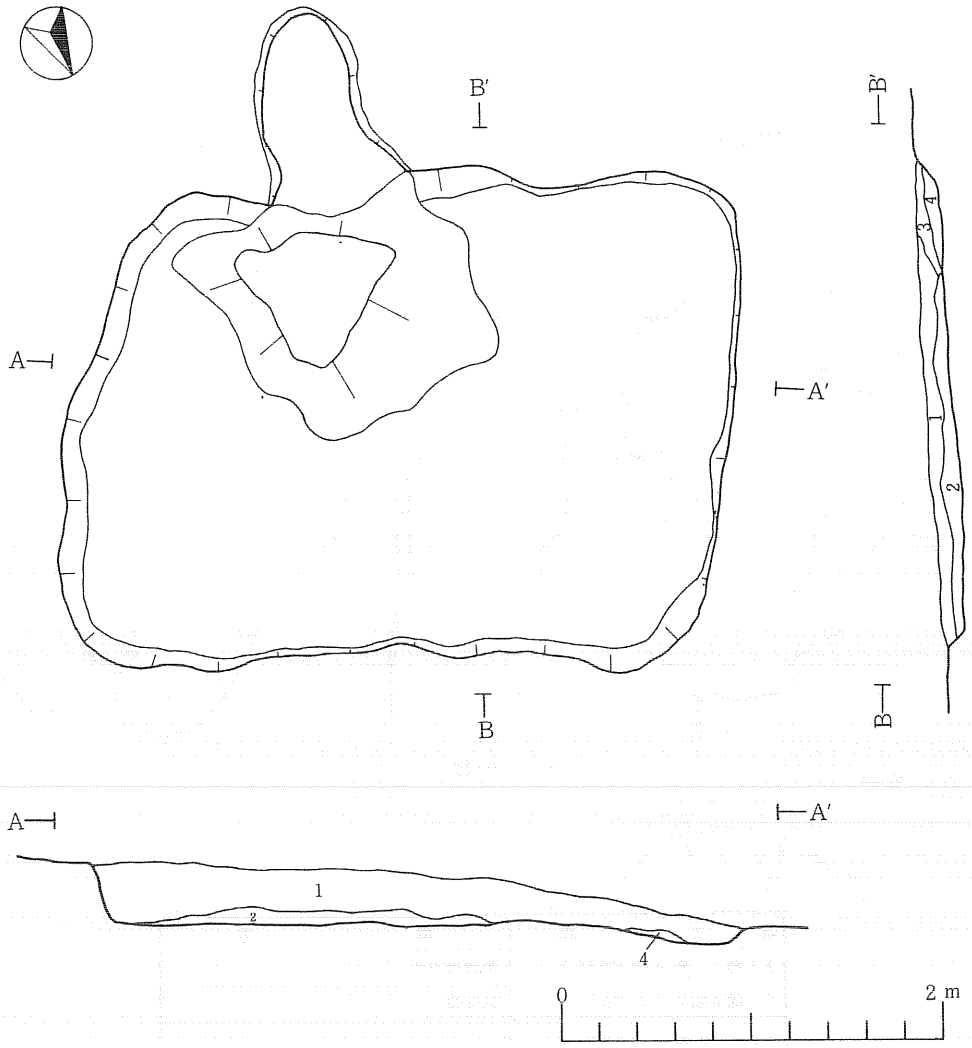
挿図番号		第117図1		第117図2		第117図3	
器種		土師器甕		土師器坏		土師器	
法量	口径	(20)cm		cm		長径3.5cm・短径3.3cm	
	底径	cm		(6.8)cm		長径3.8cm・短径3.4cm	
	器高	cm		cm		長径5.3cm・短径4.8cm	
胎土		砂が多い		細かい		石英粒が多い	
焼成		良好		ややもろい		良好	
色調		橙色		にぶい橙色		明褐色	
成形				ロクロ		手捏ね	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ハケナデ	ユビナデ			ユビオサエ	ユビオサエ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ			ユビオサエ	ユビオサエ
	底					ユビオサエ	ユビオサエ
備考				底部回転糸切り			

第88表　SI 040竪穴住居跡観察表

挿図		118			
図版		51			
形態		方形			
主軸方向		N－25.5°－E			
法量	面積	8.9㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	244 cm	256 cm	292 cm	309 cm
	壁高	33～46cm	1～12cm	16～18cm	5～18cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm

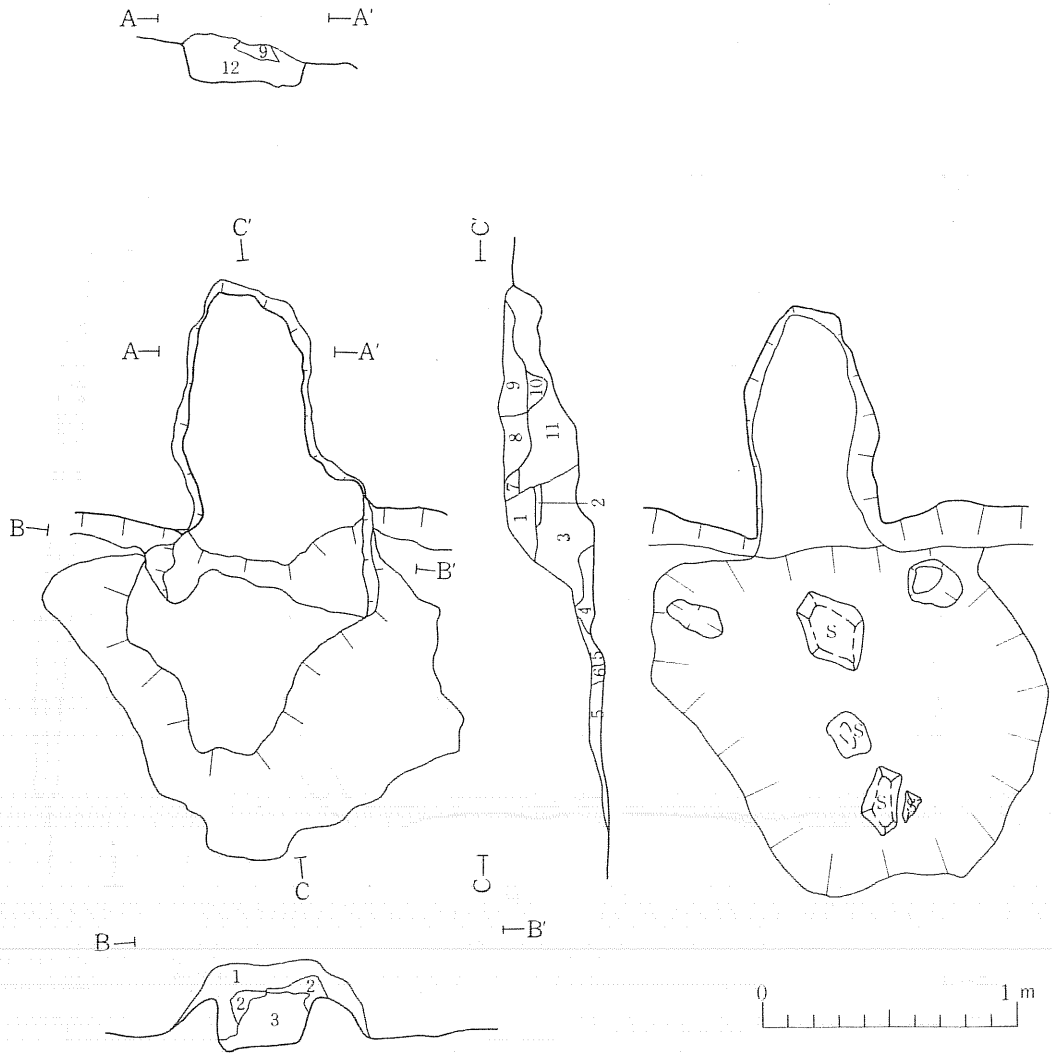
確認	暗褐色土層中で確認された。
壁	床面より緩やかに立ち上がる。
壁溝	————
ピット	確認できなかった。
床面	地山を床面として使用し、西側に傾斜する。ほぼ中央部が凹む。
カマド	南壁東寄りに位置し、保存状態は良好である。袖は粘土のみで構築されている。燃焼部天井も確認された。煙道部は90cmほどで床面より緩やかに壁外に出ている。
遺物	カマド付近より土師器片が10数点出土した。土師器、穂摘み具1
備考	————





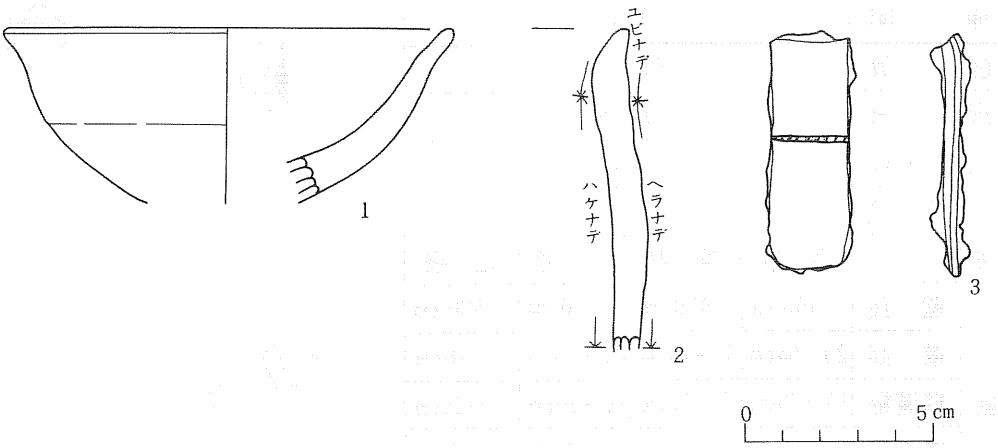
層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 2/2）	
2	黒褐色（10 YR 2/3）	
3	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱、黄褐色地山土混入
4	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強

第118図　S I 040竪穴住居跡実測図



層	土　　色	備　　考
1	褐　　色（10 YR 4/6）	熱焼部天井
2	暗赤褐色（5 YR 3/4）	粘性強
3	黒 褐 色（10 YR 2/2）	
4	暗赤褐色（5 YR 3/6）	
5	褐　　色（10 YR 4/6）	粘性強
6	黒　　色（7.5 YR 1.7/1）	粘性強
7	黒 褐 色（10 YR 2/2）	粘性強
8	黒　　色（10 YR 2/1）	黄褐色浮石混入
9	黒 褐 色（10 YR 2/2）	黄褐色浮石混入
10	黒　　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
11	黒 褐 色（10 YR 2/2）	
12	褐　　色（7.5 YR 4/6）	煙道部粘土

第119図　ＳＩ040竪穴住居跡カマド実測図



第120図　ＳＩ040竪穴住居跡出土遺物実測図

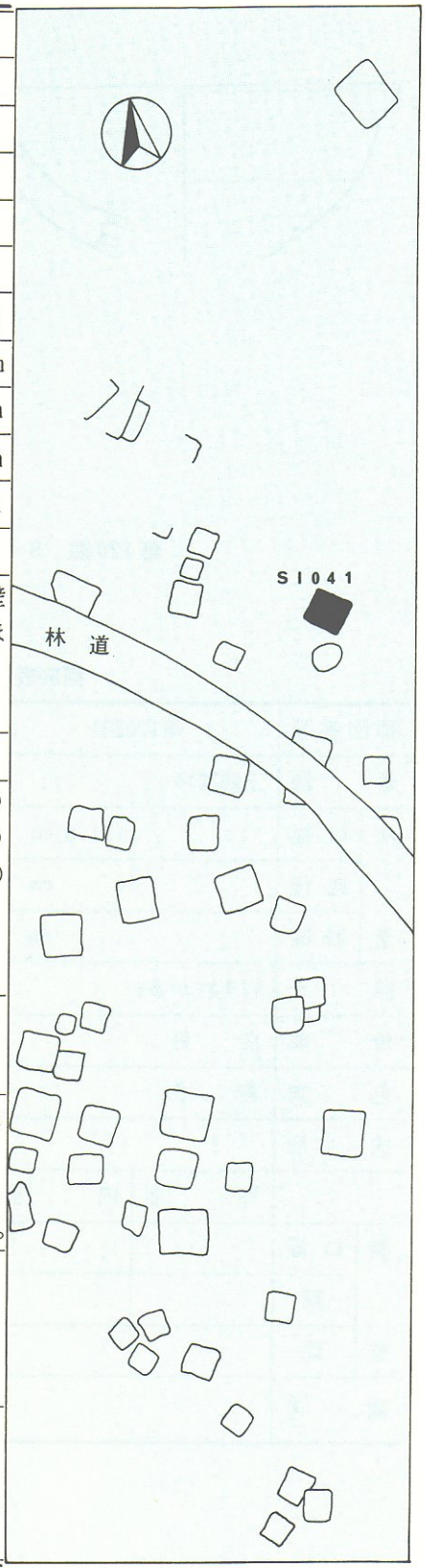
第89表　SI 040出土遺物観察表

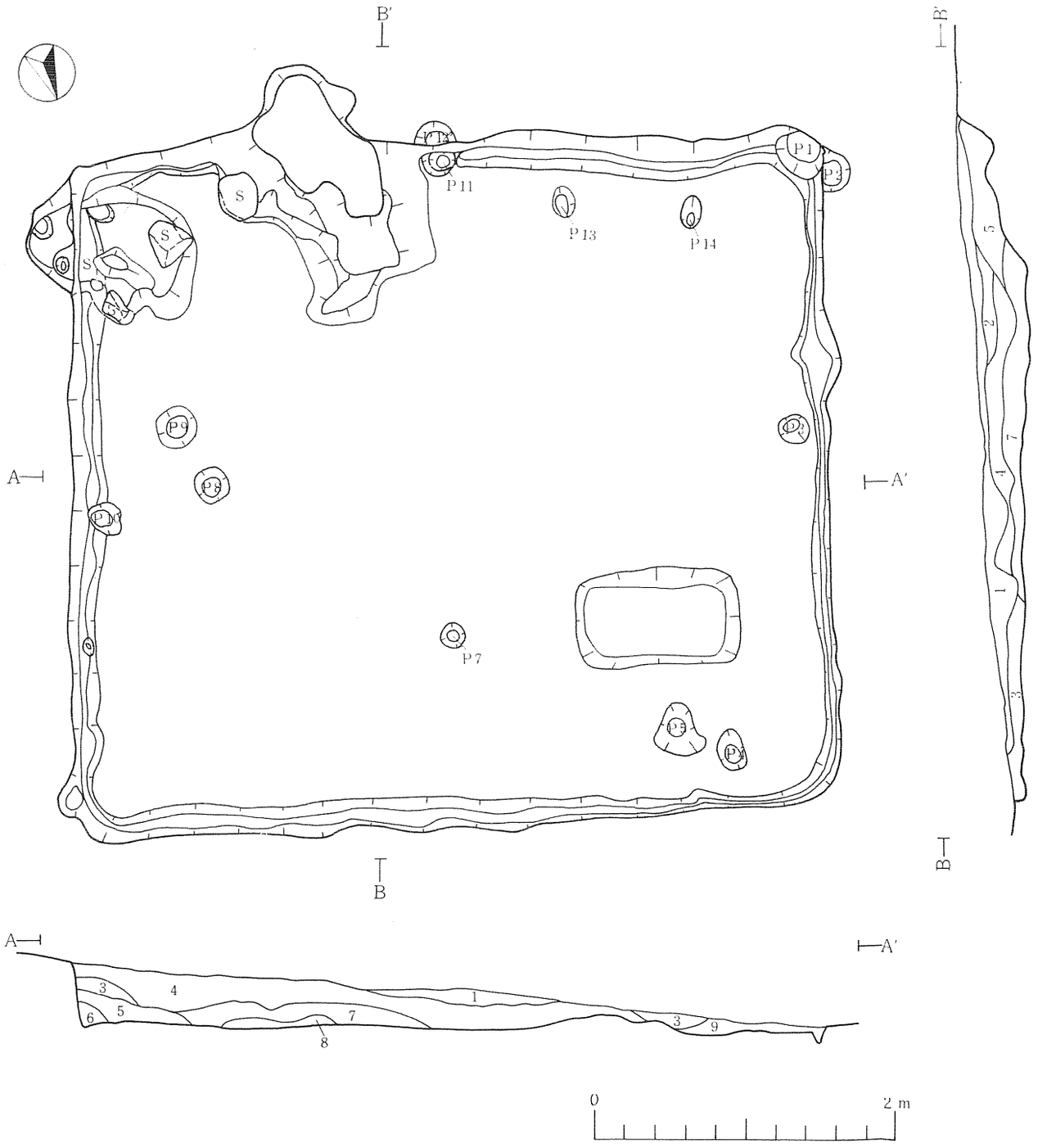
挿図番号		第120図1		第120図2		挿図番号	第120図3
器種		土師器坏		土師器甕		器種	穂摘み具
法量	口径	(11.8)cm		cm		法量 長さ	6.2cm
	底径	cm		cm		幅	2.0cm
	器高	cm		cm		厚さ	0.1cm
胎土		石英粒が多い		細かい		備考	一部欠損
焼成		良好		良好			
色調		橙色		橙色			
成形		?		粘土紐巻き上げ			
		外面	内面	外面	内面		
調整	口縁			ユビナデ	ユビナデ		
	胴			ヘラナデ	ハケナデ		
	底						
備考							

第90表　SI 041竪穴住居跡観察表

挿図		121			
図版		51、52			
形態		方形			
主軸方向		N－29.0°－E			
法量	面積	23.0 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	450 cm	450 cm	520 cm	520 cm
	壁高	29～54cm	1～10cm	51～30cm	28cm
	壁溝幅	15～25cm	7～32cm	14～30cm	7～25cm
	壁溝深	2 cm	2 cm	3 cm	2 cm

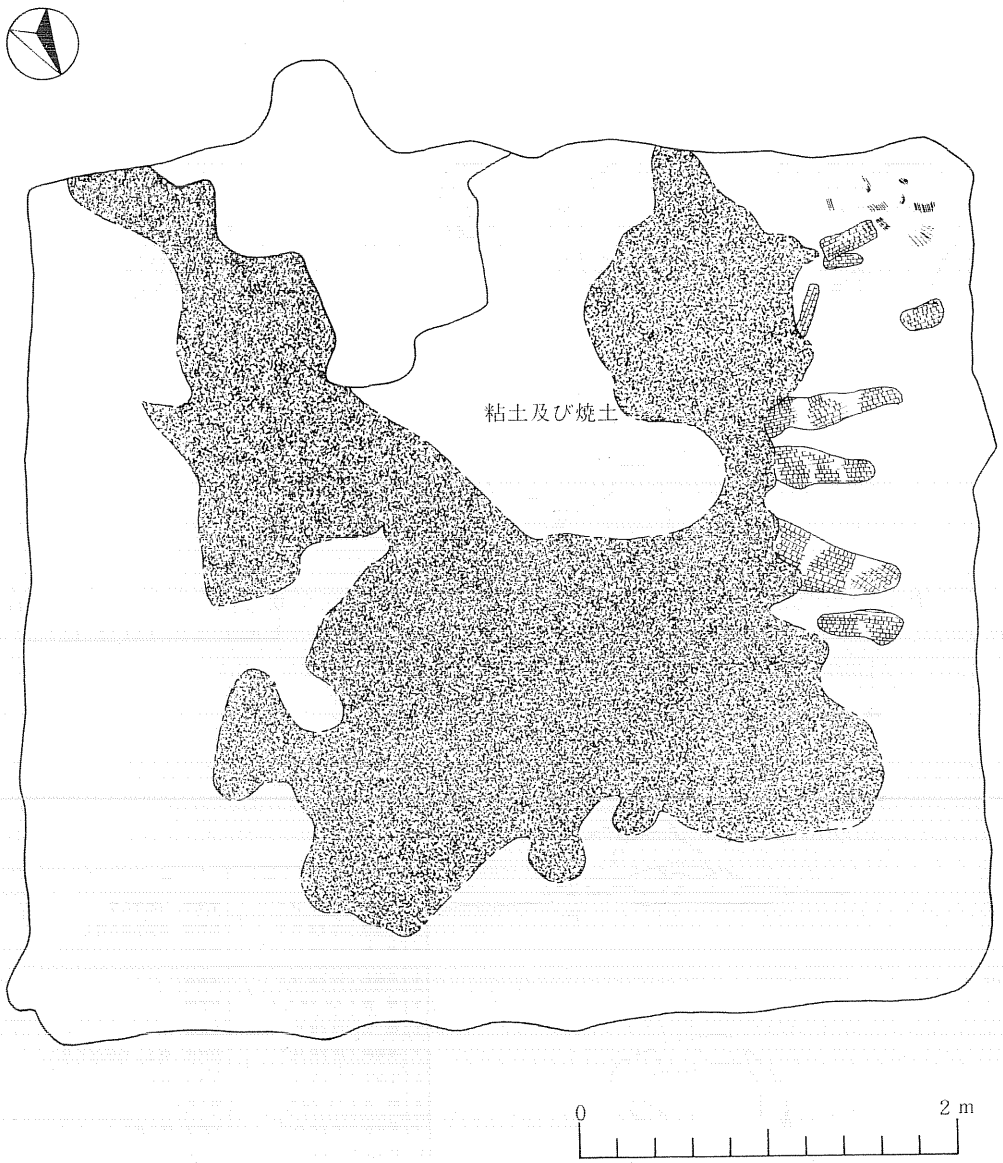
確認	地山面で確認された。
壁	地山が北西側に傾斜しているため、北壁・西壁は低いがいずれの壁も床面よりほぼ垂直に立ち上がる。
壁溝	ほぼ全体に見られるが非常に浅い。
ピット	P1（23） P2（12） P3（7） P4（9） P5（7） P6（31） P7（13） P8（7） P9（14） P10（31） P11（26） P12（32） P13（16） P14（20）（単位cm）P1、P3 P6、P10、P11は柱穴と考えられる。
床面	北西側に傾斜し、緩やかな凹凸を示す。堅くしまっている。
カマド	A：南壁東寄りに位置するが残存状態は悪く、袖、天井は確認できなかった。 B：東壁南寄りにある小形のカマドである。A・B両者の新旧関係は不明である。
遺物	土師器、鉄製紡錘車1
備考	覆土中の炭化物、床面上の炭化材、灰、焼土等の分布状況から焼失家屋であると考えられる。住居跡北西床面に110×65×49cmの長方形のピットを検出した。



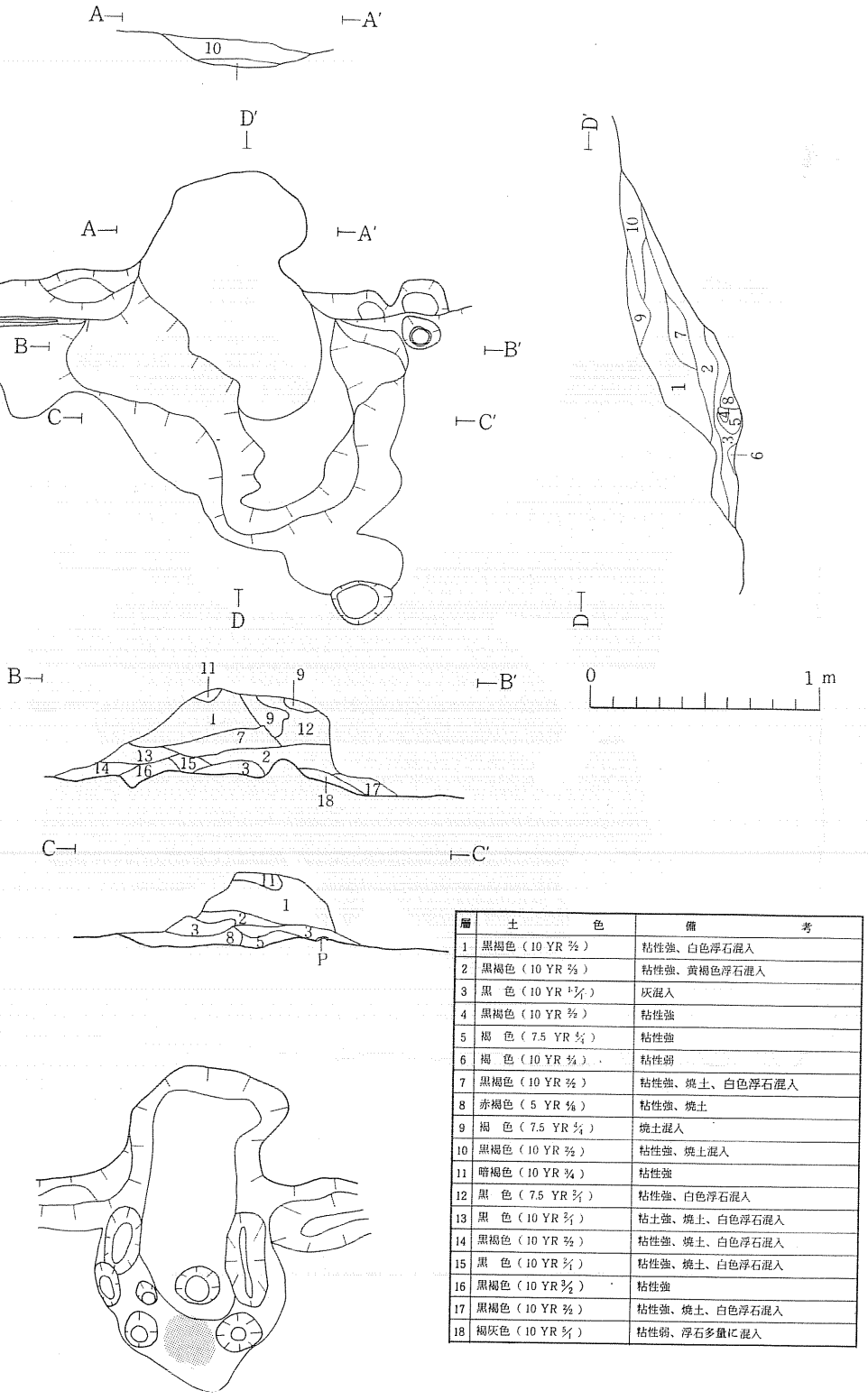


層	土　　色	備　　考
1	黒　色（7.5 YR 2/1）	粘性強、黄色浮石混入
2	黒　色（10 YR 2/1）	〃
3	黒褐色（10 YR 2/2）	〃　炭化物若干混入
4	暗褐色（10 YR 3/3）	〃　黄褐色地山土・小礫混入
5	黒　色（10 YR 2/2）	〃　黄褐色地山土・炭化物混入
6	黒　色（10 YR 1.7/1）	〃
7	黒　色（10 YR 2/1）	〃
8	黒褐色（10 YR 2/2）	〃　黄褐色地山土混入
9	黒　色（10 YR 2/1）	〃　炭化物混入

第121図　ＳＩ041竪穴住居跡実測図

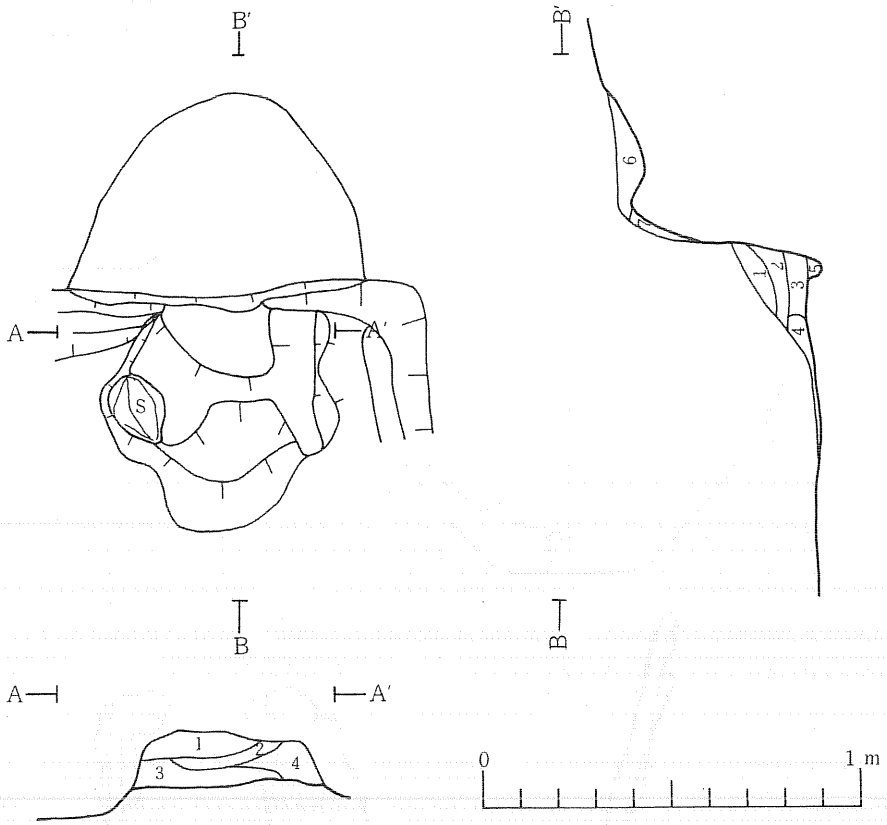


第122図　ＳＩ041竪穴住居跡炭化物分布状況図



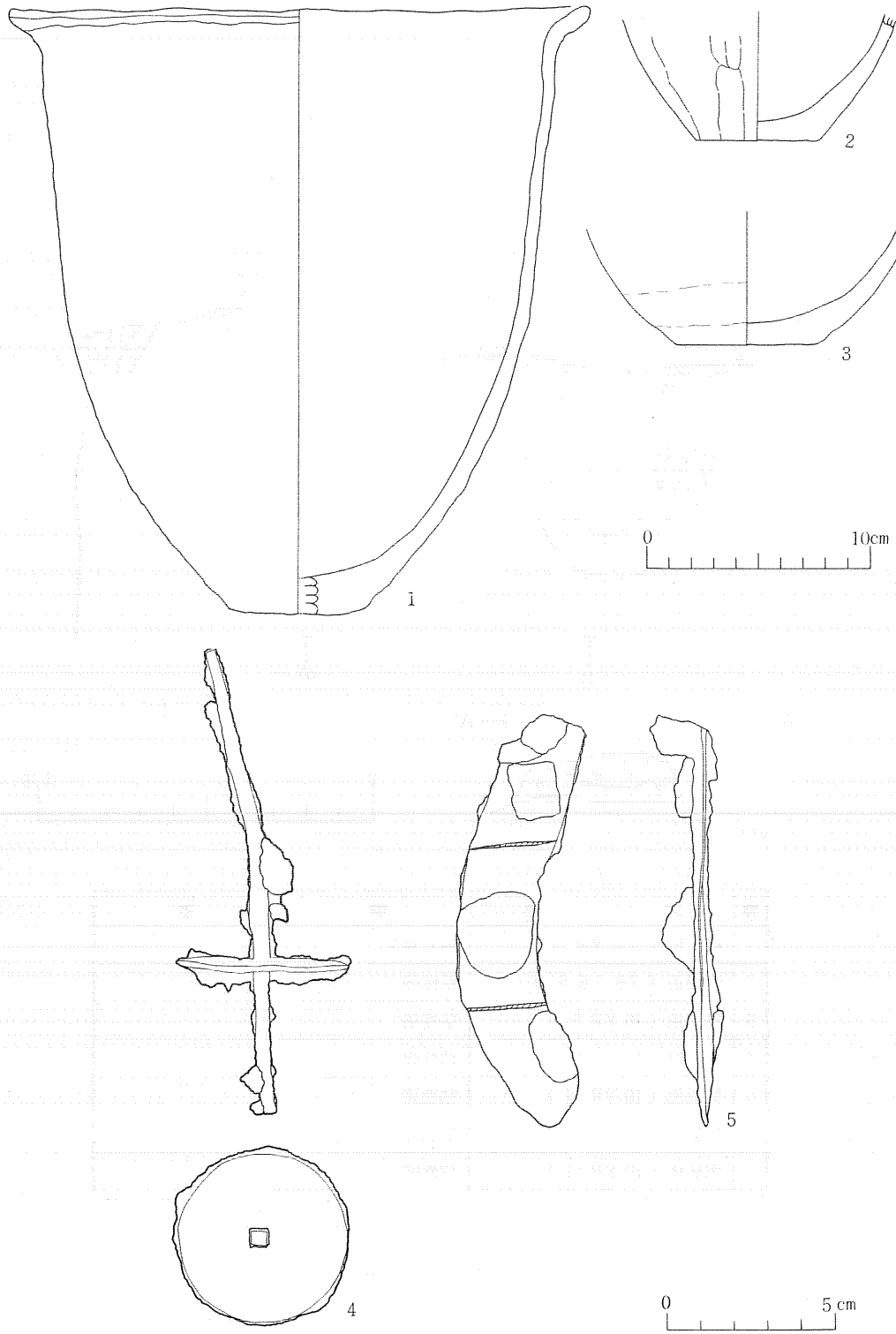
層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、白色浮石混入
2	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、黄褐色浮石混入
3	黒　色（10 YR 1.7/1）	灰混入
4	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
5	褐　色（7.5 YR 4/4）	粘性強
6	褐　色（10 YR 4/4）	粘性弱
7	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、焼土、白色浮石混入
8	赤褐色（5 YR 4/6）	粘性強、焼土
9	褐　色（7.5 YR 4/4）	焼土混入
10	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、焼土混入
11	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強
12	黒　色（7.5 YR 3/1）	粘性強、白色浮石混入
13	黒　色（10 YR 3/1）	粘土強、焼土、白色浮石混入
14	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、焼土、白色浮石混入
15	黒　色（10 YR 3/1）	粘性強、焼土、白色浮石混入
16	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
17	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、焼土、白色浮石混入
18	褐灰色（10 YR 5/1）	粘性弱、浮石多量に混入

第123図　ＳＩ041竪穴住居跡カマドＡ実測図



層	土　　色	備　　考
1	橙　色（7.5 YR 6/6）	浮石混入
2	暗褐色（7.5 YR 3/3）	粘性強
3	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強
4	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
5	黄褐色（10 YR 5/6）	粘性強
6	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強
7	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強

第124図　ＳＩ041竪穴住居跡カマドＢ実測図



第125図　ＳＩ041竪穴住居跡出土遺物実測図

第91表　SI 041出土遺物観察表

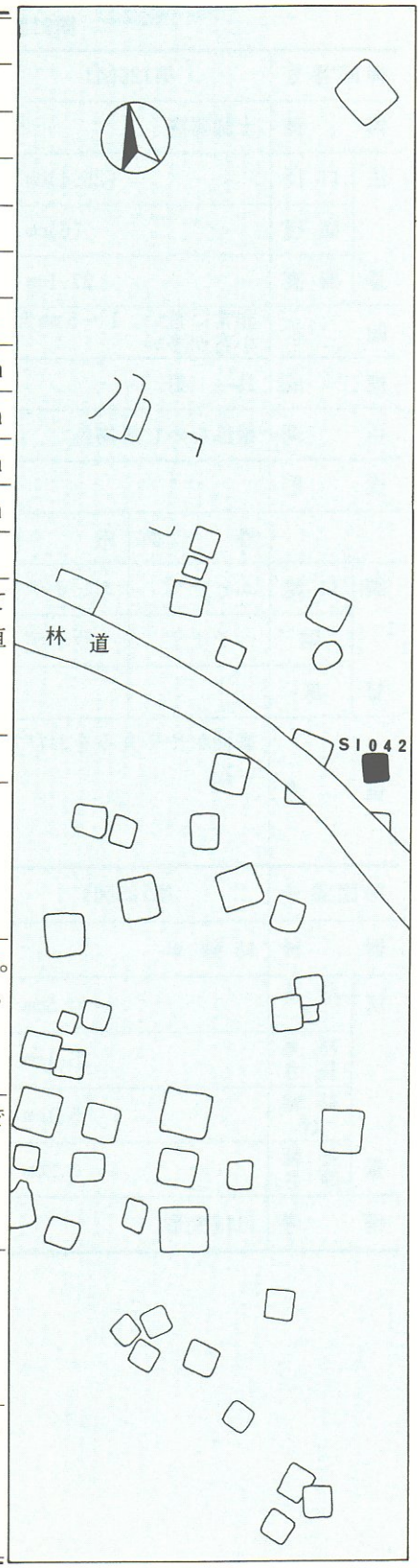
挿図番号		第125図1		第125図2		第125図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器椀	
法量	口径	(25.4)cm		cm		cm	
	底径	(6)cm		5.5cm		6.1cm	
	器高	27.1cm		cm		cm	
胎土		非常に荒い。1～5㎜大の小石が多い		細かい		細かい	
焼成		良好		良好		良好	
色調		橙色ないし黒褐色		橙色ないし黒褐色		橙色ないし明褐色	
成形						粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ			ユビナデ	
	胴	ヘラナデ	ヘラナデ			ヘラナデ	細かいヘラナデ
	底			ヘラナデ	ヘラナデ		
備考		底面がやや丸みをおびている		底面ヘラナデ		底部内面に煤状物質が全面に付着 底面に糸切り状の痕跡が見られる	

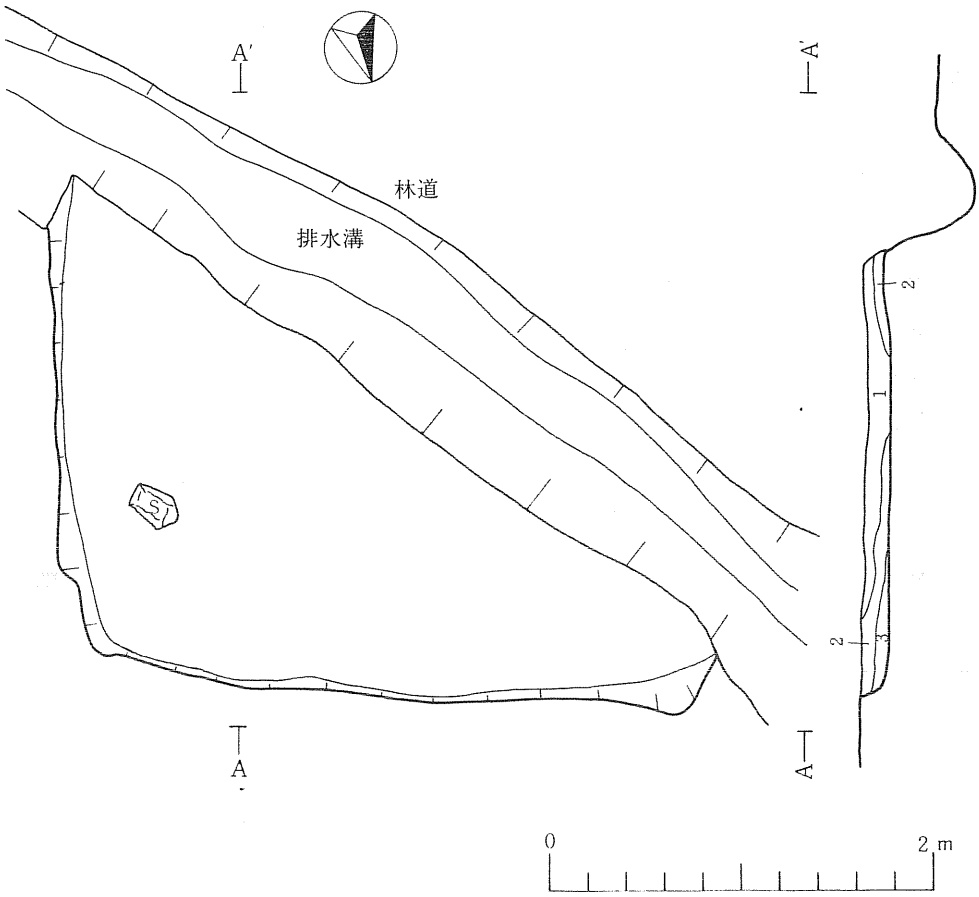
挿図番号		第125図4
器種		紡錘車
法量	紡茎径	0.5cm
	紡茎長さ	15.1cm
	紡輪径	5.1cm
	紡輪厚さ	0.2cm
備考		ほぼ完形

挿図番号		第125図5
器種		鎌
法量	長さ	14.2cm
	幅	2.4cm
	厚さ	0.2cm
備考		基部欠損

第92表　SI 042竪穴住居跡観察表

挿図		126			
図版		52			
形態		方形			
主軸方向					
法量	面積	—— ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	—— cm	—— cm	—— cm	316 cm
	壁高	2～39cm	—— cm	—— cm	5～18cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		確認できなかった。			
壁		南壁・西壁は林道排水溝により切られているが、その他の壁は床面よりほぼ垂直に立ち上がる。			
壁溝		——			
ピット		確認できなかった。			
床面		地山をそのまま床面として使用している。西側に傾斜しているが平坦で堅くしまっている。			
カマド		林道、排水溝により切られており検出できなかった。			
遺物		土師器			
備考		林道及び排水溝により住居全体の約½しか残存しない。			



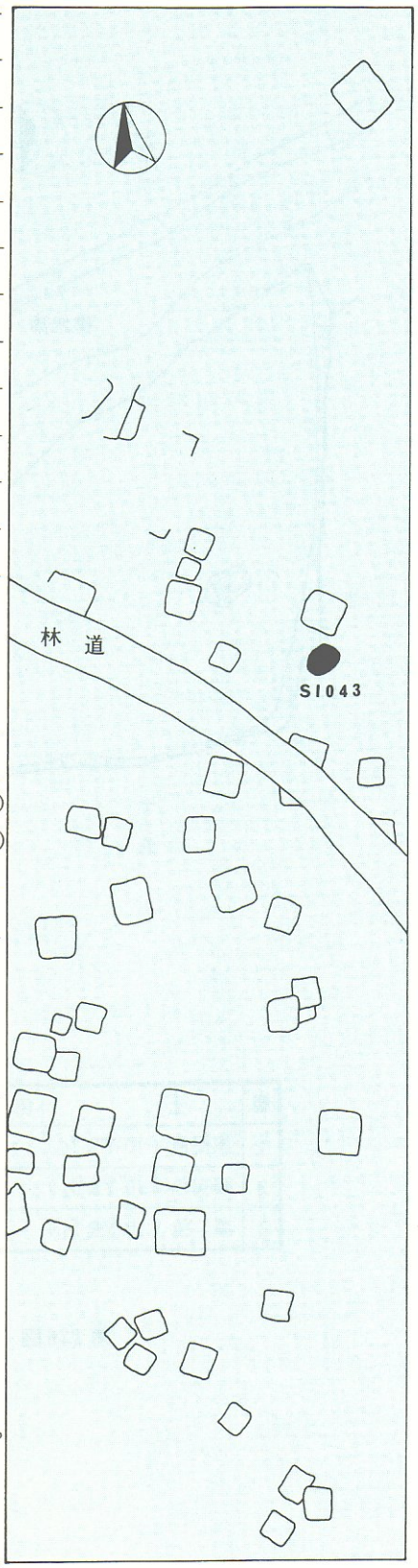


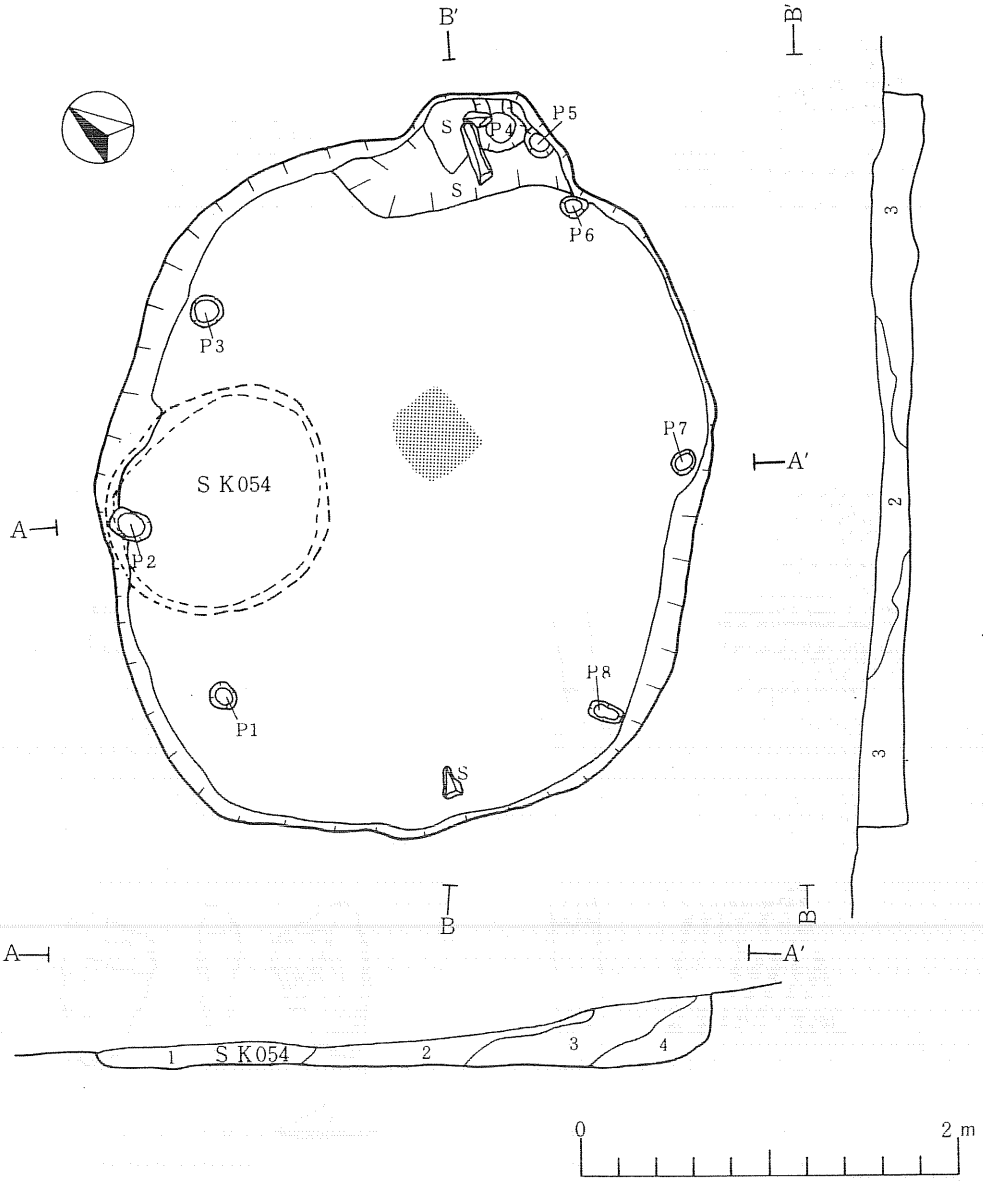
層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、黄褐色地山土混入
2	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強
3	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強

第126図　ＳＩ042竪穴住居跡実測図

第93表　SI 043竪穴住居跡観察表

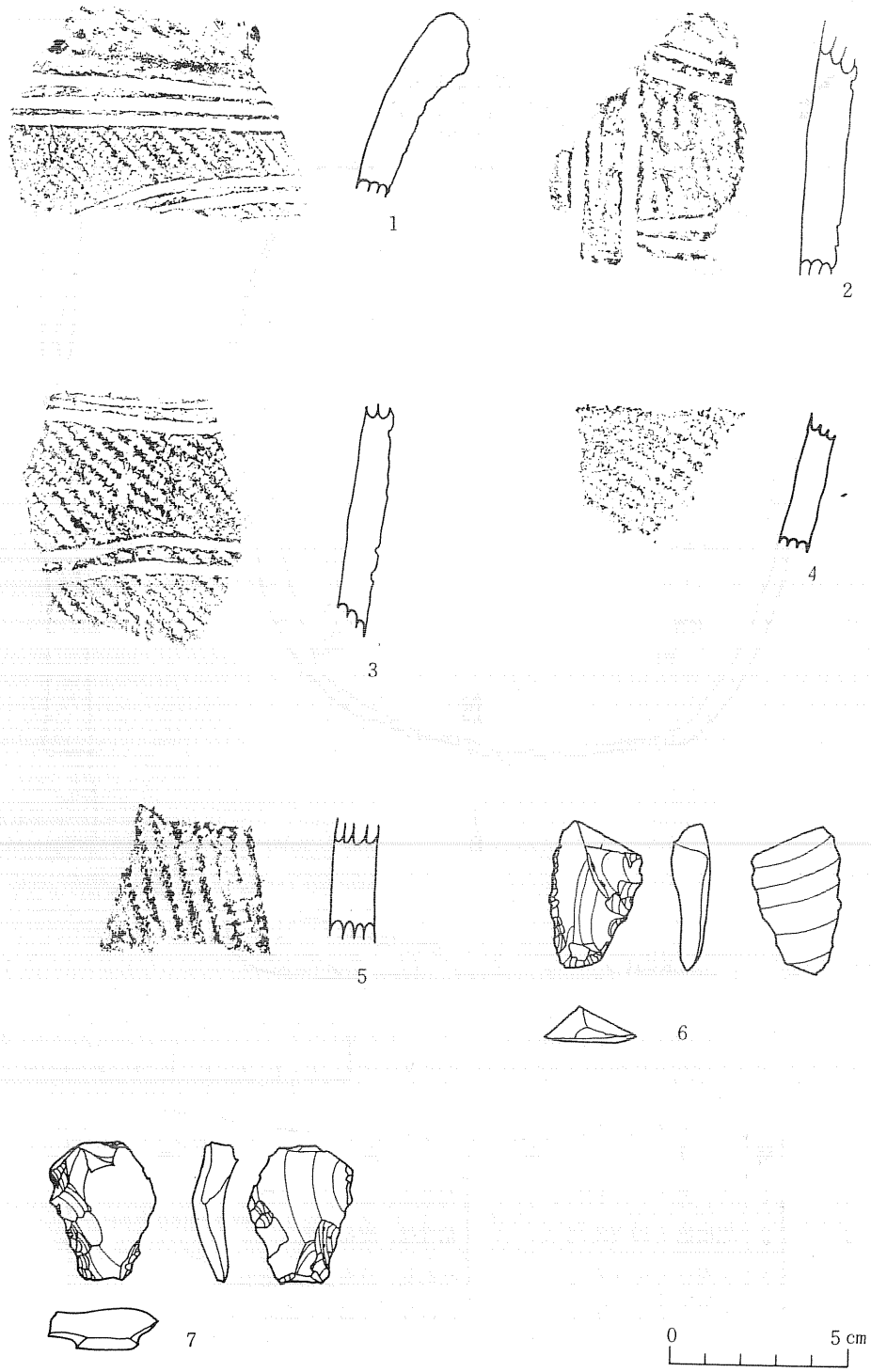
挿図		127			
図版		53			
形態		楕円形			
主軸方向					
法量	面積	10.0 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	318 cm	—— cm	400 cm	—— cm
	壁高	4～37cm	—— cm	4～37cm	—— cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		ほぼ垂直に立ち上がるが北西側では緩やかに立ち上がる。			
壁溝		——			
ピット		P1（24）P2（41）P3（29）P4(28) P5（15）P6（29）P7（33）P8(23)（単位cm）P1～P3、P6～P8が柱穴であろう。			
床面		平坦であるが北側に緩やかに傾斜する。			
カマド		長軸線上中央よりやや北寄りに40×40cmの地床炉がある。			
遺物		縄文土器、不定形石器2			
備考		SK 054が重複するが、本住居跡が古い。長軸線北側壁に大きさ95×55cmほどで4～6cm掘りくぼめられた張り出し部がある。			





層	土　　色	備　　考
1	黒　色（7.5 YR 2/1）	粘性強、SK 054の覆土
2	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強、炭化物混入
3	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、黄褐色地山土混入
4	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、3層より明度・彩度が高い。

第127図　S I 043竪穴住居跡実測図



第128図　ＳＩ043竪穴住居跡出土遺物実測図

第94表　SI 043出土遺物観察表

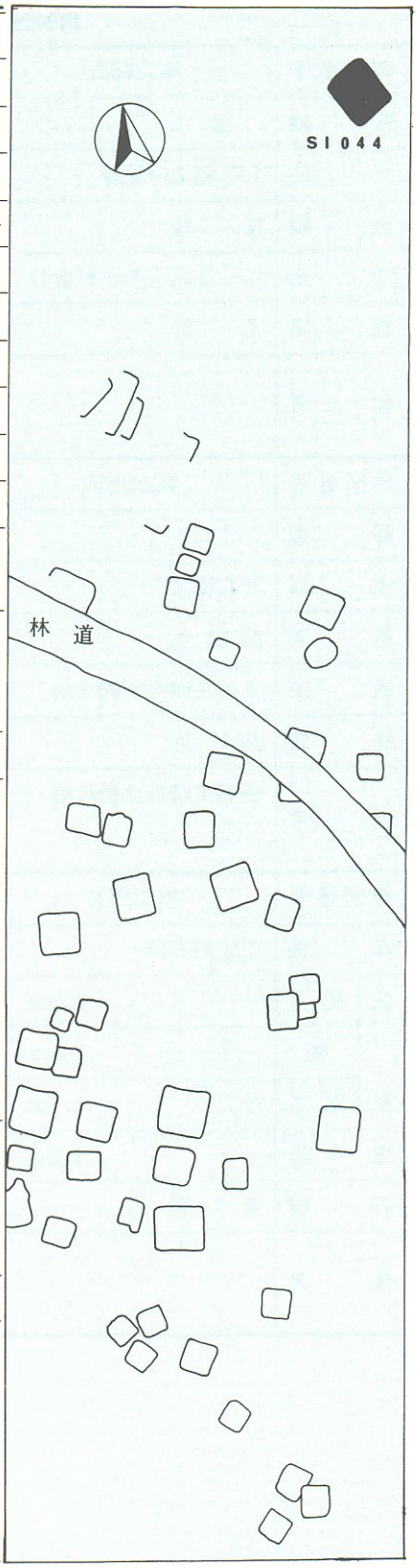
挿図番号	第128図1	第128図2	第128図3
器種	鉢？		
文様	ＲＬ縄文→沈線	ＬＲ縄文→沈線	ＲＬ縄文→沈線
色調	褐色	暗褐色	黒褐色、暗赤褐色
胎土	１～２㎜大の小石含む	１～２㎜大の小石含む	１～２㎜大の礫含む
焼成	良好	良好	良好
備考		煤状炭化物付着	

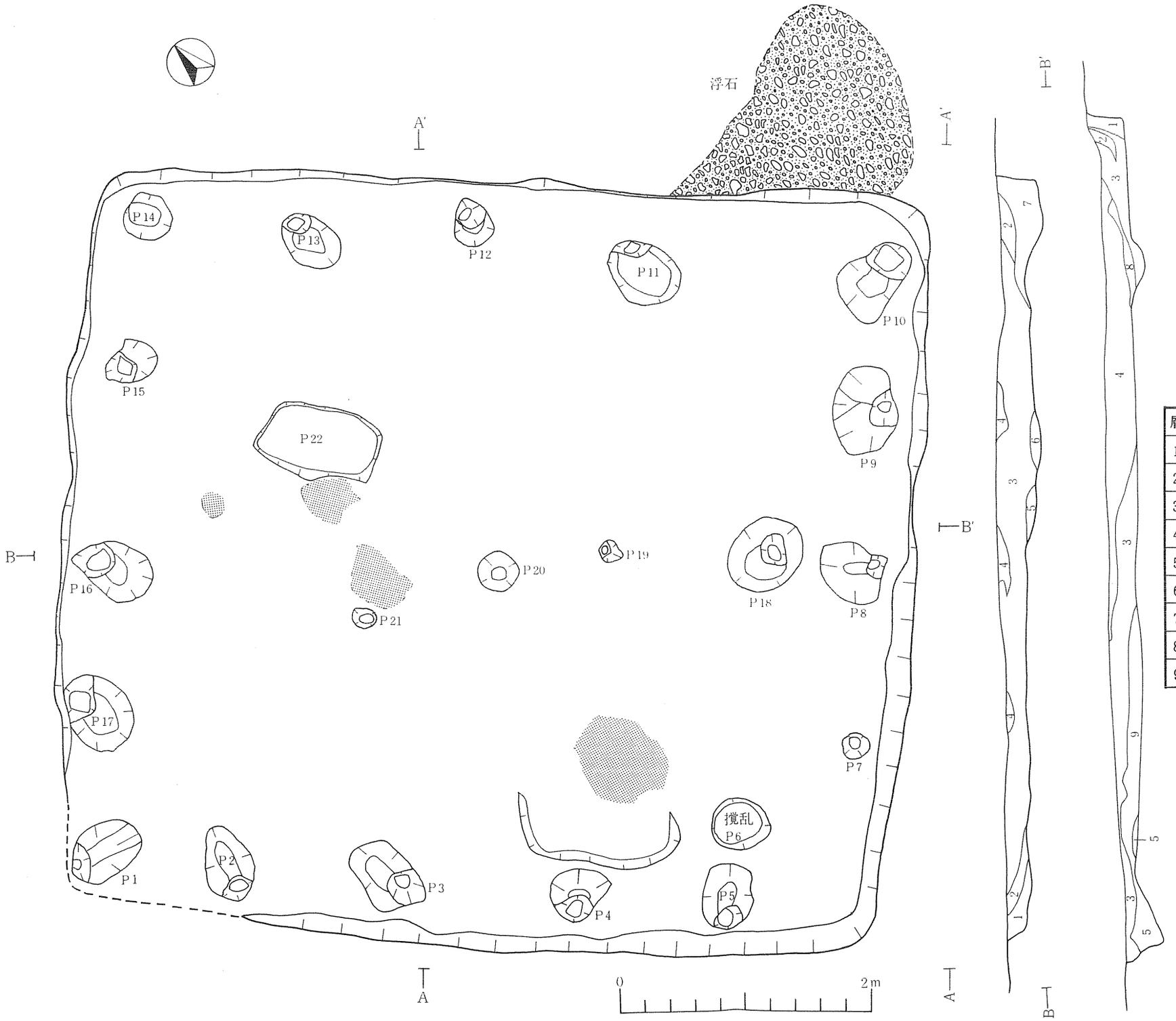
挿図番号	第128図4	第128図5
器種		
文様	ＲＬ縄文	ＲＬ縄文
色調	暗褐色	褐色
胎土	１～３㎜大の礫含む	１～２㎜大の小石含む
焼成	良好	良好
備考	表面煤状炭化物付着	内面に煤状炭化物付着 二次加熱を受けている

挿図番号		第128図6	第128図7
器種		不定形石器	不定形石器
法量	長さ	4.2cm	4.4cm
	幅	2.5cm	2.9cm
	厚さ	1.1cm	0.9cm
重量		7.2g	11.1g
石質		頁岩	頁岩
備考			

第95表　SI 044竪穴住居跡観察表

挿図		129			
図版		53、54			
形態		方形			
主軸方向		P 3、P13の中央を結ぶ線　N－62.0°－E			
法量	面積	41.1 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	664 cm	642 cm	590 cm	580 cm
	壁高	16～37cm	26cm	23～38cm	2 ～20cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		主に東壁・北壁は褐色土層中、南西壁・北西壁は地山面で確認された。			
壁		北東・南東壁が深く、立ち上がりも強いが北西・南西壁はしだいに浅くなり、南東隅では消失している。			
壁溝		————			
ピット		P 1 (78)　P 2 (53)　P 3 (43)　P 4 (67) P 5 (65)　P 6 (10)　撹乱　P 7 (33) P 8 (37)　P 9 (52)　P10(61)　P11(23) P12(59)　P13(22)　P14(42)　P15(46) P16(58)　P17(46)　P18(35)　P19(28) P20(11)　P21(39)　P22(3)　(単位cm) 壁に沿って構築されたP 1 ～P 18 (6 を除く) が柱穴であろう。P18～P21は間仕切りのピットか。			
床面		地山面がそのまま床面となっている。全体に平坦で南西隅付近が非常に堅く踏み固められている。			
カマド		地床炉が床面4箇所に分布する。			
遺物		出土しなかった。			
備考		————			



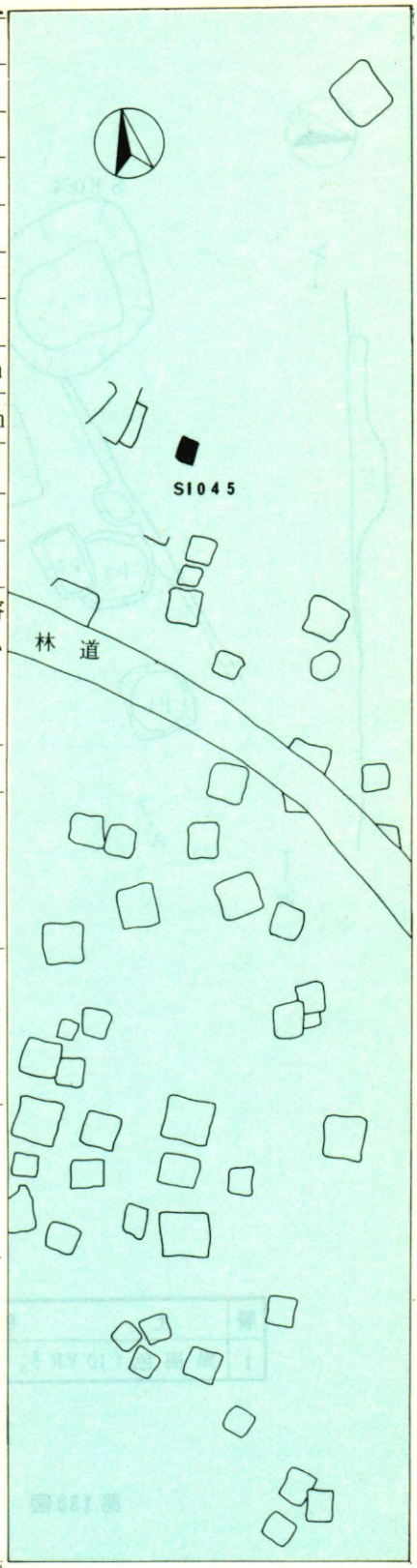


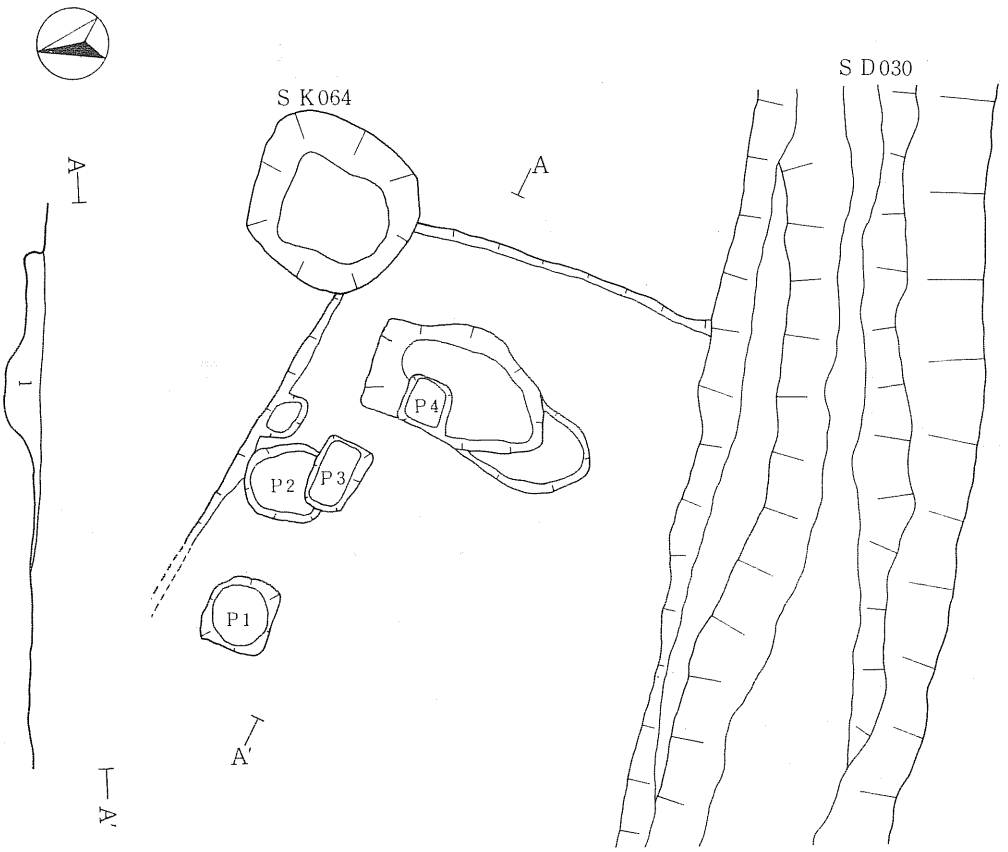
層	土　　色	備　　考
1	黄褐色（10 YR 5/6）	黒褐色土混入
2	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強
3	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強、黄褐色地山土混入
4	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強、小礫混入
5	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強、黄褐色地山土多量に混入
6	黒褐色（10 YR 3/2）	炭化物、粘土混入
7	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強、黄褐色地山土多量に混入
8	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強
9	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強

第129図　ＳＩ044竪穴住居跡実測図

第96表　SI 045竪穴住居跡観察表

挿図		130			
図版					
形態		方形?			
主軸方向					
法量	面積	—— m^2			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	(164)cm	—— cm	—— cm	(202)cm
	壁高	(7～16)cm	—— cm	—— cm	(3～10)cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		東壁はSD 030により切られ、北壁西寄り、西・南壁は削平により確認できなかった。			
壁溝		存在しなかった。			
ピット		P 1 (48) P 2 (10) P 3 (49) P 4 (32) (単位cm) を確認したが柱穴とは考えられない。			
床面		西側に傾斜しており、さほど堅くない。			
カマド		検出されなかった。			
遺物		出土しなかった。			
備考		SD 030・SK 064が重複している。新旧関係はSI 045→SD 030・SK 064である。			



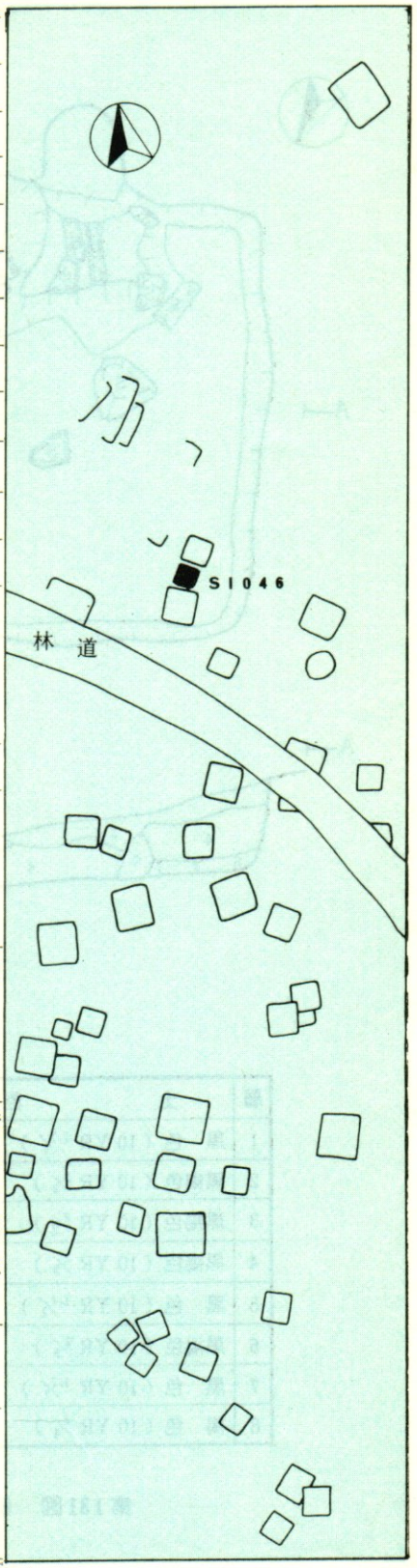


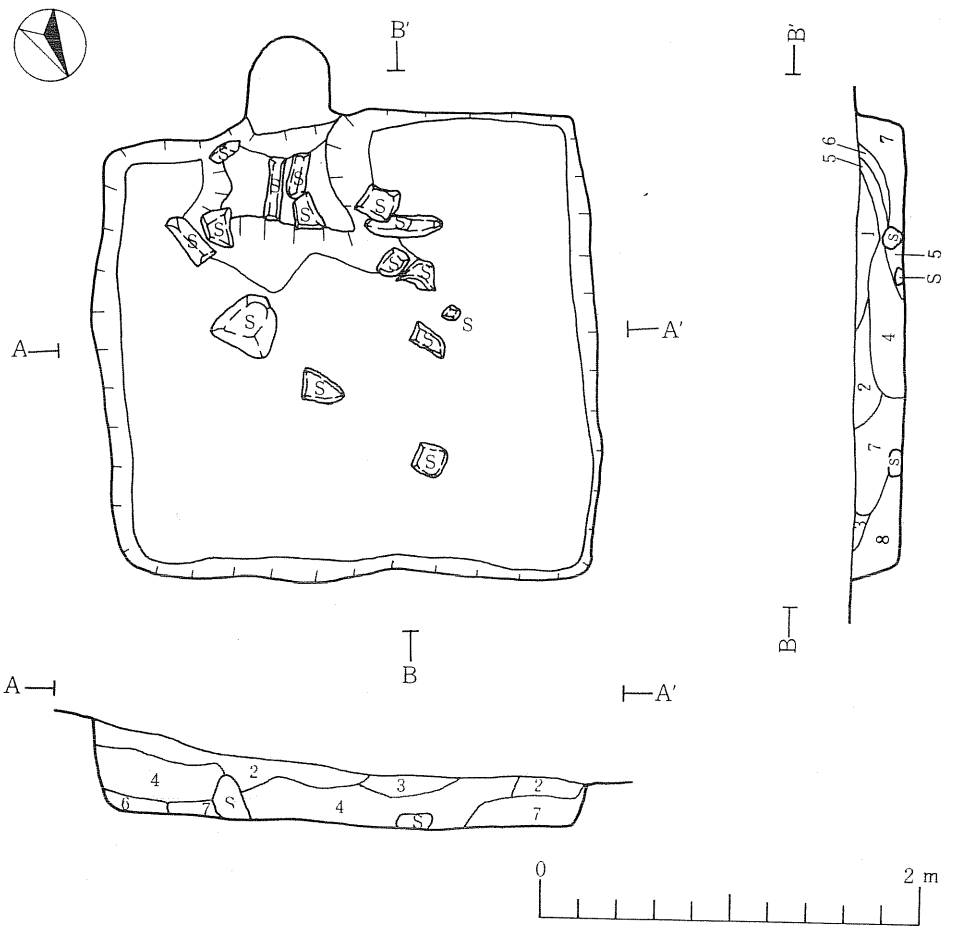
層	土　　色	備　　考
1	黒 褐 色（10 YR $\frac{2}{2}$ ）	粘性強、黄褐色地山土混入

第130図　S I 045竪穴住居跡実測図

第97表　SI 046竪穴住居跡観察表

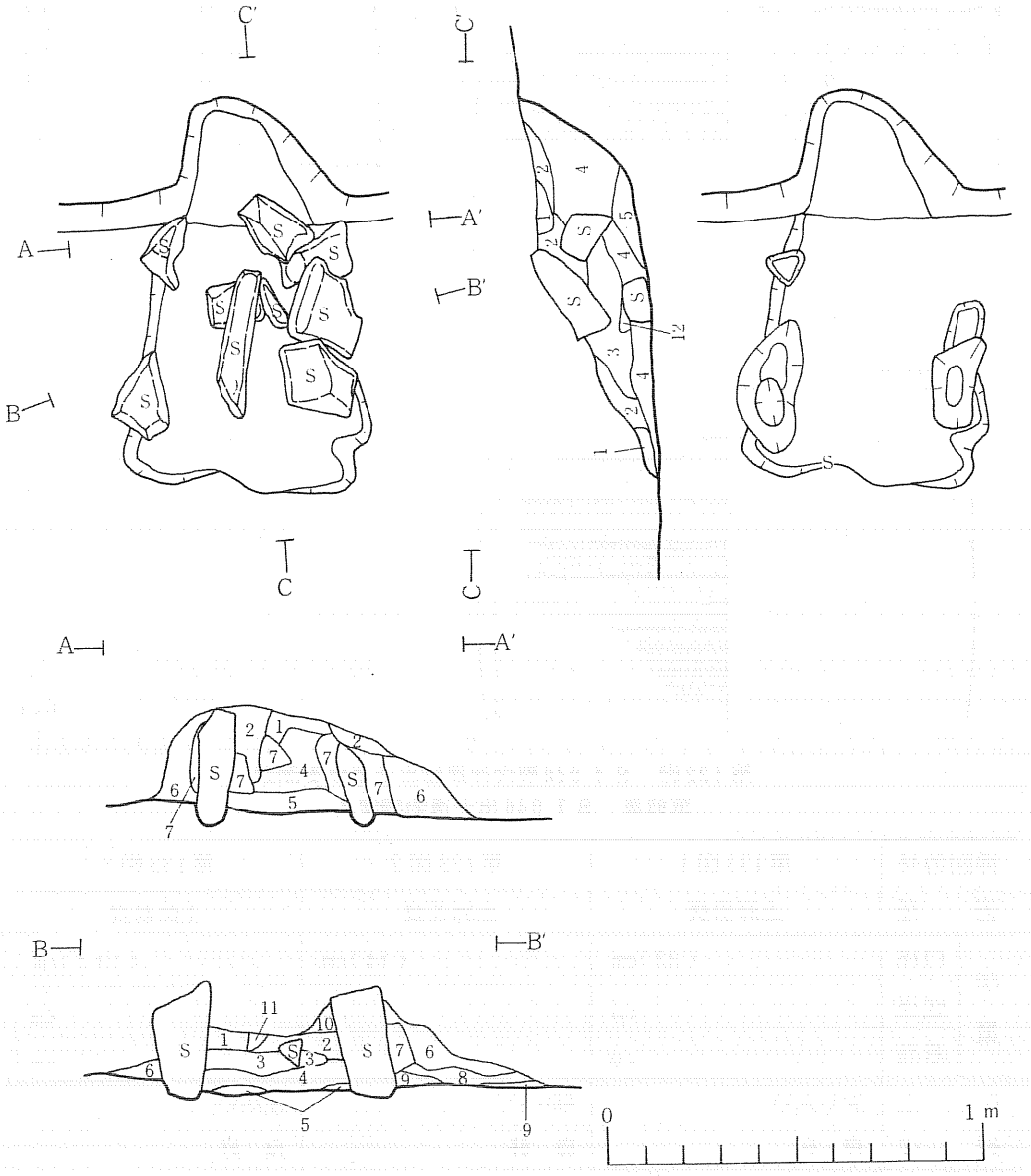
挿図		131			
図版		54、55			
形態		方形			
主軸方向		N－26.5°－E			
法量	面積	12.7 m²			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	223 cm	243 cm	250 cm	248 cm
	壁高	46～50cm	19～26cm	22～45cm	22～41cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		床面よりほぼ垂直に立ち上がる。			
壁溝		———			
ピット		確認されなかった。			
床面		地山をそのまま使用しており、平坦で堅くしまっている。			
カマド		南壁東寄りに位置し、保存状態は良好である。袖は芯材として板石を使用し、粘土を張り付けている。天井は棒状の石を両袖に渡したものであるが、石は燃焼部内に落ち込んでいる。煙道は緩やかに立ち上がる。燃焼部中央に支脚がある。			
遺物		土師器			
備考		———			





層	土　　色	備　　考
1	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、黄褐色地山土混入
3	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強
4	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、黄褐色地山土多量に混入
5	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強、1層より明度・彩度が落ちる。
6	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強
7	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
8	褐　色（10 YR 4/4）	黄褐色地山土混入

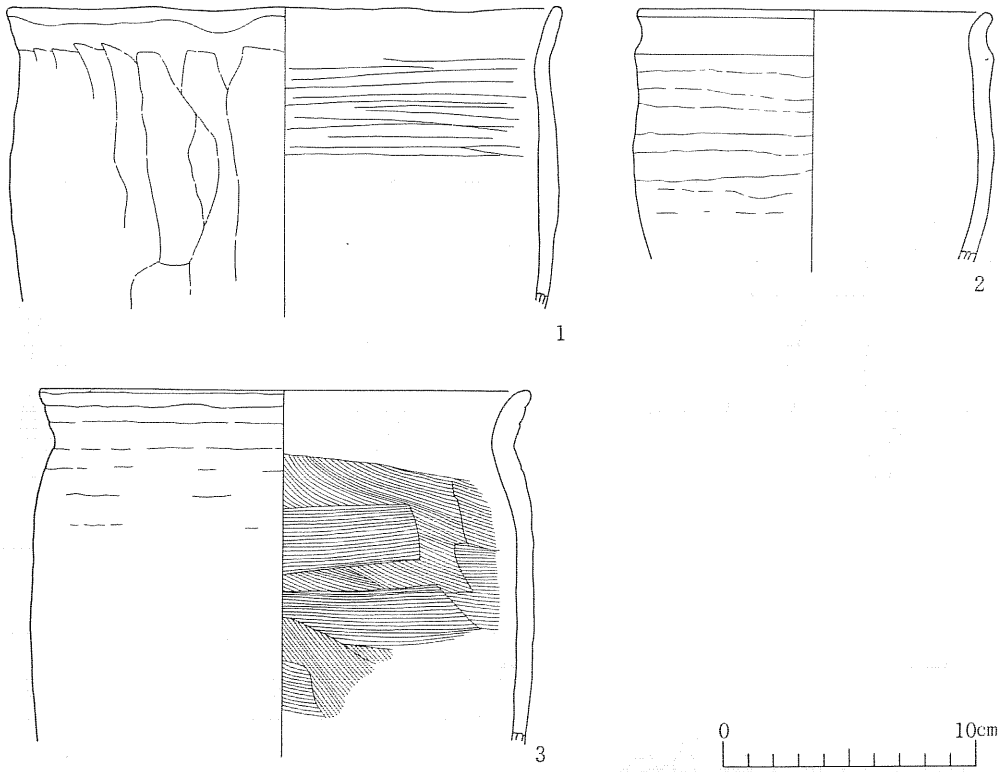
第131図　ＳＩ046竪穴住居跡実測図



層	土色	備考
1	褐色（10 YR 4/6）	粘性強、粘土
2	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、黒色土混入
3	暗赤褐色（5 YR 3/6）	粘性強、粘土、加熱を受けている。
4	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性強、焼土混入
5	黒色（10 YR 1.7/1）	炭化物多量に混入
6	黒褐色（7.5 YR 2/2）	粘性強

層	土色	備考
7	褐色（10 YR 4/4）	粘性強、加熱を受けている。袖の粘土
8	黒色（10 YR 2/1）	粘性強
9	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強
10	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強
11	黒色（10 YR 2/1）	粘性強
12	暗赤褐色（5 YR 3/3）	粘性弱、焼土

第132図　ＳＩ046竪穴住居跡カマド実測図



第133図　ＳＩ046竪穴住居跡出土遺物実測図

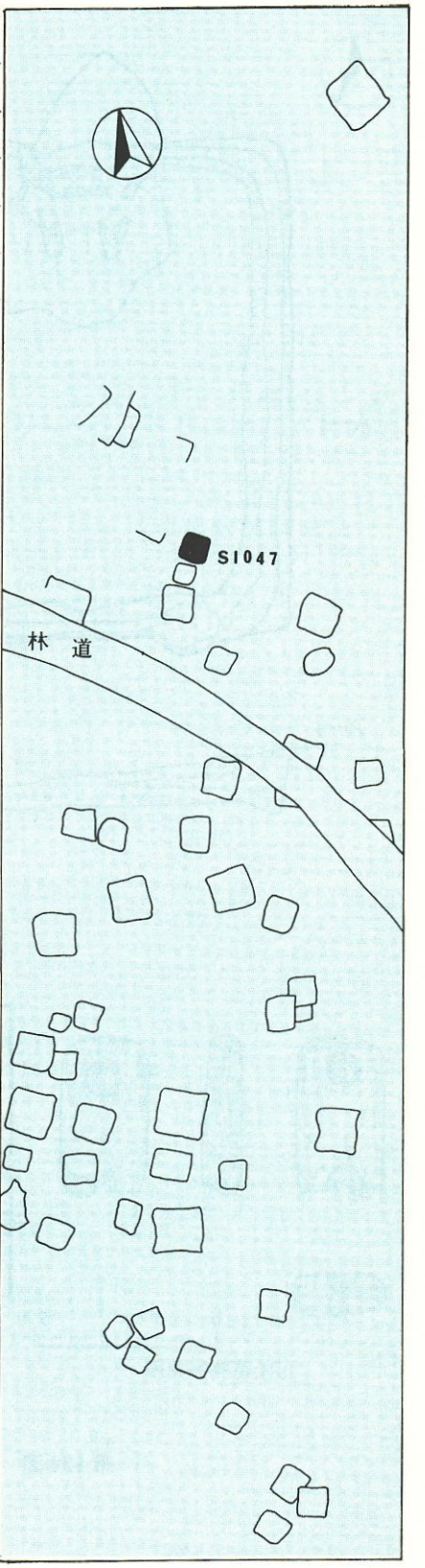
第98表　ＳＩ046出土遺物観察表

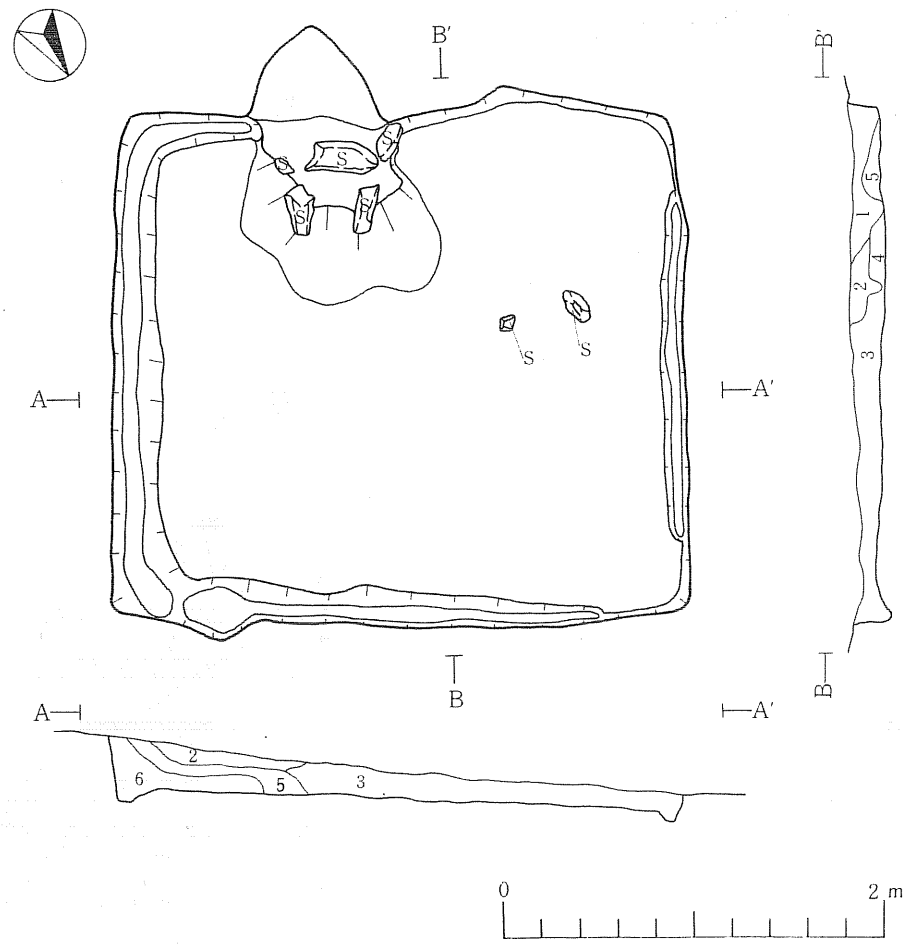
挿図番号		第133図1		第133図2		第133図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	(22)cm		(14)cm		(19.4)cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		少し荒い		細かい		細かい	
焼成		良　好		良　好		良　好	
色調		暗褐色ないしにぶい橙色		明赤褐色ないし灰褐色		橙　色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外　面	内　面	外　面	内　面	外　面	内　面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底						
備考						外面に煤状炭化物付着	

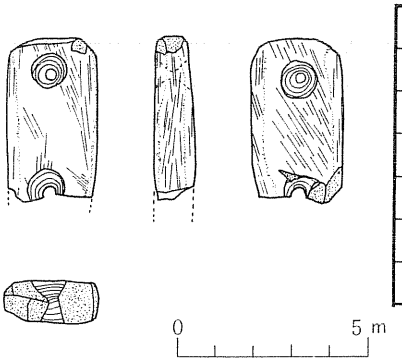
第99表　SI 047竪穴住居跡観察表

挿図		134			
図版		54、55			
形態		方形			
主軸方向		N－31.0°－E			
法量	面積	8.4 ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	265 cm	261 cm	285 cm	305 cm
	壁高	26～34cm	4～10cm	12～30cm	8～16cm
	壁溝幅	21～30cm	8～12cm	11～20cm	10～32cm
	壁溝深	1～5 cm	2 cm	4～6 cm	2～12cm

確認	地山面で確認された。
壁	床面よりほぼ垂直に立ち上がり、しっかりとした作りである。西ほど壁高が低くなる。
壁溝	カマド西側、及び北西コーナー部を除き確認できた。
ピット	確認できなかった。
床面	西側へ傾斜するが平坦で堅くしまっている。
カマド	南壁東寄りに位置する。東側は若干崩れているが保存状態は良好である。袖は芯材として人頭大の板石を使用しているが貼り付けられた粘土などは確認できなかった。天井にも長さ43cmほどの石を使用している。煙道は垂直に立ち上がった後緩やかに壁外に出ている。燃焼部中央より東寄りに立石がみられ、支脚と考えられる。
遺物	土師器、垂飾品1
備考	――――



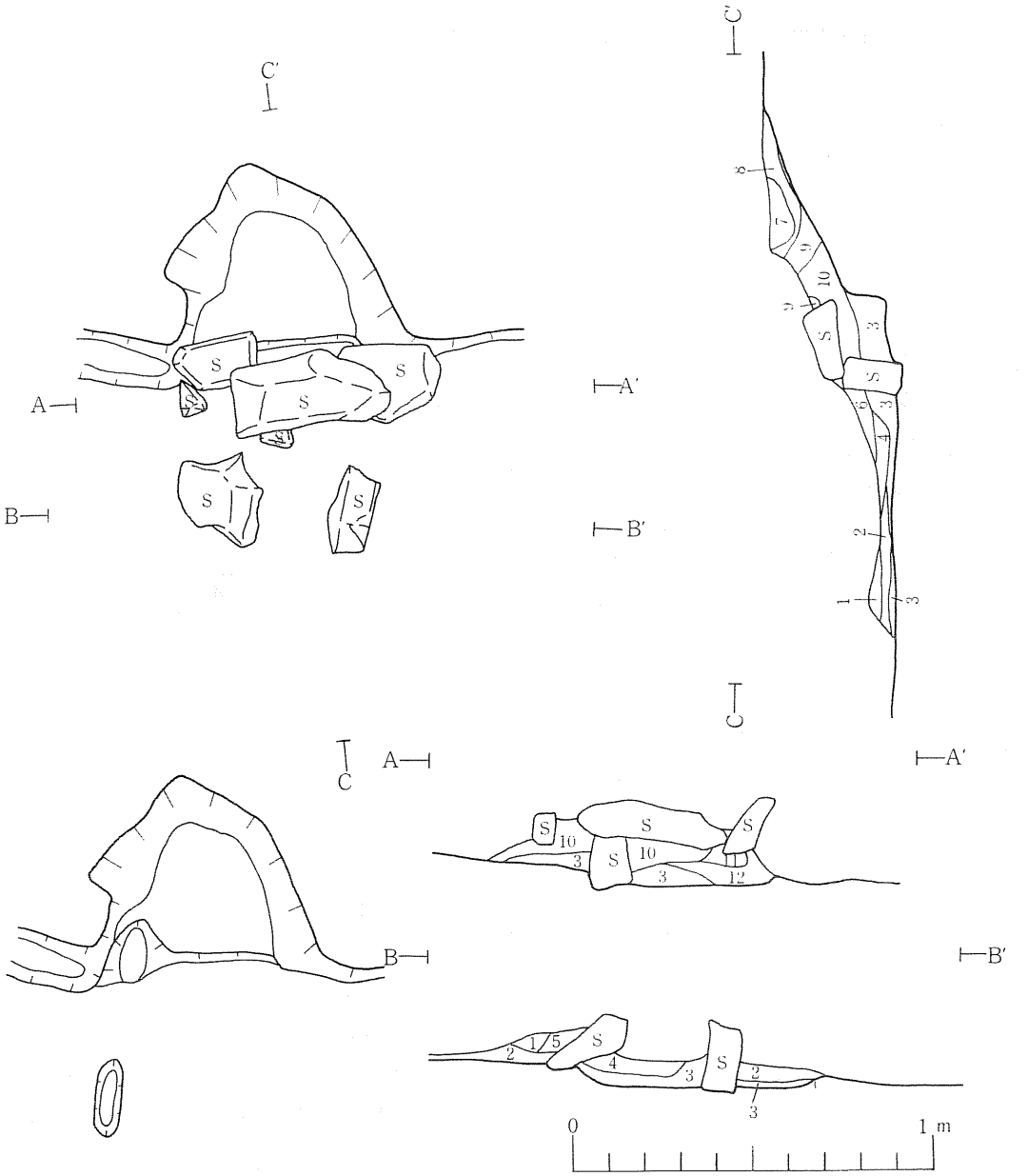




出土遺物実測図

層	土　　色	備　　考
1	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 2/3）	黄褐色地山土混入
3	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強、黄褐色土少量混入
4	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強、白色浮石混入
5	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱、黄褐色地山土混入
6	黒褐色（10 YR 2/3）	

第134図　ＳＩ047竪穴住居跡実測図



層	土色	備考
1	褐色（10 YR 4/6）	粘性強、加熱を受けている。
2	黒褐色（7.5 YR 2/2）	粘性強、明黄褐色土混入
3	黒色（10 YR 1.7/1）	粘性強、炭化物混入
4	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性弱、焼土、灰混入
5	暗赤褐色（5 YR 3/6）	粘性弱、焼土
6	暗褐色（7.5 YR 3/4）	粘性強、焼土

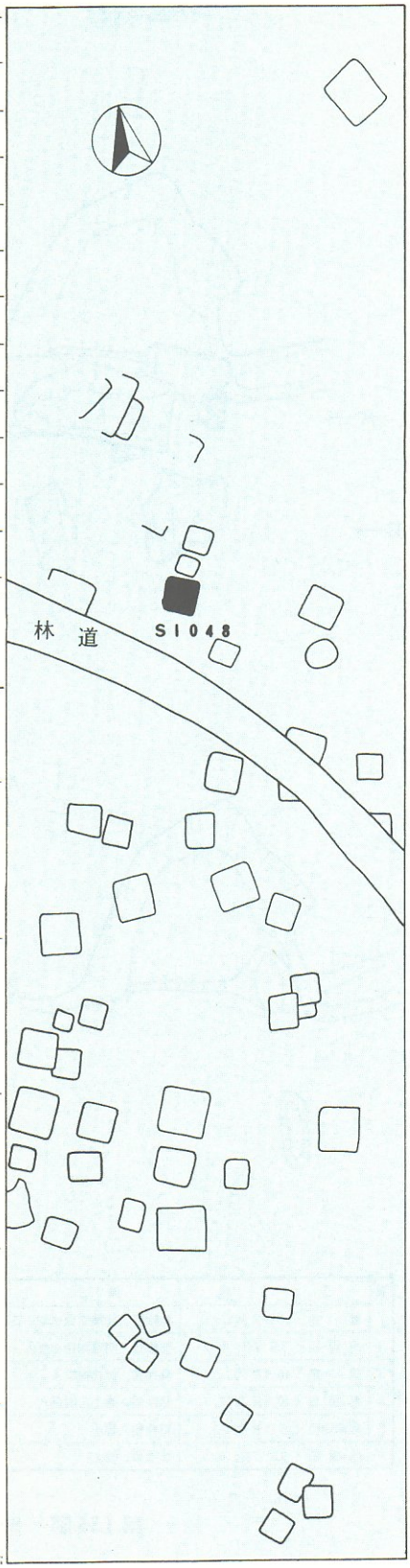
層	土色	備考
7	黒褐色（10 YR 3/1）	粘性強
8	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強、焼土混入
9	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
10	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強、焼土混入
11	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、焼土混入
12	黒色（10 YR 2/1）	粘性強

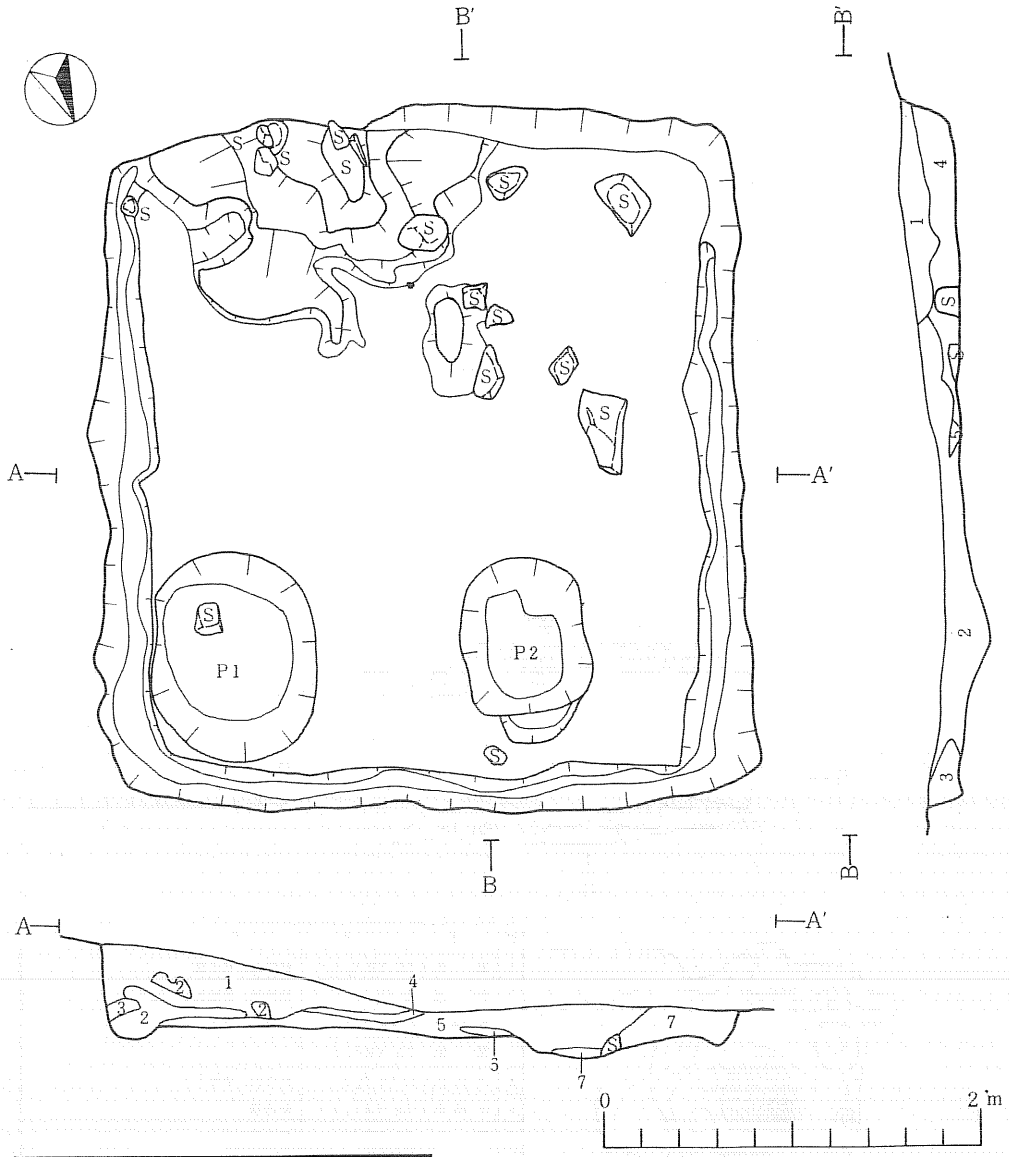
第135図　S I 047竪穴住居跡カマド実測図

第100表　SI 048竪穴住居跡観察表

挿図		136			
図版		54、56			
形態		方形			
主軸方向		N－28.5°－E			
法量	面積	12.1 m²			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	330 cm	345 cm	325 cm	335 cm
	壁高	37～47cm	9～17 cm	18～29cm	6～42cm
	壁溝幅	17～36cm	16～37 cm	——cm	16～25cm
	壁溝深	3～7 cm	4～7 cm	—— cm	4～7 cm

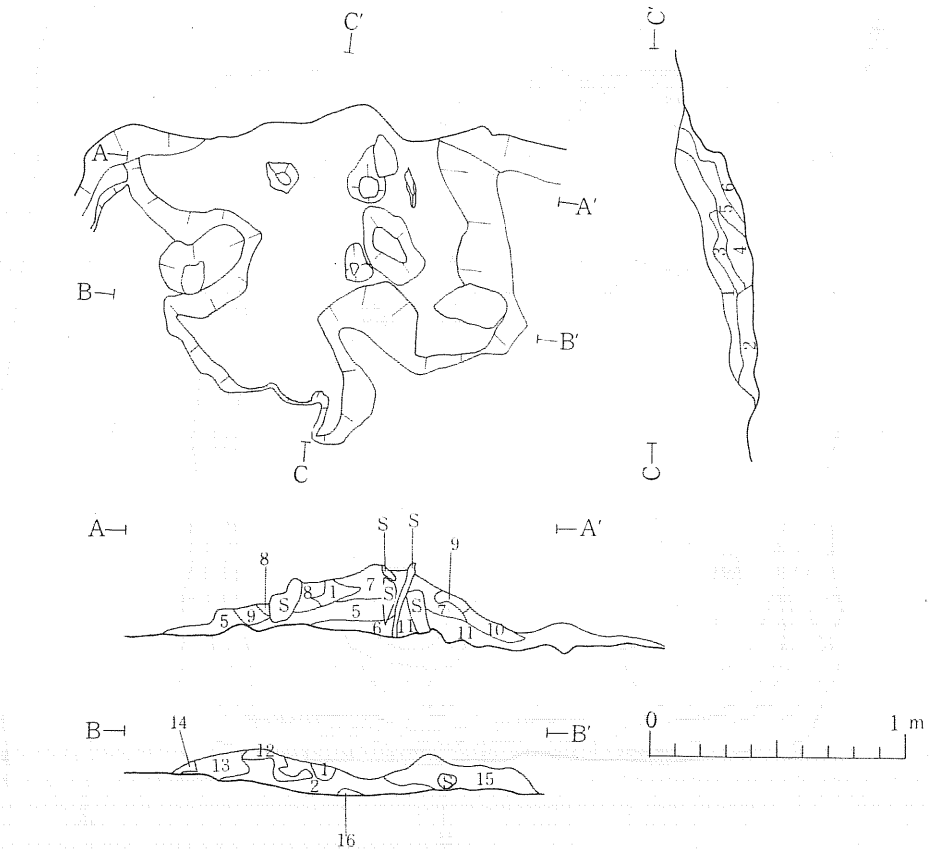
確認	褐色土層中に確認された。
壁	四壁ともに良好に残存しており、東壁が最も深い。立ち上がりは急である。
壁溝	カマドのある南壁を除いて、構築されているが非常に浅い。
ピット	P 1 (41) P 2 (58) (単位cm) 住居北側床に2基検出されたが、柱穴らしいピットは確認されなかった。
床面	全体に平坦で堅くしまっている。
カマド	南壁東寄りにある。煙出し部は南壁からわずかに出る程度である。袖部の芯材として使用されたらしい石が残存する。
遺物	土師器
備考	————

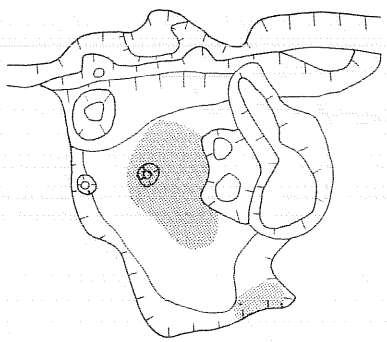




層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	
2	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
3	褐　色（10 YR 4/4）	〃　粘土
4	黒　色（10 YR 2/1）	〃
5	黒　色（10 YR 3/1）	〃　黄褐色地山土混入
6	褐　色（7.5YR 4/4）	〃　焼土
7	黒　色（10 YR 3/1）	黄褐色地山土混入

第136図　ＳＩ048竪穴住居跡実測図



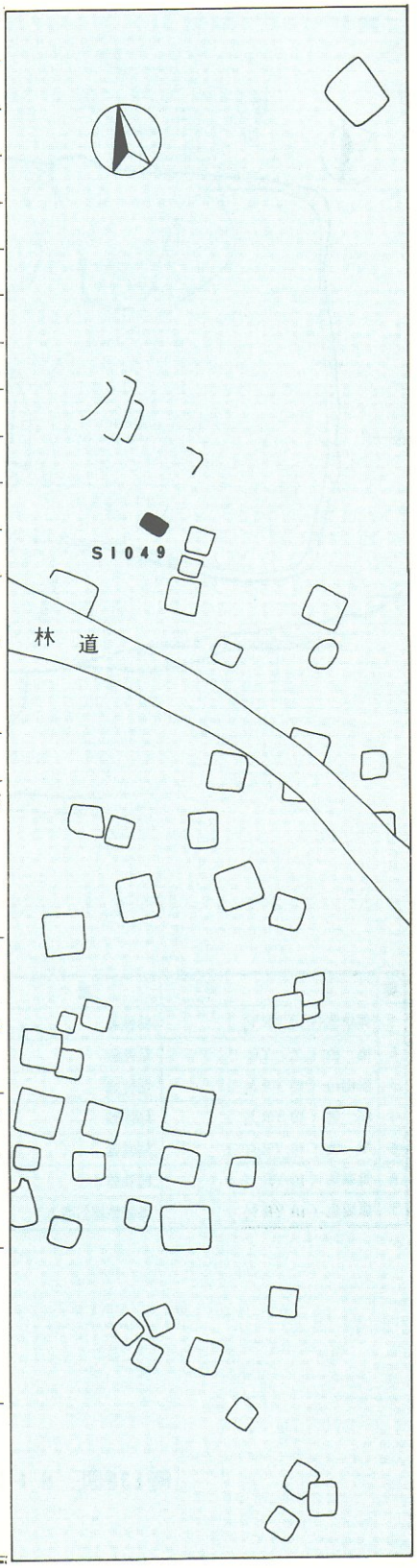


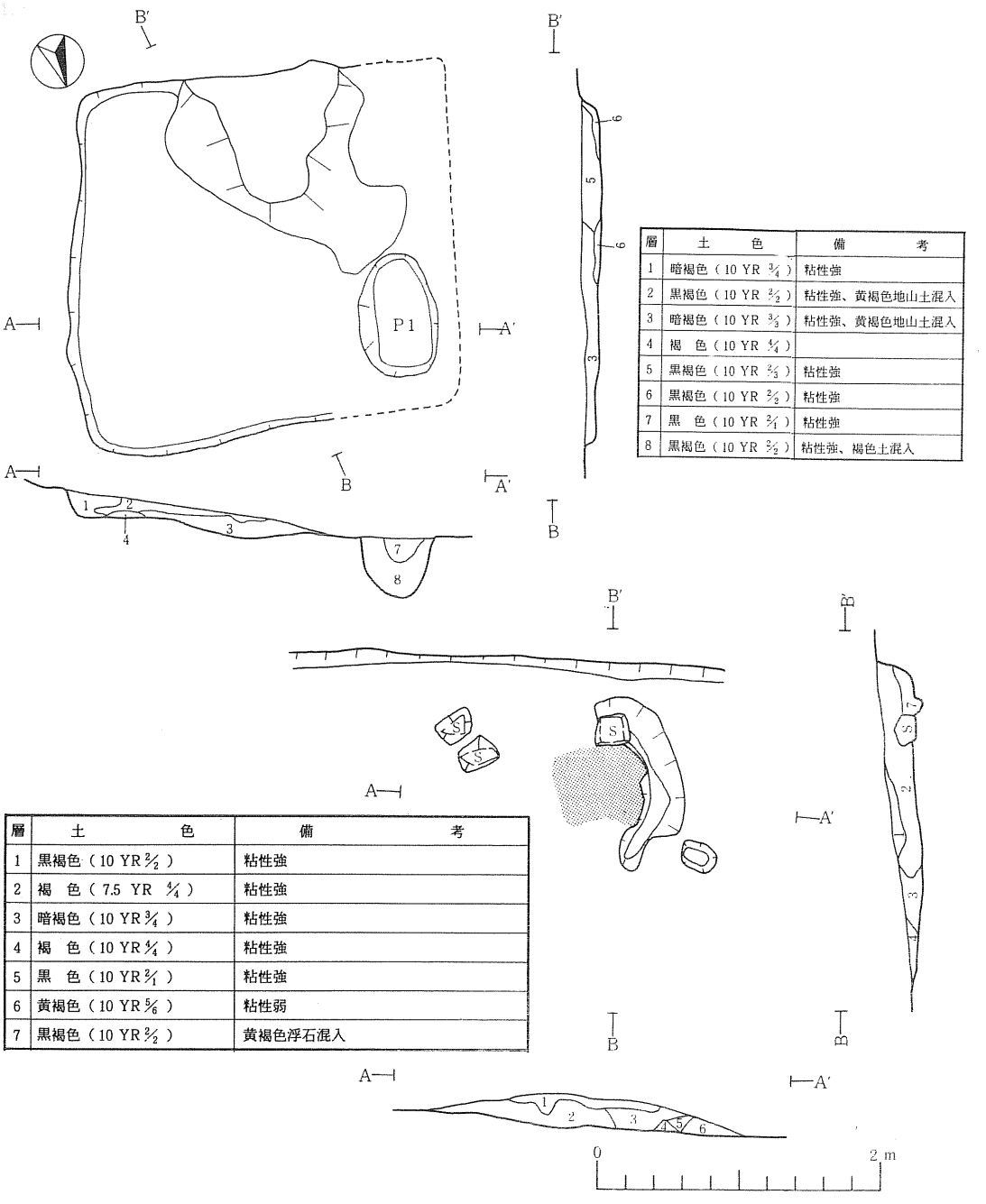
層	土色	備考
1	褐色（7.5 YR 4/6）	粘性強、粘土質
2	黒色（10 YR 1.7/1）	粘性強、黄褐色土、焼土混入
3	暗赤褐色（5 YR 3/4）	粘性強、焼土
4	黒色（7.5 YR 2/1）	
5	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱、焼砂土入
6	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性強
7	黒色（7.5 YR 2/1）	焼土若干混入
8	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強
9	褐色（7.5 YR 4/4）	粘性強、粘土質
10	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、焼土50%混入
11	黒褐色（10 YR 2/3）	炭化物、焼土若干混入
12	暗褐色（7.5 YR 3/4）	粘性強、焼土
13	黒色（7.5 YR 2/1）	粘性強、焼土混入
14	黒色（10 YR 1.7/1）	粘性強、炭化物若干混入
15	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性強、黄褐色土ブロック5%及び炭化物若干混入
16	赤褐色（5 YR 4/8）	粘性強、焼土

第137図　ＳＩ048竪穴住居跡カマド実測図

第101表　SI 049竪穴住居跡観察表

挿図		138			
図版		57			
形態		方形			
主軸方向		N－36.0°－E			
法量	面積	——m²			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	260 cm	—— cm	—— cm	(166) cm
	壁高	13～31cm	—— cm	—— cm	3～9 cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		床面より緩やかな角度で立ち上がる。西壁及び北壁・南壁の一部は存在しない。			
壁溝		——			
ピット		北西コーナーにP1（86×55×30cm）がある。柱穴は検出できなかった。			
床面		住居跡西側は耕作のため一部破壊されている。地山をそのまま床面として使用しており、西側に緩やかに傾斜する。若干の凹凸がある。			
カマド		南壁ほぼ中央部に位置する。残存状態は非常に悪く燃焼部の焼土のみが検出された。			
遺物		土師器			
備考		——			



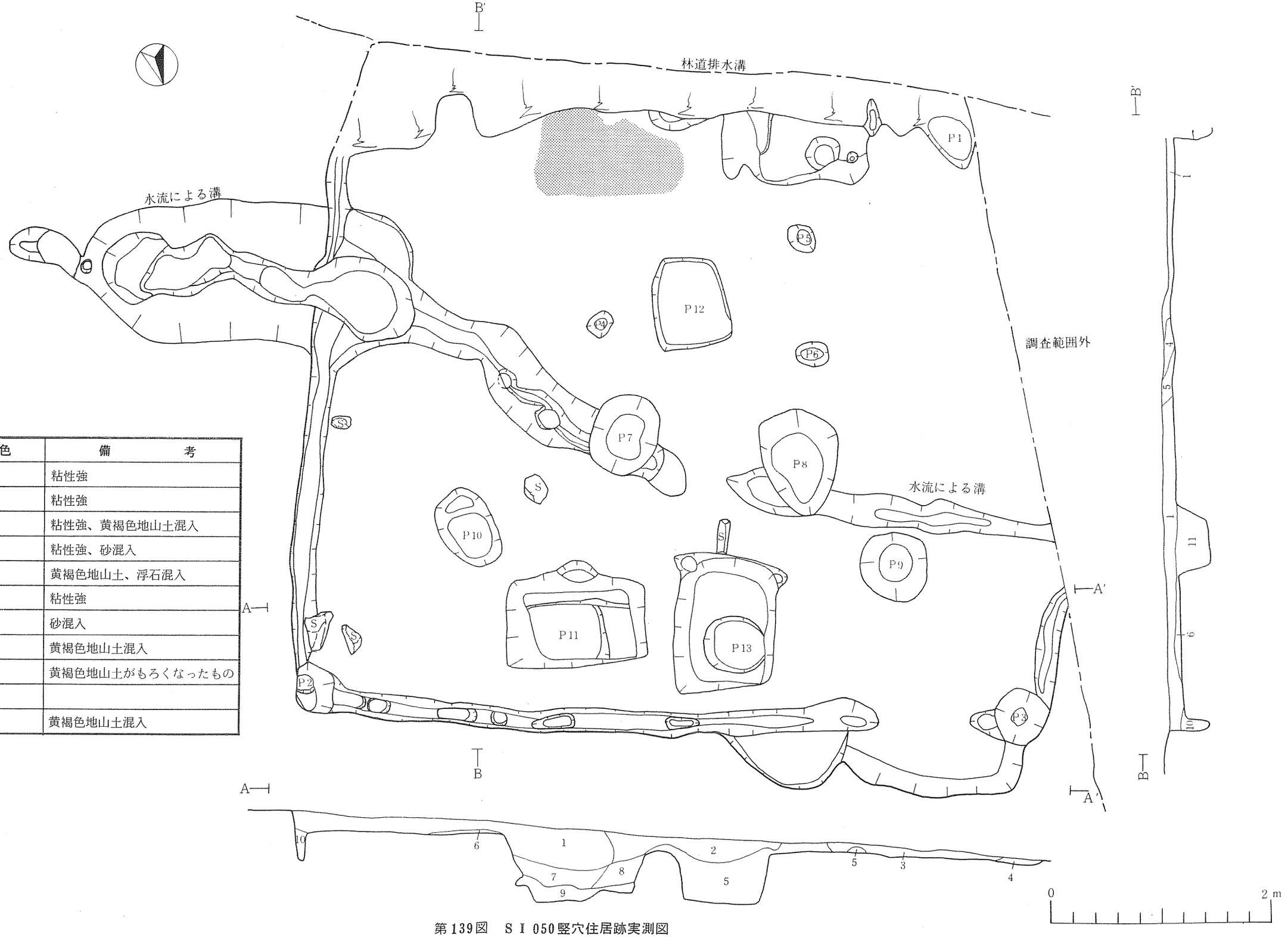


層	土色	備考
1	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強、黄褐色地山土混入
3	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強、黄褐色地山土混入
4	褐　色（10 YR 4/4）	
5	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強
6	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強
7	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強
8	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、褐色土混入

層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強
2	褐　色（7.5 YR 4/4）	粘性強
3	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強
4	褐　色（10 YR 4/4）	粘性強
5	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強
6	黄褐色（10 YR 5/6）	粘性弱
7	黒褐色（10 YR 3/2）	黄褐色浮石混入

第138図　ＳＩ049竪穴住居跡・カマド実測図

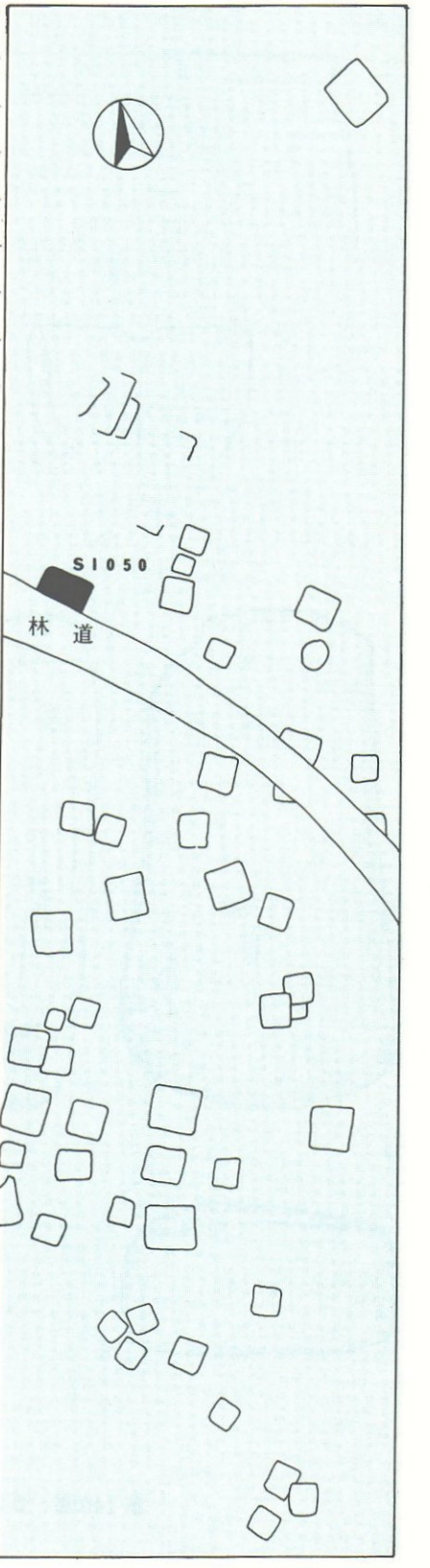
層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強
2	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強
3	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強、黄褐色地山土混入
4	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、砂混入
5	暗褐色（10 YR 3/4）	黄褐色地山土、浮石混入
6	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強
7	暗褐色（10 YR 3/3）	砂混入
8	暗褐色（10 YR 3/3）	黄褐色地山土混入
9	黄褐色（10 YR 5/6）	黄褐色地山土がもろくなったもの
10	黒褐色（10 YR 2/2）	
11	黒褐色（10 YR 2/2）	黄褐色地山土混入

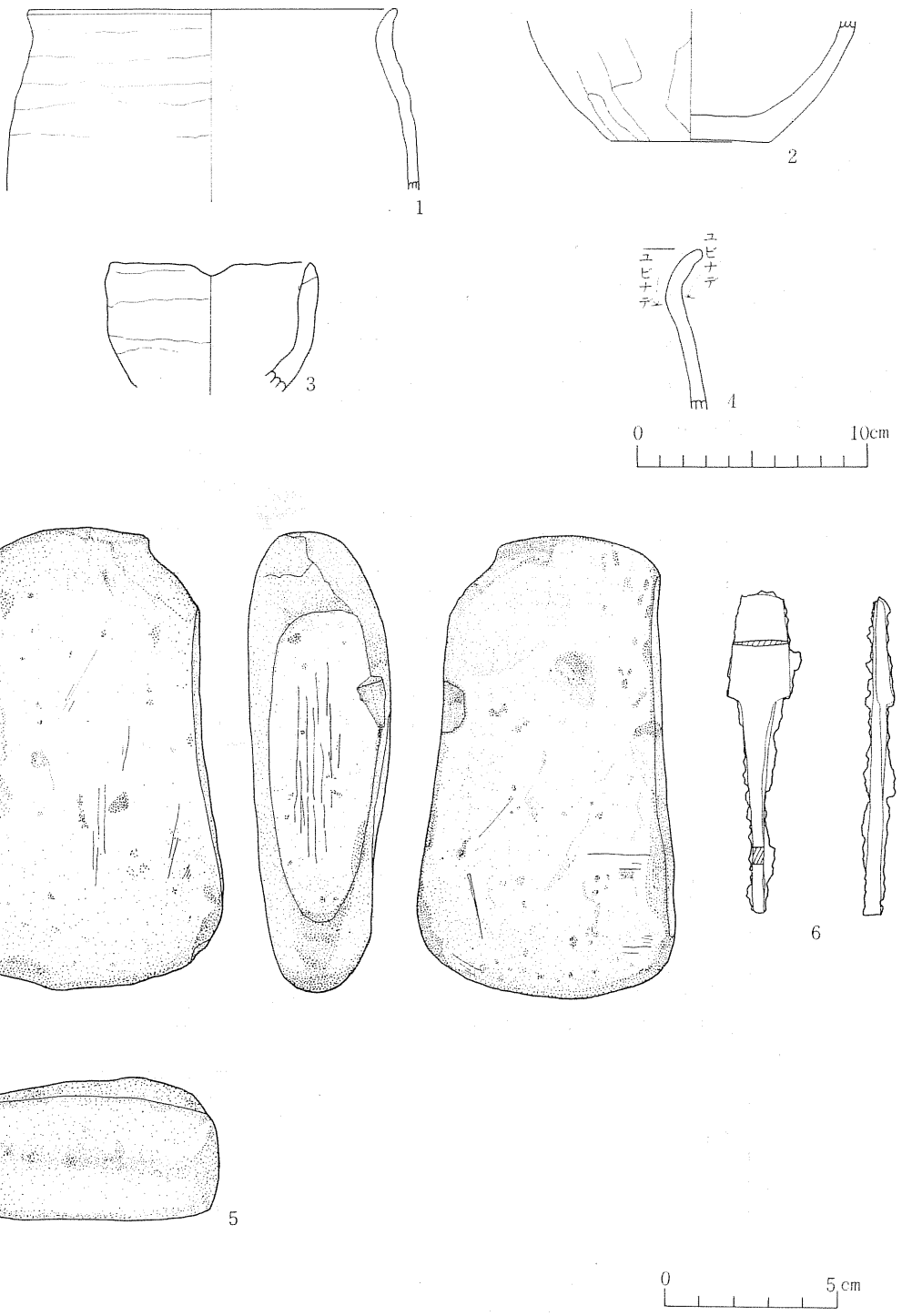


第139図　ＳＩ050竪穴住居跡実測図

第102表　SI 050竪穴住居跡観察表

挿図		139			
図版		57			
形態		方形			
主軸方向		カマド反対側から(北面壁)N― 22.0°―E			
法量	面積	―― ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	―― cm	―― cm	―― cm	646 cm
	壁高	19～31cm	―― cm	―― cm	13～24cm
	壁溝幅	10～24cm	―― cm	―― cm	10～30cm
	壁溝深	23～33cm	―― cm	―― cm	8～35cm
確認		地山面で確認された。			
壁		林道排水溝により南壁が消失しているが、他の壁は床面よりほぼ垂直に立ち上がる。			
壁溝		南、西壁を除いてほぼ同一幅、深さで存在する。			
ピット		P 1 (40)　P 2 (50)　P 3 (54)　P 4 (24)　P 5 (17)　P 6 (12)　P 7 (47)　P 8 (34)　P 9 (55)　P10(31)　P11(58)　P12(53)　P13(56)　(単位cm)　P 1～3・P 9・P10が本住居跡の柱穴と考えられる。			
床面		西側に傾斜しており緩やかな凹凸を示す。全体的に床は軟弱であるがカマド付近は堅くなっていた。			
カマド		南壁に存在したものと考えられるが、残存状態が悪く、焼土が残るのみである。			
遺物		土師器			
備考		住居跡内に方形プランのP11～P13を3基検出した。伴出遺物はなく、用途不明である。			





第140図　ＳＩ050竪穴住居跡出土遺物実測図

第103表　SI 050出土遺物観察表

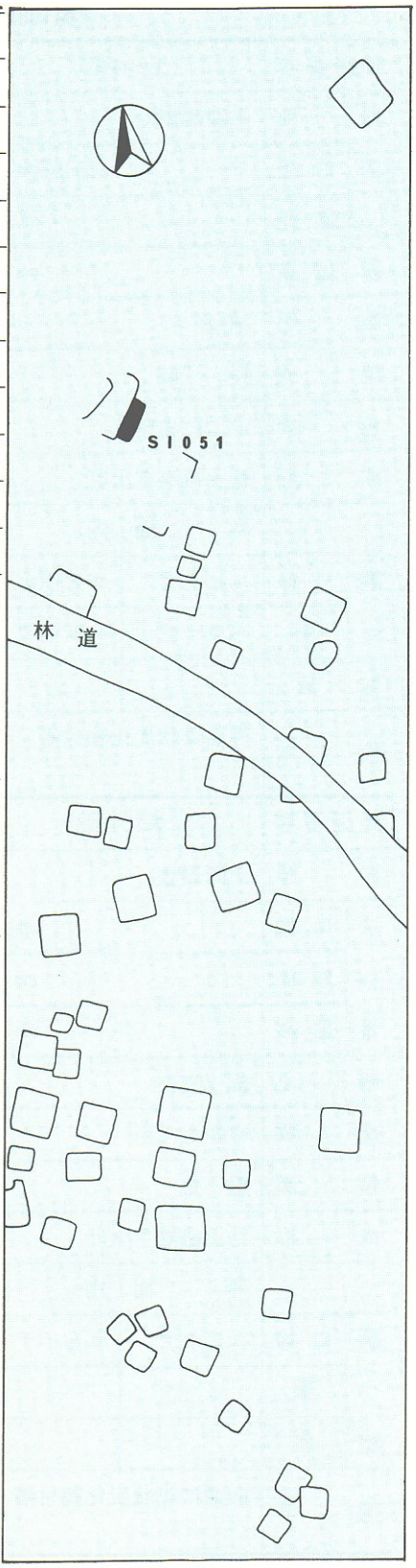
挿図番号		第104図1		第104図2		第104図3	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器	
法量	口径	(15.5)cm		cm		(8.8)cm	
	底径	cm		(7)cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		細かい		細かいが2～3㎜の小石含む		細かい	
焼成		良好		良好		良好	
色調		にぶい赤褐色		褐色		内外ともにぶい橙	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ				ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ		ヘラナデ		ユビナデ
	底			ヘラナデ	ヘラナデ		ユビナデ
備考		外面煤状炭化物付着		底面織物痕			

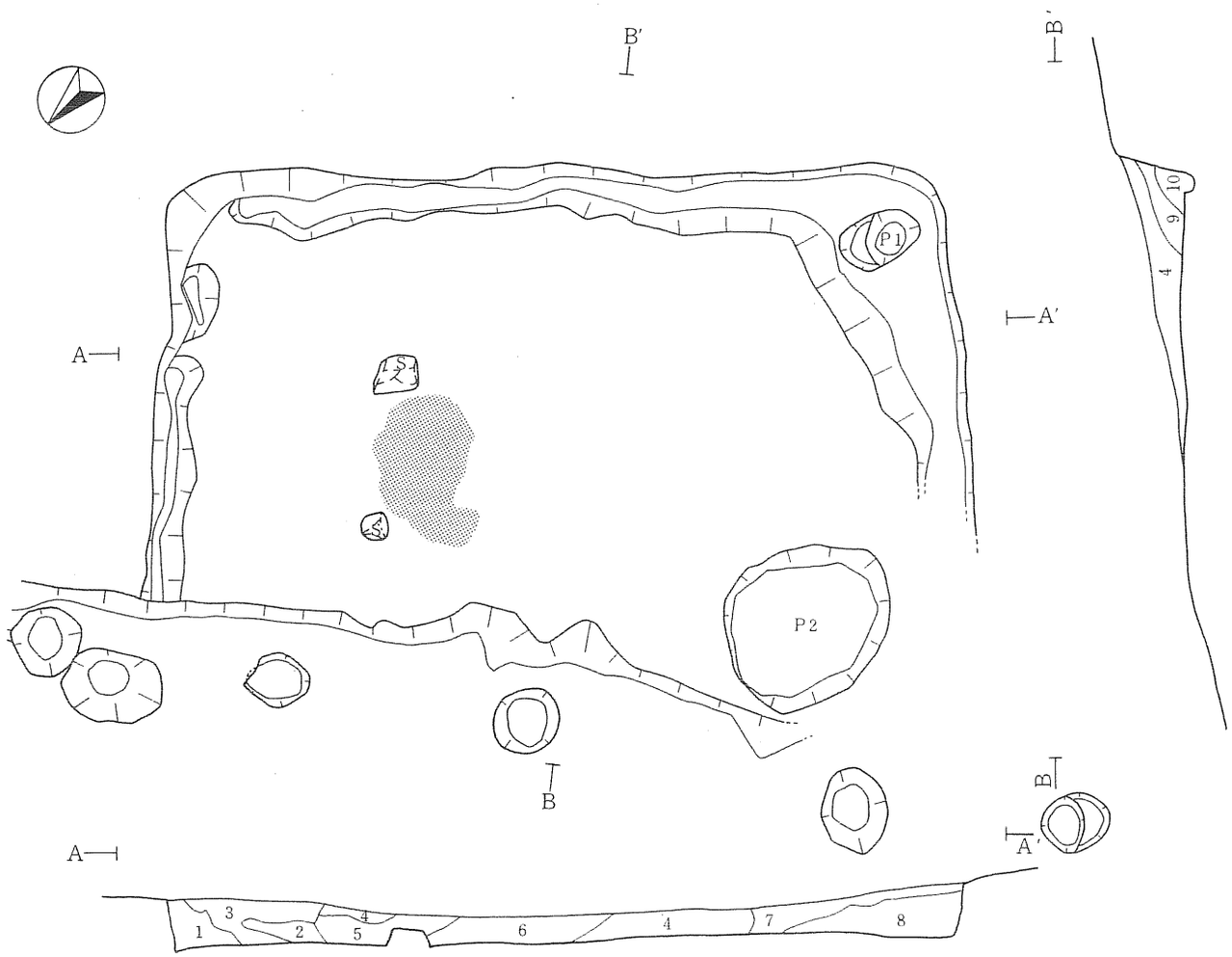
挿図番号		第104図4		挿図番号	第104図5
器種		土師器甕		器種	砥石
法量	口径	cm		法量 長さ	13.5cm
	底径	cm		幅	7.6cm
	器高	cm		厚さ	4.1cm
胎土		細かい		重量	536g
焼成		ややもろい		石質	流紋岩
色調		橙色		備考	砥面4
成形		粘土紐巻き上げ		挿図番号	第104図6
		外面	内面	器種	鉄鏃
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	法量 長さ	9.3cm
	胴			幅	1.3cm
	底			厚さ	0.2cm
備考		両面に煤状炭化物付着		備考	先端部欠損

第104表　SI 051竪穴住居跡観察表

挿図		141			
図版		58			
形態		方形			
主軸方向					
法量	面積	―― ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	434 cm	―― cm	―― cm	―― cm
	壁高	34～44cm	―― cm	35cm	15～36cm
	壁溝幅	17～41cm	―― cm	30cm	20～28cm
	壁溝深	9～17cm	―― cm	9～12cm	12～18cm

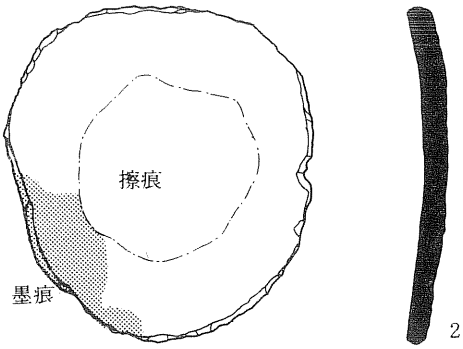
確認	地山面で確認された。
壁	東壁・南壁・北壁の一部が残存する。床面よりほぼ垂直に立ち上がる。
壁溝	東・南・北壁に構築されている。
ピット	P1（41）P2（11）（単位cm）P1は柱穴の可能性があるが、他の柱穴は確認できなかった。
床面	地山をそのまま床面としている。西側は存在しないが、残存部分は平坦であるがやや軟弱である。
カマド	床面、中央より北寄りに地床炉（44×30cm）が存在する。
遺物	土師器、砥
備考	――





層	土　　色	備　　考
1	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強
3	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
4	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強
5	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強、黄褐色地山土混入
6	黒褐色（10 YR 2/3）	炭化物混入
7	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強
8	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、黄褐色地山土混入
9	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
10	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強

第141図　ＳＩ051竪穴住居跡実測図



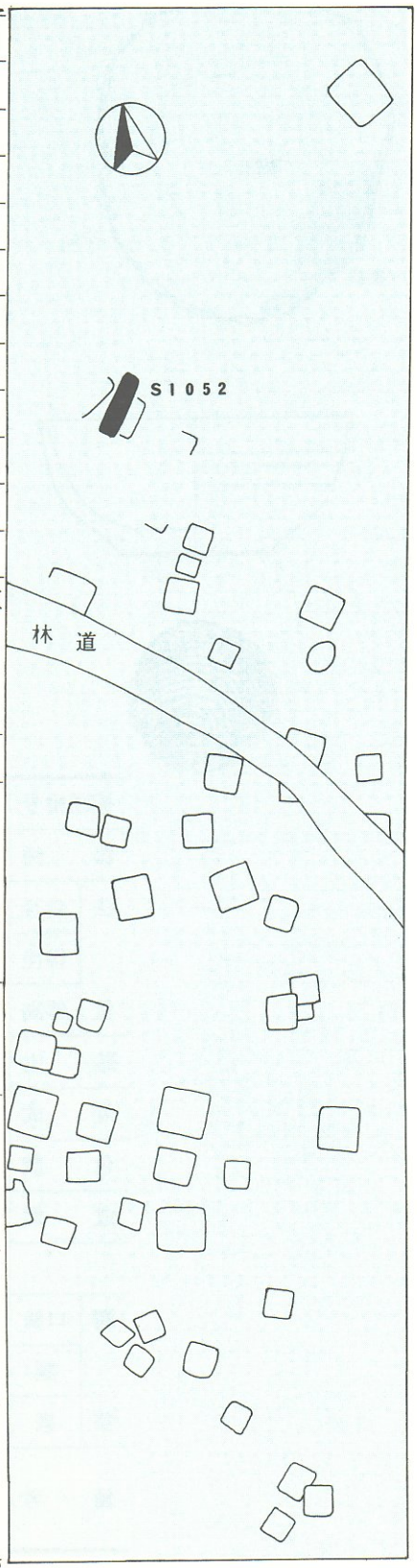
第142図　S I 051竪穴住居跡出土遺物実測図

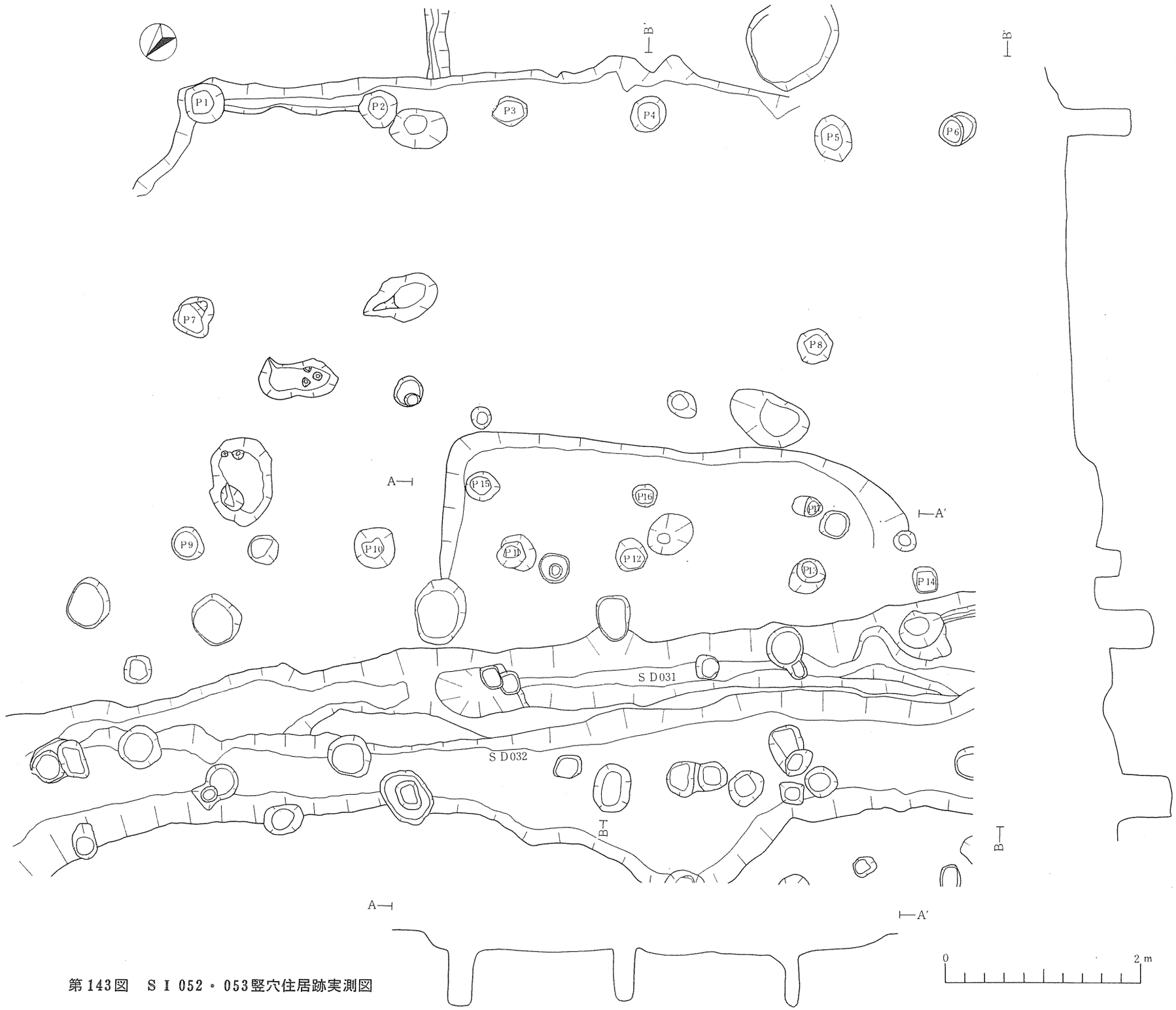
第105表　SI 051出土遺物観察表

挿図番号		第142図1	挿図番号		第142図2
器種		坏	器種		硯
法量	口径	(13)cm	法量	長さ	13.4cm
	底径	6.3cm		幅	12.1cm
	器高	5.6cm		厚さ	0.9cm
胎土		細かい	備考		須恵器甕破片を転用
焼成		良　好			
色調		にぶい褐色ないし黒褐色			
成形		ロクロ			
		外面	内面		
調整	口縁				
	胴				
	底				
備考		底部回転糸切り(右)			

第106表　SI 052竪穴住居跡観察表

挿図		143			
図版		58			
形態					
主軸方向					
法量	面積	——m²			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁高	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		地山面で確認された。			
壁		東壁と北東コーナー部のみ床面より垂直に立ち上がる。			
壁溝		東壁・北側コーナーに存在する。			
ピット		P1(82) P2(75) P3(62) P4(76) P5(72) P6(71) P7(13) P8(59) P9(50) P10(46) P11(58) P12(30) P13(40) P14(30) （単位cm）P1～14は本遺構の柱穴である。			
床面		西側に傾斜するが平坦である。地山を床面とする。			
カマド		なし			
遺物		出土しなかった。			
備考		SI 051を掘り込んで構築し住居西側はSI 053に切られている。 SI 051→SI 052→SI 053			

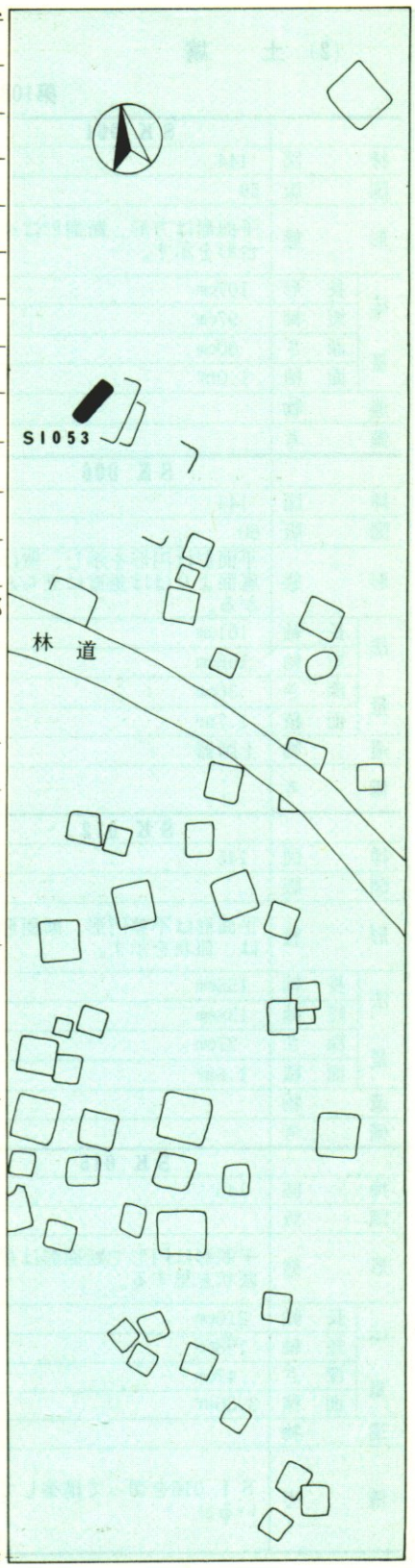




第143図　S I 052・053竪穴住居跡実測図

第107表　SI 053竪穴住居跡観察表

挿図		143			
図版					
形態		方形			
主軸方向					
法量	面積	—— ㎡			
		東壁	西壁	南壁	北壁
	壁長	480 cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁高	4～19cm	—— cm	—— cm	9～28cm
	壁溝幅	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
	壁溝深	—— cm	—— cm	—— cm	—— cm
確認		SI 052床面で確認された。			
壁		北壁・東壁が残存する。北東コーナー部は直角をなすが、南東部は緩やかにカーブを描いている。			
壁溝		——			
ピット		P15(60) P16(51) P17(50) (単位cm) P15～17が本住居跡の柱穴であろうが、これに対応する柱穴は溝に掘り込まれており残存しない。			
床面		地山がそのまま床となっているがしまりはない。			
カマド		なし			
遺物		出土しなかった。			
備考		SI 052西側を掘り込んで構築されている。			



(2) 土　壙

第108表　SK 土壙観察表(1)

		SK 001	SK 002	SK 005
挿図		144	144	144
図版		59	59	
形態		平面形は方形、断面形は逆台形を示す。	方形プランで壙底は、壙縁よりもやや狭く、断面形はほぼ逆台形である。	方形プランで壙底は、壙縁より狭いが、壁はほぼ垂直に作られており、北側が低くなっている。
法量	長形	107cm	200cm	157cm
	短軸	97cm	200cm	108cm
	深さ	60cm	29cm	22cm
	面積	1.0m²	3.8m²	1.8m²
遺物			土師器	
備考				SD 011の東端に重複しているもので、SDの方が本遺構より新しい。

		SK 006	SK 009	SK 010
挿図		144	145	145
図版		60		
形態		平面形は円形を示し、壁は底面よりほぼ垂直に立ちあがる。	平面形は円形、断面形は逆台形である。	平面形は円形、断面形は皿状を示す。
法量	長軸	161cm	136cm	98cm
	短軸	158cm	127cm	96cm
	深さ	36cm	40cm	45cm
	面積	1.7m²	1.6m²	0.7m²
遺物		土師器		
備考			SI 018により切られている。	

		SK 012	SK 013	SK 014
挿図		145	145	146
図版				60
形態		平面形は不整円形、断面形は、皿状を示す。	平面形は円形、壁はほぼ垂直に立ちあがる。断面は逆台形となっている。	平面形は円形プラン、断面形はフラスコ状である。
法量	長軸	155cm	134cm	110cm
	短軸	138cm	102cm	95cm
	深さ	27cm	31cm	106cm
	面積	1.8m²	1.1m²	0.4m²
遺物				
備考				

		SK 015	SK(f)016	SK 017
挿図		146	146	146
図版			61	61
形態		平面形は円形で断面形は舟底状を呈する。	平面形は円形プランで断面形は箱状を呈しており西壁縁は壙底にほぼ垂直に立ち上がっている。	平面形は方形。壁は底面より垂直に立ち上がっている。
法量	長軸	216cm	215cm	180cm
	短軸	198cm	185cm	144cm
	深さ	47cm	142cm	110cm
	面積	3.36m²	0.6m²	2.7m²
遺物				縄文土器（後期）
備考		SI 016を切って構築している。		4コーナーに柱穴を有し、壁溝がほぼ同一の幅、深さで一巡する。柱穴は土壙外方に向って傾斜し底中央にも柱穴が存在する。

第109表　ＳＫ土壙観察表(2)

		SK 018	SK 019	SK 020
挿図		147	147	147
図版				
形態		平面形は、西側に張り出し部を持つ方形。断面形は、皿状を示す。	平面形は方形で断面形は皿状を示す。	平面形は方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。
法量	長軸	210 cm	116 cm	146 cm
	短軸	170 cm	110 cm	134 cm
	深さ	18 cm	22 cm	56 cm
	面積	2.7 ㎡	0.9 ㎡	1.5 ㎡
遺物				
備考			ＳＩ 015の西壁に重複する。	ＳＩ 009の北側壁に重複しており本遺構の方が新しい。

		SK 022	SK（f） 023	SK（f） 024
挿図		147	148	148
図版		62	62	
形態		平面形は円形を示す。壁はほぼ垂直に立ち上がるものであるが部分的に逆台形を示す。	平面形は、円形プランで、断面形はフラスコ状を示す。	平面形は円形プランで断面形はフラスコ状を示す。
法量	長軸	137 cm	152 cm	134 cm
	短軸	136 cm	136 cm	132 cm
	深さ	27 cm	118 cm	151 cm
	面積	1.3 ㎡	1.6 ㎡	1.7 ㎡
遺物		土師器	縄文土器（中期）	
備考		ＳＩ 012の南東コーナーを掘り込んで構築されている。		

		SK（f） 025	SK 027	SK 028
挿図		148	149	149
図版				63
形態		平面形は円形を示し断面形はフラスコ状である。	平面形は不整円形で断面形は皿状を示す。	ほぼ方形プランで断面は逆台形である。
法量	長軸	130 cm	90 cm	120 cm
	短軸	126 cm	80 cm	110 cm
	深さ	106 cm	15 cm	26 cm
	面積	1.9 ㎡	0.6 ㎡	1.2 ㎡
遺物				
備考				

		SK 029	SK（f） 030	SK 031
挿図		149	149	150
図版			64	63
形態		平面形は円形で断面形は皿状を示す。	平面形は円形を示すものであろうが住居跡により南側口頸部が切られている。断面形はフラスコ状である。	円形プランで底部は若干の凹凸を示し、断面は皿状である。
法量	長軸	80 cm		188 cm
	短軸	70 cm		169 cm
	深さ	13 cm	142 cm	23 cm
	面積	0.4 ㎡	3.5 ㎡	2.4 ㎡
遺物			縄文土器（大木８ａ式）	
備考			ＳＩ 024南西の壁とＳＤ 012に土壙半分が重複している。	

第110表　ＳＫ土壙観察表(3)

		SK（f） 032	SK（f） 033	SK 034
挿図		150	151	151
図版		65	66	
形態		平面形は円形を示すものと思われるが西側口頸部は住居跡により切られている。断面形はフラスコ状を示す。	平面形は円形と思われるが、住居跡により西北部の、口頸部胴部の一部が切られている。断面形はフラスコ状を示す。	平面形は不整円形。断面形は辺状を示す。
法量	長軸		112 cm	124 cm
	短軸		89 cm	123 cm
	深さ	132 cm	184 cm	14 cm
	面積	1.8 ㎡	1.7 ㎡	1.1 ㎡
遺物			縄文土器（大木10式）	
備考			ＳＩ 022（南東の角）とSD006に重複する。古い方からＳＫ（ｆ）003→ＳＩ 022→ＳＤ006である。	

		SK 036	SK（I） 037	SK（f） 038
挿図		151	152	153
図版		66	67	68
形態		平面形は円形で、壁は底面よりほぼ垂直に立ち上がる。	平面形は北壁東側に張り出しを持った方形。断面形は皿状を示す。土壙内は凹凸が激しい。	平面形は円形、断面形はフラスコ状を示す。
法量	長軸	191 cm	444 cm	92 cm
	短軸	165 cm	352 cm	86 cm
	深さ	42 cm	46 cm	54 cm
	面積	2.4 ㎡	16.8 ㎡	0.8 ㎡
遺物				縄文土器（中期）
備考		東側にＳＤ 014、西側にSD015が重複する。古い方からＳＫ 036→ＳＤ014、015。		ＳＤ 012・014が重複するが、土壙の方が古い。

		SK 040	SK（I） 042	SK（f） 043
挿図		153	153	153
図版			68	69
形態		平面形は長方形、壁は底面よりほぼ垂直に立ち上がり断面は逆台形を示す。	平面形は方形プランと考えられるもので、断面形は皿状となっているが、南側壁と南東壁の一部しか確認出来ていない。	平面形は円形、断面形は台形を示す。
法量	長軸	158 cm		212 cm
	短軸	121 cm		147 cm
	深さ	22 cm	10 cm	94 cm
	面積	1.8 ㎡		4.3 ㎡
遺物				縄文土器（中期）
備考				

		SK（f） 044	SK（f） 045	SK 046
挿図		154	154	154
図版		70	70	70
形態		平面形は円形、断面形は台形を示す。	平面形は円形、断面形は台形を示す。	平面形は円形、壁はほぼ垂直に立ちあがる。
法量	長軸	87 cm	134 cm	103 cm
	短軸	76 cm	126 cm	98 cm
	深さ	33 cm	92 cm	22 cm
	面積	0.9 ㎡	2.6 ㎡	0.8 cm
遺物		縄文土器		
備考				

第111表　ＳＫ土壙観察表(4)

		SK 047	SK 048	SK（f） 049
挿図		157	157	156
図版		71		71
形態		平面形は円形、断面形は胴部壁のふくらんだ台形を示す。	平面形は円形、底面は皿状を示し壁はほぼ垂直に立ち上がる。	平面形は円形、壁は丸みを帯びており、断面は袋状となっている。
法量	長軸	140 cm	125 cm	112 cm
	短軸	120 cm	110 cm	102 cm
	深さ	63 cm	43 cm	66 cm
	面積	1.4 ㎡	1.4 ㎡	1.2 ㎡
遺物		縄文土器（中期）		縄文土器
備考				

		SK（f） 050	SK 051	SK 052
挿図		155	155	155
図版		72、74	72、74	73、74
形態		平面形は円形、底部からの立ち上がり部分は丸みを帯びた台形を示す。	平面形は円形、断面形は丸みを帯びた台形を示す。	円形プランで壙底は壙縁より（２～９cm）広く、断面は袋状となっている。
法量	長軸	147 cm	144 cm	98 cm
	短軸	138 cm	142 cm	91 cm
	深さ	78 cm	24 cm	32 cm
	面積	2.3 ㎡	1.8 ㎡	0.9 ㎡
遺物		縄文土器		
備考			底面西側に P_1（深さ23cm）がある。	底面東側に P_1（深さ27cm）がある。

		SK 053	SK 054	SK（f） 055
挿図		155	127	156
図版			73	76
形態		平面形は不整円形、断面形は凹凸のあるＵ字状である。	平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。	平面形は円形、断面形は底部の丸みの帯びた台形を示す。
法量	長軸	83 cm	130 cm	84 cm
	短軸	70 cm	112 cm	69 cm
	深さ	56 cm	13 cm	70 cm
	面積	0.5 ㎡	1.79 ㎡	0.6 ㎡
遺物			縄文土器（大木８ａ式）	
備考			ＳＩ 043と重複するが、当遺構の方が新しい。	

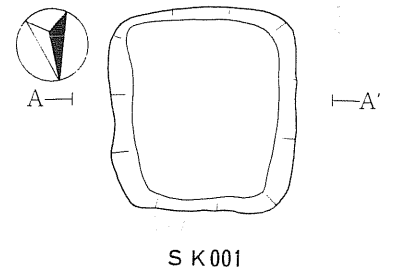
		SK（f） 056	SK 057	SK（f） 058
挿図		156	156	156
図版		74、76	75、76	76
形態		土壙西側に三角形状の張り出しを持つ円形、断面形は台形を示す。	平面形は円形、断面形は逆台形を示す。	平面形は円形、断面形は底面立ち上がりが丸みを帯びる。
法量	長軸	128 cm	112 cm	88 cm
	短軸	128 cm	108 cm	70 cm
	深さ	106 cm	44 cm	44 cm
	面積	1.9 ㎡	0.9 ㎡	1 ㎡
遺物				
備考				

第112表　ＳＫ土壙観察表(5)

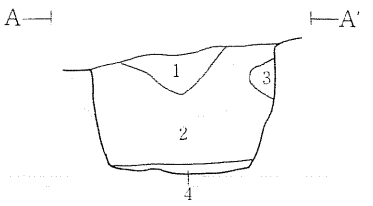
		SK（f） 059	SK 060	SK 061
挿図		160	158	160
図版		75、76		76
形態		平面形は円形、断面形は胴部のふくらむ袋状を示す。	平面形は円形、断面形は台形である。	平面形は楕円形、断面形は皿状に示す。
法量	長軸	98 cm	108 cm	200 cm
	短軸	82 cm	102 cm	96 cm
	深さ	76 cm	36 cm	26 cm
	面積	0.9 ㎡	1 cm	1.6 ㎡
遺物				
備考				

		SK 062	SK 063	SK 064
挿図		160	157	158
図版				
形態		平面形は円形、断面形は逆台形を示す。	平面形は円形、壁は底面よりほぼ垂直に立ち上がり、断面は方形を示す。	平面形は円形を示し、断面形は逆台形である。
法量	長軸	112 cm	75 cm	92 cm
	短軸	100 cm	65 cm	92 cm
	深さ	39 cm	38 cm	34 cm
	面積	0.9 ㎡	0.3 ㎡	0.2 ㎡
遺物				縄文土器
備考				ＳＩ 045 に切られている。

		SK 065	SK 066
挿図		158	157
図版			
形態		円形プランで壁はほぼ垂直に立ち上がる。	平面形は円形で、北西側に浅い。貼り出し部を有する。断面形は底面、胴部とも丸みを持つ。
法量	長軸	120 cm	
	短軸	110 cm	80 cm
	深さ	80 cm	59 cm
	面積	1.2 cm	0.29 ㎡
遺物			
備考		ＳＩ 046、048 と重複している。(土壙が古い)	

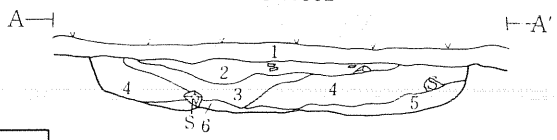


SK001

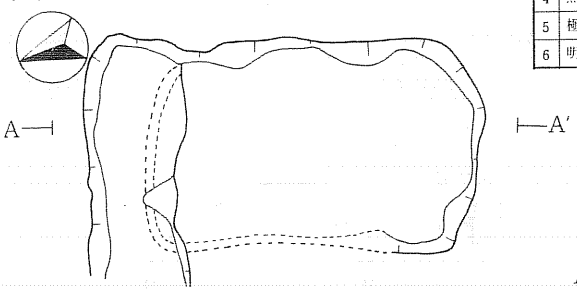


層	土色	備考
1	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強、炭化物混入
2	黒褐色（10 YR 2/3）	明褐色礫混入
3	褐　色（10 YR 4/6）	明褐色礫混入
4	黄褐色（10 YR 5/6）	粘性強、黄褐色地山土混入

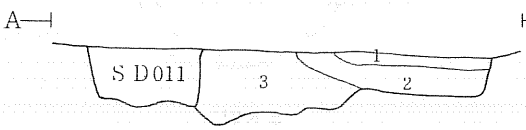
SK002



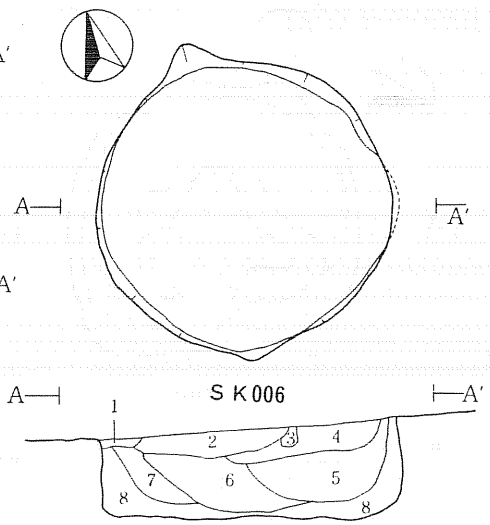
層	土色	備考
1	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性弱
2	黒褐色（7.5 YR 3/2）	黒色土、橙色土粒子混入
3	褐　色（7.5 YR 4/4）	砂礫
4	黒褐色（7.5 YR 3/2）	明黄褐色土粒子混入
5	極暗褐色（7.5 YR 2/3）	
6	明褐色（7.5 YR 5/8）	



SK005



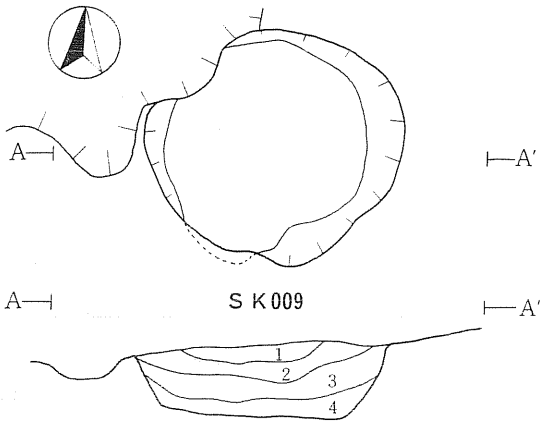
層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	黄褐色地山土混入
2	黒褐色（10 YR 2/3）	
3	黒褐色（10 YR 3/2）	

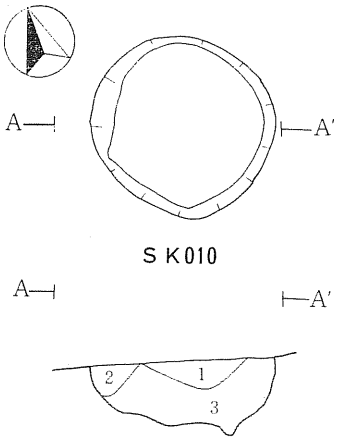


SK006

層	土色	備考
1	黒　色（5 YR 1.7/1）	
2	黒褐色（7.5 YR 2/2）	粘性弱、明黄褐色土混入
3	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性弱、炭化物混入
4	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱、炭化物混入
5	黒褐色（7.5 YR 3/2）	炭化物、にぶい黄橙色土混入
6	暗褐色（7.5 YR 3/4）	粘性強、明黄褐色土混入
7	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強、明黄褐色土混入
8	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強、にぶい黄橙色土混入

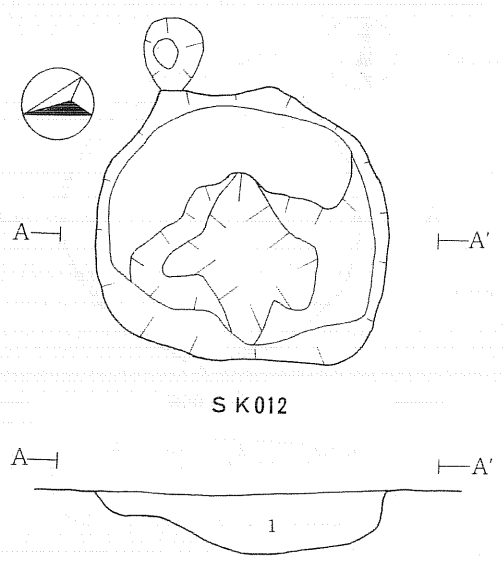
第144図　SK001・002・005・006土壙実測図

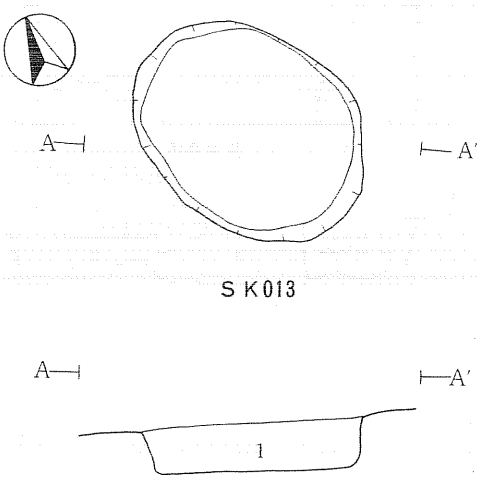




層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR ⅔）	粘性弱、明黄褐色土混入
2	暗褐色（10 YR ¾）	明黄褐色土混入
3	黒褐色（10 YR ⅔）	粘性弱、褐色土混入
4	黒褐色（10 YR ⅔）	明黄褐色土混入

層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR ⅔）	
2	暗褐色（7.5 YR ¾）	
3	黒褐色（10 YR ⅔）	黄褐色地山土混入



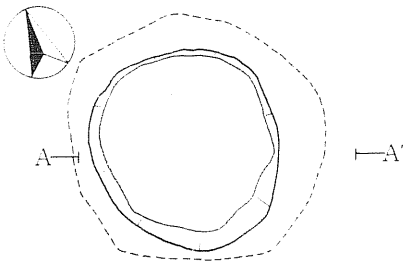


層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR ⅔）	粘性強

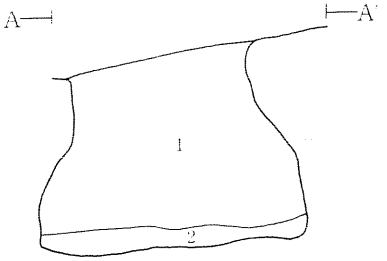
層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR ⅔）	粘性強

0　1 m

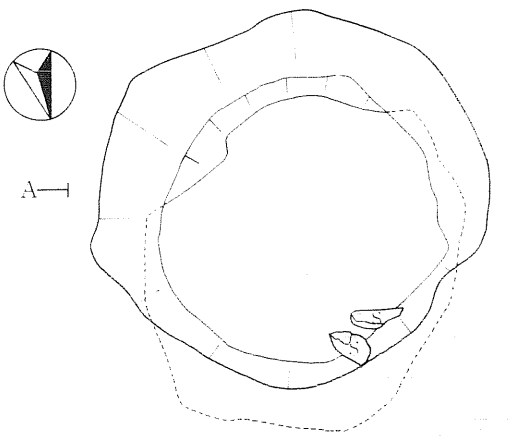
第145図　SK 009・010・012・013土壙実測図



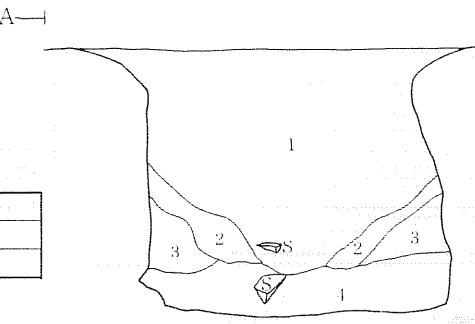
SK(f)014



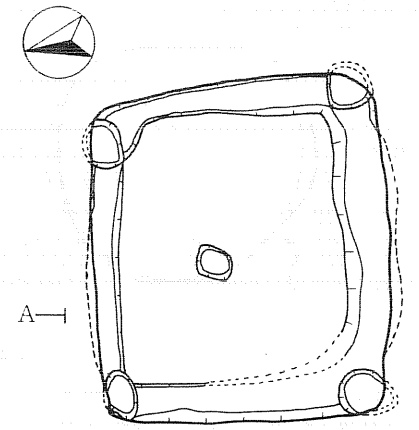
層	土色	備考
1	黒色（10YR 2/1）	粘性弱、黄褐色礫混入
2	黒色（10YR 2/1）	粘性弱、第1層より彩度が鈍い



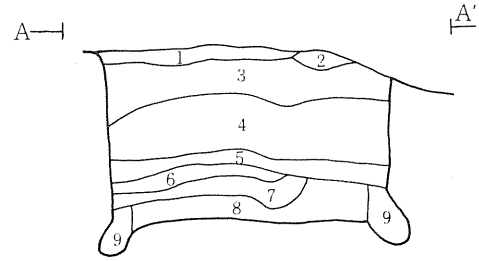
SK(f)016



層	土色	備考
1	黒褐色（10YR 3/2）	粘性弱
2	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色礫混入
3	黄褐色（10YR 5/6）	暗褐色土少量混入、砂礫
4	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色土少量混入



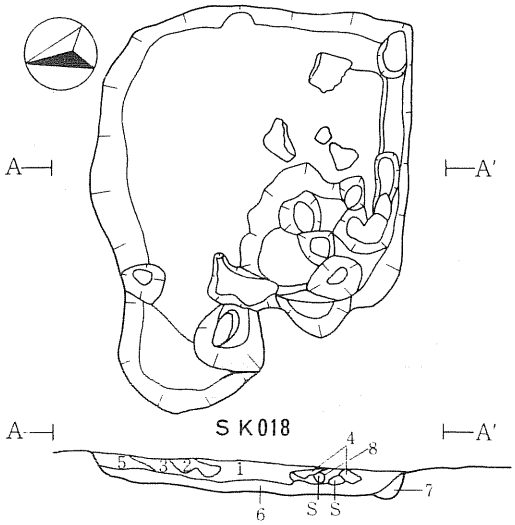
SK017



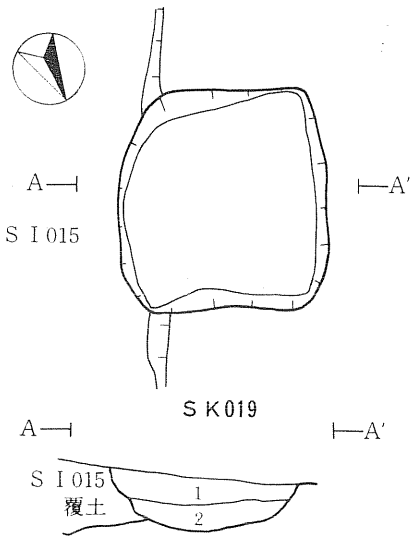
層	土色	備考
1	黒色（7.5YR 2/1）	粘性弱、黄橙色土、砂粒混入
2	明褐色（7.5YR 5/6）	砂粒全含む
3	黒褐色（7.5YR 3/2）	黄橙色土、砂粒混入
4	黒色（7.5YR 2/1）	黄橙色土、砂粒混入
5	黒褐色（7.5YR 3/2）	黄橙色土、砂粒、灰褐色土混入
6	黒色（7.5YR 2/1）	褐色土、砂粒混入
7	黒褐色（7.5YR 3/2）	黄橙色土混入
8	黒色（7.5YR 1.7/1）	明褐色焼土混入
9	黒色（7.5YR 1.7/1）	明褐色粘質土混入

0 1m

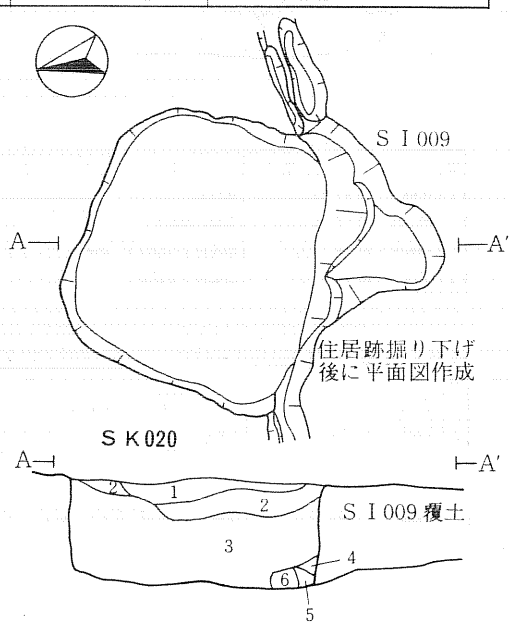
第146図　SK（f）014・016・SK017土壙実測図



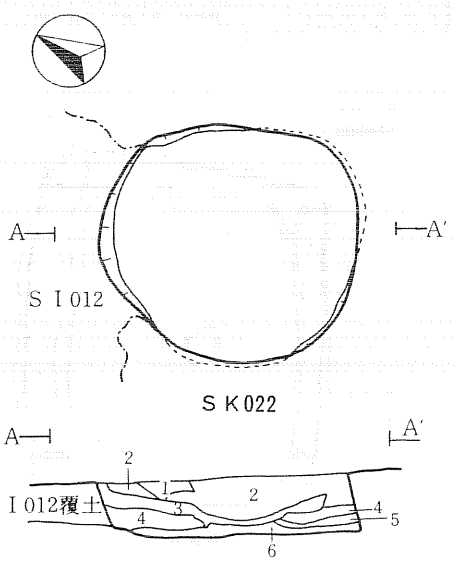
層	土色	備考
1	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色地山土混入
2	明黄褐色（10YR 6/8）	黄褐色地山土混入
3	暗褐色（10YR 3/4）	
4	暗灰黄色（2.5Y 5/2）	浮石
5	暗褐色（10YR 3/3）	
6	黒褐色（10YR 2/3）	
7	黒褐色（10YR 2/2）	
8	黄褐色（2.5Y 5/4）	黄褐色地山土混入



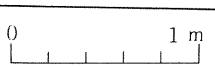
層	土色	備考
1	黒色（10YR 1.7/1）	粘性弱
2	黒褐色（10YR 3/1）	粘性強



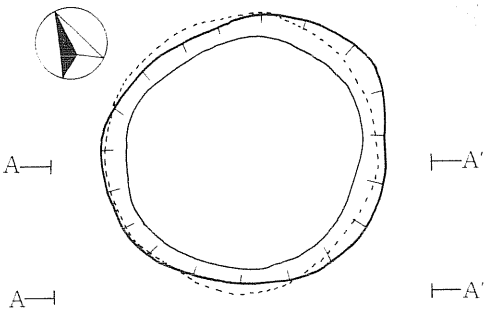
層	土色	備考
1	黒褐色（10YR 2/2）	
2	暗褐色（7.5YR 3/4）	浮石多量に混入
3	暗褐色（10YR 3/3）	浮石混入
4	暗褐色（10YR 3/3）	
5	明黄褐色（10YR 6/4）	黄褐色地山土混入



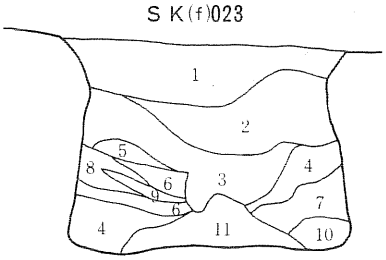
層	土色	備考
1	黒色（7.5YR 2/1）	
2	黒褐色（10YR 3/4）	粘性弱
3	黒色（10YR 1.7/1）	炭化物、焼土混入
4	黒褐色（10YR 3/3）	
5	極暗褐色（7.5YR 2/3）	粘性弱
6	黒色（7.5YR 2/1）	炭化物混入



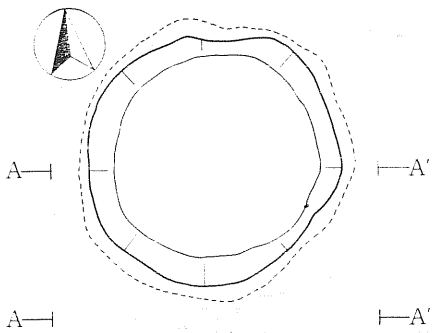
第147図　SK018・019・020・022土壙実測図



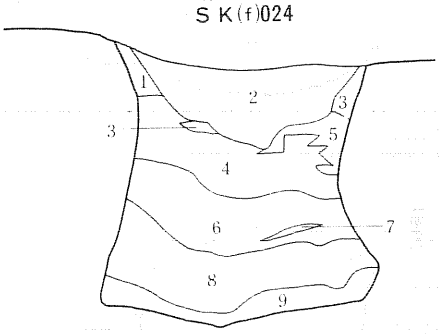
SK(f)023



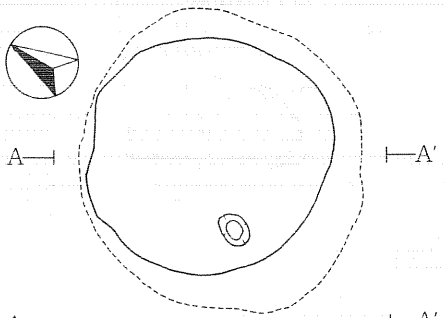
層	土色	備考
1	黒色（7.5 YR 2/1）	
2	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性弱
3	黒色（10 YR 1.7/1）	
4	黒色（10 YR 2/1）	
5	黒褐色（10 YR 3/3）	
6	黒色（10 YR 2/1）	粘性強
7	黒色（10 YR 1.7/1）	粘性強、砂混入
8	黄褐色（10 YR 5/8）	
9	黒褐色（10 YR 2/3）	ブロック状の黄褐色火山噴出物混入
10	黄褐色（10 YR 5/8）	粘性弱
11	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強



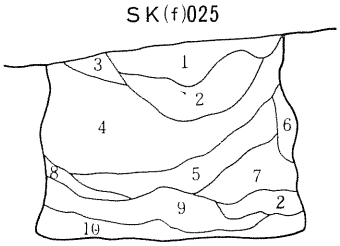
SK(f)024



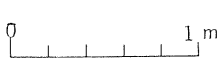
層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性弱
2	黒色（10 YR 2/1）	
3	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱
4	黒褐色（7.5 YR 2/2）	
5	黒褐色（10 YR 2/2）	
6	暗褐色（7.5 YR 3/3）	
7	黒褐色（7.5 YR 2/2）	粘性強
8	黒褐色（5 YR 2/1）	粘性強
9	黒色（7.5 YR 2/1）	粘性強



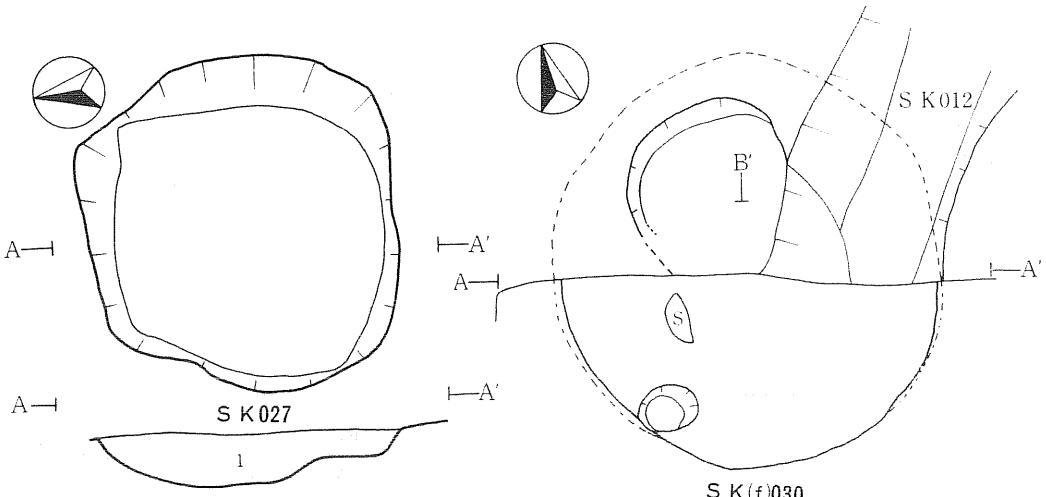
SK(f)025



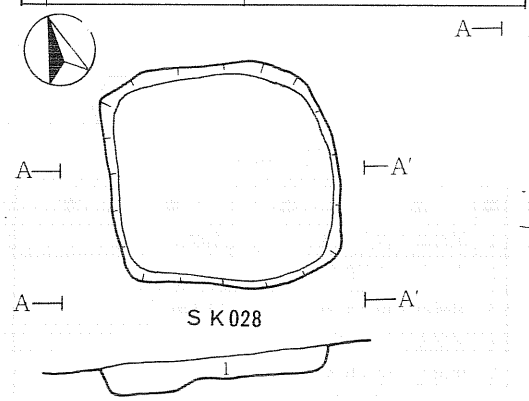
層	土色	備考
1	黒色（10 YR 1.7/1）	
2	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強、浮石混入
3	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強、浮石混入
4	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強、浮石混入
5	黒褐色（7.5 YR 2/2）	粘性強、浮石混入
6	灰褐色（7.5 YR 4/2）	粘性強
7	暗褐色（7.5 YR 3/3）	粘性強、浮石多量に混入
8	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
9	暗褐色（7.5 YR 3/3）	粘性強
10	黒色（10 YR 2/1）	粘性強



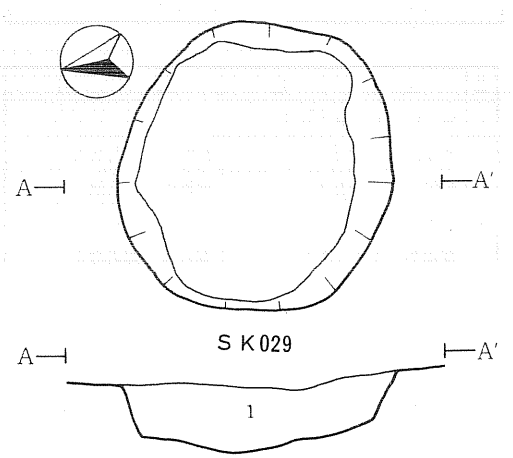
第148図　SK（f）023・024・025土壙実測図



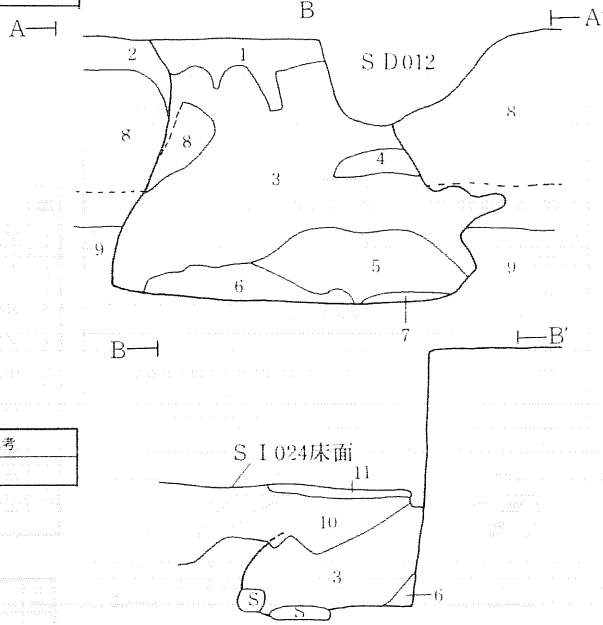
層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/4）	粘性弱



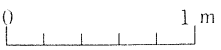
層	土色	備考
1	黒　色（10 YR 3/1）	粘性弱、明褐色土混入



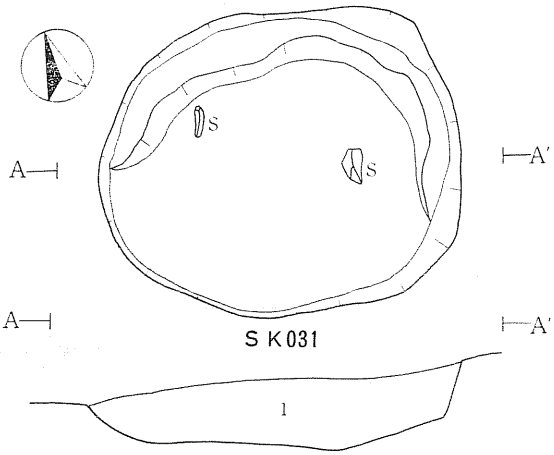
層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/4）	粘性弱



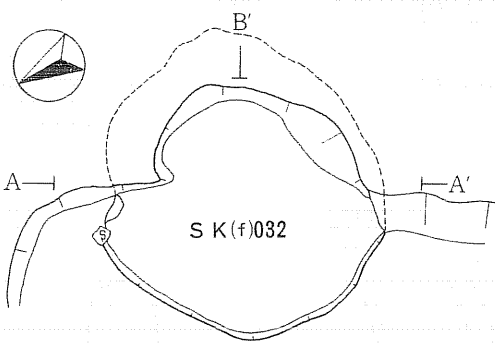
層	土色	備考
1	黒　色（7.5 YR 3/1）	粘性弱
2	黒褐色（7.5 YR 3/2）	粘性弱
3	黒褐色（10 YR 3/2）	浮石混入
4	黒褐色（10 YR 3/2）	
5	黒褐色（7.5 YR 3/1）	浮石混入
6	明褐色（7.5 YR 5/6）	黒褐色土混入
7	黒褐色（7.5 YR 3/2）	浮石を5層より多く混入
8	明褐色（7.5 YR 5/6）	砂質、地山
9	にぶい黄褐色（10 YR 5/4）	砂質、地山
10	黄褐色（10 YR 5/6）	黒褐色土混入、S I 024の貼床
11	黒　色（7.5 YR 3/1）	

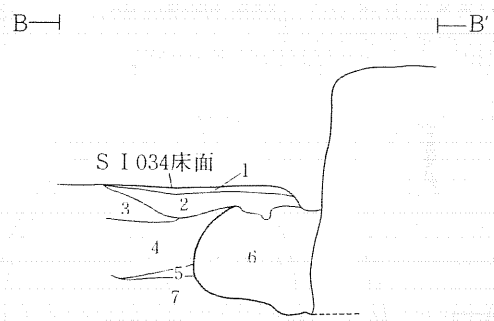


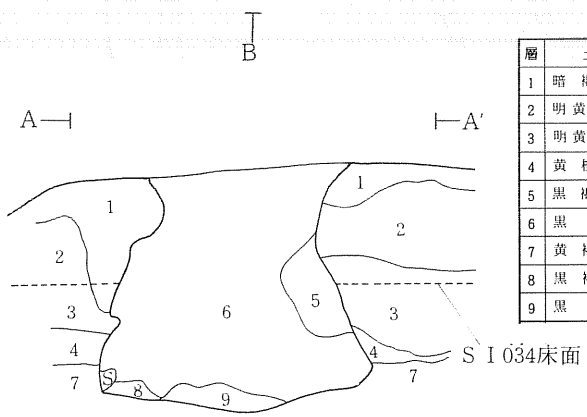
第149図　S K 027・028・029・S K（f）030土壙実測図



層	土　　色	備　　考
1	黒　褐　色（10 YR 2/3）	黄褐色土粒子混入



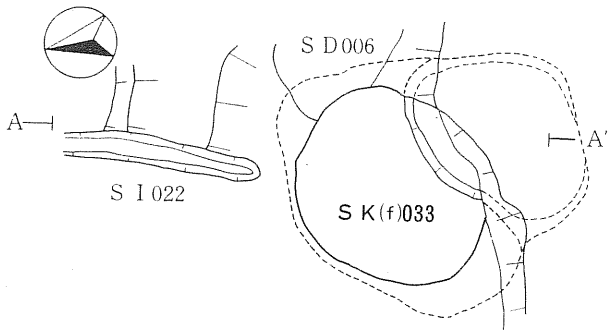


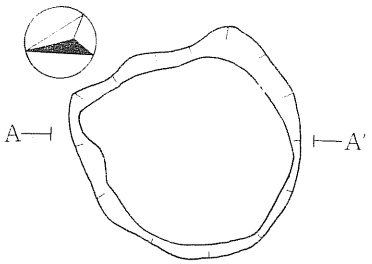


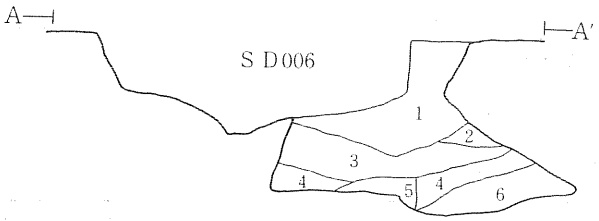
層	土　　色	備　　考
1	暗　褐　色（10 YR 3/4）	
2	明 黄 褐 色（10 YR 5/6）	粘性弱
3	明 黄 褐 色（10 YR 5/6）	細砂混入
4	黄　橙　色（10 YR 7/8）	粘性弱
5	黒　褐　色（10 YR 2/3）	粘性強
6	黒　　色（10 YR 2/1）	粘性強
7	黄　褐　色（10 YR 5/6）	粘土
8	黒　褐　色（10 YR 2/2）	粘性強
9	黒　　色（10 YR 1.7/1）	粘性強

第150図　S K 031・S K（f）032土壙実測図

0　1 m

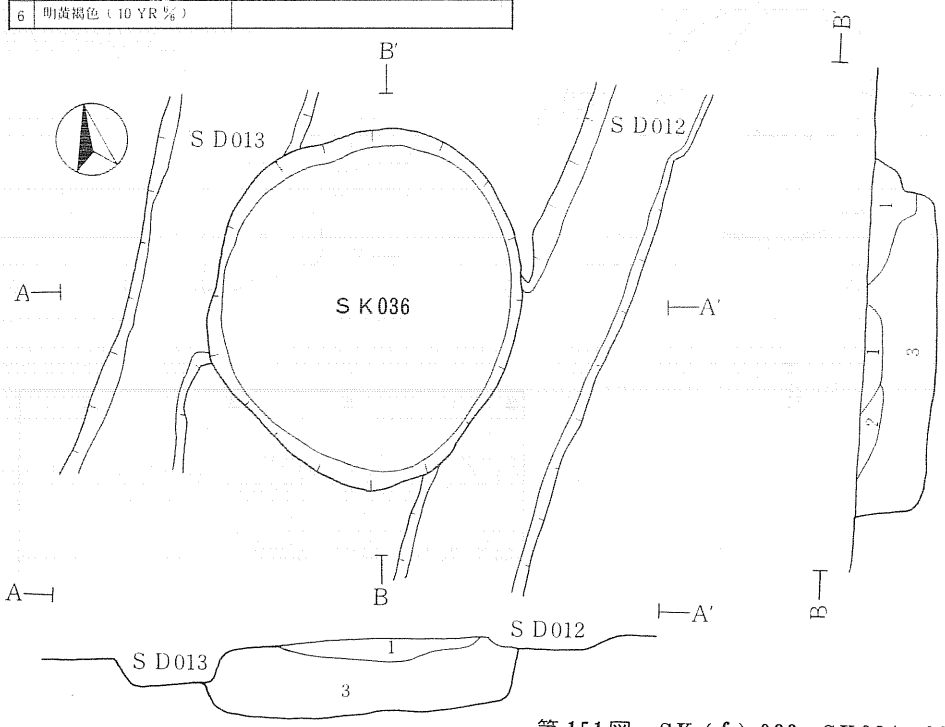






層	土色	備考
1	黄褐色（10YR 5/6）	浮石混入
2	明黄褐色（10YR 6/6）	黄褐色地山土の崩れたもの。
3	黒褐色（10YR 3/2）	粘性強
4	暗褐色（10YR 3/4）	黄褐色地山土混入
5	黒褐色（10YR 3/1）	粘性強、黄褐色地山土混入
6	明黄褐色（10YR 6/6）	

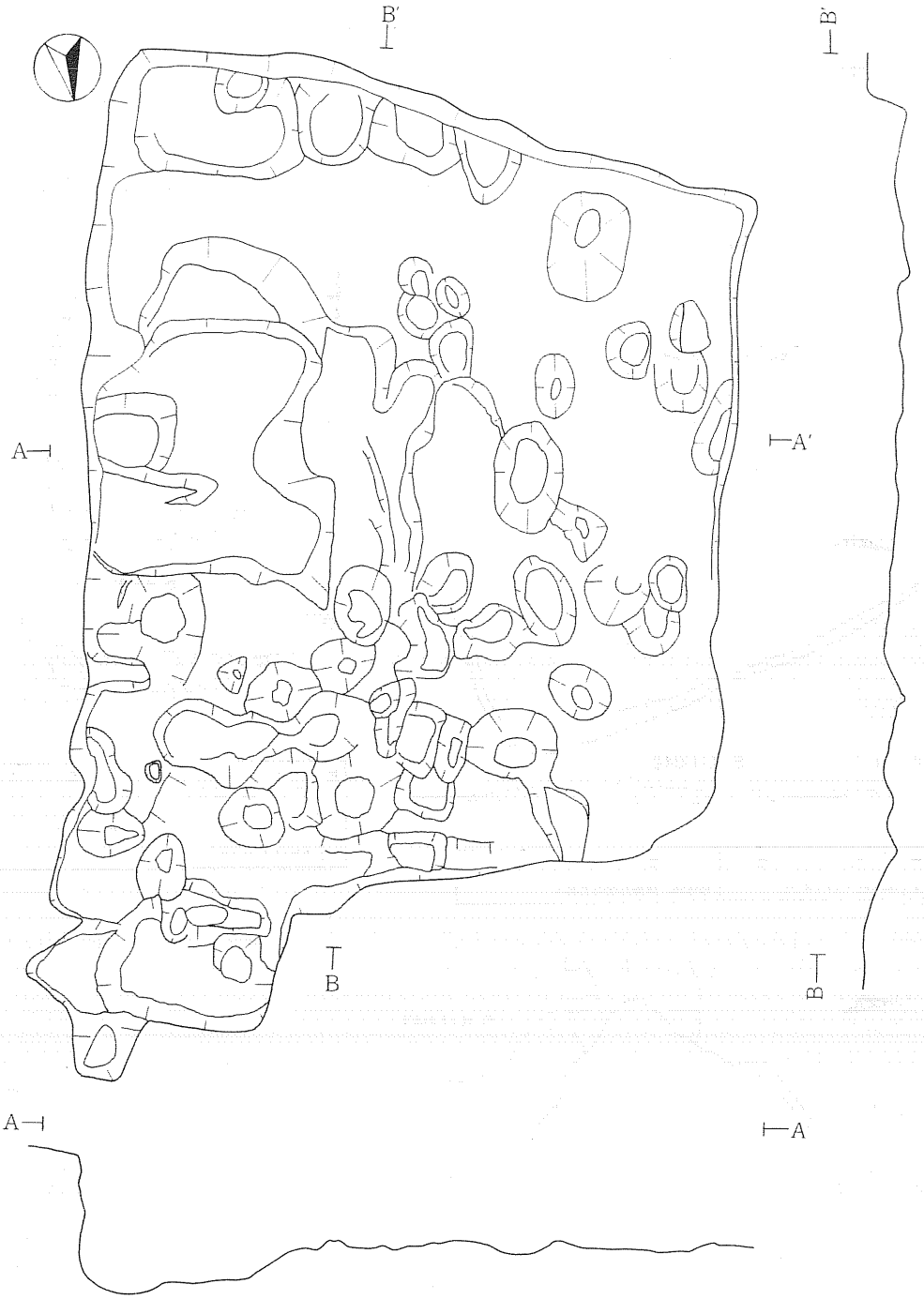
層	土色	備考
1	黒色（10YR 2/1）	粘性強
2	黒褐色（10YR 3/2）	粘性強



層	土色	備考
1	黒褐色（10YR 3/2）	
2	暗褐色（10YR 3/4）	明黄褐色土混入
3	黒褐色（10YR 2/2）	浮石混入

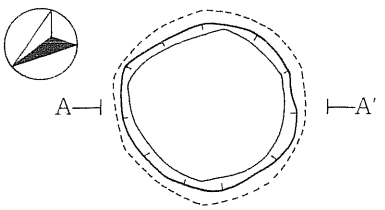
第151図　SK（f）033・SK034・036土壙実測図

0　1 m



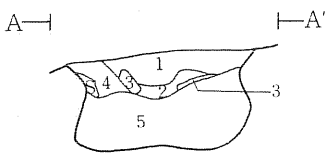
第152図　ＳＫ（Ｉ）037土壙実測図

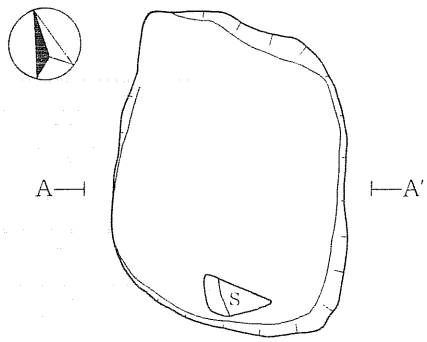
0　1 m



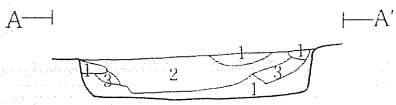
SK(f)038

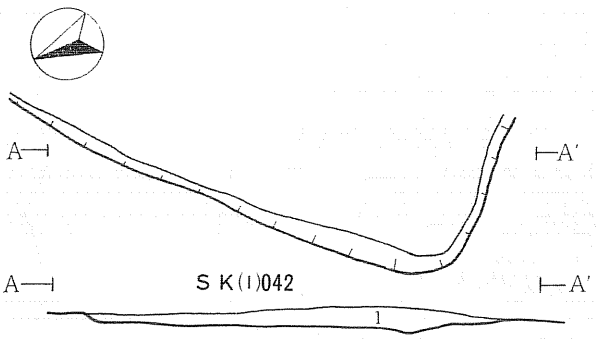
層	土色	備考
1	黒色（7.5 YR 3/1）	粘性弱
2	黒色（7.5 YR 2/1）	粘性弱、炭化物少量混入
3	暗褐色（7.5 YR 3/4）	粘性強
4	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
5	黒色（7.5 YR 2/1）	粘性強





SK040

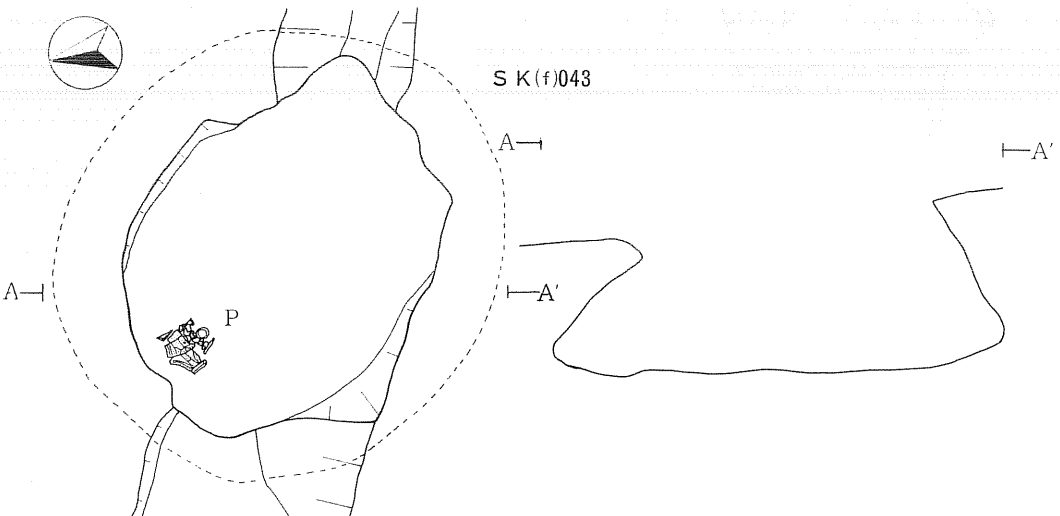




SK(I)042

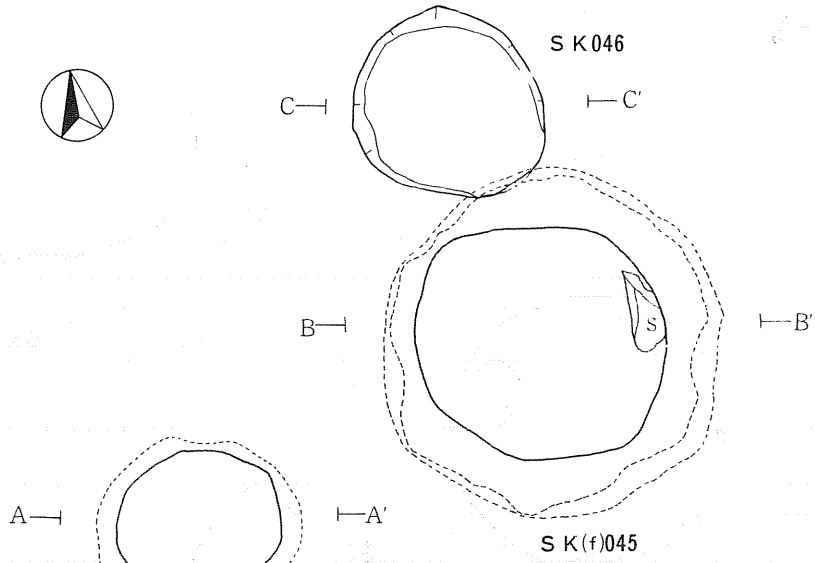
層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、黄褐色地山土混入

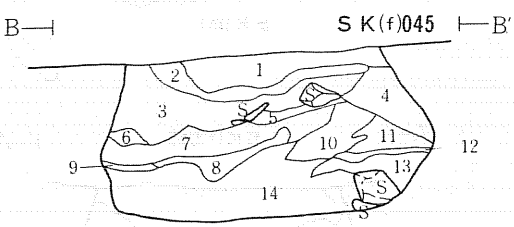
層	土色	備考
1	黒色（7.5 YR 3/1）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 3/2）	黄褐色土混入
3	黒褐色（10 YR 3/2）	

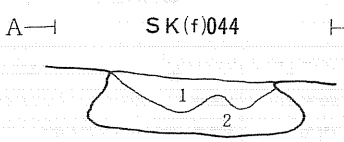


SK(f)043

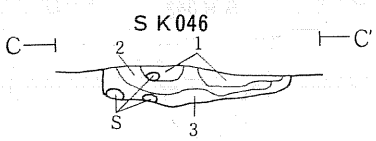
第153図　SK（f）038・SK040・SK（I）042・SK（f）043土壙実測図　0　1 m







層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 2/3）	
2	黒褐色（10 YR 2/1）	

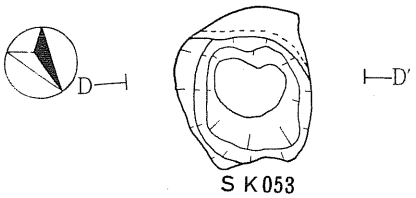


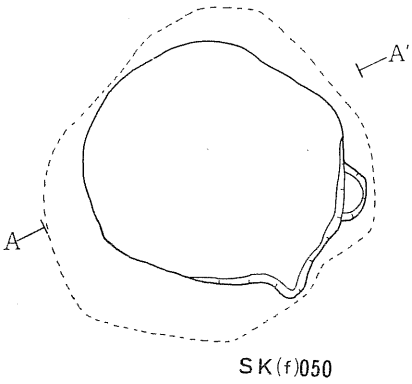
層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性弱
2	暗褐色（10 YR 3/4）	
3	極暗褐色（7.5 YR 2/3）	粘性強、黄褐色土混入

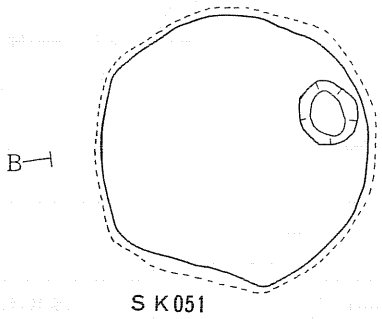
層	土色	備考
1	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強
2	黒色（10 YR 2/1）	
3	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強
4	黒色（10 YR 2/1）	粘性弱
5	黄褐色（10 YR 5/6）	粘性弱、礫多量に混入
6	明黄褐色（10 YR 6/6）	粘性強
7	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強
8	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強、黄褐色浮石混入
9	明黄褐色（10 YR 6/6）	粘性強
10	暗褐色（10 YR 3/4）	粘性強
11	黄褐色（10 YR 5/6）	砂
12	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性強、黄褐色土混入
13	明黄褐色（10 YR 6/6）	粘性弱、細砂
14	黒色（10 YR 1.7/1）	粘性強、やや硬質

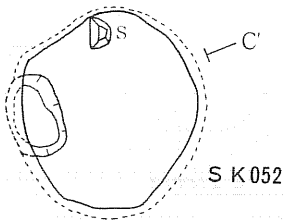
第154図　SK（f）044・045・SK046土壙実測図

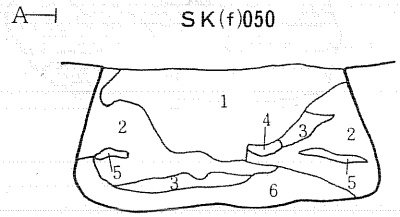
0　2 m

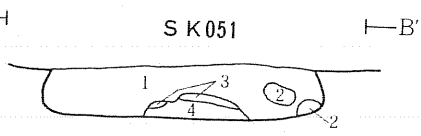






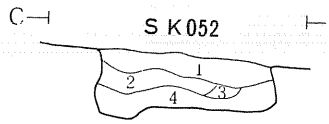




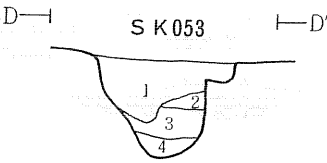


層	土色	備考
1	黒色（10YR 2/1）	粘性強、明黄褐色土・浮石混入（攪乱）
2	黒褐色（10YR 2/2）	粘性弱、明黄褐色土・浮石混入
3	黒色（10YR 2/1）	粘性強
4	暗褐色（10YR 3/4）	明黄褐色土混入
5	明黄褐色（10YR 6/6）	砂
6	黒褐色（10YR 2/3）	明黄褐色土・砂混入

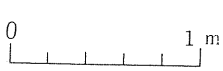
層	土色	備考
1	黒色（10YR 2/1）	粘性強
2	黒褐色（10YR 2/3）	粘性強、明黄褐色土・浮石混入
3	明黄褐色（10YR 6/6）	砂
4	黒褐色（10YR 2/2）	粘性強、明黄褐色土・浮石混入



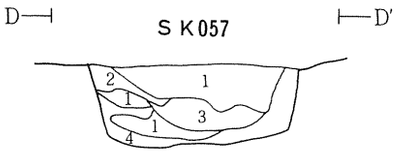
層	土色	備考
1	黒色（10YR 2/1）	粘性強、褐色土混入
2	黒褐色（10YR 2/2）	粘性強、黄褐色土粒子混入
3	黄褐色（10YR 5/6）	
4	黒褐色（10YR 2/3）	粘性強、黄褐色土粒子混入



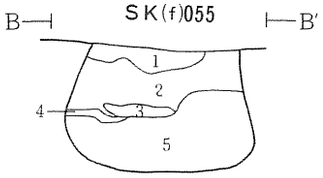
層	土色	備考
1	黒褐色（10YR 2/2）	粘性強
2	明黄褐色（10YR 6/6）	砂
3	黒褐色（10YR 2/3）	粘性強
4	褐色（10YR 4/6）	砂



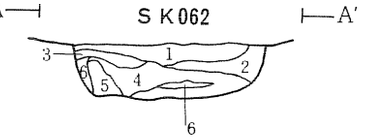
第155図　SK（f）050・SK 051・052・053土壙実測図



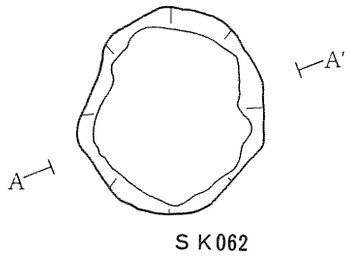
層	土色	備考
1	黒 色（10 YR 2/1）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
3	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強、浮石混入
4	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強

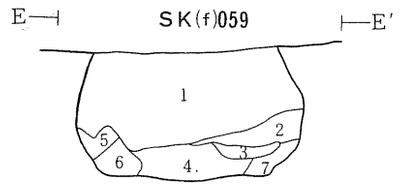


層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、黄褐色土混入
2	黒 色（10 YR 2/1）	
3	暗褐色（10 YR 3/4）	
4	黄褐色（10 YR 5/6）	
5	黒褐色（10 YR 3/2）	

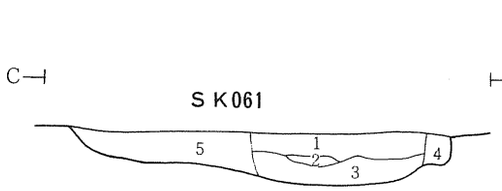


層	土色	備考
1	黒 色（10 YR 1.7/1）	粘性強、明黄褐色土混入
2	黒 褐 色（10 YR 3/2）	粘性強、明黄褐色土混入
3	明黄褐色（10 YR 6/8）	
4	黒 褐 色（10 YR 3/3）	粘性強、明黄褐色土混入
5	黒 褐 色（10 YR 3/2）	粘性強
6	にぶい黄褐色（10 YR 5/4）	

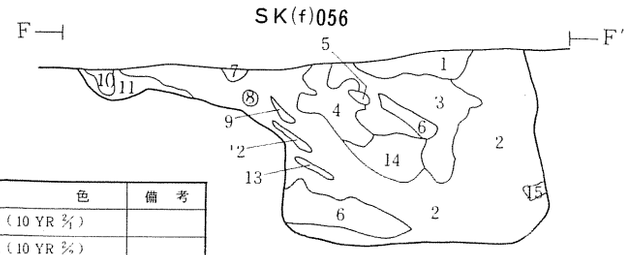




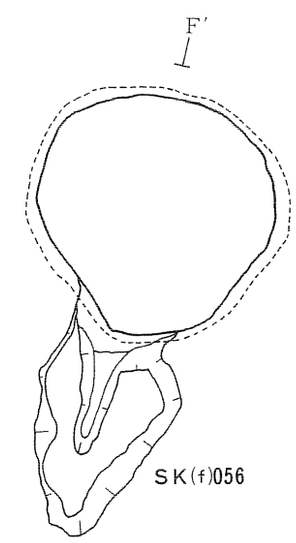
層	土色	備考
1	黒 褐 色（10 YR 3/2）	
2	黒 褐 色（10 YR 3/3）	
3	明黄褐色（10 YR 6/8）	
4	黒 褐 色（10 YR 3/1）	
5	黒 褐 色（10 YR 3/2）	
6	明黄褐色（10 YR 7/6）	
7	暗 褐 色（10 YR 3/4）	

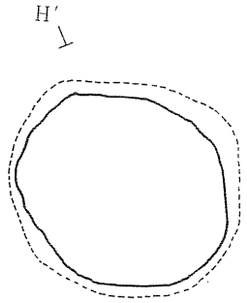


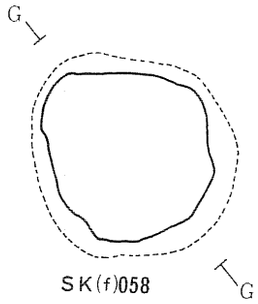
層	土色	備考
1	黒 褐 色（10 YR 3/2）	粘性強
2	明黄褐色（10 YR 6/6）	
3	黒 色（10 YR 3/2）	粘性強
4	暗 褐 色（10 YR 3/2）	粘性強
5	暗 褐 色（10 YR 3/2）	

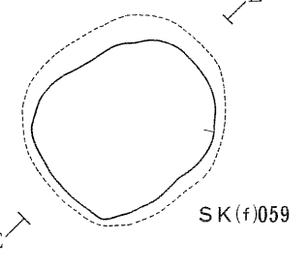


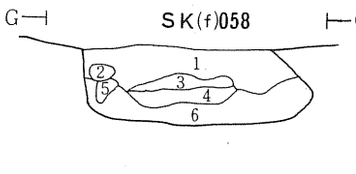
層	土色	備考
1	黒 色（10 YR 2/1）	
2	黒 褐 色（10 YR 3/2）	
3	黒 褐 色（10 YR 3/3）	粘性弱
4	黒 色（7.5 YR 2/1）	
5	黄 褐 色（10 YR 5/6）	粘性弱
6	黄 褐 色（10 YR 5/8）	粘性弱
7	黒 褐 色（10 YR 3/2）	粘性強
8	暗 褐 色（10 YR 3/4）	粘性強
9	暗 褐 色（10 YR 3/3）	粘性弱
10	黒 褐 色（7.5 YR 3/2）	粘性強
11	黒 褐 色（10 YR 3/3）	
12	褐 色（10 YR 4/6）	粘性弱
13	黄 褐 色（10 YR 5/6）	粘性強
14	黒 色（7.5 YR 2/1）	粘性強
15	明黄褐色（10 YR 6/6）	粘性弱

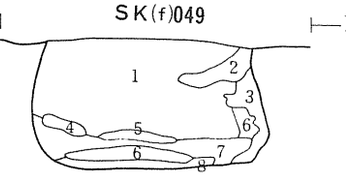








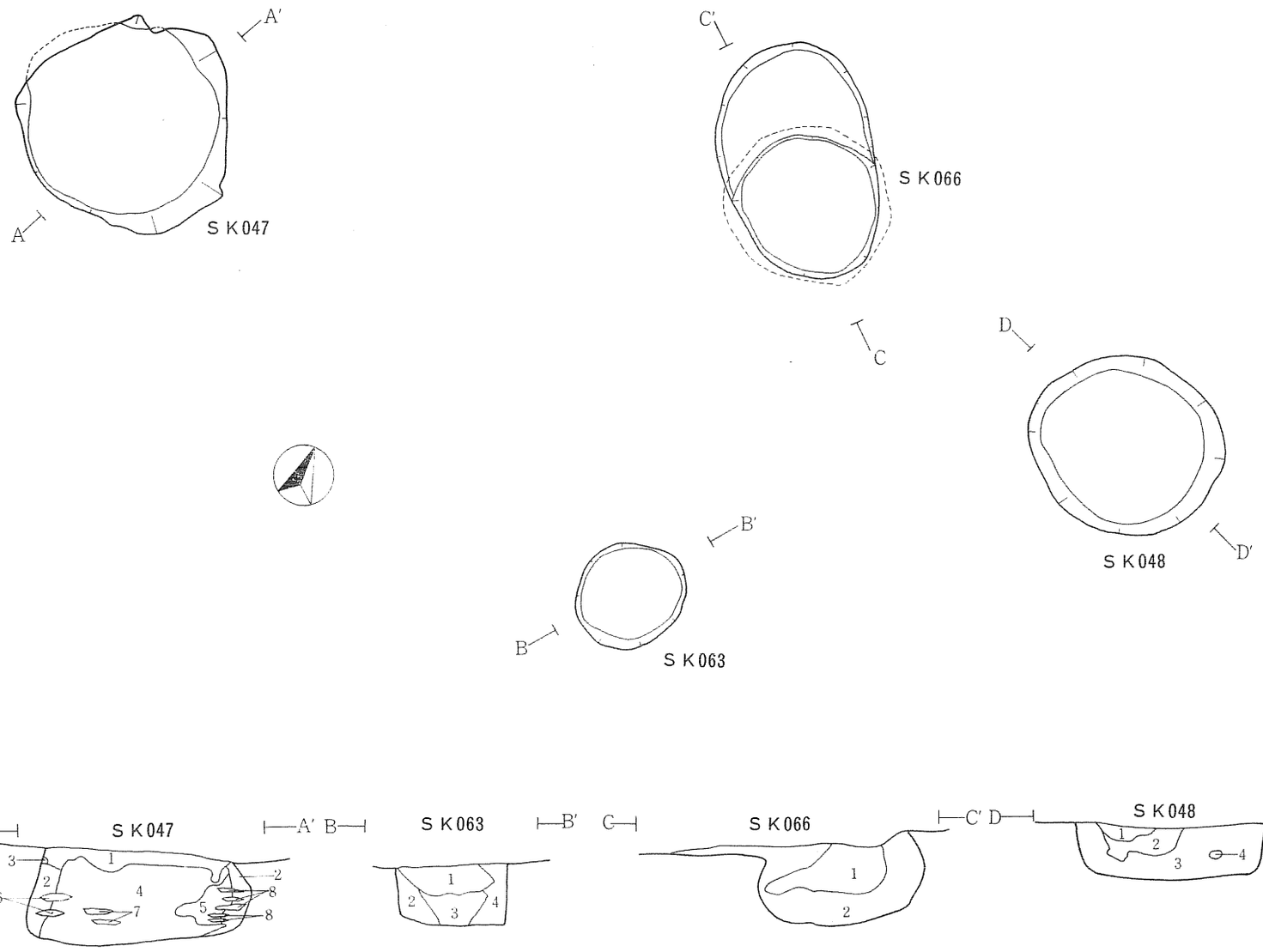




層	土色	備考
1	黒 褐 色（10 YR 3/3）	粘性強
2	明黄褐色（10 YR 6/6）	粘性弱
3	黒 褐 色（10 YR 2/2）	粘性強、明黄褐色土混入
4	黒 褐 色（10 YR 2/2）	粘性強
5	黒 褐 色（10 YR 2/3）	粘性弱
6	黒 褐 色（10 YR 3/3）	粘性弱、明黄褐色土混入

層	土色	備考
1	黒 色（10 YR 1.7/1）	粘性強、明黄褐色土混入
2	黒 褐 色（10 YR 3/2）	粘性強、明黄褐色土混入
3	明黄褐色（10 YR 6/6）	黄褐色地山土混入
4	黒 褐 色（10 YR 3/3）	粘性強、明黄褐色土混入
5	黒 褐 色（10 YR 3/2）	
6	にぶい黄褐色（10 YR 5/4）	
7	黒 褐 色（10 YR 3/3）	
8	黒 褐 色（10 YR 3/2）	

第156図 SK（f）049・055・056・SK057・SK（f）058・059・SK061・062土壙実測図



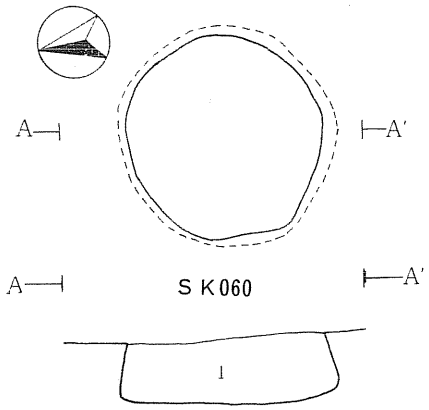
層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	
2	黒褐色（10 YR 3/3）	
3	黒　色（10 YR 3/1）	粘性強、黄褐色砂粒多量に混入
4	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
5	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
6	黄褐色（10 YR 5/6）	粘性弱
7	黒　色（10 YR 1.7/1）	粘性強、砂粒混入
8	黄橙色（10 YR 7/8）	粘性弱

層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 3/1）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
3	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強、褐色土、炭化物を含む。
4	黄褐色（10 YR 5/6）	

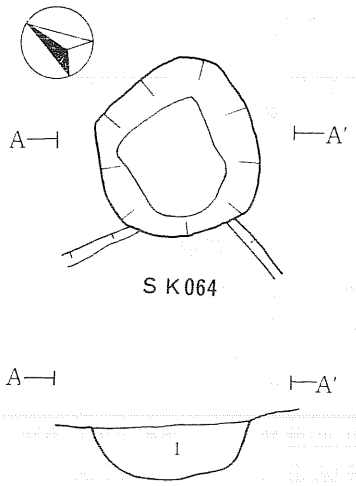
層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 3/3）	粘性強、黄褐色土混入

層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	
2	黒　色（10 YR 2/1）	粘性弱
3	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性弱
4	黒　色（10 YR 2/1）	粘性強

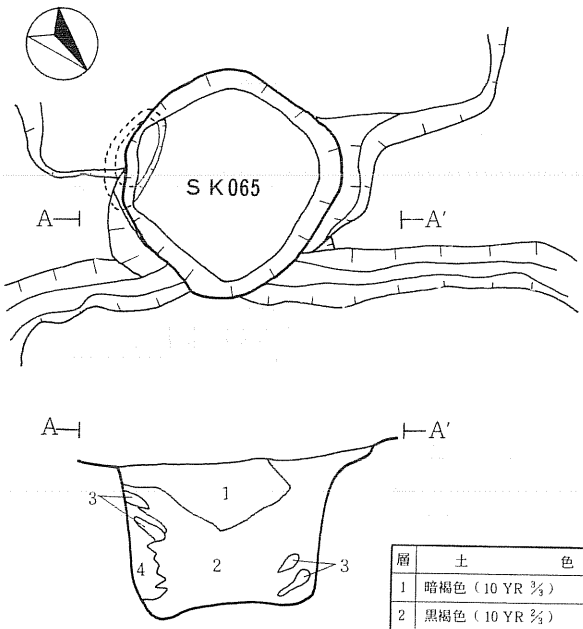
第157図　SK 047・048・063・066土壙実測図



層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、黄褐色土混入



層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強、黄褐色土粒子混入



層	土色	備考
1	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性強
2	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性強
3	黄褐色（10 YR 5/6）	粘性強
4	褐　色（10 YR 4/4）	粘性強

第158図　SK 060・064・065土壙実測図

0　1 m

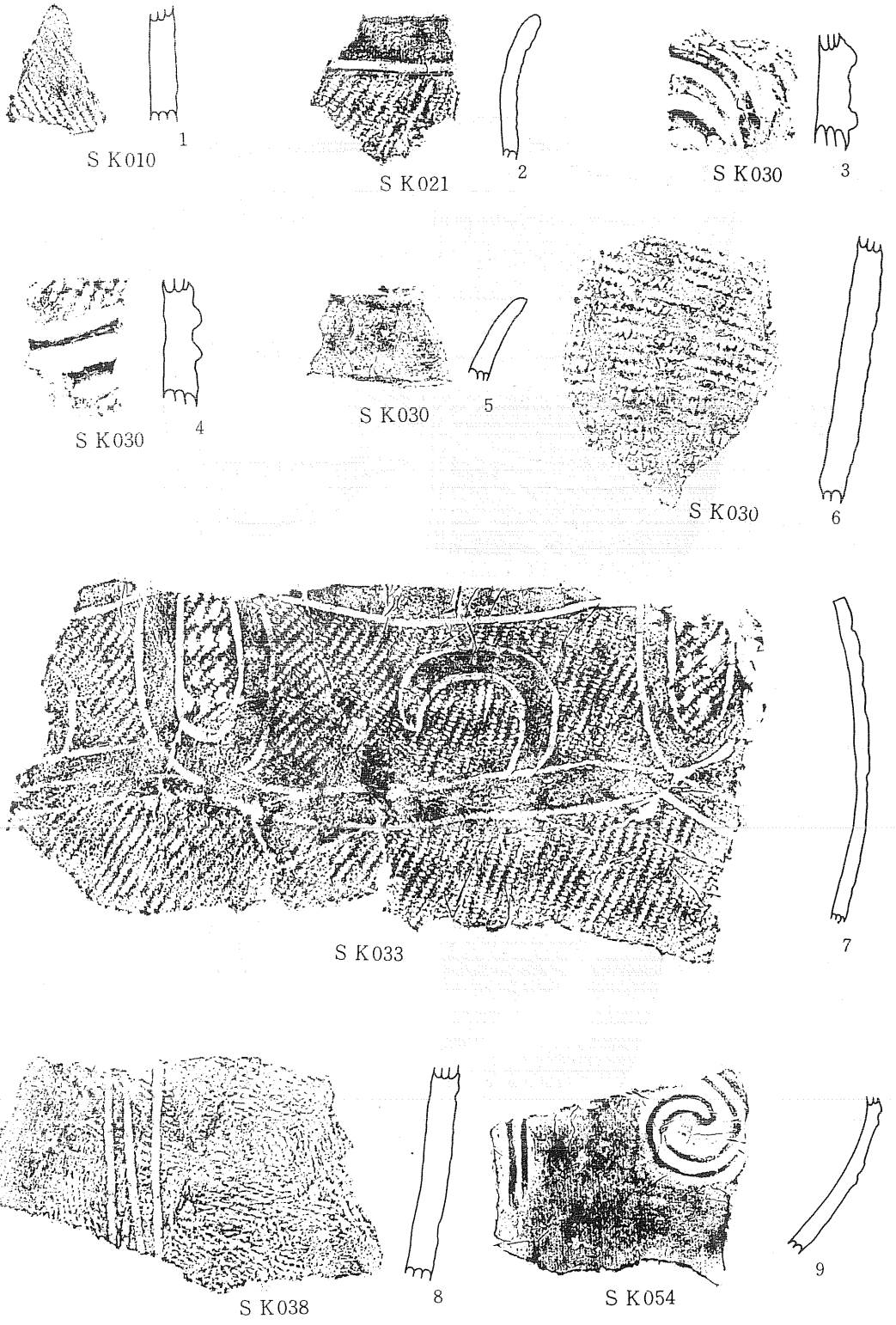
第113表　SK 010～064土壙出土遺物観察表

出土遺構	SK 010	SK 021	SK（f）030
挿図番号	第159図　1	第159図　2	第159図　3
器種			
文様	RL縄文	LR縄文→沈線。沈線により施文帯と無文帯とを分ける	太い粘土紐貼付
色調	明褐色	外面暗赤褐色、内面赤褐色	赤褐色
胎土	細かい	やや荒い	細かい
焼成	良好	良好	良好
備考		外面に煤状炭化物付着	煤状炭化物付着 大木8b式

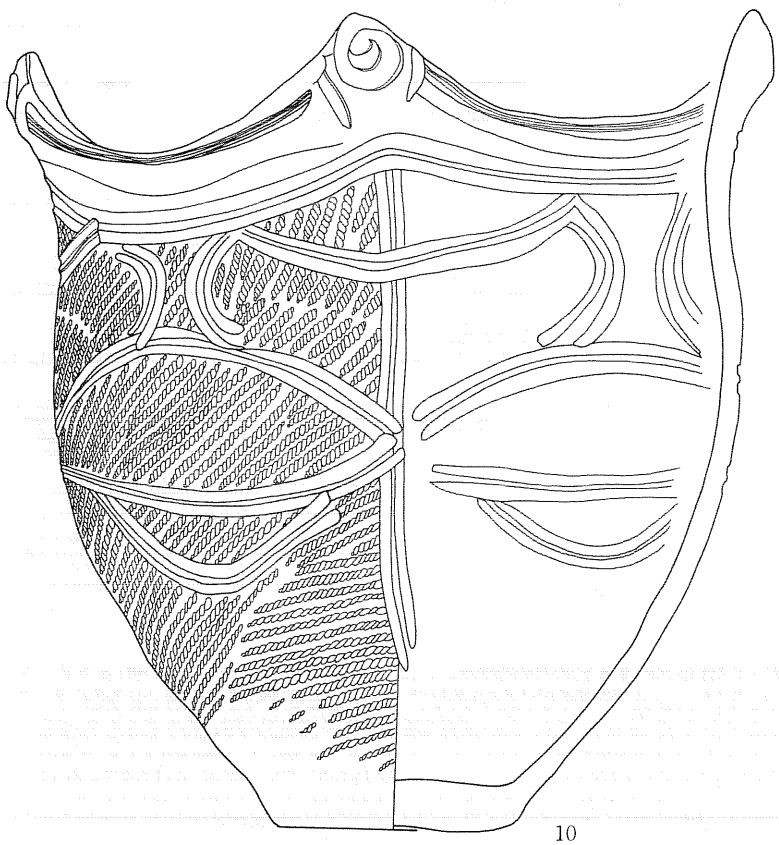
出土遺構	SK（f）030	SK（f）030	SK（f）030
挿図番号	第159図　4	第159図　5	第159図　6
器種			
文様	RL縄文→粘土紐貼付	口縁部と胴部間に沈線	LR縄文
色調	黒褐色ないし暗赤褐色	極暗赤褐色	褐色ないし黒色
胎土	細かい	細かい	細かい
焼成	良好	良好	良好
備考	大木8b式		煤状炭化物付着

出土遺構	SK（f）033	SK 038	SK 054
挿図番号	第159図　7	第159図　8	第159図　9
器種			浅鉢
文様	RL縄文→沈線→磨消し、刺突	RR縄文→沈線	粘土紐貼付文
色調	外面褐色、内面暗褐色	褐色	外面　褐色及び黒色 内面　暗褐色及び黒色
胎土	細かい	やや荒い	細かい
焼成	良好	良好	良好
備考	煤状炭化物付着		外面に朱塗

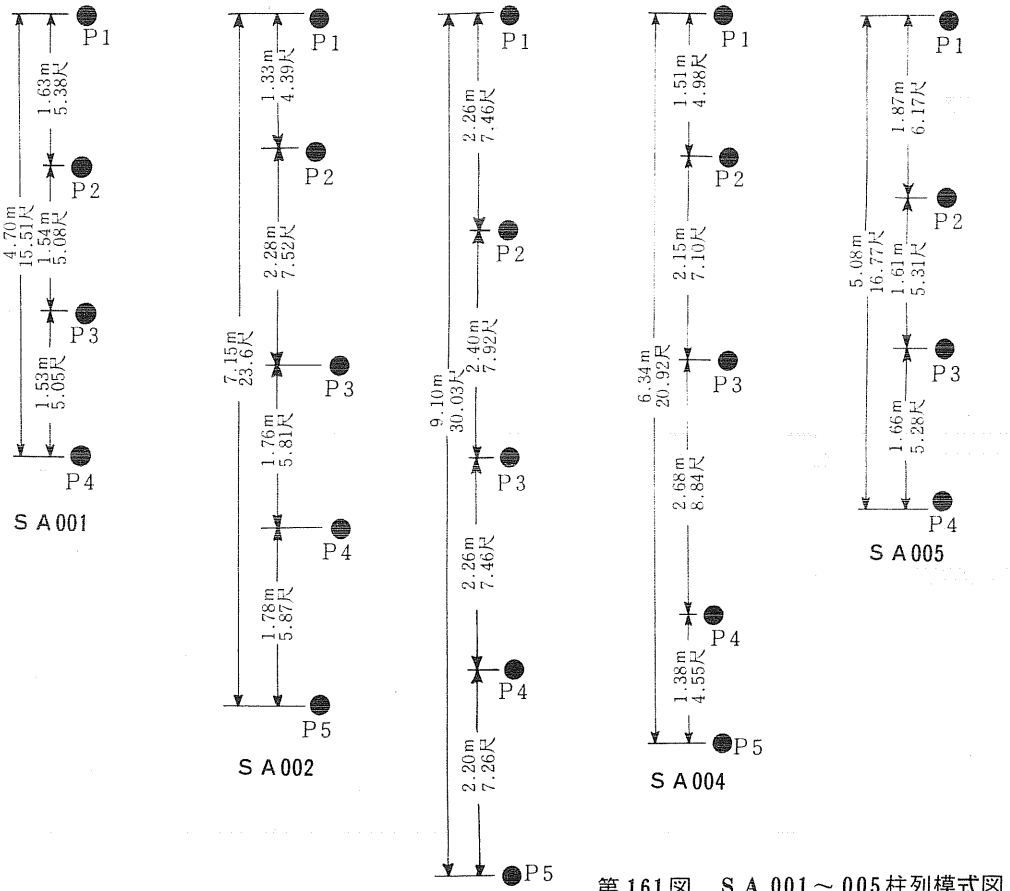
出土遺構		SK 043	SK 064
挿図番号		第160図　10	第160図　11
器種		鉢	鉢
法量	口径	19.0 cm	cm
	底径	6.0 cm	8.5 cm
	器高	21.5 cm	cm
文様		LR縄文→沈線 突起には粘土紐の貼付	LR縄文
色調		暗褐色ないし褐色	外面明褐色、内面灰褐色
胎土		細かい	やや荒い
焼成		良好	良好
備考		口縁部突起には4単位	口縁部、胴部上半を欠損



第159図　S K 010・017・021・030・033・038・054土壙出土遺物実測図



第160図　SK043・064土壙出土遺物実測図



第161図　SA 001～005柱列模式図

第114表 SA 001～005柱列観察表

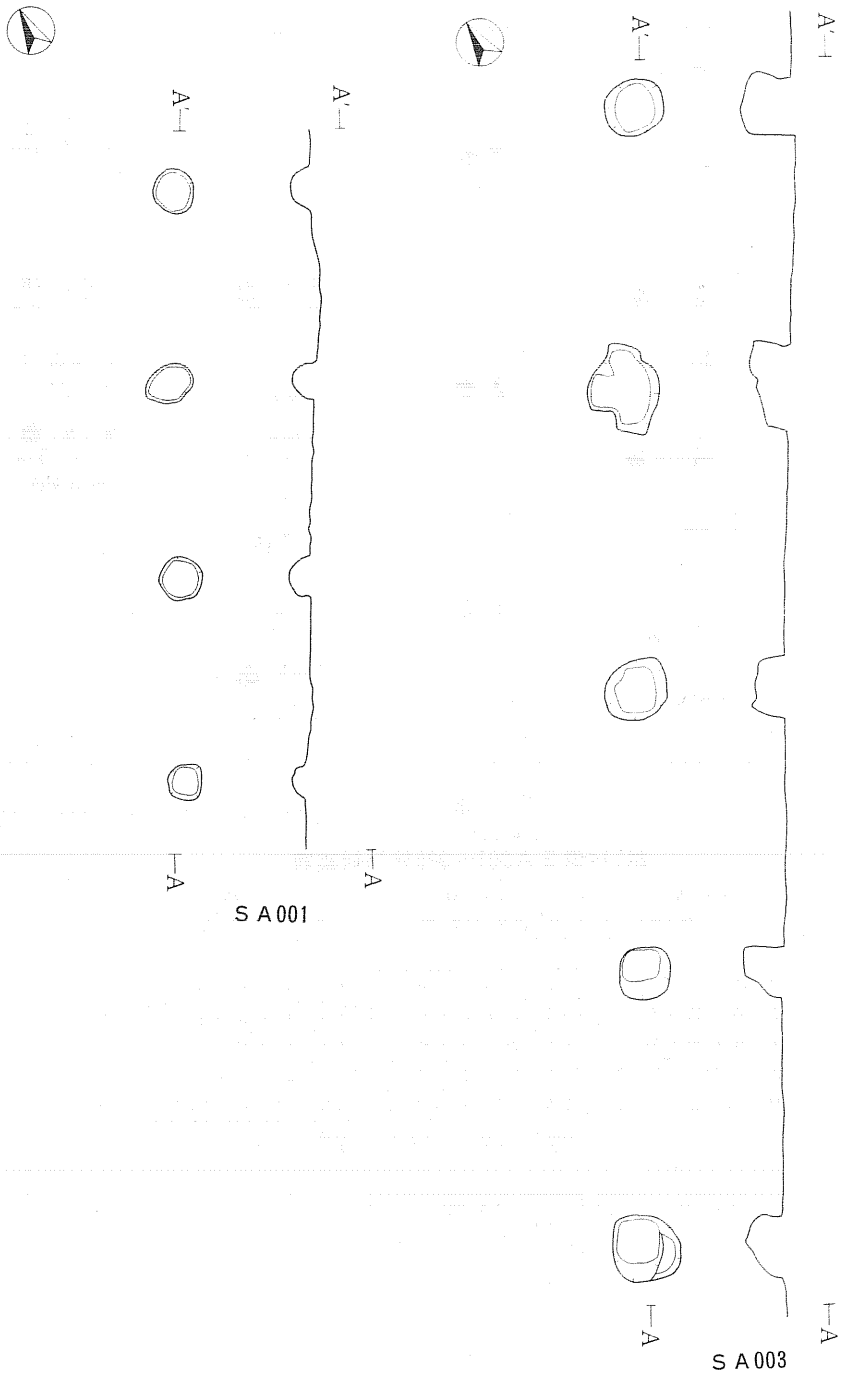
SA 001	
	長径×短径×深さ(cm)
P1	30 × 26 × 13
P2	24 × 24 × 20
P3	40 × 30 × 21
P4	35 × 30 × 19
全長	4.70 m .15.51 尺
柱間平均	1.57 m 5.17 尺

SA 002	
	長径×短径×深さ(cm)
P1	52 × 43 × 28
P2	52 × 45 × 45
P3	66 × 52 × 51
P4	48 × 35 × 58
P5	52 × 38 × 47
全長	7.15 m 23.6 尺
柱間平均	1.79 m 5.90 尺

SA 003	
	長径×短径×深さ(cm)
P1	48 × 48 × 40
P2	55 × 60 × 35
P3	47 × 55 × 27
P4	41 × 40 × 33
P5	49 × 54 × 33
全長	9.10 m 30.03 尺
柱間平均	2.28 m 7.52 尺

SA 004	
	長径×短径×深さ(cm)
P1	45 × 38 × 40
P2	43 × 43 × 37
P3	46 × 42 × 6
P4	50 × 40 × 52
P5	38 × 34 × 39
全長	6.34 m 20.92 尺
柱間平均	1.59 m 5.23 尺

SA 005	
	長径×短径×深さ(cm)
P1	50 × 33 × 20
P2	42 × 34 × 46
P3	45 × 45 × 23
P4	45 × 30 × 25
全長	5.08 m 16.77 尺
柱間平均	1.69 m 5.59 尺

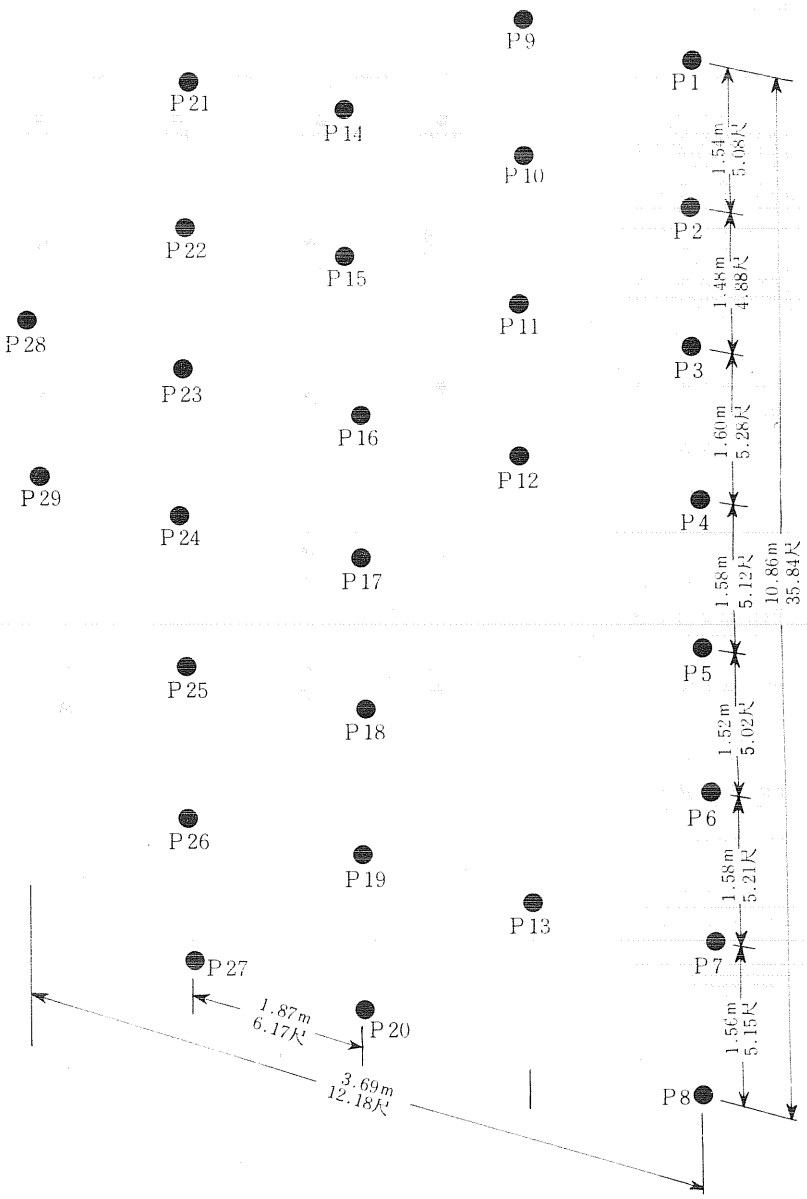


第162図　ＳＡ001・003柱列実測図

第115表　ＳＢ 001掘立柱建物跡観察表

挿図番号	第165図	図版　78	規模　南北 10.86m(35.84尺)　東西 3.69m(12.18尺)
桁行方位	Ｎ－35°－Ｅ	桁行方向に対する梁行方向の角度　75°	
身舎	桁　行　7間 10.85m(35.80尺)		柱間平均　1.55m(1.120尺)
	梁　行　4間 3.69m(12.18尺)		柱間平均　1.48m(4.87 尺)
	柱掘形平均値　径　37.5cm	深さ　20.9cm	柱痕跡径　　cm
遺物			
備考			

ピット	長径×短径×深さ (cm)
P1	36 × 34 × 13
P2	30 × 28 × 12
P3	36 × 36 × 25
P4	49 × 40 × 30
P5	42 × 39 × 27
P6	44 × 44 × 28
P7	50 × 50 × 31
P8	38 × 37 × 31
P9	24 × 23 × 13
P10	32 × 31 × 17
P11	36 × 35 × 28
P12	35 × 30 × 29
P13	36 × 35 × 23
P14	27 × 25 × 12
P15	38 × 30 × 16
P16	55 × 50 × 20
P17	50 × 42 × 26
P18	45 × 40 × 28
P19	40 × 40 × 28
P20	53 × 39 × 25
P21	21 × 20 × 8
P22	36 × 31 × 12
P23	32 × 32 × 11
P24	37 × 35 × 18
P25	32 × 32 × 29
P26	32 × 32 × 19
P27	35 × 34 × 23
P28	32 × 34 × 10
P29	62 × 50 × 14
柱掘形平均値 (cm)	
38.5×35.5×20.9	

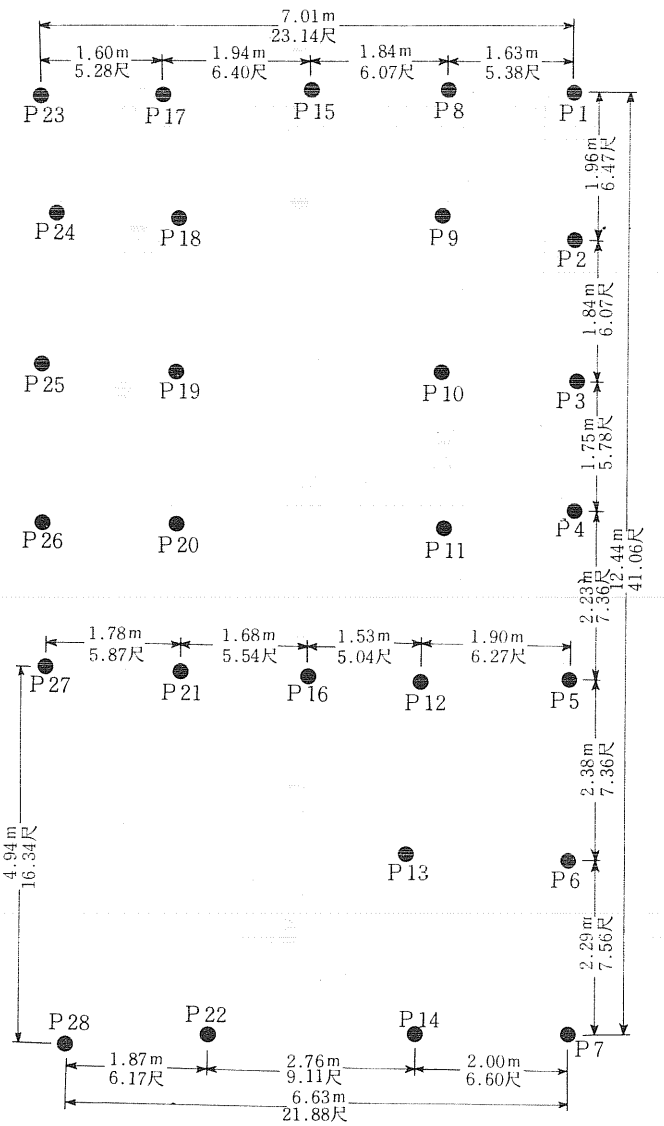


第163図　ＳＢ 001掘立柱建物跡模式図

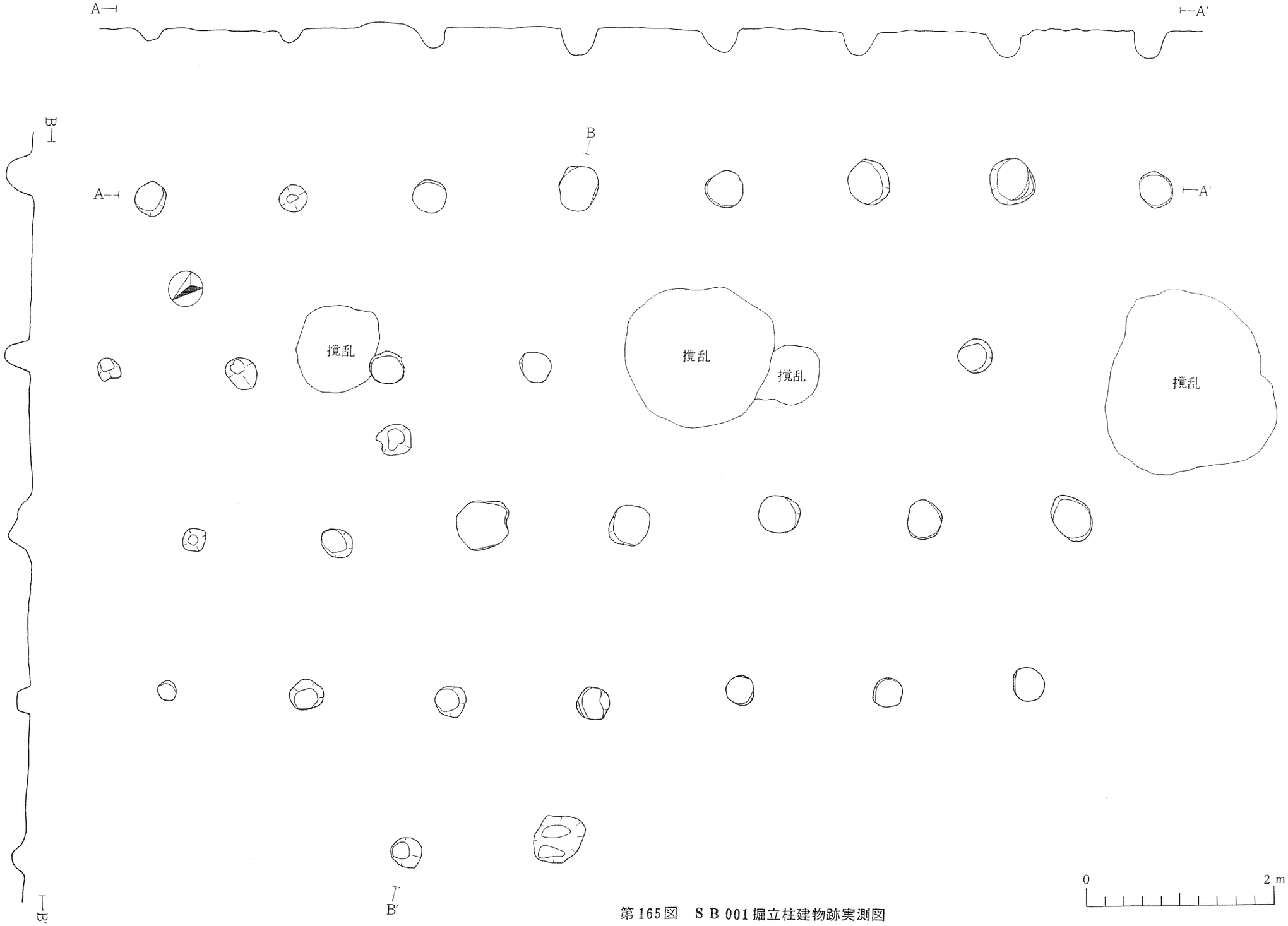
第116表　ＳＢ 002掘立柱建物跡観察表

挿図番号	第166図　図版 78　規模 南北 12.44m(41.05尺)　東西 7.01m(23.13尺)	
桁行方位	N－48.5°－E　桁行方向に対する梁行方向の角度 90°	
身舎	桁行 4間 7.84m(25.87尺)	柱間平均 1.96m(6.48尺)
	梁行 2間 3.78m(12.47尺)	柱間平均 1.89m(6.23尺)
	柱掘形平均値 径 52.2cm　深さ 53.0cm	柱痕跡径 20cm
庇	位置 東西	柱間平均 1.75m(5.77尺)
	柱掘形平均値 径 56.0cm　深さ 42.9cm	柱痕跡径 19.8cm
遺物		
備考	4間×2間と2間×3間に庇のついた形である。ＳＤ 025・026・029よりも新しい。	

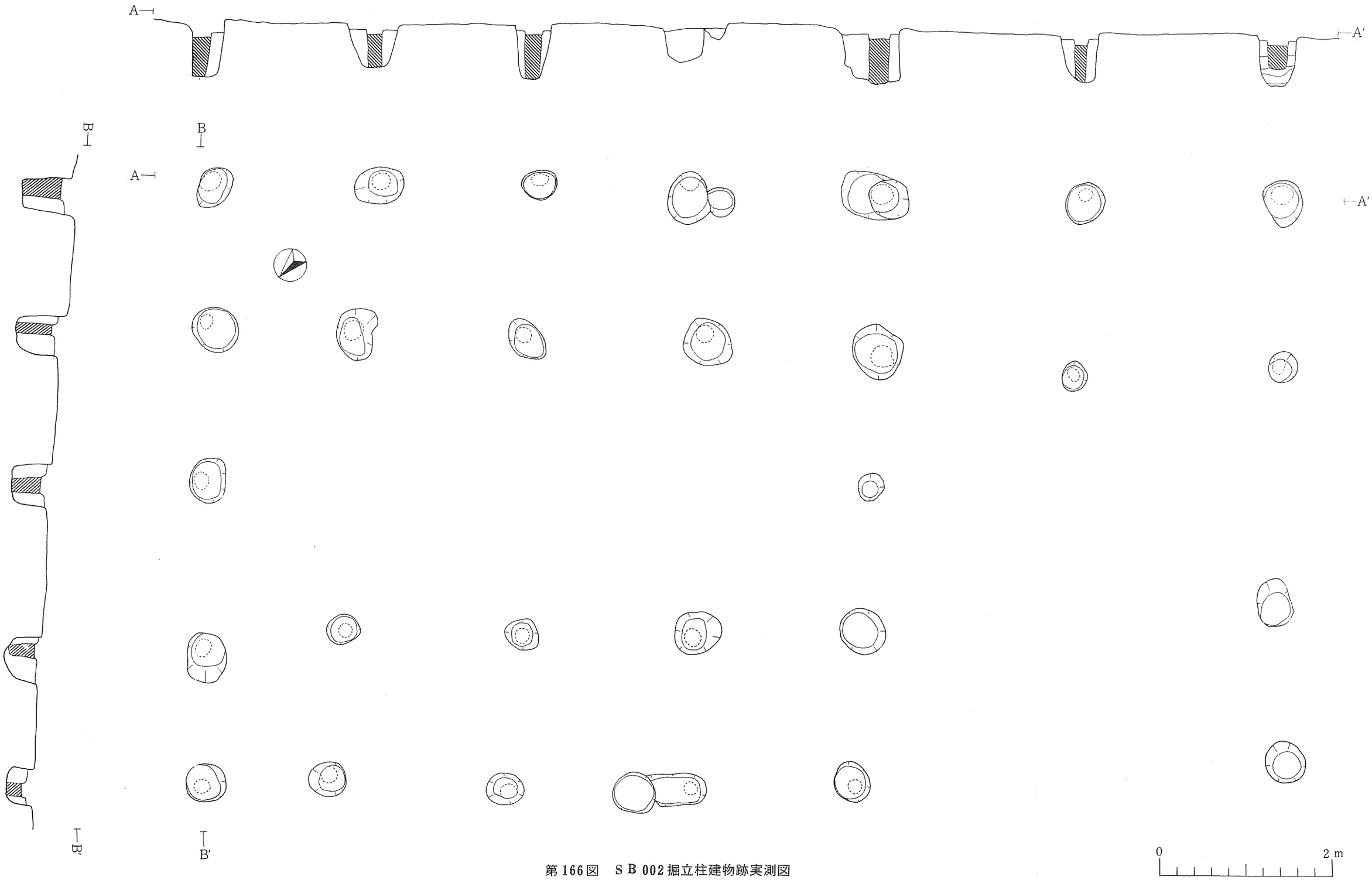
ピット	長径×短径×深さ(cm)
P1	51 × 37 × 65
P2	56 × 42 × 55
P3	40 × 33 × 41
P4	60 × 50 × 39
P5	80 × 54 × 91
P6	51 × 45 × 53
P7	55 × 40 × 57
P8	52 × 52 × 56
P9	60 × 40 × 57
P10	55 × 35 × 53
P11	57 × 52 × 80
P12	66 × 58 × 48
P13	35 × 30 × 29
P14	35 × 33 × 57
P15	51 × 42 × 43
P16	32 × 30 × 52
P17	58 × 45 × 43
P18	40 × 34 × 45
P19	40 × 35 × 61
P20	54 × 50 ×
P21	53 × 52 × 45
P22	55 × 40 × 40
P23	48 × 44 × 35
P24	42 × 40 × 15
P25	43 × 36 × 24
P26	70 × 36 × 25
P27	46 × 39 × 15
P28	48 × 46 × 34
柱掘形平均値 (cm)	
51.2×41.8×46.6	



第164図　ＳＢ 002掘立柱建物跡模式図



第165図　S B 001掘立柱建物跡実測図

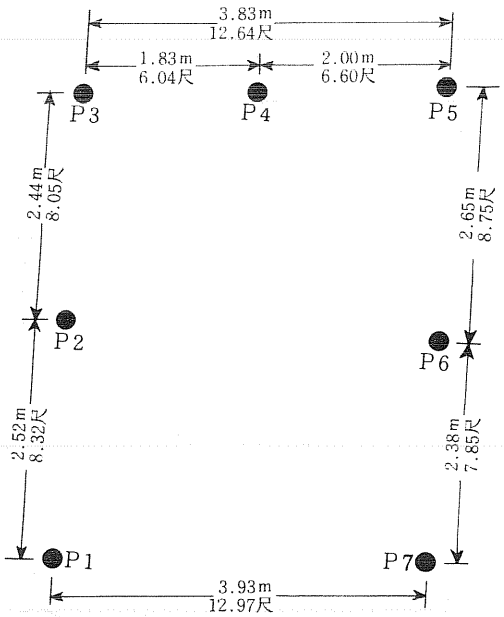


第166図　S B 002掘立柱建物跡実測図

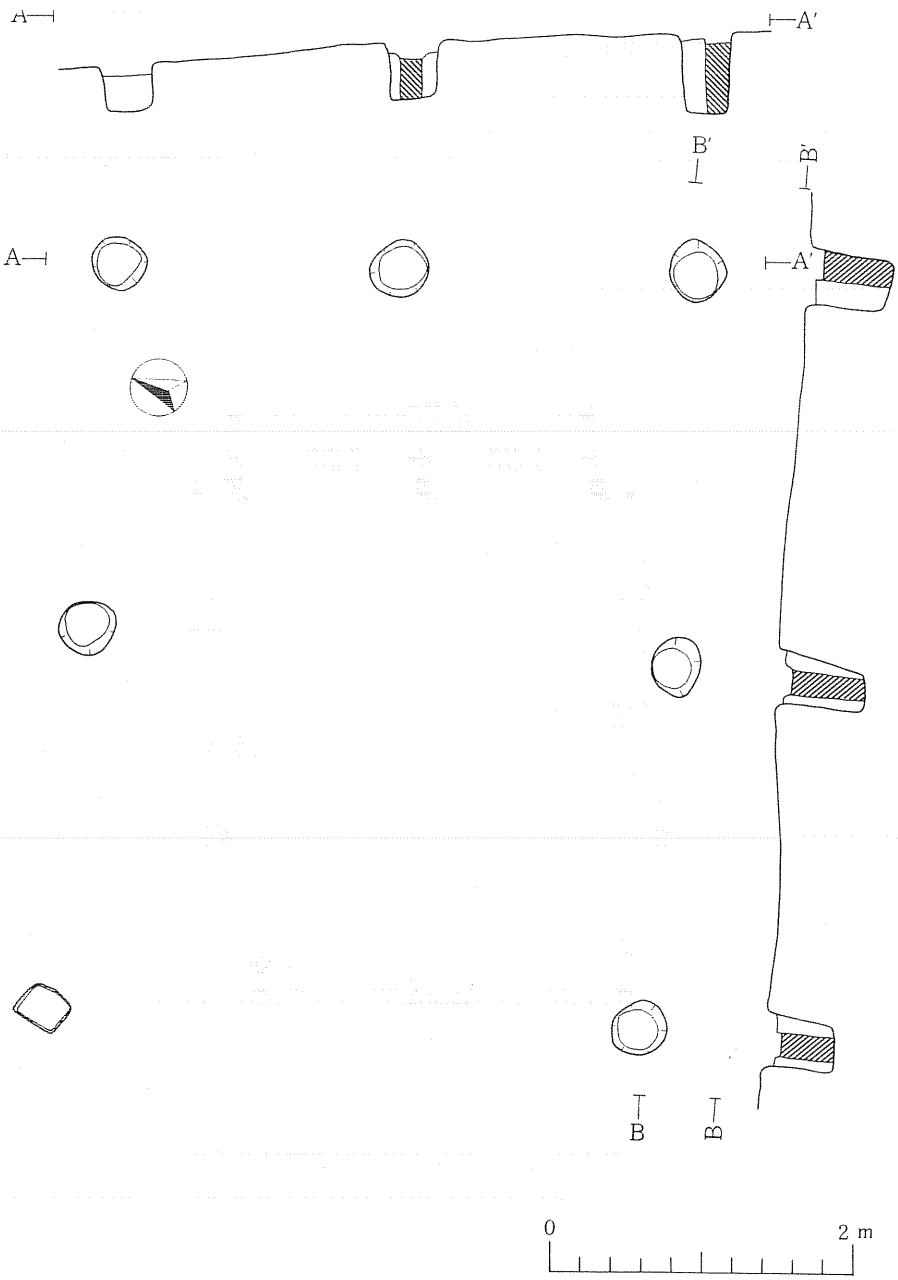
第117表　ＳＢ 003掘立柱建物跡観察表

挿図番号	第168図　　図版　79　　規模　南北 5.03m(16.60尺)　　東西 3.93m(12.97尺)
桁行方位	N－73.5°－E　　桁行方向に対する梁行方向の角度　94°
身舎	桁　行　2間　5.03m(16.60尺)　　柱間平均 251.5m(8.30尺) 梁　行　2間　3.83m(12.97尺)　　柱間平均　1.91m(6.32尺) 柱掘形平均値　径　37.3cm　　深さ　44.6cm　　柱痕跡径　16.8cm
遺物	
備考	

ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)
P1	30 × 26 ×	P2	37 × 35 × 20	P3	37 × 34 × 32	P4	40 × 38 × 39	P5	40 × 38 × 56	P6	40 × 32 × 72		
P7	37 × 35 × 49	柱掘形平均値 (cm) 37.3×34.0×44.7											



第167図　ＳＢ 003掘立柱建物跡模式図

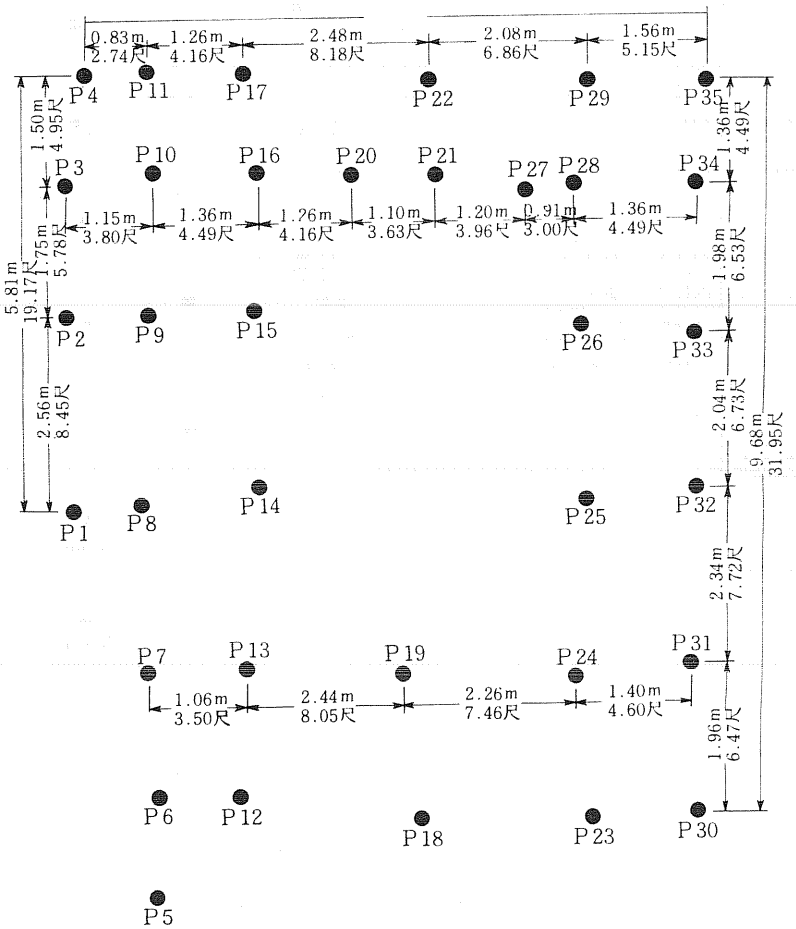


第168図　ＳＢ003掘立柱建物跡実測図

第118表　ＳＢ 004掘立柱建物跡観察表

挿図番号	第171図	図版　79	規模　南北　9.68m(31.94尺)　東西　8.22m(27.12尺)
桁行方位	Ｎ－56°－Ｅ	桁行方向に対する梁行方向の角度　89°	
身舎	桁　行　3間　6.55m(21.61尺)		柱間平均　2.18m(7.19尺)
	梁　行　2間　4.48m(14.78尺)		柱間平均　1.11m(3.68尺)
	柱掘形平均値　径　44.3cm　深さ　40.3cm		柱痕跡径　cm
庇	位　置　東・西・南・北		柱間平均 148.18m(4.89尺)
	柱掘形平均値　径　43.0cm　深さ　39.0cm		柱痕跡径　cm
遺　物	建物南コーナー付近から鍔が出土している。		
備　考	西側に孫庇がつく。庇柱間は南面庇が最も広い。		

ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)
P1	28×25×34	P2	42×32×32	P3	42×42×36	P4	40×32×30	P5	47×40×29	P6	40×30×33
P7	62×42×43	P8	52×36×26	P9	32×32×22	P10	39×30×24	P11	35×32×29	P12	44×37×29
P13	43×42×32	P14	42×42×32	P15	38×33×32	P16	40×37×27	P17	40×35×26	P18	72×40×43
P19	55×37×47	P20	44×44×23	P21	38×34×42	P22	52×39×34	P23	32×30×48	P24	54×36×43
P25	42×37×51	P26	67×49×58	P27	32×31×39	P28	37×35×58	P29	55×30×59	P30	39×37×29
P31	40×35×40	P32	37×37×68	P33	42×40×52	P34	41×38×60	P35	40×37×62		
柱掘形平均値 (cm) 43.6×36.1×39.2											

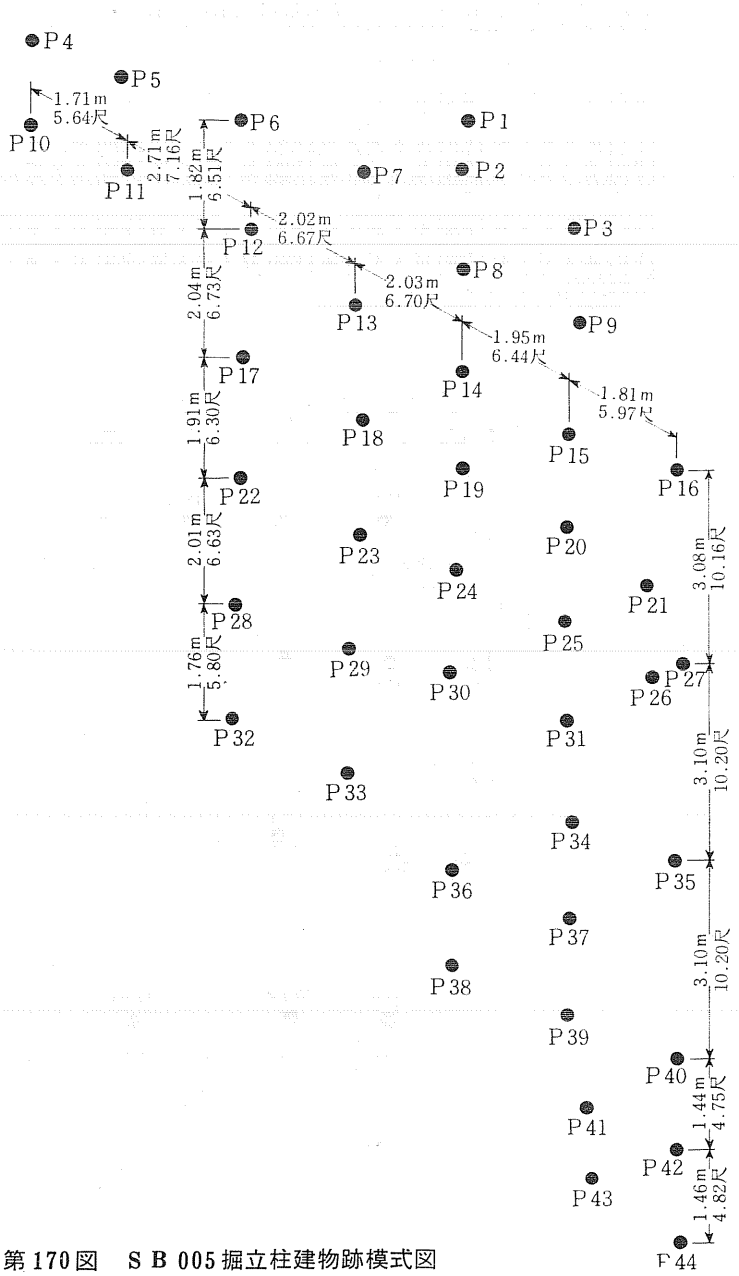


第169図　ＳＢ 004 掘立柱建物跡模式図

第119表　ＳＢ 005掘立柱建物跡観察表

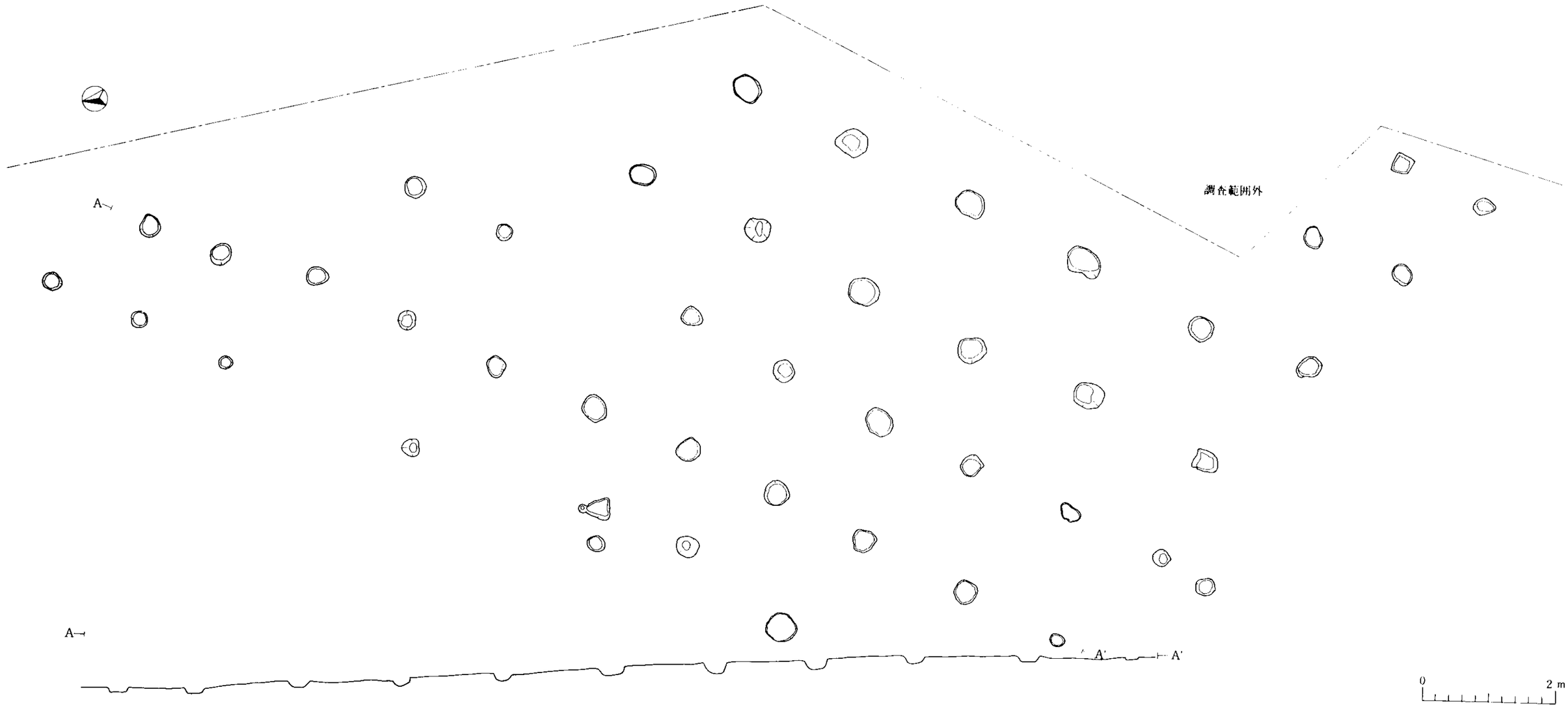
挿図番号	第172図	図版 80	規模 南北	m（ 尺）	東西 m（ 尺）
桁行方位	Ｎ－35°－Ｅ		桁行方向に対する梁行方向の角度	62°	
身舎	桁行	間 m（ 尺）	柱間平均	m（ 尺）	
	梁行	間 m（ 尺）	柱間平均	m（ 尺）	
	柱掘形平均値	径 36.5cm	深さ 13.2cm	柱痕跡径	cm
遺物					
備考	建物が調査範囲外に入り込んでおり、全体の規模は不明である。				

ピット	長径×短径×深さ（cm）	ピット	長径×短径×深さ（cm）
P1	30 × 30 × 7	P27	29 × 25 × 18
P2	25 × 25 × 6	P28	50 × 45 × 14
P3	24 × 19 × 13	P29	40 × 35 × 12
P4	35 × 25 × 11	P30	33 × 27 × 8
P5	33 × 25 × 9	P31	41 × 35 × 18
P6	40 × 32 × 10	P32	50 × 35 × 8
P7	38 × 29 × 10	P33	40 × 30 × 9
P8	35 × 20 × 8	P34	33 × 30 × 10
P9	35 × 35 × 13	P35	29 × 26 × 14
P10	28 × 28 × 2	P36	25 × 25 × 8
P11	35 × 27 × 23	P37	30 × 26 × 12
P12	38 × 38 × 14	P38	32 × 32 × 11
P13	44 × 39 × 20	P39	35 × 25 × 20
P14	35 × 35 × 12	P40	20 × 20 × 9
P15	35 × 32 × 24	P41	35 × 30 × 7
P16	42 × 42 × 17	P42	25 × 25 × 10
P17	56 × 42 × 18	P43	42 × 30 × 9
P18	43 × 35 × 2	P44	30 × 28 ×
P19	46 × 45 × 13	柱掘形平均値（cm）	
P20	40 × 38 × 21	36.3×31.1×13.7	
P21	34 × 30 × 11		
P22	46 × 37 × 23		
P23	47 × 40 × 47		
P24	34 × 30 × 11		
P25	36 × 33 × 18		
P26	45 × 30 × 28		



第170図　ＳＢ 005掘立柱建物跡模式図

第171図　ＳＢ004掘立柱建物跡実測図

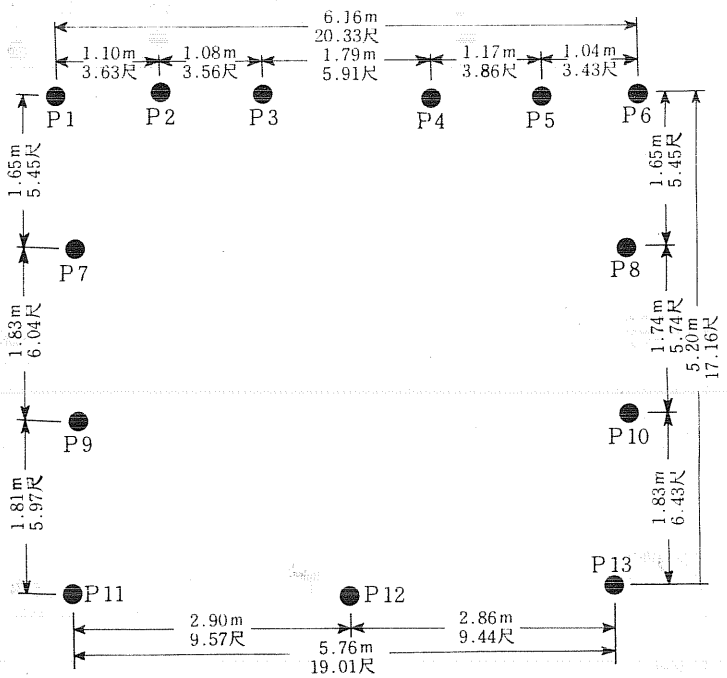


第172図　ＳＢ005掘立柱建物跡実測図

第120表　ＳＢ 006掘立柱建物跡観察表

挿図番号	第175図　　図版　80　　規模　南北　5.20m(17.16尺)　　東西　6.16m(20.33尺)
桁行方位	Ｎ－40.5°－Ｅ　　桁行方向に対する梁行方向の角度　93°
身舎	桁　行　3間　5.20m(17.16尺)　　柱間平均　1.73m(5.72尺) 梁　行　間　6.16m(20.33尺)　　柱間平均　1.23m(4.06尺) 柱掘形平均値　径　66.4cm　　深さ　75.5cm　　柱痕跡径　21.2cm
遺物	
備考	

ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)
P1	60 × 42 × 86	P2	25 × 25 × 52	P3	65 × 37 × 64	P4	55 × 55 × 70	P5	30 × 29 × 50	P6	62 × 60 × 70
P7	60 × 56 × 50	P8	110× 72 × 124	P9	75 × 45× 73	P10	58 × 55 × 80	P11	65 × 58 × 88	P12	94 × 53 × 99
P13	104× 83 × 76	P14	柱掘形平均値 (cm) 66.4×51.5×75.5								

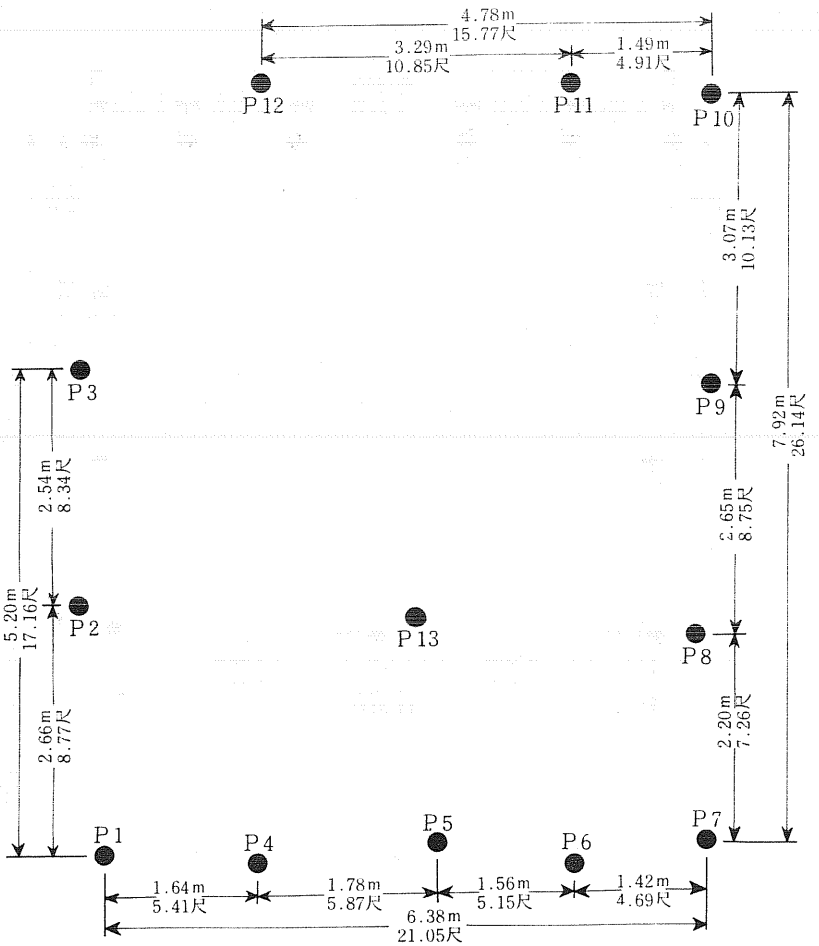


第173図　ＳＢ 006掘立柱建物跡模式図

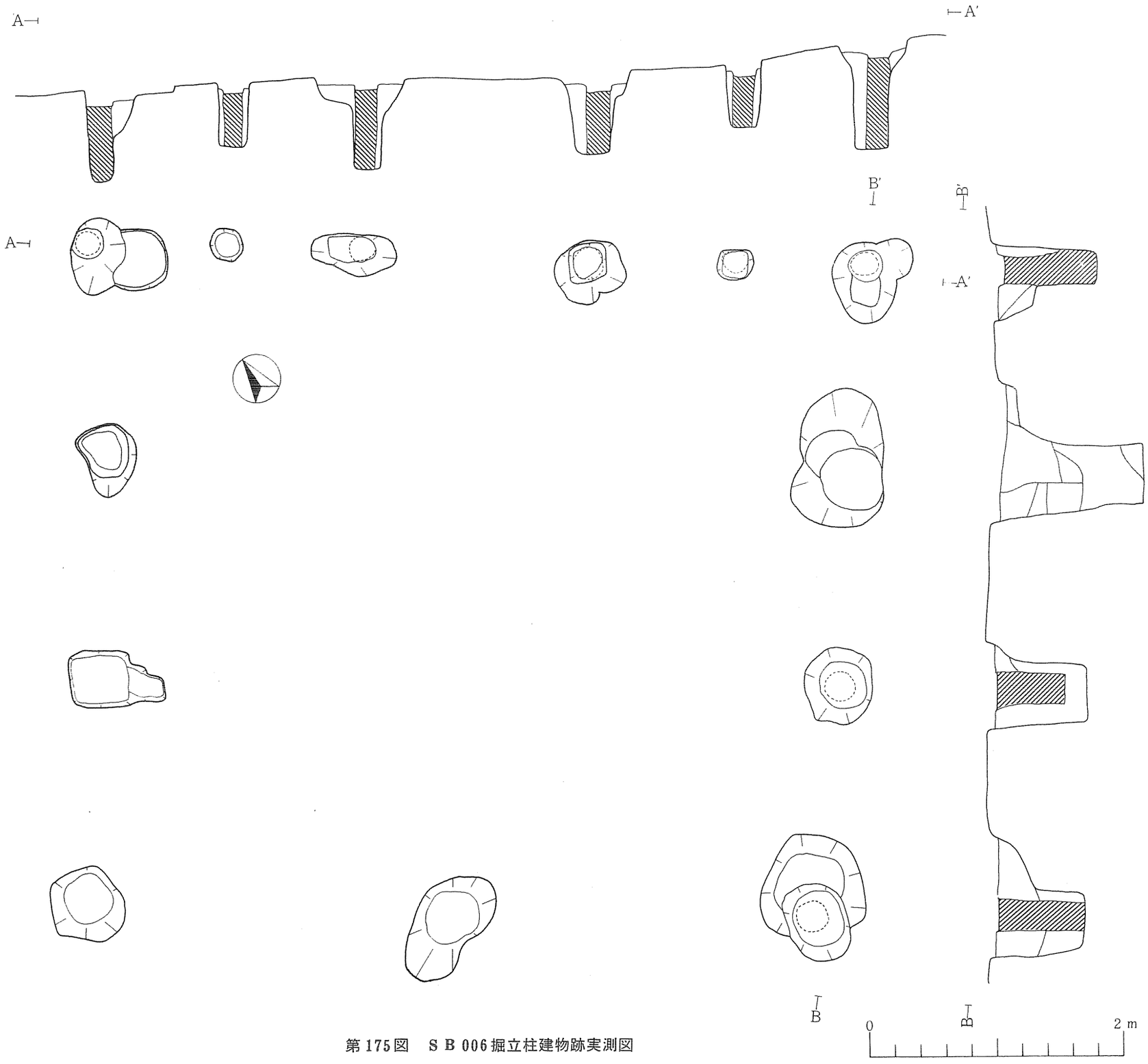
第121表　ＳＢ 007掘立柱建物跡観察表

挿図番号	第176図　図版	規模　南北　7.92m(26.13尺)　東西　6.38m(21.05尺)	
桁行方位	Ｎ－70°－Ｅ	桁行方向に対する梁行方向の角度　91.5°	
身舎	桁　行　3間　7.92m(26.13尺)	柱間平均　2.64m(8.71尺)	
	梁　行　4間　6.38m(21.05尺)	柱間平均　2.13m(7.04尺)	
	柱掘形平均値　径　35.0cm　深さ　35.9cm	柱痕跡径　20.4cm	
遺物			
備考	東側柱列だけが掘形が深く、柱痕跡も明確である。北西隅の柱は不明である。		

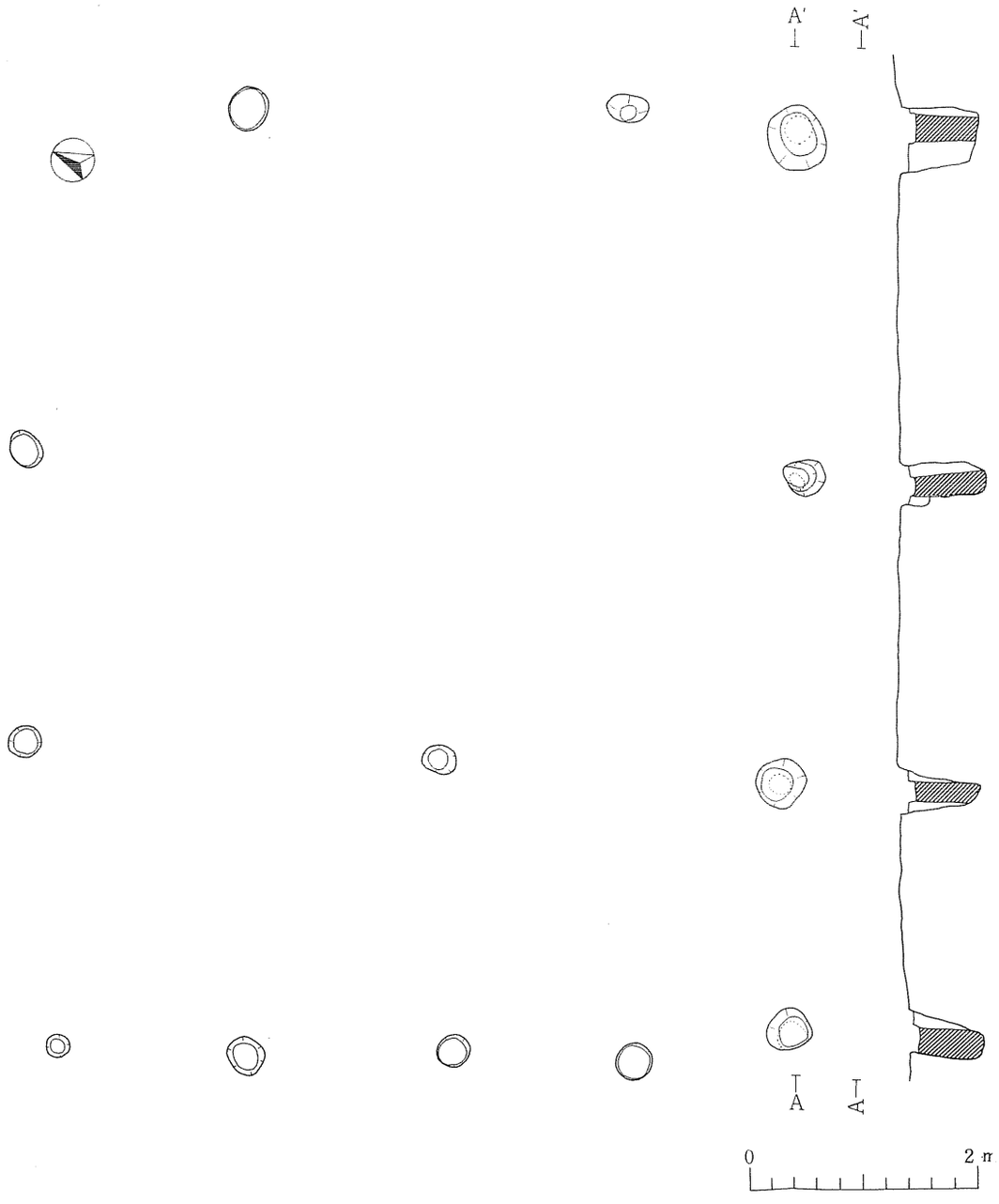
ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)
P1	19 × 19 × 13	P2	29 × 29 × 21	P3	31 × 26 × 15	P4	33 × 30 × 12	P5	30 × 28 × 22	P6	32 × 31 × 23
P7	40 × 35 × 70	P8	46 × 44 × 68	P9	35 × 31 × 72	P10	57 × 50 × 63	P11	36 × 25 × 40	P12	37 × 34 × 40
P13	30 × 25 × 16	柱掘形平均値(cm) 35.0×31.3×36.5									



第174図　ＳＢ 007掘立柱建物跡模式図



第175図　ＳＢ006掘立柱建物跡実測図

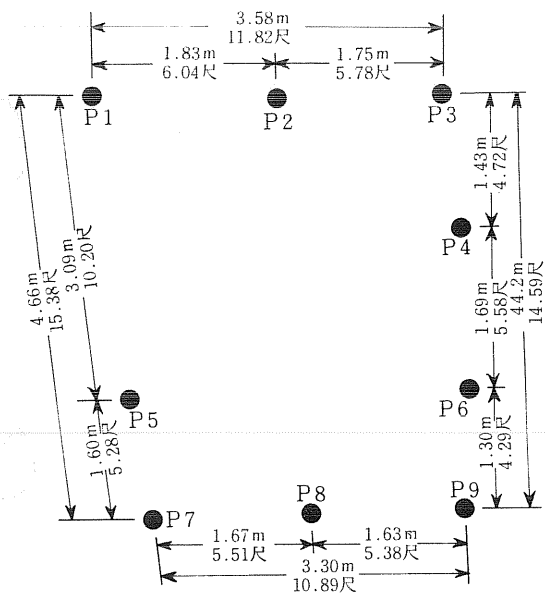


第176図　ＳＢ007掘立柱建物跡実測図

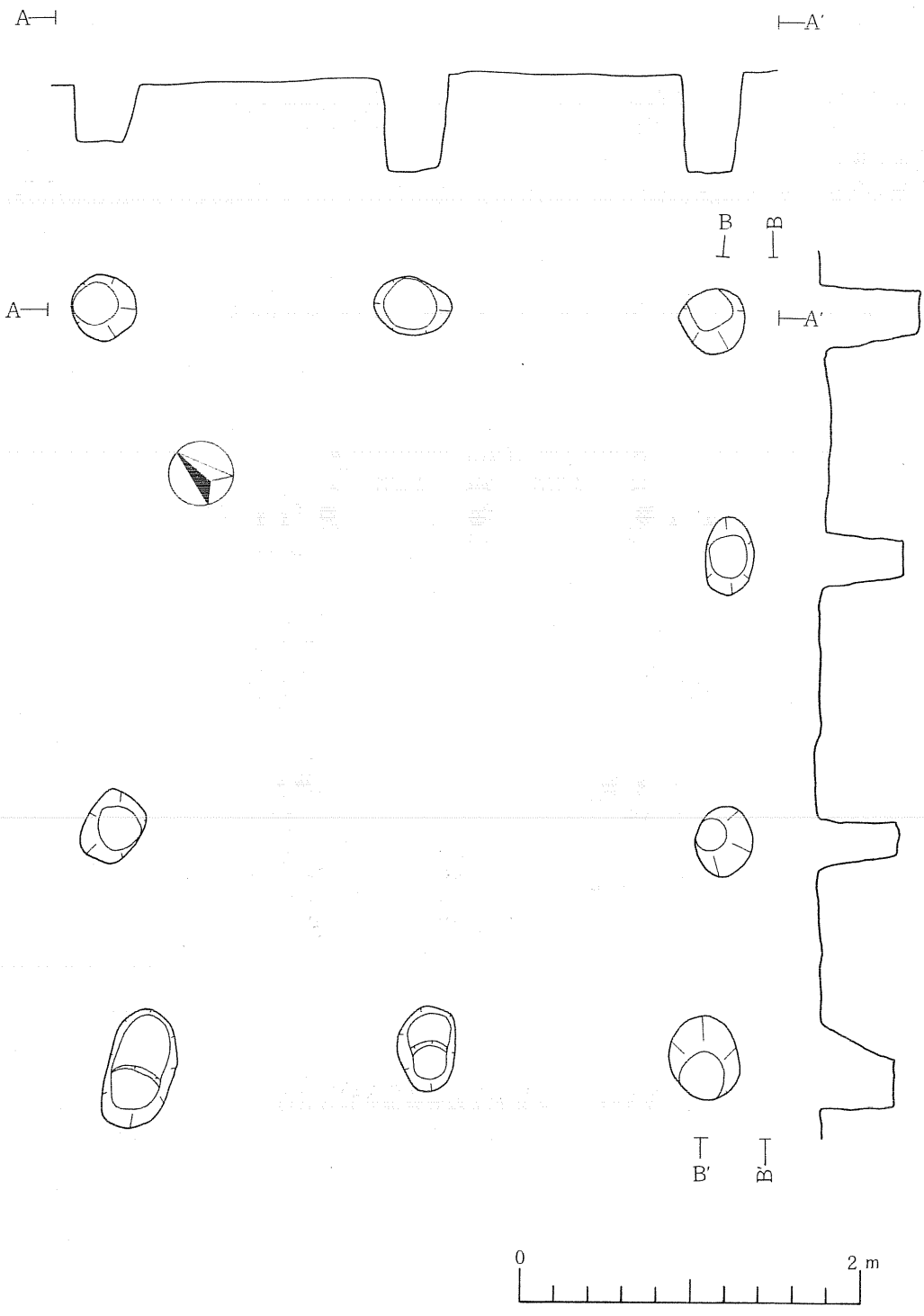
第122表　ＳＢ 008掘立柱建物跡観察表

挿図番号	第178図　図版	規模　南北　4.66m(15.37尺)　東西　3.58m(11.81尺)	
桁行方位	Ｎ－50.5°－Ｅ	桁行方向に対する梁行方向の角度　89.5°	
身舎	桁　行　3間　4.40m(14.52尺)	柱間平均　1.47m(4.86尺)	
	梁　行　2間　3.58m(11.81尺)	柱間平均　2.66m(8.79尺)	
	柱掘形平均値　径　45.3cm　深さ　42.8cm　柱痕跡径　11.5cm		
遺物			
備考			

ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)
P1	40 × 38 × 34	P2	44 × 34 × 52	P3	38 × 36 × 57	P4	44 × 28 × 49	P5	40 × 37 × 31	P6	32 × 40 × 43
P7	70 × 38 × 35	P8	50 × 36 × 42	P9	50 × 40 × 42	柱掘形平均値 (cm) 45.3×35.8×42.8					



第177図　ＳＢ 008掘立柱建物跡模式図

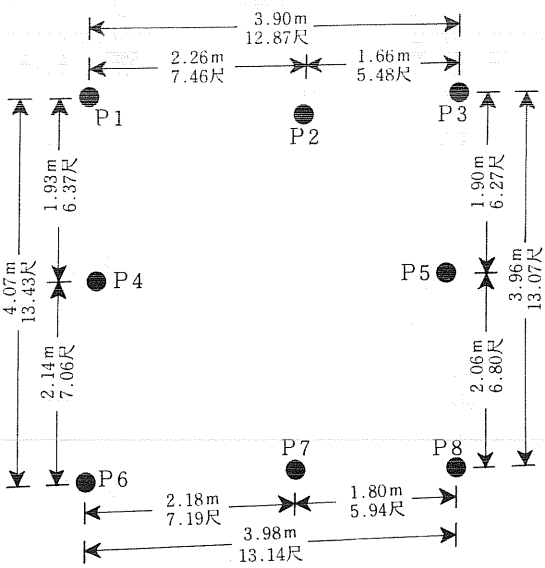


第178図　S B 008掘立柱建物跡実測図

第123表　ＳＢ 009掘立柱建物跡観察表

挿図番号	第183図　図版 81	規模　南北　4.07m(13.43尺)	東西　3.98m(13.13尺)
桁行方位	Ｎ－49°－Ｅ	桁行方向に対する梁行方向の角度	90.5°
身舎	桁　行　2間　4.07m(13.43尺)	柱間平均　2.03m(6.69尺)	
	梁　行　2間　3.98m(13.13尺)	柱間平均　1.99m(6.56尺)	
	柱掘形平均値　径　49.9cm　深さ　53.9cm	柱痕跡径　cm	
遺物			
備考			

ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)
P1	50 × 48 × 44	P2	46 × 40 × 61	P3	35 × 33 × 42	P4	62 × 54 × 52	P5	60 × 44 × 58	P6	50 × 48 × 67
P7	44 × 40 × 55	P8	52 × 36 × 53	柱掘形平均値 (cm) 49.9×42.9×54.0							

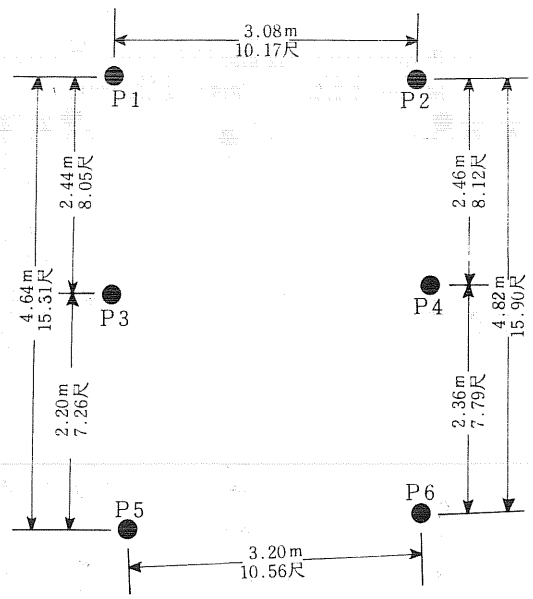


第179図　ＳＢ 009掘立柱建物跡模式図

第124表　ＳＢ 010掘立柱建物跡観察表

挿図番号	第183図　図版 81	規模　南北　4.82m(15.90尺)	東西　3.37m(11.12尺)
桁行方位	Ｎ―50°―Ｅ	桁行方向に対する梁行方向の角度	91°
身舎	桁　行　2間　4.82m(15.90尺)		柱間平均　2.41m(7.95尺)
	梁　行　1間　3.20m(10.56尺)		柱間平均　3.21m(10.61尺)
	柱掘形平均値　径　48cm	深さ　59cm	柱痕跡径　cm
遺物			
備考			

ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)
P1	56 × 50 × 76	P2	48 × 48 × 61	P3	41 × 38 × 40	P4	40 × 31 × 58	P5	53 × 52 × 76	P6	50 × 42 × 45
柱掘形平均値 (cm) 48.0×43.5×59.3											

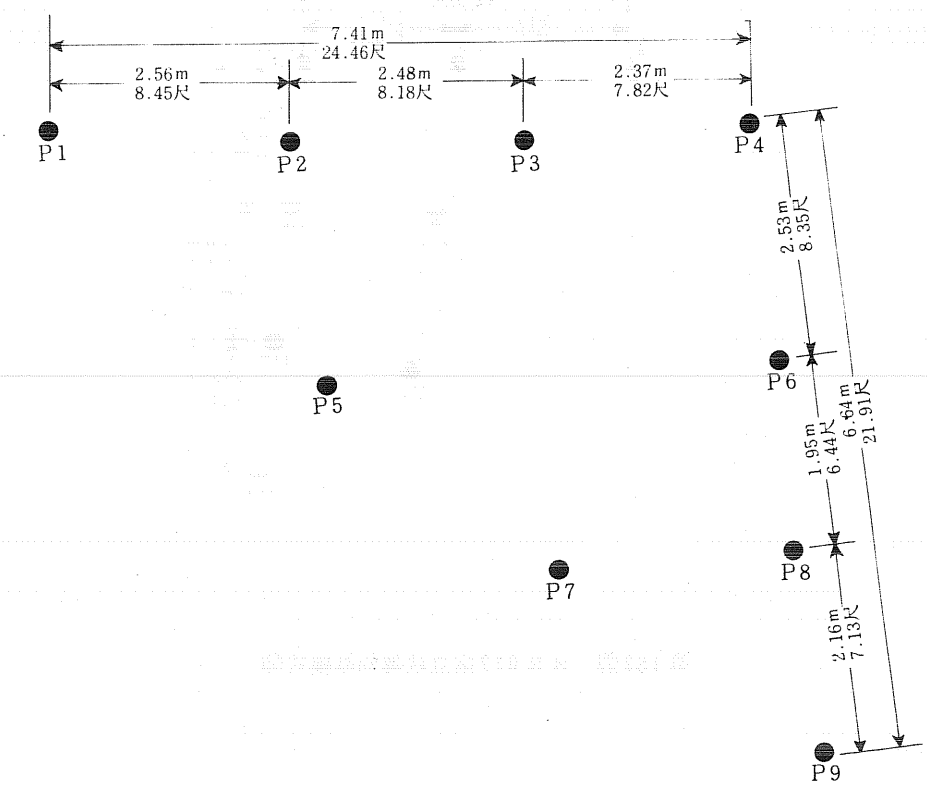


第180図　ＳＢ 010掘立柱建物跡模式図

第125表　ＳＢ 011掘立柱建物跡観察表

挿図番号	第183図	図版	81	規模	南北　m（　尺）　東西　m（　尺）
桁行方位	Ｎ－55°－Ｅ			桁行方向に対する梁行方向の角度	°
身舎	桁　行　3間以上　m（　尺）			柱間平均	2.21m（7.30尺）
	梁　行　3間以上　m（　尺）			柱間平均	2.47m（8.15尺）
	柱掘形平均値　径　42.9cm		深さ　49.6cm	柱痕跡径	cm
遺物					
備考	総柱建物と考えられるが、調査範囲外に入り込んでおり、規模は不明である。				

ピット	長径×短径×深さ（cm）	ピット	長径×短径×深さ（cm）	ピット	長径×短径×深さ（cm）	ピット	長径×短径×深さ（cm）	ピット	長径×短径×深さ（cm）	ピット	長径×短径×深さ（cm）
P1	53 × 32 × 33	P2	36 × 32 × 59	P3	40 × 35 × 41	P4	39 × 35 × 55	P5	42 × 40 × 90	P6	36 × 34 × 75
P7	40 × 38 ×	P8	48 × 43 × 44	P9	52 × 43 × 49						
柱掘形平均値（cm） 42.9×36.9×55.8											

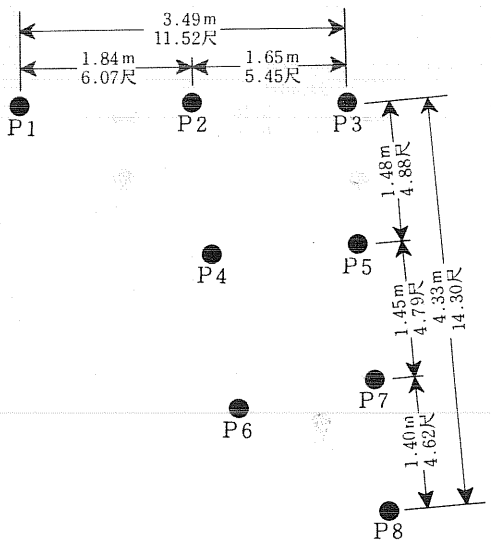


第181図　ＳＢ 011掘立柱建物跡模式図

第126表　ＳＢ 012掘立柱建物跡観察表

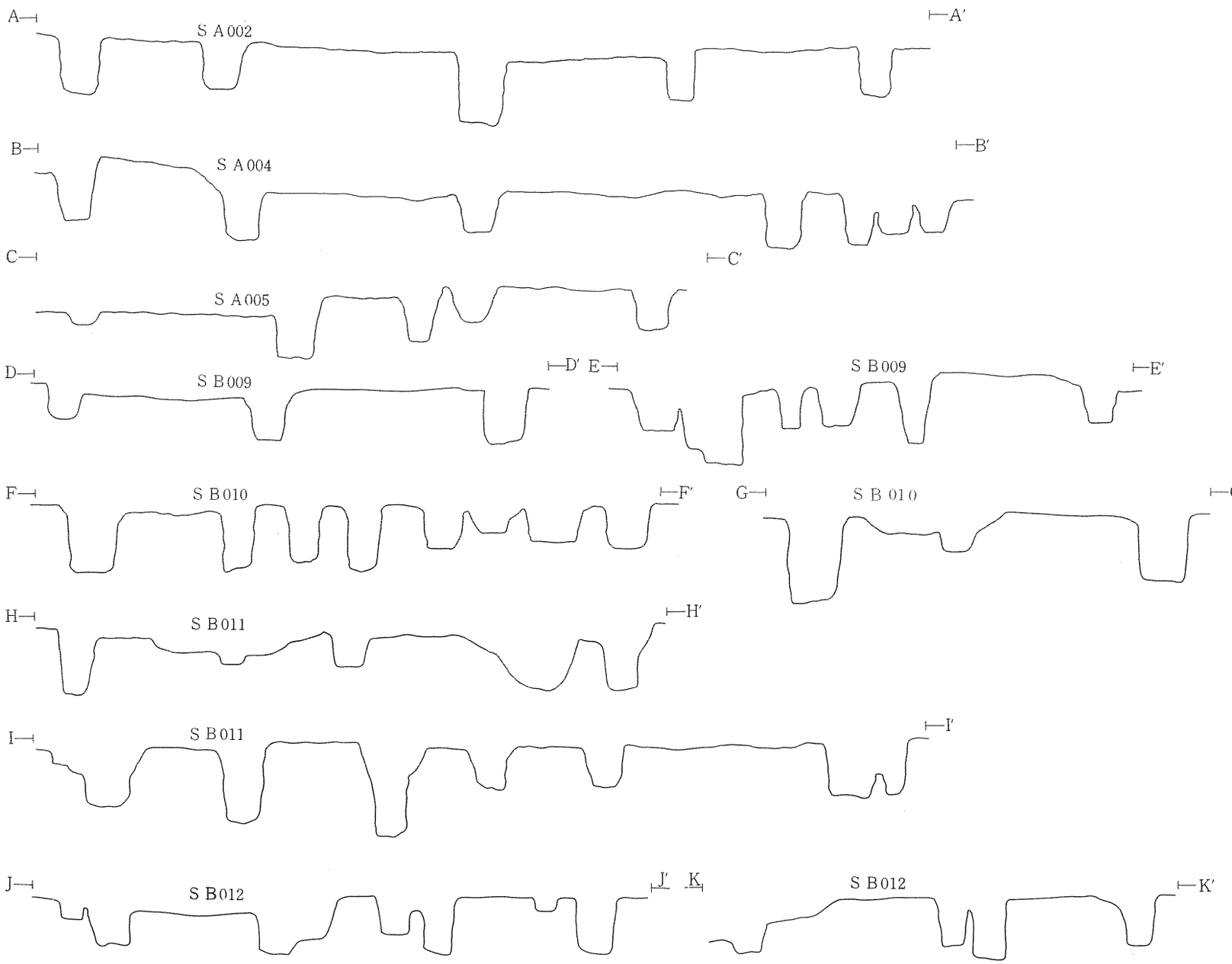
挿図番号	第183図	図版　81	規模　南北　　m(　　尺)　東西　　m(　　尺)	
桁行方位	Ｎ－52.5°－Ｅ		桁行方向に対する梁行方向の角度　85°	
身舎	桁　行	3間以上　m(　　尺)	柱間平均　1.44m(4.76尺)	
	梁　行	2間以上　m(　　尺)	柱間平均　1.74m(5.76尺)	
	柱掘形平均値　径　37cm		深さ　51.5cm	柱痕跡径　　cm
遺物				
備考	総柱建物であるが、調査範囲外に入り込んでおり、規模は不明である。			

ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)	ピット	長径×短径×深さ(cm)
P1	34 × 32 ×	P2	28 × 28 × 43	P3	42 × 34 × 46	P4	30 × 30 × 58	P5	42 × 37 × 50	P6	40 × 36 × 60
P7	39 × 33 × 53	P8	41 × 36 × 51	柱掘形平均値 (cm) 37.0×33.3×51.6							



第182図　ＳＢ 012掘立柱建物跡模式図

第183図　ＳＡ002・004・005柱列・ＳＢ009～012掘立柱建物跡・ＳＤ031～034溝実測図



第184図　S A 002・004・005柱列・S B 009～012掘立柱建物跡断面図

第127表　ＳＤ 002～015 溝観察表

		ＳＤ 002	ＳＤ 003	ＳＤ 004
挿図		付図２	付図２	付図２
図版			82	
法量	長さ	9.14m	(44.52)m	20.65m
	幅	0.28～0.84m	0.52～0.92m	0.15～0.47m
	深さ	0.12～0.25m	0.23～0.4 m	0.2 ～0.28m
底部の状態		水流による凹みを所々に有する。	水流による凹みが数多く見られる。	水流による多くの凹みを有する。
走行方向		E→W	E→W	E→W
備考		ＳＤ 002・003・004・005が東西に平行して走る。	ＳＩ 027・ＳＤ 012・013と重複する。新旧関係は、ＳＩ 027→ＳＤ 003→ＳＤ 012・013 である。	ＳＤ 015に続くものであろう。

		ＳＤ 005	ＳＤ 006	ＳＤ 007
挿図		付図２	付図２	付図２
図版				
法量	長さ	7.20m	(47.30)m	(46.7)m
	幅	0.3 ～0.44m	1.85～4.20m	0.35～0.8 m
	深さ	0.12～0.8 m	0.35～0.7 m	0.2 m
底部の状態		ほぼ平坦である。	平坦である。	水流による凹凸が数多く見られる。
走行方向		E→W	E→W	E→W
備考			ＳＩ 021・022・032と重複しており、ＳＤ 006が最も新しい。	ＳＩ 020・021 と重複するが、本遺構の方が新しい。

		ＳＤ 009	ＳＤ 011	ＳＤ 012
挿図		付図２	付図２	付図２
図版				82
法量	長さ	(16.0～20.0)m	7.0m	(35.6)m
	幅	0.40～0.95m	0.2～0.5 m	0.6～1.0 m
	深さ	0.10～0.30m	0.30～0.32m	0.12～0.28m
底部の状態		東側に水流による凹凸が見られるが、西側ではほぼ平坦である。	水流による凹みを所々に有するがほぼ平坦である。	ほぼ平坦であるが、所々に凹凸が見られる。
走行方向		E→W	E→W	N→S
備考		西側で２叉に別れる。	ＳＫ 005を切って作られている。	ＳＫ 036・ＳＤ 003・007・014・015・ＳＩ 024・026・028・031のすべてを切って作られている。

		ＳＤ 013	ＳＤ 014	ＳＤ 015
挿図		付図２	付図２	付図２
図版		82	82	82
法量	長さ	(24.0)m	(18.6)m	(14.2～16.0)m
	幅	0.38～0.48m	0.30～0.68m	0.42～0.62m
	深さ	0.28～0.4 m	0.20～0.23m	0.12～0.18m
底部の状態		平坦である。	東側には若干の凹凸が見られるが、西側は平坦である。	水流による小さな凹が、数多く存する。
走行方向		N→S	E→W	E→W
備考		ＳＫ 036・038・ＳＩ 026.ＳＤ 003・014・015を切って作られている。新旧関係は、ＳＫ 036・ＳＫ 037→ＳＩ 026→ＳＤ 003・014・015→ＳＤ 013である。	ＳＤ 012・013 により切られている。	ＳＩ 027・028・ＳＤ 012・013 と重複している。新旧関係はＳＩ 027・028→ＳＤ 015→ＳＤ 012・013 である。

第128表　ＳＤ 016～027 溝観察表

		ＳＤ 016	ＳＤ 017	ＳＤ 018
挿図		付図２	186	186
図版		83	83、84	83、84
法量	長さ	3.9m	20.0m	53.8m
	幅	0.14～0.34m	0.62～2.6 m	0.5～4.4 m
	深さ	0.10～0.15m	0.72～ m	0.18～ m
底部の状態		水流により底部には数多くの凹みを有する。	平坦である。	東側は平坦であるが、西側においては水流による大きな凹みが見られる。
走行方向		Ｅ→Ｗ	ＳＥ→ＮＷ	ＳＥ→ＮＷ
備考		ＳＩ 023・024 を切って作られている。	ＳＤ 018と重複しており、ＳＤ 017が古い。	ＳＤ 017を切って作られており、西側において２叉に別れる。

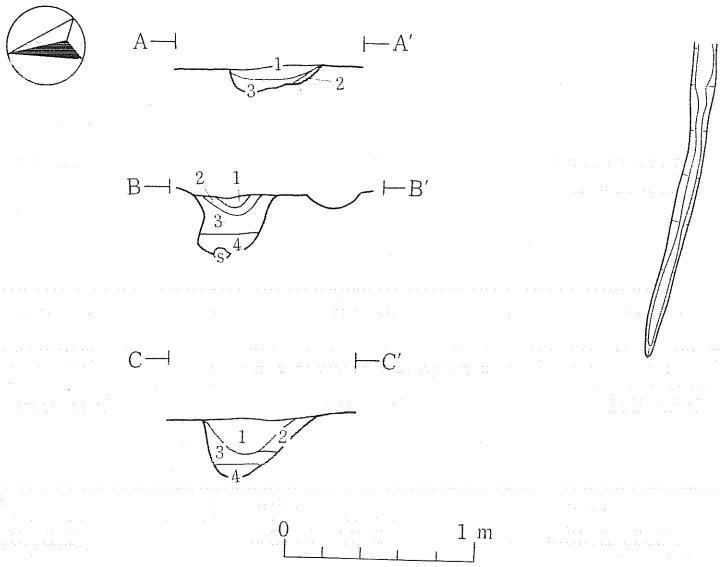
		ＳＤ 019	ＳＤ 020	ＳＤ 021
挿図		186	186	186
図版		83、84	83、84	83、84
法量	長さ	(7.8)m	(12.6)m	(26.8)m
	幅	0.2 ～0.7 m	0.3 ～0.6 m	0.7 ～1.9 m
	深さ	0.2 ～ m	0.16～	0.7 ～ m
底部の状態		平坦であるが所々に水流による凹みが見られる。	平坦である。	平坦である。
走行方向		ＳＥ→ＮＷ	ＳＥ→ＮＷ	ＳＥ→ＮＷ
備考		東側でＳＩ018、西側でＳＩ020と合流する。		西側でＳＤ018と合流する。

		ＳＤ 022	ＳＤ 023	ＳＤ 024
挿図		186	186	186
図版		83、84	83、84	83、84
法量	長さ	(4.4)m	(52.1)m	(36.8)m
	幅	0.2 ～0.5 m	0.6 ～1.4 m	0.22～0.75m
	深さ	0.15～0.2 m	0.8 ～ m	m
底部の状態		水流による凹みが点存する	底部には水流による凹みが数多く見られる。	平坦であるが所々に凹凸が見られる。
走行方向		Ｓ→ＥＷ	ＳＥ→ＮＷ	ＳＥ→ＮＷ
備考			西側でＳＤ027が合流する。	ＳＤ024～026がほぼ平行して走り、ＮＥ側で合流する。

		ＳＤ 025	ＳＤ 026	ＳＤ 027
挿図		186	186	186
図版		83、84	83、84	83、84
法量	長さ	(44.2)m	(40.6)m	(35.2)m
	幅	0.4 ～2.0 m	0.6 ～3.3 m	0.36～0.60m
	深さ	m	0.75～1.20m	(0.22～0.40)m
底部の状態		平坦であるが所々に水流による凹みがある。	水流による凹みが、とくに西側において大きくなる。	水流による激しい凹凸が見られる。
走行方向		ＳＥ→ＮＷ	ＳＥ→ＮＷ	Ｅ→Ｗ
備考		ＳＤ 024・026 と西側に合流する。	西ほど幅・深さが大きくなる。西側において、ＳＤ024・025が合流する。	ＳＤ 024・025 を東西に切り、西側において、ＳＤ023と合流する。

第129表　ＳＤ 028～034 溝観察表

		ＳＤ 028	ＳＤ 030	ＳＤ 031
挿図		186	186	183
図版		83	82	81
法量	長さ	38.9m	29.6m	6.78m
	幅	1.72～3.40m	0.56～1.48m	0.44～0.8 m
	深さ	0.31～0.59m	0.28～ m	0.20～0.36m
底部の状態		断面形は数段の段を有し、底面は極めて堅くしまっている。西側壁に沿って細い溝があるが水流による凹凸はない。	ほぼ平坦であるが、所々に水流による凹みを有する。	平坦であるが、底部内にピットが所々に見られる。
走行方向		S→N	E→W	S→N
備考		ＳＤ 030を切って作られており、北側でＳＤ 018に注ぎ込む。	ＳＫ043・ＳＤ028と重複する。新旧関係は、ＳＫ 043→ＳＤ030→ＳＤ028である。	ＳＤ032と北側で重複する。
		ＳＤ 032	ＳＤ 033	ＳＤ 034
挿図		183	183	183
図版		81	81	81
法量	長さ	12.3m	4.0m	3.2m
	幅	0.6～2.43m	0.33～0.48m	0.3～0.56m
	深さ	0.08～0.38m	0.24～0.3 m	0.09～0.12m
底部の状態		平坦であるが、所々に掘立柱建物跡のピットが見られる。	平坦であるが所々に掘立柱建物跡のピットが見られる	平坦であるが所々に掘立柱建物跡のピットが見られる
走行方向		S→N→W	S→N	S→N
備考		北側コーナーでＳＤ 031と合流する。	北端は深さ67.5cmの土壙状となる。	



A～A′

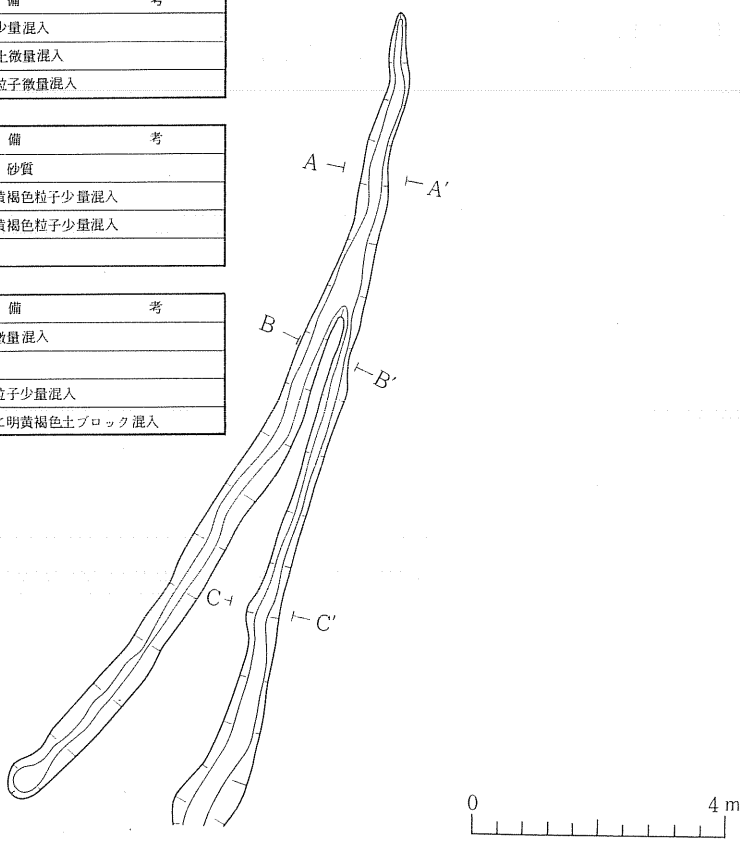
層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR 2/3）	小砂礫少量混入
2	黒　色（10 YR 3/1）	黄褐色土微量混入
3	黒褐色（10 YR 2/2）	砂質状粒子微量混入

B～B′

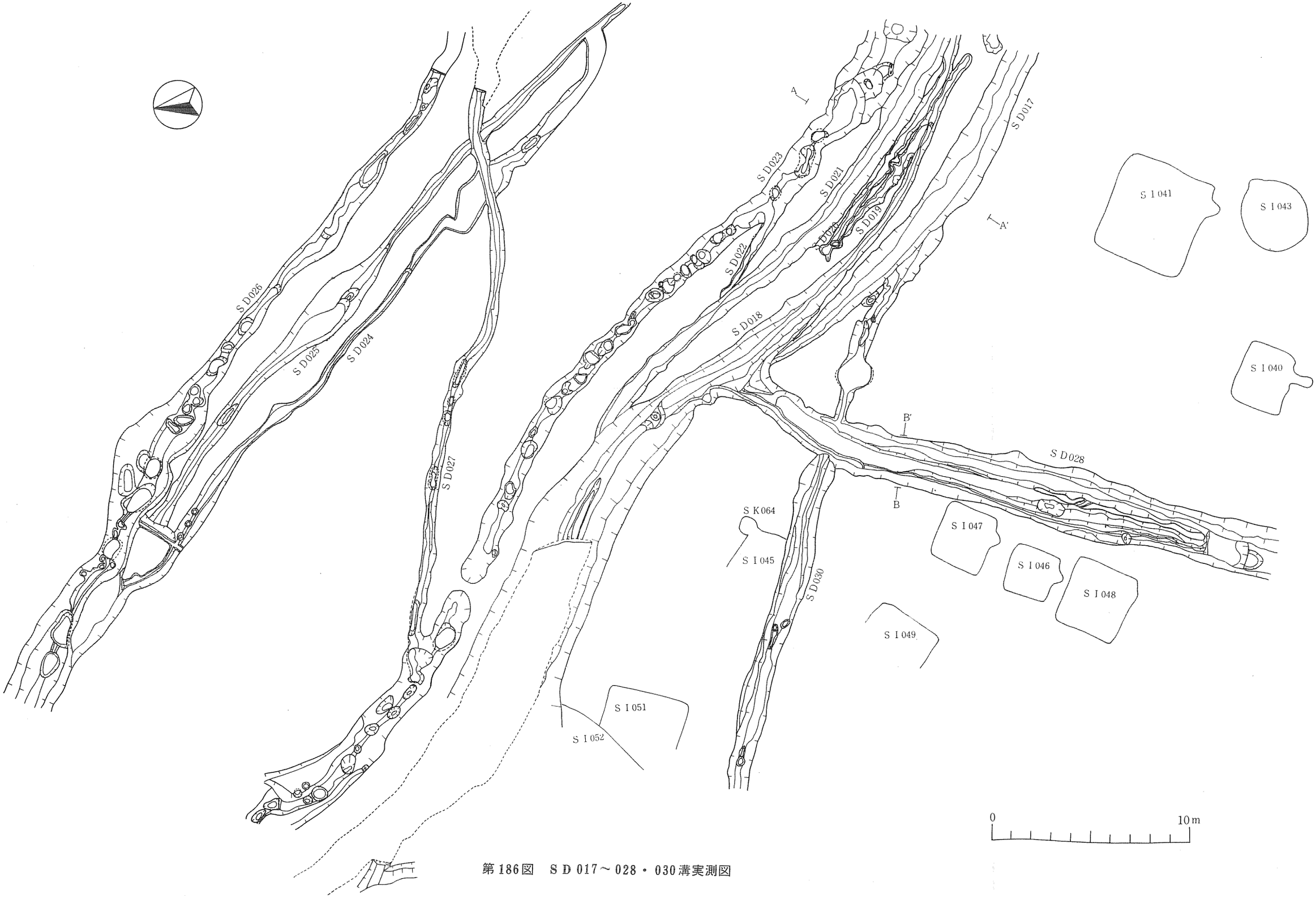
層	土色	備考
1	暗褐色（10 YR 3/3）	粘性弱、砂質
2	黒褐色（10 YR 2/2）	下部に黄褐色粒子少量混入
3	黒　色（10 YR 2/1）	上部に黄褐色粒子少量混入
4	黒　色（10 YR 1.7/1）	

C～C′

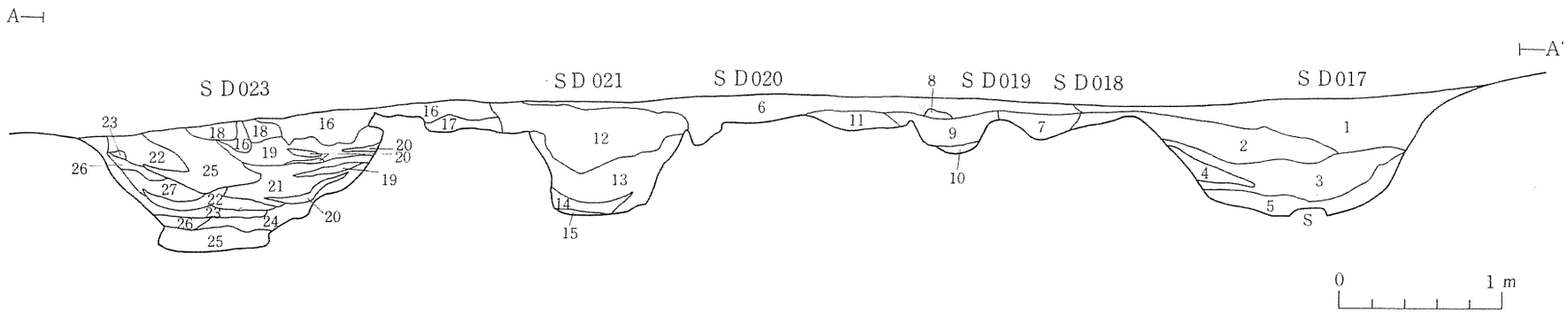
層	土色	備考
1	黒　色（10 YR 1.7/1）	小砂礫微量混入
2	黒褐色（10 YR 2/2）	粘性中
3	黒褐色（10 YR 2/2）	褐色土粒子少量混入
4	褐　色（10 YR 3/4）	層下部に明黄褐色土ブロック混入

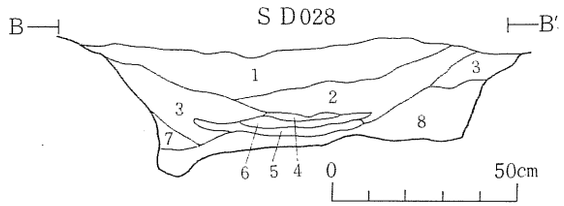


第185図　S D 009溝実測図



第186図　ＳＤ017～028・030溝実測図





層	土　　色	備　　考
1	黒　褐　色（10 YR 2/2）	黄褐色土少量混入
2	黒　　色（10 YR 2/1）	粘性強
3	黒　褐　色（10 YR 3/2）	黄褐色土混入
4	黒　褐　色（10 YR 2/2）	粘性強、極硬質
5	灰黄褐色（10 YR 4/2）	細　砂
6	黒　　色（10 YR 2/1）	粘性強、極硬質
7	にぶい黄褐色（10 YR 5/4）	粘性強、礫混り
8	黒　褐　色（10 YR 2/3）	粘性強、極軟質、黄褐色土混入

層	土　　色	備　　考
1	黒　　色（7.5 YR 2/1）	粘性弱
2	黒　　色（7.5 YR 2/1）	粘性弱、明黄褐色小礫混入
3	黒　　色（5 YR 1.7/1）	粘性弱
4	黒　　色（5 YR 1.7/1）	明黄褐色の浮石多量に混入
5	黒　　色（5 YR 1.7/1）	浮石と砂が混入
6	黒　褐　色（10 YR 3/2）	浮石混入
7	黒　褐　色（10 YR 2/2）	浮石混入
8	暗　褐　色（10 YR 3/3）	
9	黒　褐　色（7.5 YR 2/2）	
10	黒　　色（10 YR 2/1）	
11	黒　褐　色（5 YR 2/1）	
12	黒　　色（7.5 YR 1.7/1）	浮石粒極少量混入
13	黒　褐　色（10 YR 2/2）	明黄褐色地山土混入
14	黒　褐　色（10 YR 2/2）	

層	土　　色	備　　考
15	赤　黒　色（2.5 YR 2/1）	砂鉄を含む小砂礫混入
16	黒　褐　色（10 YR 3/2）	粘性弱
17	黒　褐　色（10 YR 2/2）	粘性強
18	黒　褐　色（10 YR 2/3）	明黄褐色土の小粒混入
19	暗　褐　色（10 YR 3/3）	砂　質
20	黒　褐　色（10 YR 2/2）	
21	にぶい黄褐色（10 YR 5/4）	黒褐色土が細かい層をなす。
22	にぶい黄褐色（10 YR 5/3）	黄褐色土混入
23	黒　　色（10 YR 2/1）	粘性弱
24	黒　褐　色（10 YR 3/1）	
25	灰黄褐色（10 YR 4/2）	小礫と砂、砂鉄含む。
26	にぶい黄褐色（10 YR 5/4）	砂混入
27	黒　褐　色（10 YR 2/2）	小礫混入

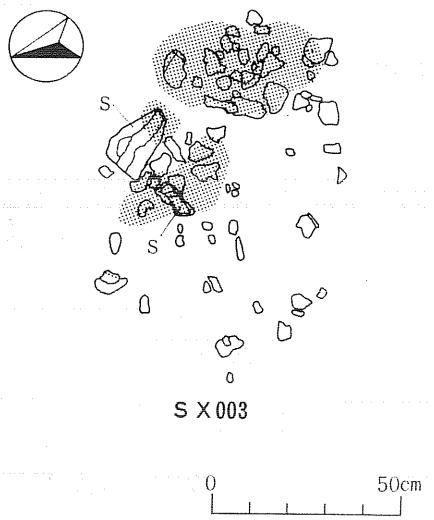
第187図　S D 017～023・024土層断面図

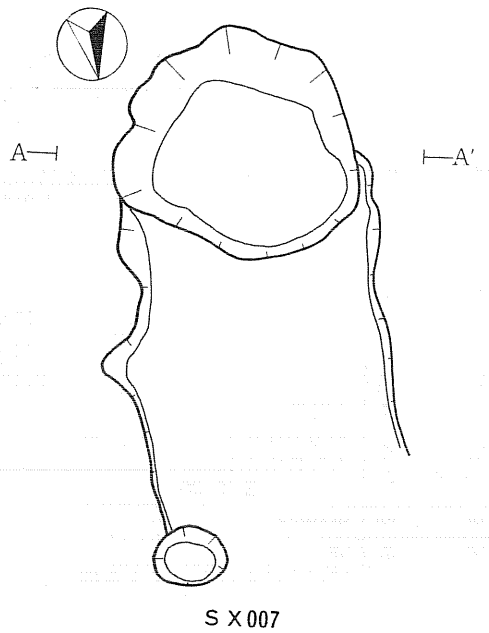
(6) その他の遺構

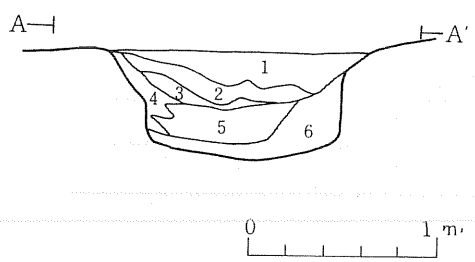
第130表　ＳＸ 003～008 観察表

		ＳＸ 003	ＳＸ 005	ＳＸ 007
挿図		第188図	第189図	第188図
図版			77	
形態		不明	平面形は、長方形で南壁には４段からなる階段状の張り出し部を有する。壁は底面より垂直に立ち上がり、断面形は箱状を示す。	全体に南北に長いが、南側に平面円形のピット状土壙が存し、北側は浅くなり消失している。
法量	長軸		548cm	
	短軸		177cm	
	深さ		144cm	56cm
	面積		9.1m²	
遺物		土師器		
備考		土器が集中する部分に、焼土が検出された。		

		ＳＸ 008
挿図		第190図
図版		58
形態		平面形は北ほど狭くなる卵状を呈し、断面形は、ほぼ皿状を示す。
法量	長軸	525cm
	短軸	180cm
	深さ	82cm
	面積	8.6m²
遺物		
備考		覆土中より石が70個検出された。その内約７割は火燃を受けている。

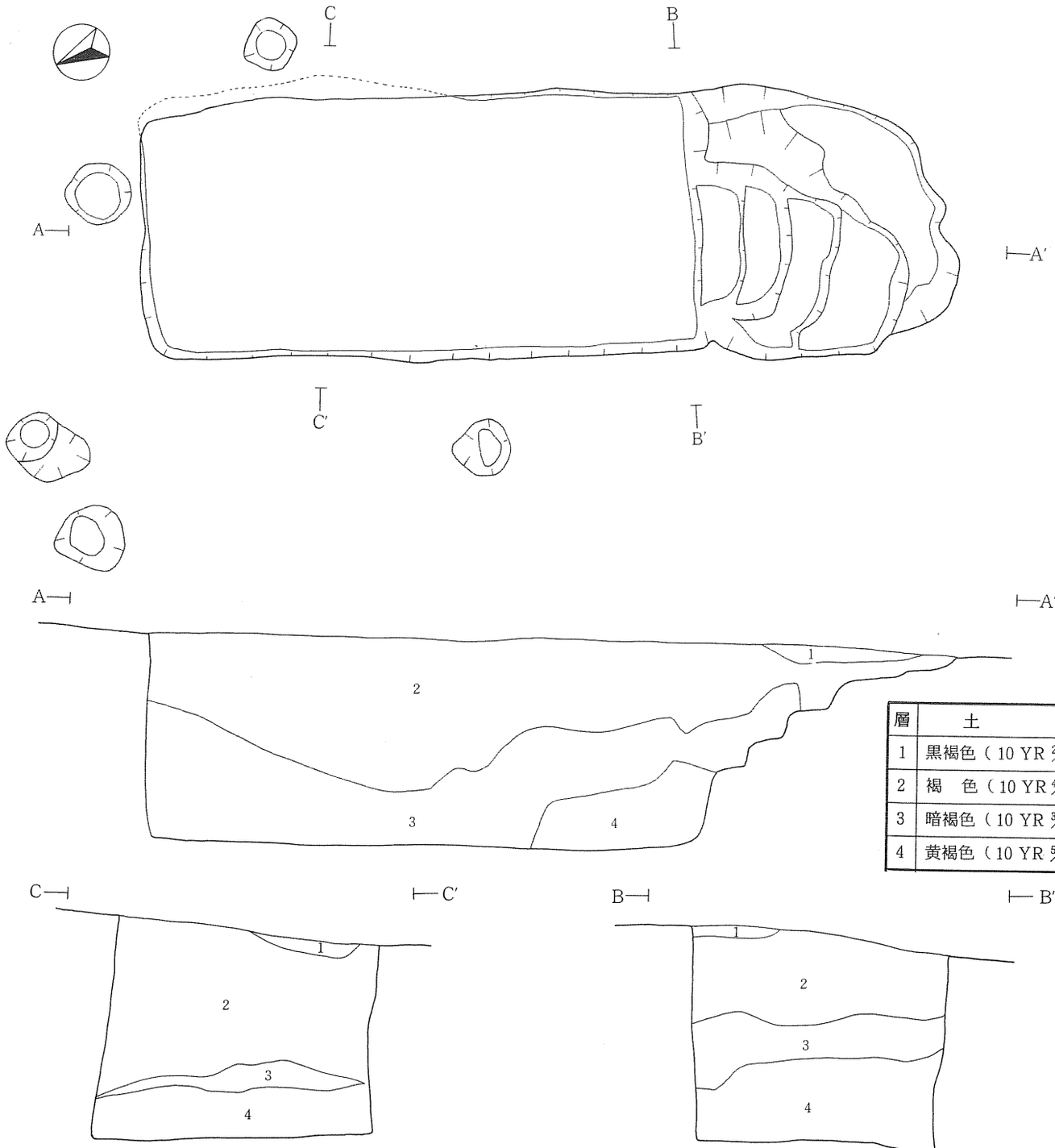






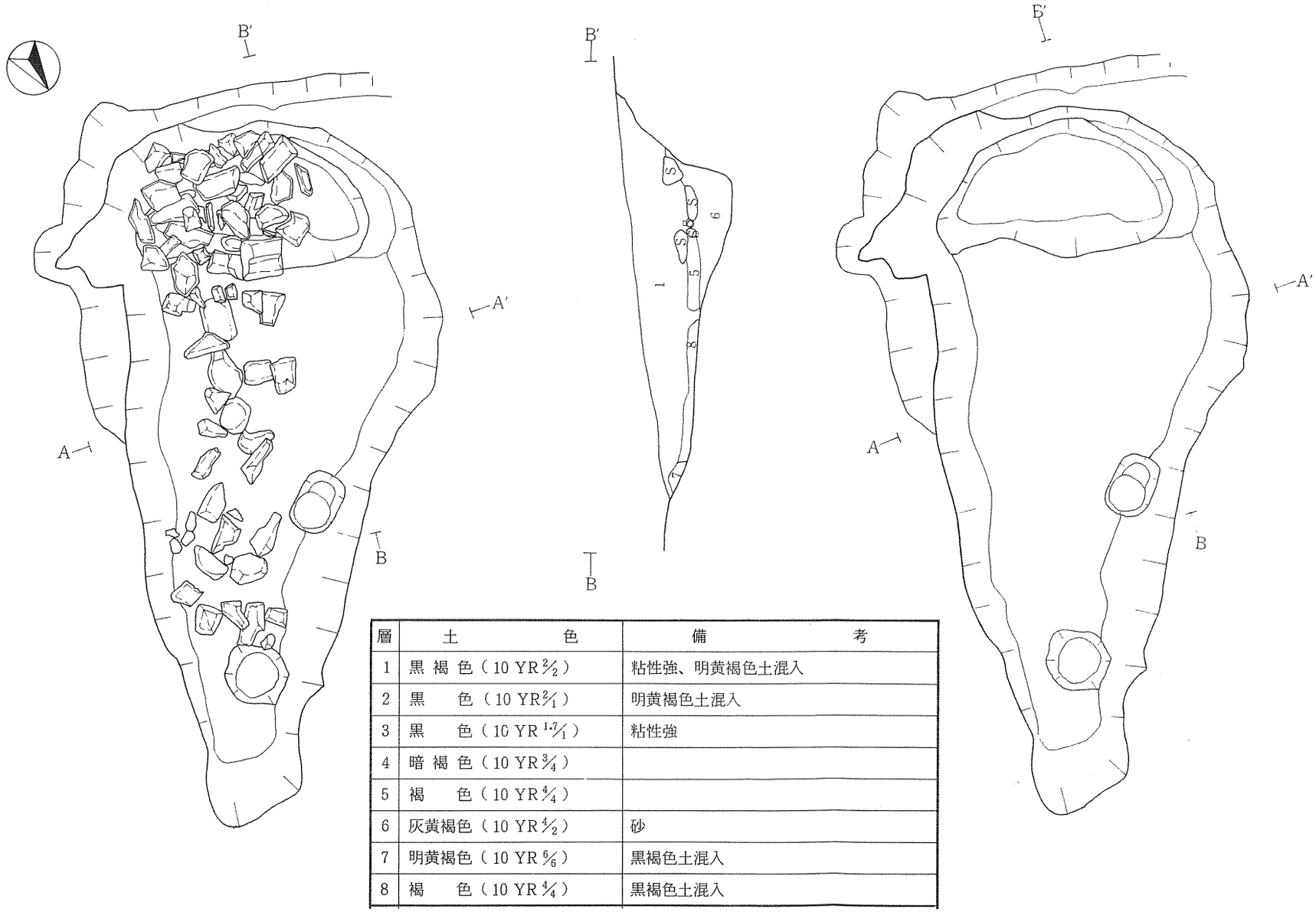
層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 2/3）	黄橙色土混入
2	黄橙色（10 YR 7/8）	
3	暗褐色（10 YR 3/3）	黄橙色土混入
4	黒褐色（10 YR 2/3）	黄褐色浮石混入
5	黒褐色（10 YR 3/2）	粘性弱、炭化物混入
6	暗褐色（10 YR 3/4）	黄褐色浮石混入

第188図　S X 003・007実測図



層	土　　色	備　　考
1	黒褐色（10 YR 2/3）	粘性強、黄褐色砂混入
2	褐　色（10 YR 4/6）	粘性弱、礫、暗褐色土ブロック混入
3	暗褐色（10 YR 3/4）	黄褐色砂混入
4	黄褐色（10 YR 5/6）	砂、10cm大の礫混入

第189図　ＳＸ005実測図



層	土　　色	備　　考
1	黒 褐 色（10 YR 2/2）	粘性強、明黄褐色土混入
2	黒　　色（10 YR 2/1）	明黄褐色土混入
3	黒　　色（10 YR 1.7/1）	粘性強
4	暗 褐 色（10 YR 3/4）	
5	褐　　色（10 YR 4/4）	
6	灰黄褐色（10 YR 4/2）	砂
7	明黄褐色（10 YR 6/6）	黒褐色土混入
8	褐　　色（10 YR 4/4）	黒褐色土混入

0　　2 m

第190図　ＳＸ008実測図

第131表　ＳＸ 002・003 出土遺物観察表

出土遺構		ＳＸ 002		ＳＸ 002		ＳＸ 003	
挿図番号		第191図1		第191図2		第191図3	
器種		甕		甕		甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	cm		cm		9.0cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		細かい		細かい		幾分砂が混入している	
焼成		良　好		良　好		良　好	
色調		橙　色		明赤褐色		にぶい橙色ないし明赤褐色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ			
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ		
	胴	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ユビナデ		
	底					ヘラケズリ	
備考				口縁部内面に煤付着		底面に莚状圧痕	

出土遺構		ＳＸ 003		ＳＸ 003		ＳＸ 003	
挿図番号		第191図4		第191図5		第191図6	
器種		甕		甕		甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	7.3cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		全体としては細かいが2～5㎜大の小石を含む		幾分砂を含む		1～3㎜大の砂、小石が多い	
焼成		良　好		良　好		良　好	
色調		灰褐色		橙　色		明赤褐色	
成形				粘土紐巻き上げ			
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁			ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴			ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ハケナデ
	底	ヘラナデ	ハケナデ				
備考		外面に煤状物質付着 底面縄圧痕 外縁部のみヘラナデ					

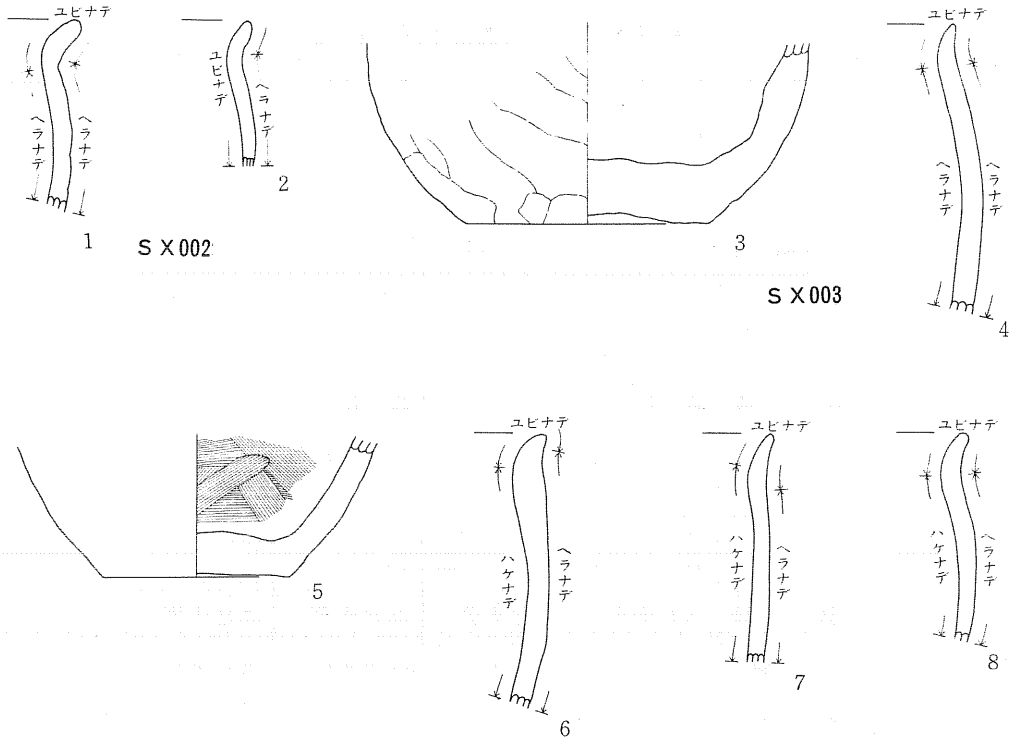
第132表　ＳＸ 003・006 出土遺物観察表

出土遺構		ＳＸ 003		ＳＸ 003		ＳＸ 006	
挿図番号		第191図７		第191図８		第191図９	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	cm		cm		(7.6)cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		細かい		細かい		５～７㎜大の小石を含む	
焼成		良　好		良　好		良　好	
色調		橙　色		にぶい赤褐色		にぶい橙色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ		
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ヘラナデ
	底						ヘラナデ
備考							

出土遺構		ＳＸ 006		ＳＸ 006		ＳＸ 006	
挿図番号		第191図10		第191図11		第191図12	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	9 cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		幾分砂が多い		３～５㎜の小石を含む		細かい	
焼成		良　好		良　好		良　好	
色調		にぶい褐色ないし褐灰色		橙色ないし明褐色		橙　色	
成形				粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁			ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴			ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ユビナデ
	底	ヘラケズリ	ヘラナデ				
備考		底面木の葉文		内面炭化物付着		内面煤状炭化物付着	

第133表　ＳＸ 006出土遺物観察表

挿図番号		第191図13		第191図14	
器種		土師器坏		土師器甕	
法量	口径	cm		cm	
	底径	cm		cm	
	器高	cm		cm	
胎土		細かい		細かい	
焼成		良　好		良　好	
色調		にぶい褐色		にぶい褐色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ	
		外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ	ユビナデ
	底				
備考		内面口縁部に炭化物付着			



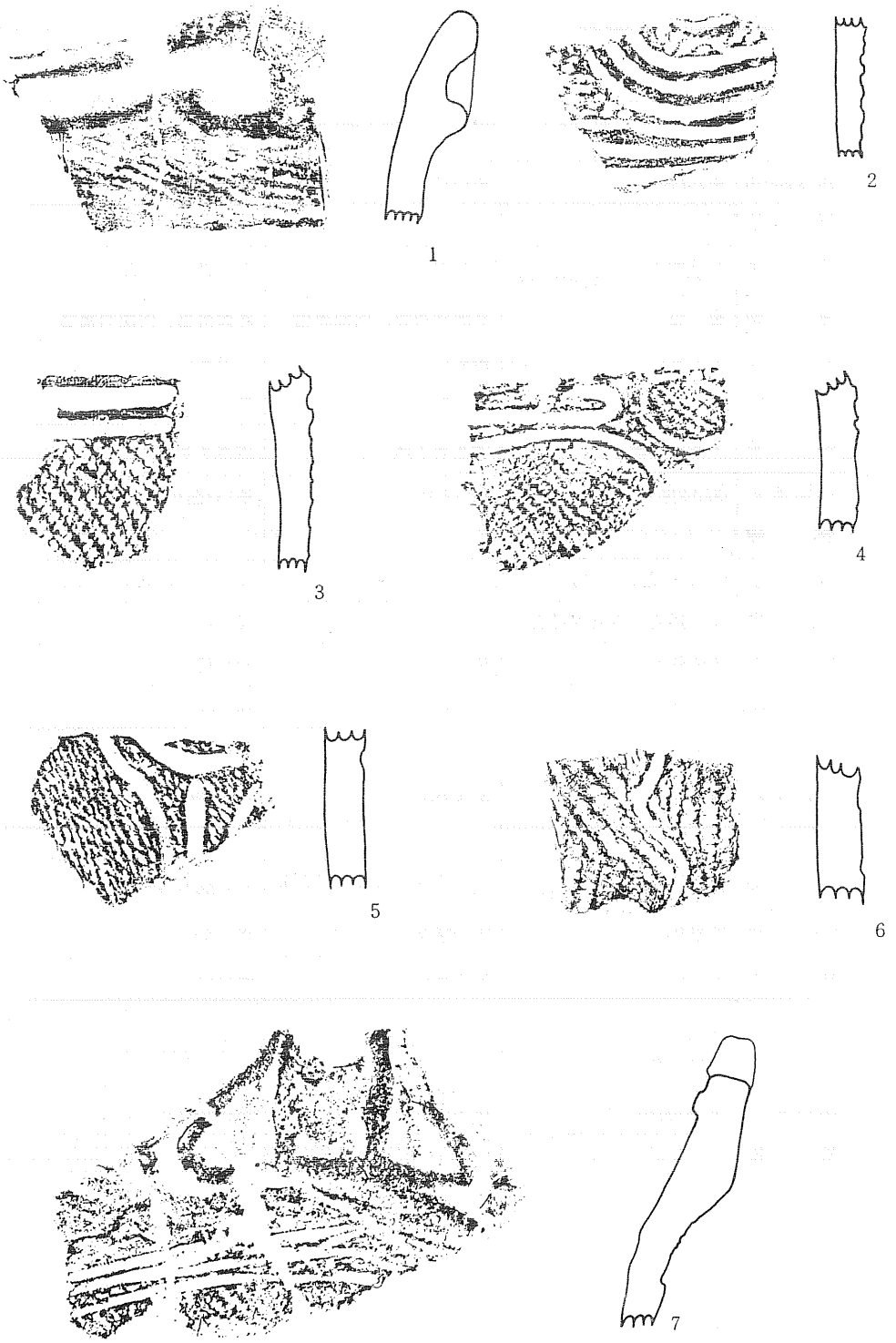
第191図　SX002・003・006出土遺物実測図

0　10cm

〔2〕　遺構外出土遺物

第134表　遺構外出土遺物観察表(1)

挿図番号	第192図1	第192図2	第192図3
器　種			
文　様	ＬＲ縄文 口縁部突起に渦巻状沈線	ＲＬ縄文→沈線	ＲＬ縄文→沈線
色　調	橙　色	外面灰褐色、内面黒色	外面褐色、内面明褐色
胎　土	やや荒い	細かい	やや荒い
焼　成	良　好	良　好	良　好
備　考	大木８ｂ式	大木８ｂ式	大木８ｂ式
挿図番号	第192図4	第192図5	第192図6
器　種			
文　様	ＬＲ縄文→沈線	Ｌ撚糸→沈線	ＲＬ・ＬＲ縄文→沈線
色　調	外面褐色、内面明褐色	橙　色	褐　色
胎　土	やや荒い	荒　い	やや荒い
焼　成	良　好	良　好	良　好
備　考	大木８ａ式	大木９式	
挿図番号	第192図7	第193図8	第193図9
器　種			
文　様	ＲＬ縄文→沈線 突起部外面に粘土紐貼付	ＲＬ縄文→沈線、口唇部沈線	ＬＲ縄文→沈線
色　調	灰褐色	明赤褐色	黒　色
胎　土	荒　い	やや荒い	細かい
焼　成	良　好	良　好	良　好
備　考	円筒上層ｅ式	円筒上層ｅ式	
挿図番号	第193図10	第193図11	第193図12
器　種			
文　様	工字文、内面に1条の沈線	工字文、粘土瘤貼付	平行沈線
色　調	明赤褐色	暗褐色	褐　色
胎　土	細かい	細かい	細かい
焼　成	良　好	良　好	良　好
備　考	大洞A′式	大洞A′式	大洞A′式



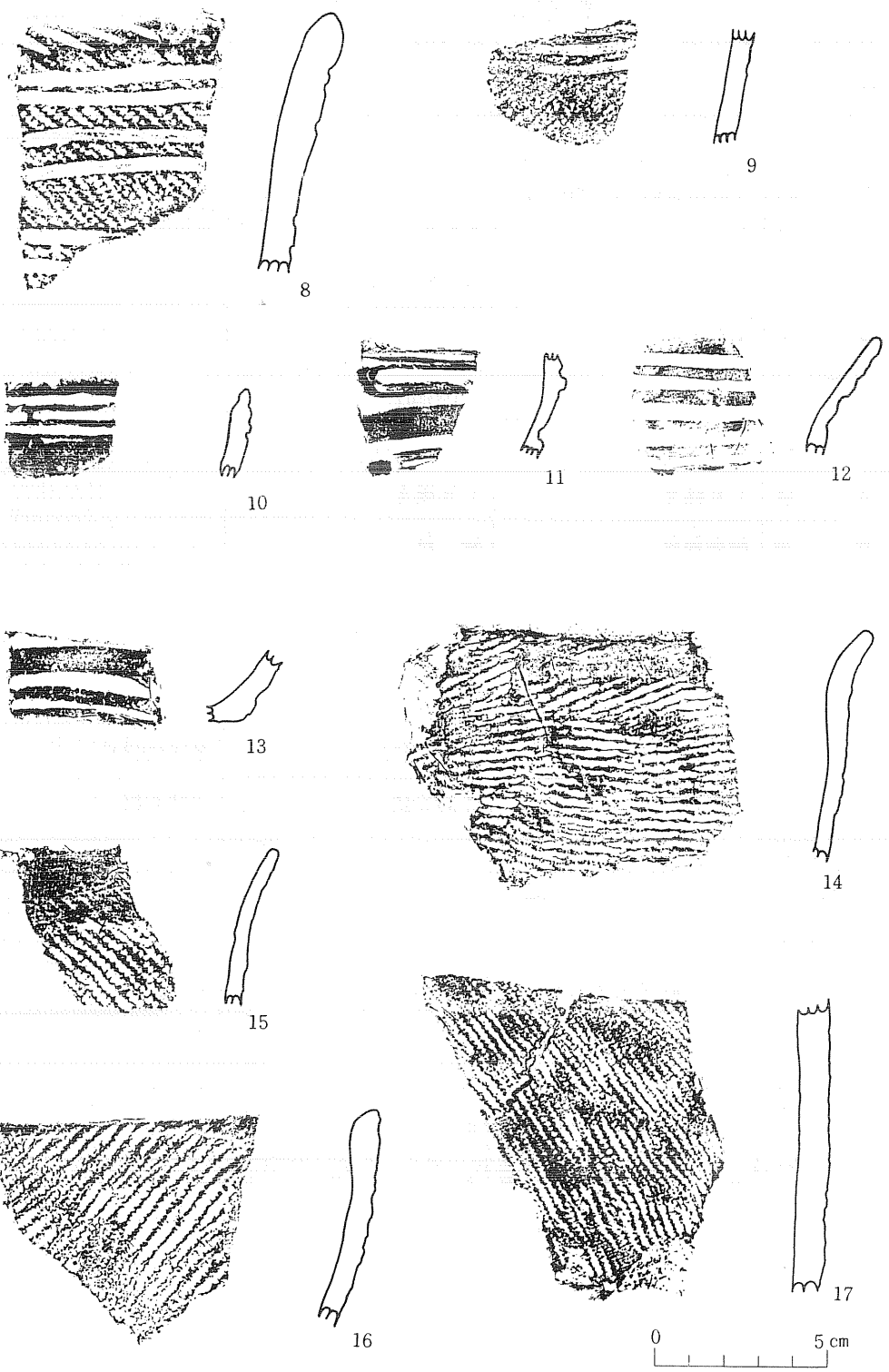
第192図　遺構外出土遺物拓影図（1）

第135表　遺構外出土遺物観察表(2)

挿図番号		第193図13		第193図14		第193図15	
器種							
文様		沈線		R撚糸		LR縄文、口縁部研磨	
色調		外面黒褐色、内面褐色		暗褐色ないし暗赤褐色		褐色	
胎土		細かい		やや荒い		やや荒い	
焼成		良好		良好		良好	
備考		大洞A'式					

挿図番号		第193図16		第193図17			
器種							
文様		LR縄文		LR縄文			
色調		暗赤褐色		褐色			
胎土		細かい		細かい			
焼成		良好		良好			
備考							

挿図番号		第194図18		第194図19		第194図20	
器種		土師器甕		土師器甕		土師器甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		2～3㎜大の小石を含む		細かい		砂やや多い	
焼成		良好		良好		良好	
色調		明赤褐色		赤褐色		橙色	
成形		粘土紐巻き上げ		粘土紐巻き上げ			
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ
	胴	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ハケナデ	ヘラナデ	ユビナデ
	底						
備考							

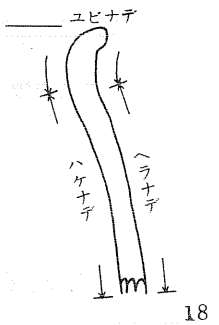


第193図　遺構外出土遺物拓影図（2）

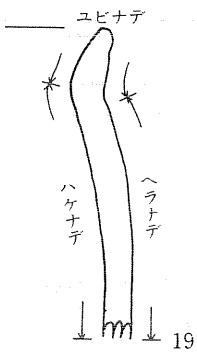
第136表　遺構外出土遺物観察表(3)

挿図番号		第194図21		第194図22		第194図23	
器種		土師器甕		須恵器壺		須恵器甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		細かい		1㎜大の小石を含む		1～3㎜大の小石を含む	
焼成		良好		良好		良好	
色調		橙色		灰色		灰色	
成形		粘土紐巻き上げ		ロクロ			
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁	ユビナデ	ユビナデ				
	胴	ヘラナデ	ハケナデ		刷毛目状	平行叩目	
	底			回転糸切り			
備考				両面にロクロ成形痕			

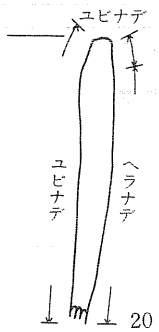
挿図番号		第194図24		第194図25		第194図26	
器種		須恵器甕		須恵器甕		須恵器甕	
法量	口径	cm		cm		cm	
	底径	cm		cm		cm	
	器高	cm		cm		cm	
胎土		細かい		細かい		1～4㎜大の小石を含む	
焼成		良好		良好		良好	
色調		外面　にぶい褐色 内面　灰色		両面　灰色 断面　暗赤褐色		灰色	
成形							
		外面	内面	外面	内面	外面	内面
調整	口縁						
	胴	叩目		平行叩目		斜めに交差させた平行叩目	
	底						
備考		頸部破片					



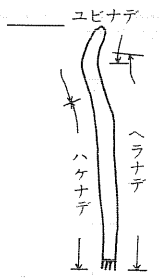
18



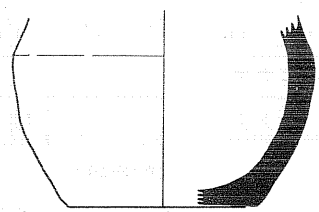
19

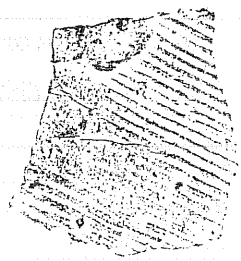


20



21


22



23

24

25

26

第194図　遺構外出土遺物実測図、拓影図（3）

0　5 cm

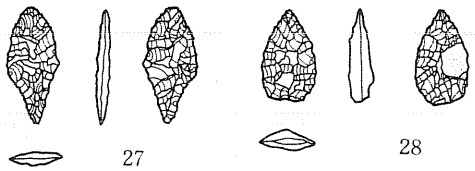
第137表　遺構外出土遺物観察表(4)

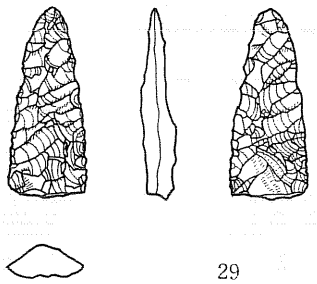
挿図番号		第195図27	第195図28	第195図29
器種		石　鏃	石　鏃	石　槍
法量	長さ	3.1cm	2.4cm	5.0cm
	幅	1.4cm	1.4cm	2.0cm
	厚さ	0.3cm	0.6cm	0.8cm
重量		1.1g	2.0g	12.5g
石質		珪質頁岩	石　英	泥　岩
備考			基部欠損 アスファルト付着	基部欠損

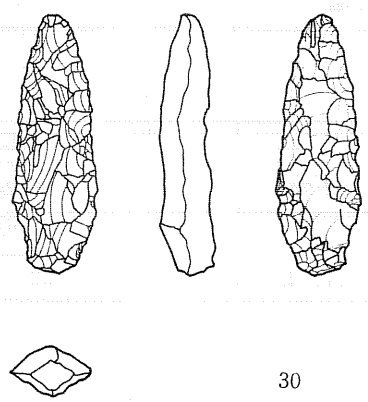
挿図番号		第195図30	第195図31	第195図32
器種		石　槍	石　匙	打製石斧
法量	長さ	6.8cm	6.9cm	11.8cm
	幅	2.2cm	2.7cm	4.2cm
	厚さ	1.2cm	0.6cm	1.9cm
重量		18.6g	11.9g	92　g
石質		泥　岩	泥　岩	泥　岩
備考				

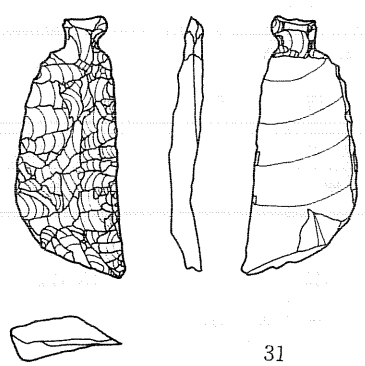
挿図番号		第196図33	第196図34	第196図35
器種		磨製石斧	磨製石斧	石　棒
法量	長さ	6.7cm	6.4cm	15.1cm
	幅	5.6cm	5.6cm	3.2cm
	厚さ	2.8cm	2.6cm	1.7cm
重量		154　g	111　g	137　g
石質		凝灰岩	凝灰岩	粘板岩
備考		基部欠損	基部欠損	両端部欠損

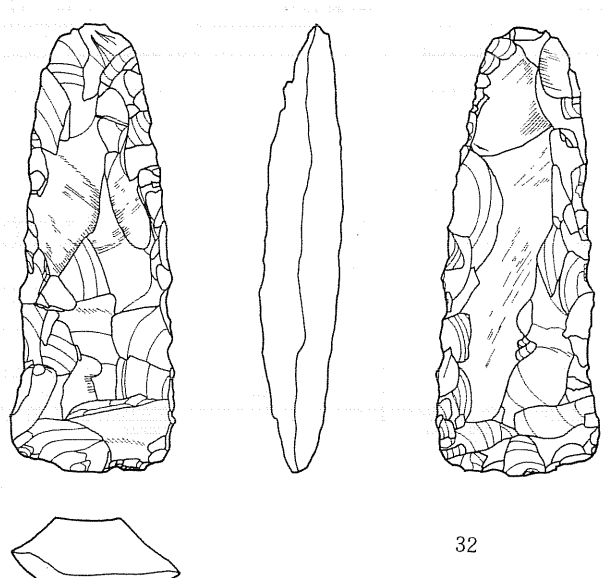
挿図番号		第196図36	第197図37	第197図38
器種		石　棒	不定形石器	不定形石器
法量	長さ	12.6cm	11.8cm	4.3cm
	幅	3.1cm	6.0cm	4.9cm
	厚さ	2.0cm	2.0cm	1.2cm
重量		130　g	122　g	23　g
石質		泥　岩	安山岩	頁　岩
備考		両端部欠損	アスファルト付着	





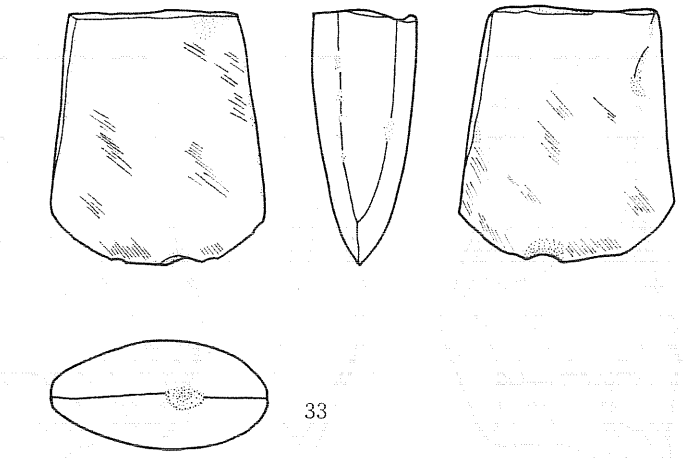




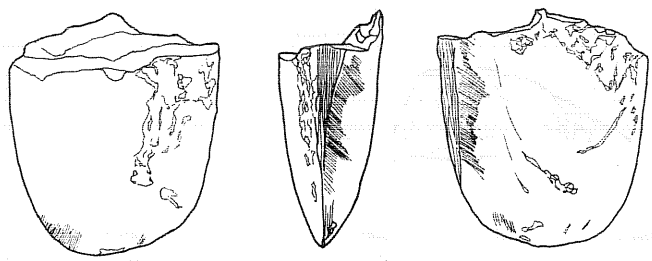


0 5 cm

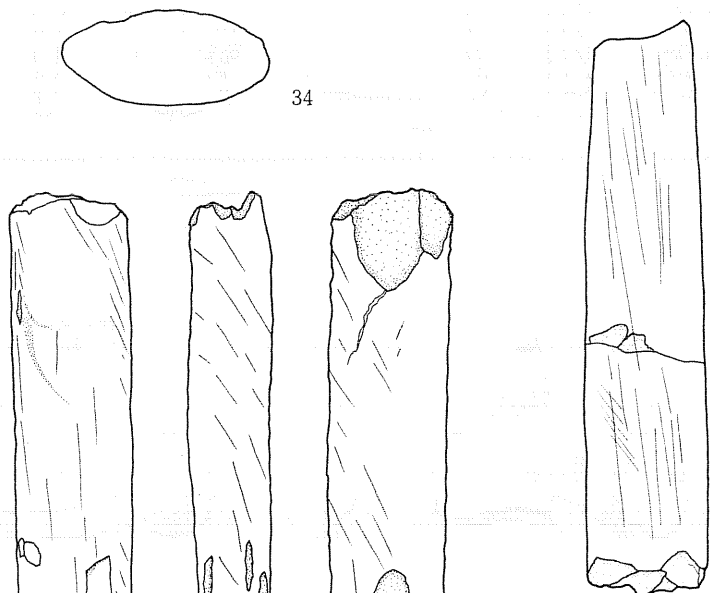
第195図　遺構外出土遺物実測図（4）



33



34

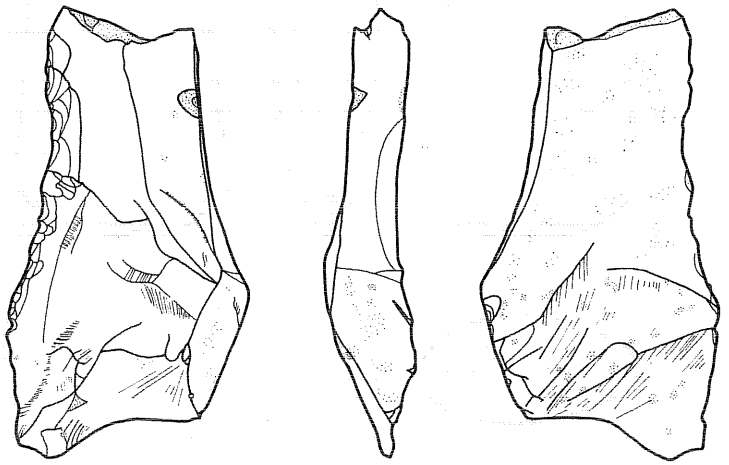


35

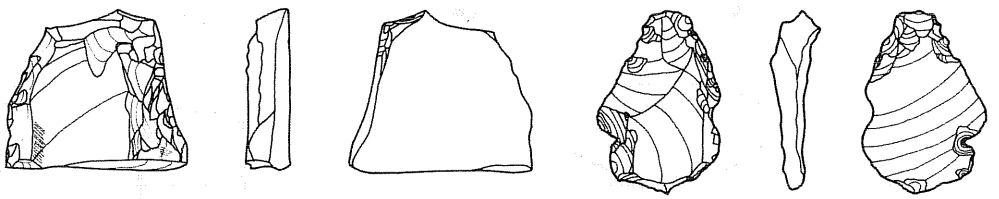
36

0　5 cm

第196図　遺構外出土遺物実測図（5）

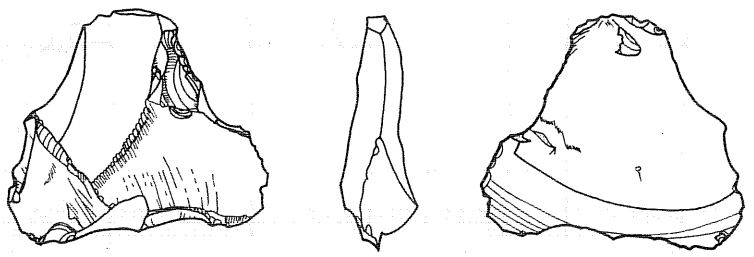


37



38

39



40

0　5 cm

第197図　遺構外出土遺物実測図（6）

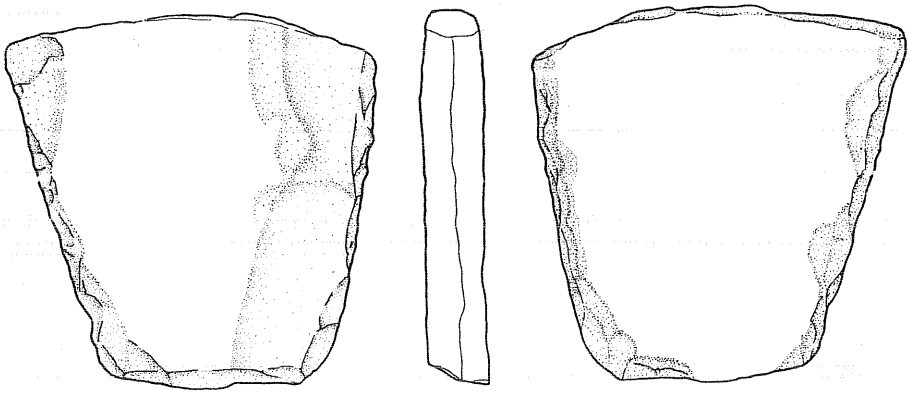
第138表　遺構外出土遺物観察(5)

挿図番号		第197図39	第197図40	第198図41
器種		不定形石器	三脚石器	扁平打製石器
法量	長さ	4.6cm	6.9cm	9.8cm
	幅	3.2cm	5.9cm	9.7cm
	厚さ	1.2cm	1.8cm	1.4cm
重量		13 g	59 g	226 g
石質		頁岩	泥岩	砂岩
備考				½欠損

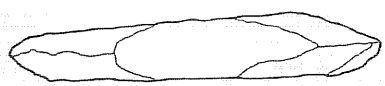
挿図番号		第198図42	第198図43	第198図44
器種		扁平打製石器	砥石	砥石
法量	長さ	10.2cm	8.1cm	3.7cm
	幅	6.8cm	3.8cm	3.2cm
	厚さ	2.3cm	2.6cm	1.6cm
重量		g	30 g	30 g
石質		砂岩	泥岩	泥岩
備考		½欠損	砥面4	砥面5

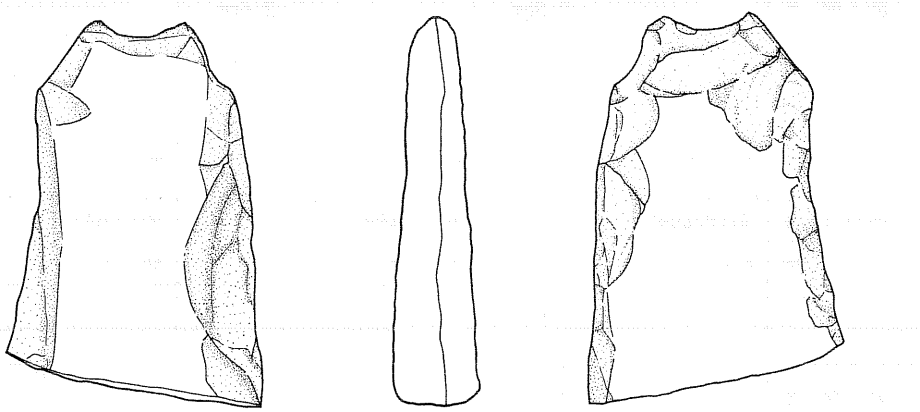
挿図番号		第199図45	第199図46	第199図47
器種		砥石	砥石	磨石
法量	長さ	5.0cm	2.9cm	4.4cm
	幅	4.1cm	2.7cm	3.8cm
	厚さ	1.7cm	0.8cm	1.9cm
重量		41 g	10 g	10 g
石質		凝灰岩	凝灰岩	軽石
備考		砥面4	砥面4	

挿図番号		第199図48	第199図49	第199図50
器種			紡錘車	
法量	長さ	7.9cm	3.6cm	4.5cm
	幅	5.8cm	3.1cm	3.1cm
	厚さ	1.7cm	1.1cm	0.7cm
重量		73 g	9 g	15 g
石量		凝灰岩	凝灰岩	
備考		片面に×印	約⅘欠損	墨書あり、佛日か？

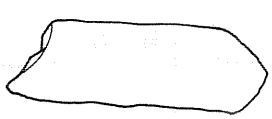


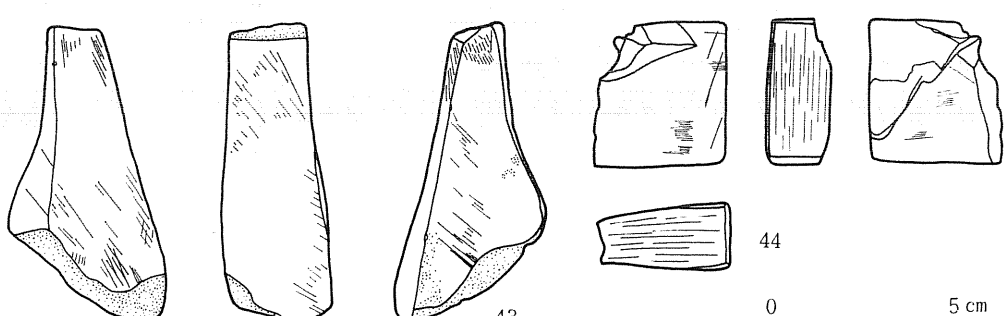
41





42



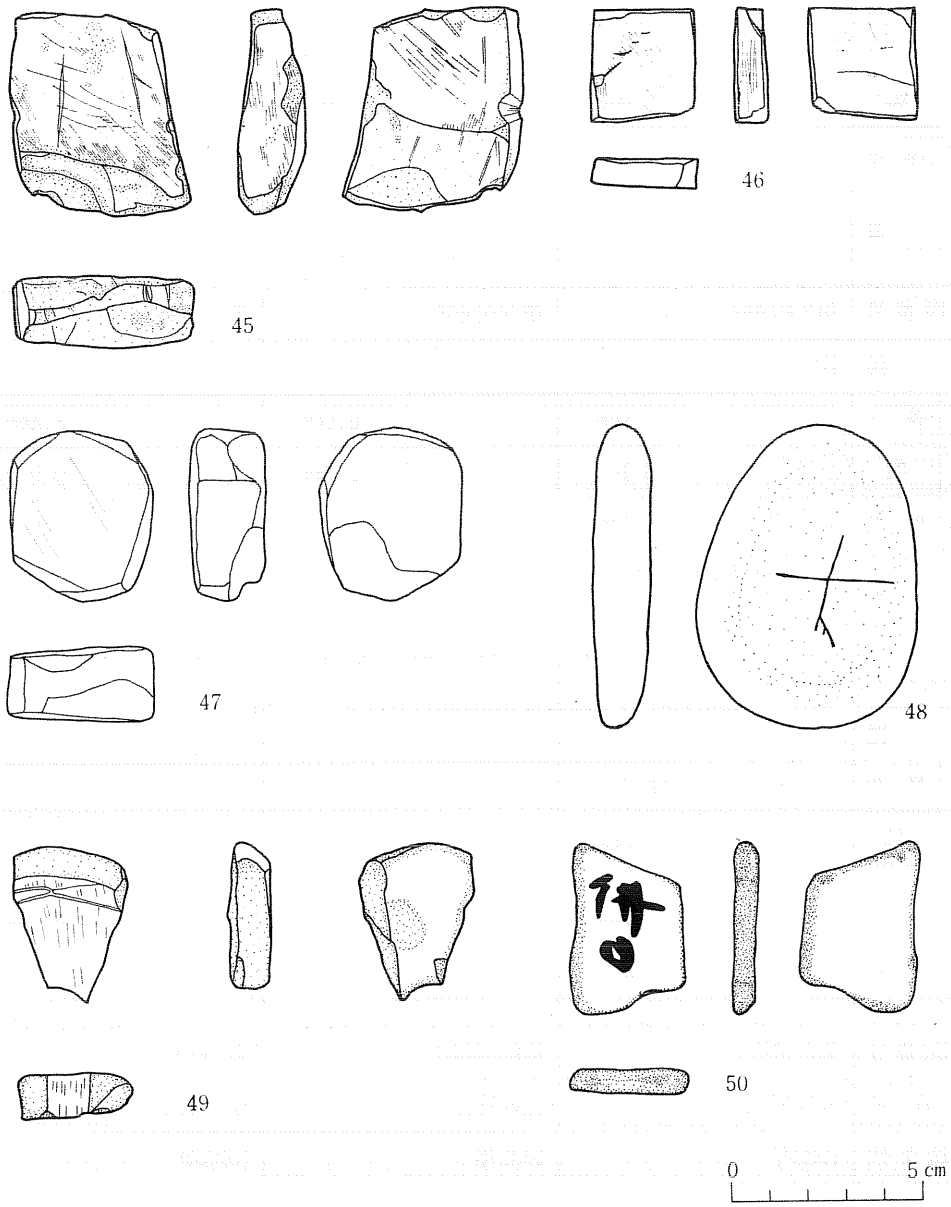


43

44

0 5 cm

第198図　遺構外出土遺物実測図（7）



第199図　遺構外出土遺物実測図（8）

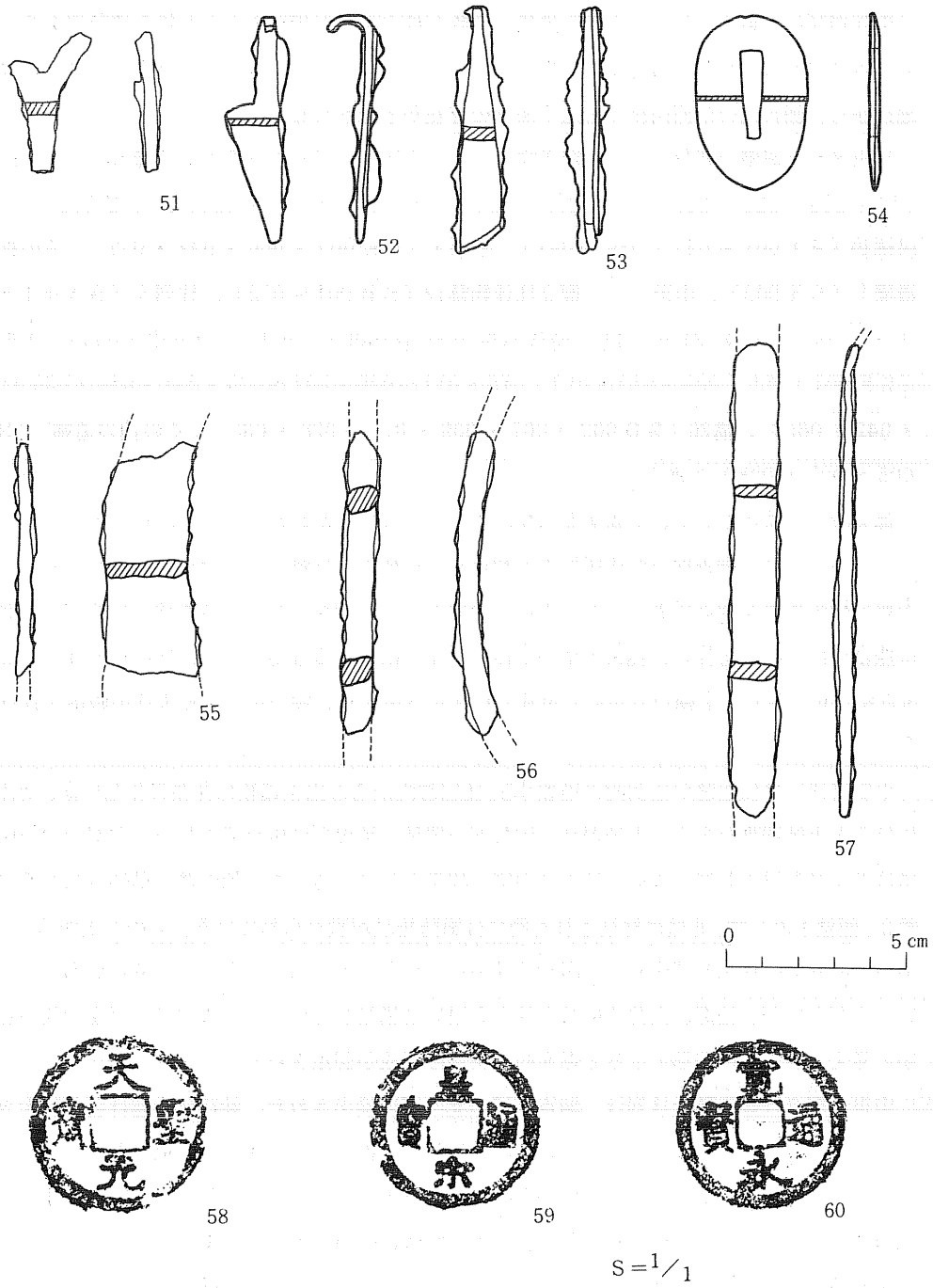
第139表　遺構外出土遺物観察表(6)

挿図番号		第200図51	第200図52	第200図53
器種		鏃	鋏	
法量	長さ	4.0cm	6.2cm	6.9cm
	幅	1.0cm	1.6cm	1.3cm
	厚さ	0.4cm	0.2cm	0.4cm
備考				

挿図番号		第200図54	第200図55	第200図56
器種		鍔		
法量	長さ	4.9cm	6.5cm	8.4cm
	幅	3.1cm	2.6cm	0.9cm
	厚さ	0.1cm	0.5cm	0.6cm
備考		ＳＢ 004付近から出土		

挿図番号		第200図57		
器種				
法量	長さ	13.4cm		
	幅	1.3cm		
	厚さ	0.5cm		
備考				

挿図番号	第200図58	第200図59	第200図60
銭貨名	天聖元宝	皇宋通宝	寛永通宝
鋳造年代	1023年	1039年	1636年
備考			



第200図　遺構外出土遺物実測図（9）

6. ま と め

歌内遺跡は、縄文、平安、中世の遺構、遺物が検出された規模の大きな複合遺跡である。発掘調査は東北縦貫自動車道建設予定地内の約10,000㎡であるが、遺構の分布状態と遺跡周辺の地形から、調査区の東西両側にも広く遺構の存在が予想される。

検出された遺構を列挙すると、縄文時代 —— 住居跡1（ＳＩ043）、土壙33（ＳＫ010・014・016・023～025・030・032・033・038・043～064・066）、平安時代 —— 住居跡49（ＳＩ001～042・045～051）、土壙4（ＳＫ002・006・023・037）、その他の遺構1（ＳＸ003）、中世 —— 掘立柱建物跡12（ＳＢ001～012）、柱列5（ＳＡ001～005）、溝4（ＳＤ031～034）、時代不明 —— 住居跡3（ＳＩ044・052・053）、土壙19（ＳＫ001・005・009・012・013・015・017～020・027～029・031・034・036・040・042・065）、溝26（ＳＤ002～007・009・011～028・030）、その他の遺構3（ＳＸ005～007・008）である。

縄文時代の遺構として、土壙が33基検出されているにもかかわらず、住居跡は1軒のみである。このことは、調査地点が住居群の多数存在する地点とは離れた、食料貯蔵等を目的とした土壙の構築された地点であることによるものであろうと考えられる。調査地点の約300ｍ北西に豊富な湧水地点を伴い、縄文中期の土器が多量に散布する畑地があり、住居群の存在はこの付近に想定される。土壙の分布にも単独で存在する場合と、幾つかのまとまりが観察される場合とがある。

平安時代には住居跡が圧倒的に増加する。住居跡内からの出土遺物は非常に少ないが、全体的に見ると土師器甕が多く、土師器坏、埦などの器種、須恵器は極めて少ない。大部分の住居跡にはカマドが付されているが、多くは南壁に構築されている。その他の壁に構築された例は東壁2、西壁1のみで、北壁に構築された例には風防施設が設けられている。このことから、この地点での風向の状況を考慮して、南壁に構築されたものと考える。カマドは遺存状態の良くないものが多いが、袖部、天井部に石と粘土を用いて構築している。年代的には平安時代の後半頃と考えられ、この時期になると爆発的な集落の形成が想定される。

中世の掘立柱建物跡と柱列は、調査区域の北半部に検出された。総柱建物跡は菱形に大きくゆがんでいる。ＳＢ009～012は小範囲に密集して重複状態を示す。伴出遺物も極めて少なくわずかにＳＢ002・003・007付近から陶器片が出土しているに過ぎない。こうした建物跡は歌内遺跡の北西約700ｍに存在する中世の大里館跡に関連が考えられよう。

本遺跡では、遺構の内外ともに遺物の出土が極めて少ないという特徴があり、したがって所属時代の不明な遺構が多い。しかし、伴出遺物が皆無であってもその遺構の類例と比較して時

代を決定し得るものがある。例えば、フラスコ状ピットやそれに類する土壙等であり、これらは遺物を伴なわなくとも、歌内遺跡から出土した縄文土器のほとんどが縄文時代中期後半の土器であることから、ほぼこの時期の遺構と見なされる。しかし、所属時代、時期の不明な土壙も数多い。

溝跡は平安時代の住居跡と重複する場合、必ず住居跡を切っており、中世掘立柱建物跡と重複する場合は溝跡の埋土上に掘立柱が検出される。したがって平安時代住居跡よりは新しく、中世掘立柱建物跡よりは確実に古いと言い得るのであるが、溝跡内からの出土土器を見ると、縄文土器、土師器、中世陶器と各時代の土器が、水流により磨滅した状態で検出されており、遺物からは時代決定ができない。

ＳＤ031～033は、ＳＢ009～012等を巡る形で構築されており、中世掘立柱建物跡に伴う溝とみなされるが、その他の溝は人工の溝か自然の水流によるものか判断しかねるものが多い。このうちＳＤ012・013は斜面方向とほぼ直角に南北に走っており、水流による凹凸も少なく、この溝は人工によるものと考えられよう。その他は、仮に当初は人工的に構築されたとしても、水流により、溝底に凹凸を有し砂利、砂鉄が堆積しており、人工によるものか否か決定し難い。

時代不明の住居跡としたものはＳＩ044・052・053の3軒である。この住居跡は竪穴ではあるが、柱穴配置とカマドを有しない点に、平安時代住居跡との相違点が見られる。さらに、ＳＩ044は床面に炉を有するが、他の2軒には検出されないことから住居であるとは断定できない。こうした遺構の類例は、多くは中世、あるいは平安～中世の過渡期の時期に考えられ、その性格としては仮住居、倉庫等が推定されている。掘立柱建物跡に近接する位置に構築されていることも考え合わせると、この3軒の遺構も同様の時期、性格を有する遺構かも知れない。

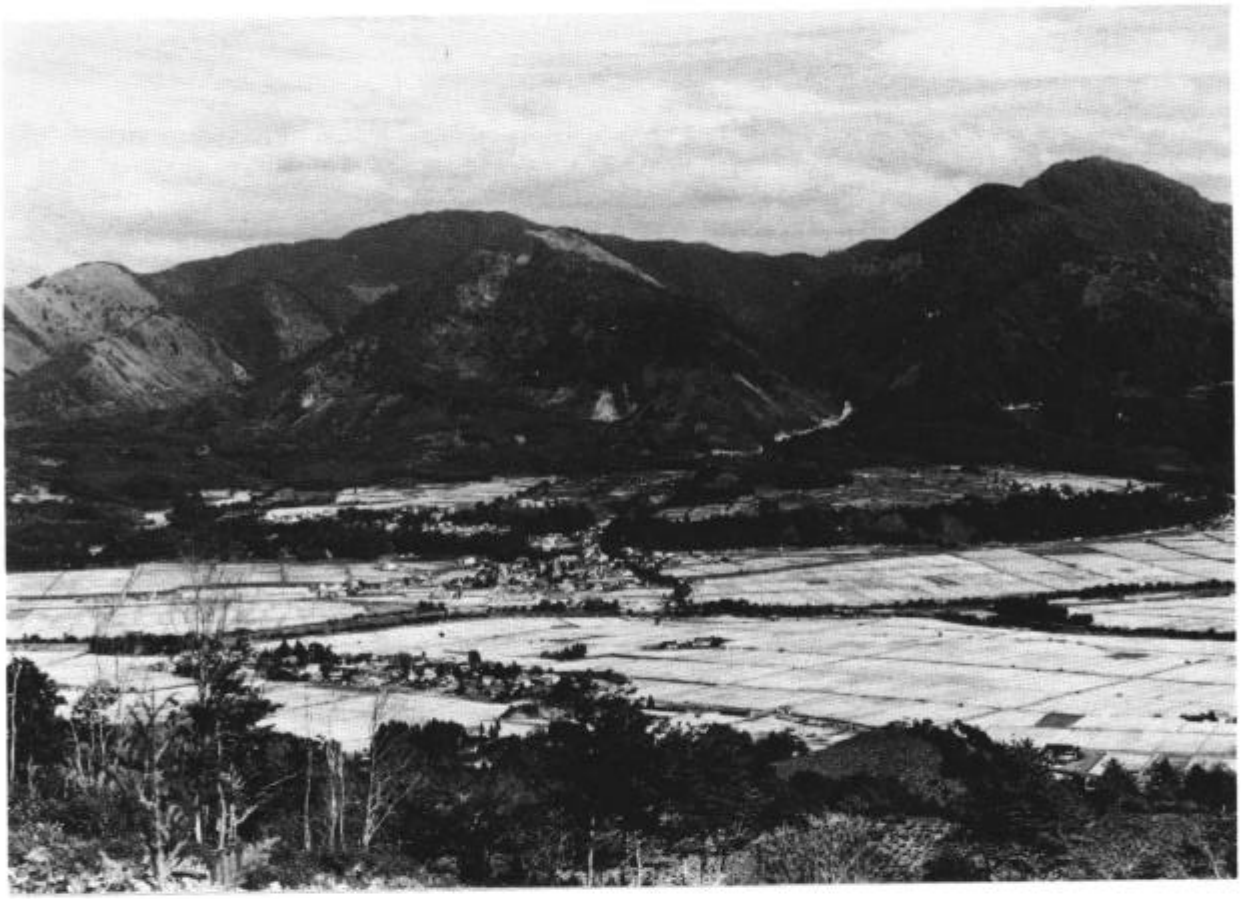
歌内遺跡の調査は、その東西に広がる広大な遺跡の中に幅50ｍのトレンチを入れた形に過ぎない。縄文時代、平安時代の集落の様相や、中世大里館跡との関連の解明、さらには縦貫道予定地内で調査された諸遺跡との関連の解明などは、将来の総合的調査研究を待たねばならない。

本書は諸般の制約から、最少限のデータの提示にとどめ、その分析は一切行わなかった。この点も今後の研究課題としたい。

作業員名簿

浅石清一，浅石林一郎，浅利善太郎，浅利雄造，阿部国松，阿部理一，安保富蔵，安保政悦，小田島直友，金沢春松，川又康彦，川又与須一，神田良勇，菊地政吉，木村四郎，木村留吉，木村善男，工藤伊代治，佐藤由蔵，渋谷伸輔，関本芳雄，田中敬二，田中権四郎，田中佐五郎，津江広，奈良一彦，奈良正次郎，成田惣太，畠山市助，畠山久三，畠山末治，畠山精次郎，畠山雄樹，福本雅治，古家平一郎，美濃山司，柳沢重和，浅石イソ，浅石キヨ，浅石トキエ，浅石十三子，浅石ヒサ，浅石フジエ，浅石ミヨ，浅石ヤス，浅石容子，浅石ヨエ，浅石レイ子，浅利タマ，阿部キミエ，阿部妙子，阿部テル，阿部由美子，安保亜留子，安保カヨ，安保ユキ子，安保ヨシ，石井修子，石井ヨシエ，井上シズエ，井上トミエ，井上ミヲ，小田島カチ，金沢ハルエ，金沢良子，川又千代，川又ソヨ，神田フジエ，久慈チヤ，斎藤イエ，斎藤キヨエ，斎藤サキ，斎藤妙子，斎藤ツマ，佐藤恵津子，佐藤末子，佐藤トシ，佐藤フミエ，高橋チカ，田中ハル，田中ヤエ子，津江和子，津江ミナ，綱木リサ，豊田コヨ，豊田チキ，中野タエ，中野ヨシ子，苗代沢ノブ，苗代沢良子，成田ウメ，成田キヌ，成田クニ，根本キワ，根本シエ，橋場トシ，畠山サカエ，畠山幸子，畠山スエ，畠山トヨ，藤井恵子，福島ショウ子，古家カツ子，古家一子，米田美知子，松岡トキヨ，宮沢カヨ，安村英子，柳沢照子，柳沢光子，山口チヨ子，山本真利子

図　　版



1　遺跡遠景　西→東

2　遺跡遠景　東→西

図版二　竪穴住居跡

1　SI 001 竪穴住居跡遺物出土状況　北→南

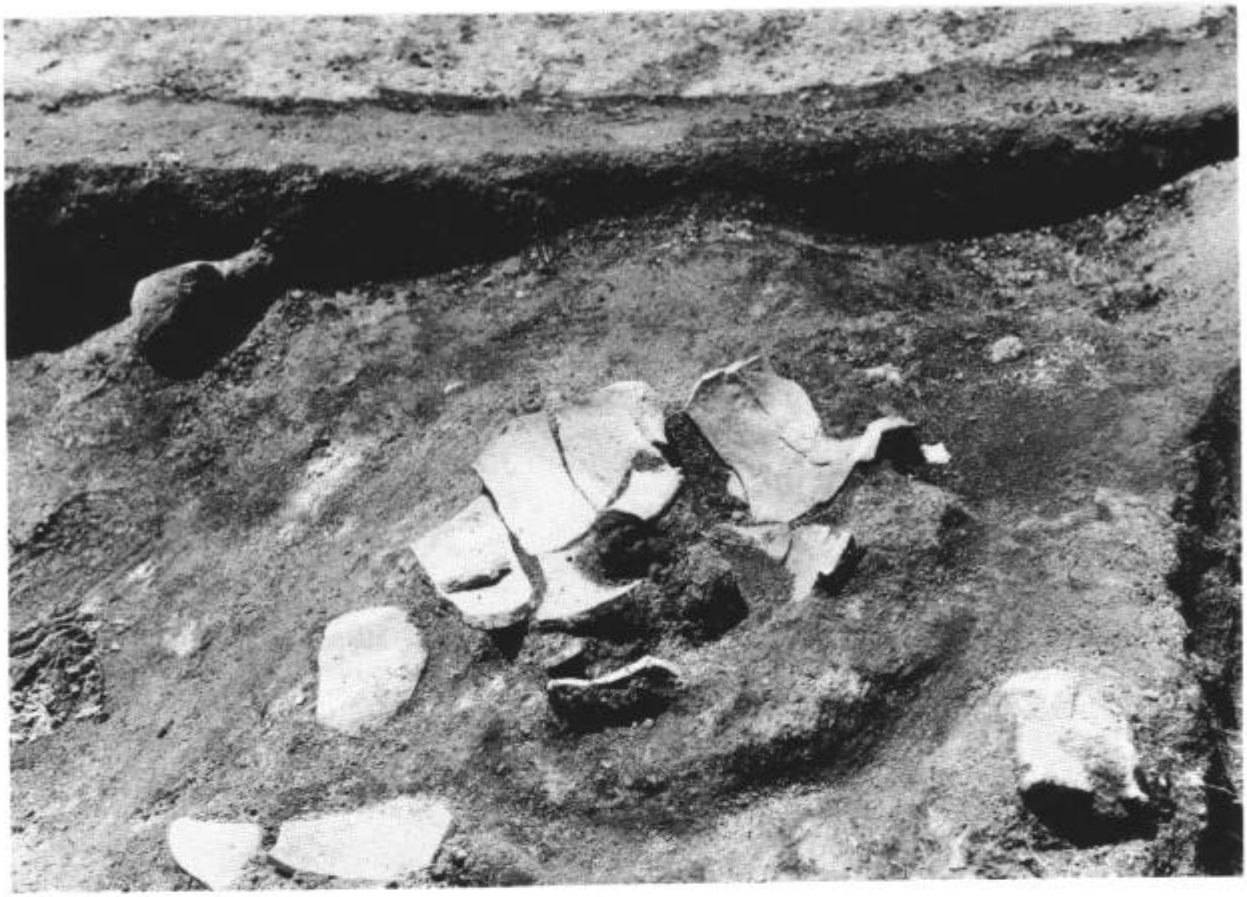
2　SI 001 竪穴住居跡　北→南

図版三　竪穴住居跡

1　SI 001 竪穴住居跡
東壁炭化材出土状況
西→東

2　SI 001 竪穴住居跡
東壁炭化材出土状況
北→南

図版四　竪穴住居跡



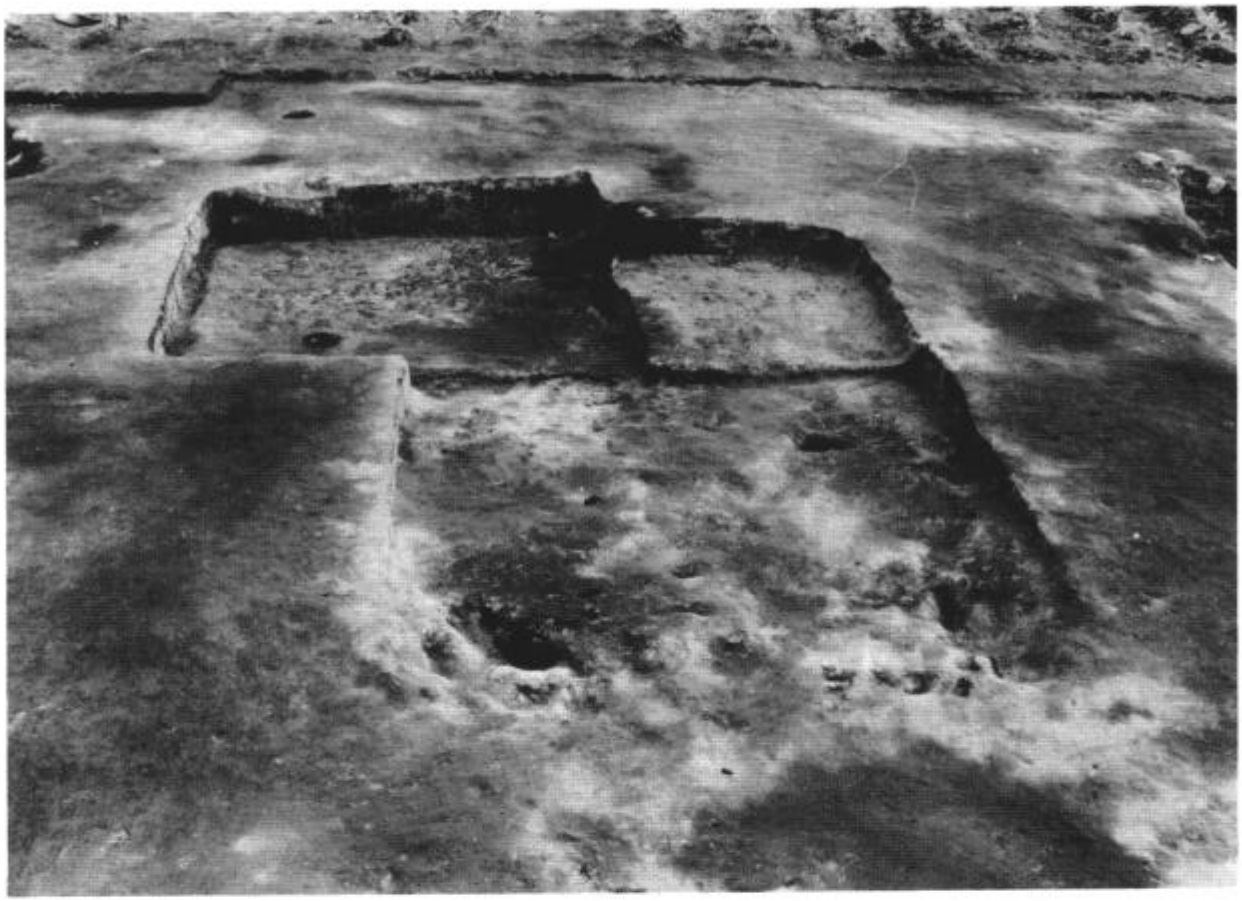
1　SI　001 土器出土状況

2　SI　001 トチ出土状況

1　SI 002 竪穴住居跡　東→西

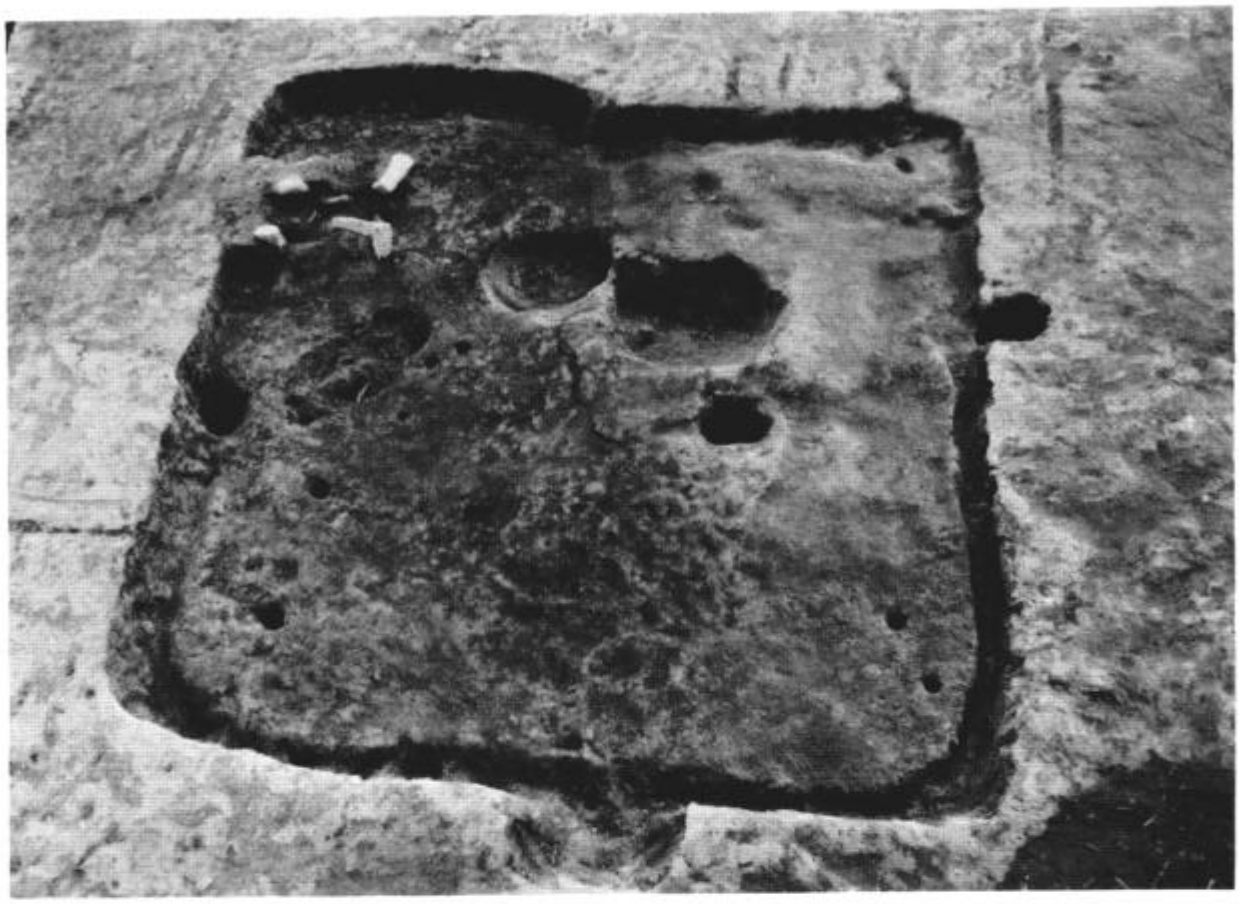
2　SI 002 竪穴住居跡　西→東

図版六　竪穴住居跡



1　SI 003 ～ 005 竪穴住居跡　西→東

2　SI 003 竪穴住居跡　西→東



1　SI 006 竪穴住居跡　北→南

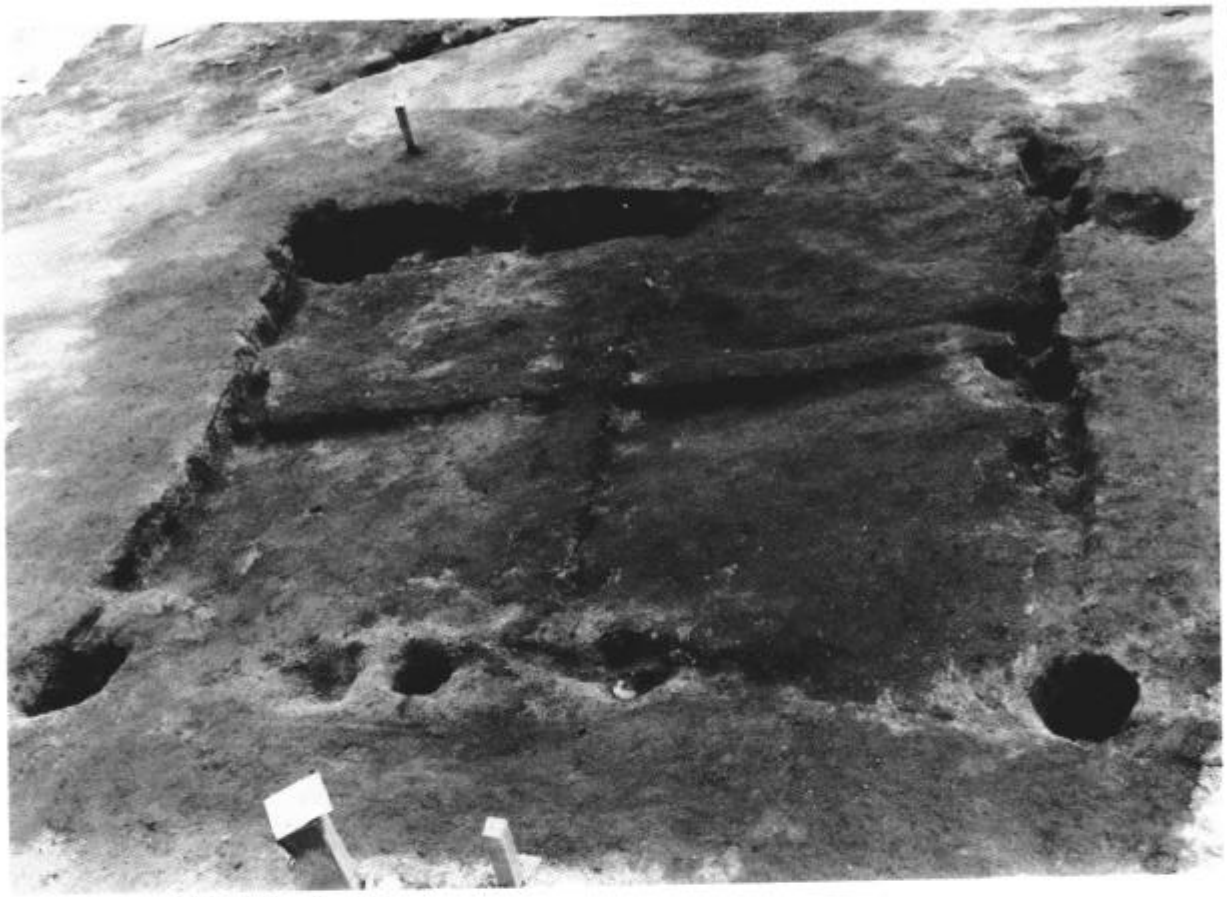
2　SI 006 竪穴住居跡掘形　西→東

図版八　竪穴住居跡

1　SI 006 竪穴住居跡カマド　西→東

2　SI 006 竪穴住居跡カマド　西→東

図版九　竪穴住居跡



1　SI 007 竪穴住居跡　北→南

2　SI 007 竪穴住居跡カマド　北→南

図版十　竪穴住居跡

1　SI 008 竪穴住居跡
北→南

2　SI 008 竪穴住居跡
カマド　北→南

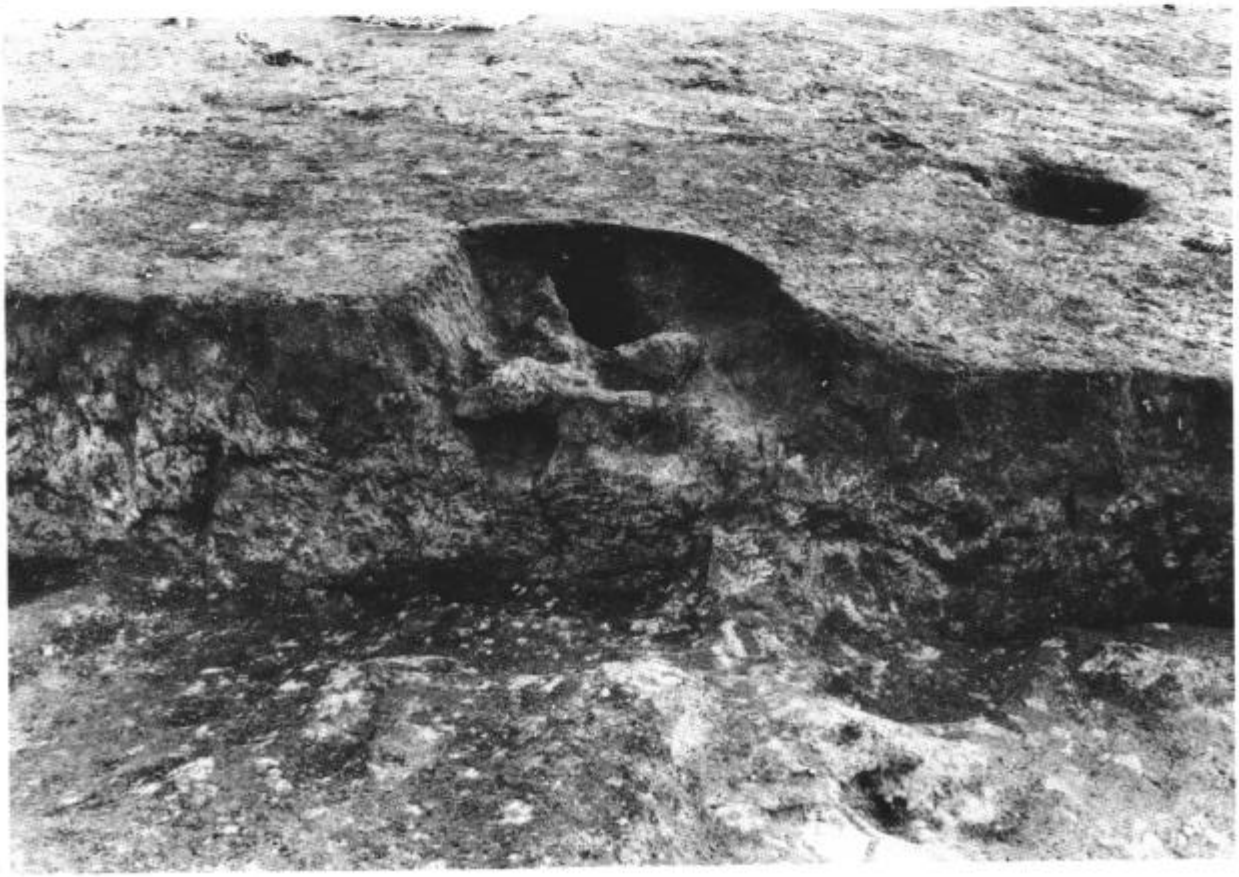
図版十一　竪穴住居跡

1　SI 009 A・B竪穴住居跡　北→南

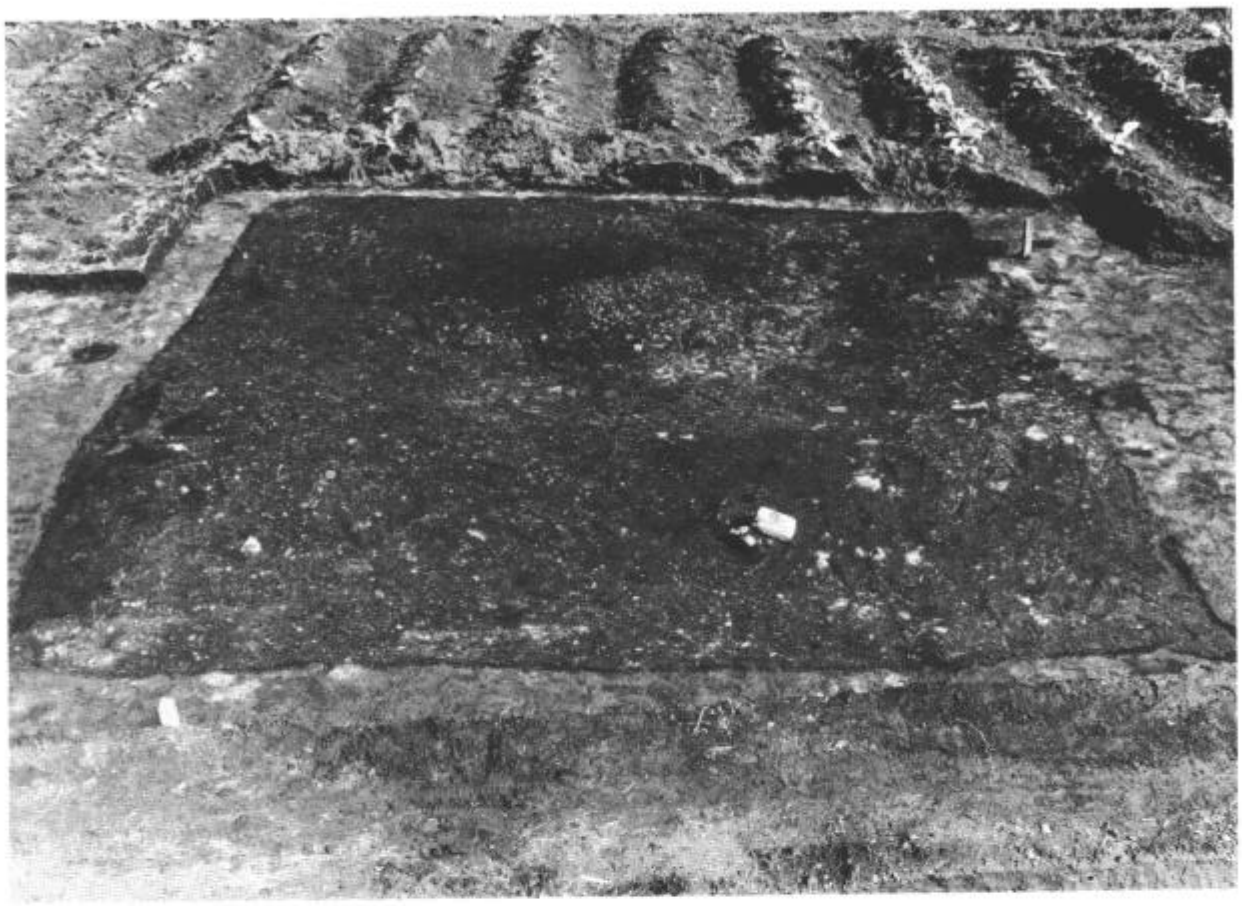
2　SI 009 A・B竪穴住居跡カマド　北→南

図版十二　竪穴住居跡

1　SI 009 A竪穴住居跡カマド　北→南



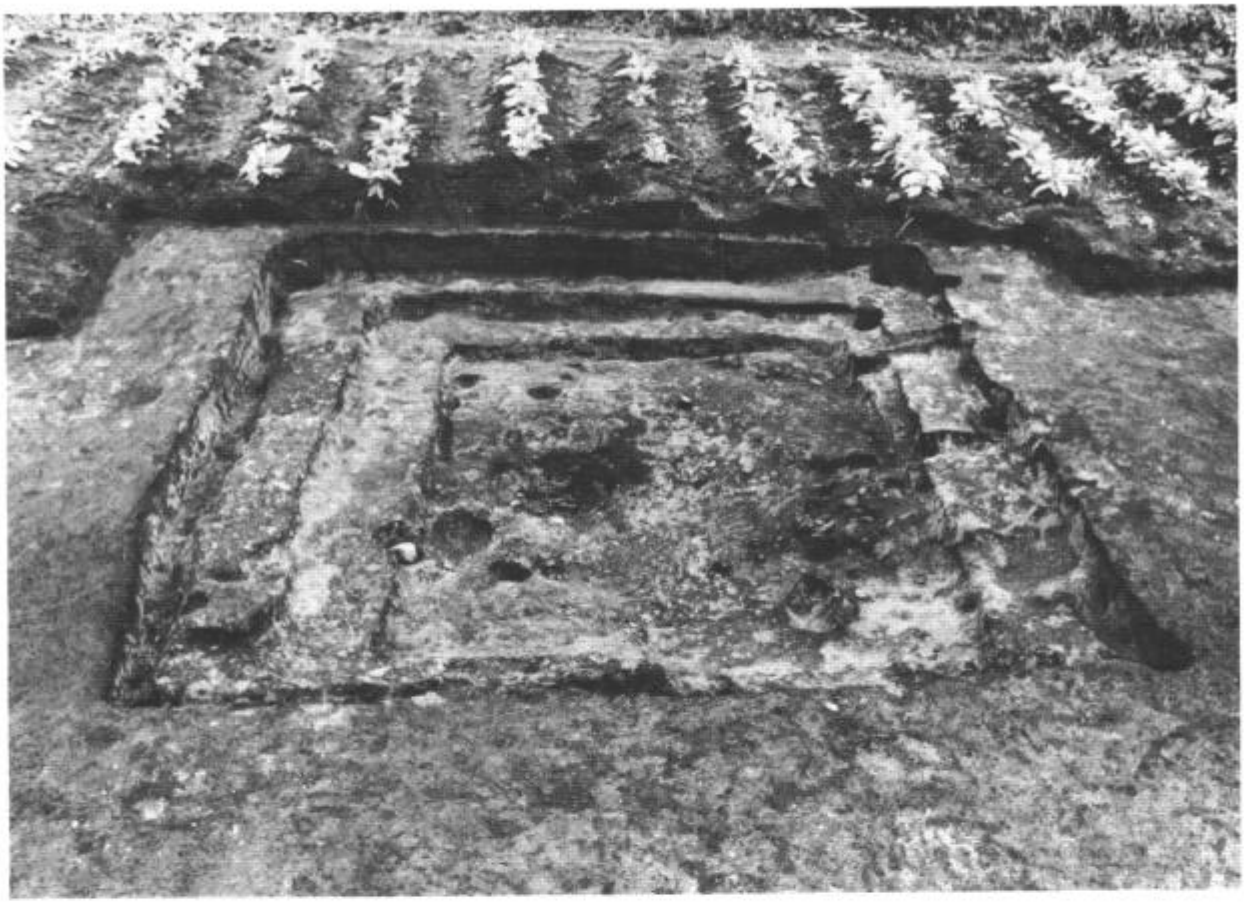
2　SI 009 B竪穴住居跡カマド　北→南



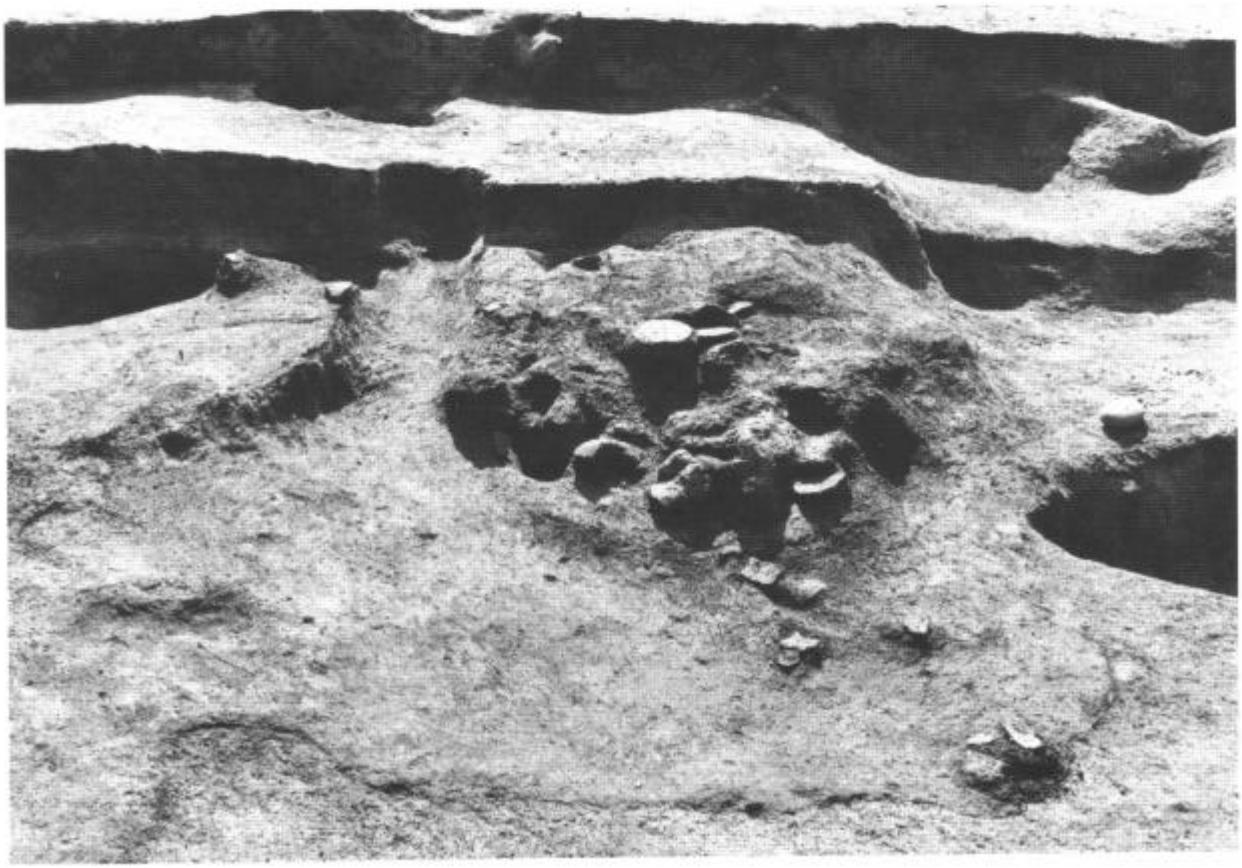
1　SI 010 竪穴住居跡確認状況　西→東

2　SI 010 C竪穴住居跡　西→東

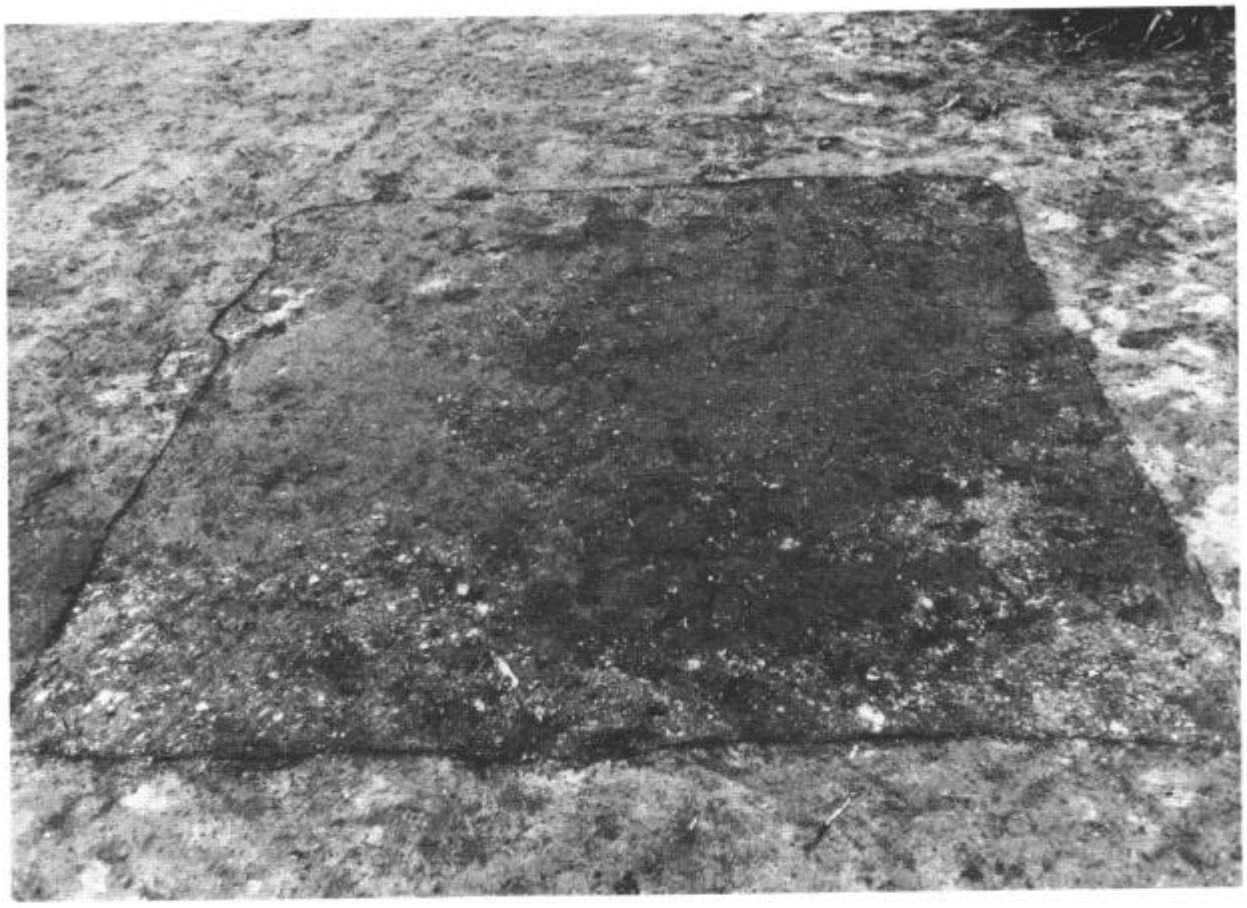
図版十四　竪穴住居跡



1　SI 010 A・B・C竪穴住居跡　西→東



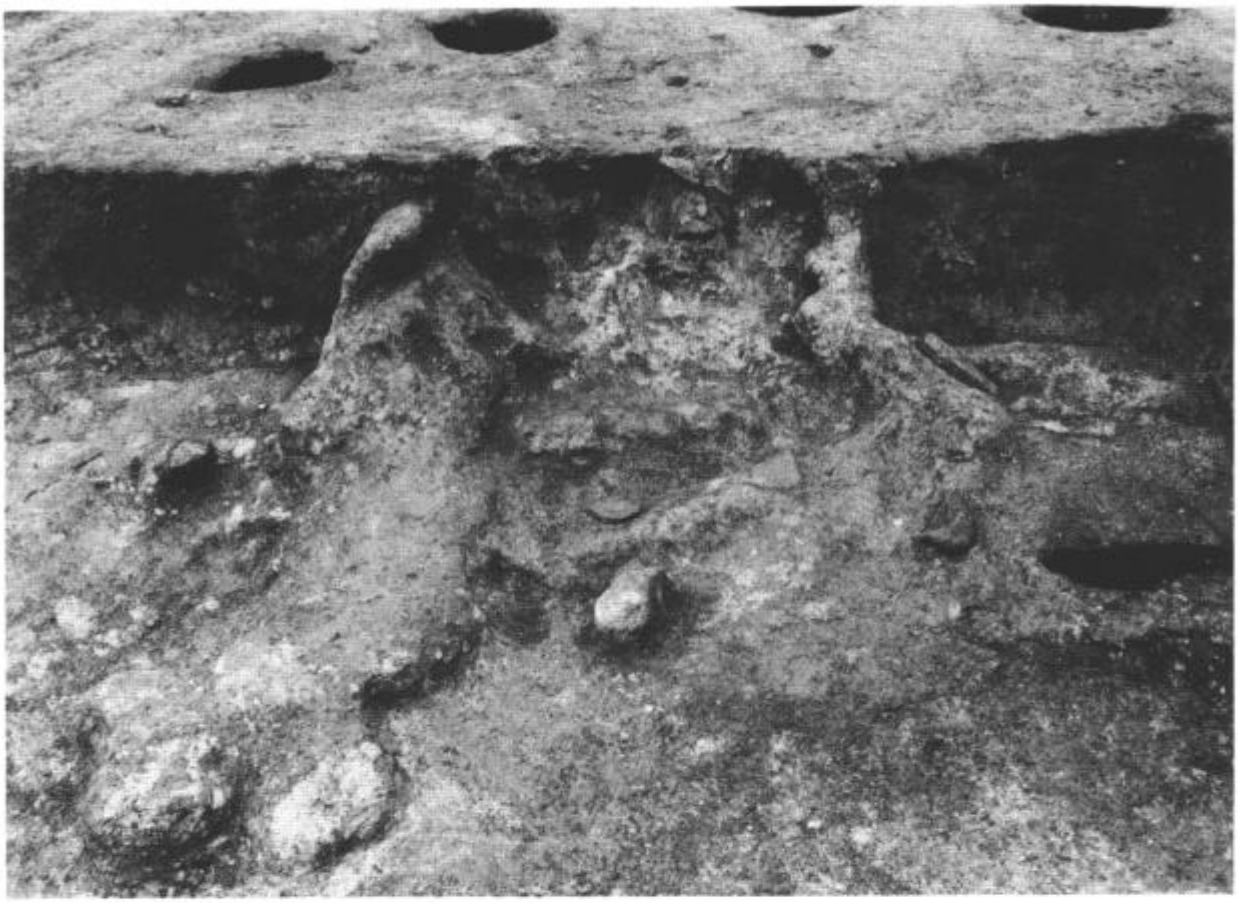
2　SI 010 A・B竪穴住居跡カマド　北→南



1　SI 011 竪穴住居跡確認状況　西→東

2　SI 011 竪穴住居跡　南→北

図版十六　竪穴住居跡



1　SI 011 竪穴住居跡カマド　南→北

2　SI 011 竪穴住居跡カマド北側ピット　東→西

1　SI 012 竪穴住居跡　北→南

2　SI 012 竪穴住居跡カマド　北→南

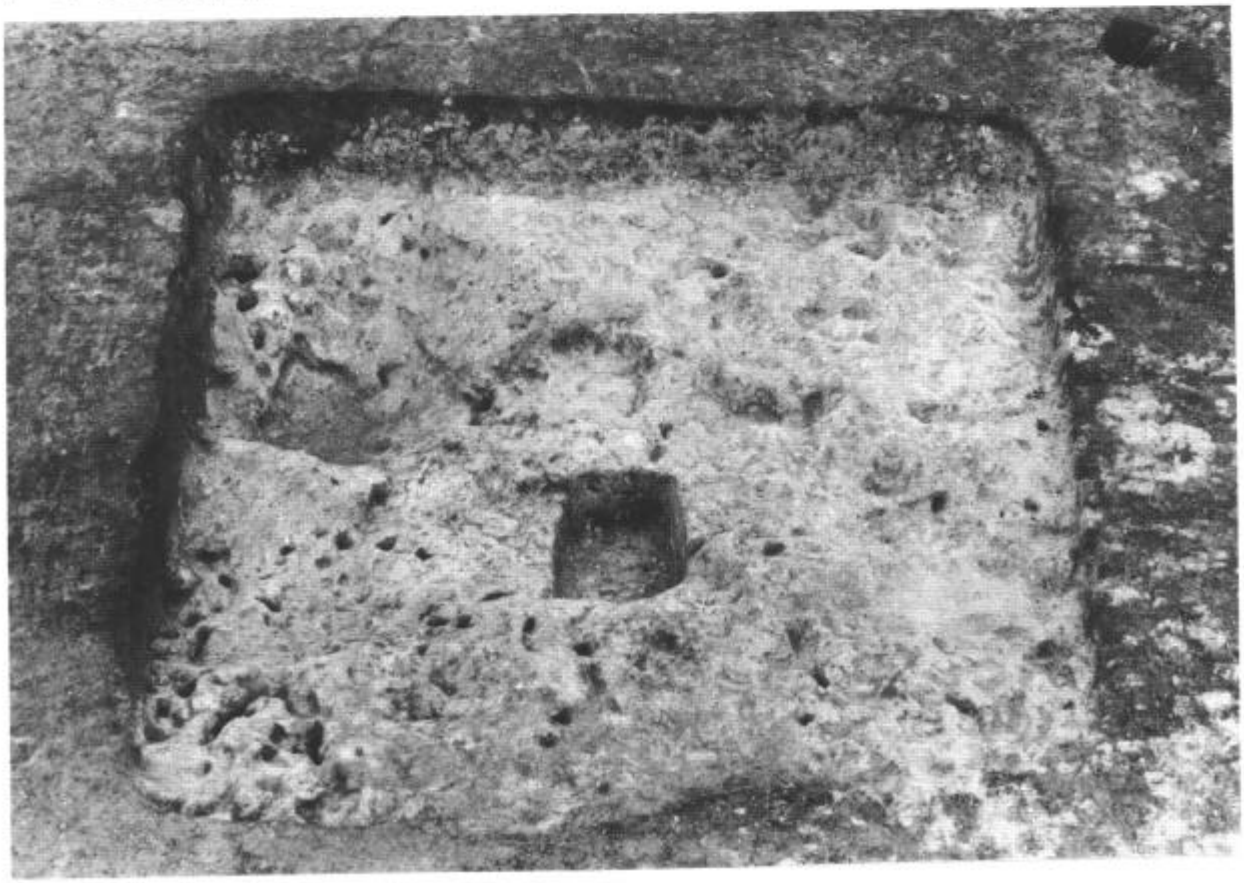
図版十八　竪穴住居跡

1　SI 013 竪穴住居跡　西→東

2　SI 013 竪穴住居跡カマド　西→東

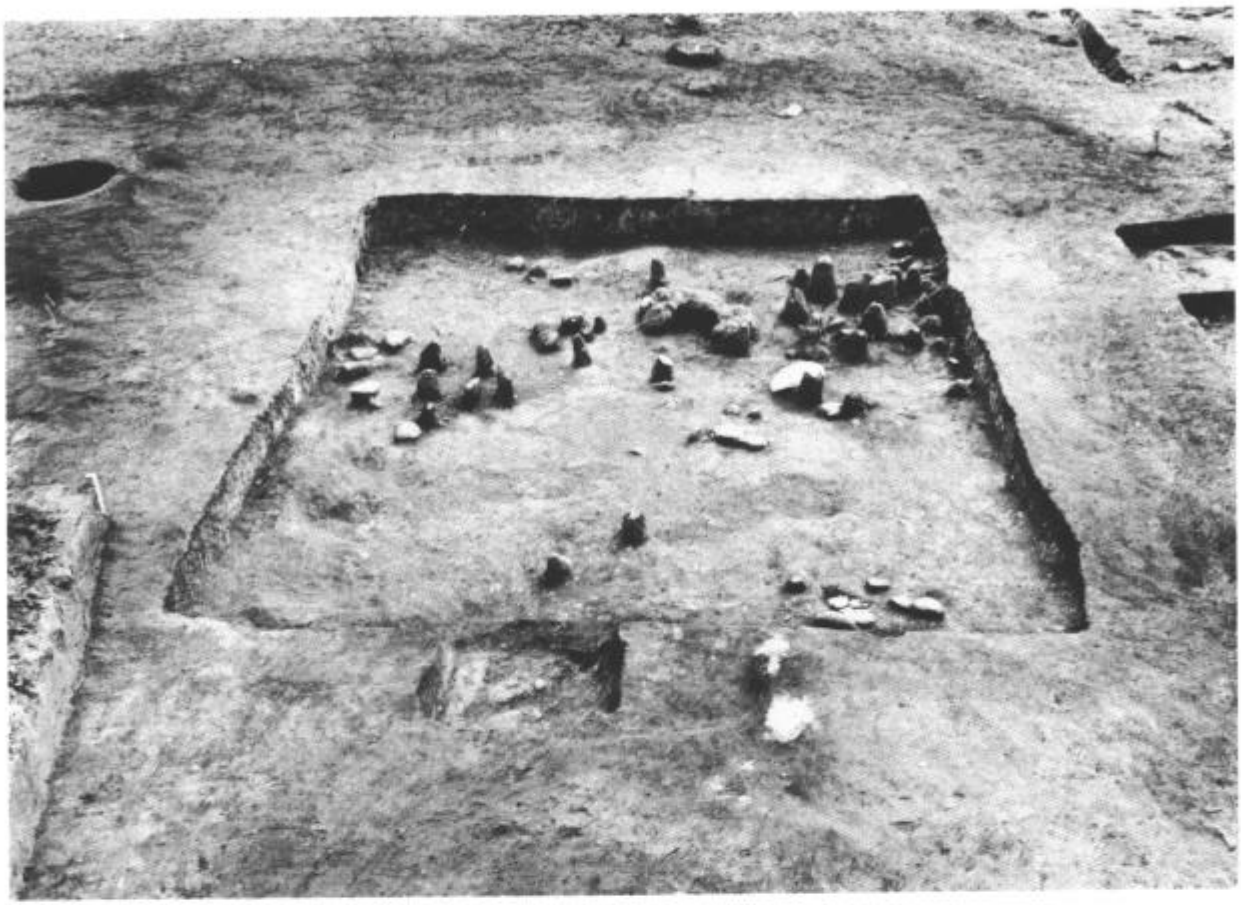
図版十九　竪穴住居跡

1　SI 014 竪穴住居跡　西→東



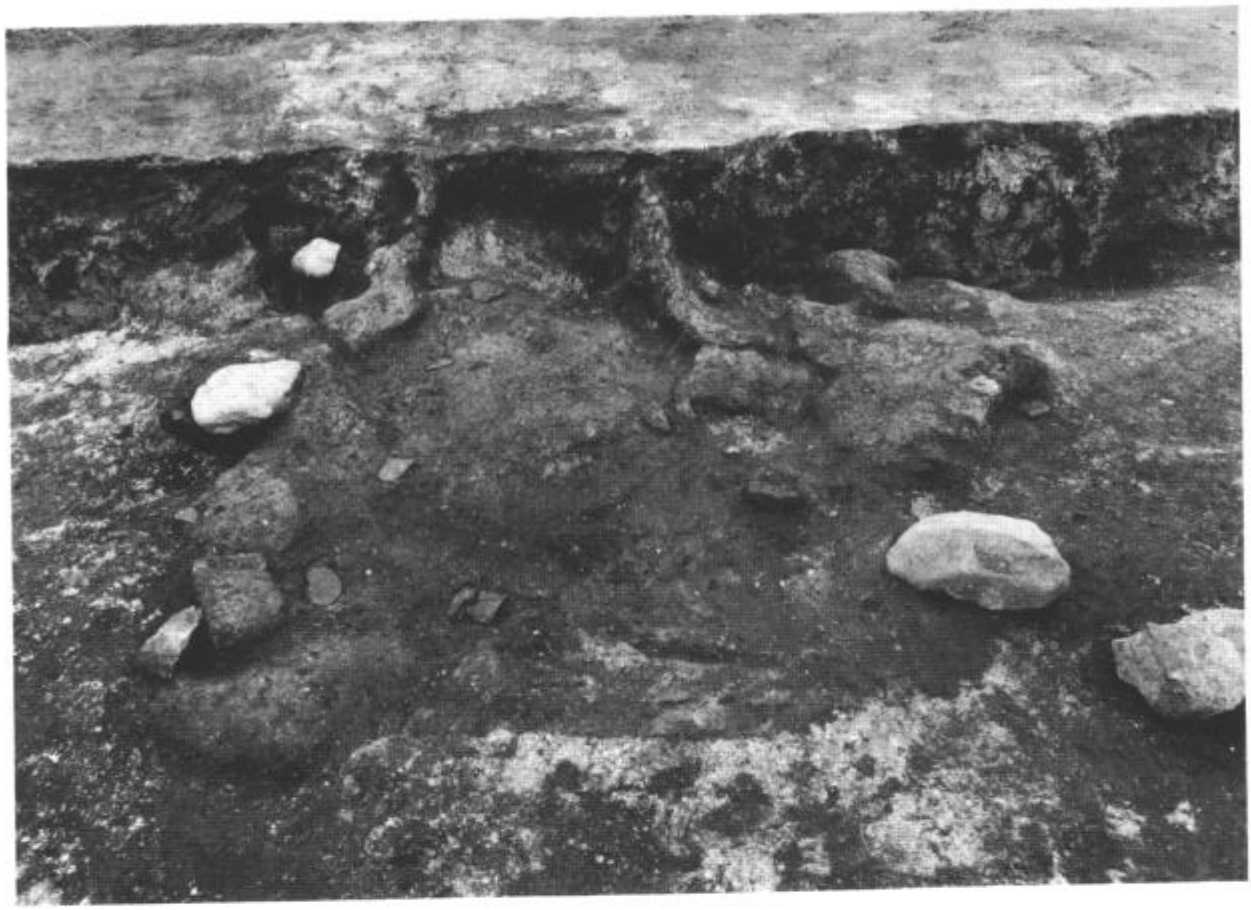
2　SI 014 竪穴住居跡掘形　南→北

図版二十　竪穴住居跡



1　SI 015 竪穴住居跡　西→東

2　SI 015 竪穴住居跡　北→南



1　SI 015 竪穴住居跡カマド　北→南

2　SI 015 竪穴住居跡土器出土状況

図版二十二　竪穴住居跡

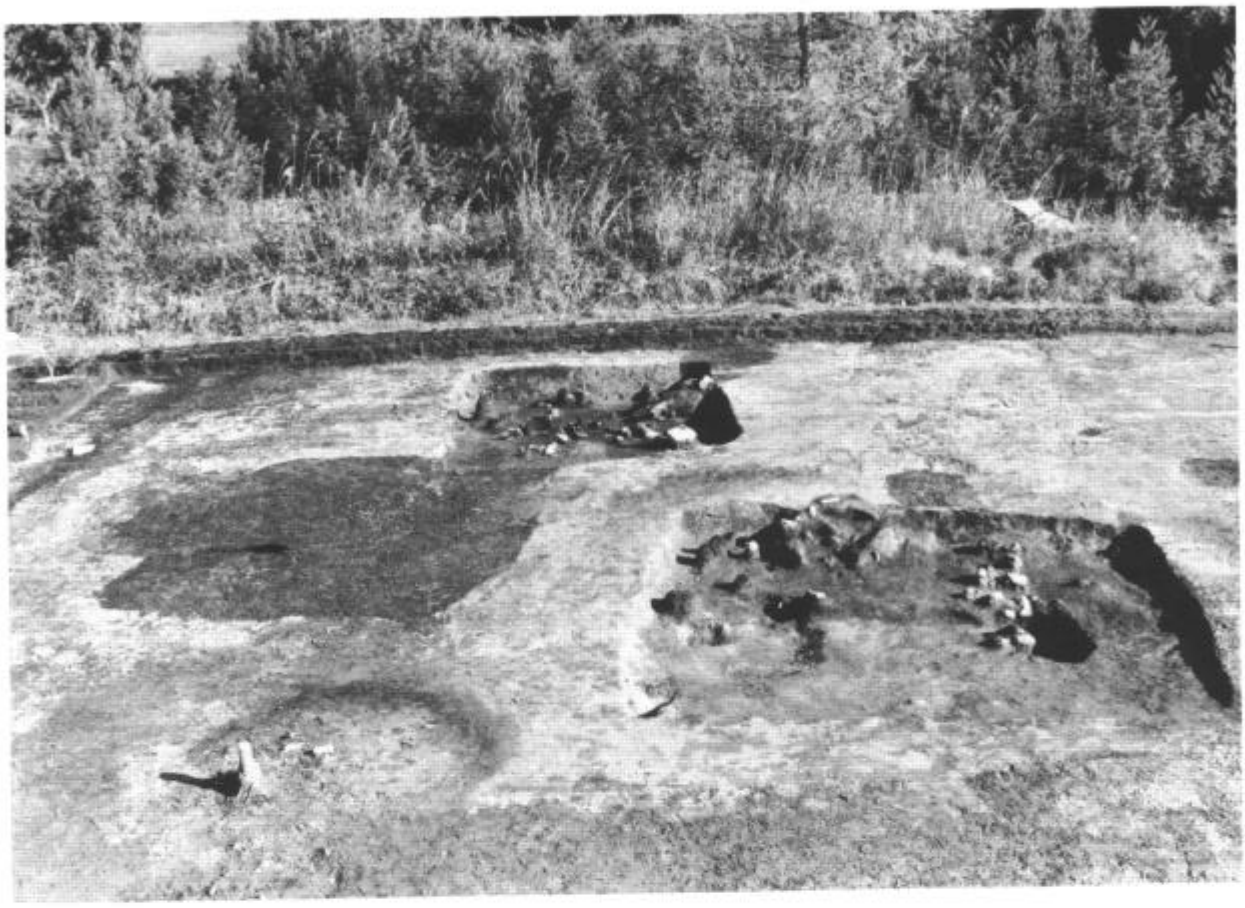
1　SI 016 竪穴住居跡カマド　北→南

2　SI 016 竪穴住居跡カマド　北→南

1　SI 017 竪穴住居跡　西→東

2　SI 017 竪穴住居跡カマド　西→東

図版二十四　竪穴住居跡



1　SI 016 ～018 竪穴住居跡　西→東

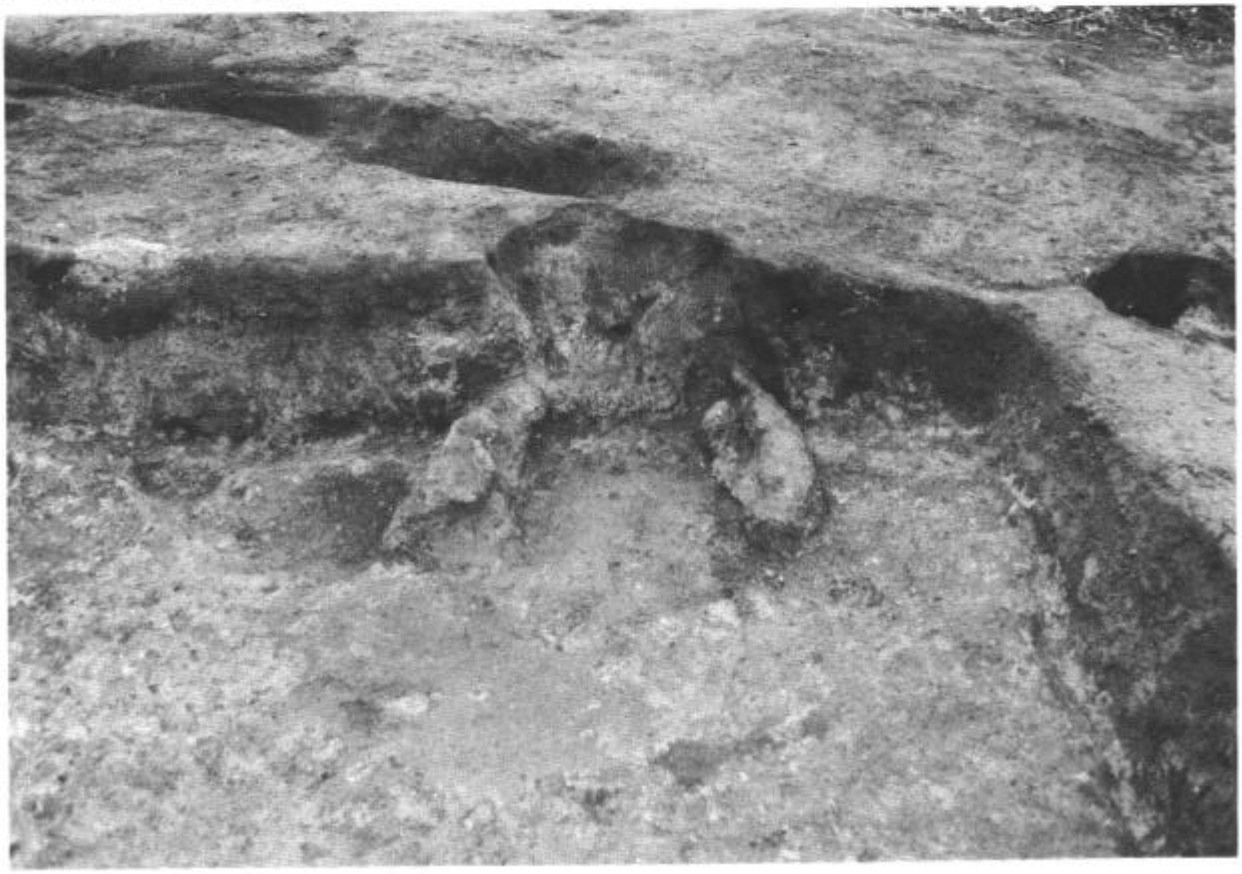
2　SI 018 竪穴住居跡　北西→南東

1　SI 018 竪穴住居跡カマド　北→南

2　SI 018 竪穴住居跡カマド　北→南

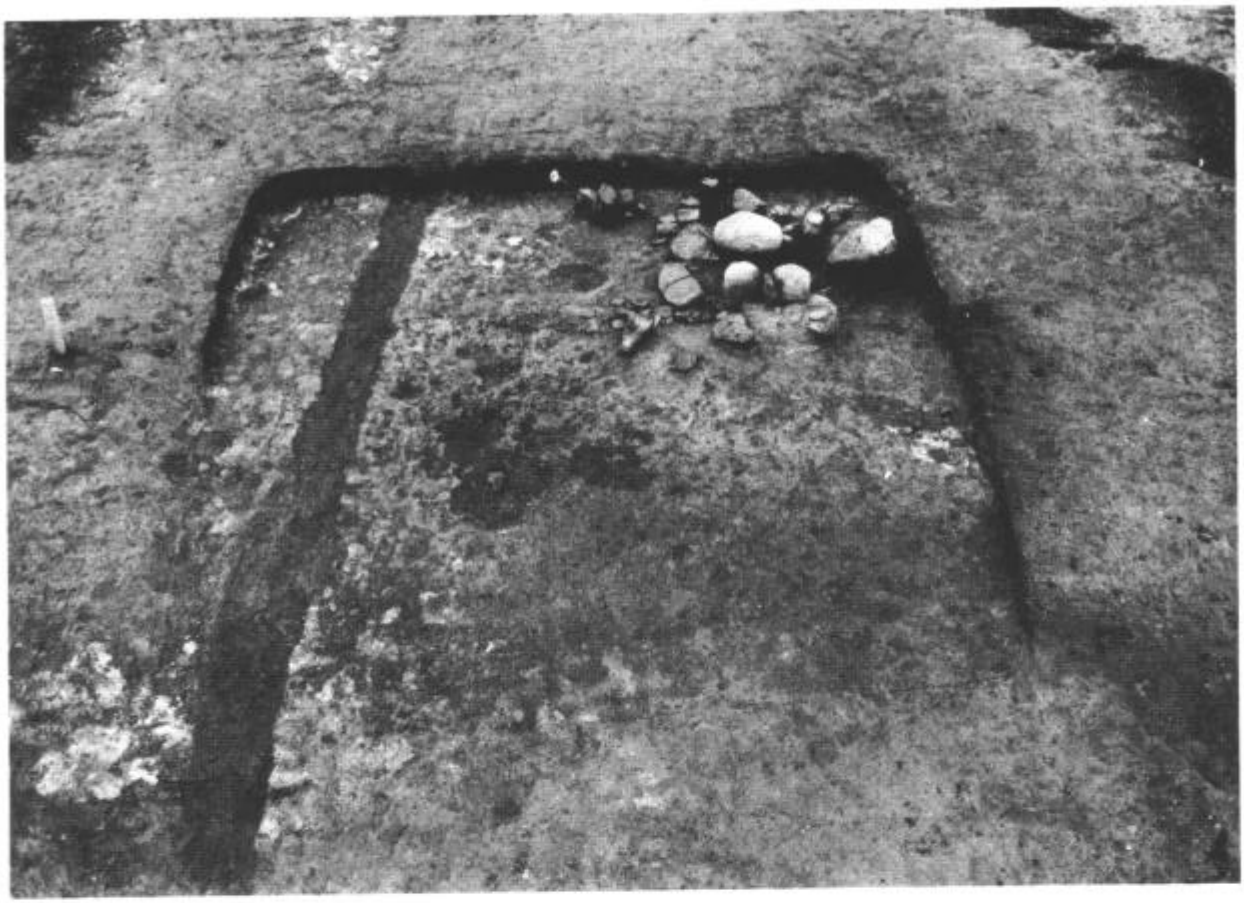
図版二十六　竪穴住居跡

1　SI 019 竪穴住居跡　北→南



2　SI 019 竪穴住居跡カマド　北→南

図版二十七　竪穴住居跡



1　SI 020 竪穴住居跡　西→東

2　SI 020 竪穴住居跡カマド　北→南

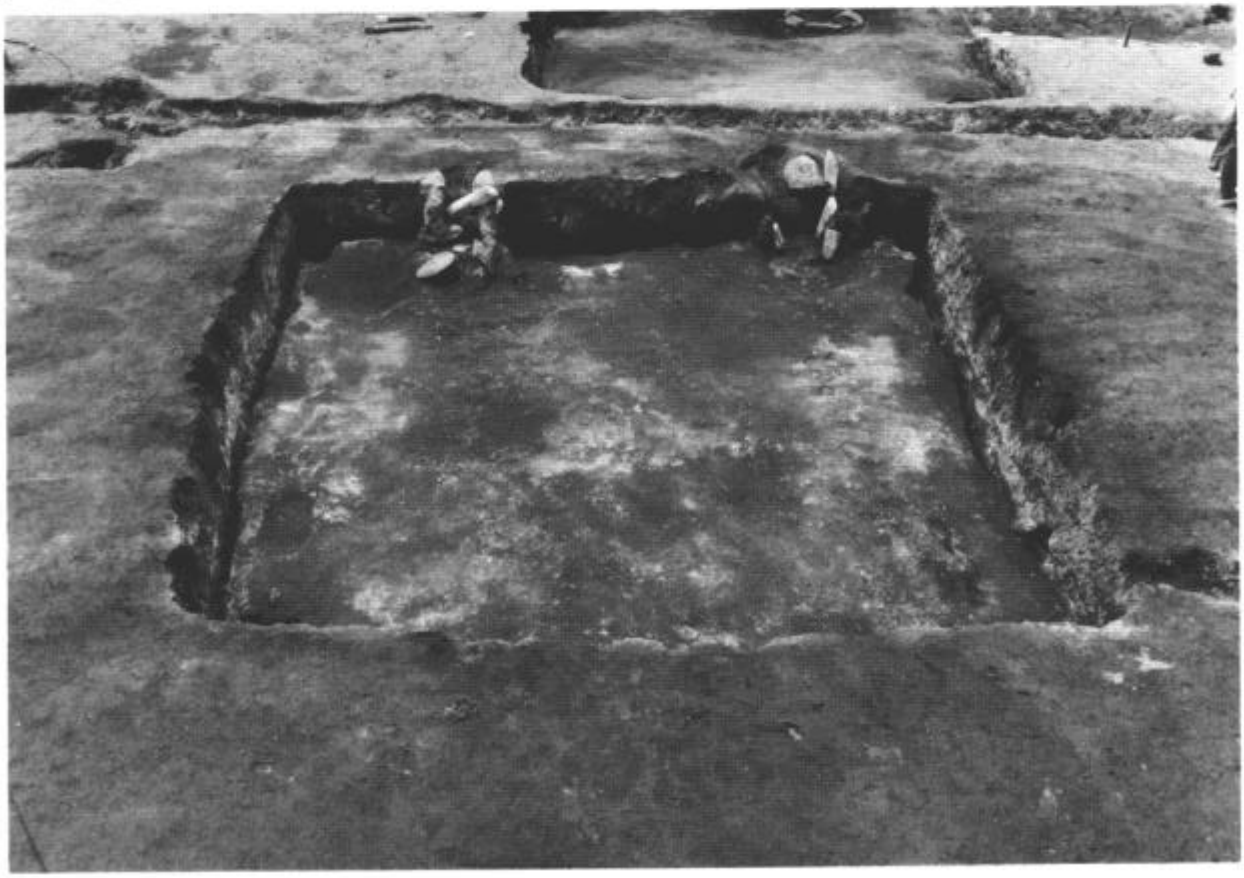
図版二十八　竪穴住居跡

1　SI　021 竪穴住居跡　東→西

2　SI　022 竪穴住居跡　北→南

図版二十九　竪穴住居跡

1　SI　023 A・B竪穴住居跡　北→南



2　SI　023 A・B竪穴住居跡　北→南

図版三十　竪穴住居跡

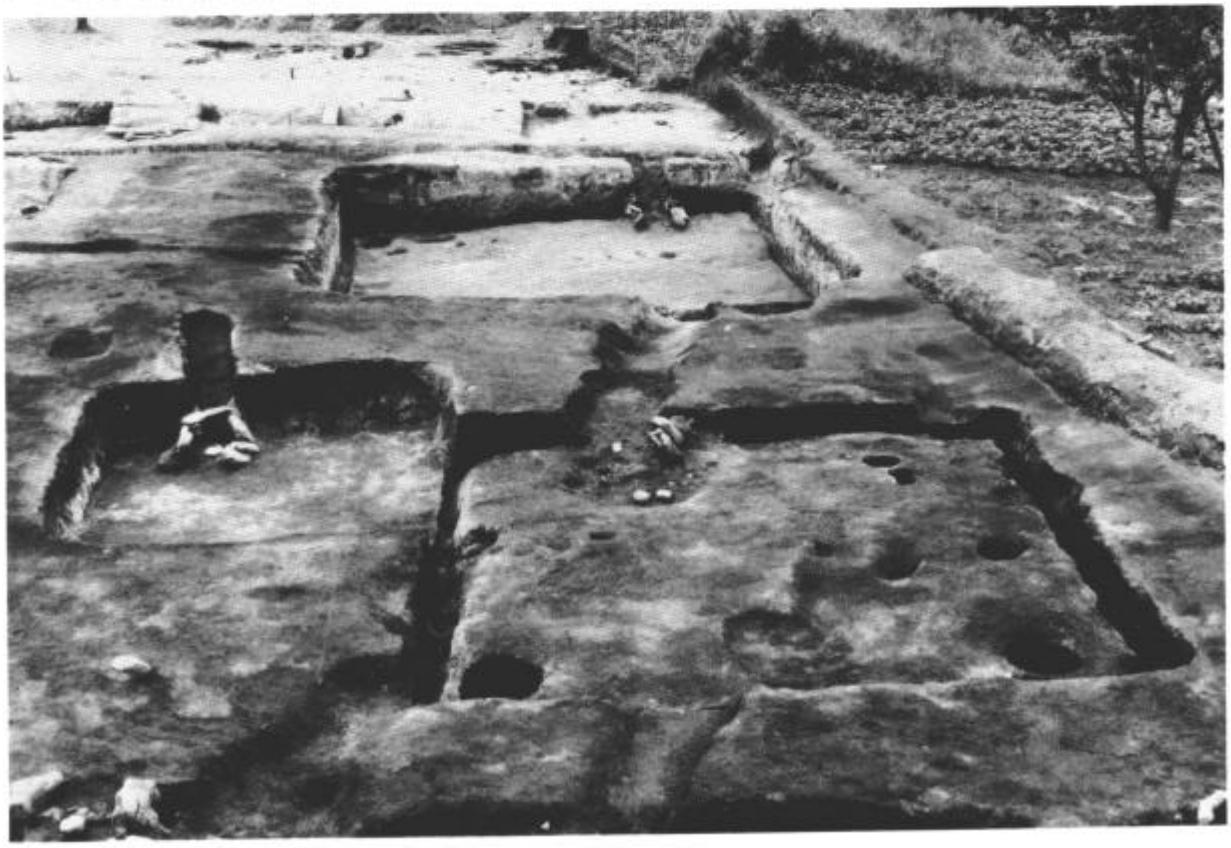
1　SI 023 A竪穴住居跡カマド　北→南

2　SI 023 B竪穴住居跡カマド　北→南

1　SI 023 土器出土状況

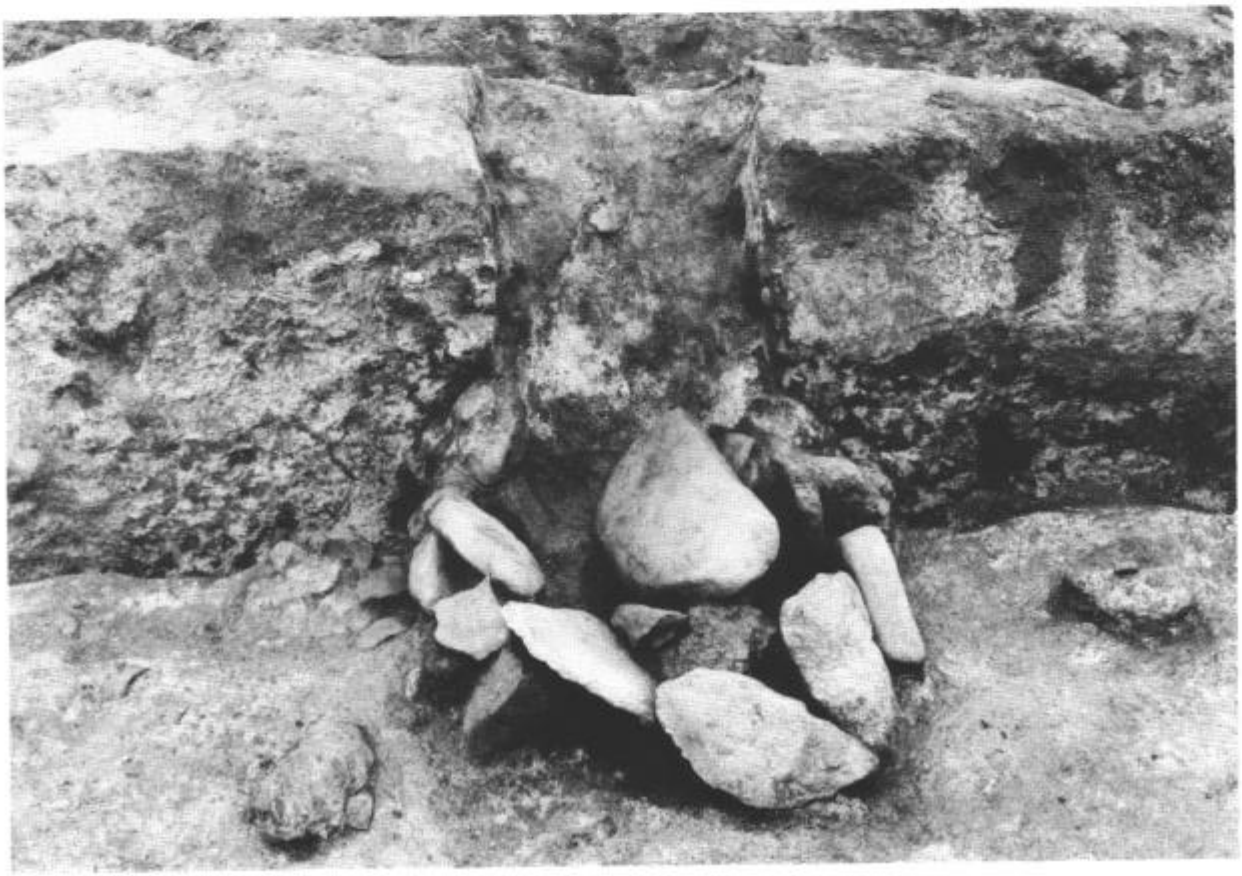
2　SI 023 鉄器出土状況

1　SI 023 竪穴住居跡　北→南



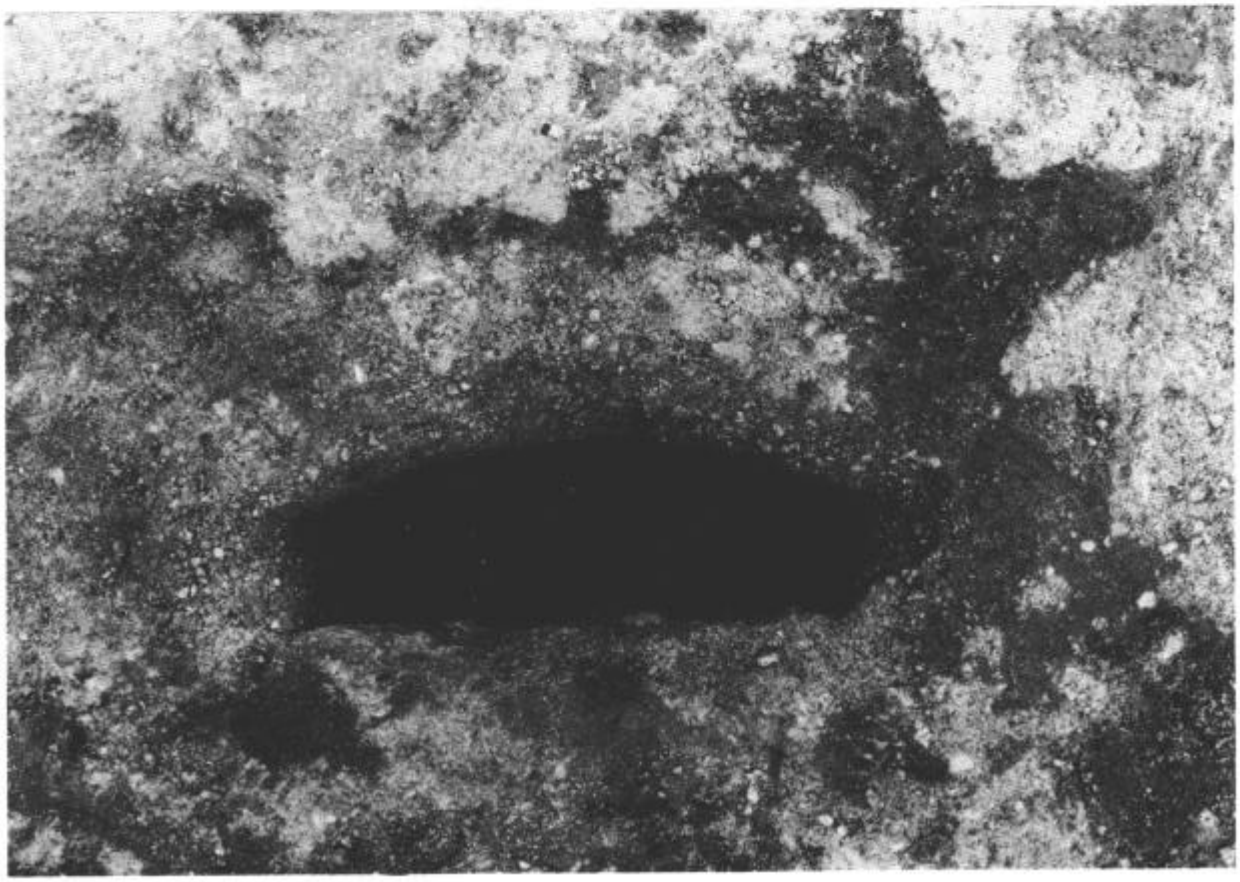
2　SI 025 ～ 027 竪穴住居跡　北→南

1　SI 024 竪穴住居跡　北→南



2　SI 024 竪穴住居跡カマド　北→南

1　SI 024 竪穴住居跡土層断面　北→南



2　SI 024 P 4 柱痕跡

図版三十五　竪穴住居跡

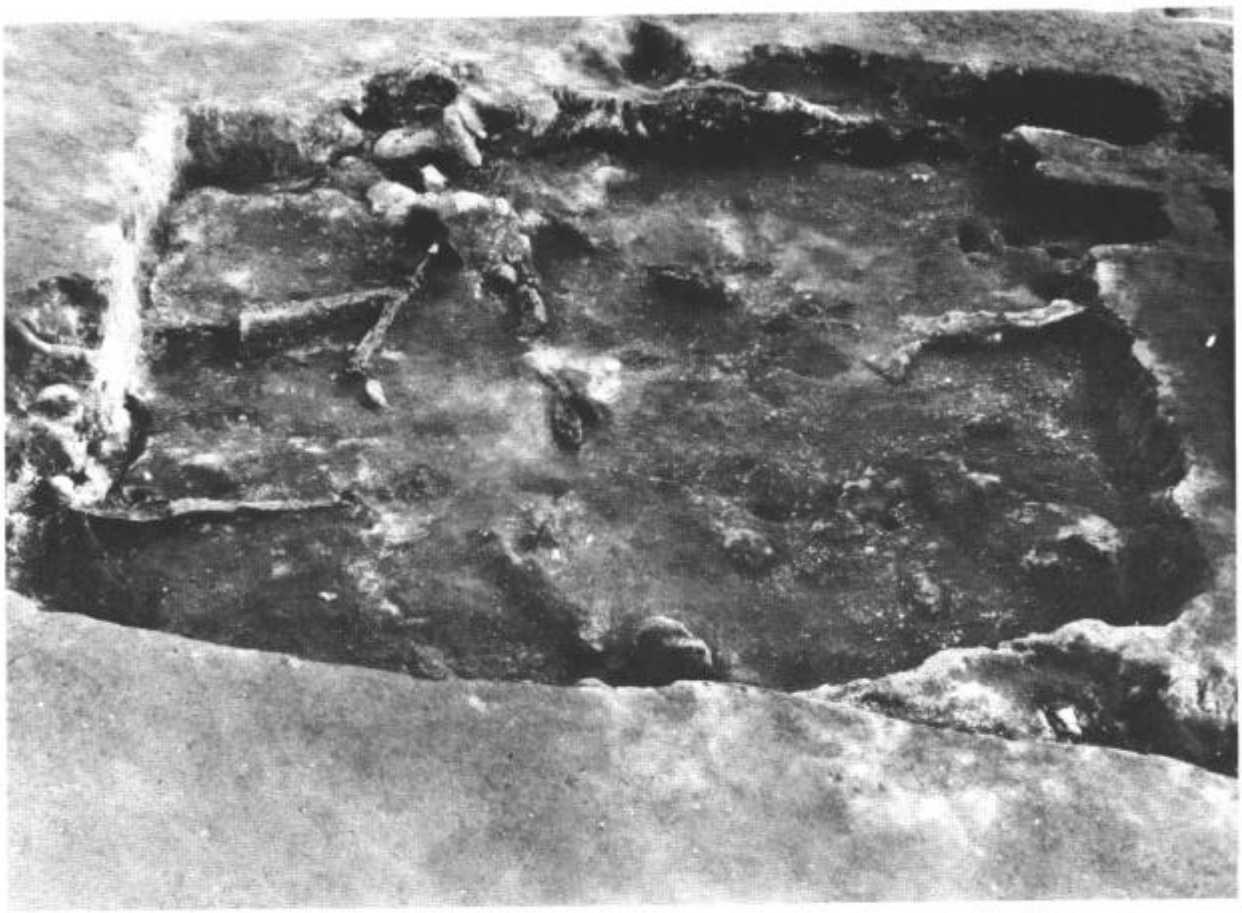
1　SI 025 竪穴住居跡　北→南

2　SI 025 竪穴住居跡
カマド　北→南

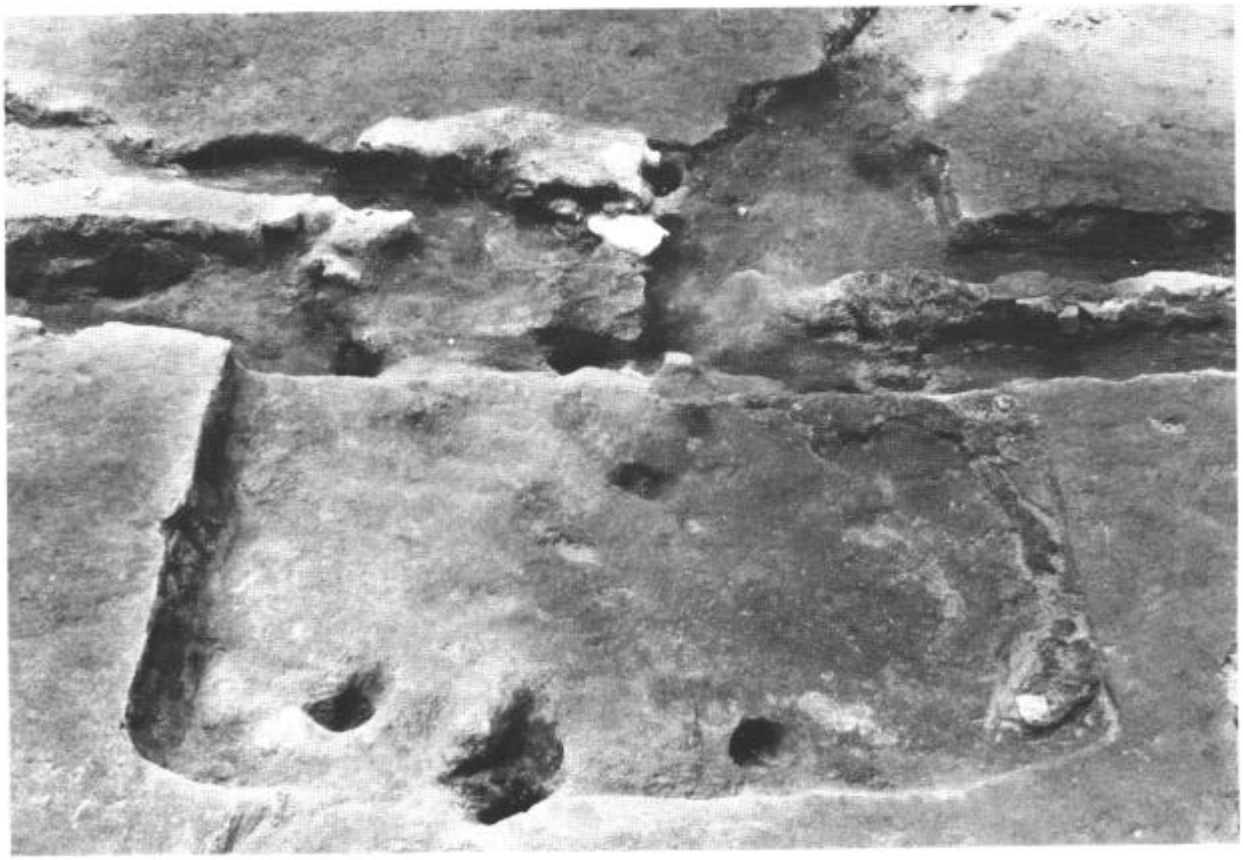
図版三十六　竪穴住居跡

1　SI 026 竪穴住居跡　北→南

2　SI 025・026 竪穴住居跡　東→西



1　SI 027 竪穴住居跡　北→南

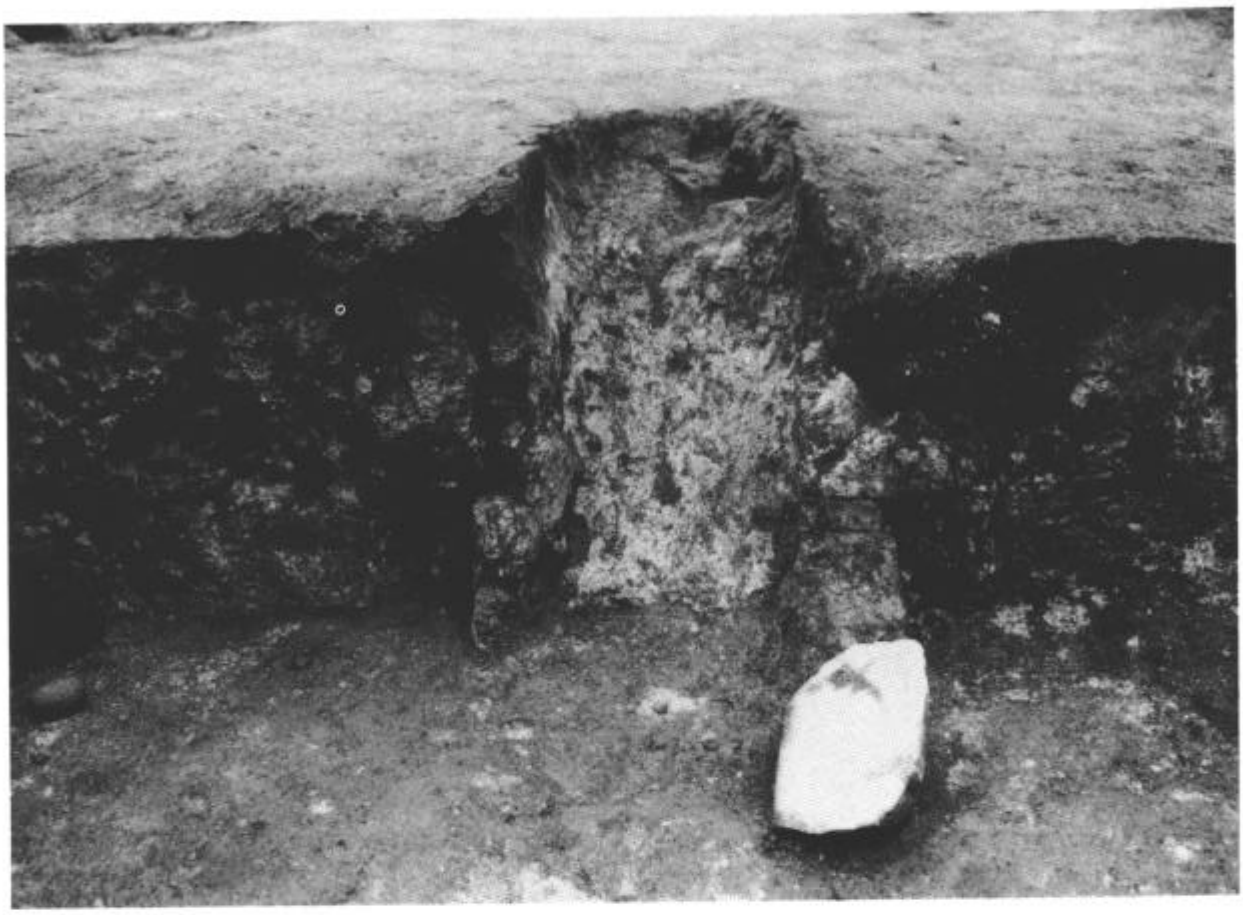


2　SI 028 竪穴住居跡　北→南

図版三十八　竪穴住居跡

1　SI 029 竪穴住居跡
北→南

2　SI 030 竪穴住居跡　北→南



1　SI 030 B竪穴住居跡カマド　北→南

2　SI 030 B竪穴住居跡カマド　北→南

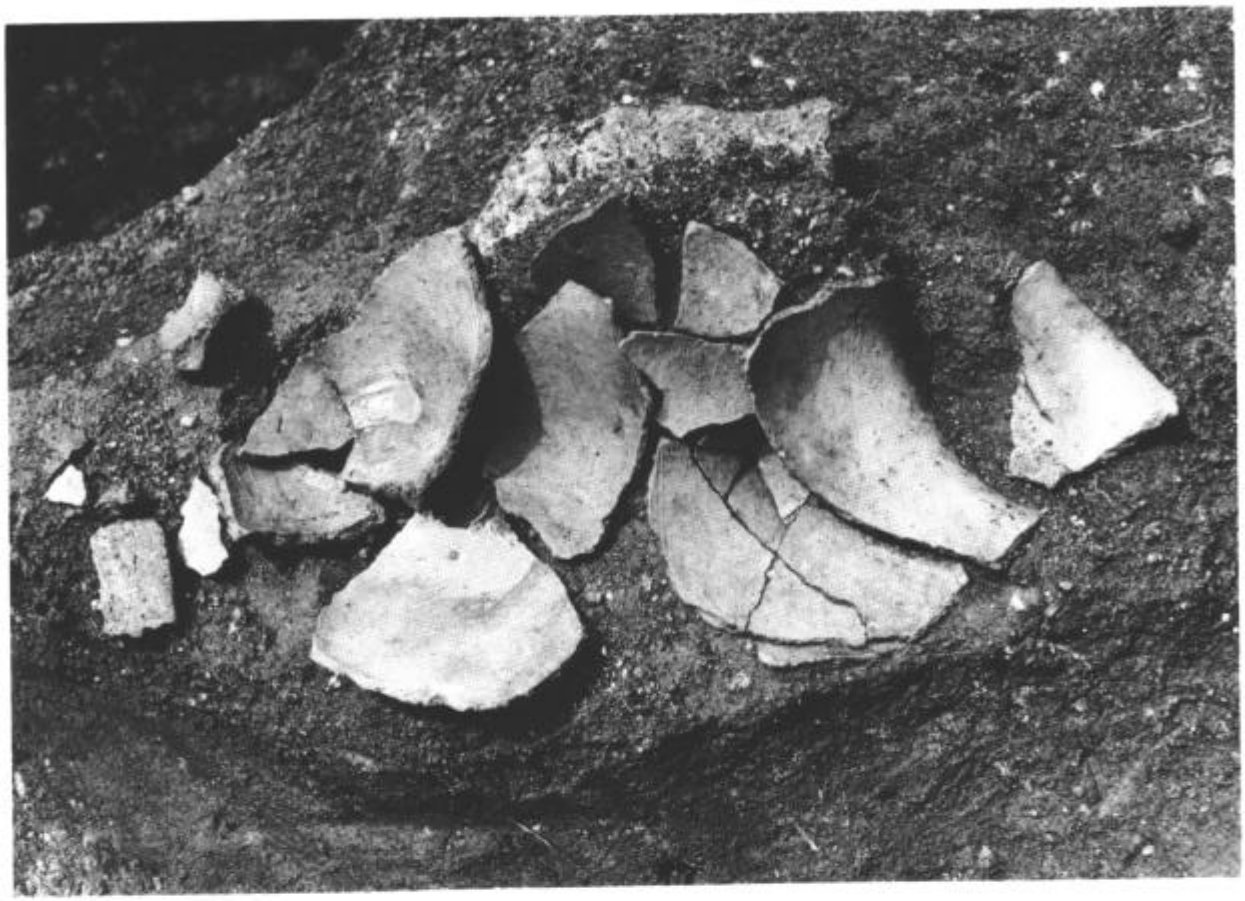
1　SI 030 竪穴住居跡柱穴内炭化材出土状況　南→北

2　SI 030 B竪穴住居跡遺物出土状況　北→南

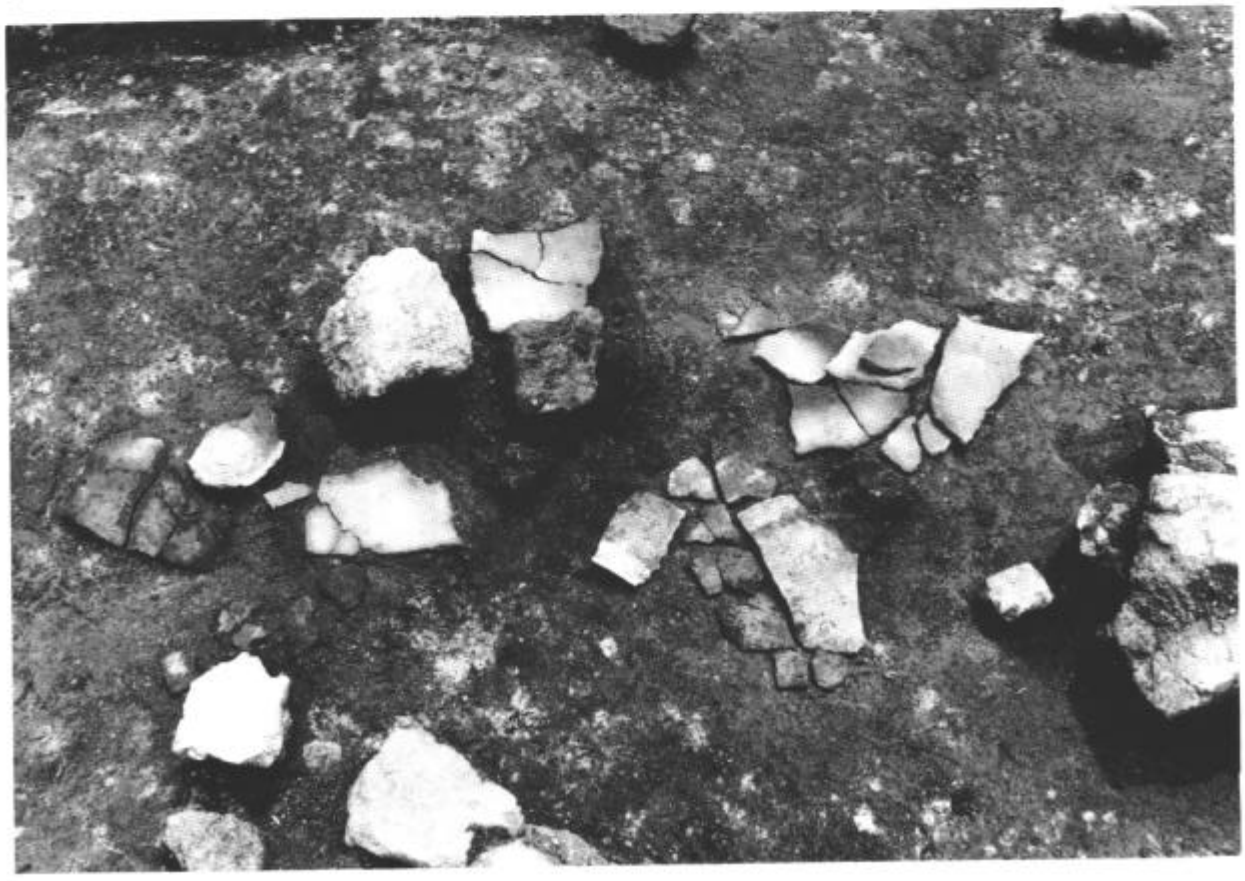
図版四十一　竪穴住居跡

1　SI 031 A・B竪穴住居跡　北→南

2　SI 031 A・B竪穴住居跡カマド　北→南

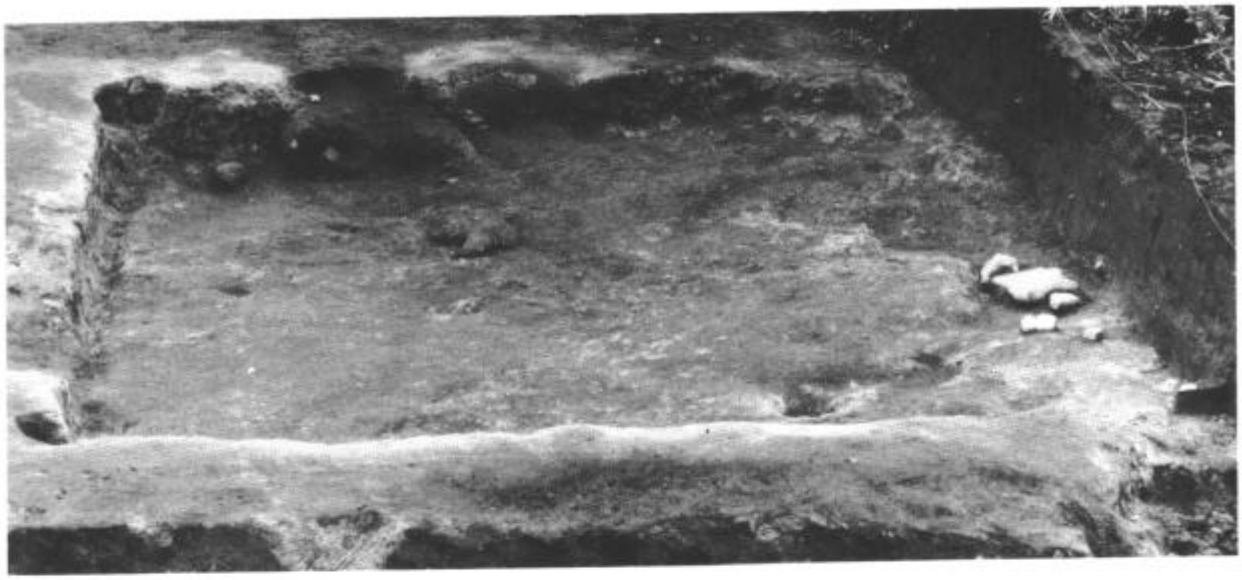


1　SI 031 竪穴住居跡土器出土状況



2　SI 031 竪穴住居跡土器出土状況

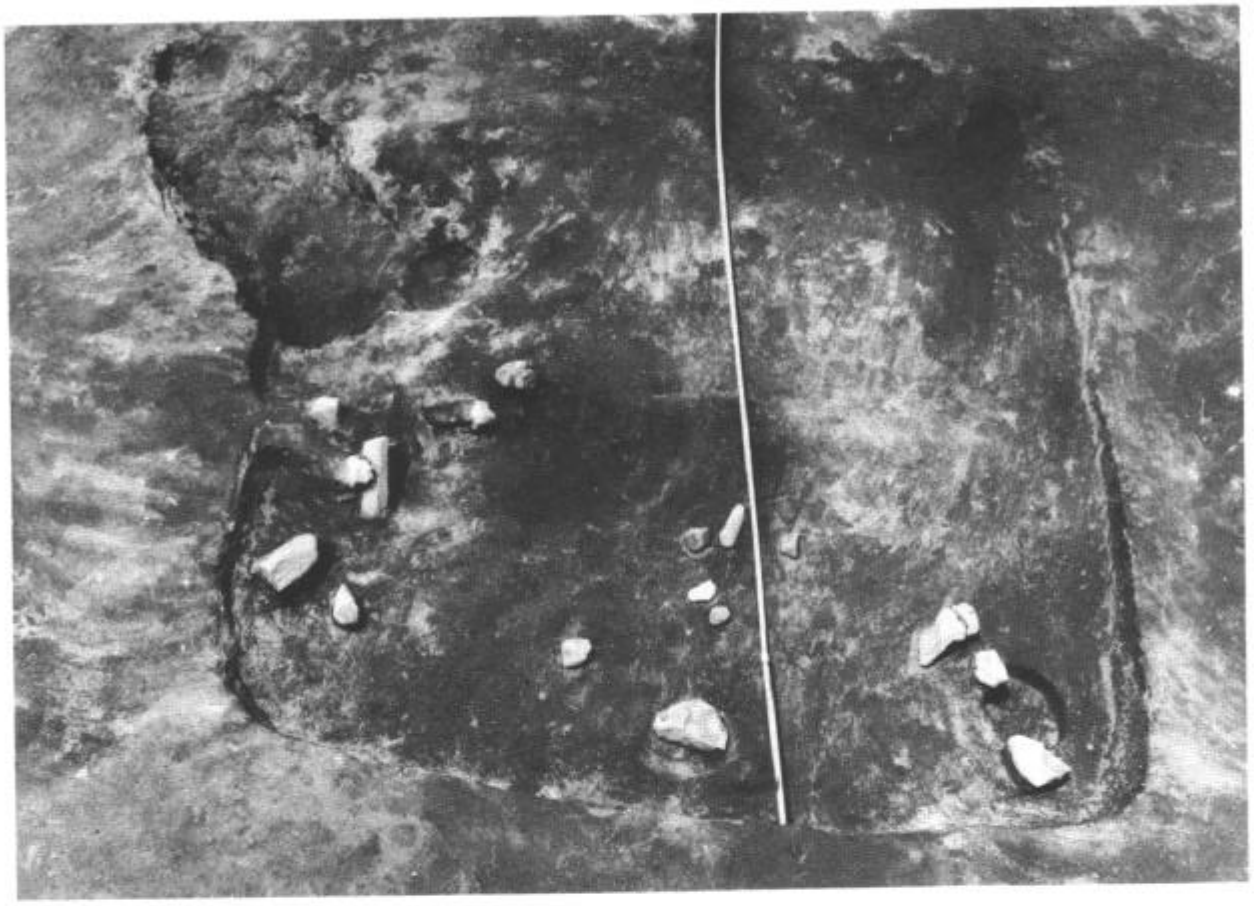
図版四十三　竪穴住居跡



1　SI 032 竪穴住居跡　北→南

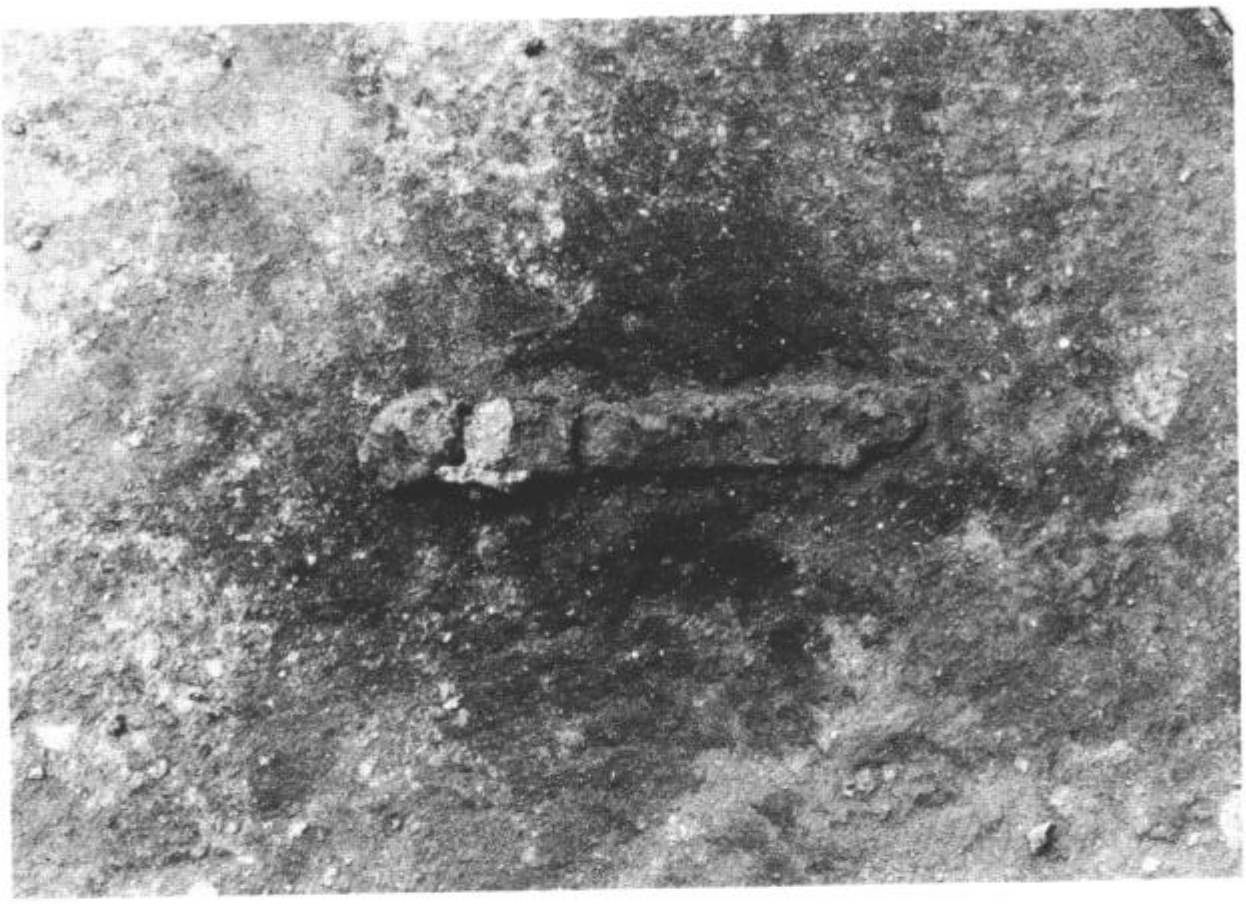
2　SI 032 竪穴住居跡
カマド　北→南

図版四十四　竪穴住居跡



1　SI 033 竪穴住居跡　東→西

2　SI 033 竪穴住居跡カマド　北→南



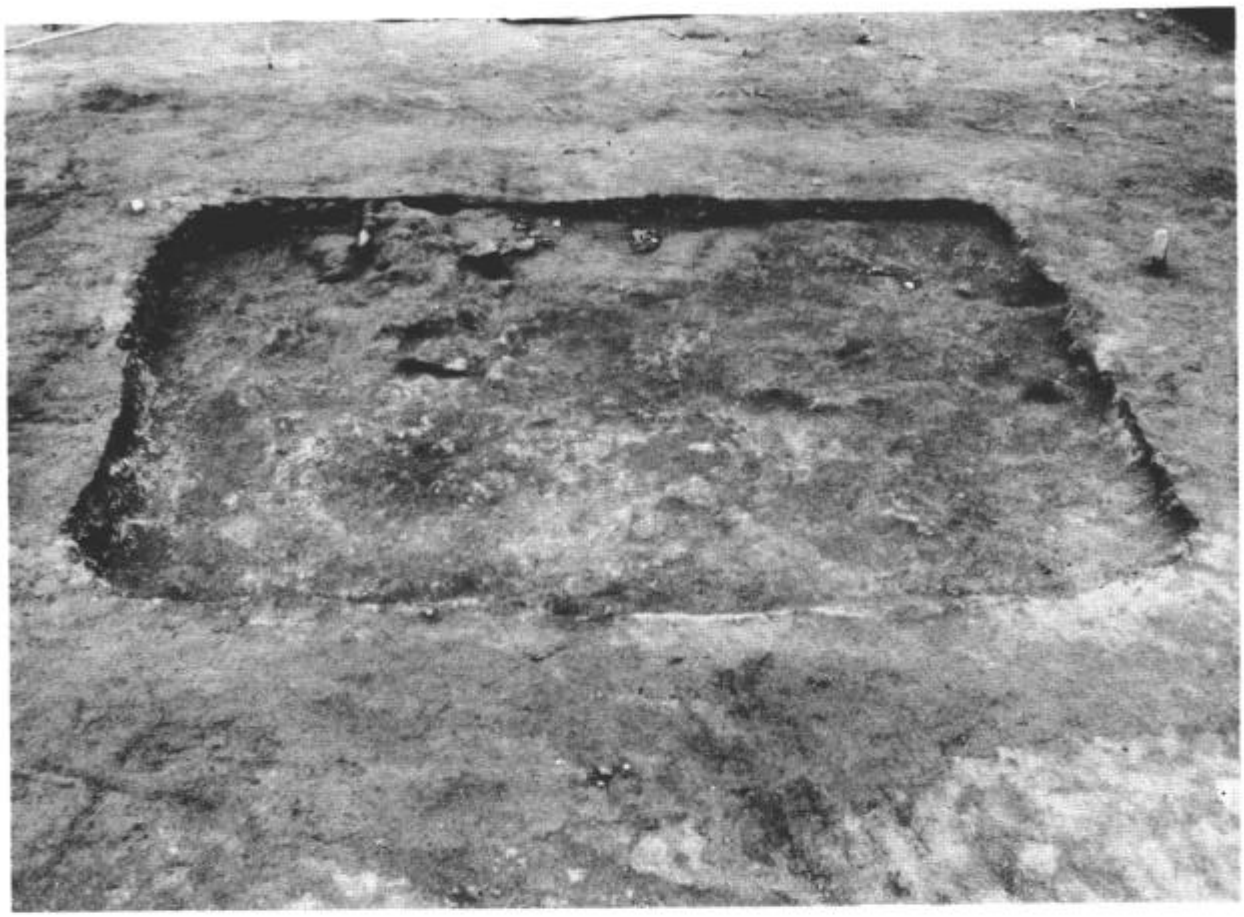
1　SI 033 竪穴住居跡刀子出土状況

2　SI 034 竪穴住居跡　北→南

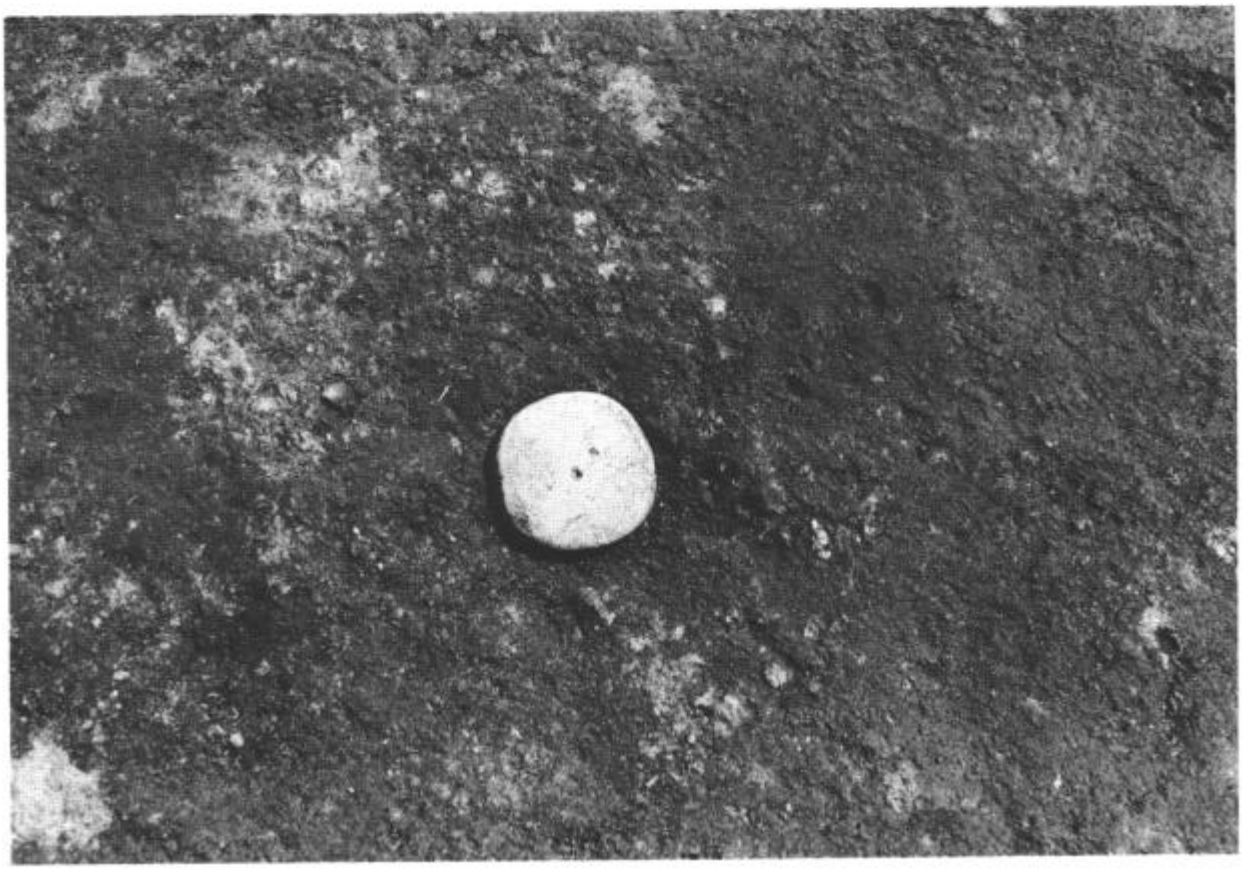
図版四十六　竪穴住居跡

1　SI 034 竪穴住居跡カマド　北→南

2　SI 034 竪穴住居跡南東隅灰検出状況　西→東



1　SI 035 竪穴住居跡　北→南



2　SI 035 竪穴住居跡遺物出土状況

図版四十八　竪穴住居跡

1　SI 036 竪穴住居跡　北→南

2　SI 036 竪穴住居跡カマド　北→南

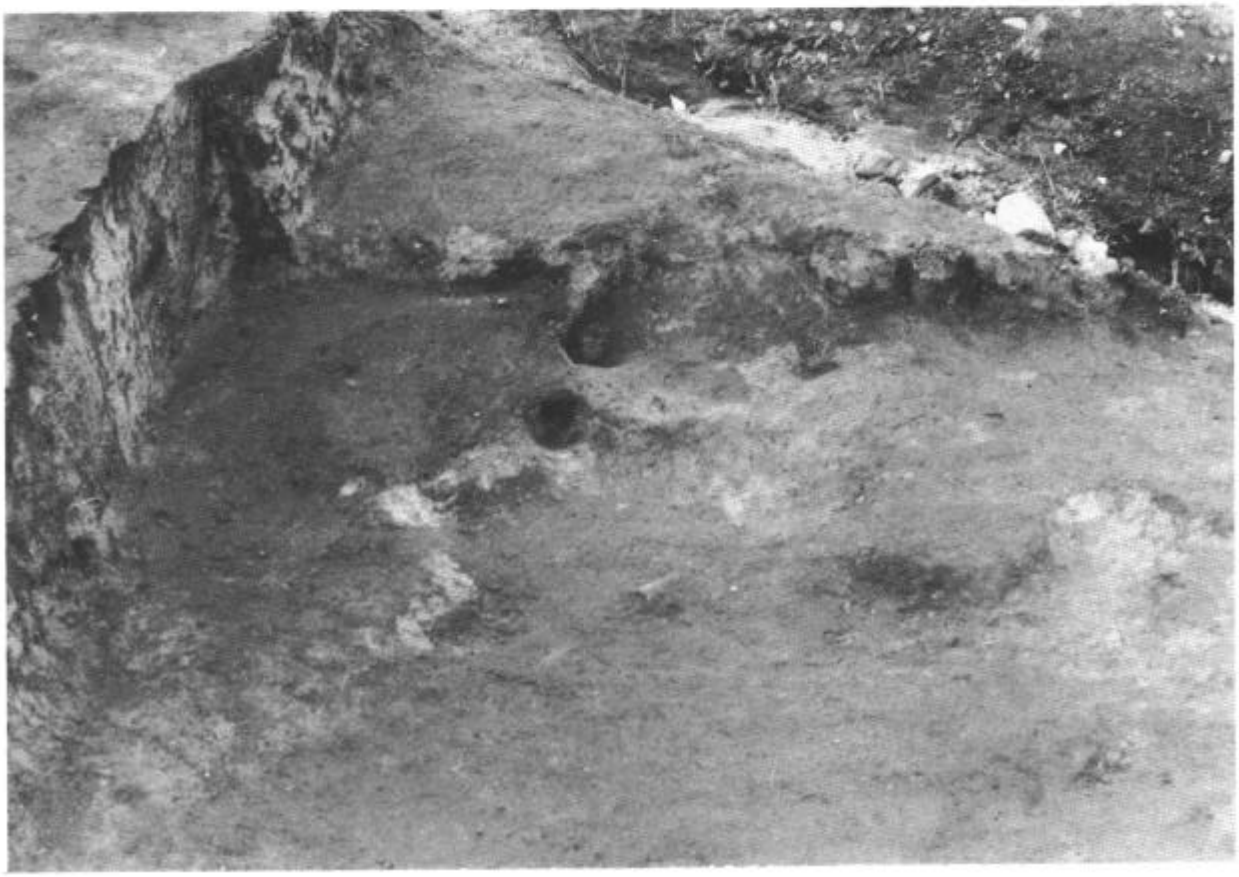
図版四十九　竪穴住居跡

1　SI 037 竪穴住居跡　北→南

2　SI 038 竪穴住居跡　北→南

図版五十　竪穴住居跡

1　SI 039 竪穴住居跡　北→南

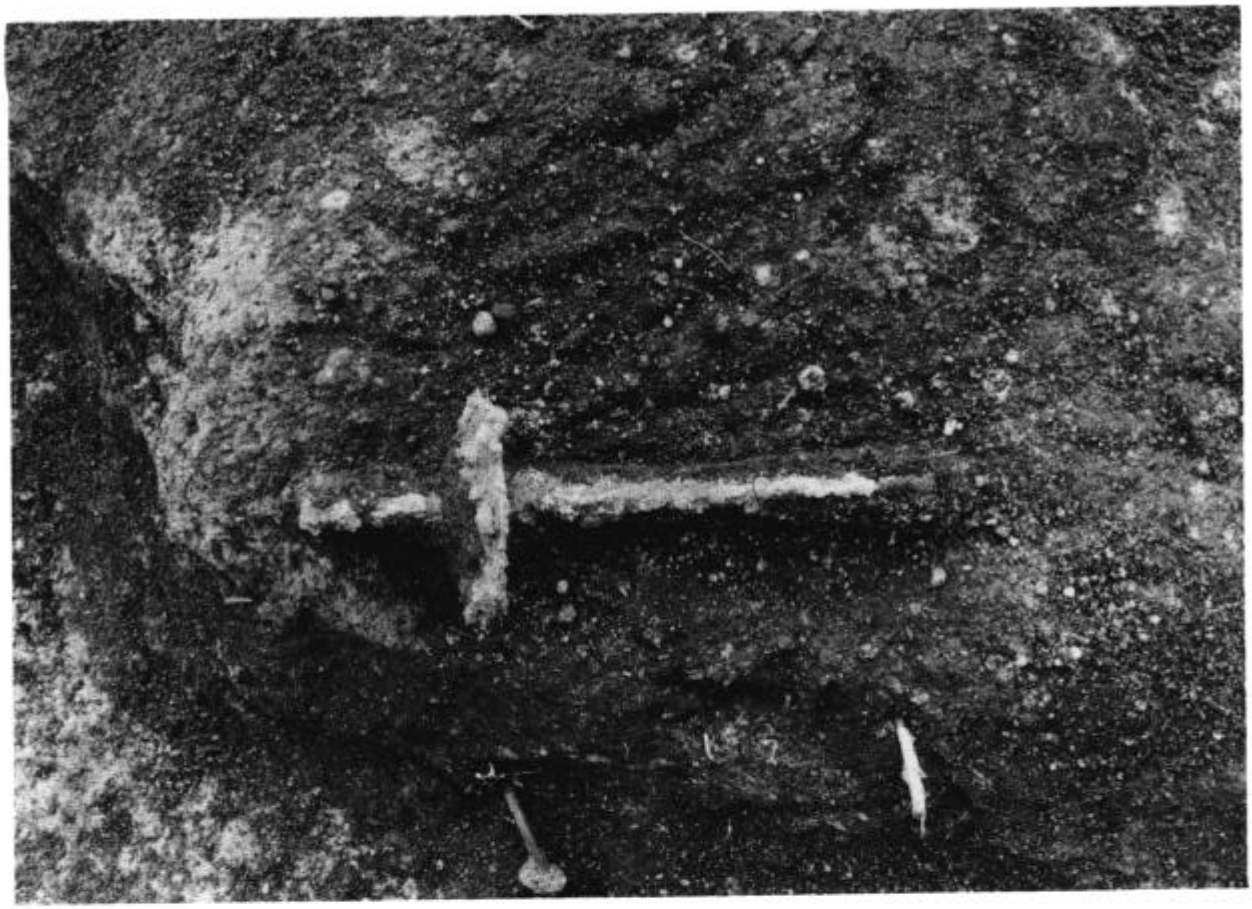


2　SI 039 竪穴住居跡カマド掘形　北→南

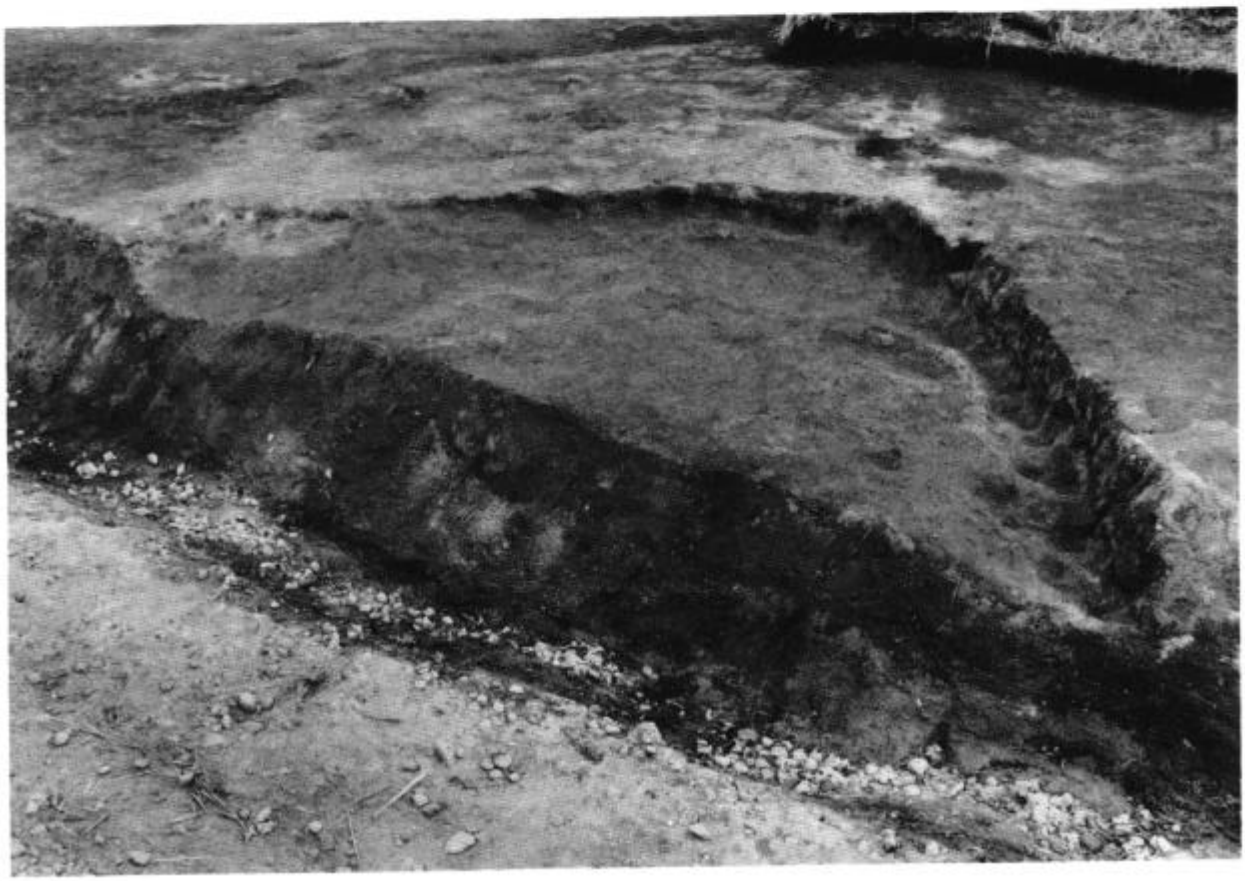
1　SI 040 竪穴住居跡　北→南

2　SI 041 竪穴住居跡　北→南

図版五十二　竪穴住居跡

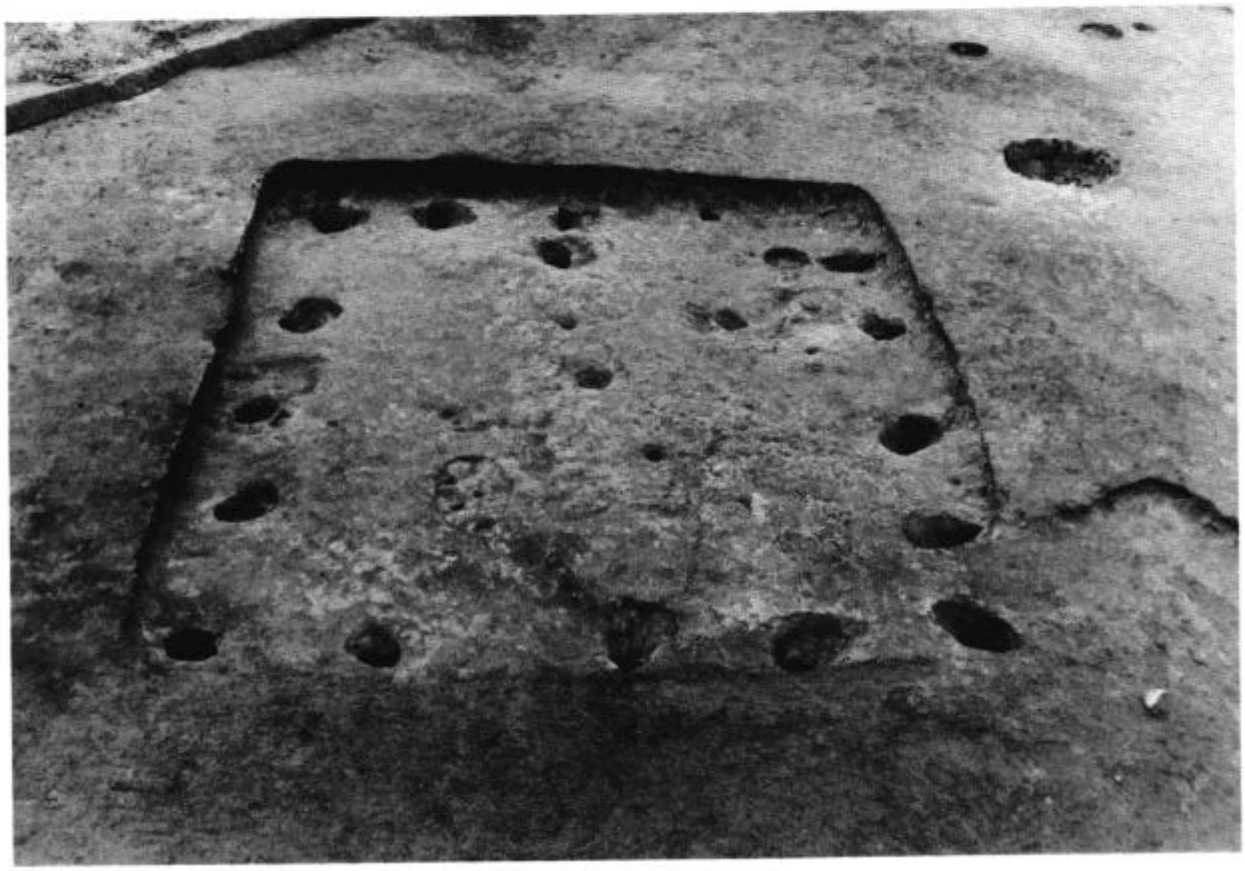


1　SI 041 竪穴住居跡紡錘車出土状況



2　SI 042 竪穴住居跡　南→北

1　SI 043 竪穴住居跡　北西→南東



2　SI 044 竪穴住居跡　北西→南東

図版五十四　竪穴住居跡

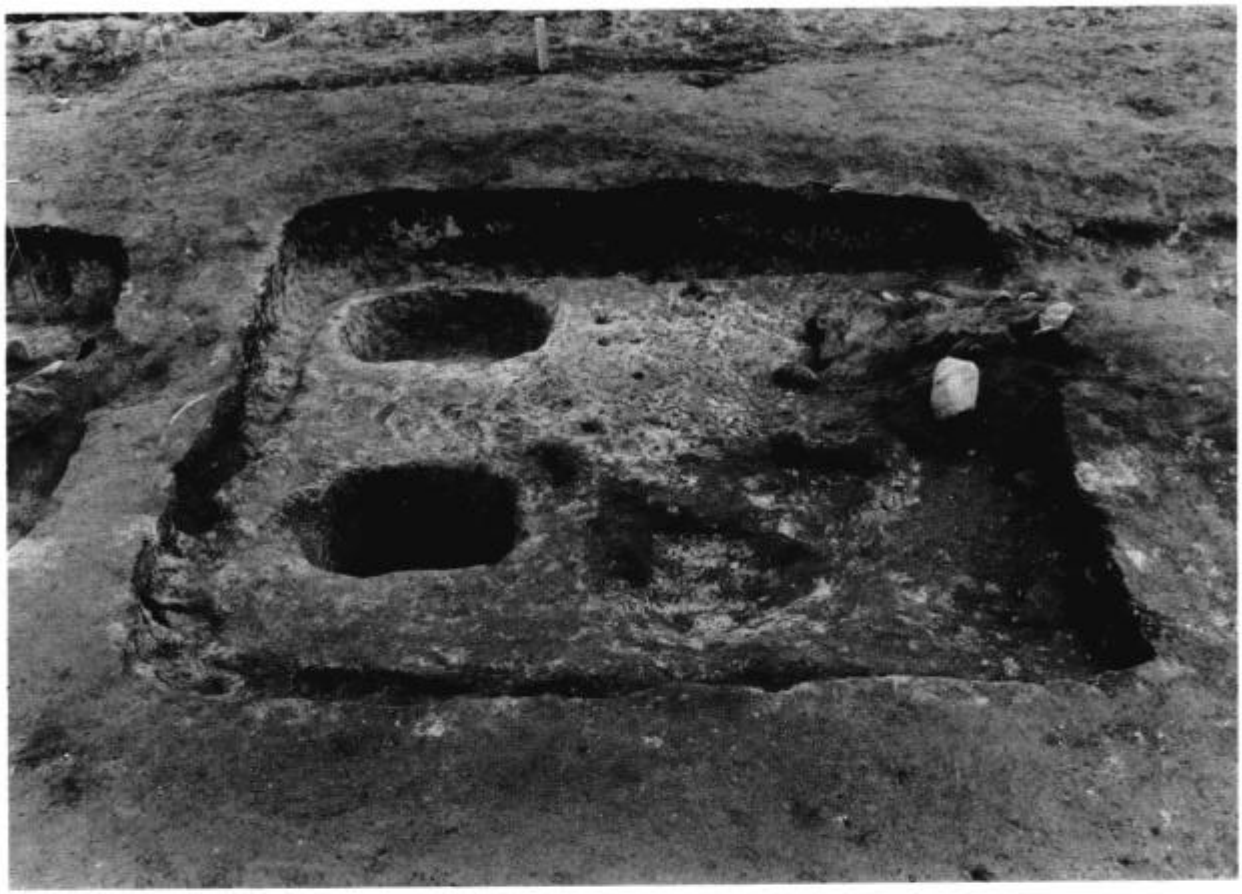
1　SI 044 竪穴住居跡、浮石層掘り込み状況

2　SI 046 ～ 048
竪穴住居跡　北→南

1　SI 046 竪穴住居跡　北→南

2　SI 047 竪穴住居跡　北→南

図版五十六　竪穴住居跡



1　SI 048 竪穴住居跡　西→東

2　SI 048 竪穴住居跡カマド　北→南

1　SI 049 竪穴住居跡　西→東

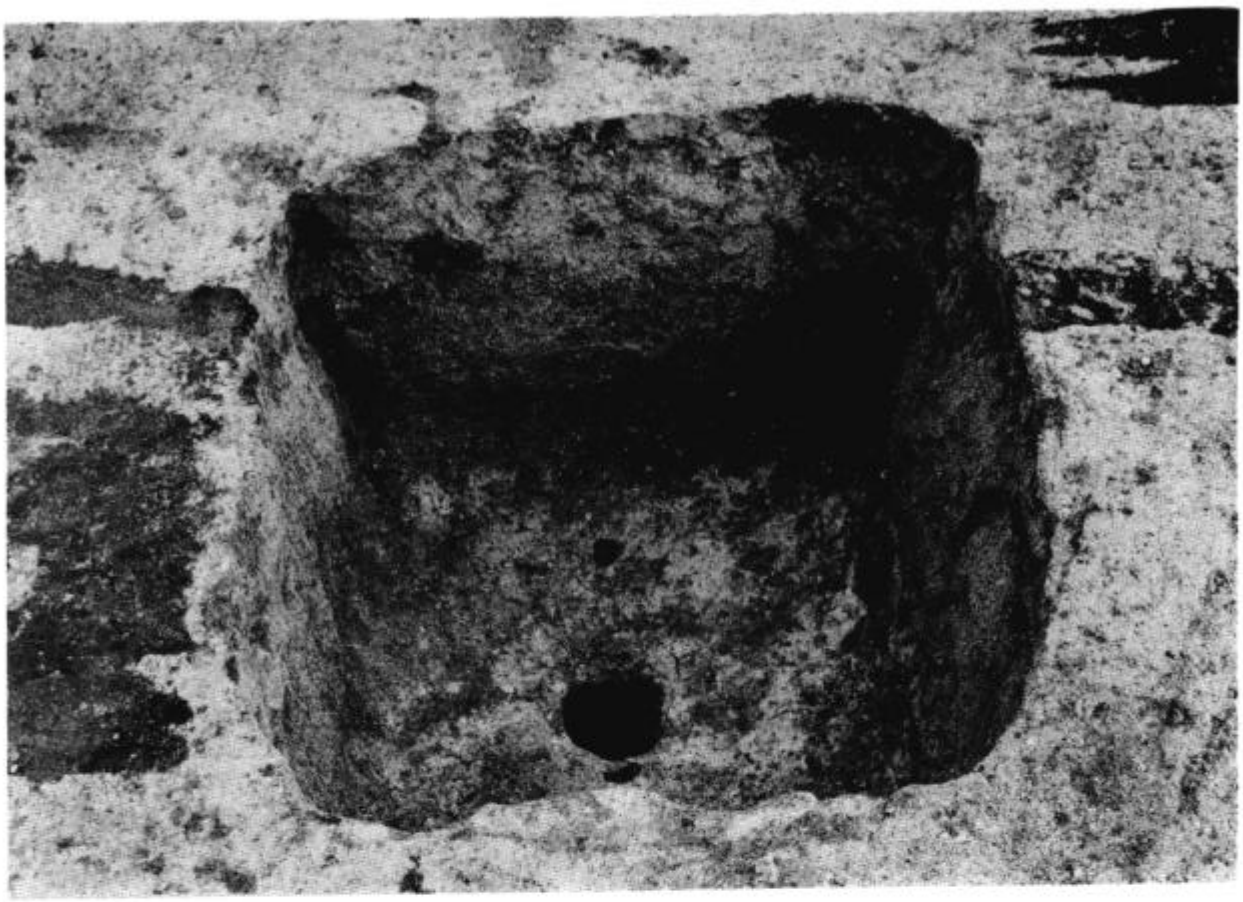
2　SI 050 竪穴住居跡　東→西

図版五十八　竪穴住居跡

1　SI 051・052 竪穴住居跡・SX008　北→南

2　SI 051・052 竪穴住居跡・SX008　南→北

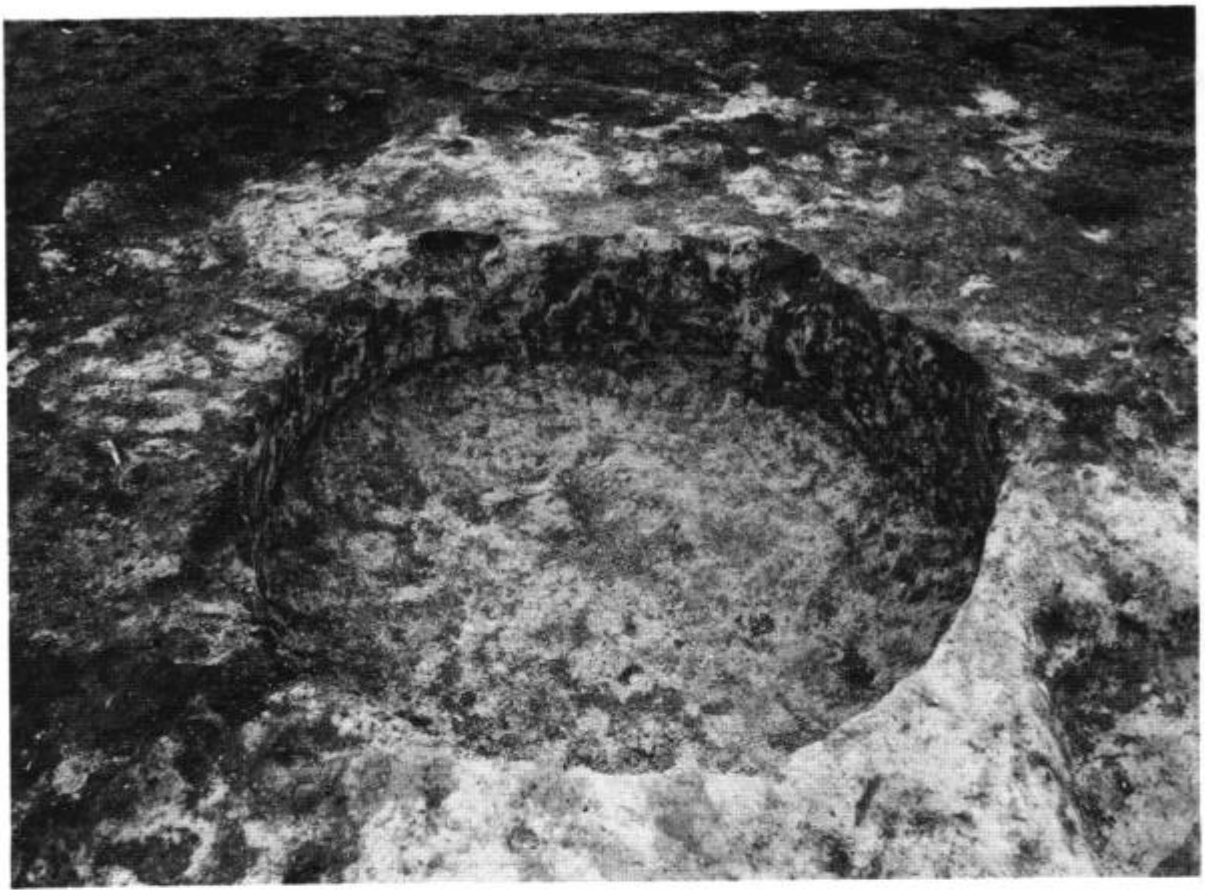
図版五十九　土壙



1　SK 001 土壙　南→北

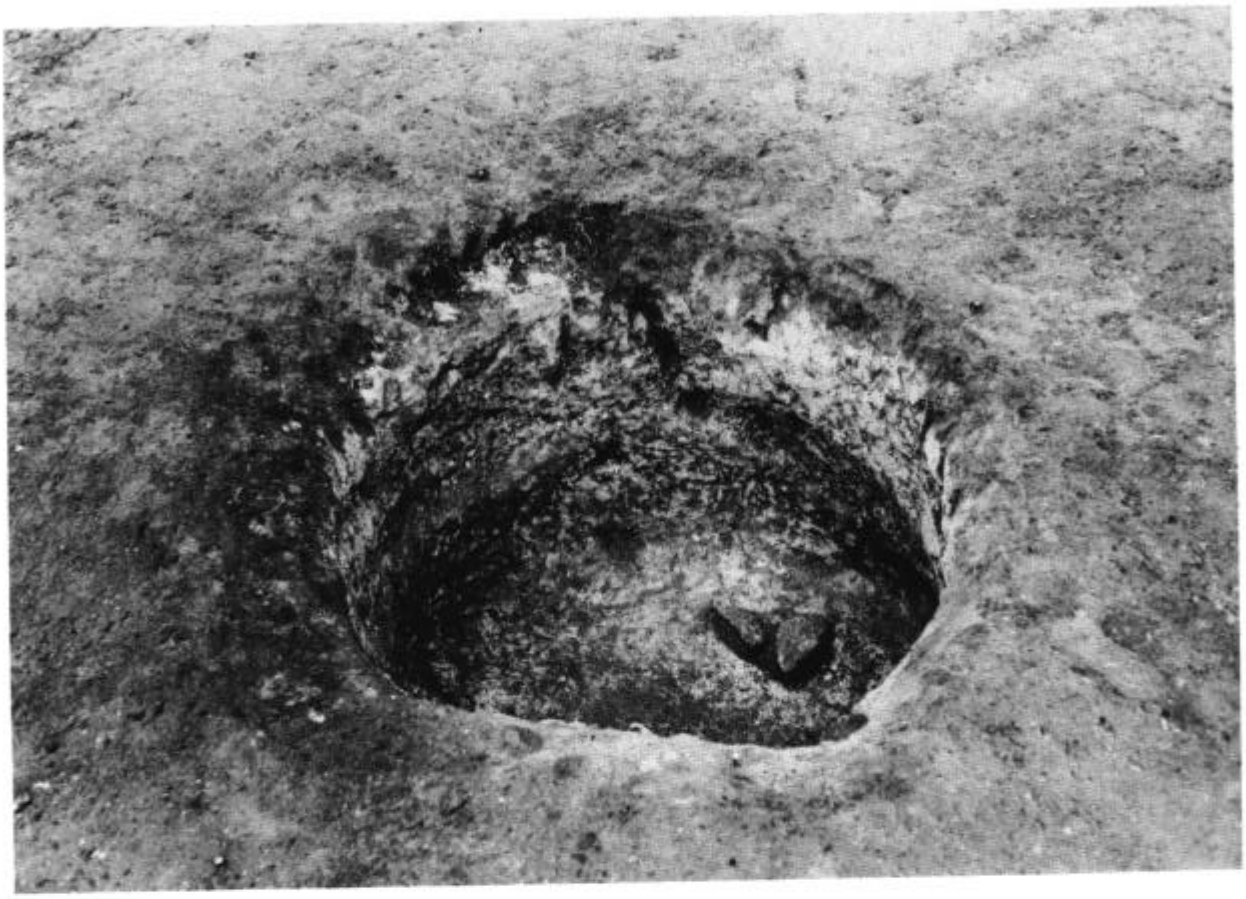
2　SK 002 土壙　北→南

図版六十　土壙



1　ＳＫ 006 土壙　南→北

2　ＳＫ 014 土壙　東→西



1　ＳＫ 016 土壙　北→南

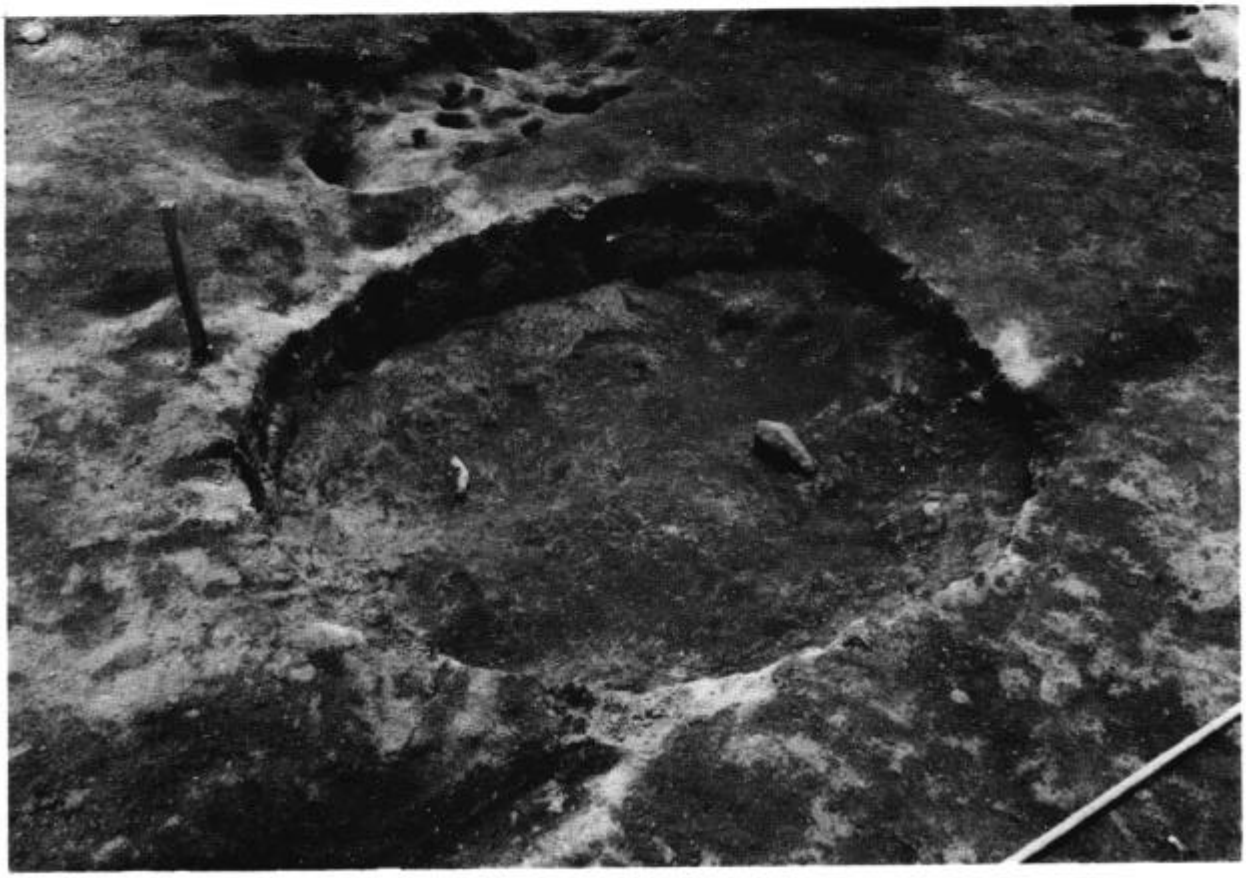
2　ＳＫ 017 土壙　西→東

図版六十二　土壙

1　SK 022 土壙　東→西

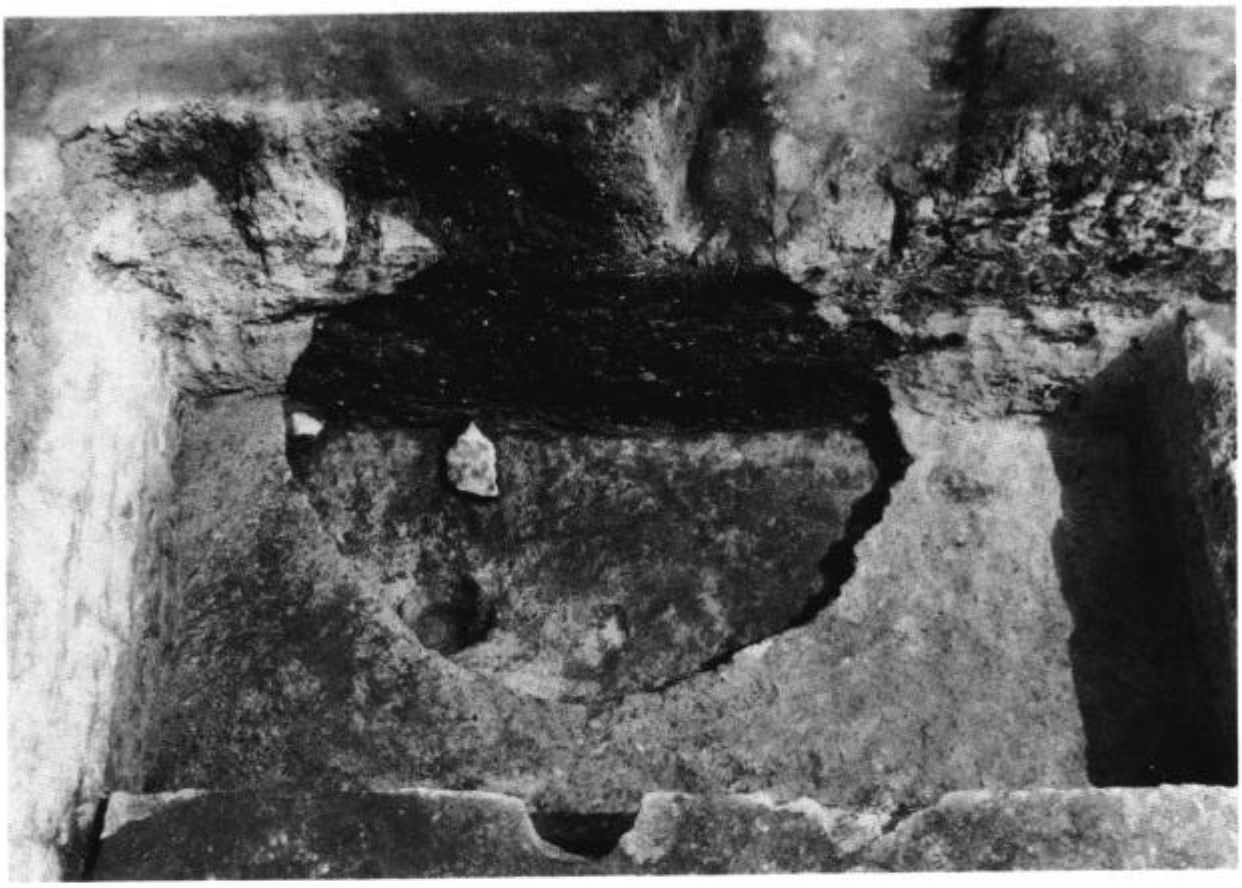
2　SK 023 土壙　北→南

1　SK 028 土壙　東→西



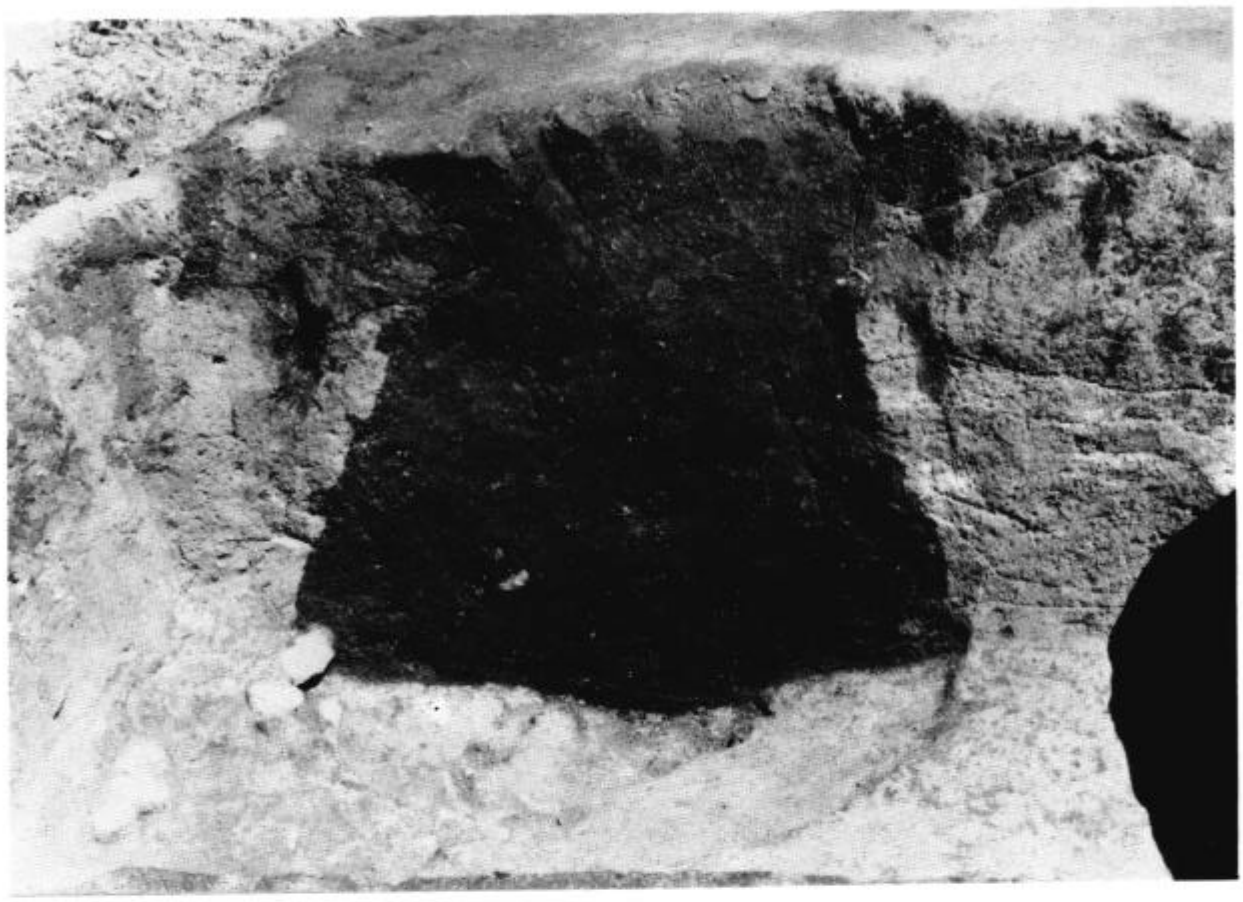
2　SK 031 土壙　北→南

図版六十四　土壙



1　SK（f）030 土壙　南→北

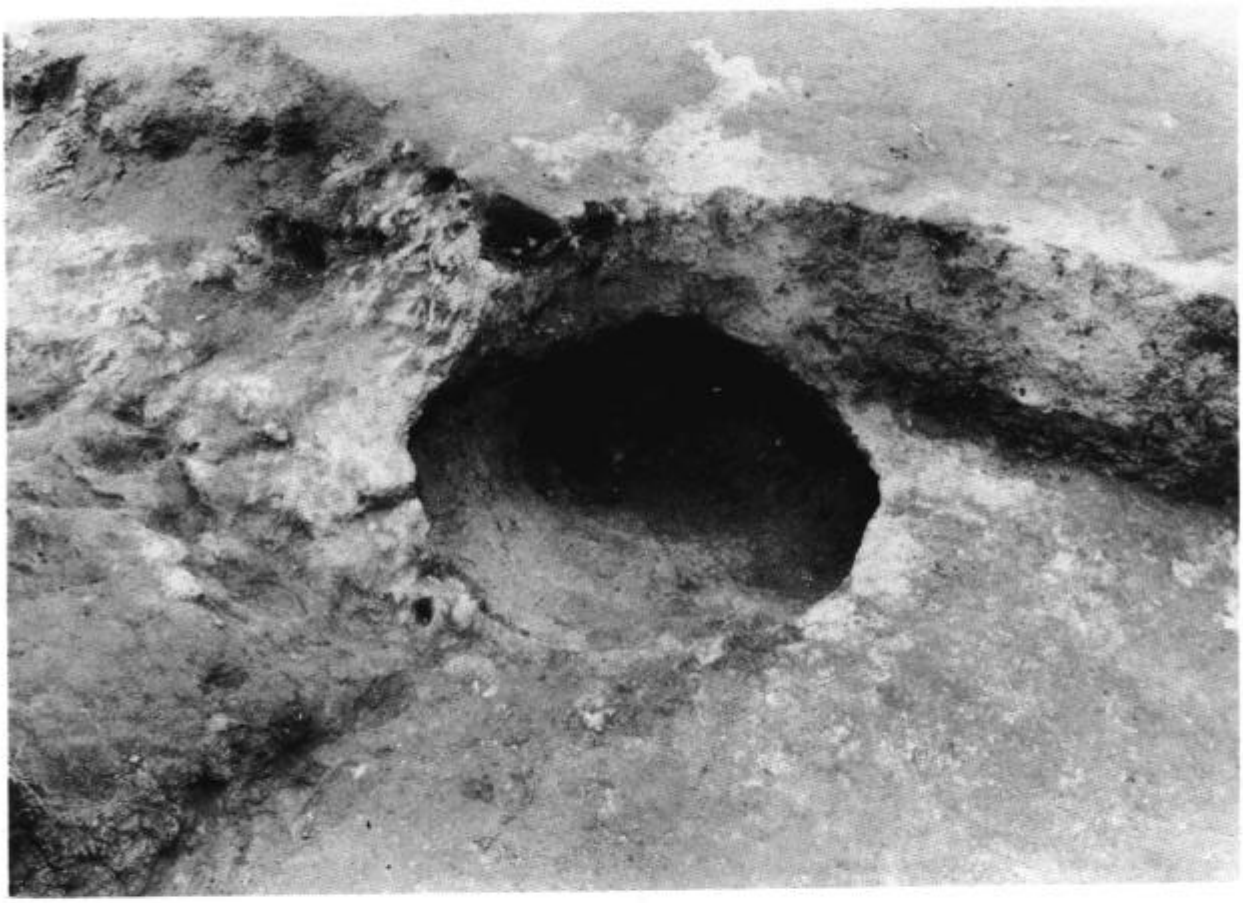
2　SK（f）030 土壙　南→北



1　ＳＫ(ｆ)032土壙　西→東

2　ＳＫ（ｆ）032 土壙　西→東

図版六十六　土壙

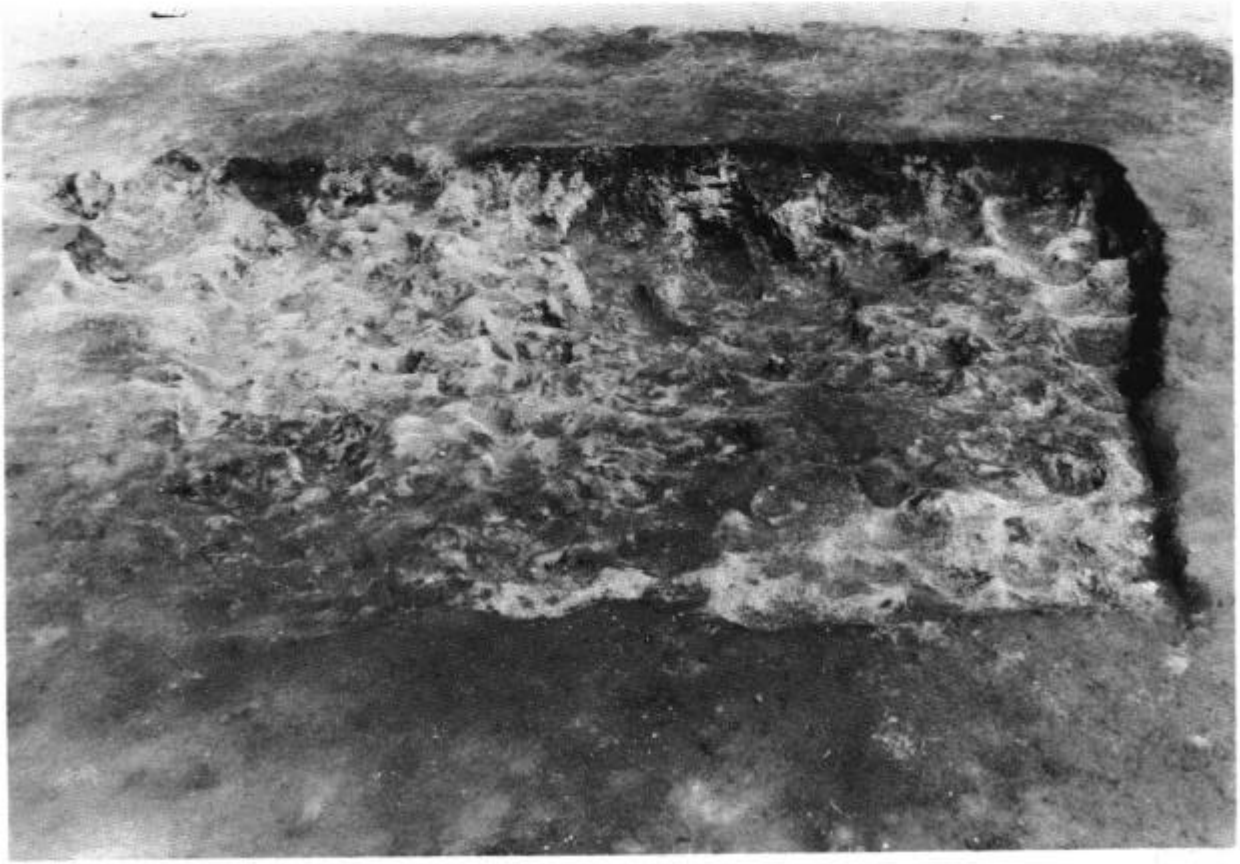


1　SK（f）033 土壙　北→南

2　SK 036 土壙　北→南

図版六十七　土壙

1　SK（I）037 土壙　北→南



2　SK（I）037 土壙　西→東

図版六十八　土壙

1　SK 038 土壙　東→西

2　SK 042 土壙　北→南

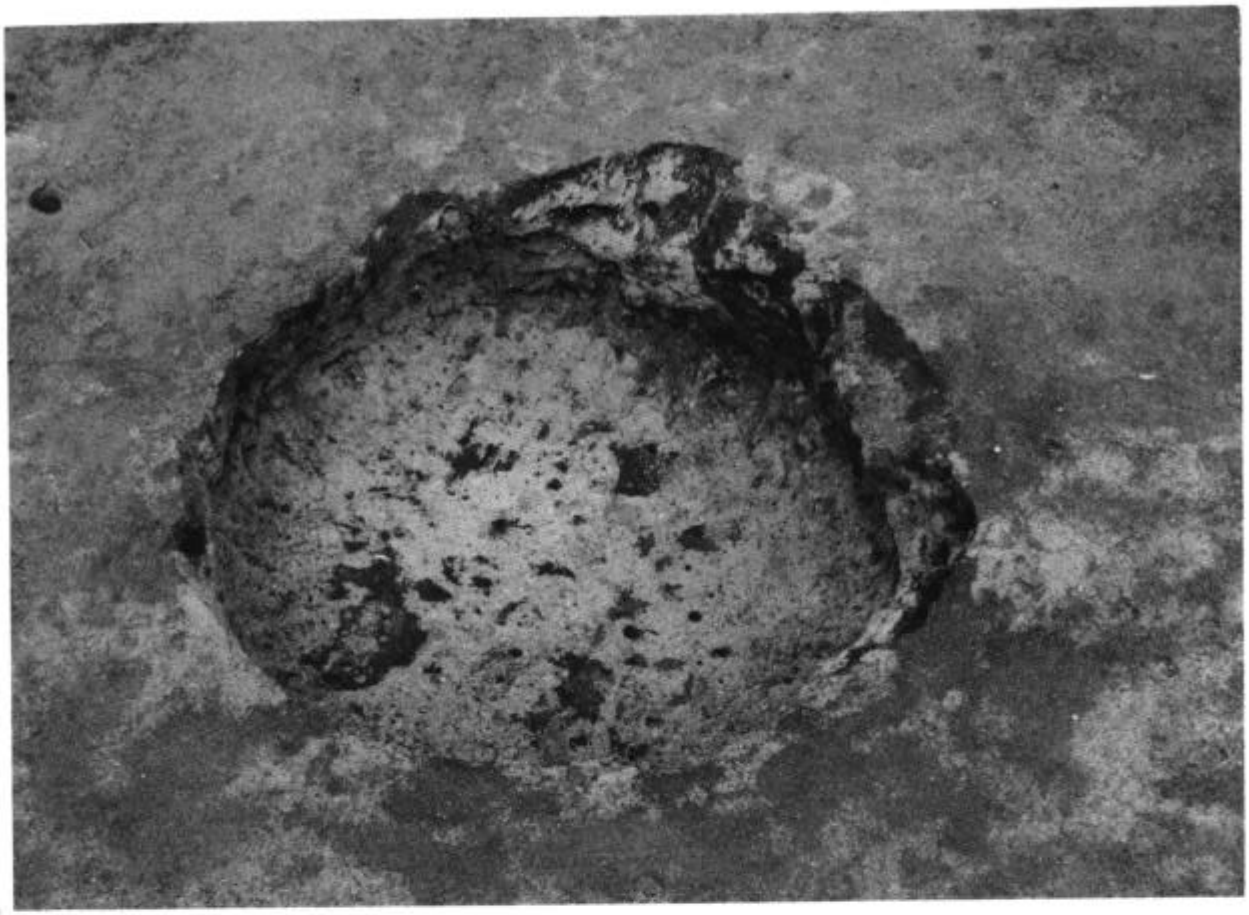
1　SK（f）043 土壙　西→東

2　SK（f）043 土器出土状況

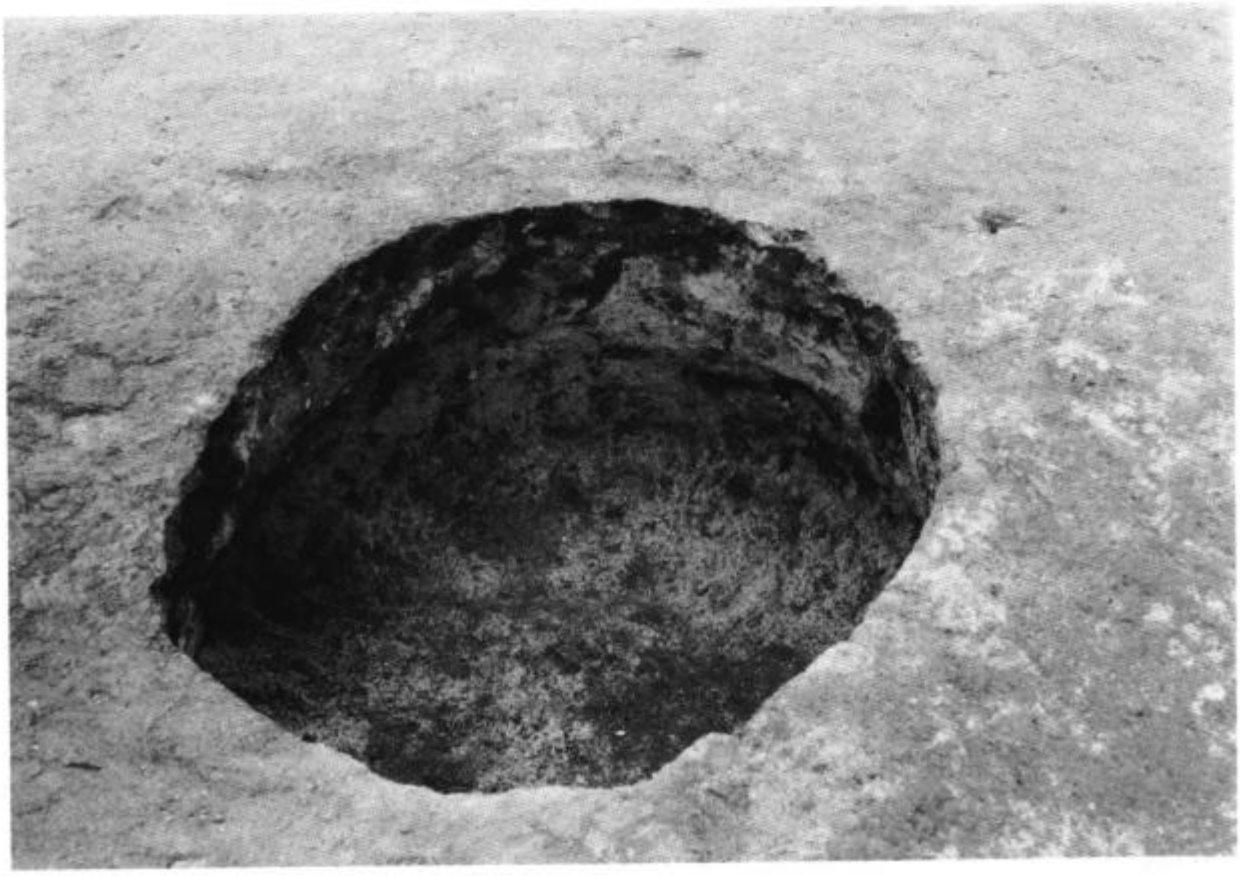
図版七十　土壙

1　SK 046 土壙　北→南

2　SK 044 ～ 046 土壙　西→東



1　SK 047 土壙　北東→南西



2　SK 049 土壙　西→東

図版七十二　土壙

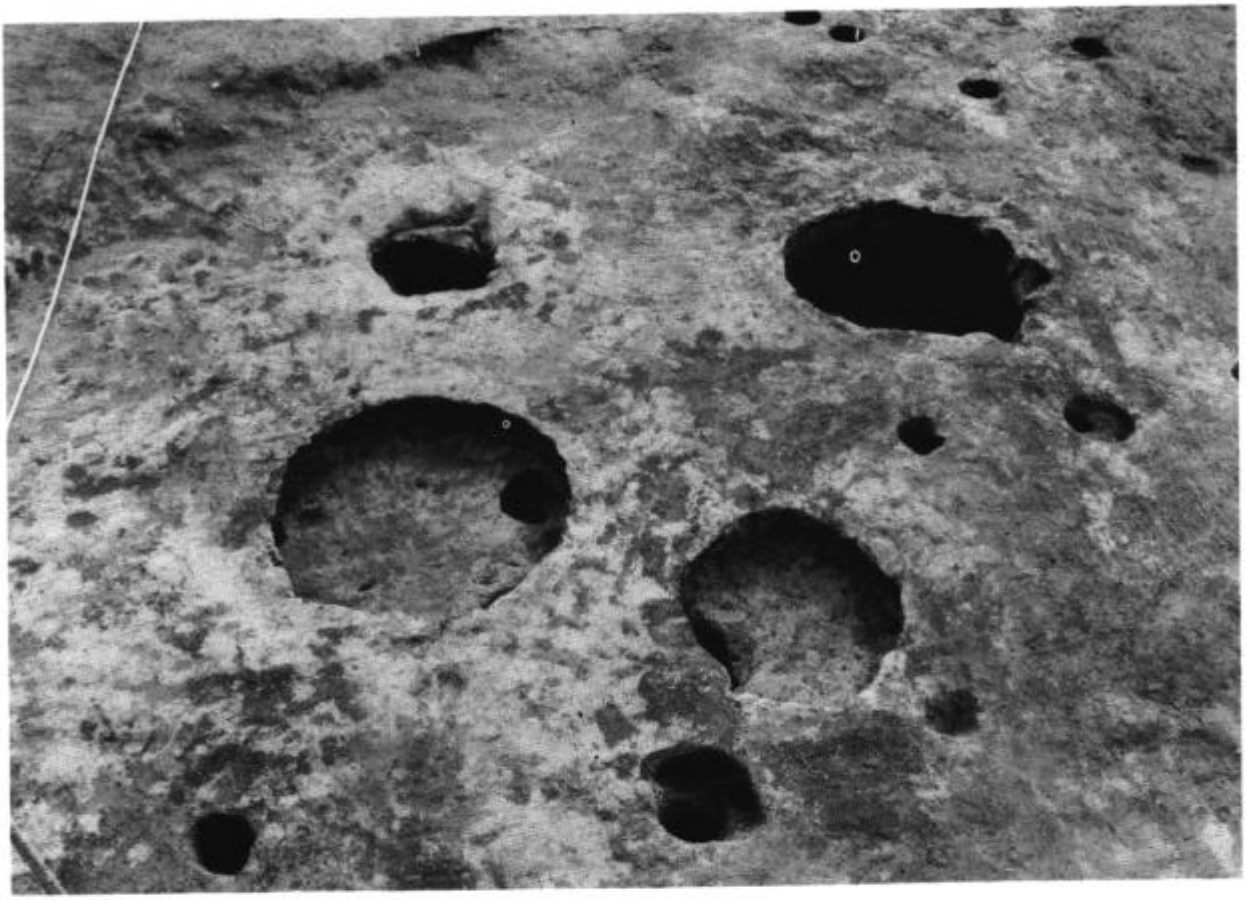
1　SK（f）050 土壙　北→南

2　SK 051 土壙　北→南

1　SK 052 土壙　西→東

2　SK 054 土壙　北西→南東

図版七十四　土壙



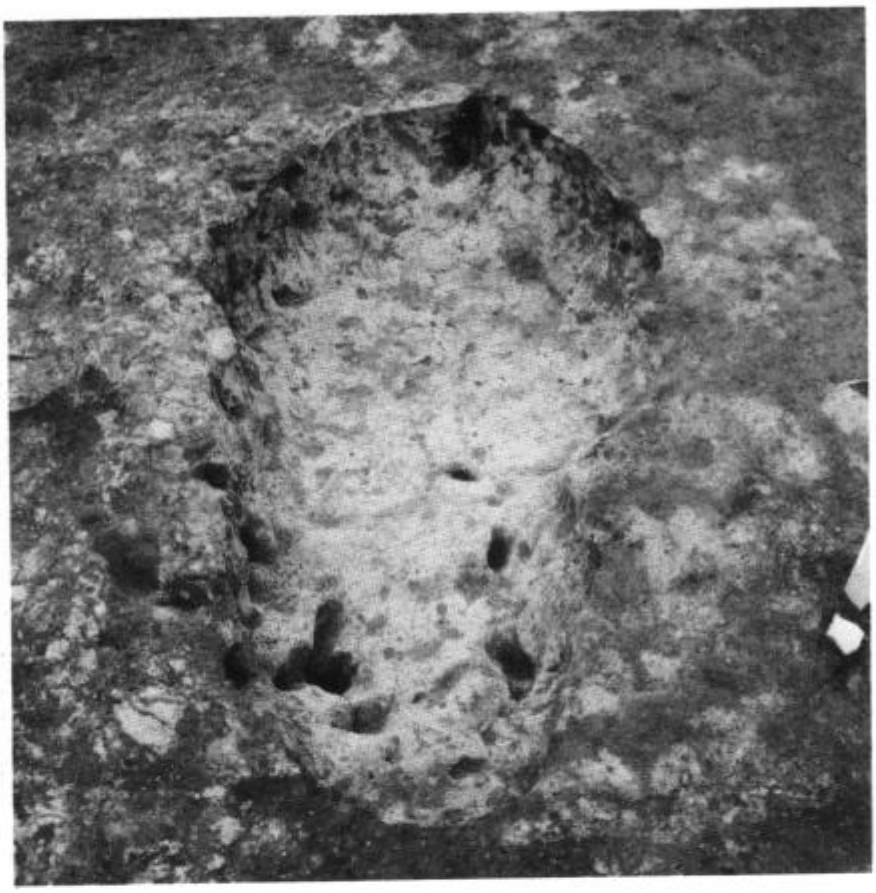
1　SK 050～053 土壙　北西→南西

2　SK（f）056 土壙　北→南

1　SK 057 土壙　北→南

2　SK （f）059 土壙　北→南

図版七十六　土壙

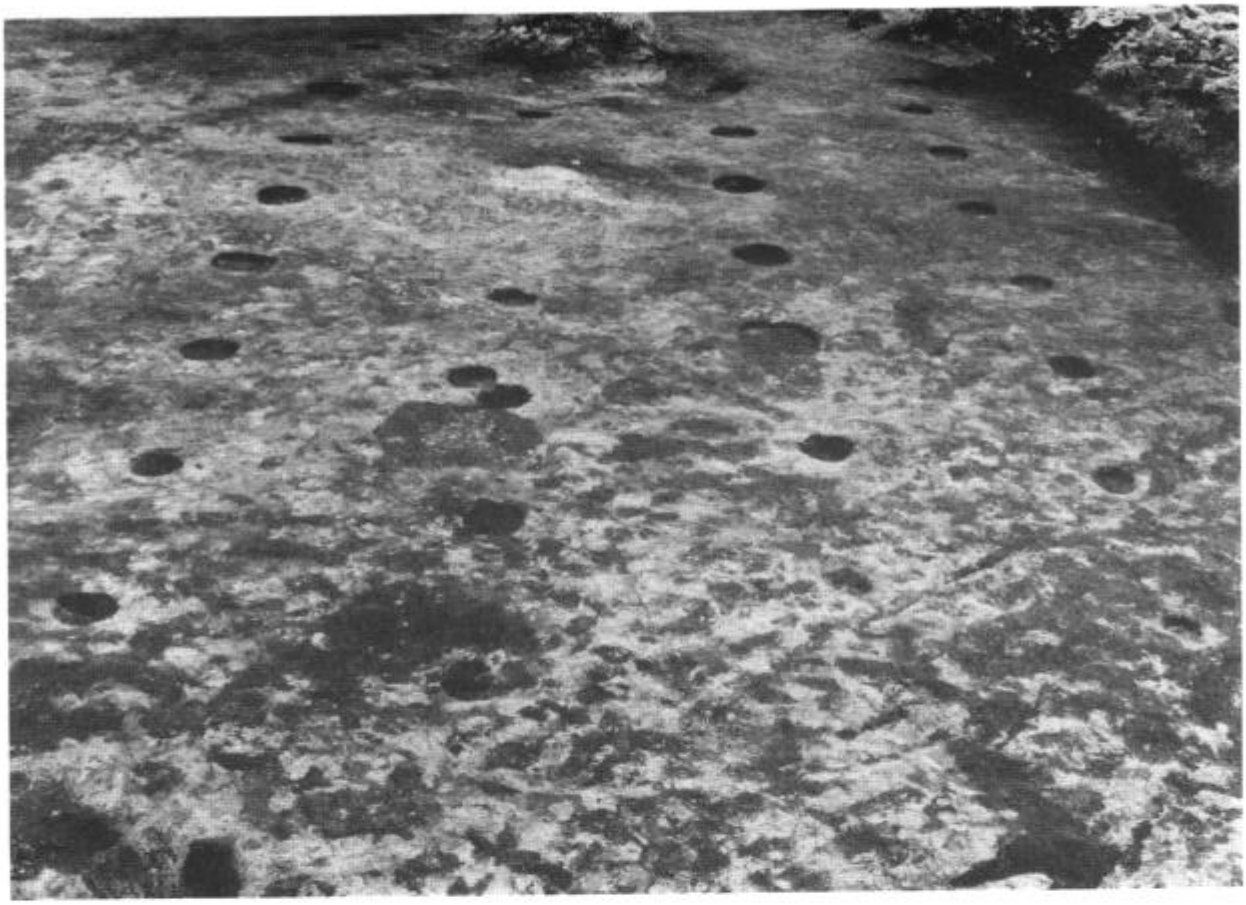


1　ＳＫ 061 土壙
北→南

2　SK 055 ～ 059 ・ 061 土壙　南→北

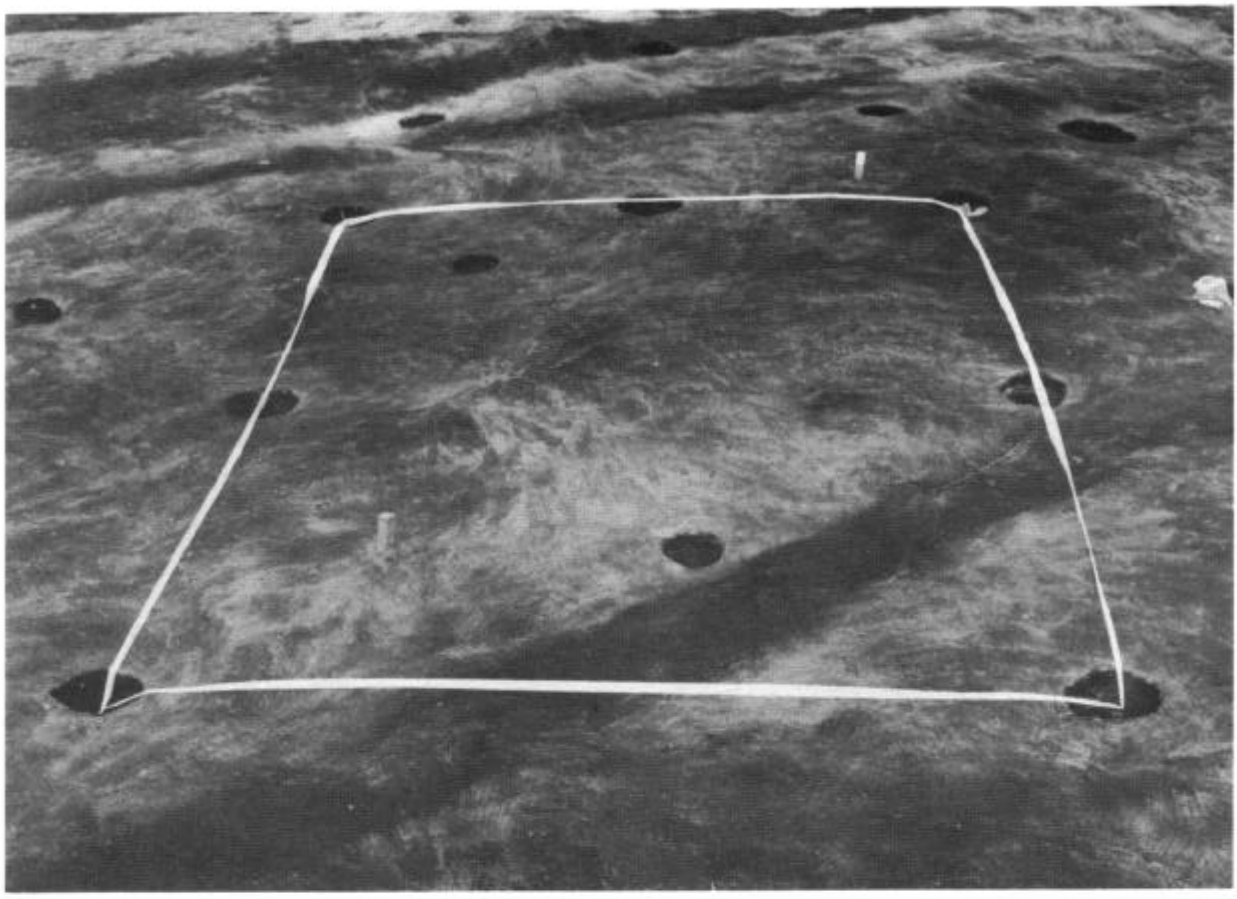
1　SX 005　北→南

2　SX 005　北→南

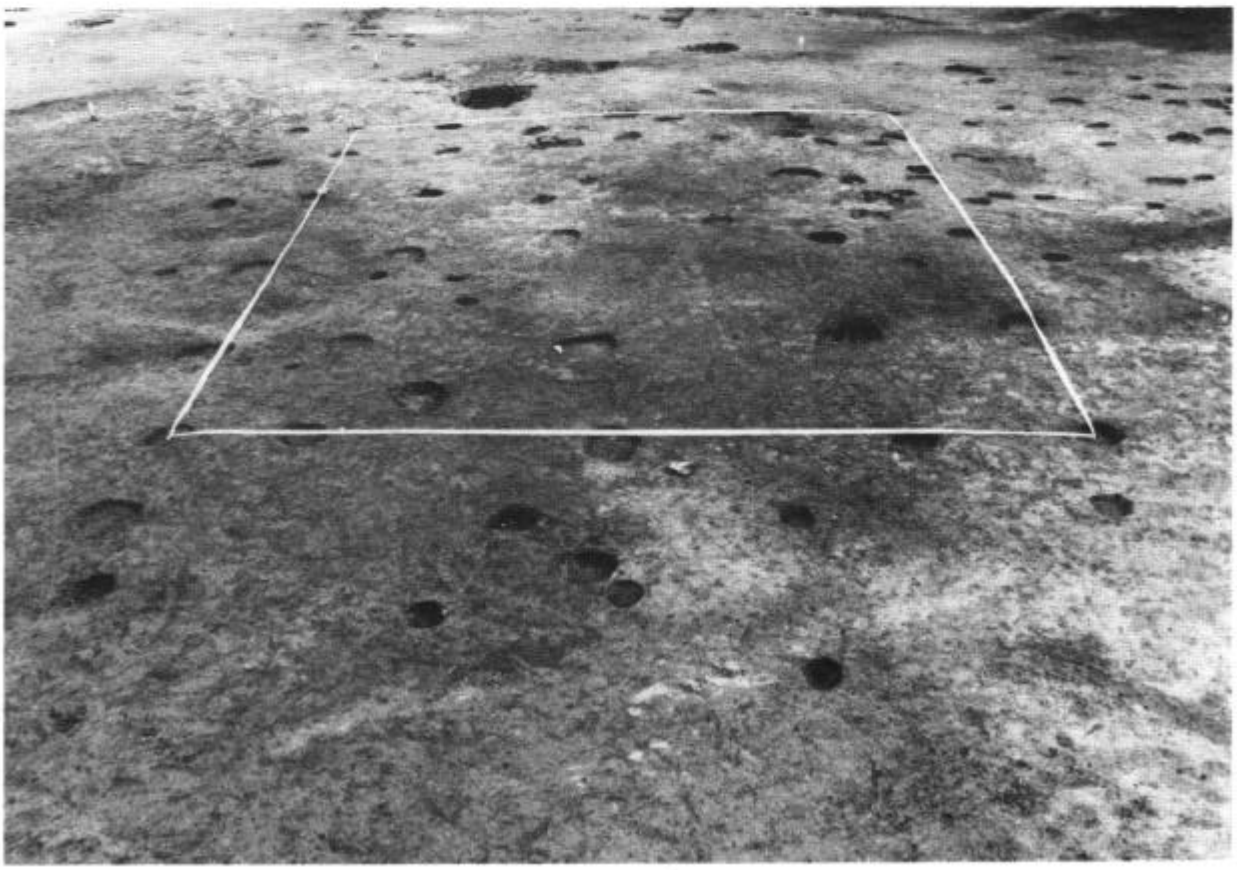


1　SB 001 掘立柱建物跡　北→南

2　SB 002 掘立柱建物跡　南西→北東



1　SB 003 掘立柱建物跡　南西→北東



2　SB 004 掘立柱建物跡　南→北

図版八十　掘立柱建物跡

1　ＳＢ 005 掘立柱建物跡　北→南

2　ＳＢ 006 掘立柱建物跡・ＳＡ 003 柱列　南西→北東

図版八十一　掘立柱建物跡・溝・柱列

1　SB 009 ～012 掘立柱建物跡　SD 031 ～034 溝・SA 002 ・004 ・005 柱列　北東→南西

2　SB 009 ～012 掘立柱建物跡・SD 031 ～ 034 溝・SA 002 ・004 ・005柱列　南→北

図版八十二　溝

1　SD 003 ・012 ～015 溝　南→北

2　SD 030 溝　南→北

1　SD 016 ～027 溝　西→東

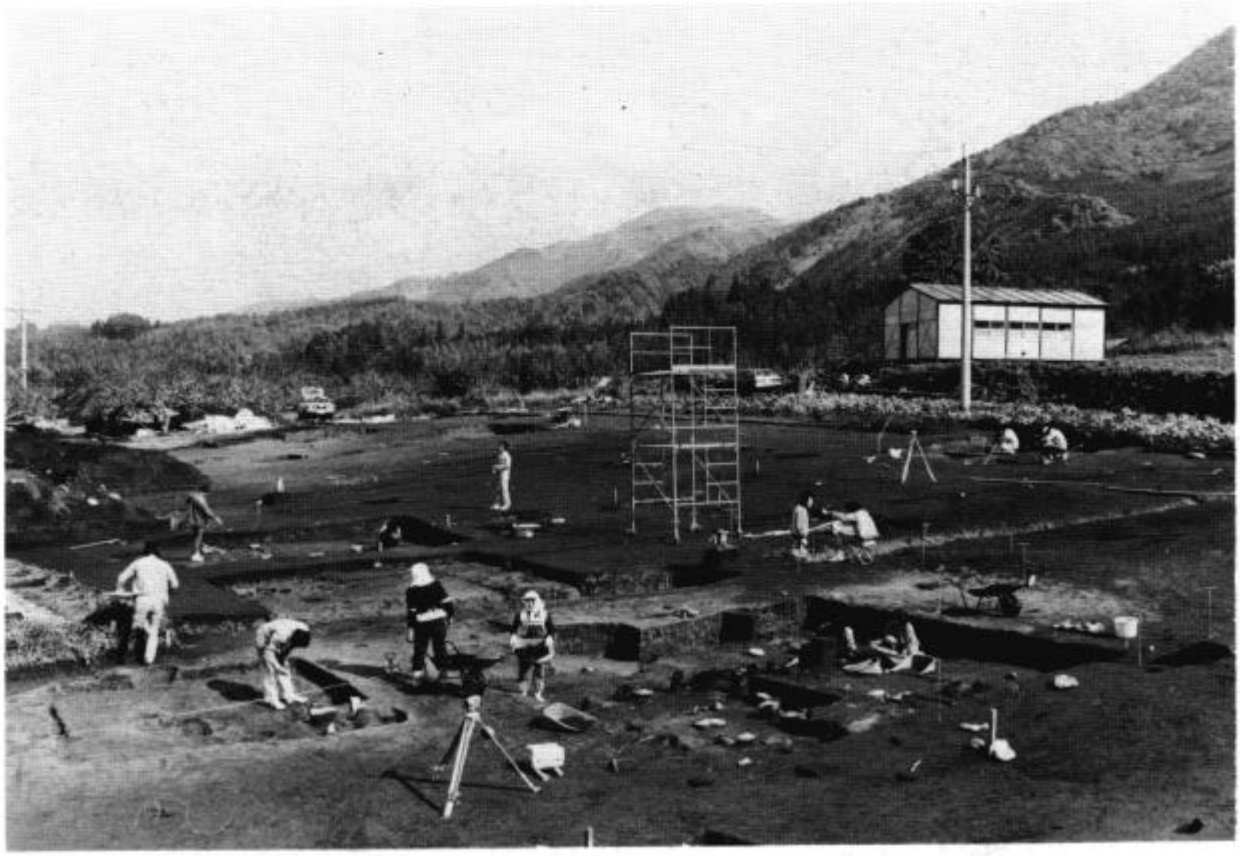
2　SD 017 ～023 ・028 溝　東→西

図版八十四　溝

1　SD 017 ～027 溝　北西→南東

2　SD 025～026 溝　北西→南東

1　調査終了状況　北→南

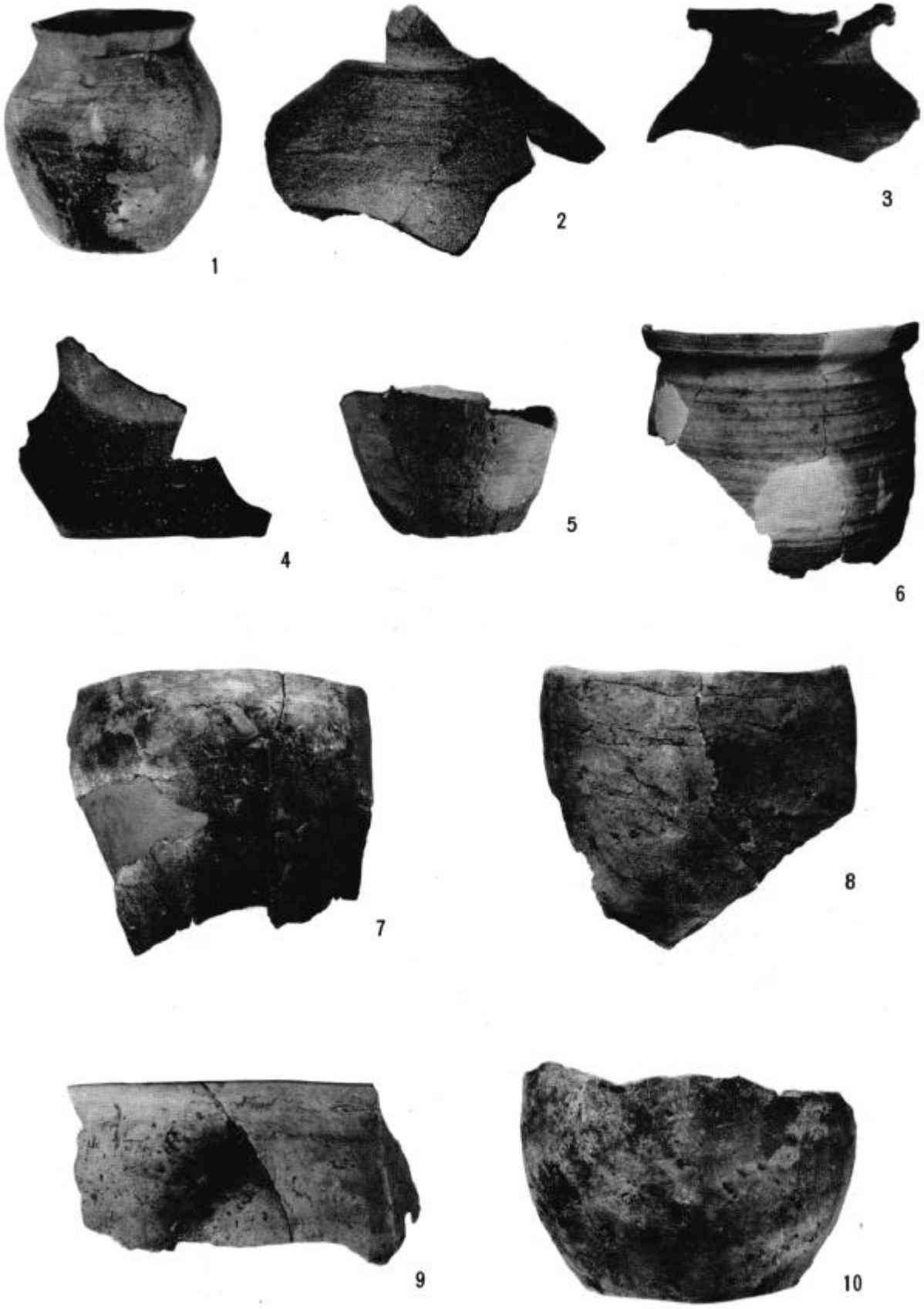


2　作業風景

図版八十六　作業風景

1　作業風景

2　作業風景



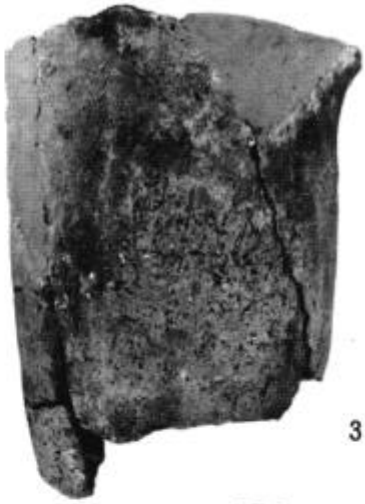
土師器・須恵器

1～6－SI 001　7－SI 003　8・9－SI 006　10－SI 007

図版八十八　遺構内出土遺物

1

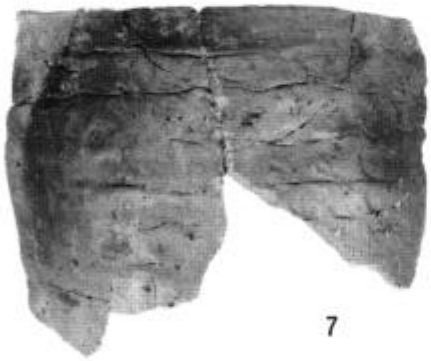
2

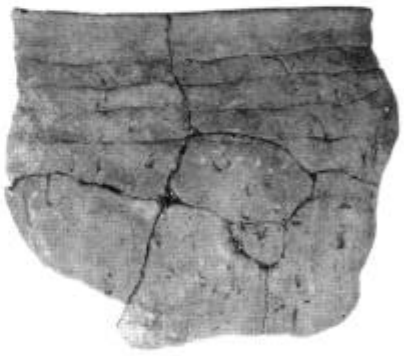

3

4

5

6


7


8

9

10

11

土師器・須恵器

1－SI 007　2－SI 010　3～5－SI 012　6・7－SI 015　8－SI 017
9・10－SI 018　11－SI 019

1

2

3

4

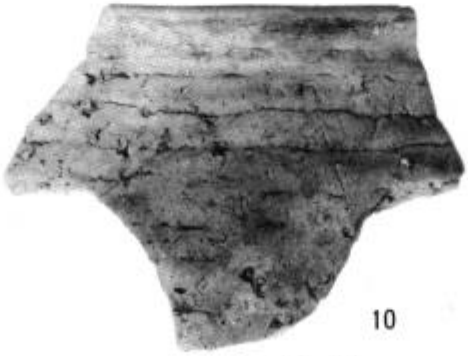
5

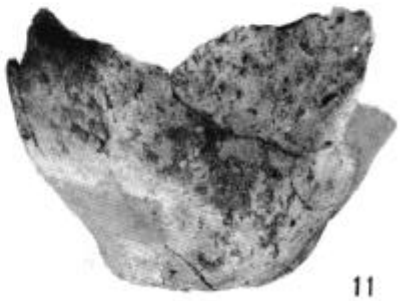
6

7

8

9

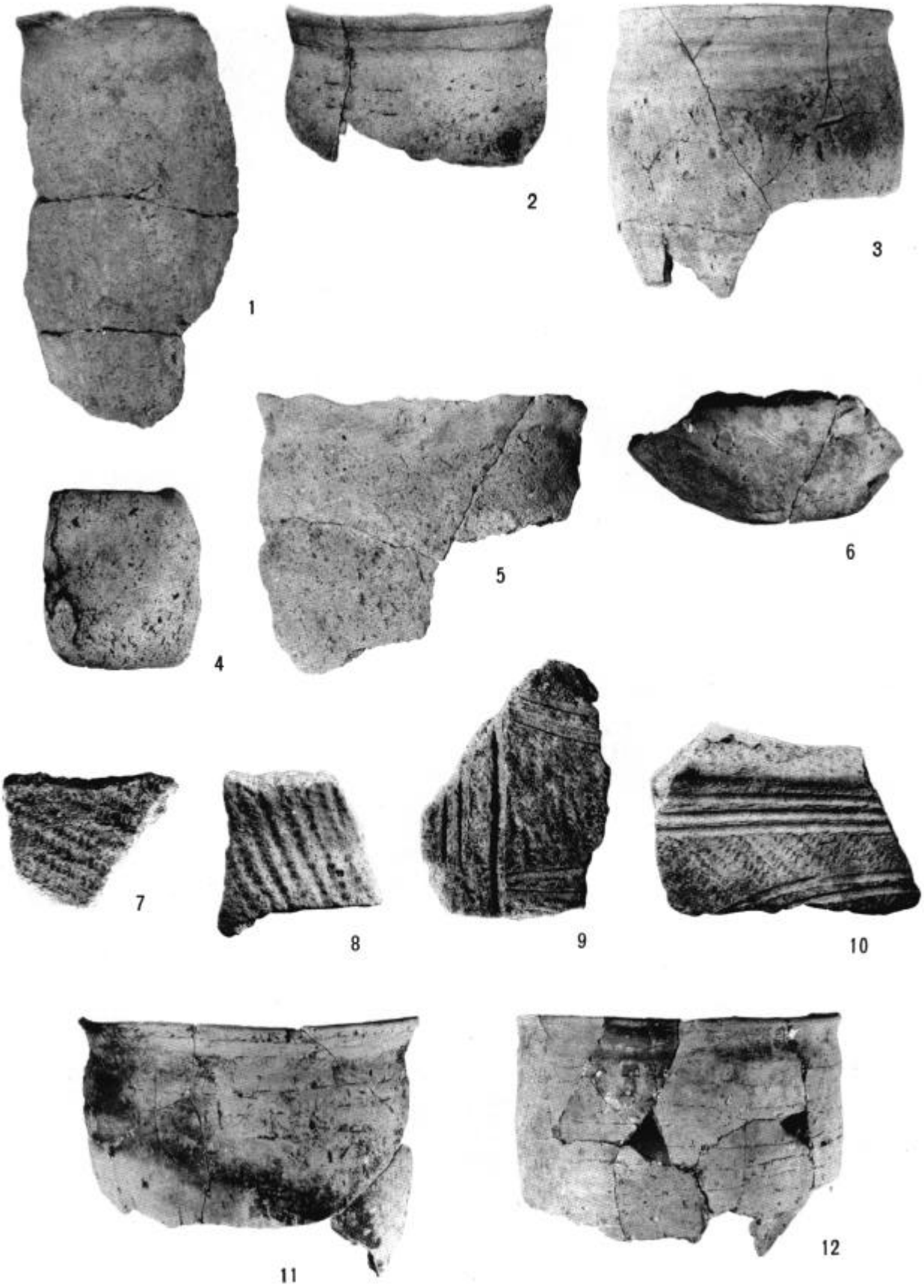

10


11

土　師　器

1－SI 020　2－SI 022　3～5－SI 023　6－SI 024　7－SI 025
8・9－SI 031　10－SI 033　11－SI 034

図版九十　遺構外出土遺物



土師器・縄文土器

1－SI 036　2・3－SI 038　4・9－SI 039　6－SI 041　7～10－SI 043　11・12－SI 046

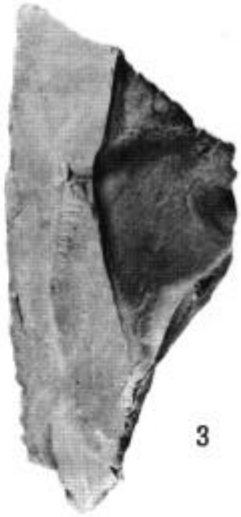
土師器・石製品

1・2－SI 046　3－SI 050　4～6－SI 001　7・8－SI 002　9－SI 009　10－SI 010

図版九十二　遺構内出土遺物

1

2

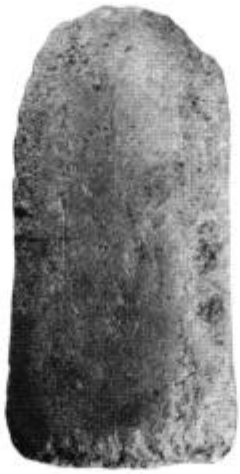

3

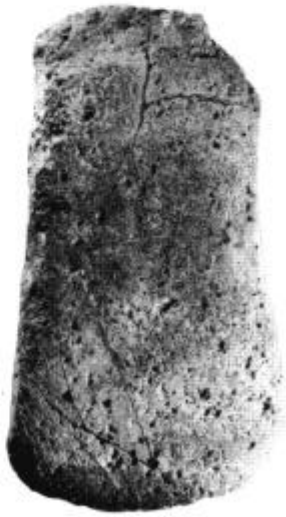
4

5

6

7


8


9

石　製　品

1－SI 017　2－SI 023　3－SI 026　4～8－SI 031　9－SI 050

図版九十三　遺構内出土遺物

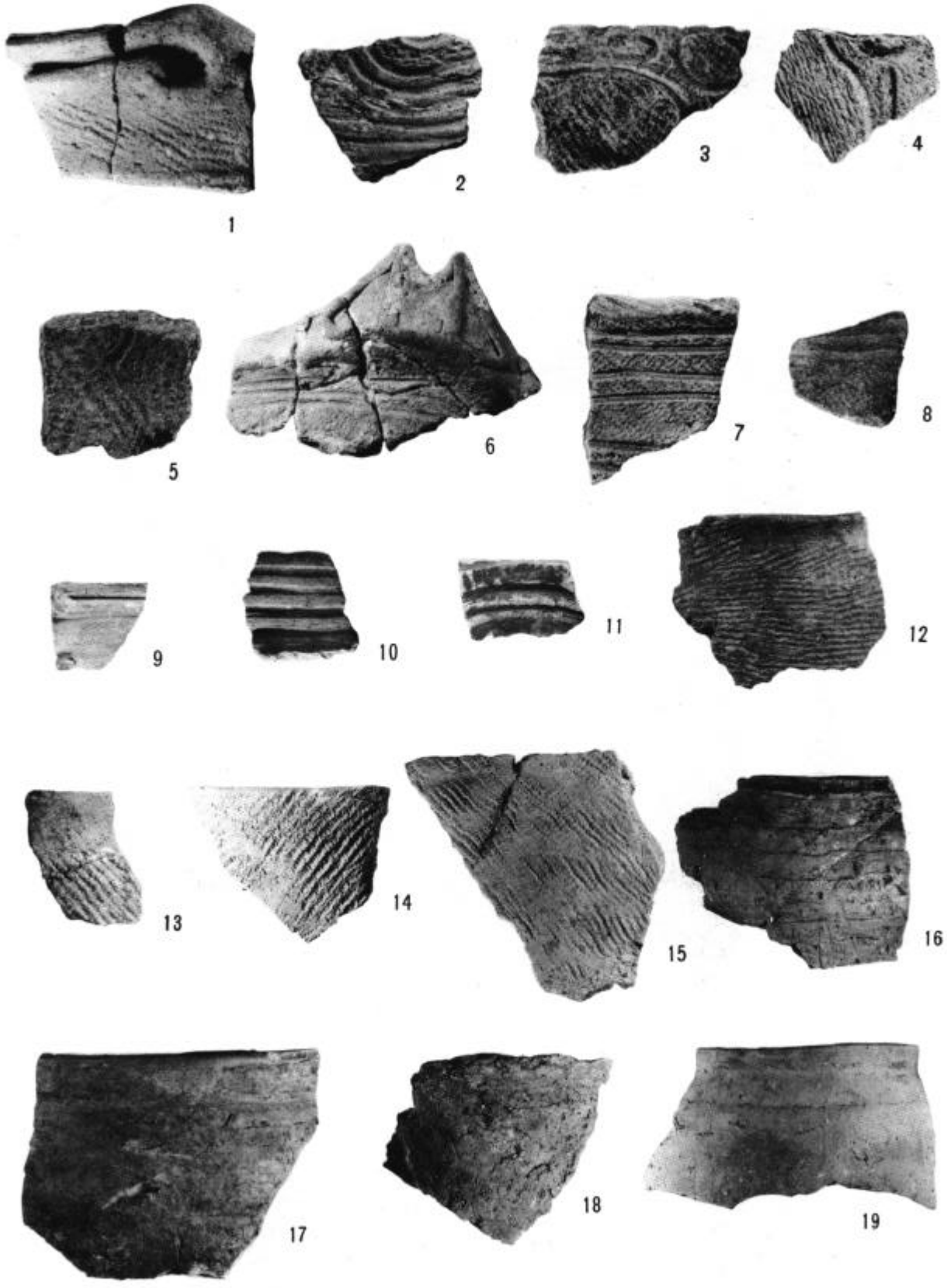
石製品・金属器・木製品・硯・トチ

1－SI 026　2－SI 035　3－SI 047　4－SI 001　5－SI 023　6－SI 027　7－SI 031
8－SI 033　9－SI 034　10・11－SI 041　12－SI 050　13－SD 012　14－SI 030
15－SI 051　16～18－SI 001

図版九十四　遺構内出土遺物

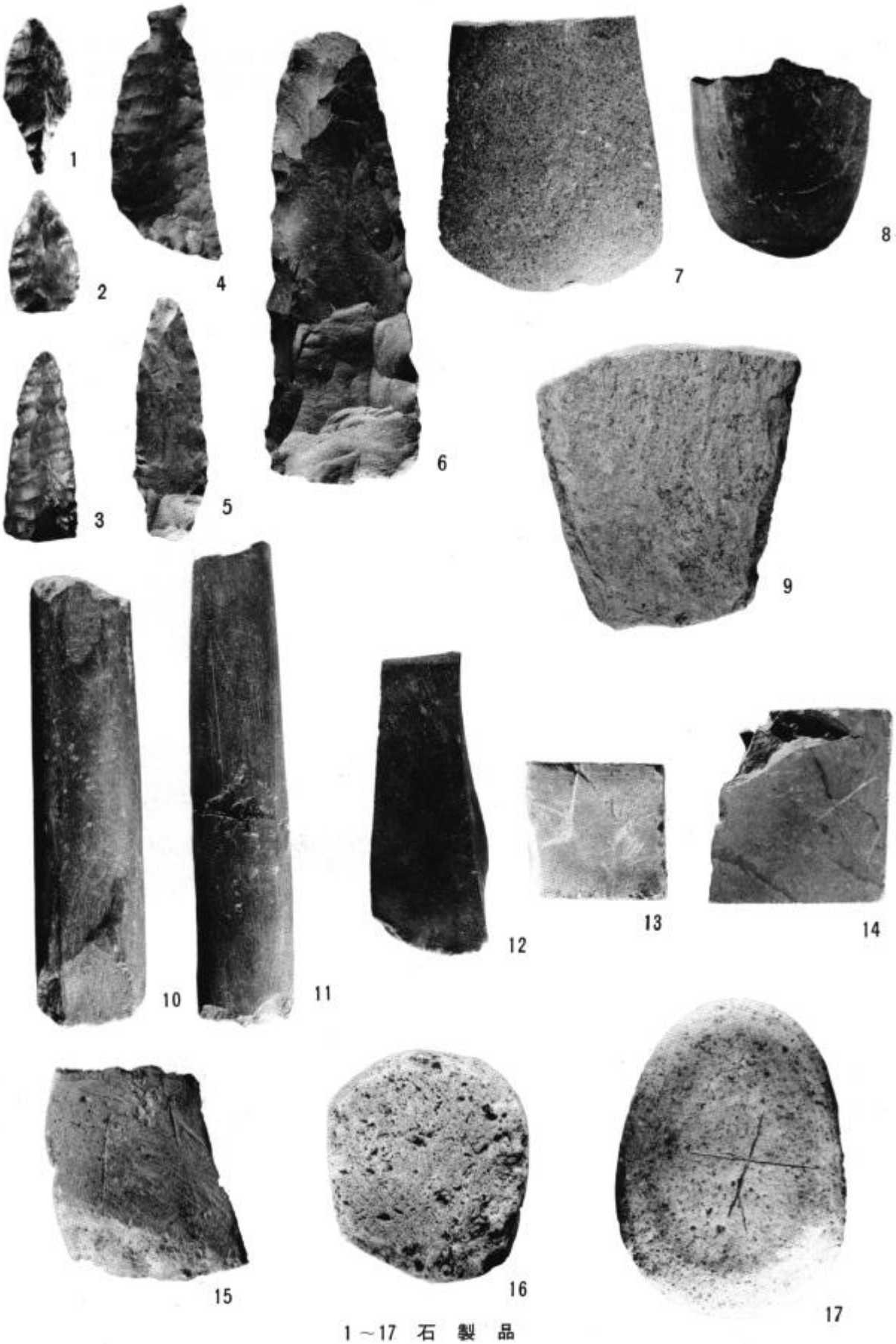
縄文土器

1－SK 010　2－SK 021　3～7－SK 030　8・9－SK 038　10－SK 043　11－SK 054



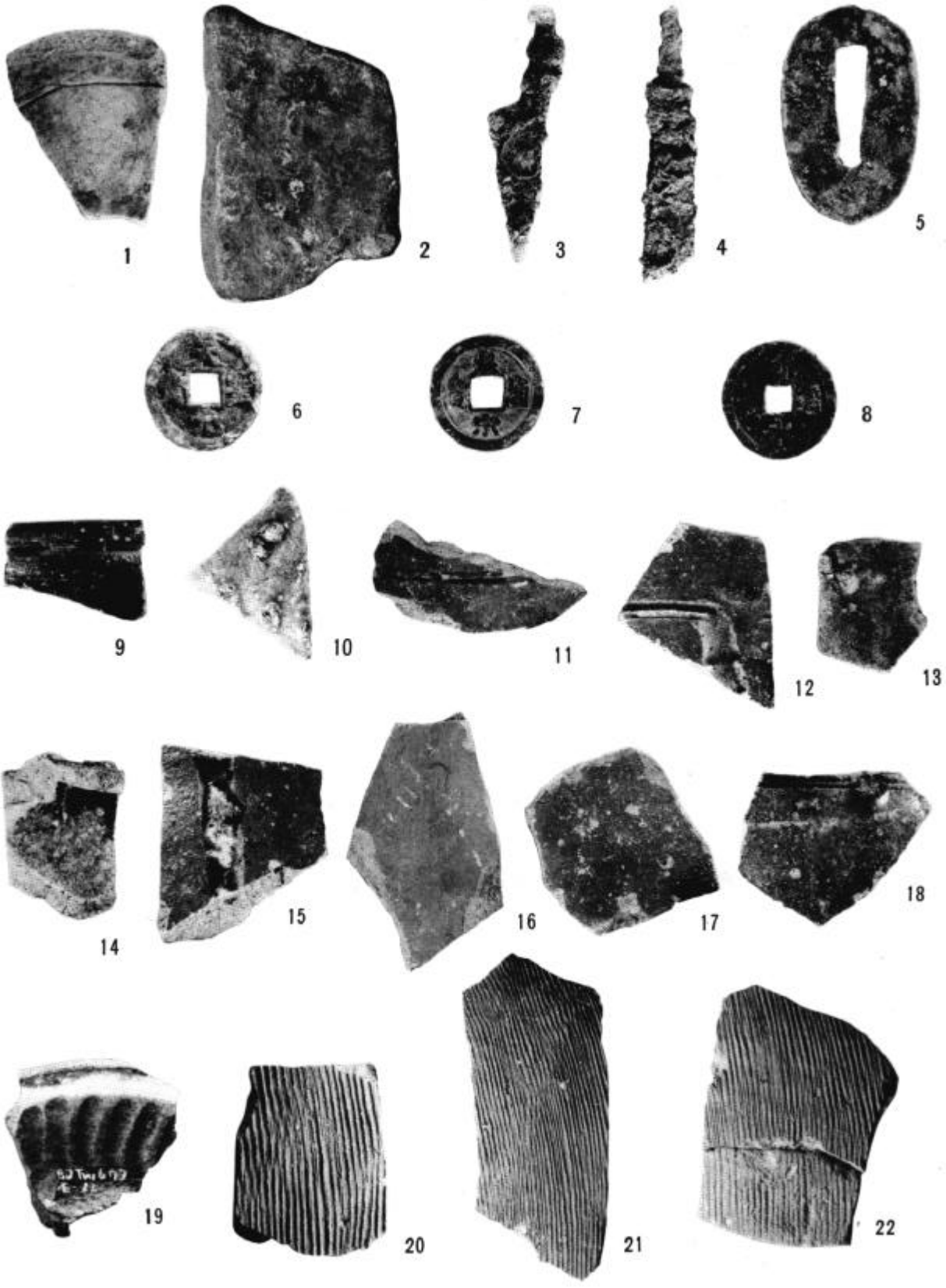
1～15－縄文土器　16～19－土師器

図版九十六　遺構外出土遺物

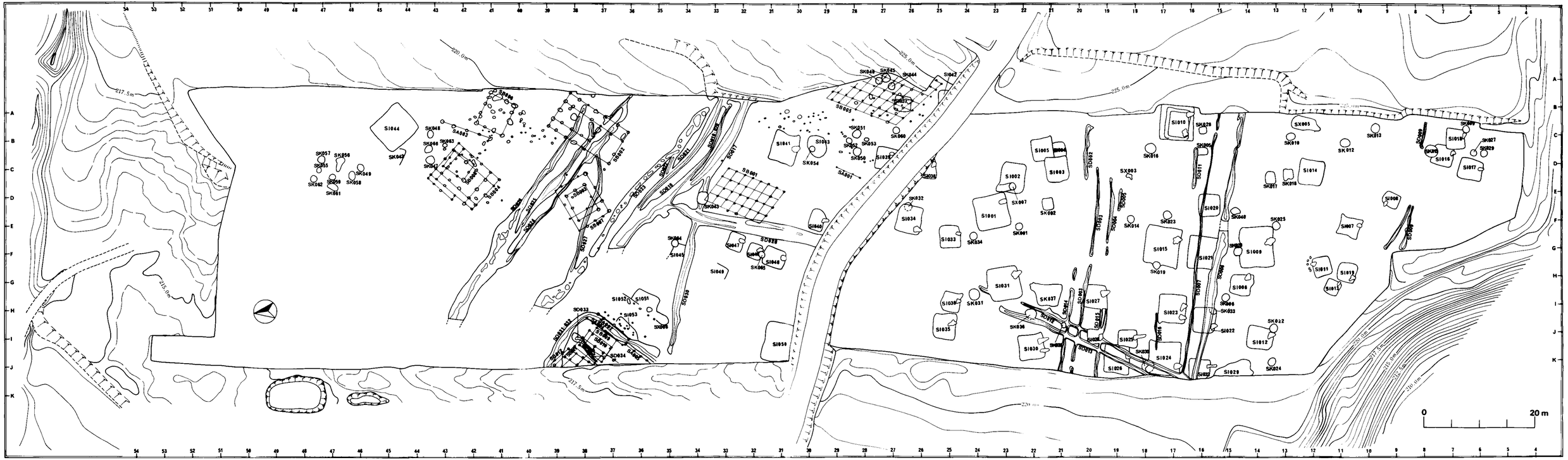


1～17　石　製　品

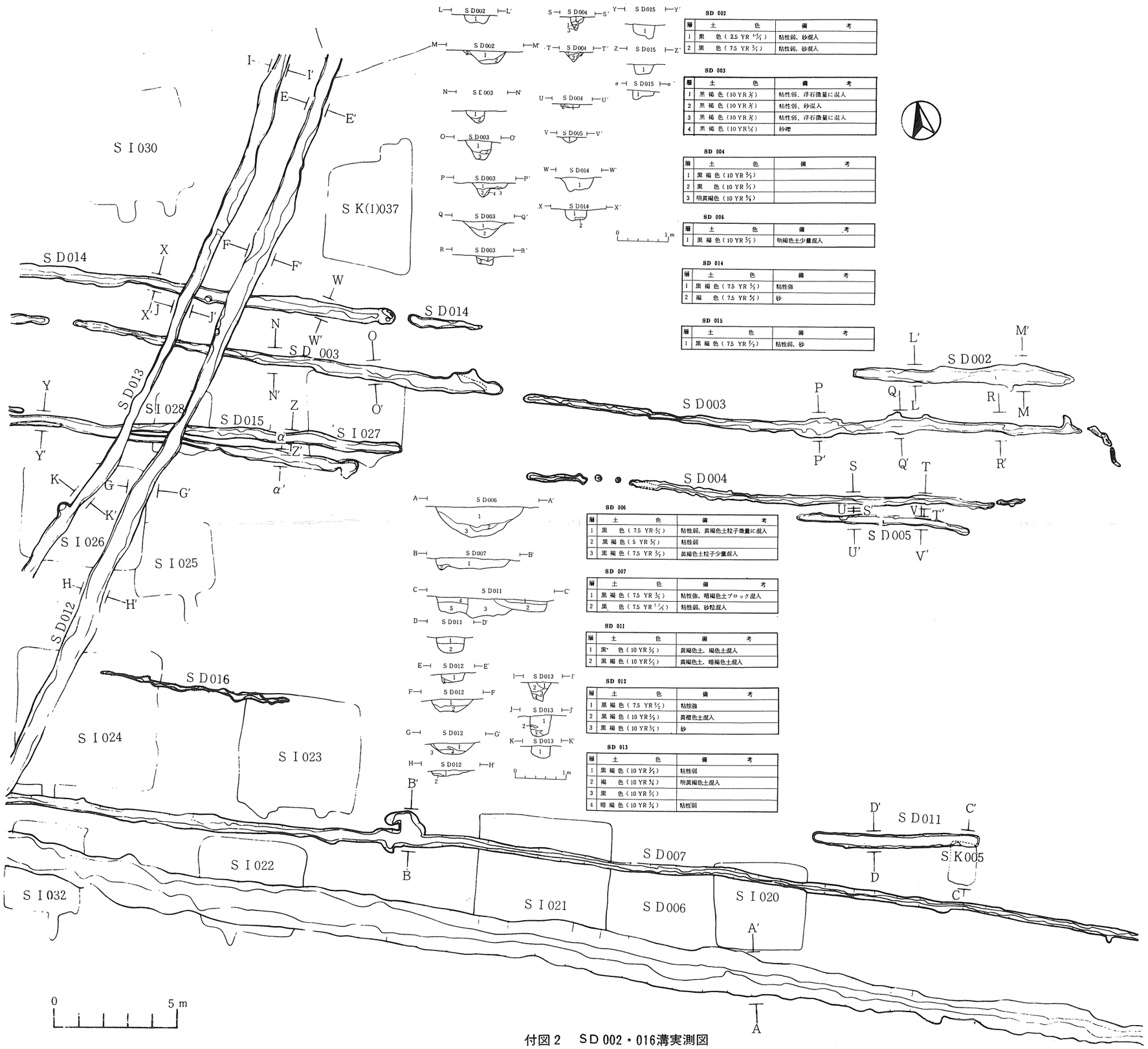
図版九十七　遺構外出土遺物



1・2－石製品　3～5－金属器　6～8－古銭　9～22－中世陶器



付図1　遺構配置図



SD 002

層	土色	備考
1	黒色（2.5 YR $^{1.7}/_{1}$）	粘性弱、砂混入
2	黒色（7.5 YR $^{2}/_{1}$）	粘性弱、砂混入

SD 003

層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR $^{2}/_{2}$）	粘性弱、浮石微量に混入
2	黒褐色（10 YR $^{2}/_{2}$）	粘性弱、砂混入
3	黒褐色（10 YR $^{2}/_{2}$）	粘性弱、浮石微量に混入
4	黒褐色（10 YR $^{3}/_{1}$）	砂礫

SD 004

層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR $^{3}/_{2}$）	
2	黒色（10 YR $^{2}/_{1}$）	
3	明黄褐色（10 YR $^{6}/_{6}$）	

SD 005

層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR $^{3}/_{2}$）	明褐色土少量混入

SD 014

層	土色	備考
1	黒褐色（7.5 YR $^{3}/_{2}$）	粘性強
2	褐色（7.5 YR $^{4}/_{4}$）	砂

SD 015

層	土色	備考
1	黒褐色（7.5 YR $^{3}/_{2}$）	粘性弱、砂

SD 006

層	土色	備考
1	黒色（7.5 YR $^{3}/_{1}$）	粘性弱、黄褐色土粒子微量に混入
2	黒褐色（5 YR $^{3}/_{1}$）	粘性弱
3	黒褐色（7.5 YR $^{3}/_{2}$）	黄褐色土粒子少量混入

SD 007

層	土色	備考
1	黒褐色（7.5 YR $^{3}/_{1}$）	粘性強、暗褐色土ブロック混入
2	黒色（7.5 YR $^{1.7}/_{1}$）	粘性弱、砂粒混入

SD 011

層	土色	備考
1	黒色（10 YR $^{3}/_{1}$）	黄褐色土、褐色土混入
2	黒褐色（10 YR $^{3}/_{2}$）	黄褐色土、暗褐色土混入

SD 012

層	土色	備考
1	黒褐色（7.5 YR $^{3}/_{2}$）	粘性強
2	黒褐色（10 YR $^{3}/_{3}$）	黄橙色土混入
3	黒褐色（10 YR $^{3}/_{1}$）	砂

SD 013

層	土色	備考
1	黒褐色（10 YR $^{3}/_{2}$）	粘性弱
2	褐色（10 YR $^{4}/_{4}$）	明黄褐色土混入
3	黒色（10 YR $^{3}/_{1}$）	
4	暗褐色（10 YR $^{3}/_{4}$）	粘性弱

付図２　SD 002・016溝実測図